

い れい ばる い せき  
**伊礼原遺跡** (国指定外)

**伊礼原A遺跡**

— 糸江伊平土地区画整理事業に伴う発掘調査事業 (平成19・20・24年度) —



具集積 (SS01)

2014 (平成26) 年7月

沖縄県 北谷町教育委員会

い れい ばる い せき  
**伊礼原遺跡** (国指定外)  
**伊礼原A遺跡**

—桑江伊平土地区画整理事業に伴う発掘調査事業 (平成19・20・24年度)—

2014 (平成26) 年7月

沖縄県 北谷町教育委員会



## はじめに

本報告書は、桑江伊平土地区画整理事業に伴い、当教育委員会が平成19・20・24年度に実施した発掘調査の成果をまとめたものです。今回の調査範囲は、平成22年2月に官報告示を受けた国指定史跡「伊礼原遺跡」の指定地外について、記録保存目的の調査として実施しております。

今回の発掘調査では、基地施設に接収される以前は伊礼集落背後の耕作地であった一帯から、貝塚時代後期頃の沖積低地の内陸側に広がりをもつ集落、グスク時代には隣接する伊礼原D遺跡と関連した14世紀後半から16世紀頃の集落の広がり、その後の近世から現代にかけては広範囲となる様子が判明しており、範囲確認調査の成果を追認し、さらに充実させる貴重な成果が得られております。

貝塚時代後期では、土器がまとまって出土したものが多く、石斧や石皿・蔽石・磨石などの石器が出土し、装飾品の貝製腕輪、南海産貝交易の対象となる貝の集積遺構が検出され、当該時期の土器及び貝交易研究の発展に繋がる資料が得られております。

グスク時代は、首里城出土品に類似資料がある中国産青磁・白磁・染付・褐軸陶器やタイ産陶器などの貿易陶磁器や銭貨、鉄製刀子・鎌、ガラス玉など国内外での交易や交流を示す遺物、その後続く近世から近現代の本土産陶磁器、沖縄産陶器、先島系土器、煙管、基石、瓦などが、何度も建替えが行われたことを示す掘立柱建物址や高床式建物址等の柱穴群、土坑墓、溝状遺構が集中する範囲から得られており、中世以降からのムラの様子を知ることができる成果が得られております。

本遺跡で得られた成果を基に、国指定史跡の範囲確認調査で得られた成果や周辺遺跡との比較検討、グスク時代の集落と北谷城の関連性などが研究され、町内の「ムラ」の変遷について今後の研究が深まることが期待されます。

本報告書が、伊礼原遺跡に残る歴史を伝え、本町の自然環境の移り変わりやその中で暮らした人々の文化の様相を窺い知ることのできる資料として、町民が広く郷土の歴史を学ぶことに活用されるとともに研究機関へ寄与すること、さらに、文化財の保存・活用に関心と御理解を頂ければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査ならび資料整理作業にあたり、ご指導・ご協力を賜った関係者各位に厚く御礼申し上げます。

平成26年7月

北谷町教育委員会  
教育長 川上 啓一

# 例 言

1. 本報告書は、北谷町教育委員会が桑江伊平土地区画整理事業に伴い、平成19・20・24年度に実施した「伊礼原遺跡（国指定外）」「伊礼原A遺跡」発掘調査の成果をまとめたものである。
2. 本報告書に掲載した地図は、国土地理院発行の1/2,500地形図(昭和54年測量)を元に北谷町役場都市計画課が作成したものである。本書に掲載した緯度、経度の平面直角座標はすべて世界測地系にもとづくものである。
3. 遺物の同定等については、下記の方にご協力をいただいた(敬称略)。記して感謝申し上げます。
 

脊椎動物遺体	種泉 岳二 (早稲田大学)
貝類遺体	黒住 耐二 (千葉県立中央博物館 上席研究員)
人 骨	土肥 直美 (琉球大学医学部)
石 質	大城 逸朗 (おきなわ石の会)
堆 積 学	松田順一郎 (史跡鴻池新田会所管理事務所)
4. 種泉岳二氏・黒住耐二氏・土肥直美氏には玉稿を賜った。記して謝意を表します。
5. 放射性炭素年代測定は、バリノ・サーヴェイ (株) に依頼した。
6. 本報告書の編集は、島袋春美が行い執筆分担は下記のとおりである。

第1章 第2章 第3章 第1・2節 第6節 1・2	松原 哲志
第3章 第3節 1・2 (3・4) 第4節 1 (7) 2 (13・15・16・18) 第5節 2 (12)	島袋 春美
第3章 第6節 3 (3～5) 補遺	島袋 春美
第3章 第3節 2 (1) 第6節 3 (1)	呉屋 広江
第3章 第3節 2 (2・5) 第4節 2 (14) 第5節 2 (10・11) 第6節 3 (2)	上地千賀子
第3章 第3節 2 (6) 第4節 2 (17・19・20) 第5節 2 (7・13～15)	山城 安生
第3章 第4節 1 (1～6)・2 (1・2・7～12) 第5節 1・2 (1～6・8・9)	北條 真子
第3章 第4節 2 (3～6) 第5章	東門 研治・島袋 春美

7. 本遺跡の遺物の注記及び、遺構、取上の凡例は次のとおりである。

・注記 (伊礼原遺跡H19・20年度調査)

調査年度	遺物番号	大グリッド	取上番号	小グリッド	層位	遺構	日時
H20	1652	省略	289	A13	3層		080819

H20 伊砂1652 17A17  
3層289...08.08.19

・注記 (伊礼原遺跡H24年度調査)

台帳番号	地区	グリッド	層位	遺構	採集日
1489	ニ	N-9	グスク上層		H240607

⑬伊A台1489, ニ  
N-9, グ上...H240607

・注記 (伊礼原A遺跡H20年度調査 □地区)

調査年度	遺物番号	大グリッド	地区	小グリッド	層位	日時
H20	1272	省略	□地区	M7	一括	080929

H20伊砂1272.18M7  
□地区...一括,08.09.29

・遺構記号

性格	溝・河川	土壌	柱穴・穴	貝集積	その他・現代
遺構記号	S D	S K	S P (P)	S S	S X

8. 本報告の編年表記は沖縄編年を基本とするが、出土遺物には時代幅があり、その種類によって時代表記が異なる。(伊礼原D遺跡 (2013) 例言 (沖縄・九州時代区分対象表) 参考)
9. 本書に掲載した発掘調査に関する写真、実測図などの記録および出土遺物全ては北谷町教育委員会が保管している。

# 本文目次

はじめに

例言

巻首図版

第Ⅰ章	調査経緯・経過	1
第1節	調査に至る経緯	1
第2節	調査体制	2
第3節	調査経過	4
第Ⅱ章	位置と環境	6
第1節	地理的環境	6
第2節	歴史的環境	8
第Ⅲ章	調査の方法と経過	12
第1節	調査の方法	12
第2節	層序	14
第3節	貝塚時代後期	22
第4節	グスク時代	190
第5節	近世～近・現代	276
第6節	伊礼原A遺跡（口地区）	322
第Ⅳ章	理化学的分析	353
第1節	伊礼原遺跡（国指定外）2007・2008・2012年度調査で採集された脊椎動物遺体	353
第2節	伊礼原遺跡（国指定外）・伊礼原A遺跡の調査で得られた貝類遺体	397
第3節	伊礼原遺跡・伊礼原A遺跡の自然科学分析	429
第4節	土器内土壌の自然科学分析	438
第5節	出土人骨	444
第Ⅴ章	総括	446
補遺	小堀原遺跡（2012年）報告の追加資料	453
報告書抄録		

## 図版目次

巻首図版1	全景	巻首図版13	柱穴2（オルソ画像）
巻首図版2	層序1	巻首図版14	人骨検出状況(A11-SX01:貝塚時代後期 N14-SX01 :グスク時代)
巻首図版3	層序2	巻首図版15	伊礼原A遺跡（口地区）
巻首図版4	層序3	巻首図版16	土器
巻首図版5	層序4	巻首図版17	土器（上：復元土器・下：弥生系土器）
巻首図版6	層序5	巻首図版18	石器
巻首図版7	層序6	巻首図版19	貝製品
巻首図版8	層序7	巻首図版20	陶磁器類・他
巻首図版9	層序8	巻首図版21	本土産陶器・本土産磁器・銭貨・骨製品・鉄製品・円盤状製品・煙管・ガラス玉
巻首図版10	層序9	巻首図版22	復元土器
巻首図版11	下層確認・貝集積遺構		
巻首図版12	柱穴1		

図版1	自衛隊による銃弾等回収状況	5	図版53	石器5	145
図版2	R17付近遺構検出状況(南西より)	25	図版54	石器6	147
図版3	プラン①R18(北より)	26	図版55	石器7	149
図版4	プラン②A19(北東より)	26	図版56	石器8	151
図版5	土坑	29	図版57	石器9	153
図版6	1号人骨出土状況SX01(A11)	30	図版58	石器10	155
図版7	貝集積SS01(A19・20)	31	図版59	石器11	157
図版8	貝集積SS02(T19)	32	図版60	石器12	159
図版9	貝集積SS03(東より)	33	図版61	貝製品1	175
図版10	貝集積(上:SS01,中:SS02,下:左・SS03,右:ダイオウイモ)	35	図版62	貝製品2	177
図版11	二枚具有孔製品集中SS05(東より)	37	図版63	貝製品3	179
図版12	土器集中①(東より)	38	図版64	貝製品4	181
図版13	土器集中①(北より)	38	図版65	貝製品5	183
図版14	土器集中②(北東より)	38	図版66	貝製品6	185
図版15	土器集中③(南より)	39	図版67	骨製品	187
図版16	土器集中④(北より)	39	図版68	土製品	188
図版17	土器集中⑤(北より)	39	図版69	1945年頃の伊礼原遺跡周辺図	189
図版18	土器集中⑥(南西より)	40	図版70	溝状遺構検出状況	190
図版19	土器集中⑦(東より)	40	図版71	柱穴・ピット検出状況	197
図版20	骨集中①(D20)	40	図版72	土坑検出状況	199
図版21	骨集中②(S13)	40	図版73	青磁皿出土状況	200
図版22	骨集中③(A1)	40	図版74	2号人骨検出状況(南より)	201
図版23	貝集中SS04	41	図版75	3号人骨出土状況(A9西側より)	201
図版24	礫集中①(北西より)	42	図版76	サング礫集中部出土状況(南より)	202
図版25	礫集中②(南西より)	42	図版77	滑石製石鏟・須臾器	205
図版26	軽石だまりD16(西より)	43	図版78	青磁1	215
図版27	土器1	85	図版79	青磁2	217
図版28	土器2	87	図版80	青磁3	219
図版29	土器3	89	図版81	青磁4	221
図版30	土器4	91	図版82	青磁5	223
図版31	土器5	93	図版83	青磁6	225
図版32	土器6	95	図版84	白磁1	231
図版33	土器7	97	図版85	白磁2	233
図版34	土器8	99	図版86	染付1	239
図版35	土器9	101	図版87	染付2	241
図版36	土器10	103	図版88	染付3	243
図版37	土器11	105	図版89	染付4	245
図版38	土器12	107	図版90	褐輪陶器1	253
図版39	土器13	109	図版91	褐輪陶器2	255
図版40	土器14	111	図版92	褐輪陶器3	257
図版41	土器15	113	図版93	褐輪陶器4	259
図版42	土器16	115	図版94	瑠璃釉・黒輪陶器・三彩	261
図版43	土器17	117	図版95	翡翠釉・産地不明陶器・タイ産鉄絵	263
図版44	土器18	119	図版96	鉄貨	265
図版45	土器19	121	図版97	砥石	269
図版46	土器20(底部)	123	図版98	貝製品・骨製品	271
図版47	土器21(底部)	125	図版99	鉄製品	272
図版48	土器22(底部)	127	図版100	ガラス玉・羽口	273
図版49	石器1	137	図版101	Q7-SP23焼土検出状況	275
図版50	石器2	139	図版102	S10-SP25焼土検出状況	275
図版51	石器3	141	図版103	焼土	275
図版52	石器4	143	図版104	S12焼成跡	276

図版105	SK56堆積状況	278	図版134	石器2	343
図版106	SD02・SD04・SK02堆積状況	278	図版135	石器3	345
図版107	I地区土坑検出状況	281	図版136	石器4	346
図版108	S10-SK03	281	図版137	貝製品	351
図版109	P14・P15・Q14・Q15-SK16	281	図版138	骨製品・植物遺体	352
図版110	貝集中部①	282	図版139	脊椎動物遺体1(魚類)	391
図版111	貝集中部②(南東上り)	282	図版140	脊椎動物遺体2(上:ウミガメ・下:ウミガメ、 アオウミガメ、リクガメ)	392
図版112	瓦質土器	285	図版141	脊椎動物遺体3(ジュゴン)	393
図版113	本土産陶器(近世)	289	図版142	脊椎動物遺体4(上:イルカ、クジラ、海獣?、 ヘビ、ニワトリ、鳥類、ネズミ・下:イヌ、ヤギ)	394
図版114	本土産磁器(近世)	291	図版143	脊椎動物遺体5(上:ウマ・下:ウシ)	395
図版115	沖縄産無釉陶器	295	図版144	脊椎動物遺体6(上:イノシシ・下:イノシシ、 イノシシオプタ、ブ)	396
図版116	沖縄産無釉陶器1	301	図版145	貝類遺体1(巻貝)	424
図版117	沖縄産無釉陶器2	303	図版146	貝類遺体2(巻貝)	425
図版118	沖縄産無釉陶器3	305	図版147	貝類遺体3(上面:巻貝・下面:陸・淡水産貝)	426
図版119	陶質土器・鉄製品	307	図版148	貝類遺体4(二枚貝)	427
図版120	先島系土器	310	図版149	貝類遺体5(二枚貝)	428
図版121	本土産磁器(近代)	312	図版150	花粉化石	436
図版122	貝集中部①(近代)・本土産陶器(近代)	313	図版151	種実遺体	437
図版123	円盤状製品	315	図版152	試料外観および試料採取作業状況	443
図版124	煙管	317	図版153	花粉分析プレパレート内の状況写真・植物珪酸体 分析プレパレート内の状況写真	443
図版125	基石	318	図版154	1号人骨出土状態	445
図版126	瓦	319	図版155	2号人骨(体部骨)	445
図版127	石製品出土状況	320	図版156	3号人骨出土部位	445
図版128	検出状況(K12東壁)	320	図版157	土器・骨製品	455
図版129	石製品	320	図版158	石器・滑石製品・白磁	456
図版130	現代遺物	321			
図版131	土器1	335			
図版132	土器2	337			
図版133	石器1	341			

## 挿図目次

第1図	北谷町の位置	6	第19図	貝集積SS03(T20)	33
第2図	北谷町周辺の地形分類	7	第20図	大型イモガイの大きさ比較	36
第3図	北谷町周辺の地層地質分類	7	第21図	二枚貝有孔製品集中SS05平面・断面(S12)	37
第4図	北谷町の位置と遺跡分布	10	第22図	二枚貝有孔製品の大きさ比較	37
第5図	キャンブ桑江北側地区の遺跡と伊礼原遺跡・ 伊礼原A遺跡の位置	13	第23図	土器集中①平面・断面(T19)	38
第6図	グリッド設定	13	第24図	土器集中②平面(A20)	38
第7図	層序1(北・東・南壁)	17	第25図	土器集中③平面・断面(B13)	39
第8図	層序2(南南西・南西・西壁面B・Cトレンチ)	18	第26図	土器集中④平面・断面(A12)	39
第9図	層序3(I地区北壁・西壁・下層確認中央壁・ 下層確認東壁面)	19	第27図	土器集中⑤平面(S12)	39
第10図	層序4(H地区東壁・西壁=地区北壁・東壁・西壁)	20	第28図	土器集中⑥平面(S10)	40
第11図	伊礼原遺跡出土遺物層別比率	22	第29図	土器集中⑦平面(O8)	40
第12図	第IV層検出遺構及び遺物集中部	23	第30図	貝集中SS04(A19・20)	41
第13図	溝状遺構SD07(Q-R17)	25	第31図	礎集中①(S9-SX01)	42
第14図	貝塚時代後期柱穴(プラン①断面 プラン②平面・断面)	26	第32図	礎集中②(A9-SK02)	42
第15図	貝塚時代後期柱穴(H=2地区)	27	第33図	軽石(黄色系・黒色系)比較	43
第16図	1号人骨出土状態SX01(A11)	30	第34図	軽石平面分布(伊礼原D遺跡・伊礼原遺跡)	43
第17図	貝集積SS01(A19・20)	31	第35図	土器(重量)平面分布	58
第18図	貝集積SS02(T19)	32	第36図	土器平面・垂直分布(土器接合・遺物取り上げ)	59
			第37図	口縁部・胴部分別別平面分布1	65
			第38図	口縁部・胴部分別別平面分布2	68

第39図	土器1	84	第91図	2号人骨出土状況(N14)	201
第40図	土器2	86	第92図	A9-SK04断面	201
第41図	土器3	88	第93図	SS07礎計測	202
第42図	土器4	90	第94図	サンゴ礁集中部SS07(D15・16)	202
第43図	土器5	92	第95図	グスク時代遺物分布状況	203
第44図	土器6	94	第96図	滑石製石鉢・須恵器	205
第45図	土器7	96	第97図	青磁平面分布	210
第46図	土器8	98	第98図	青磁1	214
第47図	土器9	100	第99図	青磁2	216
第48図	土器10	102	第100図	青磁3	218
第49図	土器11	104	第101図	青磁4	220
第50図	土器12	106	第102図	青磁5	222
第51図	土器13	108	第103図	青磁6	224
第52図	土器14	110	第104図	白磁平面分布	229
第53図	土器15	112	第105図	白磁1	230
第54図	土器16	114	第106図	白磁2	232
第55図	土器17	116	第107図	染付平面分布	236
第56図	土器18	118	第108図	染付1	238
第57図	土器19	120	第109図	染付2	240
第58図	土器20(底部)	122	第110図	染付3	242
第59図	土器21(底部)	124	第111図	染付4	244
第60図	土器22(底部)	126	第112図	褐軸陶器(中国産)平面分布	248
第61図	石器平面分布	134	第113図	褐軸陶器(タイ産)平面分布	248
第62図	石質別比率	135	第114図	褐軸陶器1	252
第63図	石器1	136	第115図	褐軸陶器2	254
第64図	石器2	138	第116図	褐軸陶器3	256
第65図	石器3	140	第117図	褐軸陶器4	258
第66図	石器4	142	第118図	瑠璃軸・黒軸陶器・三彩	261
第67図	石器5	144	第119図	翡翠軸・産地不明陶器・タイ産鉄絵	263
第68図	石器6	146	第120図	銭貨平面分布	264
第69図	石器7	148	第121図	銭貨	265
第70図	石器8	150	第122図	砥石平面分布	267
第71図	石器9	152	第123図	砥石	268
第72図	石器10	154	第124図	貝製品・骨製品	271
第73図	石器11	156	第125図	鉄製品	272
第74図	石器12	158	第126図	ガラス玉・羽口	273
第75図	ヤコウガイの蓋附刃分布	167	第127図	焼土(重量)平面分布	274
第76図	二枚貝有孔製品平面分布	168	第128図	焼土	275
第77図	二枚貝有孔製品遺跡別比較	173	第129図	第II層検出遺構	277
第78図	貝製品1	174	第130図	SK56断面	278
第79図	貝製品2	176	第131図	SD02・SD04・SK02断面	278
第80図	貝製品3	178	第132図	近世柱穴断面(掘立柱想定プラン①～⑤)	280
第81図	貝製品4	180	第133図	貝集中部②	282
第82図	貝製品5	182	第134図	近世～近代遺物分布状況	283
第83図	貝製品6	184	第135図	瓦質土器	285
第84図	骨製品	187	第136図	本土産陶器(近世)平面分布	287
第85図	土製品	188	第137図	本土産陶器(近世)	288
第86図	第III層検出遺構	191	第138図	本土産磁器(近世)	291
第87図	グスク時代柱穴断面1(想定プラン1・3・9・12)	194	第139図	沖縄産施軸陶器平面分布	292
第88図	グスク時代柱穴断面2(想定プラン14・15・17)	195	第140図	沖縄産施軸陶器	294
第89図	グスク時代柱穴断面3(想定プラン19・20・25)	196	第141図	窯印拓本	297
第90図	青磁皿出土状況	200	第142図	沖縄産無軸陶器平面分布	299

第143図	陶質土器平面分布	299	第167図	石器2	342
第144図	沖縄産無釉陶器1	300	第168図	石器3	344
第145図	沖縄産無釉陶器2	302	第169図	石器4	346
第146図	沖縄産無釉陶器3	304	第170図	ヤコウガイの蓋刃分布	348
第147図	陶質土器・鉄製品	307	第171図	貝製品	350
第148図	先島系土器平面分布	308	第172図	骨製品・植物遺体	352
第149図	先島系土器	310	第173図	伊礼原遺跡(国指定外)から採集された 脊椎動物遺体の組成(NISP比)	356
第150図	本土産磁器(近代)平面分布	311	第174図	伊礼原遺跡(国指定外)から採集された 脊椎動物遺体の組成(MNI比)	357
第151図	本土産磁器(近代)	312	第175図	伊礼原遺跡(国指定外)から採集された 魚類遺体の組成(NISP比)	357
第152図	円盤状製品	315	第176図	伊礼原遺跡(国指定外)から採集された 魚類遺体の組成(MNI比)	357
第153図	円盤状製品・煙管平面分布	316	第177図	伊礼原遺跡(国指定外)と伊礼原A遺跡の 優先種の変化	407
第154図	煙管	317	第178図	優先種のサイズ組成変化	422
第155図	基石の大きさと厚さの関係	318	第179図	花粉化石群集	432
第156図	基石	318	第180図	奄美大島砂丘形成と長浜金久遺跡群・ケジ遺跡・ 泉川遺跡の立地横断模式	450
第157図	瓦	319	第181図	伊礼原遺跡周辺の砂丘形成と立地横断模式	450
第158図	石製品	320	第182図	時代別出土遺物変遷	451
第159図	キャンプ桑江北側地区の遺跡と伊礼原遺跡・ 伊礼原A遺跡の位置	323	第183図	小堀原遺跡の位置と調査区	453
第160図	グリッド設定	323	第184図	土器・骨製品	455
第161図	層序1(東壁・南壁・西壁No. 2・3・4)	325	第185図	石器・滑石製品・白磁	456
第162図	層序2(西壁No. 5・6・7 イロレンチ)	326			
第163図	遺物平面・垂直分布	328			
第164図	土器1	334			
第165図	土器2	336			
第166図	石器1	340			

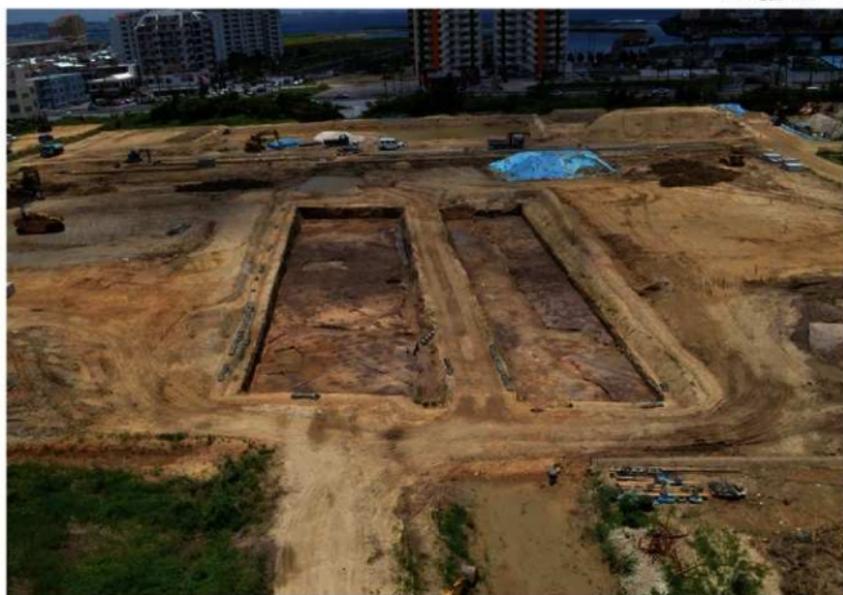
## 表目次

第1表	北谷町遺跡一覧	11	第24表	巻貝観察一覧	163
第2表	層序観察一覧	16	第25表	タカラガイ製品観察一覧	164
第3表	伊礼原遺跡遺物出土量	21	第26表	ヤコウガイ容器観察一覧	164
第4表	貝塚時代後期柱穴大きさ比較	27	第27表	貝匙観察一覧	165
第5表	貝塚時代後期柱穴の形状	27	第28表	ハラガイ有孔製品観察一覧	166
第6表	ピット(柱穴)計測一覧	28	第29表	貝包丁観察一覧	167
第7表	土坑観察一覧	29	第30表	螺蓋製貝斧観察一覧	167
第8表	貝集積観察一覧	34	第31表	ヤコウガイ有孔製品観察一覧	167
第9表	大型イモガイの大きさ比較 (貝集積・自然貝・伊礼原D遺跡)	36	第32表	二枚貝有孔製品貝種・重さ別出土量	168
第10表	有孔貝製品一括出土遺跡貝種組成	37	第33表	二枚貝有孔製品観察一覧	170
第11表	取上遺物一覧	44	第34表	骨製品出土量	186
第12表	土器口縁部・胴部出土量	61	第35表	骨製品観察一覧	186
第13表	IV・V類土器文様別分類出土量	70	第36表	土製品観察一覧	188
第14表	土器底部出土量	73	第37表	溝状遺構観察一覧	190
第15表	土器観察一覧	77	第38表	柱穴観察一覧	192
第16表	石器出土量	128	第39表	建物想定プラン面積	193
第17表	石器観察一覧	129	第40表	径と深さの関係	193
第18表	磨石完形法量一覧	130	第41表	土坑観察一覧	198
第19表	器種別石質相関関係	135	第42表	用途不明遺構観察一覧	199
第20表	貝製品出土量	160	第43表	人骨出土土坑観察一覧	201
第21表	貝輪(一枚貝・二枚貝)観察一覧	161	第44表	グスク時代出土遺物概要	203
第22表	貝輪(巻き貝)観察一覧	162	第45表	グスク時代遺物出土量(グリッド別)	203
第23表	貝玉・イモガイ製品観察一覧	163	第46表	須恵器観察一覧	204
			第47表	青磁出土量	210

第48表	青磁観察一覧	211	第100表	イモガイ円盤状製品	348
第49表	白磁観察一覧	228	第101表	螺蓋製貝斧観察一覧	349
第50表	白磁出土量	229	第102表	二枚貝有孔製品観察一覧	349
第51表	染付出土量	236	第103表	伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から 採集された脊椎動物遺体の種名一覧	356
第52表	染付観察一覧	237	第104表	伊礼原遺跡(国指定外)から出土した魚類遺体	358
第53表	褐釉陶器(中国産)出土量	248	第105表	伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から 出土したウミガメ類遺体	362
第54表	褐釉陶器(タイ産)出土量	249	第106表	伊礼原遺跡(国指定外)から出土したリクガメ類遺体	365
第55表	褐釉陶器(中国産・タイ産)観察一覧	250	第107表	伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土したイヌ遺体	366
第56表	タイ産鉄絵観察一覧	262	第108表	伊礼原遺跡(国指定外)から出土した 鳥類・ネズミ・ネコ・ヤギ遺体	367
第57表	銭貨観察一覧	264	第109表	伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土した イノシシ(またはブタ)遺体(顎骨・遊離歯以外)	368
第58表	砥石観察一覧	266	第110表	伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土した イノシシ(またはブタ)の顎骨・遊離歯	380
第59表	貝・骨製品出土量	270	第111表	伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土した 陸獣類遺体	384
第60表	タカラガイ製貝鐘観察一覧	270	第112表	伊礼原遺跡(国指定外)から出土したウシ・ウマ遺体	385
第61表	近世～近代遺構一覧	276	第113表	伊礼原遺跡(国指定外)から出土した海獣類遺体	388
第62表	焼成跡観察一覧	276	第114表	伊礼原遺跡(国指定外)から採集された 脊椎動物遺体の組成	389
第63表	溝状遺構観察一覧	278	第115表	調査時地名と本報告地区名および対象グリップの対応	398
第64表	掘立柱建物想定プラン面積比較	279	第116表	伊礼原地域における各遺跡出土貝類遺体の 時期別変遷(暫定)	404
第65表	柱穴観察一覧	279	第117表	伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡出土の 貝類遺体の分類学的位置と生息場所類型	405
第66表	土坑観察一覧	281	第118表	優占種の出土割合	407
第67表	貝具中部出土量	282	第119表	伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡 出土貝類遺体の詳細(NSP)	408
第68表	近世～近代出土遺物概要	283	第120表	放射性炭素年代測定結果	430
第69表	近世～近代遺物出土量	283	第121表	暦年校正結果	431
第70表	瓦質土器出土量	284	第122表	花粉分析結果	431
第71表	瓦質土器観察一覧	284	第123表	微生物分析結果	432
第72表	本土産陶器(近世)出土量	286	第124表	花粉分析結果	440
第73表	産地別出土量	287	第125表	植物珪酸体分析結果	440
第74表	本土産陶器(近世)観察一覧	287	第126表	微生物洗い出し分析結果	440
第75表	本土産磁器(近世)観察一覧	290	第127表	土壌理化学分析結果	441
第76表	沖縄産施釉陶器出土量	292	第128表	脂質分析結果	441
第77表	沖縄産施釉陶器観察一覧	293	第129表	3号大腸骨計測値表	445
第78表	播鉢分類別出土量	296	第130表	土器重さ一覧	453
第79表	沖縄産無釉陶器出土量	297	第131表	小塚原遺跡遺物追加資料一覧	454
第80表	沖縄産無釉陶器観察一覧	298	第132表	小塚原遺跡2008～2009年調査で採集された 魚類遺体の同定結果	457
第81表	陶質土器出土量	306	第133表	小塚原遺跡2008～2009年調査で採集された イノシシの上顎骨・遊離歯の同定結果	457
第82表	陶質土器観察一覧	306	第134表	小塚原遺跡2008～2009年調査で採集された イノシシの下顎骨・遊離歯の同定結果	457
第83表	先島系土器観察一覧	309	第135表	小塚原遺跡2008～2009年調査で採集された その他の脊椎動物遺体の同定結果	457
第84表	先島系土器出土量・胎土分類	309	第136表	小塚原遺跡2008～2009年調査で採集された イノシシの遺体(顎骨・歯を除く)の同定結果	458
第85表	施文技法別出土量	311			
第86表	本土産磁器(近代)出土量	311			
第87表	本土産磁器(近代)観察一覧	312			
第88表	円盤状製品観察一覧	314			
第89表	煙管観察一覧	316			
第90表	瓦出土量	319			
第91表	現代遺物出土量	321			
第92表	層序観察一覧	327			
第93表	取上遺物一覧	329			
第94表	伊礼原A遺跡土器出土量	332			
第95表	土器観察一覧	333			
第96表	土器出土状況	338			
第97表	器種別岩石組成	339			
第98表	石器観察一覧	347			
第99表	貝製品出土量	348			



H19地区(北から)



H8地区・H2地区(東から)

巻首図版1 全景



H19 地区北壁



H19 地区東壁



H19 地区東壁



H19 地区南南西壁



H19 地区北壁



H19 地区東壁



H19 地区東壁



H19 地区南南西壁



H19 地区南南西壁



H19 地区南南西壁



H19 地区西壁



イ地区北壁



H19 地区南西壁



H19 地区西壁



H19 地区西壁



イ地区北壁



イ地区西壁



イ地区西壁



イ地区西壁



伊礼原A遺跡（口地区）東壁



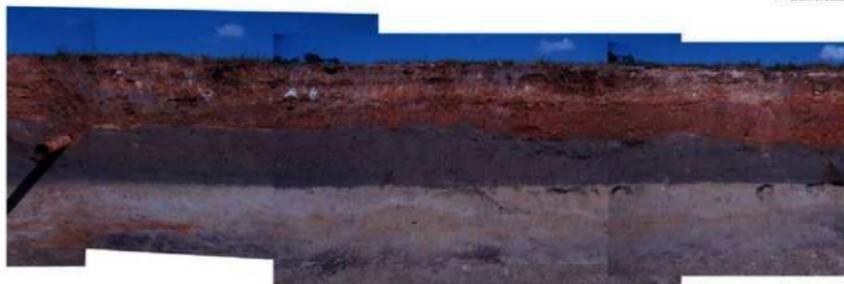
イ地区西壁



イ地区西壁



イ地区西壁



伊礼原A遺跡（口地区）東壁



伊礼原A遺跡（口地区）東壁



伊礼原A遺跡（口地区）西壁



伊礼原A遺跡（口地区）西壁



伊礼原A遺跡（口地区）西壁



伊礼原 A 遺跡 (口地区) 東壁



伊礼原 A 遺跡 (口地区) 西壁



伊礼原 A 遺跡 (口地区) 西壁



伊礼原 A 遺跡 (口地区) 西壁



八地区東壁



八地区西壁



二地区東壁



二地区西壁



Cトレンチ (東から)



下層確認トレンチ (南から)



下層確認遺物検出 (石皿)



下層確認遺物検出 (土器)



SS01・SS02・SS03



H19地区 (西から)



イ地区 (南から)



卷首図版13 柱穴2 (オルソ画像)



A11-SX01 (東から)



A11-SX01 (頭骨・西から)



A11-SX01 (股骨)



N14-SX01 (北から)

巻首図版14 人骨検出状況(A11-SX01:貝塚時代後期 N14-SX01:グスク時代)



全景（北から）



IVb 層面（北西から）



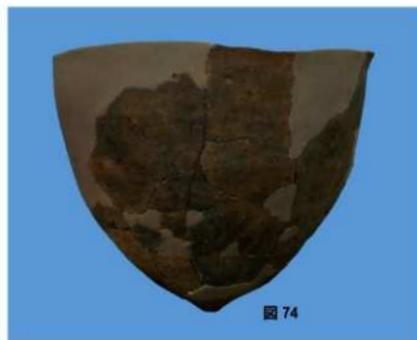
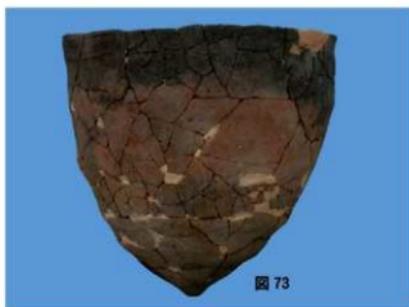
岩盤検出状況（南西から）



下層確認トレンチ（南東から）

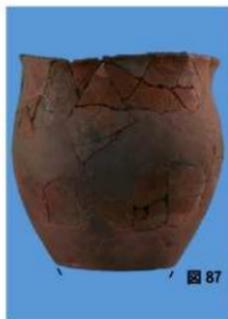
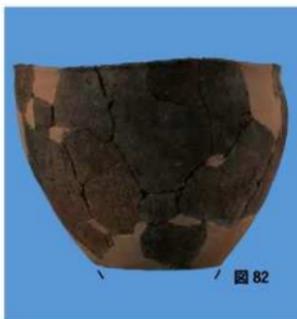


下層確認トレンチ（北壁）



卷首图版16 土器

(遺物番号は図版番号と一致)



0 10cm



卷首図版17 土器 (上: 復元土器・下: 弥生系土器)

(遺物番号は図版番号と一致)



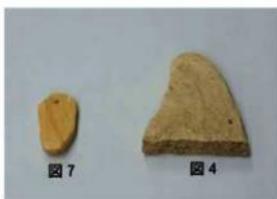
石器 (貝塚時代後期)



石斧 (伊礼原A遺跡・口地区)



砥石 (貝塚時代後期)



砥石 (グスク時代)



石器 (グスク時代)



巻首図版19 貝製品

(遺物番号は図版番号と一致)



青磁



黒軸陶器



滑石製石鍋・須恵器



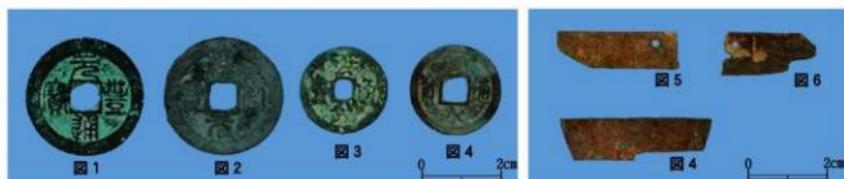
瑠璃軸・翡翠軸・三彩・タイ産鉄絵・瓦質土器



染付

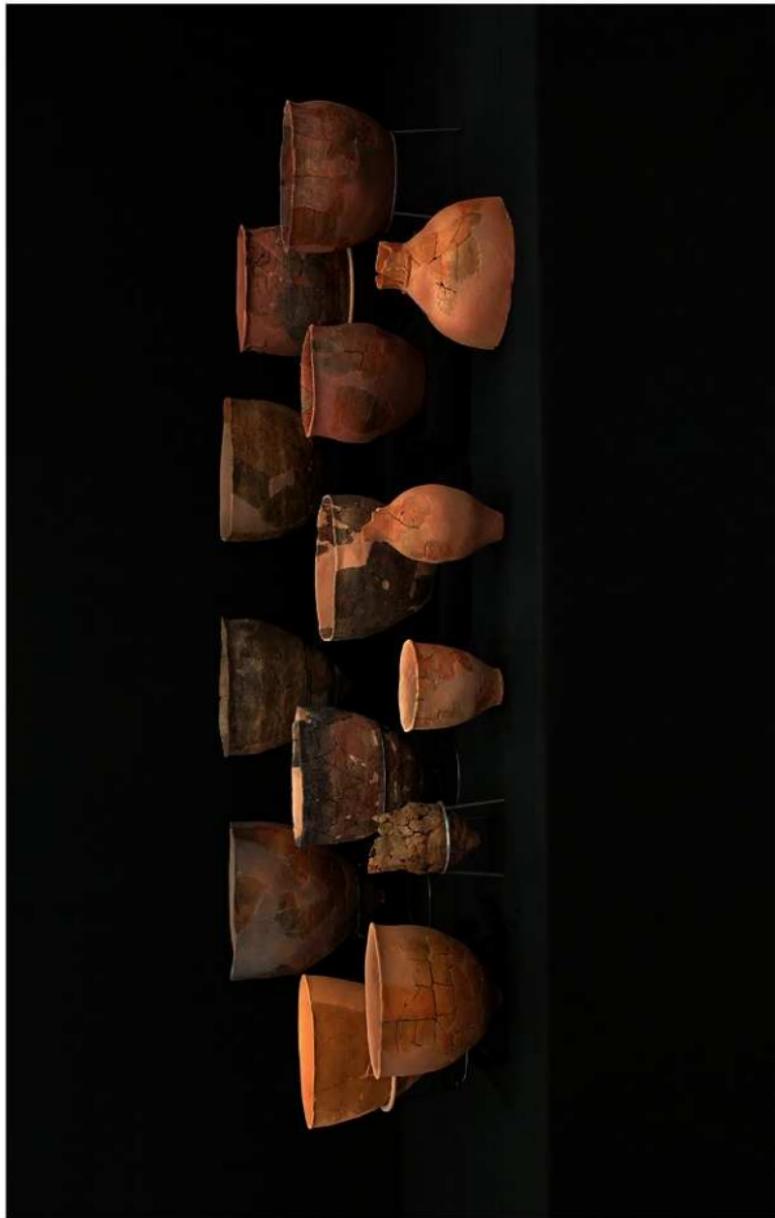


白磁



巻首図版21 本土産陶器・本土産磁器・銭貨・骨製品・鉄製品・円盤状製品・煙管・ガラス玉

(遺物番号は図版番号と一致)



卷首图版22 復元土器

# 第1章 調査経緯・経過

## 第1節 調査に至る経緯

伊礼原遺跡（国指定外）は、平成15年3月に返還された在沖米海兵隊基地（キャンプ桑江北側地区）内に位置し、基地返還に先立つ予備調査で発見された「周知の埋蔵文化財包蔵地」である。本報告書は、桑江伊平土地区画整理事業に係る記録保存目的の緊急発掘調査成果をまとめたものである。上記予備調査の結果、キャンプ桑江北側地区には、9遺跡6遺物散布地（延べ13ヘクタール）が確認され、伊礼原遺跡が位置する字伊平小字伊礼原176番地一帯には、沖縄貝塚時代後期（以下、本章で「貝塚時代後期」とグスク時代の遺構が確認された（註1・2）。後述する国指定史跡伊礼原遺跡の指定地外に当たる部分である。

キャンプ桑江北側地区は返還後の跡地利用促進が重要な課題となっており、課題の整理と解決に向け、北谷町内の関係部署間で定期的に会議の場を設けた。埋蔵文化財については、事業調整の段階でほとんどの遺跡が開発行為の影響を受ける事が判明した。その理由として、事業地内のほぼ全域で盛土による造成工事が施工されるためであった。国道58号に東接するキャンプ桑江北側地区は、国道よりも地盤面が低く、大雨時に度々冠水を引き起こしていたことから、返還跡地一帯を盛土造成し上記現象を解消する必要があった。同地域は、本町でも数少ない平坦地であり、かつ、地理的に本町の中心部であることから、返還後は町の中核ゾーンとして、職住近接型の都市環境の創出及び地域活性化を図る計画がなされていた（註3）。返還跡地を有効かつ効率的に利用するためには、国道との段差を解消する盛土造成工事は避けられないものであり、その土厚は、地下の埋蔵文化財に悪影響を及ぼす可能性が十分に考えられる規模も認められた。ただし、盛土の高さが一律ではない事から、盛土の高さや恒久的工作物の範囲を割り出すことにより、緊急発掘調査の対象地及び対象外範囲の抽出作業を進めたが、同作業は困難を極めた。

また、連絡会議と並行して、沖縄県内の政府関係機関、沖縄県並びに北谷町で「キャンプ桑江北側地区跡地利用支援関係機関連絡会議（以下「連絡会議」という。）」が、平成11年9月14日から平成12年10月27日にかけて延べ10回開かれた。連絡会議では、返還跡地で確認された遺跡の取扱等について、調査費用・調査期間・文化財保護・地権者への負担等の総合的観点から、今後の方針を導き出すための検討が行われた。連絡会議では、遺跡の取扱いについて以下の2案が持ち上がった。

- 1、区画整理事業期間中に対象遺跡の全てを全面調査する。
- 2、区画整理事業期間中には事業に係る範囲（遺跡の一部）のみを調査し（第1段階）、その他の一般宅地等範囲については、事業完了後に土地所有者が建築行為を計画した時点において、原因者負担や文化庁補助を受けて発掘調査を実施する。

1案のメリット（2案のデメリット）として、

- ①従前地から埋蔵文化財包蔵地へ換地されないため、この点において地権者へ不利益が生じない。
- ②第1段階で全ての発掘調査を行うため、2案に比べ調査期間の短縮が考えられる。

が想定され、デメリット（2案のメリット）としては、

- ①発掘調査を実施した箇所でもその後開発行為が行われない場合、不必要な調査となってしまう。
- ②遺跡の一部のみの調査に比べ調査費用が増大し（減歩率の上昇）、地権者への負担が大きくなる。
- ③事業完了後に宅地建設の殺到が予想されることから、第2段階の発掘調査の対応が困難となり、

地権者に不利益を与える。

が挙げられた。幾多の会議を重ねた結果、最終的には地権者への負担軽減を考慮し、1案を採用する事となった。同時に、現地保存すべき遺跡に伊礼原C遺跡(当時の名称)が挙げられ、今後は保存範囲を確定させるべく範囲確認調査を継続して取り組む事となった(註4)。

平成15年3月15日には「桑江伊平土地区画整理事業(施行者 北谷町)」が事業認可され、伊礼原遺跡を除く他の遺跡は、現状保存が図れないことから次善の策として記録保存調査を行うこととなった。平成16年10月27日、北谷町教育委員会は、桑江伊平土地区画整理事業施行区域における埋蔵文化財の取扱について北谷町と協定を締結した。町教育委員会においては、他事業との関係による専門員の事務負担量が著しく増大していたため、発掘調査に係る諸作業の軽減を図る目的で、現地調査の測量、発掘作業員の手配及び安全管理を民間業者に業務委託する事とした。

発掘調査は、遺跡内を西流する河川(以下、本章で「旧河川」)の切り直し工事等の兼ね合いから3期に分けて行った。調査初年度にあたる平成19年度は、12月10日着手し、平成20年2月29日に業務完了した。調査面積は1,350㎡である。2期目の平成20年度は7月7日に着手し、同年11月25日に業務完了。調査面積は1,050㎡。3期目の平成24年度は5月23日に着手し、同年7月31日に業務完了。調査面積は930㎡で3期に亘る総調査面積は3,330㎡である。

#### <註文献>

註1 北谷町教育委員会2005『キャンプ桑江北側返還に伴う試掘調査—伊礼原B遺跡ほか発掘調査事業—』

註2 北谷町教育委員会2008『伊礼原D遺跡—キャンプ桑江北側返還に伴う発掘調査事業(平成10年～13年度)—』

註3 返還に先立つ平成10年3月には、共同使用という形態で北谷町役場新庁舎がキャンプ桑江北側地区内に建設されている。

註4 同遺跡はその後『伊礼原遺跡』と名称が改められ、平成22年2月22日に約17,000㎡が国史跡に指定されるに至った。

## 第2節 調査体制

調査体制は以下のとおりである。

事業主体	教育長	瑞慶覽 朝 宏(平成19年度)
	同	比 嘉 秀 夫(平成20年度)
	同	川 上 啓 一(平成24・25年度)
事業総括	教育次長	謝 花 良 継(平成19・20年度)
	同	大 城 操(平成24年度)
	同	比 嘉 良 典(平成25年度)
	社会教育課長	大 城 操(平成19・20年度)
	同	嘉陽田 朝 栄(平成24年度)
同	比 嘉 敬 文(平成25年度)	
調査総括	文化係長	中 村 愿(平成19年度)
	同	嘉陽田 朝 栄(平成19・20年度)
	同	米 須 健(平成24・25年度)
調査担当	主任 主事	山 城 安 生(平成19・20・24・25年度)
	同	東 門 研 治(平成19・20・24・25年度)

同	松原哲志（平成24・25年度）
同	島袋春美（平成25年度）
主事	松原哲志（平成19・20年度）

## 資料整理作業員

(平成24年度)

囑託 上地千賀子・上間真寿美・大城 光・呉屋広江・佐久間クリエ・島袋春美・曾木菊枝  
知念栄子・照屋元子・富平砂綾子・豊里初江・西原美草・東順子・山城小百合  
臨時 島袋 和・城間志津香・祖堅弥生・照屋朝子・渡嘉敷ゆみ子・普久原香・宮里由夏  
湧川米子

(平成25年度)

囑託 上地千賀子・上間真寿美・大城 光・呉屋広江・佐久間クリエ・曾木菊枝・知念栄子  
照屋元子・富平砂綾子・豊里初江・西原美草・東順子・北條真子・山城小百合  
臨時 稲嶺律子・大城明香・金城綾乃・城間志津香・田中英子・徳木加代子・仲栄真麻美  
宮里美也子

(平成24・25年度)

北谷町シルバー人材センター

## 発掘調査及び自然科学分析に係る業務委託

(平成19年度)

伊礼原遺跡(国指定外)埋蔵文化財発掘調査委託業務委託(その1) 株式会社バスコ沖縄支店

(平成20年度)

伊礼原遺跡(国指定外)埋蔵文化財発掘調査委託業務委託(その2) 株式会社バスコ沖縄支店

(平成23年度繰越事業)

伊礼原遺跡(国指定外)埋蔵文化財発掘調査委託業務委託(その3) 株式会社バスコ沖縄支店

(平成25年度)

伊礼原A遺跡の自然科学分析業務委託 パリノ・サーヴェイ株式会社

## 調査指導及び助言(敬称略、所属五十音順)

おきなわ石の会	大城逸朗
沖縄県立埋蔵文化財センター	名嘉政修・岸本義彦・金城亀信
沖縄市文化財調査審議会	比嘉賀盛
鹿児島大学埋蔵文化財センター	新里貴之
史跡鴻池新田会所管理事務所	松田順一郎
千葉県立中央博物館	黒住耐二
北谷町文化財調査審議委員	知念 勇
琉球大学医学部	土肥直美
早稲田大学教育学部	樋泉岳二

### 第3節 調査経過

#### ・発掘作業

平成19年度（12月10日～2月29日）

平成19年度は12月11日から草刈り作業を開始し、調査区設定に取りかかった。14日からは磁気探査及び重機による表土（米軍基地造成土）掘削を行い、22日には表土掘削終了。予備調査の成果から表土厚は1m前後である事が判明していたため機械力で一気に掘り下げた。造成土の除去後、黒褐色シルトの遺物包含層が検出され5m間隔でグリッド鉄を設置し、26日から人力掘削を開始した。調査区を南北に分ける形で範囲確認調査時のトレンチが確認されたことから、その埋土を優先的に掘削し壁面観察に努めた。遺物包含層上部では貝塚時代後期の土器のほか中国産陶磁器や沖縄産施釉陶器が混在していたため、近世以降に攪乱されていると判断した。

包含層を掘り進めると白色砂層が現れ、グスク時代の遺構が明瞭に確認できるようになった。1月15日には高所作業車を用いて範囲確認トレンチより南側の遺構検出状況を撮影し、21日には北側の撮影を行った。その際、座標値を持った対標を調査区内に設置し、写真測量による遺構平面図作成に備えた。グスク時代の遺構は調査区の西側に集中しており、掘立柱建物址のプランも数棟分確認されたことから集落の中心部分と判断した。調査区東側ではグスク時代の遺構が希薄である一方、貝塚時代後期の遺物が集中していた。これは、東側丘陵地に近いほど古い時期の遺跡があるというこれまでの確認調査結果を裏付けるものであった。ただ、調査区北西隅にも貝塚時代後期の遺物が集中している状況が見られ、その理解に苦慮した。

翌22日からは遺構の半載作業及び記録作業に着手、2月7日には遺構を完掘し、8日には高所作業車にて完掘状況の写真撮影を行った。12日には写真測量のためヘリコプターを用いて空中写真撮影を行い、その後、貝塚時代後期の遺構検出作業へ移行した。20日には貝塚時代後期の遺構検出状況を高所作業車により写真撮影し、順次遺構の半載、記録作業を行った。26日から28日にかけて重機による下層確認調査を実施した結果、遺構が確認されなかったため19年度の調査は終了した。

平成20年度（7月7日～11月21日）

平成20年度は7月7日から草刈り作業を開始し、調査区設定に取りかかった。11日からは磁気探査を行い、26日にイ地区、8月1日にロ地区（伊礼原A遺跡部分）の表土掘削が終了した。イ地区では黒褐色シルトの遺物包含層が南側に向けて薄く堆積しており、部分的に遺構が確認された為、包含層掘削、遺構検出、遺構測量を同時並行で進めた。21・22日には遺構検出状況を撮影し、25日より遺構半載作業を行った。

29日からはロ地区に着手。小規模な調査区だが複雑な堆積状況を示していたため、サブトレンチを設け層序の把握に努めた。イ地区ではグスク時代の集落跡が広がり、前年度理解に苦慮した貝塚時代後期の遺物集中箇所も認められた。遺物集中箇所からはローリングを受けた土器も見られたことから二次堆積の可能性が考えられた。ロ地区では遺物が定量出土するものの貝塚時代前期（縄文時代後期相当）や貝塚時代後期等、時期の異なる土器が含まれていたため二次堆積であると判断した。

9月9日からはイ地区の完掘作業と記録作業に移行し、12日には高所作業車を用いてロ地区の岩盤露出状況の全景撮影を、26日にはイ地区の完掘状況の写真撮影を行った。ロ地区南西側では貝塚時代後期の土器がまとまって出土し、ローリングを受けていないことからプライマリーな包含層が残っているものと想定した。10月8日からは両地区において重機による下層確認トレンチを設けた。イ地

区では貝塚時代後期時期の土器が数点出土し、その後トレンチ壁面の図化・写真撮影を行った。ロ地区で遺物は確認されず、湧水による壁面崩落があったため写真撮影のみによる記録となった。14日には現場作業を終了し、その後は遺物整理や台帳類作成、データ整理などを行い11月21日に20年度の調査を終了した。

#### 平成24年度（5月23日～7月31日）

平成24年度は5月23日から現場作業を開始。切り回しが完了した旧河川の箇所にも雨水が溜まっていたため、水中ポンプにより排水を行い調査区の設定に取り掛かった。28日からは磁気探査と重機掘削を並行して実施。ハ地区西側は、近世以降による耕作等の影響によりグスク時代の包含層がほとんど確認できず、ニ地区南側は旧河川設置工事により大きく攪乱されていた。

6月7日からはグスク時代の包含層掘削に着手、15日にはニ地区の遺構検出状況を高所作業車にて写真撮影し、翌16日にはハ地区の撮影を行った。18日からは遺構掘削と記録作業を開始。両調査区の東側20mは7月から実施される道路工事部分に掛かっていたため優先的に調査を行い、7月4日にグスク時代の調査を、7日に貝塚時代後期及び下層確認調査を終え、10日には当該箇所を工事部署へ引き渡した。その間、ハ地区の引き渡し箇所ではグスク時代の土坑墓が確認されたが、レーザー測量を導入することで記録作業の迅速化を図り、記録作業後には土肥直美氏の指導の下、人骨の取り上げを行った。12日からは残る調査区の遺構掘削及び記録作業を総動員で行い、19日にはグスク時代の完掘を終え俯瞰写真を撮影、23日からは貝塚時代後期の包含層掘削を行った。グスク時代の遺構のほとんどはピットであった。出土遺物は15～16世紀代のものが多く、過年度の調査内容を補完するものであった。貝塚時代後期の包含層掘削時には、両調査区中央部分の北西～南東ラインで大当原期の遺物がまとも出土する傾向が見られ、これまでの調査時に遺物が集中する範囲と繋がる状況が確認された。数は少ないものの遺構も検出されたことから、海岸線に並行する北西～南東の遺物集中ラインは大当原期の生活面である可能性が示唆された。25日には攪乱部分より銃弾等が発見されたため、関係部署に連絡しその日のうちに自衛隊が回収した。30日には重機による下層確認調査を終え、翌31日には24年度の調査及び伊礼原遺跡（国指定外）の全ての現地調査が完了した。



図版1 自衛隊による銃弾等回収状況

#### ・整理作業

##### 平成24・25年度

本発掘調査から出土した総遺物量は、標準的な遺物コンテナ（60cm×40cm×10cm）で473箱であった。整理作業は現場作業の雨天時を利用して遺物の洗浄・乾燥及び脆弱遺物の強化を行い、本格的な作業は現地調査終了後の平成24年度から開始した。乾燥後の出土遺物はナンバリングや接合作業等を行い主な資料を実測した。現場作業時にトータルステーションや写真測量で作図した遺構図等はCADデータからイラストレーターデータに変換後デジタルトレースを行った。手描きの図面や遺物実測図等については全てスキャンし、同じくデジタルトレース作業を行った。報告書掲載写真はデジタルカメラ（1200万画素）で撮影したものを、35mmフィルムカメラの資料はアルバムにて整理・保管した。現場作業中に採取した炭化物やサンプル試料及び土器や石器・人骨等の同定については、専門機関へ業務委託・調査依頼を行った。

## 第二章 位置と環境

### 第1節 地理的環境

#### (1) 北谷町の位置と概要

北谷町は沖縄本島中部の西海岸、県都那覇市から北東約16kmに位置している。北に嘉手納町、東に沖縄市と北中城村、南に宜野湾市と接し、西は全域が東シナ海に面し彼方に慶良間諸島が眺望される。町の総面積は13.78km<sup>2</sup>で、南北約6km、東西約4.3kmの長方形をなし、ほぼ中心（北緯26度18分58秒、東経127度45分55秒）に町役場は位置する。

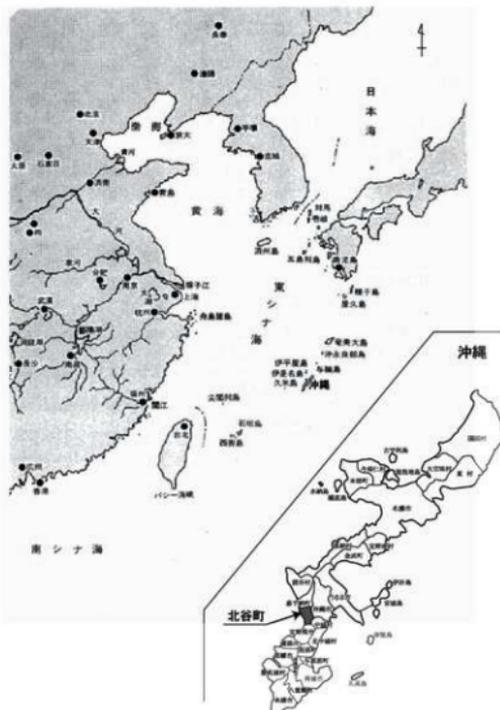
2014（平成26）年2月末現在の人口は約28,664人で、現在進められている桑江伊平土地地区画整理事業開始前（平成15年12月末）の26,358人に比べ2,306人、率にして1.08%増となっている。今後も公有水面埋立地の利用や返還軍用地の跡地利用に伴って、一層の人口増加が見込まれている。

本町は、米軍基地の多い沖縄県内においても基地占有率が3番目に高い自治体で（町総面積における軍用地の比率は53.5%）、基地の殆どは利便性に富む国道58号沿いの平地に集中している。そのため土地利用上大きな制約があり、丘陵台地からなる東部地域と海岸低地や埋立地の広がる西海岸地域の狭小な町土で、まちづくりや生活環境整備が行われている。

産業は、西海岸地域を中心に第三次産業の割合が大きく今後の伸びも予測されている一方、第一次、第二次産業は減少傾向にある。

現在は、都市との共生・交流を目指したフィッシャリーナ整備事業や自然海製塩事業など、地域特性を生かした新しい地場産業の創出に取り組んでいる。

交通網は、那覇市から本島北部へ延びる主要幹線道路の国道58号が西海岸側を縦断し、町城北側より県道23号線、24号線、130号線がそれぞれ国道58号以東へ延び、概して交通の便に恵まれている。近年では、国道58号渋滞緩和のための道路拡幅や県道24号線のバイパス整備が進められている。



第1図 北谷町の位置



植生は、北部に生育するイタジイ・イジュ・ヤマモモ等と、中南部に生息するアカギ・オオバギ・ヤブニッケイ等が混生し、学術的にも貴重な地域となっている。森林は、嘉手納基地内やその周辺、庁舎北側の丘陵地、北谷城周辺、河川流域に比較的良好に残るも、その割合は町土の7%と決して高くない(2006年4月現在)。動物相は、良好な植生が残っている場所を中心に、鳥類4目9科14種、爬虫類1目4科6種、両生類1目3科3種、大型土壌動物14目1,411種の個体が確認されている。また、2000(平成12)年に行われた動物調査では、希少性の高い哺乳類のオリオオコウモリ、鳥類のミフズラ、昆虫類のクロイワゼミ等を含む陸棲動物や、海城、汽水城、河川域で多様な水棲動物が確認されている(北谷町教育委員会, 2005)。

## 第2節 歴史的環境

本町では、平成26年3月現在で54遺跡が確認されている。以下に各時代の歴史的環境を概観する。

### (1) 先史時代

先史時代に属する遺跡は主に西海岸に集中している。町内最古の遺跡(旧石器時代)である鹿化石出土地と桃原洞穴遺跡は町東側の台地上に位置している。桃原洞穴遺跡からは化石人骨(約16,000年前)が発見されたとされているが、近年の研究では中世または近世初めの可能性が指摘されている。

貝塚時代前I～V期(縄文時代相当期)の主な遺跡には伊礼原遺跡が挙げられる。同遺跡は本町のほぼ中心に位置し、ウーチヌカーと呼ばれる湧水を源とする低湿地区と砂丘地区に分けられる縄文時代前期から戦前に至るまでの複合遺跡である。低湿地区では古環境の復元が可能な程の植物遺体が出土したほか、県内初となる発見が相次いだ。砂丘地区では、大きな波力によって砂丘と共に住居址が侵食され、その後砂丘が回復し、居住区が拡大していく様子が確認された。また、沖縄諸島で最古の土器とされる爪形土器や九州の曾畑式土器のほか、先史時代からグスク時代までの土器編年体系が網羅できるほどの遺物が出土しており、同遺跡は2010(平成22)年に国史跡に指定された。その他、町北側に所在する砂辺貝塚からは方形住居址が、クマヤー洞穴遺跡からは改葬人骨が多数検出されている。

貝塚時代後期(弥生～平安並行期)の遺跡は米軍基地跡地利用に伴う発掘調査により多数発見され、中でも小堀原遺跡からは、グスク時代への過渡期である10～12世紀の年代値を示す大麦・稲・アワが得られており、農耕社会への移行を考える上で貴重な資料を提供している。

### (2) グスク時代・古琉球

本町におけるグスク時代の代表的な遺跡には北谷城が挙げられる。石灰岩丘陵上に立地する北谷城は本町で唯一残存するグスクで、発掘調査成果から12世紀に始まり、14世紀後半から15世紀中頃に石垣が構築され、15世紀後半に終焉を迎えたと考えられている。北谷城についての明確な記録はなく、金満按司や大川按司、谷茶按司の3系統の興亡があったと伝えられているが伝承の城を出ない。その他の言い伝えとしては、1609年の薩摩侵攻時に薩摩豊又は佐敷興道が北谷城に守備隊として配されたが、首里陥落の報を聞き自刃したという話が残っている。

「北谷」とは、いつからそう呼ばれるようになったか定かではないが、嘉清年間(1522～1566年)の俞姓大宗家家譜中に「北谷間切平安山頭職」の文字が見られることから、古琉球には北谷という地名が存在していたようである。また、1577年に琉球国王が地方役人に給した辞令書に「きたたんまきり」と見られることから、当時は北谷を「きたたん」と読んでいたようである。その後「きたたん」は「きちたん」から「ちちたん」へと少しずつ言語上変化し、現在の「ちたん」となっている。

### (3) 近世

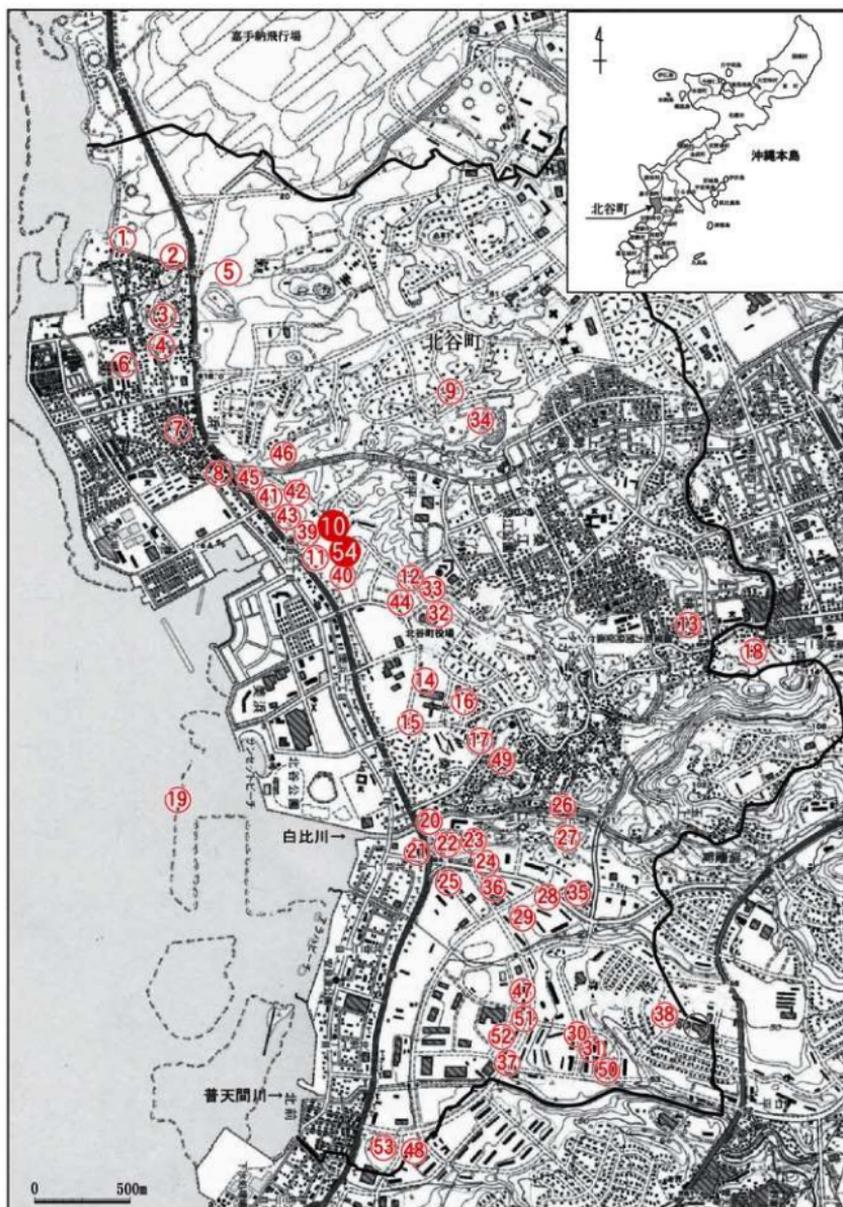
1649年に作成された『絵図郷村帳』をみると、近世の北谷間切には、北谷、くわい（現在の桑江）、平安山、すなへ（砂辺）、野国、屋郎（屋良）、賀手納（嘉手納）、山内、あきな（安仁屋）の9つの村があったことが分かる。1660～1670年代には、間切の分割・新設に伴って山内が越來間切に、あきなが宜野湾間切に割かれ、新たに玉代勢、伝道、伊礼、浜川、野里が誕生し、計12村となって近代まで引き継がれた。1700年代前半になると首里の士族層が地方へ下り、屋取として生活し始める。北谷は屋取が多い地域で、上勢頭古墓群や大作原古墓群は屋取集落の人々によって造られたものである。近世末期の1840年には、北谷沖にイギリス商船のインディアン・オーク号が座礁する事件が起こる。北谷間切の人々は同船の乗組員全員を救助・保護したほか、平底帆船『琉球丸』を建造・提供するなど、当時異国船打払令が発令されていた日本において異例の対応を取った。この事件後、英国では琉球人のことを「善きサマリア人」と称すようになった。余談ではあるが、インディアン・オーク号事件のやりとりは、ドラマ「テンペスト」にも取り上げられている。また、この事件をきっかけに2000年の沖縄サミットでは英国のブレア首相（当時）が北谷町を訪問し、その後、北谷・英国間で語学留学が開催されるに至った。インディアン・オーク号座礁地では、当時の積み荷の一部が今も海底に残され、海底遺跡として位置付けられている。

### (4) 近代・現代

1908（明治41）年に施行された島嶼町村制以後、北谷間切は北谷村<sup>ノッ</sup>となった。戦前は水田の広がる農村として栄えていたが先の大戦で焦土と化し、沖縄戦や戦後の米軍基地建設により地形は大きく改変された。米軍上陸直前に守備隊が建設した特攻艇秘匿壕は、北谷城が立地する丘陵北側に現在も残されている。戦後は村全域が米軍の軍事占領下に置かれ、中でも嘉手納基地の存在は村を南北に二分し行政執行に支障をきたす要因となった。これらを受け、1948（昭和23）年には北谷村<sup>ノッ</sup>と嘉手納村に分村し、1980（昭和55）年には北谷村から北谷町へと町制移行している。

### <引用・参考文献>

- 北谷村役場 1961 『北谷村史』
- 地域創造研究所 1973 『コザ市総合開発計画調査報告書』
- 北谷町教育委員会 1986 『北谷町史 第2巻 資料編1前近代・近代文献資料』
- 北谷町教育委員会 1994 『北谷町の遺跡—詳細分布調査報告書—』
- 沖縄県立博物館 2002 『沖縄県立博物館復帰30周年記念特別展 港川人展～元祖ウチナーンチュ～』
- 北谷町教育委員会 2005 『北谷町史 第1巻 通史編』
- 北谷町教育委員会 2005 『キャンプ桑江返還に伴う試掘調査—北谷町文化財調査報告書 第23集』
- 北谷町教育委員会 2006 『北谷町の地名—戦前の北谷の姿—』 北谷町文化財調査報告書 第24集
- 北谷町教育委員会 2007 『伊礼原遺跡—伊礼原B遺跡ほか発掘調査—』 北谷町文化財調査報告書 第26集
- 北谷町総務部企画財政課 2009 『沖縄県北谷町・町勢要覧』
- 北谷町 2010 『北谷町緑の基本計画基礎調査（報告書）』



第4図 北谷町の位置と遺跡分布

第1表 北谷町遺跡一覧

2014年現在

No.	遺跡名	時期	所在地
1	砂辺(すなべ) サーク原貝塚	貝塚後期	字砂辺差久原
2	砂辺サーク原遺跡	貝塚前IV期～近世	字砂辺加志原
3	砂辺貝塚	貝塚前IV期～グスク	字砂辺村内原
4	砂辺ウガン遺跡	貝塚後期	字砂辺加志原
5	カーシーノポシントン遺物散布地	貝塚前V期	字砂辺加志原
6	クマヤノ洞穴遺跡	貝塚前II期～戦前	字砂辺村内原
7	西川千原岩山(はまがわせんばるいわやま) 遺物散布地	貝塚前V期	字流川西川千原
8	西川ウガン遺跡	貝塚後期	字流川西川
9	上・下勢頭区古墓群(かみ・しもせどくこぼくん)	近世	字上勢頭平安山伊森原・伊礼伊森原・下勢頭平安山下勢頭原
10	伊礼原(いれいばる) 遺跡	貝塚前I期～戦前	字伊平伊礼原
11	伊礼原B遺跡	貝塚前期～晩期・近世・戦前	字伊平伊礼原
12	桑江ノ殿(くわのえのとうん) 遺物散布地	グスク～近世	字桑江小堀原
13	鹿化石出土地	旧石器	字吉原栄口原・晩原
14	前原古島(めいばるふるじま) A遺跡	近世	字桑江桑江原・前原
15	前原古島B遺跡	近世	字桑江前原
16	伊地瀬久原(いじさくばる) 古墓	近世	字桑江伊地瀬久原
17	前原古墓群	近世	字桑江前原
18	桃原(とうばる) 洞穴遺跡	旧石器	字吉原東新川原
19	インディアン・オウ号の原礫地	近世	字北谷地先
20	池(いち) グスク	グスク	字吉原東宇地原・西宇地原
21	白比川(しらひがわ) 河口遺物散布地	貝塚前II期	字北谷西表原
22	北谷城(ちやたんてく) 遺跡群	貝塚後期末～グスク	字大村城原
23	北谷城	貝塚後期末～グスク	字大村城原
24	北谷城第7遺跡	貝塚後期～グスク	字大村城原
25	北谷森所址	グスク	字北谷北谷原
26	吉原東角双原(よしはらあがりちぬまたばる) 遺物散布地	グスク	字吉原東角双原・西角双原
27	山川原(やまがーばる) 古墓群	近世	字大村山川原
28	玉代勢原(たまよせばる) 遺跡	貝塚後期末～グスク	字大村玉代勢原
29	長者山(ちやうろうやま) 遺物散布地	グスク～近世	字大村玉代勢原
30	大道原(うふどうばる) A遺跡	グスク	字北谷大道原
31	大道原B遺跡	貝塚前V期	字北谷大道原
32	後兼久原(くしかにくる) 遺跡	グスク	字桑江後兼久原・字桑江小堀原
33	ジョーミーチャー古墓	グスク	字桑江小堀原
34	伊礼伊森原(いれいーいばる) 遺跡	グスク	字上勢頭伊礼伊森原
35	後原(くしばる) 遺跡	グスク～近世	字大村玉代勢原
36	嵐川原(うーがーばる) 遺跡	グスク	字北谷嵐川原
37	橋干原(んこふしばる) 遺跡	貝塚後期	字北前橋干原
38	横富原(よこたけばる) 遺跡	グスク	字北前横富原
39	伊礼原D遺跡	貝塚後期～グスク	字伊平伊礼原
40	伊礼原E遺跡	貝塚前II期～近世	字伊平伊礼原
41	平安山原(はんざんばる) A遺跡	グスク～近世	字伊平平安山原
42	平安山原B遺跡	貝塚後期～近世	字伊平平安山原
43	平安山原C遺跡	貝塚後期～近世	字伊平平安山原
44	小堀原(くわいばる) 遺跡	貝塚後期～近世	字桑江小堀原
45	千原(せんばる) 遺跡	グスク	字伊平千原
46	大作原(うふさくばる) 古墓群	近世	字伊平大作原
47	東表原(あがりうむいばる) 遺跡	貝塚前V期	字北谷東表原
48	新城下原(あらてくすくしやばる) 第2遺跡	貝塚前I期～近世	字北谷安仁屋原
49	東宇地原(あがりうじばる) 古墓群	近世	字北谷東宇地原
50	大道原C遺跡	近世	字北谷大道原
51	大道原D遺跡	グスク	字北谷大道原
52	高畔原(たかふしばる) 水田跡	近世～戦前	字北谷高畔原
53	安仁屋原(あにやばる) 遺跡	グスク～近世	字北前安仁屋原
54	伊礼原A遺跡	貝塚前III期～貝塚後期	字伊平伊礼原

注: 時代表記は概ね「グスク」→「10～17世紀前半」, 「近世」→「17世紀後半～明治以前」, 「戦前」→「1945年以前」

&lt;参考文献&gt;

- 中村恵・田端勝也・他 1994『北谷町の遺跡—詳細分布調査報告書—』北谷町文化財調査報告書 第14集  
 中村恵・東門研治・島袋春美 2005『キャンプ桑江北側遺蹟に伴う穴跡調査—伊礼原B遺跡ほか発掘調査事業』北谷町文化財調査報告書 第23集  
 中村恵・東門研治・松原哲志・島袋春美・他 2008『伊礼原B遺跡・伊礼原E遺跡 キャンプ桑江北側遺蹟に伴う発掘調査事業(平成10～14年度)』北谷町文化財調査報告書 第27集  
 \*番号は位置図に付随

## 第Ⅲ章 調査の方法と経過

### 第1節 調査の方法

#### 調査区及びグリッド設定

調査地は、確認調査の結果を踏まえ伊礼原176番地一帯の標高4.0～5.0mの平坦地に定めた。グリッドの設定については平面直角座標系XY（値は世界測地系）を用い、1辺100mの大グリッドと同5mの小グリッドを設定した。グリッド名称は、X軸負方向にアルファベットをA、B、C・・・、Y軸正方向にアラビア数字を1、2、3・・・と充て、両軸交点から南東側とした。

#### 表土掘削

調査区の設定後、磁気探査を実施し機械力を用いて表土掘削を行った。磁気探査では、砲弾葉や鉄屑等、米軍に帰属する金属類が認められた。これら金属類を撤去しつつ、バケット容量0.8m<sup>3</sup>のバックホウと10tダンプにて米軍基地建設時の造成土及び確認調査時の埋土を掘削・運搬した。

#### 包含層掘削及び遺構検出

遺物包含層は、遺物量や出土状況に応じて小形のスコップや手鉋、ねじり鎌を用いて掘削を行った。出土遺物は層位・グリッド毎に取り上げ、特徴的な遺物や一括遺物については実測図作成と写真撮影を行った。遺構検出作業は基本的にジョレンを用いたが、より精査が必要な箇所についてはねじり鎌を用いた。排土はベルトコンベアを使用して場外搬出し、バケット容量0.3m<sup>3</sup>級のバックホウと4tダンプを用いて残土置き場へ運搬した。攪乱土掘削中には磁気探査では探知できなかった小銃弾等も出土したが、これらについては関係部署と調整し自衛隊が回収した。

#### 遺構掘削

土坑や柱穴は基本的に長軸で半裁し、溝は規模に応じて数箇所の土層観察用畔を残し掘削した。掘削には移植ごてやスプーン等を用い、土坑墓については、専門家指導の下、竹串や竹べら等を用いて遺構内遺物を傷つけないよう注意を払い掘削した。一部の遺構埋土については、今後の分析資料用サンプルとして採取した。

#### 記録作業

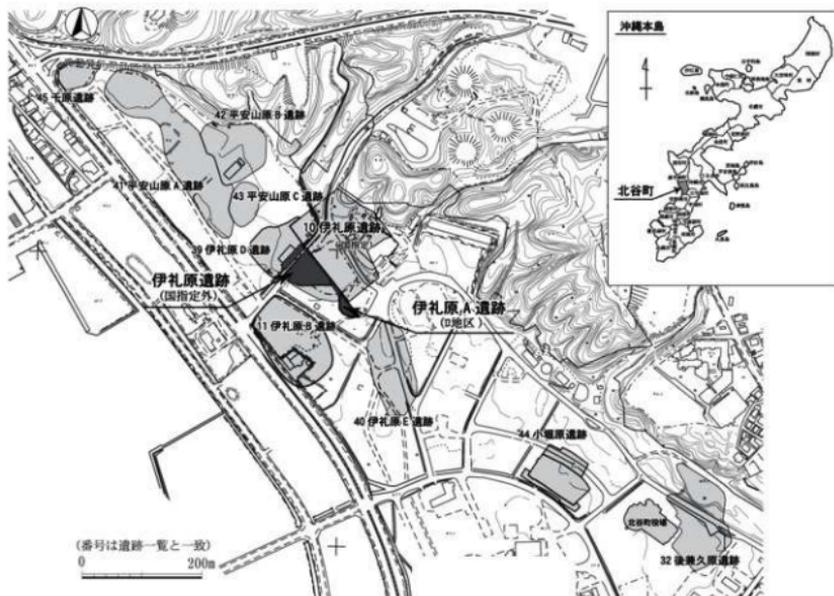
実測図作成は主に写真測量で行い、一部手実測も併用した。写真撮影では、35mm及び6×7のフィルムカメラと、1300万画素のデジタルカメラを用い、フィルムカメラでは、カラーリバーサルを使用した。全景写真は、ブーム式の高所作業車（27m）を使用して検出時と完掘時に撮影を行った。

#### 自然科学分析

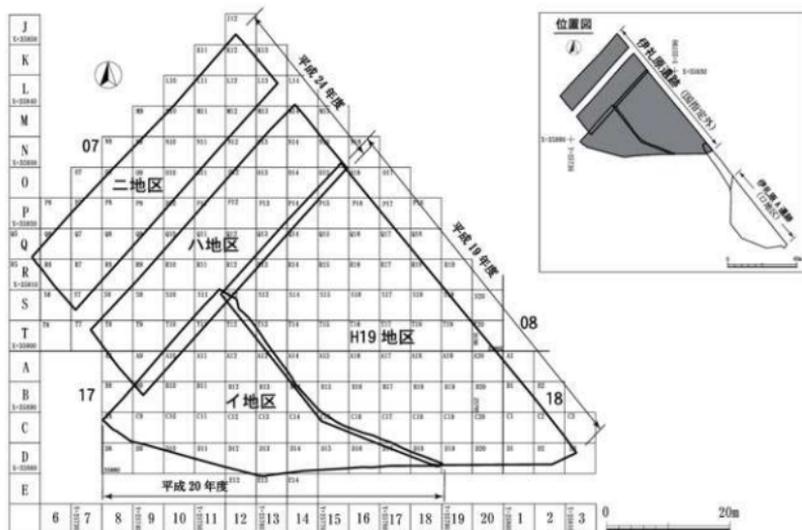
自然科学分析では、伊礼原A遺跡（ロ地区）から採取した土壌サンプル及び木片について、花粉分析、微細物分析、放射性炭素年代測定を専門機関に委託した。分析結果については第Ⅳ章第5節を参照。

#### 整理作業

整理作業では特徴的な遺物を抽出し、手実測及び実測機による実測図面作成を行った。トレースはデジタルトレースを行い、写真撮影では1200万画素のデジタルカメラを用いた。現場作業にて作成した遺構平面図は、全体図のほか個別遺構図を掲載し、現地調査及び整理作業でも判然としなかった不明遺構等については詳細な記述を割愛した。



第5図 キャンプ桑江北側地区の遺跡と伊礼原遺跡・伊礼原A遺跡の位置



第6図 グリッド設定

## 第2節 層序

平成19年度（以下H19地区）と20年度のイ地区、24年度のハ・ニ地区で調査をした伊礼原遺跡（国指定外）の基本層序は6枚に大別される。第Ⅰ層は戦後の造成土。第Ⅱ層は戦前の旧表土。第Ⅲ層はグスク時代から近世にかけての遺物包含層。第Ⅳ層は大当原式土器を主体的に含む貝塚時代後期の遺物包含層。第Ⅴ層は阿波連浦下層式土器及び浜屋原式土器を主体的に含む貝塚時代後期の遺物包含層。第Ⅵ層は貝塚時代後期以前に堆積した無遺物層である。以下、各層について記述し、詳細を第2表に示す。

### 第Ⅰ層 戦後の造成土

戦後米軍により持ち込まれた造成土。厚さは40～100cm程度で非常に硬く締まっている。平成19・20年度調査時の仮Ⅰ層、平成24年度調査時の仮Ⅰ層に該当する。

### 第Ⅱ層 戦前の旧表土

戦前の旧表土で褐色～褐灰色を呈し固く締まる。層厚は20cm程度で調査区一帯に見られる。平成24年度調査区ではカワナや赤色土ブロックを含み粘性シルトを呈す。同層は部分的に下層である第Ⅲ～Ⅴ層を削平している。当該地は戦前、畑となっていたことから耕作土と考えられる。平成19・20年度調査時の仮2層、仮2a層、及び平成24年度調査時の仮Ⅱa層、仮Ⅱb層に該当する。

### 第Ⅲ層 グスク時代から近世にかけての遺物包含層

第Ⅱ層に比べ締りが弱く砂質状になる。層厚は15～20cmで色調は黒色を呈す。調査区の南から西側にかけては第Ⅱ層により削平され薄くなる、もしくは失われている。青磁・褐釉陶器・染付が多く出土するほか、炭化物や焼土粒が混じる。平成19・20年度調査時の仮3層、平成24年度調査時の仮Ⅲ層に該当する。

### 第Ⅳ層 貝塚時代後期の遺物包含層

大当原式土器を主体的に含む黒色砂質土の遺物包含層で、層厚は5～15cm。平成19・24年度の調査区に広く分布する。平成20年度調査区では第Ⅱ層による削平を受け僅かに残る。大当原式土器が一括で出土する他、浜屋原式土器や阿波連浦下層式土器が出土し、特にS18グリッド周辺から多く出土する傾向にある。上面は第Ⅲ層期の遺構検出面となっており、遺構深度は第Ⅳ・第Ⅴ層期の遺物包含層にまで達する。そのため第Ⅲ層期の遺構からは第Ⅳ・第Ⅴ層期の遺物も混在して出土する。平成19・20年度調査時の仮4層、平成24年度調査時の仮Ⅳ層に該当する。

### 第Ⅴ層 貝塚時代後期の遺物包含層

浜屋原式土器を主体的に含む灰色砂の遺物包含層。層厚は5～20cmで平成19・24年度の調査区に広く分布し、平成20年度調査区では第Ⅱ層による削平を受け部分的に残る。阿波連浦下層式土器よりも浜屋原式土器がやや多く出土する。当該期の土器は局所的に出土し、特に第Ⅳ層同様S18グリッド周辺が顕著である。平成19年度調査区の東側では第Ⅳ層との層理面が明瞭であるが、同調査区西側から平成20年度の調査区東側にかけては層理面が判然としない。資料整理時に第Ⅳ・第Ⅴ層出土の土器（大当原）が接合したことは、調査時において平面的な識別が困難であったことを物語っている。平成19・20年度調査時の仮5層、平成24年度調査時の仮Ⅳ層に該当する。

### 第Ⅵ層 無遺物層

層厚10～40cmの粗砂や細砂が東から西へ向かって幾層も堆積する。基本的に無遺物の海成砂層であるが、下層確認調査時に数点の人工遺物が確認されている。中でも完形の石皿が出土したことは特筆される。最下層は石灰質が凝固し、礫や貝片を含む。サンゴ片や礫を多く含む層も認められる。

## 小結

以上が伊礼原遺跡国指定外における基本層序の概要であるが、ここからは本遺跡の立地条件や各層の特徴から遺跡の変遷（第Ⅵ～Ⅱ層）を推察する。

本遺跡は砂丘上に立地し、周囲は北に伊礼原D遺跡、東に国指定史跡伊礼原遺跡、南に伊礼原A遺跡、西に伊礼原B遺跡に囲まれている。本遺跡の北から東側にかけては桑江断層が走り、断層面より東側には標高10～30mの丘陵が広がっている。丘陵麓にはウーチヌカーと呼ばれる湧き水が流れ出、ウーチヌカーの南、本遺跡の東側にはタカアブサーと呼ばれる標高10mの小高い丘陵がせり出している。この小高い丘陵によりウーチヌカーの流末は遺跡よりも北側に向かっているため、本遺跡は河川作用により土砂が運ばれる立地状況とは考えにくい。

今回の調査で確認された最下層にあたる第Ⅵ層は海成砂で構成され、東（丘陵）側から西（海）側にかけて順次堆積している様子が確認された。当該期は海岸付近にて砂丘が形成される環境下にあったものと思われる。なお、第Ⅵ層以下の下層確認のため設けたトレンチを重機で掘り下げた際、数点の人工遺物が見られたが時期を特定することはできなかった。

第Ⅴ層は灰色の砂層を呈し、阿波連浦下層式土器や浜屋原式土器が出土する。19年度調査区の東側には、植物が生えていたと思われる黒い土粒子（調査時所見）を含む第Ⅵ層（仮層序6層）が第Ⅴ層直下にて見られることから、第Ⅴ層期の頃にはやや内陸の環境に推移していた可能性がある。第Ⅴ層出土の遺物は19年度調査区の東側に集中し、面的な広がりは見られない。

第Ⅳ層は黒色砂層を呈し、全調査区のほぼ全面から大当原式土器が出土する。人口が著しく増加したのか、長期に及び当該地を利用したのか判然としないが、土器出土総数は第Ⅴ層期に比べ9倍にもなる。一方、遺構数は少なく、特に住居址と想定されるものは1基も認められなかった。当該期の遺物出土状況は平面的な粗密はあるものの、他時期に比べ多量かつ広範囲に及んでいることから特異な印象を受ける。後述する伊礼原A遺跡（ロ地区）第Ⅳa層にて大当原式土器や貝塚時代前Ⅲ期の土器等が混在して出土することと関連性があるのか検討の余地が残る（第3章第6節2参照）。

第Ⅲ層は黒色の粘質土で、グスク時代から近世にかけての遺物が出土する。当該期の遺構は調査区の東側を除くほぼ全面に広がり、後述する伊礼集落よりも東側に位置している。「伊礼」の名は1713年に編纂された『琉球国由来記』が初出であるが、間切の分割、新間切の創設が相次いだ1660～1670年代（おおよそ1670年代）には伊礼村が成立したと考えられている。今回の調査で確認された遺構群は伊礼集落の前身と考えられ、集落発祥の時期が15世紀代にまで遡ることを確認できたことは考古学的な成果と考えられる。

第Ⅱ層は褐色、黒色を呈する粘質土で近代の遺物が主に出土する。1919（大正8）年の地形図では、第Ⅲ層期の集落よりも更に西（海）側に集落が形成されており、戦前米軍が撮影した航空写真を見ると、第Ⅲ層期の集落があった箇所は畑となっている。当該期には第Ⅴ層に及ぶまでの削平跡が見られることから、近世または近代の頃、大規模な地形改変を行い土地利用が変化した可能性がある。また、時代を経るにつれて集落が西側に移動するという確認調査の結果を迫ってきた。

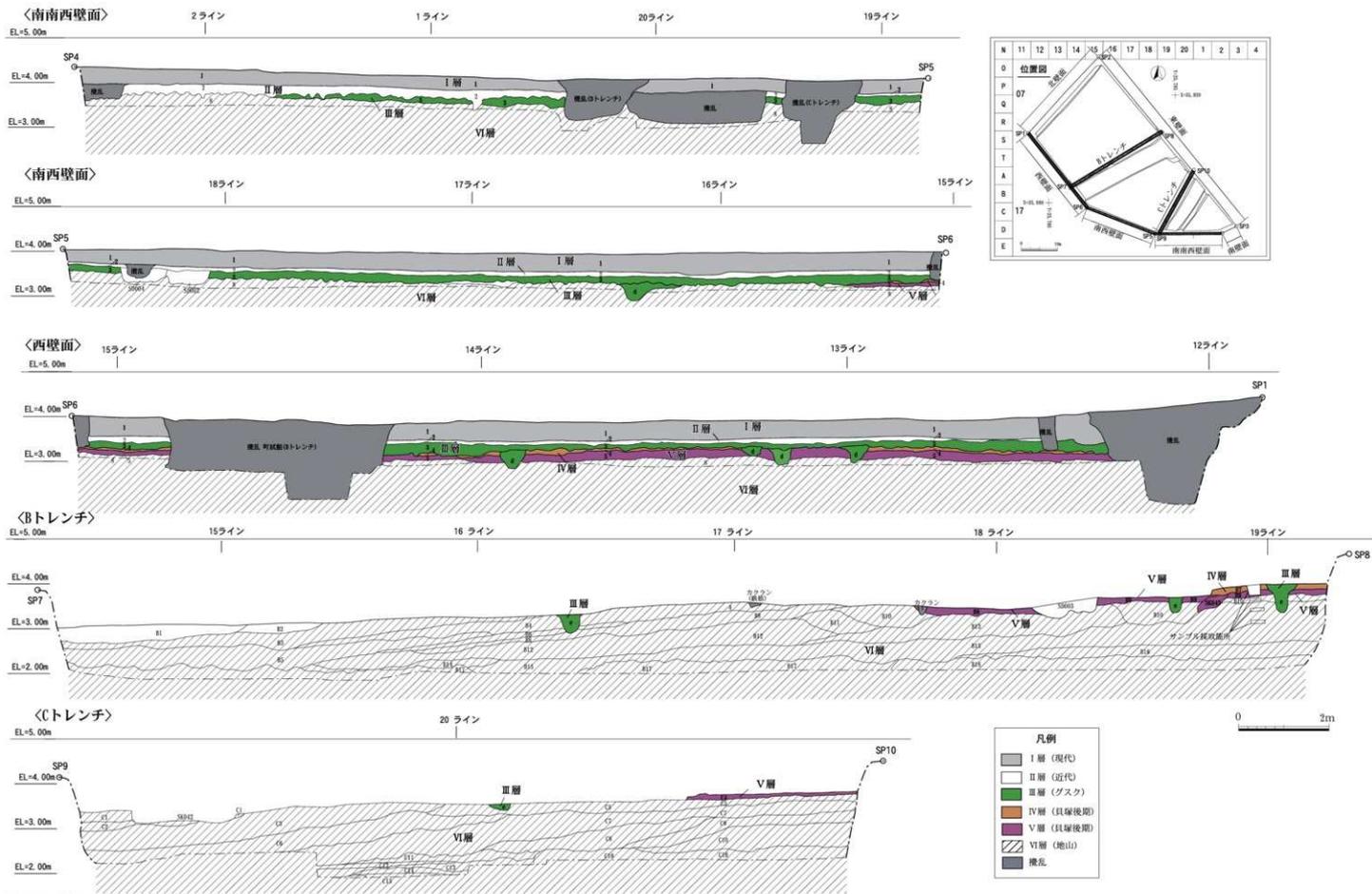
末尾に、戦前は、本遺跡より北側100m付近にナガサと呼ばれる河川が西流していた。戦後、ナガサは米軍によってコンクリート張りに改修・流路変更され、平成23年度の河川改修・流路変更まで本遺跡を横断する場所を流れていた。平成24年度の調査区は同河川の両岸を対象としたが、遺跡の一部は河川工事時に破壊され、工事による掘削は遺構面よりも深い深度に及んでいたことを追記しておきたい。

第2表 層序観察一覧

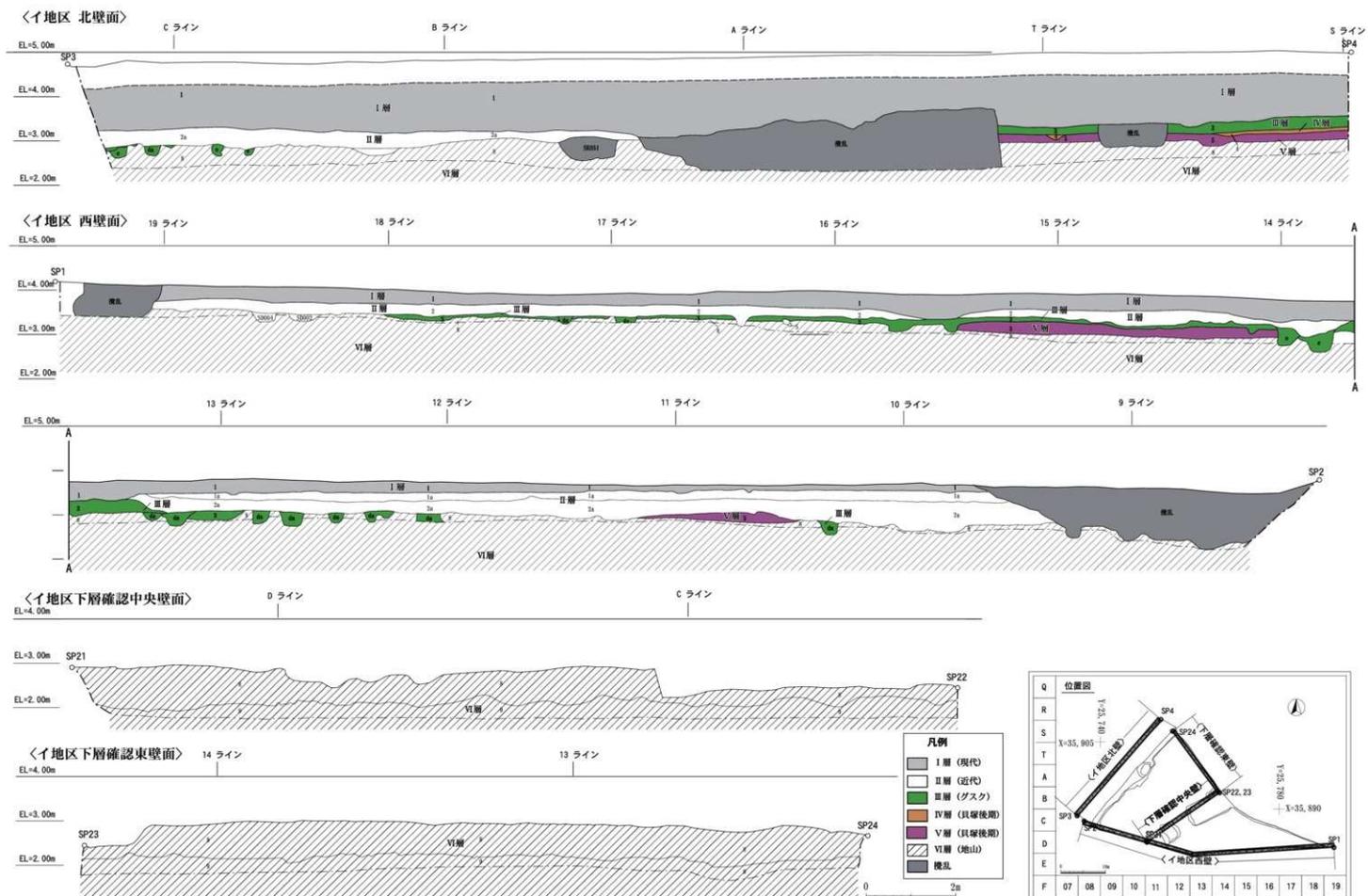
基本層序	調査時における仮層序名称			色調	質	特徴
	19年度 H19地区	20年度 I地区	24年度 ハ・二地区			
I	1	1	I	-	-	造成土 米軍による造成土。
II	2	2	-	7.5Y R 4/3	褐色	粘質土 田表土。
	-	2a	-	2.5GY 2/1	黒色	粘質土 締りがあり全体に小礫が散る。鉄分が帯状に入り、転圧されたような感を受ける。近世陶磁器を多く含むため、近世から近代の耕作土と思われる。
	-	-	IIa	2.5Y 5/3	黄褐色	土 粘性、締りあり。陸産貝、カワノナを含み、赤色土ブロックが混じる。シルト質土塊。近世耕作土。
	-	-	IIb	2.5Y 4/2	オリーブ 褐色	土 IIa層中にIII層由来と思われる黒褐色土がブロック状に混じる。上層耕作活動期の攪拌による堆積層。部分的かつ薄い堆積である。
III	3	3	III	N2/ 1	黒色	粘質土 グスク時代の包含層。粘性、締りあり。近世以降の削平によるものが海側へ堆積が薄くなる。
	d	da	P	7.5Y R 4/4	褐色	砂 ピットの埋土。
	e	e	-	N1.5/1	黒色	砂 ピットの埋土。
IV	4, B7	4	IVa/IVb	N1.5/1	黒色	砂質土 大当原期の遺物包含層。貝を多く含む。東(丘陵)側に厚く、西(海)側につれ見られなくなる。上部はグスク時代に削平されたのか薄い堆積である。
V	5, B9, C4	5	-	5Y 5/1	灰色	砂 浜屋原期の包含層。貝集積や完形土器が出土。
	5a	-	-	10YR 6/4	にぶい 黄褐色	砂 シャコガイ等の貝を多く含む。黒色土ブロックが部分的に混じる。
	5b	-	-	2.5YR 6/4	にぶい 黄色	砂 5a層に色調は類似するが、遺物は混じらない。
VI	B1	-	-	2.5YR 7/6	明褐色	粗砂 貝片、サンゴ片等を多く含む。
	6, B10	-	-	2.5Y R 8/3	淡黄色	砂 海浜の白砂層。上部に植生による黒い土粒子が散る。上部に土器や貝等が散見される。
	7, B2, C1	-	-	2.5Y R 7/6	明褐色	砂 貝片、サンゴ片が多く混じる。Φ5cm程の軽石を含む。
	8, C2	8	-	2.5Y R 8/6	黄色	細砂 砂の粒子が細かく均一である。
	9, B3 B4, C3	9	-	5Y R 8/3	淡褐色	砂 貝片、サンゴ片を多く含む赤みを帯びる。
	B5, C5	-	-	2.5Y R 8/2	灰白色	砂 貝、サンゴ、礫が全体に散る。
	B6	-	-	5Y R 8/3	淡褐色	砂 Bトレンチ4層と同質だがやや粒子が粗い。
	B8	-	-	5Y R 8/3	淡褐色	砂 粒子が粗く、遺物を含まない。
	B11	-	-	5Y 8/2	灰白色	細砂 貝やサンゴの混じりが少なく、砂の粒子が細かい。Bトレンチ10層による影響かやや黄色がかかる。
	B12	-	-	5Y 8/2	灰白色	細砂 貝やサンゴの混じりが少なく、粒子が細かい。
	B13	-	-	2.5Y R 8/2	灰白色	砂 Bトレンチ11層より更に粒子が細かい。
	10, C6	10	-	2.5Y R 8/4	淡黄色	砂 小型の二枚貝や枝サンゴ片が全体に見られる。
	C7	-	-	2.5Y R 8/1	灰白色	砂 貝、サンゴ、礫が全体に散る。
	C8	-	-	2.5Y R 8/2	灰白色	砂 Cトレンチ7層と同様だがやや粒子が細かい。
11, C9	-	-	5Y R 8/2	灰白色	細砂 貝やサンゴ等の混じりが少ない。	
B14, C13	-	-	7.5Y R 5/8	明褐色	粗砂 鉄分の沈着が著しい層。同層付近より湧水が始まる。	
B15	-	-	5Y 8/1	灰白色	砂 調査区東側は粒子が細かな砂だが西側に行くにつれ粗くなり、小石が混じる。	
12, B16, C10	-	-	5Y 8/1	灰白色	砂 貝、サンゴが全体に混じる。	
13, B17, C11	-	-	2.5Y R 7/3	淡赤褐色	岩 手でほぐすことのできる程度の強度だが石灰質が凝固し、岩状になっている。	
C12	-	-	10GY 7/1	明緑灰色	シルト 所々に黄色砂が塊状に入る。	
C14	-	-	10GY 7/1	明緑灰色	シルト 所々に黄色砂が塊状に入る。	
C15	-	-	7.5Y R 5/8	明褐色	粗砂 拳大の礫が混じる。	
B18, C16	-	-	2.5Y R 7/3	淡黄色	粗砂 Φ5cm程度の礫や貝片を多く含む、所々石灰質が凝固している。	

上記の表は、平成19、20、24年度の調査時の仮層序名を対比させ、基本層序としてまとめたものである。仮層序名は、層序図面との対比ができるよう図中にも残している。表中の「B」はBトレンチを、「C」はCトレンチ内の仮層序名を示す。



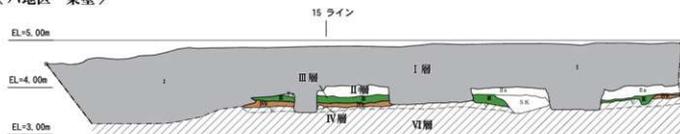


第8図 層序2 (南南西・南西・西壁面 B・Cトレンチ)

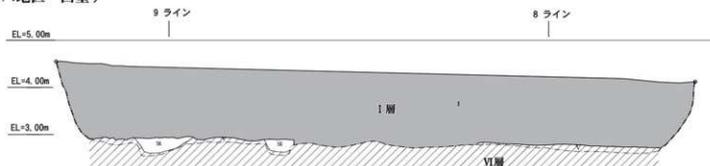


第9図 層序3 (イ地区北壁・西壁・下層確認中央壁・下層確認東壁面)

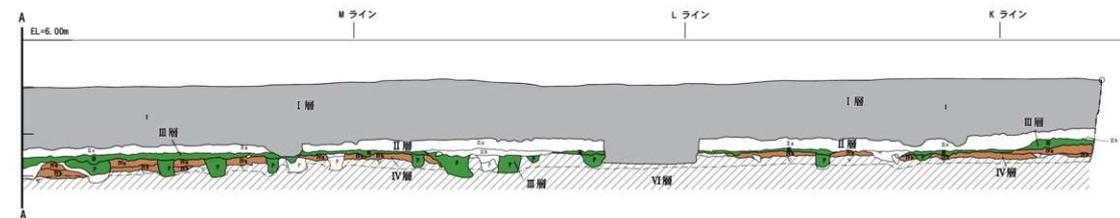
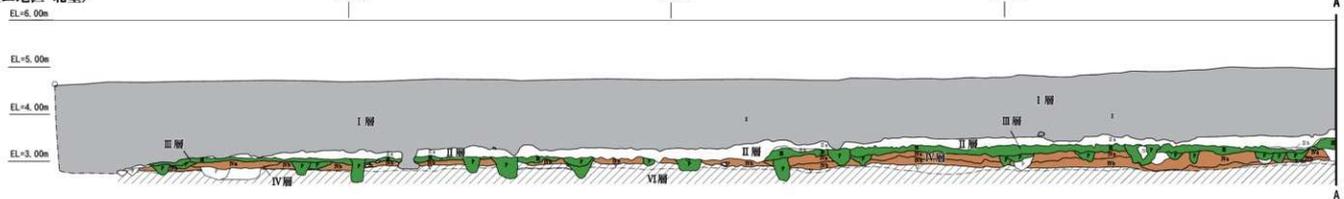
〈八地区 東壁〉



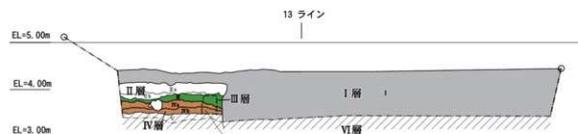
〈八地区 西壁〉



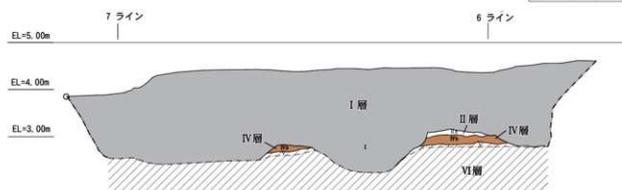
〈二地区 北壁〉



〈二地区 東壁〉



〈二地区 西壁〉



第10図 層序4 (八地区東壁・西壁 二地区北壁・東壁・西壁)





## ・出土遺物について

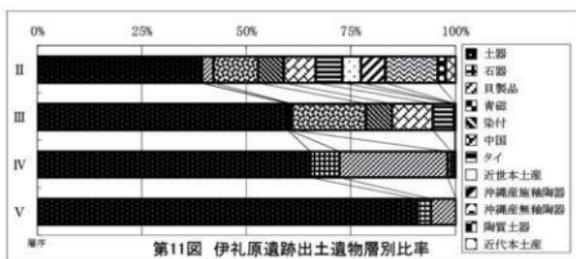
以上、第Ⅰ層（戦後の造成土）、第Ⅱ層（戦前の旧表土）、第Ⅲ層（グスク時代～近世）、第Ⅳ層（貝塚時代後期）、第Ⅴ層（貝塚時代後期）について略述した。

これらの出土遺物（人工遺物）の集計を第3表にまとめた。出土遺物は12357点と膨大であり、地区別にはH19地区4590点、イ地区1075点、ハ地区3924点、ニ地区2663点で、H19地区が全体の37.1%を占め、次にハ地区の31.8%、ニ地区21.2%、イ地区8.7%となる。

これらの遺物包含層をみると戦後の米軍基地建設、戦後の耕作による造成による攪乱で近世・グスク時代の遺物包含層及び遺構も壊され、さらに近世・グスク時代の建物（溝状遺構や土坑、ピット群など1000ヶ所余）によって貝塚時代後期の遺物包含層も壊されている。しかし、貝塚時代後期層（第Ⅳ層）では貝集積や土器集中、骨集中など復元可能な土器が数個体と大部分は遺物包含層の残りは良いようである。

前述の全体集計から各時代を代表する器類の層別に変遷（第11図）が確認された。

以上の結果から遺構・遺物については、第3節貝塚時代後期、第4節グスク時代（近世含む）第5節近世～近・現代の順に構成し記述した。さらに、既に報告した小堀原遺跡（2012）、伊礼原D遺跡（2013）の成果を踏まえ、沖積低地（砂丘）における面的変遷（陸側から海側）に着目し、各遺物の平面分布も各々の項で示した。



第11図 伊礼原遺跡出土遺物層別比率

## 第3節 貝塚時代後期

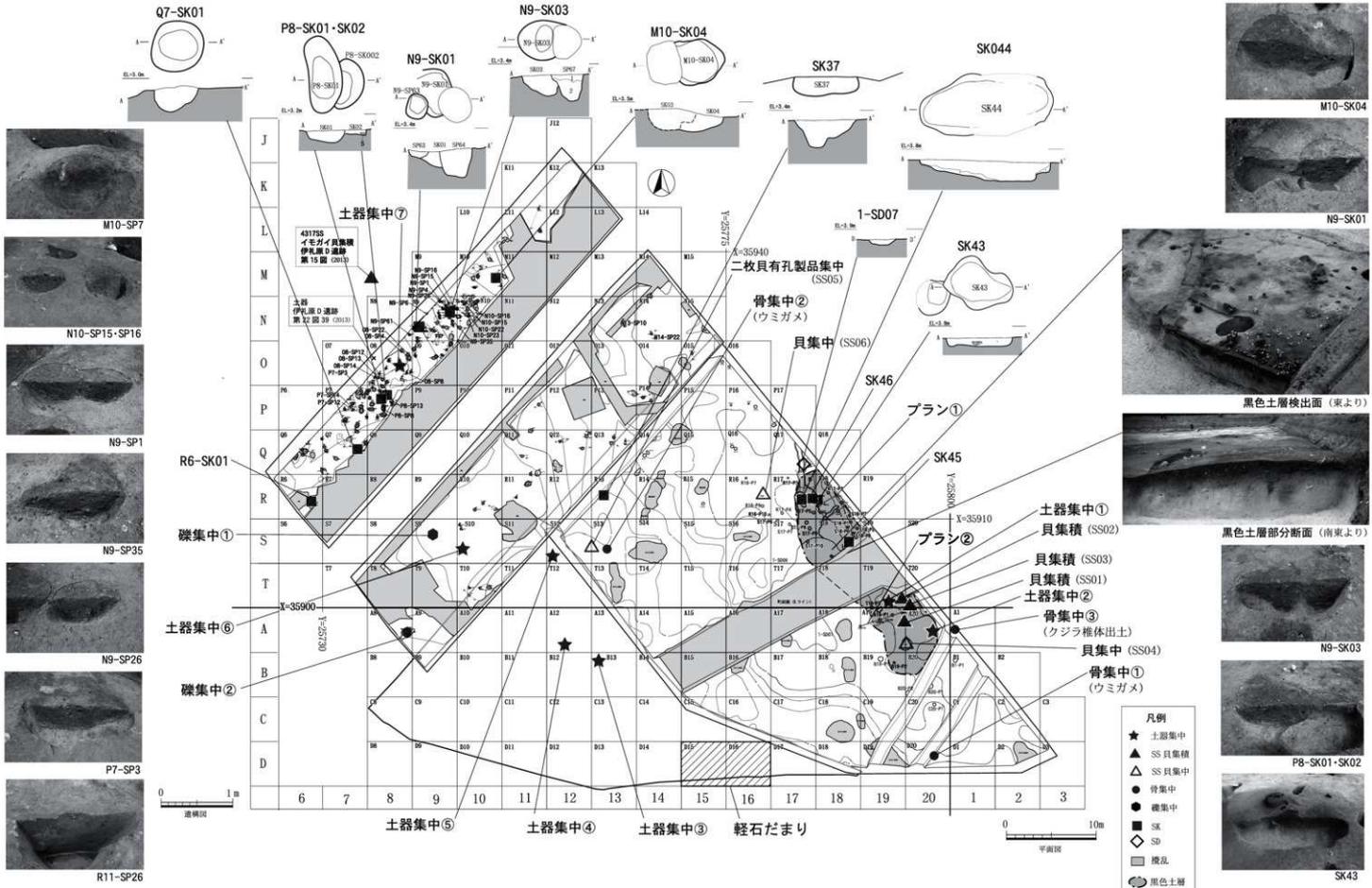
### 1. 遺構

貝塚時代後期の遺構はSD 1ヶ所、SK12ヶ所、ピット群、人骨出土遺構、貝集積（SS01, SS02, SS03）3基、二枚貝有孔製品集中（SS05）、遺物集中部としては土器集中（7ヶ所）、貝集中（SS04, SS06）2ヶ所、骨集中3ヶ所、礫集中2ヶ所、軽石だまりが確認された。以下、各々について略述する。また取上遺物については、第11表に示し、各々遺物でふれた。

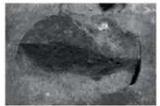
#### （1）溝状遺構

貝塚時代後期の溝状遺構(SD)はQ・R17で1ヶ所確認されている(第13図)。SD07で、長さ6.0m、幅0.8m、深さ0.15mの南北方向に伸びるものであるが、R17で米軍の攪乱(SK22)を受ける。ここから南側は黒色土のマウンドを形成する。その南端にはSK44あり、SD07の溝状遺構は判然とせず、消える。図版2で見られるようにR18のマウンド状に形成された混砂層の縁にあたり、埋土はその黒砂を含んでいる。SD07は黒色土のマウンドの斜面に当たり、この砂が埋土として堆積したと判断される。

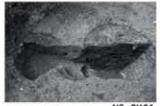
また、マウンドの土からは貝符(第79図16) その下面からはピットも検出されており、そのうちプランの想定が可能な柱穴も含まれていることから貝塚時代後期の遺構の可能性が示唆される。SD07の出土遺物はⅡ群Ⅳ類土器の胴部が5点、イノシシ腓骨が出土している。



第12図 第IV層検出遺構及び遺物集中部



M10-SK04



N9-SK01



黒色土層検出面 (東より)



黒色土層部分断面 (南東より)



N9-SK03



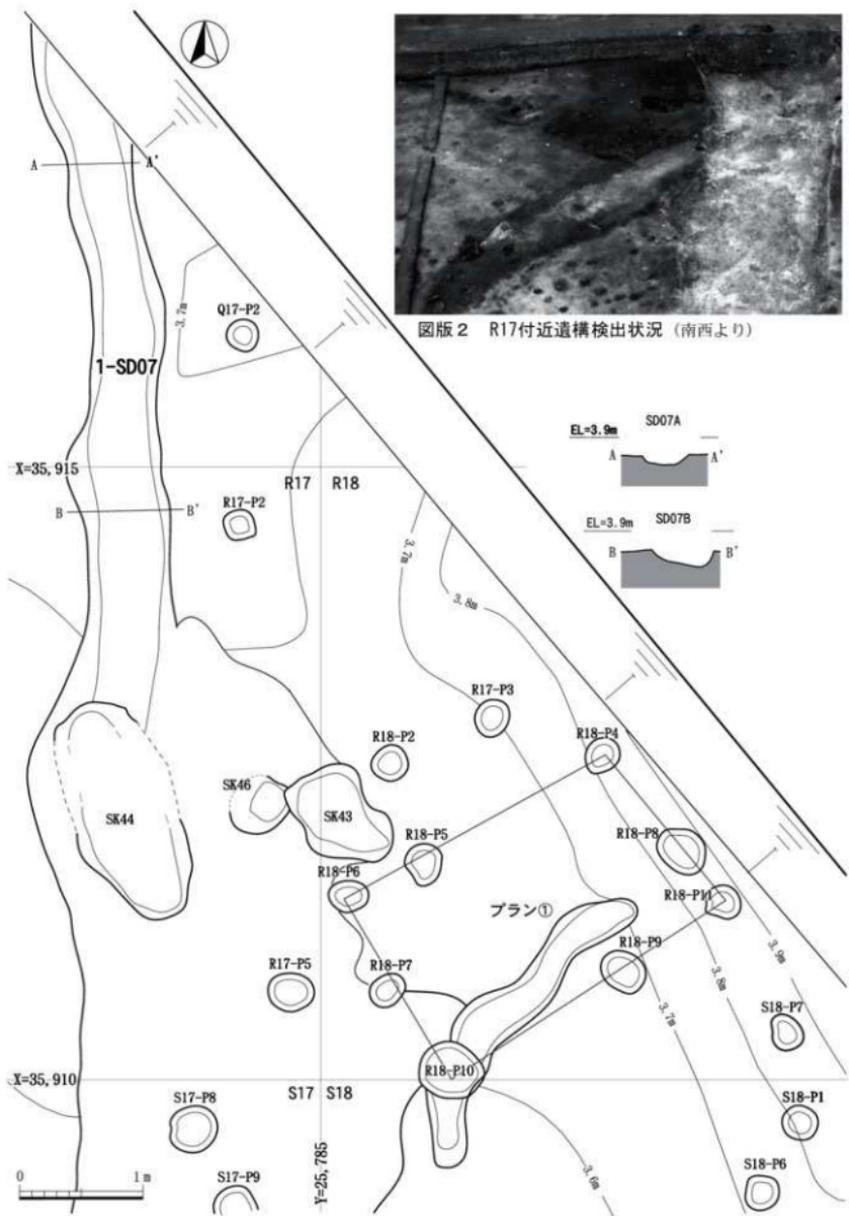
P8-SK01-SK02



SK43

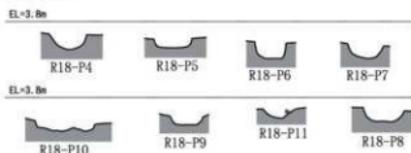


図版2 R17付近遺構検出状況（南西より）

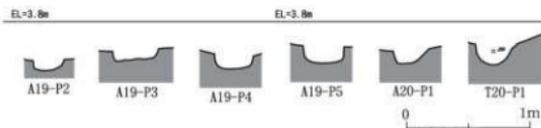
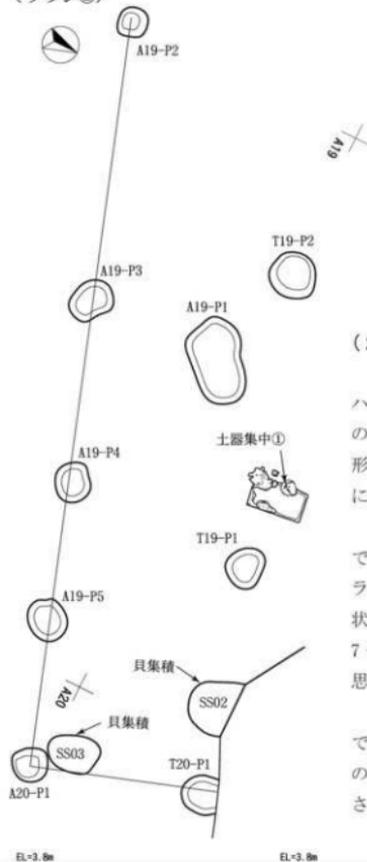


第13図 溝状遺構SD07 (Q-R17)

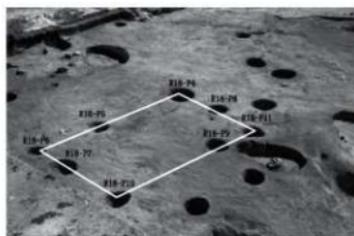
〈プラン①〉



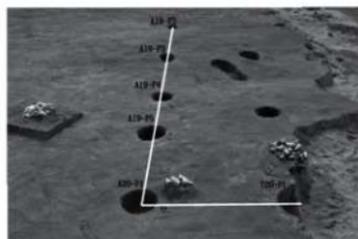
〈プラン②〉



第14図 貝塚時代後期柱穴 (プラン①断面 プラン②平面・断面)



図版3 プラン①R18 (北より)



図版4 プラン②A19 (北東より)

(2) ピット群

直径19cm～98cm、深さは4～45cmで、H19地区で57本、ハ地区で4本、ニ地区で75本の計136本検出された。ピットの大きさと深さの相関関係を第4表、柱穴の平面形と断面形の相関関係を第5表、ピット(柱穴)計測一覧を第6表に示した。

プランの想定できるものはH19地区で、①と②のプランで、第14図に①の柱穴断面、②の平面・断面を示した。プラン①(第13図)はR18の南側に長さ2.65×幅1.75mの方形状を呈するものである。柱穴の大きさは29～55cm、深さは7～13cmで若干浅めで、第IV層面の掘りすぎに起因すると思われる。

プラン②はA19・20で大きさが25～40cm、深さ8～14cmで、柱穴が東西方向に6.1mの直線に並んで確認された。その反対側の対となる部分はH14年試掘(2007)柱穴が検出されているが、プランとの関係は明瞭でない。このプラン

を想定するとほぼ中央に土器集中①が配置され、東側には貝集積(SS02, SS03)が配される。貝集積が住居遺構の関連で検出された例としては、具志堅貝塚(1985)がある。

遺構の性格から今後の検討を要する遺構である。

柱穴が多く、想定されるプランもH19地区に限られることからプランの想定が難しいハ・ニ地区の柱穴の断面図を第15図に示した。以下、本時期の柱穴の特徴を略述する。

これによると柱穴の大きさは20～30cm、深さ10～15cmが最も多く、それを中心に徐々に少なくなる。柱穴の形状は円形あるいは楕円形が主で、断面の形状は「U」「V」字状が多い。不定形が多いのはN9-SP34・SP35・SP36、N10-SP21・SP22・SP23のようにグスク時代あるいは貝塚時代後期の柱穴が重なって検出されたためである。

柱穴の平面分布をみるとH19地区ではプラン①のあるR17・18付近、プラン②のA19付近、その次にQ14付近があげられる。ハ地区ではN13・14・P14の陸側に多く、ニ地区では75本と最も多く、その中でも土器出土が多いN19-15本、08-14本、P8-11本と多いことから伊礼原D遺跡の柱穴群と含めて貝塚時代後期の遺構が想定されるが、上位にグスク時代のピットも含めて集中度が高く、プランの想定には至らなかった。この地域はIV類土器（大当原式土器）を主体とする地域で前述のプラン①・②がII類土器（浜屋原式土器）であることから本遺跡では浜屋原式期と大当原式期の生活空間の時期差が確認された。

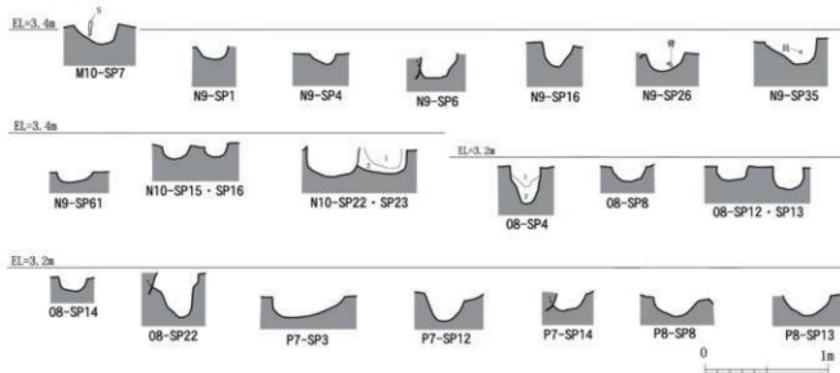
第4表 貝塚時代後期柱穴大きさ比較

深さ 平面径 (cm)	1～5	6～10	11～15	16～20	21～25	26～30	31～35	36～40	41～45	合計
16～20			2	1						3
21～25	1	6	3	3		1	1			10
26～30		7	15	8	6	1				37
31～35		3	9	6	3	1	2	1		25
36～40		2	3	5	1	3	4	2		20
41～45		1	3	1	2					7
46～50		1	2	4	3					11
51～55		1	1	1						4
56～60				3	1	1		1		6
61以上		2		1	1	1				5
合計	1	23	38	33	17	8	9	4	2	135

第5表 貝塚時代後期柱穴の形状

断面 形状	U	V	楕円形	歪円形	すり鉢	二段	不定形	不明	合計
不定形	4		2	1			2	1	10
円形	45	12	3	1	11	6	4	2	84
楕円形	2								2
すり鉢	20	5	2	1	1	3	3		35
方形	1						1		2
合計	72	17	5	2	13	9	10	3	134

〈ニ地区〉



第15図 貝塚時代後期柱穴（ハ・ニ地区）

第6表 ピット(柱穴) 計測一覧

柱穴No.	地区	平面形状	断面形状	表口(深さ)	掘削(深さ)	深さ(深さ)	遺物	柱穴No.	地区	平面形状	断面形状	表口(深さ)	掘削(深さ)	深さ(深さ)	遺物
319-01	旧市	不家形	直	70	42	6	自然瓦	319-029	旧市	不家形	直	34	23	12	
319-02	旧市	円形	直	25	25	9	ブロンズ	319-030	旧市	円形	直	28	27	20	土器(須賀焼)-自然瓦
319-03	旧市	隅丸方形	直	65	31	9	ブロンズ	319-031	旧市	楕円形	直	27	29	16	土器(須賀焼)-377(鹿耳焼)-自然瓦
319-04	旧市	隅丸方形	直	31	29	11	ブロンズ	319-036	旧市	不明	不家形	49	3	14	自然瓦
319-05	旧市	楕円形	直	35	30	14	ブロンズ・土器(鹿耳)-自然瓦	319-038	旧市	不家形	不家形	38	28	27	自然瓦
319-06	旧市	円形	直	20	20	11	ブロンズ	319-041	旧市	円形	直	30	24	8	土器(須賀焼)
319-07	旧市	円形	直	56	36	23	榎木-自然瓦	319-042	旧市	円形	直	34	27	19	土器(須賀焼)-自然瓦
319-08	旧市	不家形	直	23	23	13	自然瓦	319-046	旧市	円形	不家形	24	27	10	土器(須賀焼)
319-09	旧市	不家形	直	48	23	18		319-047	旧市	円形	直	21	27	10	土器(須賀焼)-自然瓦
319-10	旧市	不家形	不家形	53	25	17		319-048	旧市	円形	直	26	28	8	土器(須賀焼-VI焼)-G1(須賀)-ベトナム産(須賀)-自然瓦
319-11	旧市	楕円形	直	80	53	41	土器(土V焼)	319-049	旧市	円形	直	29	26	13	自然瓦
319-12	旧市	楕円形	直	30	23	15	自然瓦	319-050	旧市	円形	直	22	18	10	土器(須賀焼)-自然瓦
319-13	旧市	楕円形	直	35	29	22	自然瓦	319-052	旧市	円形	直	27	23	24	榎木焼(須賀)-自然瓦
319-14	旧市	円形	直	26	25	17	自然瓦	319-053	旧市	円形	直	30	23	20	土器(須賀焼)-G1(土製赤-須賀赤)-自然瓦
319-15	旧市	円形	直	24	22	17		319-054	旧市	円形	直	24	18	13	土器(須賀焼)-自然瓦
319-16	旧市	円形	直	20	20	11		319-055	旧市	円形	直	29	27	30	自然瓦
319-17	旧市	楕円形	不家形	52	40	32	土器(須賀焼)-須賀(イノシロップ)須賀-自然瓦	319-056	旧市	円形	直	29	26	13	土器(土V焼)-自然瓦
319-18	旧市	不家形	直	98	68	9		319-059	旧市	円形	二級鉄	29	28	9	
319-19	旧市	楕円形	直	43	40	13		319-060	旧市	円形	不家形	36	25	13	
319-20	旧市	楕円形	直	50	30	7		319-061	旧市	楕円形	直	24	21	6	
319-21	旧市	不家形	逆舟形	60	27	18	自然瓦	319-062	旧市	円形	直	26	23	18	
319-22	旧市	円形	直	27	25	21	自然瓦	319-063	旧市	円形	直	30	26	13	ブロンズ(須賀)-自然瓦
319-23	旧市	円形	二級鉄	40	34	23	自然瓦	319-064	旧市	円形	直	27	25	12	土器(須賀焼)-自然瓦
319-24	旧市	円形	直	29	25	23	自然瓦	319-065	旧市	円形	直	32	31	23	土器(土V焼)
319-25	旧市	不家形	逆舟形	140	38	11	土器-榎木-自然瓦	319-067	旧市	円形	直	27	24	20	自然瓦
319-26	旧市	円形	直	25	25	9	自然瓦	319-068	旧市	円形	直	32	34	20	自然瓦
319-27	旧市	楕円形	逆舟形	23	26	7		319-069	旧市	円形	直	32	34	20	自然瓦
319-28	旧市	円形	直	30	24	22	貝製品(須賀)G10	319-070	旧市	円形	直	33	31	12	自然瓦
319-29	旧市	円形	直	33	30	10		319-071	旧市	円形	不家形	69	40	24	土器(須賀焼)-ベトナム産(須賀)-自然瓦
319-30	旧市	楕円形	直	62	32	13		319-072	旧市	楕円形	直	29	28	10	二枚貝有孔製品(G10)-自然瓦
319-31	旧市	円形	直	29	27	11		319-073	旧市	円形	直	27	26	10	土器(須賀焼)-自然瓦
319-32	旧市	円形	直	30	28	17	骨組(須賀+須賀G10)77・榎木-自然瓦	319-074	旧市	円形	直	34	32	11	土器(須賀焼)-自然瓦
319-33	旧市	楕円形	直	29	25	13	ブロンズ	319-075	旧市	円形	直	43	43	23	自然瓦
319-34	旧市	楕円形	直	33	30	7	ブロンズ	319-076	旧市	円形	直	32	29	21	自然瓦
319-35	旧市	楕円形	直	35	27	14	ブロンズ	319-077	旧市	円形	有蓋鉄	47	41	31	
319-36	旧市	楕円形	直	30	28	11	ブロンズ	319-078	旧市	楕円形	直	30	27	30	
319-37	旧市	楕円形	直	45	32	10	ブロンズ	319-079	旧市	円形	直	30	24	21	土器(土V焼)-榎木焼(須賀)-自然瓦
319-38	旧市	楕円形	直	29	25	7	ブロンズ	319-080	旧市	円形	直	23	22	16	
319-39	旧市	楕円形	不家形	55	48	7	ブロンズ	319-081	旧市	楕円形	直	40	35	18	
319-40	旧市	円形	直	29	27	9	ブロンズ	319-082	旧市	楕円形	有蓋鉄	56	40	20	土器(須賀焼)-自然瓦
319-41	旧市	楕円形	不家形	55	48	7	ブロンズ	319-083	旧市	円形	直	34	30	34	土器(須賀焼)-自然瓦
319-42	旧市	楕円形	不家形	55	48	7	ブロンズ	319-084	旧市	楕円形	直	47	38	25	土器(須賀焼)-自然瓦
319-43	旧市	楕円形	直	42	35	19	自然瓦	319-085	旧市	円形	直	22	24	20	自然瓦
319-44	旧市	楕円形	直	60	33	11		319-086	旧市	円形	直	30	26	22	二枚貝有孔製品(G10)77(土製赤)自然瓦
319-45	旧市	円形	直	33	30	36	土器(須賀焼)-貝製品-自然瓦	319-087	旧市	楕円形	直	26	23	14	
319-46	旧市	円形	直	28	25	23	自然瓦	319-088	旧市	楕円形	直	24	27	19	
319-47	旧市	円形	直	36	36	21		319-089	旧市	楕円形	直	40	41	18	自然瓦
319-48	旧市	不家形	直	50	45	20	自然瓦	319-090	旧市	楕円形	直	30	24	19	石製(土石)
319-49	旧市	円形	直	30	29	12	自然瓦	319-091	旧市	円形	直	34	30	19	自然瓦
319-50	旧市	円形	直	28	27	13		319-092	旧市	円形	直	34	30	19	自然瓦
319-51	旧市	楕円形	直	31	25	12		319-093	旧市	円形	直	23	20	18	土器(須賀焼)-自然瓦
319-52	旧市	不家形	直	30	23	19		319-094	旧市	円形	直	30	26	11	自然瓦
319-53	旧市	円形	直	34	32	24	土器(須賀焼)	319-095	旧市	円形	直	30	26	11	自然瓦
319-54	旧市	円形	直	39	28	20	土器(須賀焼)	319-097	旧市	円形	二級鉄	62	24	24	土器(土V焼)-自然瓦
319-55	旧市	不家形	直	53	30	18	貝製品	319-098	旧市	楕円形	二級鉄	48	41	16	土器(須賀焼-鹿耳)-自然瓦
319-56	旧市	楕円形	二級鉄	40	38	32	土器(須賀焼)-自然瓦	319-099	旧市	楕円形	逆舟形	51	20	13	自然瓦
319-57	旧市	楕円形	直	40	27	18	土器(須賀焼)-自然瓦	319-100	旧市	楕円形	直	23	29	25	
319-58	旧市	楕円形	直	31	23	13		319-101	旧市	楕円形	直	32	26	16	土器(土V焼)-自然瓦
319-59	旧市	楕円形	直	32	30	12		319-102	旧市	楕円形	直	33	29	12	
319-60	旧市	円形	直	27	24	10	土器(須賀焼)-自然瓦	319-103	旧市	楕円形	直	37	31	28	
319-61	旧市	円形	不家形	19	19	12	G10(須賀)-自然瓦	319-104	旧市	楕円形	直	28	26	12	
319-62	旧市	円形	直	29	27	6	土器(須賀焼-VI焼)-自然瓦	319-105	旧市	楕円形	直	45	34	21	自然瓦
319-63	旧市	円形	直	30	9	17	土器(須賀焼)	319-106	旧市	楕円形	不家形	52	33	26	自然瓦
319-64	旧市	円形	直	23	22	9	土器(須賀焼)	319-107	旧市	楕円形	直	26	26	13	自然瓦
319-65	旧市	円形	直	25	25	18	土器(土V焼)	319-108	旧市	楕円形	直	39	32	27	
319-66	旧市	円形	直	31	29	17	土器(須賀焼-VI焼)-二枚貝有孔製品(G10)77(土製赤)-自然瓦	319-109	旧市	楕円形	直	39	45	26	土器(須賀焼)-石製(須賀)-自然瓦
319-67	旧市	楕円形	直	27	26	13	G10(須賀)-自然瓦	319-110	旧市	楕円形	直	33	26	25	

### (3) 土坑 (SK)

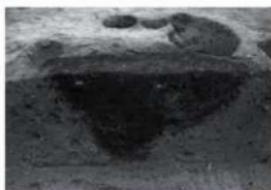
ピットよりは大きい落ち込みを便宜上、土坑 (SK) として扱った。H19地区で5ヶ所、ニ地区で7ヶ所確認された。平面形は円形、楕円形、長方形、断面形は「U」字状、二段状、鍋底状、不定形があり、大きさは31cm～120cm、深さは5cm～50cmと幅がある。

出土遺物を見るとN9-SK01・SK03、P8-SK01、Q7-SK01からは各々、青磁や白磁 (第105図10) 褐釉陶器、焼土、R17・18-SK43ではウシorウマの肋骨など、グスク時代の遺物が検出され、攪乱を受けか、あるいはグスクの遺構の可能性も否定できない。しかし、埋土が暗灰色砂～白色砂が主であるため貝塚時代後期の遺構として扱った。大きさや形状からみるとP8-SK02は深さが5cmと浅く、遺構の可能性は低い。

以上、出土遺物や他の遺構との関連からこれらの土坑をみると貝塚時代後期の可能性が高いのはR17-SK44、S18-SK45、R17-SK46、M10-SK04、R6-SK01と思われる。しかし、他の遺構との関連ははっきりしない。

第7表 土坑観察一覧

トリット' 遺構名	地区	サイズ (cm)			平面形状	断面形状	遺物	概要説明 (埋土・切り合い等)
		長軸	短軸	深さ				
R13-SK37	H19	(80)	(20)	38	不明	二段状	軽石 (2)	米軍の埋設トレンチに切られている。埋土 (灰色粘質土) の状況から貝塚後期としたが明確でない。
R17・18-SK43	H19	97	75	11	楕円形	U	ウシorウマの肋骨、ウシorウマの肋骨など	暗灰色砂。検出面にて炭が出土、底は平坦である。
R17-SK44	H19	86	78	28	不明	方形	熊り方より鉄塊 (糧品)、自然貝	米軍攪乱により切られ、形状は判然としない。白砂に黒色砂が混入している。
S18-SK45	H19	120	60	20	楕円形	—	貝、土器、軽石。	暗灰色砂。
R17-SK46	H19	52	35	35	円形	—	—	暗灰色砂。SK22に切られる。
M10-SK04	ニ	63	62	26	楕円形	鍋底	—	白砂主体だが、ブロック状に黒色砂が混入する。
N9-SK01	ニ	68	35	40	円形	—	タイ巻軸 (蓋・胴)、焼土2点	黄褐色土砂子が混入。掘方不明瞭。P63に切られる。
N9-SK03	ニ	56	54	29	円形	U	青磁 (蓋・胴)、石材、ウシorウマの肋骨甲or青甲、土器	黒細貝片、軽石。P67に切られる。
P8-SK01	ニ	108	46	17	長方形	鍋底	自然貝、青磁 (蓋・口)。	炭化物、貝片混入。灰黄褐色砂層。部分的に粘性あり。SK2を切る。
P8-SK02	ニ	69	31	5	円形	方形	自然貝、石材。	黄土ブロック少量混入。灰黄褐色砂。掘方不明瞭。SK1に切られる。
Q7-SK01	ニ	72	71	33	円形	U	自然貝、獣骨青磁 (碗)、白磁 (碗口第105図10)	貝片混入。黒褐色砂層。掘方不明瞭。グスク時代可能性有。
R6-SK01	ニ	99	91	50	楕円形 (半楕)	—	二枚貝有孔製品 (R+42) 自然貝、土器、骨片	1層: 貝片、軽石が混入。灰黄褐色砂層。 2層: 北西側が一部攪乱を受ける。セメント土を上下で採取。



R13-SK37



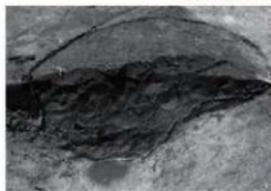
R17・18-SK43



R17-SK44



S18-SK45



Q7-SK01



R6-SK01

図版5 土坑

#### (4) 人骨出土遺構 (SX01)

イ地区A11で長軸78.8cm×47.5cm、深さ12cmSX01が検出され、その中から1号人骨が確認された。頭部を北向き、体部は後述するグスク時代の柱穴で壊され、南縁で左大腿骨が検出された。グスク時代の柱穴はSX01のほぼ中央に48.8cm×31.3cm、深さ約25cmを測り、その真ん中に長さ20cm×厚さ10cmの砂質石灰岩が北側を高くして斜めに出土した。検出位置は土坑及びグスク時代の柱穴のほぼ真ん中で、時期を決定するのは困難である。しかし、頭骨方向を高く、四肢骨方向に沿うように低くなることから、貝塚時代後期の人骨に伴うものと思われる。伸展葬で中央に石を伴うもので、埋葬遺構と判断される。

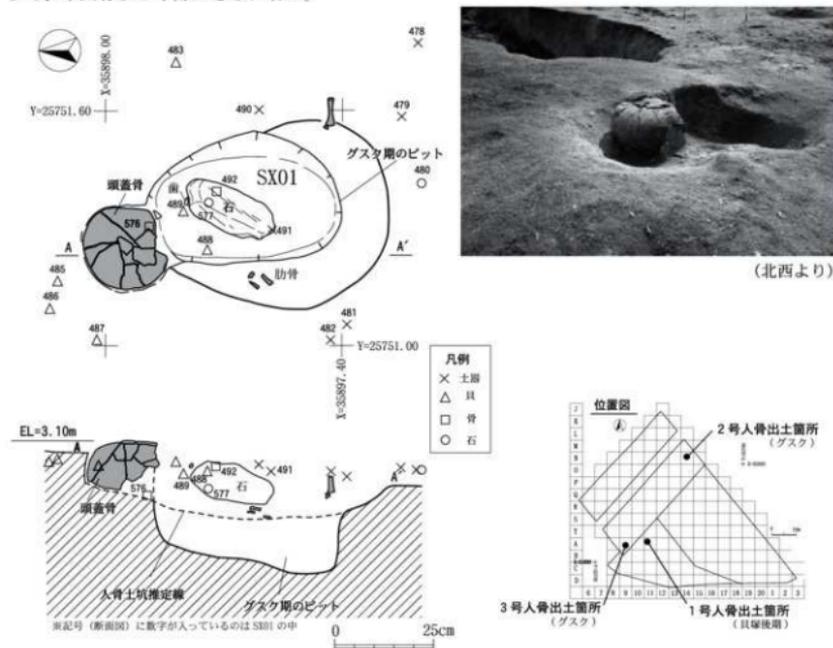
体部に石を伴う幼児骨はグスク時代の後兼久原遺跡(2003)、小堀原遺跡(2012)で検出されている。本遺構はこれらの遺跡より古時期からこのような事例があったことが確認された。

人骨は土肥氏の所見によると頭骨・左大腿骨・歯・肋骨等が確認され、年齢も大腿骨の大きさから幼児ということがわかった(第IV章参照)。

貝塚時代後期遺構としては土器集中④・⑤・⑥があるが、全体的に本遺構の周辺は貝塚時代後期の遺物は少ない(第35図)ようである。

本周辺からはIV類土器や尖底、自然遺物としてはヒメジャコ、シラナミ、マガキガイ、サンゴ礁、フエフキガイが出土し、その標高は人骨検出面のEL2.9cm(第11表)である。

グスク時代柱穴は第4節に示したように特にプランの想定される柱穴ではない。また、ハ地区からはグスク時代の幼児の埋葬土坑(第91図)が検出され、掘立柱建物想定プランに近接しているようで、本人骨より年齢はさらに若い。



第16図・図版6 1号人骨出土状況SX01 (A11)

## (5) 貝集積

ゴホウラ、大型イモガイなどのいわゆる貝集積遺構が3基確認された。

検出された場所は調査区の東側、A19～20 (SS01)、T19 (SS02)、T20 (SS03) で、3ヶ所の距離はSS01とSS02間で約2.8m、SS01とSS03間で2.1m、SS02とSS03間で1.1mと近く、土器平面分布(第37図)でみるとⅡ類(浜屋原式土器)が主体をなす地域で検出されている。

以下、各々の遺構について、図と集積された貝の計測及び観察を第8表、個別の貝の写真を図版10に示す。なお、第17～19図、図版10、第8表の番号は取上番号と一致する。第9表に貝集積の比較表を示す。

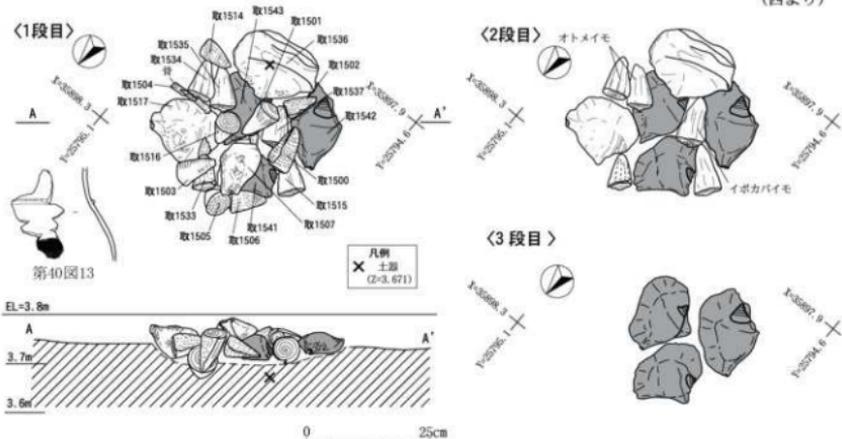
## &lt;SS01&gt; 第17図

A19～A20にまたがって検出された。集積はほぼ円形で大きさは径35×37cmを測る。含まれている砂も暗灰色砂層で、遺物包含層(弥生層)よりも若干、黒味を帯びる。第17図の側面図に示したように集積するための掘り込みは確認できなかった。集積された貝をみるとゴホウラ6点、アンボンクロザメ7点、イボガバイモ2点、オトメイモ2点、クロフモドキ2点、マガキガイ1点の計20点である。その他に集積内からのイノシシ?の四肢骨、最下位から弥生の壺の頸部(第40図13)も検出されている。

貝の積み方をみると最初に核となる3個のゴホウラを配置、その隙間を埋めるように大型イモガイを埋め、さらにその周縁にゴホウラを配置する3段の積み方が想定される。第8表によるとゴホウラは6点出土したが、すべて死貝でその内、取1507は背面にかなりのアバタ、取1517は背面の前溝側を破損する。それ以外のゴホウラは大き目で、その中で取1536・1542・1543は背面のヘビガイが削り取られているようで、移出用にクリーニング(貝製品の項参照)した可能性が高い。

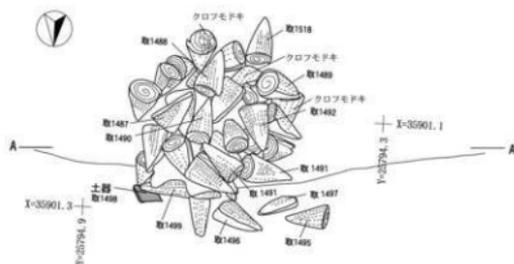


(西より)



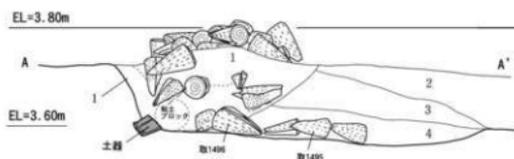
第17図・図版7 貝集積SS01 (A19・20)

〈1 段目平面図〉



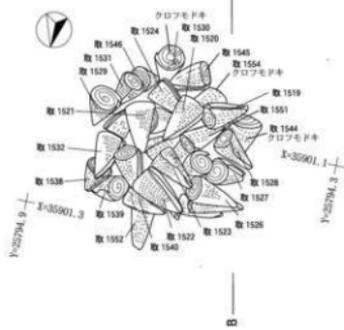
(東より)

〈1 段目見通し断面図〉

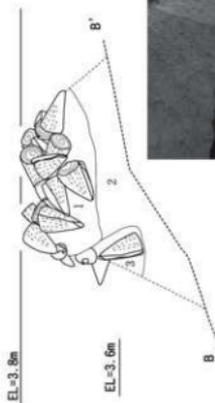


(北より)

〈2 段目平面図〉

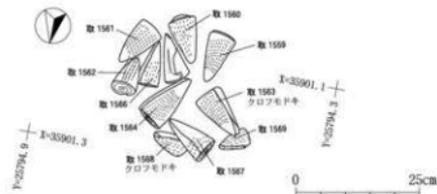


〈2 段目見通し断面図〉



(西より)

〈5 段目平面図〉



第18図・図版8 貝集積SS02 (T19)

他方、大型イモガイについてみるとアンボンクロザメ7点、クロフモドキ4点、オトメイモヤイボカバイモがそれぞれ2点検出された。取1537のイボカバイモは螺塔部にはヘビガイが付着する。

貝集積からオトメイモヤイボカバイモが検出されるのは稀であるが、この2種の貝の大きさは他の貝とほぼ同じである。イモガイの大きさは4.1～6.5cmの範囲で第9図に示したように殻径4.0～4.4cm (28.6%) のものが多く、次に5.0～5.4cm (21.4%)、5.5～5.9cm (21.4%) で交易あるいは貝輪の材料としては小さい。貝集積の中にイボカバイモが検出されたものとしては平敷屋トウバル遺跡(1996)がある。

<SS02>第18図

T20で検出されたが、米軍により一部破壊された集積で、残存の大きさは40×45cmほぼ円形を呈する。集積の厚さは約20cmで、積方は5段に分けられる。最下面では集積がやや横に広がり、集積内では粘土のブロックが確認され、西側に3枚(1・2・3層)の砂層が確認される。上部のイモガイはそれに被るように置かれている。上位のイモガイは縁辺の貝は殻頂を上、中央部分は横位に検出されている。貝の内訳はアンボンクロザメ50個(うち完形32個)、クロフモドキ5個の計55個の大型イモガイのみである。

貝の大きさは殻径4.8～6.3cmの範囲で5.5～5.9cm (49.1%) と最も多く、次に5.0～5.4cm (29.1%)、6.0～6.4cm (18.2%) と順次少なくなるが総じてまとまっている。貝はすべて生貝で、殻口が一部破損するもの(取1539・1565)も含むが、その他に第42図43・第45図59の土器、イノシシ踵骨、自然礫などが出土している。

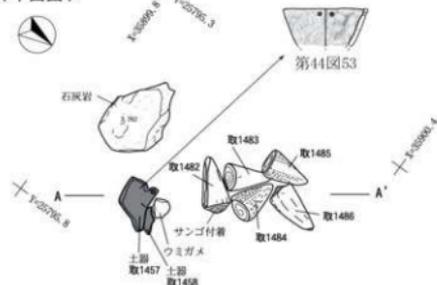
<SS03>第19図

SS02から約1.1m離れたT20で21×10.5cmの大きさの貝集積が検出された。貝の内訳はアンボンクロザメ3個、クロフモドキ2個の計5個で、SS01、SS02に比べて少なく、規模も小さい。

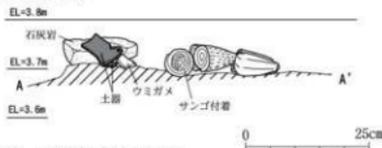
検出状況を見ると標高3.7m面で平地にいた状態検出される。取上番号は1482～1468である。本遺構の近くからは土器が2点得られた。取上番号1457は第44図53Ⅱ類(浜屋原式土器)に属し、取上番号1458は胴部片でSS01出土の弥生土器(第40図13)と同一個体と思われる。また、18×12cmの平らな石灰岩礫も検出されているが、本遺構に関連は不明である。

イモガイの大きさは殻径5.7～6.0cmで大ききである。

<平面図>



<見通し断面図>



第19図 貝集積SS03 (T20)



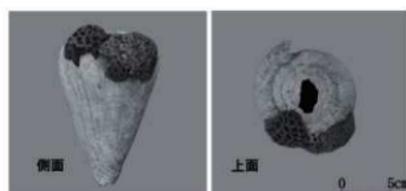
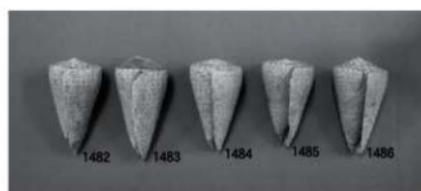
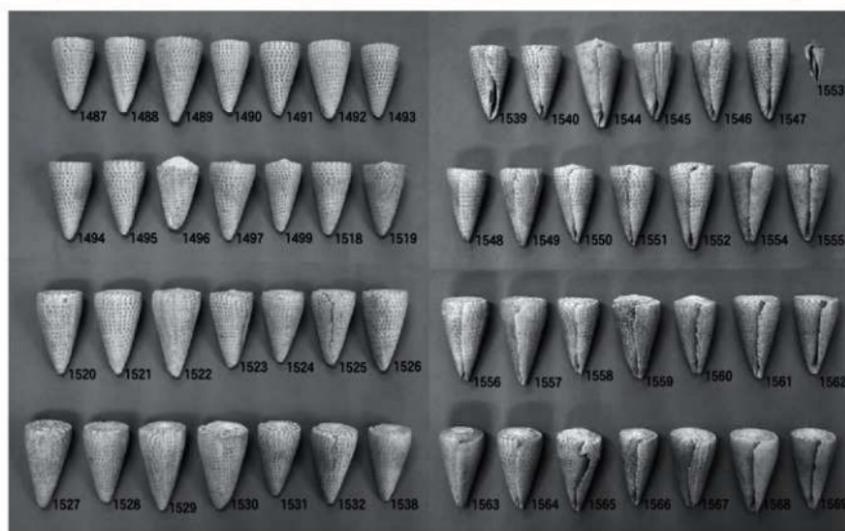
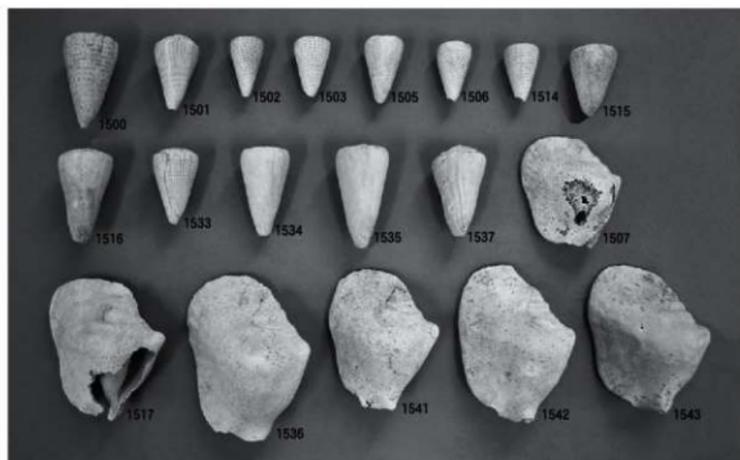
図版9 貝集積SS03 (東より)

第8表 貝集積観察一覧

(質量単位: cm, g)

調査名	取上番号	殻高	殻径	重量	貝種	残存	観察事項 (生・死目、色残、成跡、残存)
SS01	1500	10.6	6.3	228	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	成長線有、殻頂一回、生目、若生か、色残、殻口一完。
	1501	8.9	5.1	130	74 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	成長線有、凸、生目、殻口一完、色残。
	1502	7	4.1	63	74 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	幼齢殻口、殻頂一回、生目、小さい、色残。
	1503	7.3	4.4	74	74 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	中央、殻頂一回、生目、小さい、色残。
	1505	8.2	4.8	92	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	成長線有、生目、殻口一完、色残。
	1506	7.3	4.2	74	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	若干破損、肩部に若干の風化、生目、小さい、色残、食残、殻口一若干一破損。
	1507	14	11.3	382	74 <sup>2</sup> ゾナナガメ	破	殻口内にウズメゴカイ付着、死殻(黒住)、背面-アバタひじり、腹面-アバタ。貝が小さい、腹面可能?、成貝。
	1514	7	4.3	75	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	若干7 <sup>2</sup> 、生目、小さい、色残。
	1515	8.8	5.6	131	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	2~3割、背面細かひびく、生目、他の貝より殻高が大きい。
	1516	10.8	5.8	184	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	背面、僅かに風化、7 <sup>2</sup> 、生目。
	1517	14	13.8	367	74 <sup>2</sup> ゾナナガメ	破	殻口内にウズメゴカイ付着、重量が軽い(黒住)、背面-アバタが顕著、袖部、未発達、腹面-アバタ顕著、亜生貝目、成貝、前溝孔欠。
	1533	8.9	5.3	129	74 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	若干剥離、7 <sup>2</sup> 、生目。
	1534	10.4	5.9	154	74 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	7 <sup>2</sup> 、生目、殻口一完形。
	1535	12.1	6.5	196	74 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	内帯7 <sup>2</sup> 、生目、やや、色残。
	1536	17.5	14	688	74 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	7 <sup>2</sup> がひびく、除去か、貝は大きい、殻口内にヒビ付着、死殻、成貝。
	1537	10.7	6.4	216	74 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	内帯7 <sup>2</sup> 、内帯にヒビなし、生目という。
	1541	15.5	12.7	524	74 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	調整したのか、殻口内にヒビ付着、束殻、成貝。
	1542	18	13.5	743	74 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	殻口内にヒビ付着、束殻が顕著、束殻、成貝。
	1543	16.7	14	610	74 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	殻口内にヒビ付着、束殻が顕著、束殻(黒住)、成貝。
	1539	9.1	5.4	131	74 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	幼齢?、成長線、生目、色残。
	1540	8.9	5.6	139	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	2~3割、殻頂一回、生目、色残。
	1550	9.7	5.6	147	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	生目、色残。
	1551	10	6	168	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	生目、文様一残。
	1552	10.8	5.8	178	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	生目、ヒビなし、文様一残。
	1487	9.05	5.6	153	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	若干剥離、7 <sup>2</sup> 、ヒビ、生目、色残、背面-7 <sup>2</sup> 有。
	1488	9.7	5.5	143	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	生目、色残。
	1489	10.9	6.3	198	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	成長線有、生目、色残。
	1490	9.1	5.2	139	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	細い剥離、生目、色残。
	1491	9.1	5.4	129	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	若干剥離、殻頂一回、生目。
	1492	9.7	5.6	168	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	細い剥離、生目、色残。
	1493	9.5	5.1	125	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	生目、色残。
	1494	9.6	5.6	156	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	細い剥離、7 <sup>2</sup> 、生目、色残。
	1495	9.3	5.4	138	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	細い剥離、生目、色残。
	1496	9.1	5.4	141	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	上、欠、成長線有、殻頂一凸、7 <sup>2</sup> 、生目、色残。
	1497	9.9	5.8	166	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	成長線有、生目、色残。
	1499	9.1	4.8	114	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	下、欠、生目、色残。
	1518	9.2	5.2	125	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	2~3割、殻頂一回、生目、色残。
	1519	9.4	5.4	152	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	若干破損、7 <sup>2</sup> 、生目、色残。
	1520	10.1	5.6	179	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	生目、色残。
	1521	10.3	5.8	175	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	細い剥離、7 <sup>2</sup> 、生目、色残。
	1522	10.9	6.1	196	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	若干剥離、肩部にヒビ、生目、色残。
	1523	9.6	5	155	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	細い剥離、成長線、生目。
	1524	9	5.3	131	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	2~3割、色残。
	1525	9.4	5.4	139	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	成長線有、7 <sup>2</sup> 、生目、色残。
	1526	10	5.7	169	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	生目、色残。
1527	10.3	5.7	166	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	生目、色残。	
1528	9.4	5.6	151	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	剥離、厚径、7 <sup>2</sup> 、生目。	
1529	10.5	5.8	167	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	成長線有、生目、色残。	
1530	10.5	6.1	193	74 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	1回剥離、体帯7 <sup>2</sup> 、ヒビ、生目、細かひびが貝目につく。	
1531	8.9	5.2	126	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	1回剥離、生目、色残。	
1532	9.7	5.7	148	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	若干剥離、成長線、殻頂一マンウンド、生目。	
1538	9.2	5.3	143	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	2回剥離、生目、色残。	
1544	11.1	6.2	218	74 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	2回剥離、殻頂一凸、生目、色残。	
1545	9.4	5.8	158	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	上下に剥離、7 <sup>2</sup> 、生目、色残。	
1546	9.8	5.5	161	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	殻頂一平ら、生目、色残。	
1547	10	6	160	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	2~3割、成長線有、平ら、生目、色残。	
1548	9.2	5.4	139	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	成長線有、生目、色残。	
1549	9.7	5.6	159	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	僅かに、成長線有、殻頂一回、生目。	
1554	10.1	6	179	74 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	生目、色残。	
1553	5.2	3	18	74 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	生目、外帯破損、色残。	
1555	9.6	5.5	159	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	2~3割、成長線有、殻頂に平行、剥離、殻頂一回、中央7 <sup>2</sup> 、生目、色残、殻頂一平行にヒビ。	
1556	10	5.9	180	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	成長線有、殻頂一回、生目、色残、殻頂に若干ヒビ。	
1557	10.7	6.1	187	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	成長線有、殻頂一回、生目、色残。	
1558	9.3	5.5	129	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	若干剥離、殻頂一回、生目、色残。	
1559	10.5	6.1	198	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	生目、色残。	
1560	9.6	5.4	155	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	生目、色残。	
1561	10	6	164	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	剥離、殻頂一回、7 <sup>2</sup> 、生目、色残。	
1562	9.6	5.6	161	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	上欠、殻頂一平ら、生目、色残。	
1563	9.6	5.6	161	74 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	生目、色残。	
1564	9.9	5.6	159	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	生目、色残。	
1565	10.3	5.1	161	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	大きく破損、生目、色残。	
1566	9.3	4.9	111	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	成長線、僅、生目、色残。	
1567	9.6	5.8	174	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	生目、色残。	
1568	10.1	6.1	180	74 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	殻頂一平ら、生目、色残。	
1569	9.9	5.5	146	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	2~3回剥離、生目、色残。	
1482	10.4	5.8	175	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	成長線有、7 <sup>2</sup> 若干、生目、色残。	
1483	11.1	5.7	187	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	成長線有、殻頂にヒビ付着、生目、色残。	
1484	10	5.8	167	74 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	瘤部部に高域サンゴ付着、色残。	
1485	5.7	5.7	174	75 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	成長線有、7 <sup>2</sup> 若干、生目、色残。	
1486	10.6	6	141	74 <sup>2</sup> ゾナナガメ	完	成長線、殻頂一凸、生目、色残。	

残存: 完一ほぼ完全、観察事項: (黒住) 同定及び観察



図版10 貝集積 (上: SS01、中: SS02 (左・正面、右・側面)、下: 左・SS03、右: ダイミヨウイモ)  
※番号は第11表取り上げ番号と一致

貝集積の貝の個別観察は第8表、図版10に遺構ごとに写真を掲載に示した。なお、SS02のイモガイ(写真)は殻口の状況みるため、半分は側面を掲載した。

### 小結

第9表・第20図にSS01, SS02, SS03と本遺跡出土のイモガイ(自然貝)及び近接する伊礼原D遺跡(2013)4317SSのイモガイの大きさを比較した。これによると本遺跡出土の貝集積のイモガイは5.5~5.9cmが多く、自然貝は5.0~5.4cmと小さい方が多くなる傾向が見られる。また、伊礼原D遺跡の貝集積(4317SS)のイモガイは6.5~6.9cmが多くSS01, SS02, SS03の遺構より貝が大きい。伊礼原D遺跡は大当原式土器が主体である。貝集積のイモガイはアンボンクロザメ、クロフモドキがほとんどであるが、SS01からは大きめのオトメイモヤイボガバイモの貝も出土している。集積以外にもH19地区T20とハ地区R12の第IV層で殻径7.0cm前後のオトメイモが得られ、素材貝として採集したと思われる。しかし、他の遺跡も含めて出土量が少ないことから、貝輪の素材としては適してなかったと思われる。

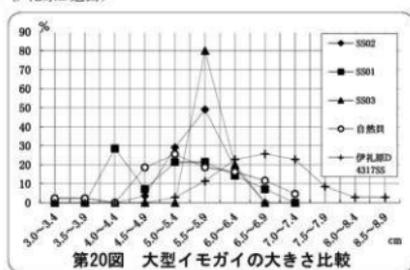
### ・ダイミョウイモ

図版10下右はダイミョウイモで殻高14.3cm、殻径9.8cmとイモガイの中では最も大きい。肩が丸く、螺塔は低い。螺塔部にヘビガイや厚さ2cmのサンゴ(キクメイシ)が付着するもので、さらに殻頂は風化により不定形な孔があり、加工は認められない。Q16第V層、EL3.599mの出土である。

本貝は、九州の弥生時代の遺跡で貝輪(木下1996)として出土するもので、生息地が沖縄以南及びインド洋であることから南海産貝輪交易と関わるものであるが、今のところ、貝集積からの出土例はなく、沖縄諸島で初めての出土である。

第9表 大型イモガイの大きさ比較(貝集積・自然貝・伊礼原D遺跡)

遺構 殻径(cm)	SS01		SS02		SS03		自然貝		伊礼原D 4317SS	
	個	%	個	%	個	%	個	%	個	%
3.0~3.4	0	0	0	0	0	0	1	2.326	0	0
3.5~3.9	0	0	0	0	0	0	1	2.326	0	0
4.0~4.4	4	28.57	0	0	0	0	0	0	0	0
4.5~4.9	1	7.143	2	3.636	0	0	8	18.6	0	0
5.0~5.4	3	21.43	16	29.09	0	0	11	25.58	1	2.857
5.5~5.9	3	21.43	27	49.09	4	80	8	18.6	4	11.43
6.0~6.4	2	14.29	10	18.18	1	20	7	16.29	0	22.86
6.5~6.9	1	7.143	0	0	0	0	5	11.63	0	25.71
7.0~7.4	0	0	0	0	0	0	2	4.651	0	22.86
7.5~7.9									3	8.571
8.0~8.4									1	2.857
8.5~8.9									1	2.857
合計	14	100	55	100	5	100	43	100	35	100

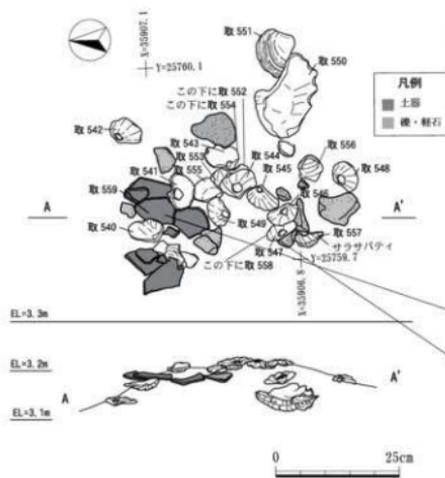


### (6) 二枚貝有孔製品集中(SS05)

S12の第IV層面でシラナミ4個、ヒメジャコ9個の二枚貝有孔製品が図70の復元土器と共に出土した。平面の範囲が50cm×30cm、標高3.1cm~3.2cmに集中して出土するもので、掘り込みは確認できない。また、周辺からは第21図に示したようにシラナミ(取550)、クロチョウガイ(取551)、大小の軽石などが出土することから意図的な遺構とは考えにくい。

しかし、二枚貝有孔製品が連なるように検出されていることから、一本に繋がっていた可能性が窺える。共伴土器がIV類土器であることも貴重な例である。

二枚貝有孔製品が一括して出土する例は第10表に示したように奄美・沖縄諸島の貝塚時代後期~近世にまでみられる。土器との一括出土資料は本遺構が初例で、シャコガイ有孔製品の使用時期が特定される。第22図に民具事例(博物館収蔵)と本遺跡出土の二枚貝有孔製品の殻高と殻長の散布



第21図 二枚貝有孔製品集中SS05平面・断面 (S12)

図を示した。これによると本遺構出土の二枚貝有孔製品は殻高が4.2～5.5cm、殻長が5.9～7.9cmを測り、重量は12～24gの範囲に納まり、一定の範囲を持つもので、孔の大きさ、孔の位置もほぼ同じような傾向を示すことから漁網錘として条件を満たす(島袋2004)。なお、二枚貝有孔製品の個別の観察は第33表に示した。

第10表 有孔貝製品一括出土遺跡貝種組成

遺跡/貝種	2ヶ所 多イ	1ヶ所 少イ	3ヶ所 多イ	4ヶ所 多イ	5ヶ所 多イ	6ヶ所 多	文献
長浜金久第1遺跡		◎					1985
マフノト遺跡		◎				△	1992
具志原貝塚		◎					1985
瀬瀬貝塚				◎		△	1986
タマヤー洞穴遺跡	◎						1989
鹿名首西底原遺跡D地点	○	○	△			△	1979
熱田貝塚	◎	◎				△	1979
山瀬毛遺跡						◎	1998
西表島大富第一洞	◎						1980
伊礼原遺跡 (SS05)	◎						本報告

凡例：◎多い ○普通 △少ない (島袋2004を改変)

### (7) 土器集中

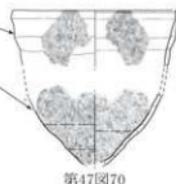
第IV層面で一括土器がH19地区で3ヶ所、I地区で2ヶ所、ハ地区1ヶ所、ニ地区1ヶ所の計7カ所で検出され、「土器集中」①～⑦の番号を付した。

土器集中①と土器集中②は陸側の第V・IV層、土器集中③～⑤は海側の第IV層で検出された。検出面は前者が標高3.7m前後、後者が標高3.1m前後(第36図参照)で、約50cmの高低差がある。いずれも貝塚時代後期面(浜屋原式期・大当原式期)と判断される。以下、各々について略述する。

＜土器集中①＞IV類の壺(図125)でT19取337、標高3.7mで立位の状態で検出された。近くからは大きさ20×15cm、厚さ18cmの砂質石灰岩の礫が斜位の状態で検出されたが、土器の掘り込みラインは確認されなかった。また、近くからは殻長17cmのシャコガイも内面を上に向けた状態で検出されている。



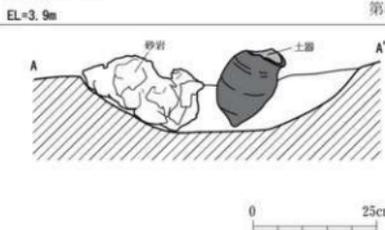
図版11 二枚貝有孔製品集中SS05 (東より)



第22図 二枚貝有孔製品の大きさ比較



〈見通し断面図〉



第23図 土器集中①平面・断面 (T19)



第24図 土器集中②平面 (A20)



図版12 土器集中①(東より)



図版13 土器集中①(北より)

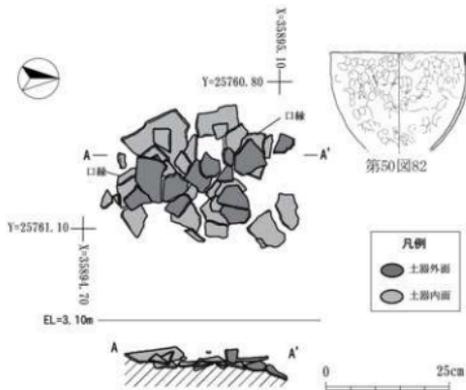
〈土器集中②〉Ⅱ類土器(図52)で内面を上位の状態で検出された。底部は欠落する。A20取338、T19取1381(EL3.777m、EL3.645m)検出。また、近くからは土器集中①と同様シャコガイが内殻面を上にした状態で出土している。

〈土器集中③〉Ⅳ類土器(図82)でB13取440、標高3.21m面で検出された。出土の状態をみると下位では土器の内面、上位では土器の外面で出土していることから土器がつぶれた状態であることがわかる。

〈土器集中④〉Ⅳ類土器(図73)で、A12、取441～418、EL2.88～2.95mで出土。尖底で内面が上を向き、口～胴部は外面が上位



図版14 土器集中②(北東より)

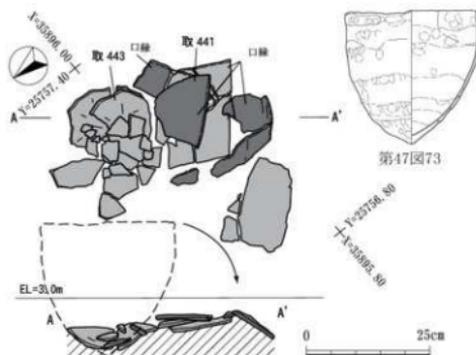


第25図 土器集中③平面・断面 (B13)



図版15 土器集中③(南より)

に検出されていることから破線で示す様な立位の状態が想定できる。口縁部外面は幅5cmのベルト状に黒褐色を呈し、他は茶褐色を呈することから土器の使用と関連すると思われる。

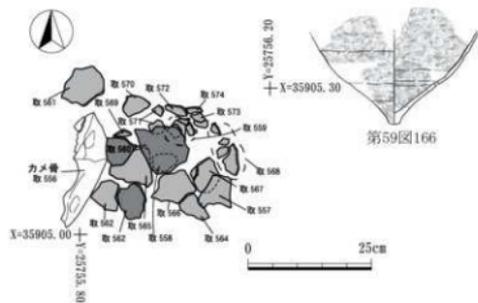


第26図 土器集中④平面・断面 (A12)



図版16 土器集中④(北より)

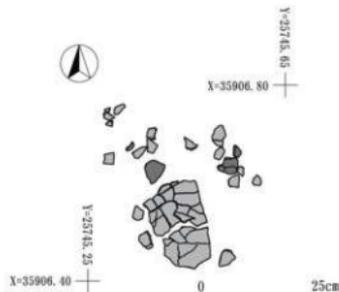
＜土器集中⑤＞乳房状尖底(図166)でS12、EL.2.95mで出土。土器の検出状況を見ると外面が上位、内面が下位に出土した。土器の色を見ると外面が暗褐色、内面が黒褐色の胴部、底が赤褐色を呈する。土器集中④とは逆の色調を呈する。また、ウミガメの背甲板が共伴する。このグリッドの周辺からはウミガメの背腹甲板の大きい破片が多く出土している。



第27図 土器集中⑤平面 (S12)



図版17 土器集中⑤(北より)

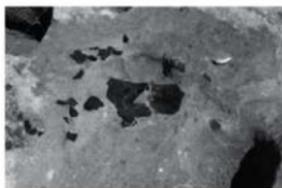


第28図 土器集中⑥平面 (S10)

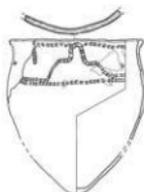


第49図79

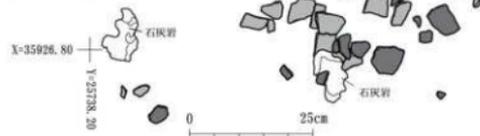
取183～197、201～204  
271～280、282  
284～288、290～302



図版18 土器集中⑥(南西より)



第50図83



第29図 土器集中⑦平面 (O8)

＜土器集中⑥＞IV類土器(図79)でS10、取184、186、EL.2.9mで出土。土器の検出状況を見ると上下につぶれた状態である。本品はR10、R11、Q10出土のものと接合できた。また近く(取206、EL.3.0m)からはくびれ平底(図200)も出土している。

＜土器集中⑦＞V類土器(図83)でO8、EL.2.8～2.9mで出土。この周辺は柱穴(第12図)が検出されている。本資料は有文で、伊礼原D遺跡(2013)の第22図39(Ⅱ群Ⅱ類)と同形の土器である。出土はI18とG17-Vb層で距離も3m、EL.3.0mであり、同一個体の可能性もある。伊礼原D遺跡では同じ地点から浜屋原式土器(Ⅱ群V類、第26図80)が出土している。また、その北側からはイモガイ貝集積(4317SS)も検出された。これらの状況からこの周辺は貝塚時代後期の生活域として安定していた可能性が高い。



図版19 土器集中⑦(東より)



図版20 骨集中①(D20)



図版21 骨集中②(S13)



図版22 骨集中③(A1)

### (8) 骨集中部

図版20～22に示したようにウミガメやクジラ等の海獣骨が3カ所でまとまって検出された。

<骨集中①>D20の第V層の出土で、図版で見られるようにウミガメの椎骨板が20.5×9.5cmで横位の状態で検出、最下部での検出と思われる。

<骨集中②>S13でウミガメの腹甲板が27×16cmで出土した。ウミガメの骨の中ではまとまって検出された。

<骨集中③>A1白砂層で20×16cmのクジラの椎骨が検出された。特に加工は見られず、食料残滓かあるいは土器製作に利用した可能性も考えられる。

類例は貝塚時代前V期の仲原遺跡(1981)では竪穴遺構内から出土している。草野貝塚(1985)では土器製作のために用いたと考えられている。伊礼原遺跡(2007, 砂丘区)では、187点(1880.3g)のクジラの骨が出土した。他にクジラの骨を用いた彫刻かんざしや特に肋骨を用いた多種多様の骨製品や未製品が約80点出土している。その中心は貝塚時代前V期のE-20、第四層(伊礼原遺跡、2007)である。本品は白砂層の出土であり、前出のE-20関連の可能性も考えられる。

### (9) 貝集中

A19とA20にまたがるように140cm×105cm、厚さ15cmのレンズ状に堆積するもので、標高3.6cm前後で緩やかに西側に傾斜する。

第30図に示すように貝種別に記号で示した。貝の内訳は巻き貝8種、二枚貝15種であるが、巻き貝は完形がなく、二枚貝はアラスジケマンやスダレハマグリなどの小型貝のため、完形が多い。出土量を個体数別にみると最も多いのはアラスジケマン41個体、スダレハマグリ40個体とほぼ同じで、

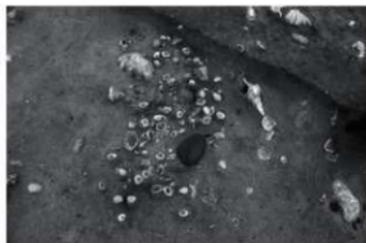
生息地別にはアラスジケマンがマングロープ域、スダレハマグリが砂地(II 1c・第四章第2節参照)で、他の自然貝と生息地別構成比は近い。貝以外についてみると石材磨石片、土器では第41図26、第42図39が検出されている。

SS06はR16・17で長径68cmの範囲にサラサバティラヤシラナミなどの大形貝の完形や破片(取560～597)が集中するもので、他には見られない。

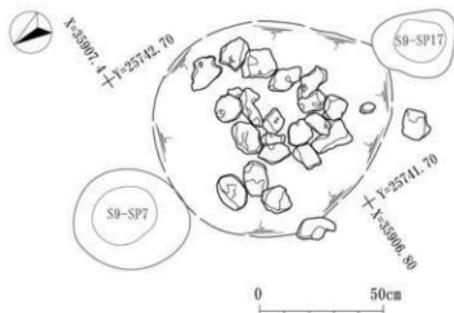
これらの状況からSS04・SS06は遺構



第30図 貝集中SS04 (A19・20)



図版23 貝集中SS04



第31図 礫集中① (S9-SX01)



図版24 礫集中① (北西より)

ではなく、貝塚後期下位の生活面と考えられる。

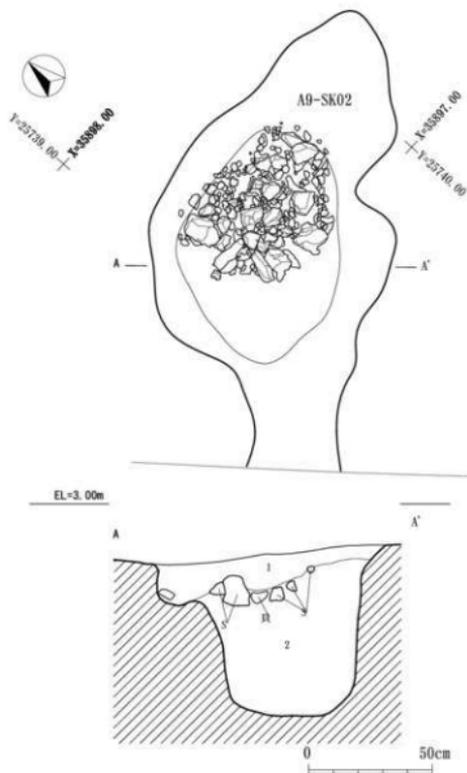
### (10) 礫集中

<礫集中①> (第31図・図版24)

S9-SX01で2×0.9mの範囲で浅い掘り込みの中に10～15cm大のサンゴ及び石灰岩礫が22個集中するものである。掘り込み面が白砂層で、標高3.0mであることから貝塚時代後期の遺構としたが、出土遺物もなく、近くからはグスク時代のピットS9-SP7・SP17も検出されており、遺構の性格、時期も決め手に欠ける。

<礫集中②> (第32図・図版25)

A9-SK02で2.0×0.66mの細長い掘り込みのほぼ中央に0.66×0.5mの礫が集中する。検出面はほぼ水平で前者と異なり、2～16cmの角礫で、岩を砕いたような感じを受ける。礫面下位には径52cm、深さ66cmの掘り込みが検出される。出土遺物は染付皿とIV類土器の胴部が出土した。本遺構は遺跡の西端に位置し、前述同様詳細は不明。



第32図 礫集中② (A9-SK02)



図版25 礫集中② (南西より)

## (11) 軽石だまり

第34図に示したようにD15とD16で北北西から南南東方向に軽石の集中箇所が確認された。長さ5m幅0.37～0.8mの帯び状をなす。

また、ほかに遺物として取り上げた軽石についても人工遺物ではないが、これまで継続的に観察計量を行っているのでここで報告する。

出土した軽石は6コンテナで、①色：黄色系、黒色系。②粒度：粗、細を観察し、さらに各々の重量を計測した。

その結果、黄・粗系(a)1423個(15323.31g)黄・細系(b)485個(2548.9g)、黒・粗系(a)57個(725.13g)黒・細系(b)52個(459.07g)、で圧倒的に黄・粗系(a)(78.9%)が多い。黄色系は加藤祐三(2009)の言う板状軽石に分類され、伊礼原D遺跡と同様丸味を帯びるものがほとんどである。

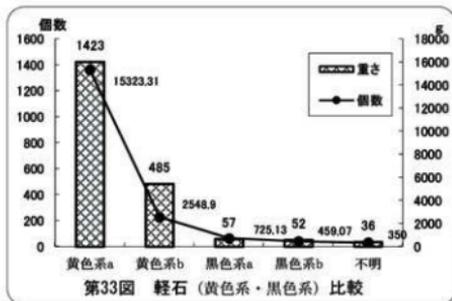
層別の出土状況を見ると第IV層、第V層、第III層で得られ、第III層の軽石は柱穴(58カ所)で検出されている。土器も得られていることから本品も貝塚時代後期に属するものと判断される。

前述の帯び状に広がる軽石は海岸の汀線と考えられ、これまで伊礼原遺跡(2007)、小堀原遺跡(2012)、伊礼原D遺跡(2008・2013)でも報告されている。

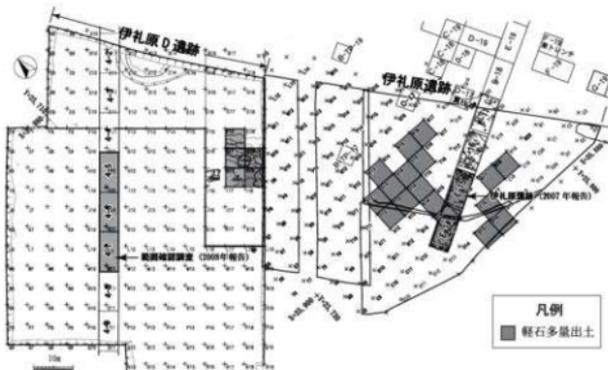
軽石のベルトは後述する土器分類のI類(阿波連浦下層式土器及びII類(浜屋原式土器)。IV類の大当原式土器との間に形成された可能性が高い。



図版26 軽石だまりD16(西より)



第33図 軽石(黄色系・黒色系)比較



第34図 軽石平面分布(伊礼原D遺跡・伊礼原遺跡)

第11表-1 取上遺物一覧 (H19地区)

遺品番号	X	Y	Z	年代	遺種	遺物	図面番号
1	2080.358	2570.411	1.311	415	銅	刀頭(上) (土製)	
2	2083.262	2572.411	1.522	715	銅	刀頭(上) (土製)	
3	2080.466	2571.837	1.473	715	銅	右股 (銅右身兼用) (土製)	第11図1
4	2081.391	2575.494	1.809	815	銅	刀頭(上) (土製)	
5	2081.710	2577.588	1.807	815	銅	刀頭(上) (土製)	
6	2083.239	2578.468	1.807	815	銅	刀頭(上) (土製)	
7	2081.275	2573.609	1.806	815	銅	上股 (土製)	
8	2080.967	2575.678	1.784	815	銅	上股 (土製)	
9	2081.101	2578.183	1.529	811	銅	上股 (土製)	
10	2080.420	2587.456	1.554	811	銅	上股 (土製)	
11	2081.379	2578.468	1.506	811	銅	刀頭(上) (土製)	
12	2080.847	2574.688	1.744	815	銅	上股 (土製)	
13	2080.899	2578.114	1.520	817	銅	沖鏃 (赤土製)	
14	20819.868	2575.262	1.845	809	銅	上股 (土製)	
15	2080.940	2578.714	1.819	815	銅	刀頭(上) (土製)	
16	20804.478	2578.134	1.204	411	銅	右股 (土製)	
17	20809.396	2578.685	1.230	411	銅	沖刀 (土製)	
18	20805.884	2578.311	1.178	411	銅	右股	
19	20807.658	2578.209	1.227	411	銅	右股 (赤土)	
20	20801.271	2578.479	1.287	411	銅	上股 (土製)	第11図14
21	20809.323	2578.612	1.291	411	銅	上股 (土製)	
22	20806.028	2578.114	1.230	411	銅	目録用ナイフ	
23	20801.948	2578.394	1.188	411	銅	目録用ナイフ	
24	20809.275	2578.138	1.281	411	銅	刀頭(上) (土製)	
25	20809.282	2583.946	1.287	413	銅	刀頭(上) (土製)	
26	20809.750	2584.947	1.247	413	銅	刀頭(上) (土製)	
27	20805.827	2578.972	1.466	713	銅	沖刀	
28	20802.678	2578.801	1.081	713	銅	沖刀 (土製)	
29	20802.736	2578.609	1.077	713	銅	上股 (土製)	
30	20803.082	2578.623	1.115	713	銅	上股 (土製)	
31	20803.258	2578.516	1.139	713	銅	上股(赤土)	
32	20801.759	2581.688	1.044	811	銅	上股 (土製)	
33	20804.273	2578.528	1.227	811	銅	上股 (土製)	
34	20803.021	2578.491	1.129	713	銅	右股用	
35	20801.809	2578.278	1.136	713	銅	右股	
36	20803.141	2578.639	1.053	713	銅	沖刀 (土製)	
37	20805.219	2577.146	1.528	815	銅	沖鏃 (土製)	第11図1
38	20800.341	2577.555	1.270	815	銅	右股 (土製)	
39	20805.835	2577.488	1.510	815	銅	刀頭(上) (土製)	
40	20808.968	2576.231	1.192	815	銅	右 (土製)	
41	20809.202	2577.793	1.236	815	銅	右 (土製)	
42	20807.269	2578.799	1.368	811	銅	沖鏃 (土製)	
43	20807.125	2578.513	1.322	811	銅	右股 (土製)	第11図7
44	20807.118	2587.149	1.338	811	銅	右股 (土製)	
45	20809.686	2578.261	1.474	811	銅	上股 (土製)	
46	20808.438	2578.889	1.532	811	銅	右 (土製)	
47	20809.413	2578.167	1.519	813	銅	右股用(赤土製)	
48	20809.110	2578.968	1.296	813	銅	沖鏃(土製)	
49	20807.739	2578.217	1.296	813	銅	上股 (土製)	第11図8
50	20806.488	2578.388	1.290	813	銅	上股 (土製)	
51	20805.387	2581.968	1.388	813	銅	上股 (土製)	
52	20805.163	2581.497	1.327	813	銅	上股 (土製)	
53	20806.136	2583.115	1.473	813	銅	刀頭(上) (土製)	
54	20811.112	2578.281	1.484	811	銅	沖刀(土製)	
55	20809.756	2578.815	1.441	811	銅	右股	
56	20805.283	2587.695	1.700	819	銅	沖鏃 (土製)	第11図13
57	20804.150	2578.967	1.600	819	銅	上股(土製)	
58	20805.483	2578.734	1.607	819	銅	上股 (土製)	
59	20805.973	2578.771	1.688	819	銅	上股 (土製)	
60	20805.874	2578.726	1.667	819	銅	上股 (土製)	
61	20805.578	2578.117	1.668	819	銅	上股 (土製)	
62	20805.487	2578.515	1.673	819	銅	上股 (土製)	
63	20805.300	2578.474	1.644	819	銅	上股 (土製)	
64	20805.766	2578.617	1.655	819	銅	上股 (土製)	
65	20805.259	2578.862	1.678	819	銅	上股 (土製)	
66	20805.703	2578.748	1.663	819	銅	上股 (土製)	
67	20806.482	2578.795	1.667	819	銅	上股 (土製)	
68	20806.022	2578.432	1.711	819	銅	上股 (土製)	
69	20803.717	2578.209	1.628	819	銅	沖刀(土)	第11図9
70	20807.687	2578.228	1.624	819	銅	上股 (土製)	
71	20807.917	2578.288	1.682	819	銅	上股 (土製)	
72	20809.382	2578.117	1.817	719	銅	上股 (土製)	第11図10
73	20809.492	2578.675	1.837	719	銅	上股 (土製)	
74	20800.764	2578.099	1.945	719	銅	上股 (土製)	
75	20806.465	2578.869	1.879	719	銅	上股 (土製)	
76	20800.213	2578.142	1.878	719	銅	上股 (土製)	
77	20804.338	2578.388	1.908	719	銅	上股 (土製)	
78	20800.438	2578.429	1.908	719	銅	上股 (土製)	
79	20800.213	2578.670	1.889	719	銅	刀頭(土) (土製)	
80	20806.038	2578.263	1.875	719	銅	上股(赤土)	
81	20805.587	2578.417	1.785	809	銅	上股 (土製)	
82	20803.961	2578.674	1.835	809	銅	上股 (土製)	
83	20801.487	2578.827	1.871	719	銅	右股	
84	20809.163	2578.911	1.740	819	銅	刀頭(上) (土製)	
85	20809.221	2578.528	1.730	820	銅	上股 (土製)	
86	20805.388	2578.288	1.754	820	銅	上股 (土製)	
87	20806.448	2578.288	1.754	820	銅	上股 (土製)	
88	20807.337	2578.288	1.754	820	銅	上股 (土製)	
89	20807.337	2578.288	1.754	820	銅	上股 (土製)	
90	20805.388	2578.288	1.754	820	銅	上股 (土製)	
91	20806.448	2578.288	1.754	820	銅	上股 (土製)	
92	20807.337	2578.288	1.754	820	銅	上股 (土製)	
93	20807.337	2578.288	1.754	820	銅	上股 (土製)	
94	20807.337	2578.288	1.754	820	銅	上股 (土製)	
95	20807.337	2578.288	1.754	820	銅	上股 (土製)	
96	20807.337	2578.288	1.754	820	銅	上股 (土製)	
97	20807.337	2578.288	1.754	820	銅	上股 (土製)	
98	20807.337	2578.288	1.754	820	銅	上股 (土製)	
99	20807.337	2578.288	1.754	820	銅	上股 (土製)	
100	20807.337	2578.288	1.754	820	銅	上股 (土製)	

遺品番号	X	Y	Z	年代	遺種	遺物	図面番号
90	20805.388	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(上) (土製)	
91	20806.448	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
92	20807.337	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
93	20808.498	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
94	20809.548	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
95	20806.448	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
96	20807.337	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
97	20808.498	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
98	20809.548	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
99	20806.448	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
100	20807.337	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
101	20808.498	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
102	20809.548	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
103	20806.448	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
104	20807.337	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
105	20808.498	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
106	20809.548	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
107	20806.448	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
108	20807.337	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
109	20808.498	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
110	20809.548	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
111	20806.448	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
112	20807.337	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
113	20808.498	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
114	20809.548	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
115	20806.448	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
116	20807.337	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
117	20808.498	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
118	20809.548	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
119	20806.448	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
120	20807.337	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
121	20808.498	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
122	20809.548	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
123	20806.448	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
124	20807.337	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
125	20808.498	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
126	20809.548	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
127	20806.448	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
128	20807.337	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
129	20808.498	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
130	20809.548	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
131	20806.448	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
132	20807.337	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
133	20808.498	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
134	20809.548	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
135	20806.448	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
136	20807.337	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
137	20808.498	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
138	20809.548	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
139	20806.448	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
140	20807.337	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
141	20808.498	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
142	20809.548	2578.288	1.754	820	銅	刀頭(土) (土製)	
143	20806.448	2578.288	1.754	820			

第11表-2 取上遺物一覧 (H19地区)

遺品番号	X	Y	Z	寸法	形状	遺物	図番	遺品番号	X	Y	Z	寸法	形状	遺物	図番
175	30051.513	25780.385	3.406	517	819	土器(瓦)	取上遺物11	176	30051.220	25780.146	3.428	517	819	土器(瓦)	取上遺物12
177	30051.172	25780.603	3.607	517	819	土器(瓦)	取上遺物13	178	30051.019	25780.619	3.614	517	819	土器(瓦)	取上遺物14
179	30051.024	25781.206	3.615	517	819	土器(瓦)	取上遺物15	180	30047.633	25783.611	3.710	517	819	土器(瓦)	取上遺物16
181	30046.800	25784.466	3.714	517	819	土器(瓦)	取上遺物17	182	30047.270	25784.666	3.722	517	819	土器(瓦)	取上遺物18
183	30047.969	25784.263	3.702	517	819	土器(瓦)	取上遺物19	184	30048.278	25784.058	3.709	517	819	土器(瓦)	取上遺物20
185	30049.864	25784.814	3.811	517	819	土器(瓦)	取上遺物21	186	30049.210	25785.713	3.825	819	819	土器(瓦)	取上遺物22
187	30044.223	25778.620	3.736	819	819	土器(瓦)	取上遺物23	188	30044.208	25778.446	3.733	819	819	土器(瓦)	取上遺物24
189	30043.944	25777.628	3.721	819	819	土器(瓦)	取上遺物25	190	30045.414	25777.711	3.709	819	819	土器(瓦)	取上遺物26
191	30041.269	25780.229	3.702	819	819	土器(瓦)	取上遺物27	192	30041.526	25779.494	3.773	819	819	土器(瓦)	取上遺物28
193	30041.269	25779.731	3.794	819	819	土器(瓦)	取上遺物29	194	30041.269	25779.741	3.800	819	819	土器(瓦)	取上遺物30
195	30041.894	25779.341	3.773	819	819	土器(瓦)	取上遺物31	196	30043.467	25779.902	3.845	819	819	土器(瓦)	取上遺物32
197	30041.742	25779.399	3.696	819	819	土器(瓦)	取上遺物33	198	30040.548	25779.598	3.737	819	819	土器(瓦)	取上遺物34
199	30040.270	25779.923	3.749	819	819	土器(瓦)	取上遺物35	200	30040.328	25779.600	3.717	819	819	土器(瓦)	取上遺物36
201	30040.462	25779.857	3.693	819	819	土器(瓦)	取上遺物37	202	30040.210	25779.419	3.763	819	819	土器(瓦)	取上遺物38
203	30040.138	25774.275	3.766	819	819	土器(瓦)	取上遺物39	204	30040.481	25774.262	3.749	819	819	土器(瓦)	取上遺物40
205	30040.493	25774.914	3.713	819	819	土器(瓦)	取上遺物41	206	30043.303	25784.670	3.369	819	819	土器(瓦)	取上遺物42
207	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物43	208	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物44
209	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物45	210	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物46
211	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物47	212	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物48
213	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物49	214	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物50
215	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物51	216	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物52
217	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物53	218	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物54
219	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物55	220	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物56
221	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物57	222	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物58
223	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物59	224	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物60
225	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物61	226	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物62
227	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物63	228	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物64
229	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物65	230	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物66
231	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物67	232	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物68
233	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物69	234	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物70
235	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物71	236	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物72
237	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物73	238	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物74
239	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物75	240	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物76
241	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物77	242	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物78
243	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物79	244	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物80
245	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物81	246	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物82
247	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物83	248	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物84
249	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物85	250	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物86
251	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物87	252	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物88
253	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物89	254	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物90
255	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物91	256	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物92
257	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物93	258	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物94
259	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物95	260	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物96
261	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物97	262	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物98
263	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物99	264	30043.542	25784.772	3.371	819	819	土器(瓦)	取上遺物100

第11表-3 取上遺物一覧 (H19地区)

遺品番号	X	Y	Z	品名	遺種	遺物	図番
300	2573.303	2574.303	3.266	P15	銅器		
301	2573.920	2573.920	4.022	Q19	銅器		
302	2574.034	2574.034	3.293	K13	銅器		
303	2574.190	2574.190	5.277	K13	銅器		
304	2574.282	2574.282	3.279	K13	銅器		
305	2574.467	2574.467	3.281	K13	銅器		
306	2574.368	2574.368	3.295	T11	銅器		
307	2574.519	2574.519	3.747	P15	銅器		
308	2574.596	2574.596	3.421	K13	銅器		
309	2574.682	2574.682	3.233	K13	銅器		
310	2574.689	2574.689	3.066	K13	銅器		
311	2574.932	2574.932	3.265	T11	銅器		
312	2574.938	2574.938	3.104	K13	銅器		
313	2574.938	2574.938	3.119	K13	銅器		
314	2574.979	2574.979	3.229	K13	銅器		
315	2574.938	2574.938	3.230	K13	銅器		
316	2574.938	2574.938	3.428	K13	銅器		
317	2574.938	2574.938	3.637	K13	銅器		
318	2574.938	2574.938	3.643	K13	銅器		
319	2574.938	2574.938	3.639	K13	銅器		
320	2574.938	2574.938	3.618	K13	銅器		
321	2574.938	2574.938	3.620	K13	銅器		
322	2574.938	2574.938	3.667	K13	銅器		
323	2574.938	2574.938	3.669	K13	銅器		
324	2574.938	2574.938	3.613	K13	銅器		
325	2574.938	2574.938	3.612	K13	銅器		
326	2574.938	2574.938	3.614	K13	銅器		
327	2574.938	2574.938	3.630	K13	銅器		
328	2574.938	2574.938	3.628	K13	銅器		
329	2574.938	2574.938	3.627	K13	銅器		
330	2574.938	2574.938	3.636	K13	銅器		
331	2574.938	2574.938	3.633	K13	銅器		
332	2574.938	2574.938	3.666	K13	銅器		
333	2574.938	2574.938	3.661	K13	銅器		
334	2574.938	2574.938	3.672	K13	銅器		
335	2574.938	2574.938	3.673	K13	銅器		
336	2574.938	2574.938	3.669	K13	銅器		
337	2574.938	2574.938	3.654	K13	銅器		
338	2574.938	2574.938	3.664	K13	銅器		
339	2574.938	2574.938	3.657	K13	銅器		
340	2574.938	2574.938	3.668	K13	銅器		
341	2574.938	2574.938	3.666	K13	銅器		
342	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
343	2574.938	2574.938	3.663	K13	銅器		
344	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
345	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
346	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
347	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
348	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
349	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
350	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
351	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
352	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
353	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
354	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
355	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
356	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
357	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
358	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
359	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
360	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
361	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
362	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
363	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
364	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
365	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
366	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
367	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
368	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
369	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
370	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
371	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
372	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
373	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
374	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
375	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
376	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
377	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
378	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
379	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
380	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
381	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
382	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
383	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
384	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
385	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
386	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
387	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
388	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
389	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
390	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
391	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
392	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
393	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
394	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
395	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
396	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
397	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
398	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
399	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
400	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
401	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
402	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
403	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
404	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
405	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
406	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
407	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
408	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
409	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
410	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
411	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
412	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
413	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
414	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
415	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
416	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
417	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
418	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
419	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
420	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
421	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
422	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
423	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
424	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
425	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
426	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
427	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
428	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
429	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
430	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
431	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
432	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
433	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
434	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
435	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
436	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
437	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
438	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
439	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
440	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
441	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
442	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
443	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
444	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
445	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
446	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
447	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
448	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
449	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		
450	2574.938	2574.938	3.662	K13	銅器		

遺品番号	X	Y	Z	品名	遺種	遺物	図番
440	2575.322	2575.322	3.871	K18	銅器		
441	2575.402	2575.402	3.942	S18	銅器		
442	2575.490	2575.490	3.772	S18	銅器		
443	2575.490	2575.490	3.791	S18	銅器		
444	2575.253	2575.253	3.422	S18	銅器		
445	2575.467	2575.467	3.478	K18	銅器		
446	2575.462	2575.462	3.772	S18	銅器		
447	2574.575	2574.575	3.525	K18	銅器		
448	2574.298	2574.298	3.519	K18	銅器		
449	2575.747	2575.747	3.506	K18	銅器		
450	2575.741	2575.741	3.511	K18	銅器		
451	2574.494	2574.494	3.505	Q18	銅器		
452	2574.469	2574.469	3.516	Q18	銅器		
453	2575.962	2575.962	3.479	Q18	銅器		
454	2574.383	2574.383	3.587	Q18	銅器		
455	2574.521	2574.521	3.601	Q18	銅器		
456	2574.328	2574.328	3.589	Q18	銅器		
457	2574.689	2574.689	3.556	Q18	銅器		
458	2574.436	2574.436	3.522	Q18	銅器		
459	2574.420</						



第11表-5 取上遺物一覧 (H19地区)

遺品番号	X	Y	Z	年代	遺構	遺物	図面番号
713	3008.311	25790.407	3.947	519	899	銅幣(7)	
714	3008.643	25790.536	3.736	519	899	銅貨(7)	
717	3008.665	25790.294	3.692	519	899	銅貨(7)	
718	3008.889	25790.110	3.965	519	899	銅貨(7)	
719	3008.796	25790.666	3.633	519	899	銅貨(7)	
720	3008.744	25790.730	3.730	519	899	銅貨(7)	
721	3008.467	25790.120	3.633	519	899	銅貨(7)	
722	3008.727	25790.999	3.623	519	899	銅貨(7)	
723	3008.622	25790.081	3.906	519	899	銅貨(7)	
724	3008.499	25790.621	3.739	519	899	銅貨(7)	
725	3008.447	25790.709	3.742	519	899	銅貨(7)	
726	3008.439	25790.791	3.760	519	899	(12)	
727	3008.490	25790.868	3.931	519	899	銅貨(7)	
728	3008.279	25790.925	3.911	519	899	銅貨(7)	
729	3008.225	25790.968	3.796	519	899	銅貨(7)	
730	3008.232	25790.711	3.652	519	899	銅貨(7)	
731	3008.230	25790.966	3.446	519	899	銅貨(7)	
732	3008.674	25790.517	3.992	519	899	銅貨(7)	
733	3008.737	25790.654	3.928	519	899	銅貨(7)	
734	3008.774	25790.518	3.968	519	899	銅貨(7)	
735	3008.810	25790.519	3.968	519	899	銅貨(7)	
736	3008.832	25790.546	3.925	519	899	銅貨(7)	
737	3008.880	25790.615	4.004	519	899	銅貨(7)	
738	3012.019	25791.965	3.711	819	899	銅貨(7)	
739	3010.728	25790.678	3.943	819	899	銅貨(7)	
740	3010.687	25791.715	3.666	819	899	銅貨(7)	
741	3009.940	25790.254	3.700	819	899	銅貨(7)	
742	3009.764	25790.394	3.710	819	899	銅貨(7)	
743	3009.784	25790.566	3.724	819	899	銅貨(7)	
744	3008.625	25790.428	3.913	819	899	銅貨(7)	
745	3008.740	25790.669	3.643	819	899	銅貨(7)	
746	3009.336	25790.213	3.840	819	899	銅貨(7)	
747	3009.261	25790.658	3.646	819	899	銅貨(7)	
748	3008.638	25790.119	3.620	819	899	銅貨(7)	
749	3008.737	25790.518	3.915	819	899	銅貨(7)	
750	3008.842	25790.560	3.904	819	899	銅貨(7)	
751	3008.832	25790.326	3.884	819	899	銅貨(7)	
752	3008.932	25790.672	3.846	819	899	銅貨(7)	
753	3009.089	25790.326	3.799	819	899	銅貨(7)	
754	3009.664	25790.671	3.777	819	899	銅貨(7)	
755	3009.280	25790.660	3.688	819	899	銅貨(7)	
756	3009.329	25790.171	3.799	819	899	銅貨(7)	
757	3009.320	25790.167	3.630	819	899	銅貨(7)	
758	3009.249	25790.272	3.660	819	899	銅貨(7)	
759	3009.211	25790.426	3.812	819	899	銅貨(7)	
760	3009.487	25790.956	3.811	819	899	土器(1)類	
761	3007.726	25791.989	3.796	819	899	銅貨(7)	
762	3007.695	25791.952	3.779	819	899	銅貨(7)	
763	3007.588	25791.828	3.871	819	899	銅貨(7)	
764	3007.629	25791.487	3.778	819	899	銅貨(7)	
765	3007.384	25791.818	3.947	819	899	銅貨(7)	
766	3007.611	25791.823	3.918	819	899	銅貨(7)	
767	3007.602	25791.910	3.999	819	899	銅貨(7)	
768	3007.583	25791.813	3.967	819	899	銅貨(7)	
769	3007.111	25791.816	3.927	819	899	銅貨(7)	
770	3007.180	25791.911	3.925	819	899	銅貨(7)	
771	3007.164	25790.281	3.956	819	899	銅貨(7)	
772	3007.986	25790.361	3.962	819	899	銅貨(7)	
773	3007.935	25790.958	3.687	819	899	銅貨(7)	
774	3008.272	25790.818	3.667	819	899	銅貨(7)	
775	3009.796	25790.682	3.897	819	899	銅貨(7)	
776	3009.369	25791.907	3.944	819	899	銅貨(7)	
777	3009.710	25790.756	3.679	819	899	銅貨(7)	
778	3008.838	25790.638	3.636	819	899	銅貨(7)	
779	3009.215	25790.113	3.600	819	899	銅貨(7)	
780	3008.806	25790.281	3.628	819	899	銅貨(7)	
781	3009.290	25790.815	3.716	819	899	銅貨(7)	
782	3009.122	25790.383	3.762	819	899	銅貨(7)	
783	3008.736	25790.728	3.877	819	899	銅貨(7)	
784	3008.714	25790.602	3.799	819	899	銅貨(7)	
785	3008.684	25790.197	3.790	819	899	銅貨(7)	
786	3008.281	25790.965	3.717	819	899	銅貨(7)	
787	3008.626	25790.965	3.927	819	899	銅貨(7)	
788	3008.873	25790.972	3.924	819	899	銅貨(7)	
789	3008.965	25790.290	3.728	819	899	銅貨(7)	
790	3009.294	25790.813	3.796	819	899	銅貨(7)	
791	3010.203	25791.413	3.903	819	899	土器(1)類	
792	3012.554	25790.929	3.836	819	899	土器(1)類(片)	
793	3012.833	25791.615	3.791	819	899	土器(1)類	
794	3012.414	25791.823	3.716	819	899	土器(1)類	
795	3012.235	25791.621	3.700	819	899	土器(1)類(片)	
796	3011.995	25791.639	3.734	819	899	土器(1)類(片)	
797	3011.608	25791.972	3.751	819	899	土器(1)類(片)	
798	3011.630	25790.980	3.767	819	899	銅貨(7)	
799	3010.480	25791.658	3.645	819	899	銅貨(7)	
800	3010.189	25790.460	3.709	819	899	土器(1)類(片)	
801	3009.246	25791.900	3.608	819	899	銅貨(7)	
802	3008.204	25790.963	3.728	819	899	土器(1)類	
803	3008.519	25790.965	3.840	819	899	土器(1)類	
804	3008.611	25790.674	3.709	819	899	土器(1)類	
805	3008.649	25790.511	3.706	819	899	土器(1)類	

遺品番号	X	Y	Z	年代	遺構	遺物	図面番号
806	3007.802	25790.777	3.694	819	899	土器(1)類	
807	3006.601	25797.402	3.450	519	899	土器(1)類	
808	3006.625	25797.481	3.662	519	899	土器(1)類	
809	3006.940	25791.965	3.583	519	899	銅貨(7)	
810	3006.820	25795.129	3.581	819	899	銅貨(7)	
811	3006.814	25795.017	3.630	819	899	銅貨(7)	
812	3006.514	25795.466	3.655	820	899	銅貨(7)	
813	3005.401	25795.294	3.678	820	899	銅貨(7)	
814	3005.615	25792.277	3.531	820	899	銅貨(7)	
815	3004.420	25792.284	3.580	819	899	銅貨(7)	
816	3005.787	25796.732	3.611	819	899	銅貨(7)	
817	3005.646	25792.588	3.627	819	899	銅貨(7)	
818	3005.006	25793.849	3.649	819	899	銅貨(7)	
819	3006.818	25793.992	3.580	819	899	銅貨(7)	
820	3006.454	25794.163	3.581	819	899	銅貨(7)	
821	3006.871	25794.197	3.582	819	899	銅貨(7)	
822	3007.623	25793.444	3.573	819	899	銅貨(7)	
823	3007.120	25793.766	3.586	819	899	銅貨(7)	
824	3007.232	25793.727	3.586	819	899	銅貨(7)	
825	3007.229	25793.288	3.584	819	899	銅貨(7)	
826	3004.546	25796.563	3.612	820	899	銅貨(7)	
827	3004.272	25796.438	3.628	820	899	銅貨(7)	
828	3004.664	25796.488	3.634	820	899	銅貨(7)	
829	3004.273	25796.699	3.638	820	899	銅貨(7)	
830	3004.627	25796.224	3.654	819	899	銅貨(7)	
831	3004.433	25796.226	3.633	820	899	銅貨(7)	
832	3006.635	25797.746	3.741	820	899	銅貨(7)	
833	3005.649	25797.213	3.718	820	899	銅貨(7)	
834	3006.118	25796.727	3.786	820	899	銅貨(7)	
835	3006.417	25796.827	3.798	820	899	銅貨(7)	
836	3006.633	25796.763	3.743	820	899	銅貨(7)	
837	3006.814	25796.493	3.726	820	899	銅貨(7)	
838	3006.806	25796.281	3.726	820	899	銅貨(7)	
839	3006.916	25796.365	3.782	820	899	銅貨(7)	
840	3006.120	25796.784	3.652	820	899	銅貨(7)	
841	3006.297	25796.563	3.672	820	899	銅貨(7)	
842	3006.483	25795.637	3.658	820	899	銅貨(7)	
843	3007.161	25794.264	3.576	819	899	銅貨(7)	
844	3006.603	25794.188	3.655	820	899	銅貨(7)	
845	3007.549	25794.839	3.572	819	899	銅貨(7)	
846	3007.348	25793.813	3.579	819	899	銅貨(7)	
847	3007.528	25793.534	3.591	819	899	銅貨(7)	
848	3007.283	25793.415	3.585	819	899	銅貨(7)	
849	3007.687	25793.311	3.582	819	899	銅貨(7)	
850	3007.941	25793.879	3.635	819	899	銅貨(7)	
851	3006.120	25794.082	3.668	819	899	銅貨(7)	
852	3006.286	25793.827	3.582	819	899	銅貨(7)	
853	3008.715	25793.829	3.697	819	899	銅貨(7)	
854	3008.287	25793.613	3.612	819	899	銅貨(7)	
855	3009.267	25793.287	3.795	819	899	銅貨(7)	
856	3009.330	25793.602	3.668	819	899	銅貨(7)	
857	3009.286	25793.827	3.582	819	899	銅貨(7)	
858	3009.384	25793.713	3.703	819	899	銅貨(7)	
859	3009.111	25792.581	3.618	819	899	銅貨(7)	
860	3008.307	25792.696	3.605	819	899	銅貨(7)	
861	3008.687	25791.969	3.613	819	899	銅貨(7)	
862	3009.217	25791.260	3.608	819	899	銅貨(7)	
863	3009.280	25791.729	3.608	819	899	銅貨(7)	
864	3009.610	25791.928	3.591	819	899	銅貨(7)	
865	3009.213	25792.961	3.613	819	899	銅貨(7)	
866	3009.238	25792.687	3.637	819	899	銅貨(7)	
867	3009.627	25792.900	3.629	819			

第11表-6 取上遺物一覧 (H19地区)

遺物番号	X	Y	Z	年代	遺物	図面番号	遺物番号	X	Y	Z	年代	遺物	図面番号	
990	20561.700	25793.129	3.948	719	889	2111	990	20565.823	25794.907	3.633	819	819	5004	713a/7b
991	20561.663	25793.237	3.820	719	889	2112	991	20566.402	25794.863	3.820	819	819	5004	713c/7d
992	20561.700	25793.653	3.477	719	889	2113	992	20566.983	25794.808	3.634	819	819	5004	713e/7f
993	20561.638	25793.727	3.520	719	889	2114	993	20566.965	25794.871	3.642	819	819	5004	713g/7h
994	20561.621	25793.986	3.437	719	889	2115	994	20566.934	25795.019	3.423	820	819	5004	713i/7j
995	20561.381	25794.988	3.943	719	889	2116	995	20566.989	25794.923	3.638	819	819	5004	713k/7l
996	20561.272	25793.511	3.707	719	889	2117	996	20566.956	25794.873	3.599	819	819	5004	713m/7n
997	20561.254	25793.462	3.700	719	889	2118	997	20566.983	25794.866	3.628	819	819	5004	713o/7p
998	20561.166	25793.500	3.613	719	889	2119	998	20566.854	25794.966	3.617	819	819	5004	713q/7r
999	20561.172	25793.528	3.616	719	889	2120	999	20566.819	25795.053	3.623	820	819	5004	713s/7t
1000	20561.167	25793.600	3.729	719	889	2121	1000	20566.867	25794.919	3.622	819	819	5004	713u/7v
1001	20560.823	25794.120	3.781	719	889	2122	1001	20566.866	25795.056	3.617	820	819	5004	713w/7x
1002	20560.823	25794.124	3.781	719	889	2123	1002	20566.823	25795.033	3.613	820	819	5004	713y/7z
1003	20560.686	25793.112	3.697	719	889	2124	1003	20566.917	25795.021	3.608	820	819	5004	713aa/7ab
1004	20560.579	25794.813	3.768	719	889	2125	1004	20566.911	25794.959	3.618	819	819	5004	713ac/7ad
1005	20560.448	25794.537	3.780	719	889	2126	1005	20566.836	25794.917	3.598	819	819	5004	713ae/7af
1006	20560.448	25794.469	3.784	719	889	2127	1006	20566.811	25794.955	3.612	819	819	5004	713ag/7ah
1007	20560.217	25794.820	3.710	719	889	2128	1007	20566.828	25794.888	3.599	819	819	5004	713ai/7aj
1008	20560.258	25795.048	3.773	720	889	2129	1008	20566.589	25794.831	3.576	819	819	5004	2131
1009	20560.823	25795.047	3.730	720	889	2130	1009	20566.613	25794.875	3.588	819	819	5004	2132
1010	20560.803	25794.880	3.694	819	889	2131	1010	20566.613	25794.875	3.588	819	819	5004	2133
1011	20560.815	25795.047	3.710	820	889	2132	1011	20566.619	25794.918	3.588	819	819	5004	713ak/7al
1012	20560.652	25795.467	3.769	820	889	2133	1012	20566.628	25794.735	3.578	819	819	5004	713am/7an
1013	20560.527	25794.988	3.769	820	889	2134	1013	20566.642	25794.836	3.574	819	819	5004	713ao/7ap
1014	20560.157	25795.294	3.706	820	889	2135	1014	20566.624	25794.730	3.581	819	819	5004	713ar/7as
1015	20560.157	25795.294	3.706	820	889	(81)	1015	20566.624	25794.730	3.581	819	819	5004	713at/7au
1016	20560.227	25795.463	3.705	820	889	(81)	1016	20566.751	25794.831	3.589	819	819	5004	713av/7aw
1017	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1017	20566.751	25794.831	3.589	819	819	5004	2134
1018	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1018	20566.787	25794.831	3.573	819	819	5004	713ax/7ay
1019	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1019	20566.716	25794.820	3.601	819	819	5004	713az/7ba
1020	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1020	20566.781	25794.833	3.601	819	819	5004	713bb/7bc
1021	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1021	20566.824	25794.833	3.613	819	819	5004	713bd/7be
1022	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1022	20566.889	25794.868	3.588	819	819	5004	713bf/7bg
1023	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1023	20566.824	25795.073	3.603	819	819	5004	713bh/7bi
1024	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1024	20566.812	25794.819	3.583	819	819	5004	713bj/7bk
1025	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1025	20566.836	25794.811	3.604	819	819	5004	713bl/7bm
1026	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1026	20566.718	25794.850	3.586	819	819	5004	713bn/7bo
1027	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1027	20566.718	25794.788	3.581	819	819	5004	713bp/7bq
1028	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1028	20566.718	25794.850	3.586	819	819	5004	713br/7bs
1029	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1029	20566.533	25794.792	3.589	819	819	5004	713bt/7bu
1030	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1030	20566.574	25794.733	3.564	819	819	5004	713bv/7bw
1031	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1031	20566.574	25794.733	3.564	819	819	5004	713bx/7by
1032	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1032	20566.485	25794.817	3.568	819	819	5004	713bz/7ca
1033	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1033	20566.492	25794.770	3.552	819	819	5004	713ca/7cb
1034	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1034	20566.519	25794.875	3.570	819	819	5004	713cc/7cd
1035	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1035	20566.404	25794.773	3.569	819	819	5004	713ce/7cf
1036	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1036	20566.404	25794.807	3.566	819	819	5004	713cg/7ch
1037	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1037	20566.485	25794.817	3.568	819	819	5004	713ci/7cj
1038	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1038	20566.563	25794.800	3.583	819	819	5004	713ck/7cl
1039	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1039	20566.586	25794.888	3.579	819	819	5004	713cm/7cn
1040	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1040	20566.725	25794.839	3.575	819	819	5004	713co/7cp
1041	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1041	20566.680	25794.828	3.574	819	819	5004	713cq/7cr
1042	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1042	20566.713	25794.770	3.557	819	819	5004	713cs/7ct
1043	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1043	20566.782	25794.730	3.552	819	819	5004	713cu/7cv
1044	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1044	20566.820	25794.833	3.578	819	819	5004	713cw/7cx
1045	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1045	20566.865	25794.888	3.612	819	819	5004	713cy/7cz
1046	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1046	20566.863	25794.873	3.607	819	819	5004	713da/7db
1047	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1047	20566.908	25794.920	3.584	819	819	5004	713dc/7dd
1048	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1048	20566.865	25794.813	3.602	819	819	5004	(81)
1049	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1049	20566.811	25794.826	3.586	819	819	5004	713de/7df
1050	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1050	20566.811	25794.939	3.604	819	819	5004	713dg/7dh
1051	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1051	20566.868	25794.871	3.583	819	819	5004	713di/7dj
1052	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1052	20566.864	25794.959	3.599	819	819	5004	713dk/7dl
1053	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1053	20566.820	25794.880	3.575	819	819	5004	713dm/7dn
1054	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1054	20566.787	25794.839	3.569	819	819	5004	713do/7dp
1055	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1055	20566.861	25794.848	3.576	819	819	5004	713dq/7dr
1056	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1056	20566.810	25794.888	3.612	819	819	5004	713ds/7dt
1057	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1057	20566.844	25794.821	3.611	819	819	5004	713du/7dv
1058	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1058	20566.886	25794.918	3.617	819	819	5004	713dw/7dx
1059	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1059	20566.958	25795.097	3.586	820	819	5004	713dy/7dz
1060	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1060	20566.842	25795.206	3.612	820	819	5004	713ea/7eb
1061	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1061	20566.930	25795.186	3.633	820	819	5004	713ec/7ed
1062	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1062	20566.800	25795.140	3.618	820	819	5004	713ef/7eg
1063	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1063	20566.787	25794.833	3.614	819	819	5004	713eh/7ei
1064	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1064	20566.820	25795.263	3.609	820	819	5004	713ej/7ek
1065	20560.412	25796.188	3.669	820	889	(81)	1065	20566.718	25794.813	3.613	820	819	5004	713el/7em
1066	20560.412													

第11表-7 取上遺物一覧 (H19地区)

出土 品番号	X	Y	Z	形状 寸法	素材	遺物	図番号
0001	2076.113	2576.081	3.620	820	809	銅板	750-1
0002	2076.091	2576.066	4.609	820	809	銅板	750-2
0003	2076.077	2576.088	3.960	819	809	銅板	750-3
0004	2076.116	2576.056	6.087	809	809	銅板	750-4
0005	2076.094	2576.117	3.585	820	809	銅板	750-5
0006	2076.073	2576.073	3.987	820	809	銅板	750-6
0007	2076.042	2576.069	3.567	820	809	銅板	750-7
0008	2076.057	2576.233	3.616	820	809	銅板	750-8
0009	2076.051	2576.111	3.589	820	809	銅板	750-9
0010	2076.057	2576.231	3.617	820	809	銅板	750-10
0011	2076.165	2576.184	3.612	820	809	銅板	750-11
0012	2076.060	2576.013	3.573	820	809	銅板	750-12
0013	2076.152	2576.087	3.577	820	809	銅板	750-13
0014	2076.224	2576.038	3.602	820	809	銅板	750-14
0015	2076.216	2576.067	3.611	820	809	銅板	750-15
0016	2076.265	2576.124	3.588	820	809	銅板	750-16
0017	2076.231	2576.132	3.584	820	809	銅板	750-17
0018	2076.238	2576.233	3.620	820	809	銅板	750-18
0019	2076.173	2576.258	3.637	820	809	銅板	750-19
0020	2076.160	2574.804	3.585	819	809	銅板	750-20
0021	2076.254	2574.982	3.612	819	809	銅板	750-21
0022	2076.426	2574.915	3.574	819	809	銅板	750-22
0023	2076.598	2576.413	3.635	820	809	銅板	750-23
0024	2076.120	2576.659	3.609	820	809	銅板	750-24
0025	2076.135	2576.705	3.609	820	809	銅板	750-25
0026	2076.171	2576.750	3.598	820	809	銅板	750-26
0027	2076.217	2576.697	3.597	820	809	銅板	750-27
0028	2076.263	2576.134	3.606	820	809	銅板	750-28
0029	2076.301	2576.116	3.616	820	809	銅板	750-29
0030	2076.388	2576.111	3.605	820	809	銅板	750-30
0031	2076.269	2576.082	3.588	820	809	銅板	750-31
0032	2076.292	2576.164	3.584	820	809	銅板	750-32
0033	2076.222	2576.210	3.557	820	809	銅板	750-33
0034	2076.252	2574.877	3.574	820	809	銅板	750-34
0035	2076.468	2576.279	3.568	820	809	銅板	750-35
0036	2076.117	2576.231	3.554	820	809	銅板	750-36
0037	2076.183	2576.281	3.559	820	809	銅板	750-37
0038	2076.174	2576.335	3.580	820	809	銅板	750-38
0039	2076.244	2576.378	3.587	820	809	銅板	750-39
0040	2076.858	2576.317	3.582	820	809	銅板	750-40
0041	2076.889	2576.235	3.589	820	809	銅板	750-41
0042	2076.015	2576.403	3.582	820	809	銅板	750-42
0043	2076.203	2576.711	3.585	820	809	銅板	750-43
0044	2076.487	2576.618	3.588	820	809	銅板	750-44
0045	2076.531	2574.960	3.561	819	809	銅板	750-45
0046	2076.328	2576.211	3.582	820	809	銅板	750-46
0047	2076.214	2574.879	3.564	819	809	銅板	750-47
0048	2076.482	2574.714	3.571	819	809	銅板	750-48
0049	2076.388	2576.218	3.610	820	809	銅板	750-49
0050	2076.486	2576.235	3.769	820	809	銅板	750-50
0051	2076.272	2576.211	3.680	820	809	銅板	750-51
0052	2076.113	2576.309	3.711	820	809	銅板	750-52
0053	2076.688	2576.369	3.651	820	809	銅板	750-53
0054	2076.314	2576.739	3.656	820	809	銅板	750-54
0055	2076.236	2576.819	3.690	820	809	銅板	750-55
0056	2076.253	2576.215	3.692	820	809	銅板	750-56
0057	2076.247	2576.015	3.579	820	809	銅板	750-57
0058	2076.538	2576.074	3.577	819	809	銅板	750-58
0059	2076.794	2576.615	3.583	820	809	銅板	750-59
0060	2076.827	2576.225	3.628	820	809	銅板	750-60
0061	2076.762	2576.148	3.617	820	809	銅板	750-61
0062	2076.722	2576.085	3.649	820	809	銅板	750-62
0063	2076.718	2576.111	3.686	820	809	銅板	750-63
0064	2076.625	2574.749	3.561	819	809	銅板	750-64
0065	2076.612	2574.782	3.553	819	809	銅板	750-65
0066	2076.678	2574.983	3.532	819	809	銅板	750-66
0067	2076.286	2576.664	3.545	819	809	銅板	750-67
0068	2076.596	2574.714	3.581	819	809	銅板	750-68
0069	2076.758	2576.296	3.575	820	809	銅板	750-69
0070	2076.877	2576.091	3.554	809	809	銅板	750-70
0071	2074.814	2576.900	3.699	819	809	銅板	750-71
0072	2076.682	2574.419	3.649	819	809	銅板	750-72
0073	2074.813	2576.912	3.640	809	809	銅板	750-73
0074	2077.281	2576.246	3.697	820	809	銅板	750-74
0075	2077.624	2576.630	3.697	820	809	銅板	750-75
0076	2077.281	2576.613	3.733	820	809	銅板	750-76
0077	2077.378	2576.882	3.722	820	809	銅板	750-77
0078	2076.118	2576.611	3.678	820	809	銅板	750-78
0079	2076.699	2576.669	3.599	820	809	銅板	750-79
0080	2076.113	2576.698	3.668	820	809	銅板	750-80
0081	2076.881	2576.649	3.637	820	809	銅板	750-81
0082	2076.214	2576.747	3.743	819	809	銅板	750-82
0083	2076.528	2576.555	3.751	820	809	銅板	750-83
0084	2076.229	2576.575	3.735	820	809	銅板	750-84
0085	2076.006	2577.224	3.734	820	809	銅板	750-85
0086	2076.828	2576.661	3.635	819	809	銅板	750-86
0087	2076.823	2576.598	3.708	819	809	銅板	750-87
0088	2076.716	2576.790	3.635	820	809	銅板	750-88
0089	2076.424	2574.358	3.746	719	809	銅板	750-89
0090	2076.269	2576.132	3.642	819	809	銅板	750-90
0091	2076.619	2576.161	3.649	719	809	銅板	750-91

出土 品番号	X	Y	Z	形状 寸法	素材	遺物	図番号
1177	2083.932	2576.779	3.642	809	809	銅板	750-92
1178	2086.624	2576.272	3.751	820	809	銅板	750-93
1179	2088.838	2576.849	3.681	819	809	銅板	750-94
1180	2088.617	2576.987	3.738	820	809	銅板	750-95
1181	2088.630	2576.949	3.717	820	809	銅板	750-96
1182	2088.675	2576.761	3.718	820	809	銅板	750-97
1183	2088.685	2576.214	3.678	820	809	銅板	750-98
1179	2088.679	2576.753	3.694	820	809	銅板	750-99
1180	2088.816	2576.140	3.682	819	809	銅板	750-100
1181	2088.712	2576.259	3.696	820	809	銅板	750-101
1182	2087.688	2576.813	3.709	819	809	銅板	750-102
1183	2089.119	2576.058	3.598	819	809	銅板	750-103
1184	2089.115	2576.323	3.688	820	809	銅板	750-104
1185	2088.655	2576.799	3.668	820	809	銅板	750-105
1186	2089.085	2576.869	3.609	820	809	銅板	750-106
1187	2088.537	2576.898	3.742	820	809	銅板	750-107
1188	2087.520	2576.869	3.687	820	809	銅板	750-108
1189	2086.427	2576.968	3.728	820	809	銅板	750-109
1190	2086.381	2576.833	3.660	820	809	銅板	750-110
1191	2086.135	2576.789	3.726	820	809	銅板	750-111
1192	2086.962	2574.147	3.726	819	809	銅板	750-112
1193	2086.280	2576.823	3.710	819	809	銅板	750-113
1194	2086.434	2576.817	3.664	820	809	銅板	750-114
1195	2086.297	2576.425	3.728	820	809	銅板	750-115
1196	2087.468	2576.296	3.655	820	809	銅板	750-116
1197	2088.812	2574.810	3.678	819	809	銅板	750-117
1198	2086.644	2576.725	3.769	820	809	銅板	750-118
1199	2086.527	2576.712	3.749	820	809	銅板	750-119
1200	2086.718	2576.784	3.730	820	809	銅板	750-120
1201	2086.627	2576.827	3.628	819	809	銅板	750-121
1202	2086.745	2576.553	3.749	820	809	銅板	750-122
1203	2086.806	2576.470	3.678	820	809	銅板	750-123
1204	2087.827	2576.281	3.688	820	809	銅板	750-124
1205	2086.911	2576.463	3.758	820	809	銅板	750-125
1206	2086.522	2576.882	3.718	820	809	銅板	750-126
1207	2086.479	2576.778	3.711	820	809	銅板	750-127
1208	2086.615	2576.732	3.701	820	809	銅板	750-128
1209	2086.654	2576.649	3.727	820	809	銅板	750-129
1210	2086.184	2576.614	3.723	820	809	銅板	750-130
1211	2086.085	2576.567	3.746	820	809	銅板	750-131
1212	2086.136	2576.434	3.765	820	809	銅板	750-132
1213	2086.180	2576.345	3.719	820	809	銅板	750-133
1214	2086.871	2576.822	3.713	820	809	銅板	750-134
1215	2084.983	2576.263	3.718	809	809	銅板	750-135
1216	2084.865	2576.508	3.714	809	809	銅板	750-136
1217	2086.048	2576.617	3.621	809	809	銅板	750-137
1218	2086.866	2576.271	3.686	819	809	銅板	750-138
1219	2086.673	2576.642	3.680	809	809	銅板	750-139
1220	2086.380	2576.664	3.724	820	809	銅板	750-140
1221	2086.672	2576.433	3.690	820	809	銅板	750-141
1222	2087.618	2576.239	3.673	820	809	銅板	750-142
1223	2087.080	2576.173	3.679	820	809	銅板	750-143
1224	2087.520	2576.530	3.671</				



第11表-9 取上遺物一覧 (H19地区)

取上番号	X	Y	Z	年代	品名	遺物	図号	取上番号	X	Y	Z	年代	品名	遺物	図号	
1438	3090.480	25793.600	4.720	Ti9	809	特1		1499	3090.323	25794.718	3.718	Ti9	819	S902	特2(特1?)	
1439	3097.831	25792.955	4.506	A19	809	特1		1500	3098.132	25794.779	3.779	A19	819	S901	特2(特1?)	
1440	3097.831	25794.502	3.528	A19	809	特1		1501	3098.496	25794.830	3.732	A19	819	S903	特2(特1?)	
1441	3097.831	25795.082	4.506	809	809	有名製品 (特1?)		1502	3098.828	25794.884	3.732	A19	819	S904	特2(特1?)	
1442	3097.238	25795.253	3.544	820	809	特1		1503	3098.254	25794.874	3.732	A19	819	S905	特2(特1?)	
1443	3097.238	25794.474	3.588	A19	809	特1?		1504	3098.148	25794.963	3.736	A19	819	S906	有名(特1?)	
1444	3098.615	25794.574	3.540	809	809	特1?		1505	3098.783	25794.853	3.786	A19	819	S907	特2(特1?)	
1445	3097.238	25794.617	3.542	A19	809	特1(特1?)		1506	3098.255	25794.709	3.713	A19	819	S908	特2(特1?)	
1446	3099.914	25795.693	4.628	809	809	特1?		1507	3098.194	25794.886	3.702	A19	819	S909	特1?	
1447	3095.646	25796.455	3.656	A20	809	特1 (特1?)		1508	3091.271	25795.965	3.911	819	819	S910	特2(特1?)	
1448	3095.293	25797.302	3.610	A20	809	特1 (特1?)		1509	3098.933	25795.965	3.472	C2	809	S911	有名(特1?)	
1449	3095.093	25797.111	3.710	A20	809	特1 (特1?)		1510	3098.262	25797.877	3.983	819	819	S912	有名(特1?)	
1450	3094.805	25795.946	3.582	A20	809	特1 (特1?)		1511	30992.128	25797.630	3.589	819	819	S913	有名(特1?)	
1451	3098.771	25794.629	3.692	A19	809	特1 (特1?)		1512	3098.963	25794.386	3.589	A19	819	S914	有名(特1?)	
1452	3099.489	25792.852	3.655	A19	809	特1 (特1?)		1513	3098.461	25794.769	3.585	A19	819	S915	有名(特1?)	
1453	3097.214	25795.611	3.588	A20	809	特1(特1?)		1514	3098.638	25794.990	3.603	A19	819	S916	有名(特1?)	
1454	3097.695	25794.971	3.621	A19	809	特1 (V層)		1515	3098.270	25794.686	3.606	A19	819	S917	有名(特1?)	
1455	3097.695	25794.878	3.618	A19	809	特1 (V層)	特1(特1?)	1516	3098.119	25794.729	3.604	A19	819	S918	特1?	
1456	3097.695	25794.806	3.611	A19	809	特1 (V層)		1517	3098.239	25794.956	3.798	A19	819	S919	特1?	
1457	3097.387	25795.281	3.636	A20	809	特1		1518	3098.564	25794.863	3.713	Ti9	819	S920	特2(特1?)	
1458	3097.434	25795.410	3.615	A20	809	特1 (V層)		1519	3091.654	25794.563	3.719	Ti9	819	S921	特2(特1?)	
1459	3097.546	25795.469	3.619	A20	809	特1(特1?)		1520	3091.683	25794.711	3.717	Ti9	819	S922	特2(特1?)	
1460	3097.546	25795.624	3.617	A20	809	特1 (V層)		1521	3091.687	25794.713	3.717	Ti9	819	S923	特2(特1?)	
1461	3099.514	25796.335	3.807	820	809	特1 (V層)		1522	3091.214	25794.543	3.722	Ti9	819	S924	特2(特1?)	
1462	3093.413	25796.296	3.810	820	809	特1 (V層)		1523	3091.172	25794.824	3.718	Ti9	819	S925	特2(特1?)	
1463	3097.888	25796.388	3.535	A20	809	特1?		1524	3091.617	25794.676	3.694	Ti9	819	S926	特2(特1?)	
1464	3098.963	25796.238	3.612	A20	809	特2(特1?)		1525	3091.176	25794.763	3.723	Ti9	819	S927	特2(特1?)	
1465	3090.418	25795.982	4.723	Ti9	809	S903	特1 (特1?)	1526	3090.203	25794.553	3.729	Ti9	819	S928	特2(特1?)	
1466	3090.046	25795.677	4.914	Ti9	809	S903	特1 (特1?)	1527	3090.137	25794.535	3.716	Ti9	819	S929	特2(特1?)	
1467	3090.613	25795.695	4.888	Ti9	809	S903	特1 (特1?)	1528	3090.166	25794.539	3.708	Ti9	819	S930	特2(特1?)	
1468	3093.244	25796.913	3.433	816	809	特1?		1529	3091.693	25794.790	3.687	Ti9	819	S931	特2(特1?)	
1469	30918.963	25777.289	3.899	816	809	特1(特1?)		1530	3098.963	25794.675	3.702	Ti9	819	S932	特2(特1?)	
1470	30925.243	25798.681	3.439	816	809	特1(特1?)		1531	3091.628	25794.732	3.701	Ti9	819	S933	特2(特1?)	
1471	3098.482	25793.823	3.410	817	809	有名(特1?)		1532	3098.156	25794.782	3.787	Ti9	819	S934	有名(特1?)	
1472	3093.617	25796.383	3.508	809	809	特1(特1?)		1533	3098.156	25794.899	3.671	A19	819	S935	有名(特1?)	
1473	3093.613	25796.251	3.562	809	809	特1(特1?)		1534	3098.156	25794.978	3.693	A19	819	S936	有名(特1?)	
1474	3093.925	25796.187	3.569	820	809	特1 (V層)		1535	3098.102	25794.963	3.681	A19	819	S937	有名(特1?)	
1475	3093.925	25796.633	3.579	820	809	特1 (V層)		1536	3098.090	25794.889	3.671	A19	819	S938	有名(特1?)	
1476	3095.914	25796.943	3.519	820	809	特1 (V層)		1537	3098.088	25794.813	3.680	A19	819	S939	有名(特1?)	
1477	3095.914	25796.943	3.519	820	809	特1 (V層)		1538	3091.232	25794.733	3.633	Ti9	819	S940	特2(特1?)	
1478	3096.768	25796.633	3.537	820	809	有名(特1?)		1539	3091.232	25794.733	3.633	Ti9	819	S941	特2(特1?)	
1479	3096.768	25796.633	3.537	820	809	有名(特1?)		1540	3091.230	25794.686	3.628	Ti9	819	S942	特2(特1?)	
1480	3096.693	25793.293	3.588	A19	809	特1?		1541	3098.120	25794.792	3.668	A19	819	S943	有名(特1?)	
1481	3095.922	25794.499	3.588	A19	809	特1 (特1?)		1542	3098.120	25794.792	3.668	A19	819	S944	有名(特1?)	
1482	3096.486	25794.480	3.588	A19	809	有名(特1?)		1543	3098.120	25794.792	3.668	A19	819	S945	有名(特1?)	
1483	3097.862	25796.296	3.519	809	809	特1 (特1?)		1544	3098.120	25794.792	3.668	A19	819	S946	有名(特1?)	
1484	3096.768	25796.633	3.537	820	809	有名(特1?)		1545	3098.120	25794.792	3.668	A19	819	S947	有名(特1?)	
1485	3096.693	25793.293	3.588	809	809	特1?		1546	3098.120	25794.792	3.668	A19	819	S948	有名(特1?)	
1486	3096.962	25797.467	3.488	816	809	特1 (V層)	特1(特1?)	1547	3098.120	25794.792	3.668	A19	819	S949	有名(特1?)	
1487	3091.130	25794.968	3.513	Ti9	809	有名(特1?)		1548	3098.120	25794.792	3.668	A19	819	S950	有名(特1?)	
1488	3091.130	25794.968	3.513	Ti9	809	有名(特1?)		1549	3098.120	25794.792	3.668	A19	819	S951	有名(特1?)	
1489	3091.130	25794.968	3.513	Ti9	809	有名(特1?)		1550	3098.120	25794.792	3.668	A19	819	S952	有名(特1?)	
1490	3091.130	25794.968	3.513	Ti9	809	有名(特1?)		1551	3098.120	25794.792	3.668	A19	819	S953	有名(特1?)	
1491	3091.130	25794.968	3.513	Ti9	809	有名(特1?)		1552	3098.120	25794.792	3.668	A19	819	S954	有名(特1?)	
1492	3091.130	25794.968	3.513	Ti9	809	有名(特1?)		1553	3098.120	25794.792	3.668	A19	819	S955	有名(特1?)	
1493	3091.130	25794.968	3.513	Ti9	809	有名(特1?)		1554	3098.120	25794.792	3.668	A19	819	S956	有名(特1?)	
1494	3091.130	25794.968	3.513	Ti9	809	有名(特1?)		1555	3098.120	25794.792	3.668	A19	819	S957	有名(特1?)	
1495	3091.130	25794.968	3.513	Ti9	809	有名(特1?)		1556	3098.120	25794.792	3.668	A19	819	S958	有名(特1?)	
1496	3091.130	25794.968	3.513	Ti9	809	有名(特1?)		1557	3098.120	25794.792	3.668	A19	819	S959	有名(特1?)	
1497	3091.130	25794.968	3.513	Ti9	809	有名(特1?)		1558	3098.120	25794.792	3.668	A19	819	S960	有名(特1?)	
1498	3091.130	25794.968	3.513	Ti9	809	有名(特1?)		1559	3098.120	25794.792	3.668	A19	819	S961	有名(特1?)	
1499	3091.130	25794.968	3.513	Ti9	809	有名(特1?)		1560	3098.120	25794.792	3.668	A19	819	S962	有名(特1?)	
1500	3091.130	25794.968	3.513	Ti9	809	有名(特1?)		1561	3098.120	25794.792	3.668	A19	819	S963	有名(特1?)	
1501	3091.130	25794.968	3.513	Ti9	809	有名(特1?)		1562	3098.120	25794.792	3.668	A19	819	S964	有名(特1?)	
1502	3091.130	25794.968	3.513	Ti9	809	有名(特1?)		1563	3098.120	25794.792	3.668	A19	819	S965	有名(特1?)	
1503	3091.130	25794.968	3.513	Ti9	809	有名(特1?)		1564	3098.120	25794.792	3.668	A19	819	S966	有名(特1?)	
1504	3091.130	25794.968	3.513	Ti9	809	有名(特1?)		1565								

第11表-10 取上遺物一覧 (イ地区)

遺品番号	X	Y	Z	寸法	形状	遺物	図番	遺品番号	X	Y	Z	寸法	形状	遺物	図番
32	2088.900	25746.930	0.270	C10	■	鍍付(銀)	●遺品18	127	2087.610	25756.830	0.900	C12	円	(銅製)	
33	2089.060	25746.360	0.750	C10	■	黄銅製(香)		128	2088.400	25757.660	2.000	C12	円	古銅(銀)	第104028
34	2087.180	25747.610	0.740	C10	円	青銅(銀)		129	2088.830	25757.610	0.900	C12	円	(銅製)	
35	2087.030	25747.130	0.710	C10	円	青銅(不明)		130	2088.410	25756.660	2.960	C12	円	青銅(銀)	
36	2088.670	25746.920	0.750	C10	円	青銅(不明)		131	2088.970	25756.240	2.930	C12	円	青銅(銀)	第104028
37	2088.660	25748.030	0.760	C10	円	鍍付(銀)		132	2088.410	25756.610	0.900	C12	円	青銅(銀)	
38	2087.870	25747.220	0.680	C10	円	青銅(香・燻)		133	2088.760	25756.110	0.920	C12	円	大付青銅	第104028
39	2088.460	25747.690	0.760	C10	円	青銅(不明)		134	2087.960	25756.600	2.960	C12	円	青銅(銀)	第104028
40	2088.460	25747.140	0.710	C10	円	土器(内蓋)		135	2087.270	25756.660	0.610	C12	円	付(銅製) 鍍付(四角香)	
41	2089.030	25746.460	0.820	C10	円	青銅(香)	第116021	136	2088.380	25756.180	0.900	C12	円	鍍付(四角香)	
42	2088.960	25748.030	0.800	C10	円	鍍付(銀)		137	2088.470	25756.960	0.940	C12	円	銅(燻)	
43	2089.530	25749.420	0.870	C10	円	土器(先蓋蓋)		138	2087.490	25756.190	0.940	C12	円	鍍付(燻香)	
44	2087.790	25748.960	0.840	C10	円	青銅(香・燻)		139	2088.820	25756.860	2.910	C12	円	付(燻香)	
45	2088.620	25747.280	0.720	C10	円	青銅(香・燻)		140	2088.480	25756.670	2.960	C12	円	付(土蓋)	
46	2087.340	25747.110	0.760	C10	円	鍍付(不明)		141	2088.360	25756.190	0.920	C12	円	鍍付(四角香)	
47	2088.790	25747.630	0.770	C10	円	鍍付(大蓋香)		142	2087.700	25754.620	0.900	C12	円	鍍付(四角香)	
48	2089.390	25745.490	0.800	B10	円	本蓋(銀)	第1114-7	143	2088.490	25755.200	2.900	C12	円	付(土蓋)	
49	2089.460	25745.460	0.860	B10	円	青銅(香・燻)		144	2088.380	25755.920	0.920	C12	円	付(燻)	
50	2089.680	25746.610	0.800	B10	円	青銅(香)		145	2087.770	25754.630	2.900	C12	円	鍍付(燻燻)	
51	2089.360	25745.290	0.820	B10	円	青銅(不明)		146	2088.960	25756.190	0.820	C12	円	鍍付(四角香)	
52	2089.860	25746.960	0.900	B10	円	古銅(銀)		147	2088.700	25756.170	2.960	C12	円	鍍付(四角香)	
53	2089.150	25745.610	0.900	B10	円	鍍付(銀)	第111608	148	2088.410	25755.130	0.960	C12	円	付(中蓋蓋)	
54	2089.230	25747.760	0.940	B10	円	青銅(大蓋)		149	2088.200	25755.920	0.920	C12	円	鍍付(四角香)	
55	2089.620	25749.610	0.900	B10	円	青銅(香)		150	2088.620	25755.630	0.920	C12	円	付(土蓋)	
56	2089.210	25748.960	0.740	C10	円	土器(内蓋)		151	2088.290	25755.210	2.920	C12	円	大付燻	
57	2089.118	25747.138	0.980	B10	円	鍍付(銀)		152	2088.700	25755.660	2.900	C12	円	銅(燻燻)	
58	2089.540	25748.410	0.900	B10	円	付(四角香) 鍍付(四角香)		153	2088.630	25755.230	0.980	C12	円	鍍付(燻燻)	
59	2089.080	25749.190	0.970	B10	円	青銅(不明)		154	2088.210	25755.920	0.980	C12	円	鍍付(燻燻)	
60	2089.460	25751.720	0.910	B10	円	付(燻)	第117061	155	2088.960	25755.670	2.920	C12	円	黄銅製(香)	
61	2089.960	25754.180	0.670	B10	円	古銅(不明)		156	2088.740	25756.190	0.820	C12	円	大付燻(燻燻)	
62	2089.460	25753.120	0.670	B10	円	(土蓋)		157	2088.330	25755.840	2.900	C12	円	付(燻燻)	
63	2089.460	25752.740	0.810	B10	円	黄銅製(不明)		158	2087.400	25755.920	0.960	C12	円	付(燻燻)	
64	2089.290	25753.440	0.810	B10	円	付(燻燻燻燻)		159	2087.980	25755.630	0.920	C12	円	鍍付(四角香)	
65	2089.110	25756.900	0.820	B10	円	土器(内蓋)		160	2088.470	25756.720	0.960	C12	円	付(燻燻燻燻)	第121028
66	2089.160	25756.660	0.820	B10	円	土器(内蓋)		161	2088.710	25756.700	0.940	C12	円	(土蓋)	
67	2089.610	25756.630	0.900	B10	円	青銅(銀)		162	2088.810	25756.820	0.960	C12	円	付(燻燻)	
68	2089.610	25754.110	0.940	B10	円	鍍付(銀)		163	2088.900	25757.290	0.810	C12	円	付(燻燻燻燻)	
69	2089.460	25754.260	0.920	B10	円	鍍付(銀)		164	2088.270	25756.840	0.940	B12	円	付(土蓋)	
70	2089.170	25754.900	0.900	B10	円	鍍付(銀)		165	2088.470	25756.720	0.960	C12	円	青銅(銀)	
71	2089.130	25756.960	0.610	B10	円	土器(燻燻)		166	2088.710	25756.960	0.920	C12	円	付(燻燻燻燻)	
72	2089.430	25745.420	0.720	B0	円	鍍付(銀)		167	2088.810	25756.820	0.960	C12	円	付(燻燻燻燻)	
73	2089.610	25745.670	0.770	B0	円	鍍付(銀)		168	2088.620	25756.810	2.900	C12	円	付(燻燻燻燻)	
74	2087.260	25749.220	0.720	B10	円	鍍付(四角香)		169	2088.660	25756.760	0.940	C12	円	付(燻燻燻燻)	
75	2089.610	25745.660	0.960	B10	円	鍍付(不明)		170	2088.750	25756.960	0.920	C12	円	黄銅製(香)	
76	2089.960	25752.760	0.880	B10	円	古銅(銀)	第104028	171	2089.590	25756.820	2.900	C12	円	付(燻燻燻燻)	
77	2089.460	25750.220	0.910	B10	円	鍍付(銀)		172	2088.870	25756.820	0.960	C12	円	付(燻燻燻燻)	
78	2089.460	25753.000	0.870	B10	円	鍍付(銀)		173	2088.140	25756.540	2.980	C12	円	付(燻燻燻燻)	
79	2089.230	25756.960	0.820	B10	円	土器(燻燻)		174	2088.470	25756.610	0.960	C12	円	付(燻燻燻燻)	
80	2087.230	25754.220	0.900	C12	円	土器(内蓋)		175	2088.760	25755.960	0.900	C12	円	付(燻燻燻燻)	
81	2089.410	25751.140	0.960	C12	円	青銅(香・燻)		176	2089.960	25756.960	0.660	C12	円	付(四角燻燻)	
82	2088.520	25751.960	0.980	C12	円	土器(燻燻)		177	2089.670	25753.470	0.970	B12	円	付(燻燻燻燻)	
83	2089.410	25751.110	0.870	C12	円	鍍付(四角香)		178	2089.460	25755.810	1.180	B12	円	付(燻燻燻燻)	
84	2089.230	25756.970	0.900	C12	円	土器(内蓋)		179	2089.380	25753.110	0.930	B12	円	付(燻燻燻燻)	
85	2088.370	25757.660	0.650	C12	円	付(燻燻)		180	2089.960	25754.260	0.920	B12	円	青銅(銀)	
86	2087.520	25756.630	0.910	C12	円	付(燻燻)		181	2089.400	25756.810	0.900	B12	円	付(燻燻燻燻)	
87	2088.790	25751.640	0.610	C12	円	付(燻燻)		182	2088.290	25756.820	0.920	C12	円	青銅(銀)	
88	2089.520	25752.660	0.690	C12	円	付(燻燻)		183	2089.290	25756.960	0.960	C12	円	付(燻燻燻燻)	
89	2089.860	25752.720	0.810	C12	円	付(燻燻)		184	2088.810	25756.720	0.960	C12	円	付(燻燻燻燻)	
90	2088.960	25752.760	0.830	C12	円	付(燻燻)		185	2088.660	25756.960	0.960	B12	円	付(燻燻燻燻)	
91	2089.660	25752.760	0.830	C12	円	付(燻燻)		186	2088.730	25756.960	0.960	B12	円	付(燻燻燻燻)	
92	2089.660	25752.960	0.830	C12	円	付(燻燻)		187	2088.290	25756.720	0.940	C12	円	付(燻燻燻燻)	
93	2089.660	25752.960	0.830	C12	円	付(燻燻)		188	2088.730	25756.960	0.960	B12	円	付(燻燻燻燻)	
94	2089.660	25752.960	0.830	C12	円	付(燻燻)		189	2088.730	25756.960	0.960	B12	円	付(燻燻燻燻)	
95	2089.660	25752.960	0.830	C12	円	付(燻燻)		190	2088.730	25756.960	0.960	B12	円	付(燻燻燻燻)	
96	2089.660	25752.960	0.830	C12	円	付(燻燻)		191	2088.730	25756.960	0.960	B12	円	付(燻燻燻燻)	
97	2089.660	25752.960	0.830	C12	円	付(燻燻)		192	2088.730	25756.960	0.960	B12	円	付(燻燻燻燻)	
98	2089.660	25752.960	0.830	C12	円	付(燻燻)		193	2088.730	25756.960	0.960	B12	円	付(燻燻燻燻)	
99	2089.660	25752.960	0.830	C12	円	付(燻燻)		194	2088.730	25756.960	0.960	B12	円	付(燻燻燻燻)	
100	2089.660	25752.960	0.830	C12	円	付(燻燻)		195	2088.730	25756.960	0.960	B12	円	付(燻燻燻燻)	
101	2089.660	25752.960	0.830	C12	円	付(燻燻)		196	2088.730	25756.960	0.960	B12	円	付(燻燻燻燻)	
102	2089.660	25752.960	0.830	C12	円	付(燻燻)		197	2088.730	25756.960	0.960	B12	円	付(燻燻燻燻)	
103	2089.660	25752.960	0.830	C12	円	付(燻燻)		198	2088.730	25756.960	0.960	B12	円	付(燻燻燻燻)	
104	2089.660	25752.960	0.830	C12	円	付(燻燻)		199	2088.730	25756.960	0.960	B12	円	付(燻燻燻燻)	
105	2089.660	25752.960	0.830	C12	円	付(燻燻)		200	2088.730	25756.960	0.960	B12	円	付(燻燻燻燻)	
106	2089.660	25752.960	0.830	C12	円	付(燻燻)		201	2088.730	25756.960	0.960	B12	円	付(燻燻燻燻)	
107	2089.660	25752.960	0.830	C12	円	付(燻燻)		202	2088.730	25756.960	0.960	B12	円	付(燻燻燻燻)	
108	2089.660	25752.960	0.830	C12	円	付(燻燻)		203	2088.730	25756.960	0.960	B12	円	付(燻燻燻燻)	
109	2089.660	25752.960	0.830	C12	円	付(燻燻)		204	2088.730	25756.960	0.960	B12	円	付(燻燻燻燻)	
110	2089.660	25752.960	0.830	C12	円	付(燻燻)		205	2088.730	25756.960	0.960	B12	円	付(燻燻燻燻)	
111	2089.660	25752.960	0.830	C12	円	付(燻燻)		206	2088.730	25756.960	0.960	B1			

第11章-11 取上遺物一覧 (イ地区)

遺品番号	X	Y	Z	品名	遺構	遺物	図番番号	遺品番号	X	Y	Z	品名	遺構	遺物	図番番号
211	3085.000	2572.900	1.700	C11	イ	土器 (内箱)		307	3082.300	2573.400	3.000	B11	イ	土器 (下箱)	
214	3087.120	2576.600	2.500	C13	イ	(箱蓋)		301	3084C.200	2572.800	3.000	イ	黄銅 (線)	第100503	
215	3086.670	2575.800	3.000	B11	イ	黄銅線 (線)	第114013	307	3085.330	2573.400	3.000	B11	イ	土器 (内箱)	
216	3083.110	2576.170	3.000	B11	イ	木箱 (右蓋)	第110012	303	3082C.200	2572.900	3.000	B11	イ	木箱 (線)	第110012
217	3084.960	2574.810	3.120	B11	イ	木箱 (右蓋)		304	3084.200	2573.400	3.000	B11	イ	土器 (内箱蓋)	
218	3087.120	2577.230	3.000	イ	イ	6号 (線)	第100227	305	3083.670	2573.900	3.000	イ	イ	土器 (下箱)	
219	3087.200	2578.230	3.000	イ12	イ	刀子	第110012	306	3082.270	2573.400	3.100	B11	イ	土器 (内箱蓋)	
220	3086.400	2578.140	3.110	イ12	イ	土 (鎌倉) / 刀 (内箱蓋)		307	3085.330	2573.400	3.000	B11	イ	缶 (大鎌倉) / 小銅製 (線)	
221	3083.970	2575.790	3.000	B11	イ	土器 (内箱)		308	3081.630	2573.400	3.000	B11	イ	缶 (鎌倉)	
222	3081.330	2575.220	3.150	イ12	イ	黄銅線 (線)		309	3081.330	2574.900	3.010	B11	イ	缶 (鎌倉)	
223	3081.310	2575.460	3.000	イ12	イ	缶 (鎌倉)		310	3084.130	2573.400	3.000	B11	イ	刀 (下箱)	
225	3087.960	2578.530	3.150	イ12	イ	刀 (内箱蓋)		311	3082.250	2573.700	3.000	B11	イ	刀 (下箱)	
226	3088.190	2578.100	3.210	イ12	イ	黄銅 (線)		312	3086.470	2578.200	3.110	T12	イ	缶 (内箱蓋)	
227	3086.940	2576.490	3.200	イ12	イ	黄銅 (線)		313	3086.470	2578.240	3.010	T12	イ	土器 (土瓦)	
228	3088.960	2576.070	3.110	イ12	イ	(線蓋)		314	3086.470	2578.720	3.000	T12	イ	土器 (土瓦)	
229	3086.830	2578.060	3.230	イ13	イ	(土器)		315	3086.130	2578.140	2.900	イ12	イ	土器 (内箱)	
230	3089.420	2578.840	3.230	イ13	イ	缶 (鎌倉)		316	3084.120	2573.610	3.030	B11	イ	刀 (下箱)	
232	3089.250	2578.270	3.200	イ13	イ	黄銅線 (不明)		317	3087.120	2574.700	3.000	C11	イ	樽蓋	第114012
233	3088.200	2578.220	3.070	イ12	イ	土器 (土瓦)	第100511	318	3087.640	2574.300	2.930	C11	イ	黄銅 (線)	
234	3088.730	2578.200	3.170	イ12	イ	土器 (内箱蓋)		319	3087.710	2574.640	2.930	C11	イ	土器 (内箱) / 刀 (内箱蓋)	
235	3088.710	2578.630	3.160	イ12	イ	土器 (内箱蓋)		320	3089.940	2572.800	3.000	C12	イ	土器 (不明)	
236	3088.680	2578.920	3.150	イ12	イ	刀 (内箱蓋)		321	3088.190	2577.200	2.940	C12	イ	土器 (右蓋)	
237	3088.400	2578.960	3.140	イ12	イ	土器 (式倉) / 内箱蓋 / 刀 (内箱蓋)		322	3088.120	2577.600	2.900	C11	イ	刀 (下箱) / 缶 (下箱蓋)	
238	3088.570	2578.930	3.100	イ12	イ	缶 (鎌倉)		323	3087.230	2573.100	2.900	C11	イ	土器 (内箱蓋)	
239	3088.570	2578.930	3.100	イ12	イ	缶 (鎌倉)		324	3087.300	2573.970	2.900	C11	イ	(筒)	
240	3088.570	2578.930	3.100	イ12	イ	土器 (内箱蓋) / 刀 (内箱蓋)		325	3088.640	2573.260	2.940	C11	イ	土器 (内箱蓋)	第117017
241	3089.740	2578.200	3.140	イ12	イ	土器 (内箱蓋)		326	3088.000	2573.160	2.920	C11	イ	木箱 (線)	
242	3088.180	2578.730	3.180	イ12	イ	土器 (内箱蓋)		327	3087.980	2573.150	2.910	C11	イ	刀 (内箱蓋)	
243	3088.520	2578.760	3.100	イ12	イ	土器 (内箱蓋)		328	3087.430	2573.250	2.930	C11	イ	土器 (内箱蓋)	
244	3088.220	2578.760	3.100	イ12	イ	土器 (内箱蓋)		329	3088.480	2573.120	2.910	C11	イ	刀 (内箱蓋) / 鎌倉) / 式倉)	
245	3088.780	2578.760	3.180	イ12	イ	土器 (不明)		330	3089.110	2573.000	2.900	C11	イ	土器 (不明)	
246	3089.020	2578.210	3.170	イ12	イ	黄銅線 (線)	第117011	331	3088.960	2573.400	2.980	C11	イ	黄銅 (線)	第114012
247	3089.120	2578.610	3.180	イ12	イ	黄銅線 (線)		332	3088.120	2573.440	2.970	B11	イ	土器 (不明)	
248	3089.500	2578.730	3.220	イ12	イ	土器 (内箱蓋)		333	3088.960	2573.400	2.980	C11	イ	黄銅 (線)	第114012
249	3089.500	2578.660	3.200	イ12	イ	土器 (不明)		334	3088.960	2573.400	2.980	C11	イ	黄銅 (線)	第114012
250	3089.500	2578.660	3.200	イ12	イ	土器 (不明)		335	3089.230	2573.960	2.980	B11	イ	土器 (不明)	
251	3088.410	2578.960	3.060	イ13	イ	土器 (内箱)		336	3089.230	2573.960	2.970	B11	イ	土器 (不明)	
252	3089.230	2577.270	3.130	T12	イ	土器 (丸)	第100512	337	3089.230	2573.960	2.970	B11	イ	土器 (不明)	
253	3089.000	2578.570	3.190	C11	イ	樽蓋	第110012	341	3088.190	2573.650	3.020	B11	イ	土器 (不明)	
254	3089.870	2578.120	3.200	イ13	イ	土器 (不明)		342	3088.960	2573.400	2.970	B11	イ	土器 (不明)	
255	3089.610	2578.970	3.140	イ13	イ	(黄銅)		343	3088.730	2573.300	2.960	イ	イ	土器 (不明)	
256	3089.610	2578.730	3.020	イ13	イ	(黄銅)	第100512	344	3088.400	2573.400	2.900	B11	イ	(土器)	
257	3089.130	2578.900	3.100	イ13	イ	土器 (内箱)		345	3082.600	2573.440	3.070	B11	イ	黄銅線 (線)	
258	3089.630	2578.210	3.000	イ13	イ	土器 (内箱)		346	3082.320	2574.740	3.020	B11	イ	土器 (内箱蓋)	
259	3089.120	2578.960	3.000	イ13	イ	土器 (内箱蓋)		347	3088.630	2573.400	2.990	B11	イ	土器 (不明)	
260	3089.560	2582.470	3.170	イ13	イ	土器 (土器)		348	3086.740	2574.970	3.010	B11	イ	黄銅 (土器)	第114012
261	3086.400	2582.900	3.180	イ13	イ	土器 (内箱)		349	3089.410	2573.200	3.010	イ12	イ	土器 (内箱蓋)	
262	3086.660	2574.110	3.200	C11	イ	木箱		350	3089.300	2573.200	3.000	B12	イ	缶 (手鎌倉)	
263	3087.270	2573.130	3.240	C11	イ	内箱蓋 (木箱)	第110012	351	3089.100	2573.200	3.030	B12	イ	缶 (手鎌倉)	
264	3087.440	2573.870	3.200	C11	イ	黄銅 (線)		352	3089.120	2573.960	3.070	B12	イ	缶 (手鎌倉)	
265	3083.140	2574.300	3.110	B11	イ	(筒)		353	3086.760	2573.470	2.980	B12	イ	缶 (鎌倉)	
266	3087.800	2574.930	3.030	イ11	イ	磁片 (線)		354	3084.100	2573.430	3.000	B11	イ	土器 (線蓋)	
267	3087.630	2573.870	3.040	イ12	イ	磁片 (線)		355	3088.420	2574.280	3.030	イ11	イ	土器 (不明)	第114013
268	3087.210	2574.790	3.070	イ11	イ	磁片 (線)		356	3086.830	2573.430	3.010	イ11	イ	磁片 (筒)	
269	3085.610	2578.170	3.000	イ11	イ	土器 (内箱)		357	3088.500	2573.200	2.980	イ11	イ	土器 (不明)	
270	3085.150	2578.360	3.130	イ11	イ	黄銅線 (線)		358	3086.760	2573.610	3.000	イ11	イ	土器 (不明)	
271	3085.860	2573.870	3.130	イ11	イ	(筒)		359	3086.180	2573.060	3.070	イ11	イ	土器 (不明)	
272	3086.000	2578.160	3.170	T11	イ	土器 (内箱蓋)		360	3087.200	2573.110	3.020	イ11	イ	磁片 (線)	
273	3086.240	2578.250	3.200	T11	イ	土器 (内箱蓋)		361	3087.200	2574.270	3.040	イ11	イ	土器 (不明)	
274	3088.400	2578.130	3.180	T11	イ	刀 (内箱蓋)		362	3087.430	2573.960	3.030	イ11	イ	土器 (不明)	
275	3089.330	2578.210	3.220	T11	イ	黄銅 (線)		363	3087.470	2574.740	3.020	イ11	イ	土器 (不明)	
276	3089.250	2578.790	3.260	T11	イ	黄銅線 (線)	第110010	364	3087.960	2574.630	3.010	イ11	イ	磁片 (筒)	
277	3081.410	2578.540	3.230	T12	イ	土器 (内箱蓋)		365	3088.960	2574.210	3.030	イ11	イ	土器 (不明)	
278	3087.260	2578.640	3.060	イ12	イ	刀子	第110012	366	3088.730	2574.270	3.020	イ11	イ	土器 (不明)	
279	3088.410	2578.710	3.130	イ11	イ	缶 (木鎌倉)		367	3088.760	2573.960	3.010	イ11	イ	土器 (不明)	
280	3088.820	2573.610	3.020	イ11	イ	黄銅 (線)		368	3086.760	2573.290	3.070	イ12	イ	土器 (不明)	
281	3086.660	2578.240	3.010	イ11	イ	二枚以上有孔 (土器)		369	3086.430	2573.200	3.110	イ12	イ	缶 (木鎌倉)	
282	3088.640	2573.240	3.030	C11	イ	木箱 (右蓋)	第100512	370	3086.410	2573.110	3.110	イ12	イ	黄銅線 (線)	
283	3087.560	2572.840	3.060	C11	イ	磁片 (線) / 土器 (先鳥居)	第117011	371	3086.430	2573.200	3.030	イ12	イ	土器 (内箱蓋)	
284	3089.070	2573.910	3.070	C11	イ	黄銅線 (線)		372	3088.630	2573.960	3.060	C11	イ	刀 (内箱蓋)	
285	3089.130	2573.910	3.060	C11	イ	土器 (先鳥居)		373	3086.940	2573.640	3.060	イ12	イ	土器 (不明)	
286	3089.640	2573.860	3.080	C11	イ	土器 (先鳥居)		374	3086.830	2573.200	3.080	イ12	イ	土器 (不明)	
287	3089.720	2578.210	3.240	T11	イ	木箱 (線)	第114013	375	3086.710	2573.720	3.090	イ12	イ	土器 (不明)	
288	3089.240	2578.160	3.140	T12	イ	(線蓋)		376	3086.420	2573.960	3.070	イ12	イ	土器 (不明)	
289	3088.490	2578.730	3.200	イ11	イ	土器 (手鎌倉)	第114012	377	3086.710	2573.630	3.060	イ12	イ	土器 (不明)	
290	3089.700	2578.640	3.200	T12	イ	缶 (手鎌倉)		378	3086.410	2573.230	3.090	イ12	イ	土器 (不明)	
291	3089.610	2578.840	3.190	T12	イ	土器 (内箱蓋)		379	3086.600	2573.260	3.040	イ12	イ	土器 (不明)	
292	3089.670	2578.790	3.150	T12	イ	刀 (下箱) / 刀 (不明) / 刀 (不明)		380	3089.120	2573.640	3.060	イ12	イ	土器 (不明)	
293	3089.670	2578.630	3.150	T12	イ	土器 (内箱蓋)		381	3089.120	2573.640	3.060	イ12	イ	土器 (不明)	
294	3089.610	2578.500	3.130	T12	イ	土器 (内箱蓋)		382	3089.120	2573.640	3.060	イ12	イ	土器 (不明)	
295	3089.250	2578.650	3.130	T12	イ	刀 (内箱蓋)		383	3089.220	2573.750	3.130	C12	イ	刀 (不明)</	

第11表-12 取上遺物一覧(イ地区)

遺物番号	X	Y	Z	年代	品名	遺物	図面番号	遺物番号	X	Y	Z	年代	品名	遺物	図面番号
390	20885.230	25766.330	2.670	B14	イ	銅(環)		407	20897.330	25731.830	2.940	A11	イ	土器	
391	20924.540	25766.460	3.010	C14	イ	土器(瓦)		402	20947.820	25731.720	2.900	A11	イ	土器	
392	20894.670	25766.240	3.080	B13	イ	土器(瓦)		401	20898.130	25731.640	2.960	A11	イ	土器(瓦)	
393	20892.670	25733.630	3.960	T14	イ	銅(環)		400	20897.540	25731.540	3.000	A11	イ	土器(瓦)	
394	20892.250	25733.140	3.600	T14	イ	銅(環)		399	20898.140	25733.060	3.960	A11	イ	土器(瓦)	
395	20901.660	25733.760	3.600	T14	イ	銅(環)		398	20897.730	25733.360	3.970	A11	イ	土器(瓦)	
396	20902.540	25733.220	3.600	T14	イ	銅(環)		397	20897.540	25733.240	3.900	A11	イ	土器(瓦)	
397	20897.430	25773.870	3.150	C15	イ	銅(環)		396	20897.860	25733.340	3.900	A11	イ	土器(瓦)	
398	20897.430	25774.080	3.360	C15	イ	銅(環)		395	20897.610	25733.600	3.980	A11	イ	土器(瓦)	
399	20897.220	25774.720	3.230	C16	イ	銅(環)		394	20897.280	25733.700	3.940	A11	イ	土器(瓦)	
400	20893.020	25778.760	3.600	B14	イ	土器(瓦)		393	20897.120	25733.960	3.970	A11	イ	土器(瓦)	
401	20893.100	25779.520	3.230	B16	イ	土器(瓦)		392	20897.860	25733.970	3.910	A11	イ	土器(瓦)	
402	20893.520	25779.260	3.210	B16	イ	土器(瓦)		391	20893.220	25733.820	3.930	T14	イ	土器(瓦)	
403	20892.710	25779.920	3.560	B15	イ	土器(瓦)		390	20894.640	25737.520	3.930	T14	イ	銅(環)	
404	20892.280	25784.310	3.960	B15	イ	土器(瓦)		389	20894.300	25736.900	3.970	B12	イ	土器(瓦)	
405	20896.230	25787.960	3.140	B17	イ	土器(瓦)		388	20894.900	25737.440	3.910	T14	イ	銅(環)	
406	20895.960	25797.700	3.120	B17	イ	銅(環)		387	20894.980	25739.870	3.960	A10	イ	土器(瓦)	
407	20893.120	25797.120	3.080	T14	イ	銅(環)		386	20893.680	25747.260	3.980	A10	イ	土器(瓦)	
408	20893.180	25797.230	3.120	T14	イ	銅(環)		385	20893.680	25747.260	3.980	A10	イ	土器(瓦)	
409	20893.180	25797.230	3.110	T14	イ	銅(環)		384	20893.580	25747.520	3.970	A10	イ	土器(瓦)	
410	20894.620	25798.670	3.120	T14	イ	銅(環)		383	20894.610	25757.120	3.900	A12	イ	土器(瓦)	
411	20893.520	25799.520	3.160	T14	イ	銅(環)		382	20894.860	25760.960	3.960	A13	イ	土器(瓦)	
412	20893.190	25799.780	3.190	T14	イ	銅(環)		381	20893.180	25767.200	3.960	T14	イ	銅(環)	
413	20892.960	25799.340	3.130	T14	イ	銅(環)		380	20893.300	25767.440	3.960	T14	イ	銅(環)	
414	20892.960	25799.340	3.120	T14	イ	銅(環)		379	20893.300	25767.440	3.960	T14	イ	銅(環)	
415	20894.230	25798.960	3.080	T14	イ	銅(環)		378	20893.140	25768.960	3.140	B13	イ	土器(瓦)	
416	20892.770	25798.460	3.120	T14	イ	銅(環)		377	20894.620	25767.630	3.980	T14	イ	銅(環)	
417	20892.360	25798.460	3.030	T14	イ	銅(環)		376	20893.180	25767.200	3.960	T14	イ	銅(環)	
418	20892.160	25798.540	3.610	T14	イ	銅(環)		375	20893.260	25767.660	3.960	T14	イ	銅(環)	
419	20892.140	25798.680	3.610	T14	イ	銅(環)		374	20893.260	25767.660	3.960	T14	イ	銅(環)	
420	20892.440	25798.960	3.600	T14	イ	銅(環)		373	20893.300	25767.440	3.960	T14	イ	銅(環)	
421	20894.380	25798.710	3.190	T14	イ	銅(環)		372	20894.120	25767.200	3.960	T14	イ	銅(環)	
422	20894.210	25798.880	3.060	T14	イ	銅(環)		371	20894.120	25767.200	3.960	T14	イ	銅(環)	
423	20891.280	25797.810	3.140	T14	イ	銅(環)		370	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
424	20893.690	25798.960	3.960	T14	イ	銅(環)		369	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
425	20899.190	25768.610	3.140	A11	イ	土器(瓦)		368	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
426	20894.320	25768.130	3.980	B13	イ	土器(瓦)		367	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
427	20898.920	25754.000	2.970	A11	イ	土器(瓦)		366	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
428	20899.220	25754.410	3.060	A11	イ	土器(瓦)		365	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
429	20897.540	25754.310	2.970	A11	イ	土器(瓦)		364	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
430	20898.260	25762.520	3.650	A11	イ	土器(瓦)		363	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
431	20891.690	25768.190	3.100	T13	イ	土器(瓦)		362	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
432	20891.120	25768.960	3.110	T12	イ	土器(瓦)		361	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
433	20891.920	25769.080	3.080	B13	イ	土器(瓦)		360	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
434	20891.230	25764.340	3.110	B12	イ	土器(瓦)		359	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
435	20893.740	25766.960	3.080	B13	イ	土器(瓦)		358	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
436	20892.260	25761.960	3.030	A13	イ	土器(瓦)		357	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
437	20894.250	25762.260	3.160	B11	イ	土器(瓦)		356	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
438	20895.960	25762.260	3.160	B11	イ	土器(瓦)		355	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
439	20895.960	25762.260	3.160	B11	イ	土器(瓦)		354	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
440	20895.960	25762.260	3.160	B11	イ	土器(瓦)		353	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
441	20895.960	25762.260	3.160	B11	イ	土器(瓦)		352	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
442	20895.960	25762.260	3.160	B11	イ	土器(瓦)		351	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
443	20895.960	25762.260	3.160	B11	イ	土器(瓦)		350	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
444	20895.960	25762.260	3.160	B11	イ	土器(瓦)		349	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
445	20895.960	25762.260	3.160	B11	イ	土器(瓦)		348	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
446	20895.960	25762.260	3.160	B11	イ	土器(瓦)		347	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
447	20895.960	25762.260	3.160	B11	イ	土器(瓦)		346	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
448	20895.960	25762.260	3.160	B11	イ	土器(瓦)		345	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
449	20895.960	25762.260	3.160	B11	イ	土器(瓦)		344	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
450	20894.620	25768.510	3.920	B13	イ	土器(瓦)		343	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
451	20894.740	25768.410	3.920	B13	イ	土器(瓦)		342	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
452	20894.160	25767.860	3.960	B12	イ	土器(瓦)		341	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
453	20894.680	25768.720	3.920	B11	イ	土器(瓦)		340	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
454	20894.680	25768.720	3.920	B11	イ	土器(瓦)		339	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
455	20894.680	25768.720	3.920	B11	イ	土器(瓦)		338	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
456	20894.680	25768.720	3.920	B11	イ	土器(瓦)		337	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
457	20894.680	25768.720	3.920	B11	イ	土器(瓦)		336	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
458	20894.680	25768.720	3.920	B11	イ	土器(瓦)		335	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
459	20894.680	25768.720	3.920	B11	イ	土器(瓦)		334	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
460	20894.680	25768.720	3.920	B11	イ	土器(瓦)		333	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
461	20894.680	25768.720	3.920	B11	イ	土器(瓦)		332	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
462	20894.680	25768.720	3.920	B11	イ	土器(瓦)		331	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
463	20894.680	25768.720	3.920	B11	イ	土器(瓦)		330	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
464	20894.680	25768.720	3.920	B11	イ	土器(瓦)		329	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
465	20894.680	25768.720	3.920	B11	イ	土器(瓦)		328	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
466	20894.680	25768.720	3.920	B11	イ	土器(瓦)		327	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
467	20894.680	25768.720	3.920	B11	イ	土器(瓦)		326	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
468	20894.680	25768.720	3.920	B11	イ	土器(瓦)		325	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
469	20894.680	25768.720	3.920	B11	イ	土器(瓦)		324	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
470	20894.680	25768.720	3.920	B11	イ	土器(瓦)		323	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ	銅(環)	
471	20894.680	25768.720	3.920	B11	イ	土器(瓦)		322	20894.280	25768.740	3.960	T14	イ		

第11表-13 取上遺物一覧（イ地区）

取上 番号	X	Y	Z	小 寸	地況	遺構	遺物	図番号
309	2050.230	2575.990	2.910	512	イ	土層 (Ⅱ)	土層 (Ⅱ)	図000160
309	2050.210	2575.960	2.900	512	イ	土層 (Ⅱ)	土層 (Ⅱ)	図000160
310	2050.230	2576.060	2.910	512	イ	土層 (Ⅱ)	土層 (Ⅱ)	図000160
311	2050.230	2575.940	2.910	512	イ	土層 (Ⅱ)	土層 (Ⅱ)	図000160
312	2050.230	2575.990	2.900	512	イ	土層 (Ⅱ)	土層 (Ⅱ)	図000160
313	2050.230	2575.930	2.900	512	イ	土層 (Ⅱ)	土層 (Ⅱ)	図000160
314	2050.230	2575.970	2.900	512	イ	土層 (Ⅱ)	土層 (Ⅱ)	図000160

取上 番号	X	Y	Z	小 寸	地況	遺構	遺物	図番号
376	2067.900	2573.200	2.930	411	イ	土層 (Ⅰ)	土層 (Ⅰ)	図000161
377	2067.740	2573.260	2.930	411	イ	土層 (Ⅰ)	土層 (Ⅰ)	図000161
378	2066.100	2574.800	2.960	714	イ	自然露	自然露	図000166
379	2062.780	2576.670	2.900	714	イ	土層 (Ⅱ)	土層 (Ⅱ)	図000166
380	2066.100	2576.180	2.920	512	イ	土層 (Ⅱ)	土層 (Ⅱ)	図000166
381	2067.760	2573.230	2.790	411	イ	土層 (Ⅰ)	土層 (Ⅰ)	図000166
382	2067.900	2574.230	2.760	411	イ	土層 (Ⅰ)	土層 (Ⅰ)	図000166

取上遺物一覧（ハ・ニ地区）

取上 番号	X	Y	Z	小 寸	地況	遺構	出土遺物	図番号
1	2044.473	2578.052	3.911	832	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000123
2	2046.794	2576.363	3.606	832	イ	倉	倉	図000124
3	2047.081	2578.613	3.593	832	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
4	2048.668	2576.712	3.583	832	イ	倉	倉	図000124
5	2049.533	2578.228	3.584	832	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
6	2048.567	2578.641	3.565	832	イ	倉	倉	図000124
7	2048.406	2576.472	3.672	832	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
8	2049.770	2579.613	3.579	832	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
9	2049.775	2576.230	3.595	832	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
10	2049.616	2578.999	3.614	832	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
11	2048.724	2577.971	3.588	832	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
12	2046.653	2578.986	3.678	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
13	2045.620	2578.008	3.678	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
14	2045.764	2576.196	3.688	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
15	2045.744	2578.277	3.672	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
16	2045.438	2578.163	3.791	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
17	2045.616	2578.642	3.669	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
18	2045.617	2578.781	3.714	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
19	2045.660	2578.148	3.661	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
20	2045.427	2578.257	3.674	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
21	2047.206	2578.679	3.631	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
22	2042.132	2576.673	3.669	514	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
23	2041.892	2576.788	3.671	514	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
24	2041.474	2574.089	3.569	514	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
25	2041.626	2576.960	3.643	514	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
26	2041.457	2576.637	3.528	514	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
27	2040.489	2576.324	3.637	514	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
28	2040.423	2576.478	3.611	514	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
29	2041.268	2574.867	3.668	514	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
30	2042.220	2574.274	3.679	514	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
31	2042.902	2574.500	3.688	514	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
32	2042.667	2574.967	3.613	514	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
33	2042.859	2574.962	3.616	514	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
34	2041.138	2573.966	3.676	514	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
35	2041.118	2576.828	3.644	514	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
36	2041.902	2576.871	3.627	514	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
37	2043.740	2576.421	3.667	514	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
38	2042.449	2576.517	3.613	514	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
39	2040.753	2576.731	3.672	514	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
40	2047.284	2576.064	3.582	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
41	2048.230	2576.623	3.586	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
42	2041.680	2573.260	3.696	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
43	2041.582	2573.465	3.599	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
44	2041.268	2574.381	3.662	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
45	2041.810	2573.163	3.674	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
46	2041.865	2573.633	3.666	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
47	2042.971	2573.698	3.665	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
48	2043.902	2573.465	3.664	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
49	2043.370	2573.724	3.681	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
50	2042.833	2573.668	3.672	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
51	2042.884	2573.787	3.660	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
52	2043.168	2573.793	3.671	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
53	2043.079	2573.817	3.677	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
54	2042.989	2573.813	3.677	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
55	2042.963	2573.757	3.677	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
56	2043.118	2573.640	3.675	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
57	2042.833	2573.627	3.662	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
58	2042.828	2573.761	3.656	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
59	2043.653	2573.618	3.687	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
60	2043.687	2573.586	3.672	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
61	2043.206	2573.473	3.611	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
62	2043.211	2573.524	3.609	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
63	2043.226	2573.625	3.626	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
64	2043.492	2573.749	3.674	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
65	2043.196	2573.638	3.662	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
66	2043.318	2573.583	3.636	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
67	2043.277	2573.517	3.667	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
68	2043.628	2573.391	3.660	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
69	2043.968	2573.628	3.669	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
70	2044.835	2573.619	3.686	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
71	2044.623	2573.619	3.628	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
72	2043.802	2573.665	3.588	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
73	2043.124	2573.867	3.670	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
74	2043.194	2574.859	3.668	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
75	2044.201	2574.814	3.640	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
76	2043.270	2574.883	3.666	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
77	2043.270	2574.966	3.679	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
78	2043.999	2574.922	3.680	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
79	2043.619	2574.967	3.531	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124
80	2043.144	2574.240	3.539	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000124

取上 番号	X	Y	Z	小 寸	地況	遺構	出土遺物	図番号
81	2063.314	2573.608	3.179	519	イ	倉	倉	図000125
82	2064.355	2573.225	3.126	519	イ	倉	倉	図000125
83	2066.678	2573.267	3.676	914	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000125
84	2067.141	2573.227	3.664	914	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000125
86	2066.116	2573.949	3.978	411	イ	土層 (Ⅰ)イ	土層 (Ⅰ)イ	図000125
87	2066.240	2573.840	2.960	914	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000125
88	2065.329	2573.411	3.661	914	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000125
89	2063.483	2573.308	3.628	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000125
90	2062.455	2573.449	3.686	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000125
91	2062.968	2573.365	3.617	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000125
92	2062.907	2573.478	3.609	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000125
93	2063.183	2573.655	3.619	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000125
94	2063.679	2573.252	3.667	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000125
95	2063.388	2573.648	3.648	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000125
96	2064.411	2573.944	3.680	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000125
97	2064.470	2573.666	3.687	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000125
98	2063.618	2573.963	3.679	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000125
99	2063.615	2576.825	3.168	812	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000125
100	2063.589	2577.119	3.152	812	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000125
101	2063.730	2577.429	3.186	812	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000125
102	2063.085	2577.084	3.129	812	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000125
103	2063.542	2576.979	3.233	812	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000125
104	2061.237	2576.795	3.625	812	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000125
105	2061.764	2574.145	3.643	812	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000125
106	2062.537	2573.537	3.965	812	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000125
107	2062.235	2573.619	3.628	812	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000125
108	2061.718	2574.848	3.939	814	イ	土層 (Ⅱ)イ	土層 (Ⅱ)イ	図000125
10								

第11表-14 取上遺物一覧(ハ・二地区)

遺品番号	X	Y	Z	形状	遺物	出土遺物	図番番号
163	20314.366	25754.452	3.913	H11	片打ノミ		
164	20314.366	25754.452	3.914	H11	片打ノミ		
165	20314.132	25754.600	3.904	H11	片打ノミ		
166	20316.115	25754.393	3.510	Q11	骨		第10図11
167	20316.276	25754.606	3.120	Q11	骨		
168	20316.115	25754.393	3.508	Q11	片打ノミ(取寄)		
169	20316.473	25754.373	3.672	Q11	片打ノミ		
170	20316.115	25754.602	3.907	Q11	土師器		
188	20313.965	25753.976	3.917	Q11	土器(内器)		第10図17
179	20316.549	25754.544	3.646	Q11	片打ノミ		
171	20316.787	25754.308	3.991	Q11	片打ノミ(取寄)		
172	20316.441	25754.369	3.540	Q12	片打ノミ(骨) 卑土		
173	20316.778	25753.611	3.107	Q12	片打ノミ(取寄)		
174	20316.115	25754.136	3.913	Q12	片打ノミ		
175	20316.917	25752.813	3.924	H11	土器(内器)		
176	20316.539	25754.112	3.959	Q11	土器		
177	20316.689	25754.699	3.454	Q11	土師器(片打ノミ)		第10図4
178	20316.169	25752.297	3.695	F11	片打ノミ(取寄)		
179	20316.543	25751.211	3.649	Q11	土器(内器)		第10図115
180	20316.526	25751.676	3.549	H11	土器(内器)		
181	20316.388	25758.911	3.790	H11	土器(内器)		第10図41
182	20316.361	25751.522	3.002	S10	土器		
183	20316.545	25751.507	3.990	S10	土器(内器)		第10図79
184	20316.529	25751.419	3.961	S10	土器(内器)		第10図79
185	20316.446	25751.566	3.971	S10	土器(内器)		第10図79
186	20316.623	25751.964	3.980	S10	土器(内器)		第10図79
187	20316.613	25751.964	3.980	S10	土器(内器)		第10図79
188	20316.613	25751.969	3.984	S10	土器(内器)		第10図79
189	20316.713	25751.219	3.976	S10	土器(内器)		第10図79
190	20316.683	25751.219	3.977	S10	土器(内器)		第10図79
191	20316.622	25751.218	3.981	S10	土器(内器)		第10図79
191	20316.599	25751.553	3.986	S10	土器(内器)		第10図79
192	20316.520	25751.433	3.993	S10	土器(内器)		第10図79
193	20316.523	25751.419	3.982	S10	土器(内器)		第10図79
194	20316.517	25751.479	3.981	S10	土器(内器)		第10図79
195	20316.502	25751.909	3.984	S10	土器(内器)		第10図79
196	20316.513	25751.574	3.983	S10	土器(内器)		第10図79
197	20316.571	25751.280	3.975	S10	土器(内器)		第10図79
198	20316.536	25751.263	3.971	S10	土器		
199	20316.511	25751.253	3.976	S10	土器		
200	20316.442	25751.909	3.973	S10	土器(内器)		第10図79
201	20316.470	25751.527	3.969	S10	土器(内器)		第10図79
202	20316.497	25751.283	3.975	S10	土器(内器)		第10図79
203	20316.516	25751.362	3.972	S10	土器(内器)		第10図79
204	20316.477	25751.270	3.971	S10	土器(内器)		第10図79
205	20316.187	25758.913	3.923	Q11	片打ノミ		
206	20316.496	25751.527	3.616	S10	土器(1.0.2.1)		第10図200
207	20316.036	25758.029	3.963	H11	土器(1.0.2.1)		第10図114
208	20314.669	25758.113	3.626	T11	土器		
209	20314.167	25758.141	3.611	T11	土器(内器)		
210	20314.812	25758.625	3.618	T11	土器(内器)		第10図47
211	20314.810	25758.275	3.605	T11	土器(内器)		第10図47
212	20314.895	25758.815	3.563	F10	片打ノミ		
213	20314.296	25759.411	3.625	T10	土器(内器)		
214	20314.130	25759.411	3.617	T10	土器(内器)		第10図47
215	20314.136	25759.516	3.599	T10	土器(内器)		第10図47
216	20314.190	25759.706	3.606	F10	土器(内器)		第10図47
217	20314.217	25759.720	3.597	F10	土器(内器)		第10図47
218	20316.286	25755.112	3.962	08	土器(内器)		第10図96
219	20316.633	25755.699	3.987	08	土器(内器)		第10図96
220	20316.639	25755.999	3.928	08	土器(内器)		
221	20316.067	25755.914	3.930	08	土器		
222	20316.955	25755.471	3.934	08	土器		
223	20316.976	25755.963	3.919	08	土器		
224	20316.703	25755.911	3.966	08	土器(内器)		
225	20316.660	25756.409	3.999	08	土器(内器)		
226	20316.911	25756.305	3.972	08	土器		
227	20316.977	25756.212	3.990	08	土器(内器)		
228	20316.252	25756.429	3.981	08	土器(内器)		
229	20316.684	25756.519	3.962	08	土器(内器+Y形)		
230	20316.523	25756.667	3.957	08	土器(内器+Y形)		
231	20316.096	25756.353	3.959	08	土器(内器+Y形)		
232	20314.945	25756.407	3.919	H9	土師器		
233	20316.277	25756.812	3.920	08	土器		
234	20315.682	25756.534	3.948	08	片打ノミ		
235	20319.762	25753.213	3.819	H7	土器(内器)		第10図45
236	20316.274	25754.633	3.874	07	片打ノミ(取寄)		
237	20314.966	25757.196	3.875	H9	土器(内器)		
238	20316.872	25758.842	3.905	H9	土器(内器)		
239	20316.512	25758.689	3.963	S10	土器(内器)		第10図43
240	20316.343	25758.962	3.981	S10	土器		
241	20316.276	25759.286	3.964	S10	土器(内器)		
242	20316.217	25759.454	3.995	S10	土器(内器)		
243	20316.938	25759.112	3.960	08	土器(内器)		
244	20316.967	25759.600	3.999	S10	片打ノミ		
245	20316.986	25759.428	3.003	S10	片打ノミ		
246	20316.950	25759.469	3.919	S10	片打ノミ		
247	20316.536	25759.262	3.939	S10	土器		
248	20316.232	25759.609	3.963	T10	土器(内器)		
249	20314.219	25759.708	3.966	T10	土器(内器)		第10図46
250	20316.476	25759.648	3.969	T10	土器(内器)		第10図47
251	20316.969	25759.839	3.908	T10	土器(内器)		第10図47

遺品番号	X	Y	Z	形状	遺物	出土遺物	図番番号
252	20316.989	25759.897	3.963	T10	土器		
253	20316.502	25759.100	3.949	T11	土器(内器)		
254	20314.674	25759.166	3.696	T11	土器		
255	20316.263	25759.436	3.006	T10	土器(内器)		
256	20316.641	25759.793	3.956	T10	土器		
257	20316.114	25759.634	3.976	H11	土器(1.0.2.1)		第10図19
258	20316.200	25759.538	3.938	S11	片打ノミ		
259	20316.236	25757.428	3.919	S10	片打ノミ		
260	20316.549	25757.476	3.911	S10	片打ノミ		
261	20316.539	25759.260	3.964	S12	土器		
262	20316.511	25759.644	3.966	S11	土器(内器)		
263	20316.441	25754.714	3.919	S11	土器(内器)		第10図30
264	20316.253	25756.654	3.917	08	土器(内器+Y形)		
265	20316.231	25755.963	3.980	08	土器(内器)		第10図96
266	20316.989	25755.349	3.996	08	土器(内器)		
267	20316.964	25755.269	3.876	08	骨		
268	20314.993	25756.002	3.880	H6	土器(内器)		第10図45
269	20314.984	25756.829	3.902	H6	土器		
270	20314.572	25756.426	3.792	H6	片打ノミ(取寄)		
271	20316.967	25755.473	3.864	S10	土器(内器)		第10図79
272	20316.987	25755.367	3.939	S10	土器(内器)		第10図79
273	20316.987	25755.391	3.962	S10	土器(内器)		第10図79
274	20316.973	25755.313	3.949	S10	土器(内器)		第10図79
275	20316.973	25755.244	3.960	S10	土器(内器)		第10図79
276	20316.989	25755.283	3.965	S10	土器(内器)		第10図79
277	20316.986	25755.311	3.968	S10	土器(内器)		第10図79
278	20316.980	25755.246	3.959	S10	土器(内器)		第10図79
279	20316.980	25755.267	3.962	S10	土器(内器)		第10図79
280	20316.713	25755.133	3.958	S10	土器(内器)		第10図79
281	20316.989	25755.264	3.964	S10	土器(内器)		第10図79
282	20316.636	25755.293	3.962	S10	土器(内器)		第10図79
283	20316.689	25755.213	3.959	S10	土器(内器)		第10図79
284	20316.536	25755.486	3.966	S10	土器(内器)		第10図79
285	20316.734	25755.634	3.958	S10	土器(内器)		第10図79
286	20316.973	25755.189	3.969	S10	土器(内器)		第10図79
287	20316.872	25755.633	3.999	S10	土器(内器)		第10図79
288	20316.290	25758.065	3.971	S10	土器(内器)		第10図79
289	20311.623	25758.539	3.716	H6	土器(内器)		第10図79
290	20316.241	25757.181	3.842	S10	土器(内器)		第10図79
291	20311.901	25758.189	3.969	08	土器(内器)		第10図79
292	20312.418	25759.653	3.853	H10	土器(内器)		第10図79
293	20311.655	25759.360	3.949	H11	土器(内器)		第10図79
294	20316.230	25757.913	3.921	Q10	土器(内器)		第10図79
295	20311.990	25759.229	3.912	H10	土器(内器)		第10図79
296	20314.943	25758.295	3.716	H6	土器(内器)		第10図79
297	20316.981	25758.279	3.938	H11	土器(内器)		第10図79
298	20316.842	25758.519	3.929	S10	土器(内器)		第10図79
299	20316.772	25755.966	3.912	S10	土器(内器)		第10図79
300	20316.104	25755.627	3.932	S10	土器(内器)		第10図79
301	20316.296	25755.521	3.917	S10	土器(内器)		第10図79
302	20316.186	25756.057	3.886	S10	土器(内器)		第10図79
303	20316.191	25755.964	3.936	S10	土器		
304	20311.279	25757.001	3.638	F10	片打ノミ		
305	20311.272	25757.926	3.969	F10	片打ノミ		
306	20316.533	25757.762	3.741	H6	土器(内器)		第10図79
307	20311.276	25758.473	3.759	H6	土器(内器)		第10図79
308	20311.275	25758.475	3.759	H6	土器		
309	20316.280	25758.966	3.759	08	片打ノミ		
310	20316.287	25759.453	3.784	08	土器(1.0.2.1)		第10図43
311	20317.245	25757.294	3.274	06	土器		
312	20316.188						

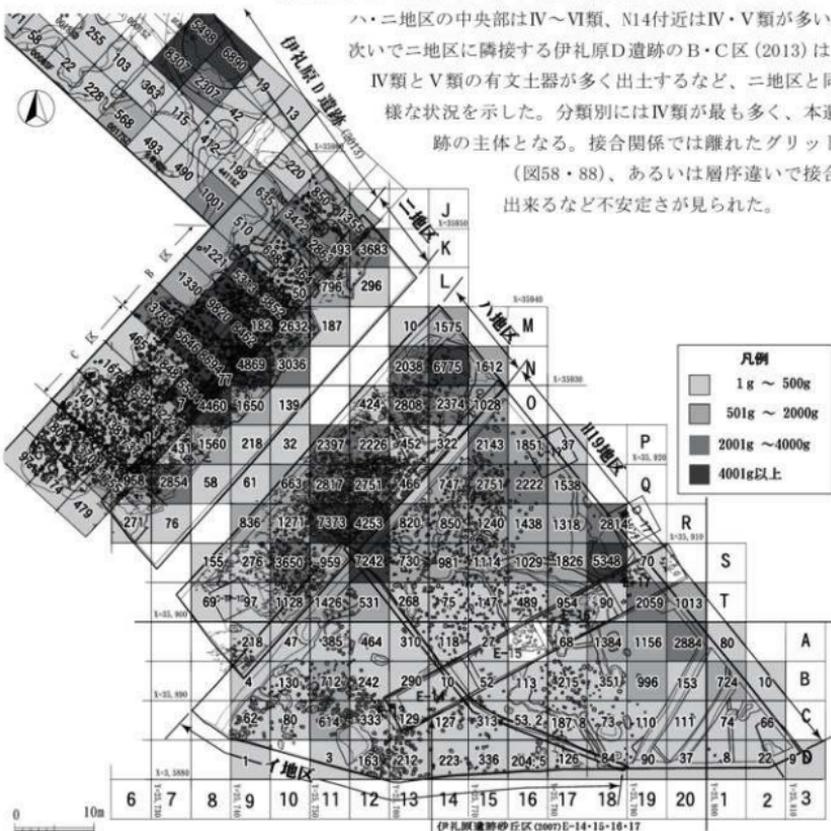
## 2. 出土遺物

貝塚時代後期の出土遺物は土器、石器、貝製品、骨製品、土製品が出土した。大まかな出土量は、土器15コンテナ、石器20コンテナ、貝製品23コンテナ、骨製品5コンテナで、人工遺物では、土器が最も多い。自然遺物では貝類が189コンテナ、骨類10コンテナ出土している。

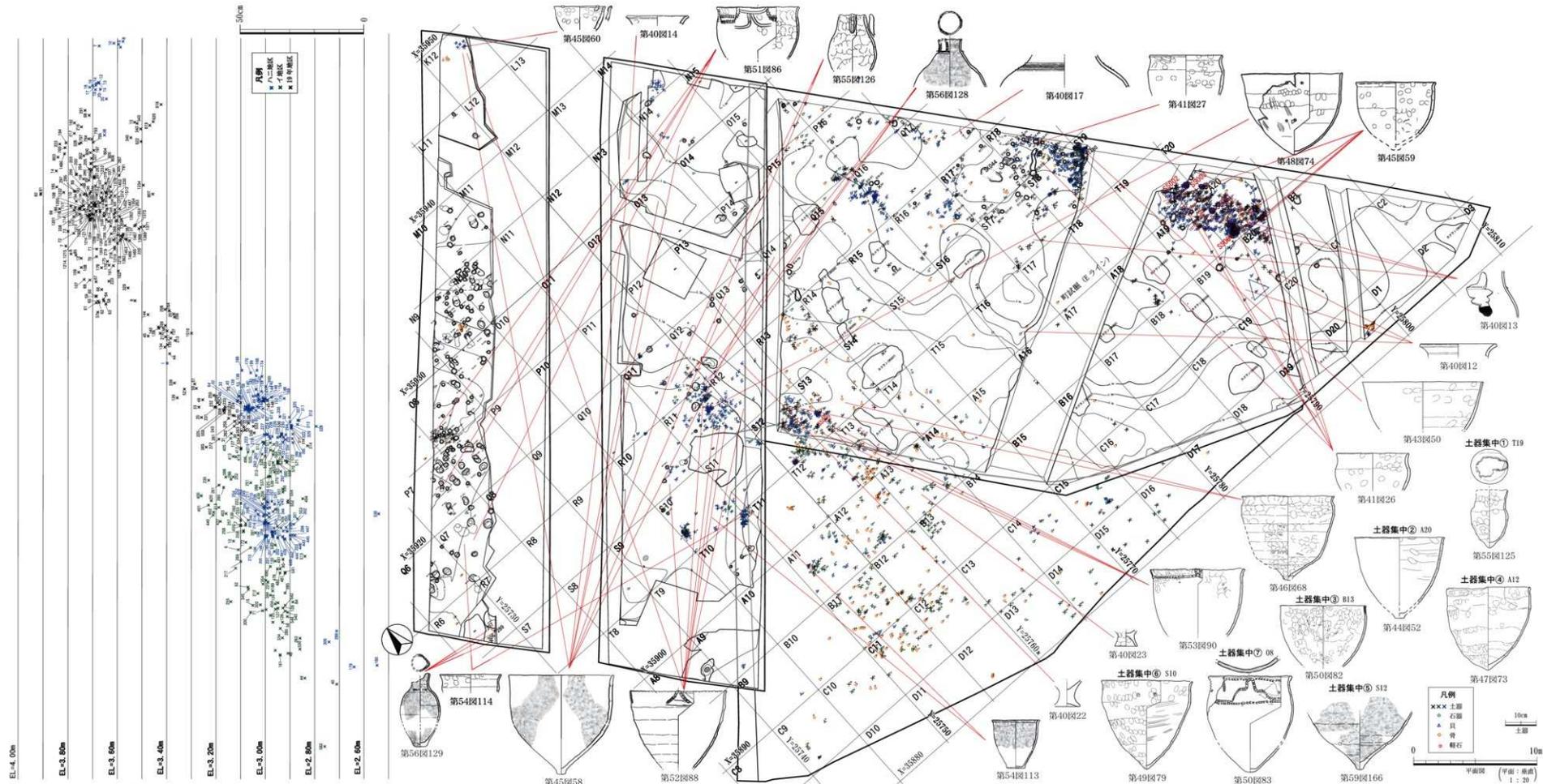
### (1) 土器

土器は15コンテナ、注記記入時の重量は約128kgとかなりの量が検出された。貝塚時代後期の土器が多く、他に貝塚時代前期の土器や搬入土器などが少量得られた。注記記入時に量った重量をグリッド別に平面分布に示し(第35図)、隣接する伊礼原D遺跡も加えて遺物整理の指標とした。接合を試みたところ、復元土器が14個体、他にも形状の分かるものが多数見られた。第12表に口縁・胴部の出土量、第36図に調査時に点上げた土器の平面分布と垂直分布を図示し、本遺跡で出土した貝塚時代後期の土器をⅠ～Ⅶ類に分類した。H19地区 A20辺りは搬入土器とⅠ・Ⅱ類、S18はⅡ・Ⅳ類、Q15辺りはⅢ・Ⅳ類が多く、イ地区は出土量が全般的に少ない。

ハ・ニ地区の中央部はⅣ～Ⅵ類、N14付近はⅣ・Ⅴ類が多い。次いでニ地区に隣接する伊礼原D遺跡のB・C区(2013)は、Ⅳ類とⅤ類の有文土器が多く出土するなど、ニ地区と同様な状況を示した。分類別にはⅣ類が最も多く、本遺跡の主体となる。接合関係では離れたグリッド(図58・88)、あるいは層序違いで接合出来るなど不安定さが見られた。



第35図 土器(重量)平面分布



第36図 土器平面・垂直分布 (土器接合、遺物取り上げ)

(土器以外平面分布のみ表記、詳細は第11表を参照)



## <Ⅰ群土器>

本遺跡からⅠ群土器が35点と僅かに出土した。貝塚時代前期の土器で、搬入土器や在地の土器等である。第Ⅳ層から出土しているが、同層はⅡ群土器を主体とする層で、Ⅰ群土器の出土は量的にも少なく、伊礼原遺跡砂丘区との関連が考えられる。搬入土器、在地土器の順で記述する。

### 1) 搬入土器

搬入土器は12点の出土で、第39図1～5に5点を図示した。文様や胎土が伊礼原D遺跡(2013)で出土した搬入土器と類似する。小破片がほとんどで接合は出来ないが、R13・14の第Ⅳ層からまとまって出土し、図示した5点とも同一個体の可能性がある。図1～3は口縁部で、口唇を平らに整え、外面に細凸帯文を直線的又は曲線的に貼り付ける。図4・5は胴部で同様な文様を施す。全体的に器色は暗褐色を呈し、器厚も6mmとほぼ同じである。

### 2) 在地土器

在地土器はT17やT12などから23点が得られ、図6～11に6点を図示した。図6は外面に条痕が見られ、室川下層式土器あるいは条痕文土器と思われる。図7・8は面縄前庭式土器で、前者は凸帯文上に刺突文、その直下に沈線文を縦位に施すものである。後者は摩耗が著しいが、横位に凸帯文を貼り付けており、形状から壺の可能性も考えられる。図9は胴部で、外面に綾杉状の沈線文を施したもので、仲泊式土器である。図10・11は型式不明の土器である。前者は外面に横位の沈線文と刻み文、後者は外面に斜・曲沈線と微弱な凸帯文(上に刺突文)の組み合わせである。

## <Ⅱ群土器>

Ⅱ群土器は貝塚時代後期の時期に属するもので、口縁部・胴部の総数は搬入土器も含めて8800点の出土である。Ⅰ群と同じく搬入土器と在地土器に分類し、前者は僅か53点、他は全て後者の在地土器である。出土層位を見ると第Ⅳ層出土が6006点と最も多く、次いで第Ⅲ層出土が1452点と多い。ハ・ニ地区はグスク時代の柱穴群によって攪乱を受け、第Ⅲ層から出土するものが多い。第Ⅴ層は636点と少量の出土で、地区別ではH19地区出土が最も多く、他の地区は少ない。中でも弥生土器とⅠ類土器は、H19地区において第Ⅴ層出土が多く見られた。若干時期差があるものと思われる。第37・38図の分類別の平面分布から弥生土器・Ⅰ類はH19地区のA20を中心とするその周辺、Ⅱ類はA20周辺とS18付近、Ⅲ類はH19地区のQ16を中心とするその周辺での出土が多い。Ⅳ類はハ・ニ地区の中央部とN14付近、そしてR・S18からの出土が主で、S12・13の土器集中部では第Ⅳ・Ⅴ層出土の土器が接合出来るなど、層序が不安定である。Ⅴ類はⅣ類とほぼ同じ、Ⅵ類はH19地区ではほとんど出土せず、ニ地区のO8、ハ地区のS10、イ地区T11で多い。始めに、搬入品である弥生土器から記述する。

### 1) 搬入土器

搬入である弥生土器は口縁部、胴部、底部をまとめて記述するが、底部の集計は別にした。口縁部は48点、胴部は5点、底部は5点の出土で、図12～24に図示した。H19地区のA20を中心に第Ⅳ・Ⅴ層から出土する。多くは第Ⅴ層出土で、図12・13の一部は異なる層の破片が接合出来た。弥生土器の周辺からはⅠ・Ⅱ類の土器が多数出土し、第Ⅴ層の遺構である貝集積からもⅠ類、Ⅱ類の土器が出土していることなどから、どちらかの土器と同時期であることは確かである。第37図の分類別の平面分布、第36図の点上げ平面分布と垂直分布からⅠ類土器の出土範囲やレベルの深度(3.50～3.65m)が重なり、Ⅱ類は僅かながらその上部(3.65～3.7m)で出土している。層位的には弥生土器とⅠ類は同じ第Ⅴ層からの出土が多数であるが、接合関係において層序の不安定さが見られることから、今の段階では保留としたい。器種は壺、甕、平底・脚台の底部が見られ、時期的には弥

生中期頃と思われる。その順に記述する。

図12・13は壺で胎土や出土地、接合関係などから、同一個体と思われるものである。内面のハグレにより器厚は若干異なる。第36図の平面分布を見ると、ほとんどはA20とその近くで出土するが、中には20～30m程も離れたT16からも出土している。図12は口唇に調整痕が残り、僅かに凹みが見られる。外面はナデが丁寧で、一部ミガキが残り、内面は器面が剥がれている。図13は三角状の凸帯文が1条貼り付けられ、胴部が貝集積のSS01・03から出土している。

図14・15は口唇部がやや丸みを呈する壺で、胎土や器面調整が同じであることから、図16の胴部も同一個体と思われる。外面には刷毛目が見られ、内面は剥がれている。図12とは口唇部形状や胎土が若干異なる。図17・18の胴部2点も壺で、前者は5条の三角状凸帯文を圍繞、後者は破損が大きく、現存で2条の三角状凸帯文を圍繞する。

図19・20の2点は甕の口縁部である。前者は口唇部に粘土を貼り付けて平らに強調し、その下に1条の三角状凸帯文が圍繞する。後者も粘土を貼り付けて幅広い口唇部を呈し、平らな面を作る。前者に比べて口唇部はより幅広い、胎土も異なる。破片が小さく、口縁部外端も破損していることからはっきりはしないが、新里氏によれば、須玖式土器の可能性があるとのご教示が得られた。

底部は平底と脚台が得られた。前者は図21の1点で、後述する底部分類のDeである。底厚が3cmと厚く、朝顔状に外反する。若干上げ底状を呈し、胎土に粗めの角閃石や石英を多量に含む。外底面の一部には煤が見られ、内面は器面が剥がれている。弥生中期前半頃の甕の底部と思われる。脚台は5点が得られ、そのうち3点を図示した。図22は中実脚台で、底厚が4.7cmで、外底面は上げ底を呈する。底部分類のFaである。外面はナデが丁寧に施され、角は丸みを呈する。弥生中期頃の甕の底部と思われる。

図23・24は中空脚台で、底部分類のFbである。胎土から前者はスセン當式土器、後者は脚台を模倣した在地土器と思われる。2点とも脚台の底面は平らに調整されている。図24は在地の胎土であるが、形状から搬入の脚台に集計している。

## 2) 在地土器

在地土器は本遺跡の主体となる土器群で、口縁部・胴部と底部に分けて分類、集計を行った。

### ①口縁部・胴部

復元土器も合わせて口縁部1058点、胴部7689点が得られ、総計8747点の出土である。主な口縁部・胴部を図25～143に図示し、第12表に口縁部・胴部の出土量、第15表に観察一覧をまとめた。口縁部は前述したようにⅠ～Ⅶ類に分類し、図示した頸部や胴部も口縁部の分類に従った。分類出来ない破片は不明として扱った。第36図に示した平面分布と垂直分布を見ると、山手側は標高3.7m、海岸側は標高3.0mと緩やかに傾斜した地形を成す。土器の出土状況を見ると、H19地区の山手側ではⅠ～Ⅲ類と弥生土器、イ・ハ・ニ地区ではⅣ～Ⅵ類が多く、その詳細を第37・38図の分類別平面分布に示した。前述したように不安定な層序ではあるが、復元可能な土器も多数見られた。層位的にはⅠ類が第Ⅴ層、Ⅱ類は第Ⅳ層出土が多いが、第Ⅴ層からの出土も見られる。Ⅲ類は第Ⅳ層出土が多数である。Ⅳ類は第Ⅳ層出土がほとんどで、第Ⅲ層や同層の遺構からの出土も多い。Ⅴ・Ⅵ類はⅣ層出土が多い。第36図の平面分布から接合関係を見ると、図58や図88などは離れた破片同士が接合したが、柱穴など遺構以外のものは一括して出土しているものが多いことから、原位置に近い状態と思われる。Ⅰ類～Ⅴ類までは底部が尖底系で、Ⅵ類のみがくびれ平底の口縁部であることが復元土器(図113)から明らかである。在地土器は第Ⅳ・Ⅴ層から一括で出土した土器が多く、土器集中の遺構の項でも記述している。つぶれた状態で出土したものや多数の土器が復元出来るなど当時

の生活面とも考えられる。ただ、柱穴は見られるもののプランは想定出来ない。以下、分類したⅠ～Ⅶ類を詳細に記述する。

Ⅰ類：頭部がくびれて「く」字状に屈曲するもの（阿波速浦下層式相当）

- A→屈曲が明瞭なもの
- B→屈曲が不明瞭なもの

Ⅱ類：口縁部が直状または上端がやや外反するもの（浜屋原式土器相当）

- A→胎土に角閃石を含み、砂質が強いもの
- B→胎土に角閃石を含まず、厚手のもの

Ⅲ類：形状はⅡ類に類似し、胎土はⅡ類BあるいはⅣ類に近い特徴を持つもの

Ⅳ類：口縁部は外反または直状を呈し、粘土積み痕が明瞭なもの（大当原式土器相当）

- A→粘土積み痕が明瞭で厚手・不均一なもの
- B→粘土積み痕が明瞭で薄手・不均一なもの
- C→粘土積み痕が不明瞭で薄手・均一なもの

Ⅴ類：Ⅰ～Ⅳ類以外の有文土器をまとめたもの

- A→頭部はくびれ、口縁部は外反、文様は凸帯文と沈線文、底部は丸底的尖底
- B→形状はAに類似するが、沈線文主体、底部は不明
- C→直状または口縁上端が僅かに外反するもの
- D→形状が不明なその他の有文（文様でア～オに細分類）

Ⅵ類：口縁部は外反し、胎土は泥質・底部はくびれ平底と思われるもの

- A：鉢形
- B：甕形

Ⅶ類：Ⅰ類～Ⅵ類の壺をまとめたもの

Ⅰ類は口縁部97点、胴部104点の計201点の出土で、Ⅱ群在地土器の2.3%の割合である。図25～46に主な22点を図示した。第12表の口縁部・胴部出土量を見ると、第Ⅳ層が61点、第Ⅴ層が112点と多く出土し、第37・38図の分類別の平面分布では出土範囲と層が弥生土器とほぼ同じである。容量は中・小型が大半で、屈曲が明瞭なものをA、不明瞭なものをBとした。集計では一つにまとめている。

Aは図25～33に図示した。口縁部の内側が膨らむものがほとんどであるが、図31・32の2点はスムーズに胴部へ移行する。

図25は胴下部で粘土の貼り付けが雑で、若干器面がいびつになる。図26は両面ともナデが丁寧で、胎土に僅かな火山ガラスを含むことから、搬入土器の可能性もあるが、形状からここに含めた。本資料の胴部が貝集中（SS04）から出土している。図27は口縁部の内面が膨らみ、粘土貼り付け痕が明瞭に残る。図28は砂質の強い土器で、小振りである。図29は屈曲部にヘラナデ痕と思われる条痕が見られる。図30の口縁部は玉縁状を呈し、胎土に火山ガラスを含むことから、搬入土器の可能性がある。図31・32は口唇が舌状を呈し、胎土も他に比べてやや泥質である。後者はより屈曲が強く、稜も明瞭である。図33は口縁部より胴部の径が大きく、口縁部の内面側が膨らみを持つ。

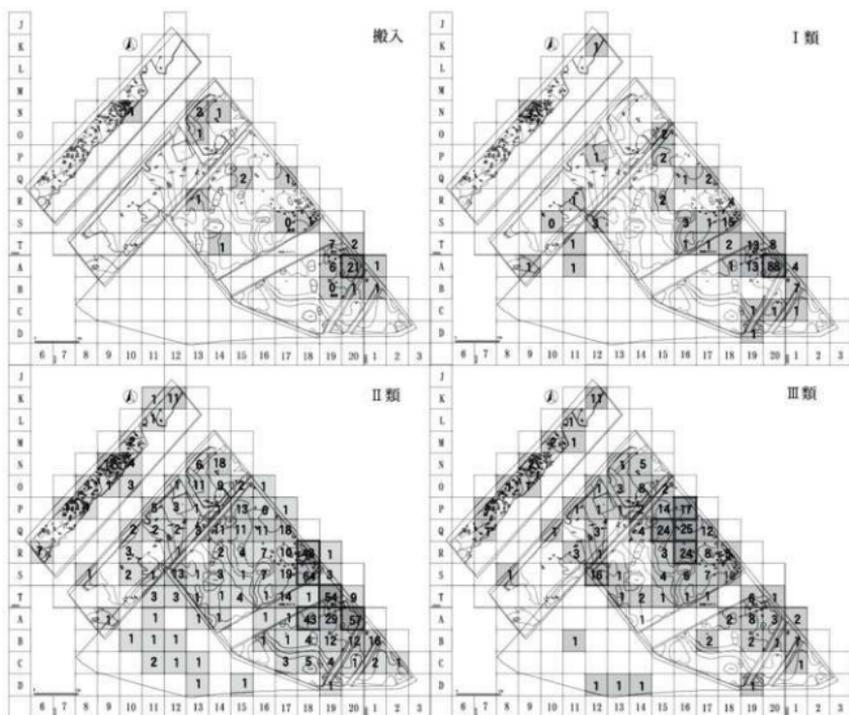
Bは屈曲が弱くて稜がやや不明瞭なもので、図34～39の6点を図示した。図34・35は内面側が膨らむが、他は膨らみを持たない。図36は胴部が膨らみ、ナデが両面とも丁寧である。図37は胴部が張らず、胎土も精製されて堅い。図38は頭部の指ナデにより僅かの屈曲と胎土からⅠ類とした。図39は、A20にある貝集中（SS04）出土の破片とおよそ30m以上離れたS10のSK02出土の破片が接合出来たものである。

図40は三角凸帯文を貼付する有文の土器で、胎土が粗く、器厚も10mmと厚手である。頸部が僅かに屈曲することからI類とした。A20でまとまった出土を見せる。

形状は不明だが、胎土などの特徴からI類としたものは図41～45の口縁部5点と図46の頸部を合わせて6点である。図41はナデにより屈曲部を強調している。図42は口唇が玉縁状でその直下に細沈線文が見られ、僅かに屈曲することからI類に分類した。図43は貝集積(SS02)出土で、胎土はきめ細かく、口唇部の粘土を一部折り曲げている箇所がある。図44・45も形状からI類に分類した。図46の頸部は、外面を丁寧にナデ調整している。

II類は口縁部119点、胴部641点の計760点の出土で、II群在土器の8.7%の割合である。図47～59に13点を図示した。II類はほぼ遺跡全体から得られ、出土量の多いグリッドはI類と同じくA20、さらにS・R18からの出土も増加する。また、I類に比べてサイズは大きくなる傾向を示す。A、Bとも形状はほぼ同じで、角閃石を含み、砂質が強いものをA、角閃石は含まず、厚手のものをBとした。形状的にはいずれも直状を呈し、中には口縁上部が外反するものもある。

Aは図47～55に図示した。図47・48は僅かに屈曲を持つものである。前者は屈曲部が長く、口唇部は粘土折り曲げによって玉縁状を呈し、後者はナデによる幅の狭い屈曲部が見られる。両者とも



第37図 口縁部・胴部分類別平面分布1

胎土に角閃石を含み、手触りはザラザラする。図49～52の4点はほぼ直状を呈し、口縁上端が僅かに外反する。図49は有孔を持ち、外→内へ穿たれている。図52は土器集中②で記述した土器で、底部近くまで復元可能なものである。ほぼ一括して出土した破片が多く、器面調整は外面のナデ調整が丁寧で、内面は指頭痕が残る雑仕上げである。貝集積(SS02)の周辺からも本資料の胴部が得られている。本資料は角閃石を含まないが、全体的な特徴からAに分類した。図53～55の3点は直状を呈する。図53は小型の鉢で、貝集積(SS03)の出土である。孔が両面から穿たれており、破片より推測すると有孔は2箇所の可能性が考えられる。Ⅱ類で唯一容量が小さい。図54は粘土接合面が明瞭で、粘土幅も約4cmとほぼ一定である。内面は外面に比べて指頭痕などの雑さが残り、細かい白色粒が多量に含まれる。図55は口縁部のみで判断したが、伊礼原D遺跡(2013・第26図80)で出土した資料に類似しており、Ⅱ類に含めた。図54・55の2点は角閃石を含まないが、形状や器面調整などの特徴からA種に分類した。

Bは胎土に角閃石を含まず、重量感があってAとは質感が異なる。図56～59に図示した。図56は図58に類似する胎土で、器厚もほぼ同じである。図57は口唇部を肥厚させて強調し、頸部は「く」字状に僅かに屈曲する。口唇部に点刻文が見られる。胎土や混和材、器厚などの特徴からここに含めた。底部の図34と類似の胎土を示し、厚さもほぼ同じである。

図58は口縁部から底部まで復元が出来た厚手の土器である。口縁部は直状を呈し、胴部中央辺りから底部にかけて窄まり、底部は乳房状尖底である。N14を中心に広範囲で接合し、Ⅲ層の遺構出土も多く、底部はN13の柱穴から得られた。Ⅲ類と出土範囲が重なり、形状等が類似する。図59も厚手の土器で、胴下部まで復元が出来た。貝集中(SS04)の周辺から一括して出土している。口縁直下に細沈線の様なものが見られ、文様か器面調整かはっきりしない。本資料は口縁部内面の膨らみや胎土、形状などからⅠ類の可能性もある。

Ⅲ類は口縁部23点、胴部282点の計305点が出土した。Ⅱ群在土器の3.5%の割合である。形状はⅡ類Bに近く、胎土はⅡ類B、Ⅳ類に類似するものである。本来はどちらかに分類すべきであるが、今回は別にして出土傾向などを見てみた。器面調整を見ると、外面はナデが丁寧、内面は雑仕上げである。第37図の分類別平面分布からすると、Ⅲ類はH19地区に多いが、二・ハ地区寄りのQ16周辺とS12での出土が目立つ。図60・図61の2点を図示した。前者は小振りで口唇部に鞍状凸帯文を貼り付けているが、内面側が長い。外面のナデは丁寧で滑らか、内面は雑でデコボコな器面を呈する。底部に行くにつれて厚みを増し、形状から浅鉢と思われる。後者は厚手で、口唇部を若干強調させる。器面調整は両面とも雑である。

Ⅳ類は口縁部499点、胴部5714点の計6213点が出土した。最も多く得られ、Ⅱ群在土器の約71.0%の割合を占める。サイズもミニチュアから大型まであり、器種の種類も多様化する傾向が見られる。また、Ⅳ類における口縁部有文の比率を見ると、499点のうち104点が有文土器で、20.8%の割合である。中でも口唇部は刻み目文、外面には有孔を呈するものが多い。口縁部が舌状を呈するものには、波状口縁が多く見られるのもⅣ類の特徴の一つである。層序的には第Ⅳ層出土が68.7%と最も多く、ハ・ニ地区では第Ⅱ・Ⅲ層の遺構出土も他に比べると多く見られた。第38図の平面分布を見ると、Ⅳ類が多数検出された出土地はH19地区ではS18付近、ハ地区はR11とN14を中心とする二箇所、ニ地区はN9を中心にその周辺の分布状況が見られた。ハ・ニ地区においてⅣ類の出土量が増加する傾向がある。Ⅳ類には多様なタイプが見られ、それぞれの特徴からA～Cに分類した。A・Bは粘土積み痕が明瞭な大当原式土器の下層タイプで、器厚が厚いものはA、薄いものをBとした。Cは粘土接合面が不明瞭でほぼ均一な器厚を呈する。Cはナガラ原西貝塚(1979)の土器に類似し

ており、本遺跡のIV類で最も多く得られた。図80の年代測定の結果と合わせて本遺跡の主体となる時期がほぼ想定出来る。図82は粘土接合面が不明瞭で胴部がやや膨らみを持つ形状を呈するが、胎土と同層出土であることなどを考慮して今回はIV類Cとした。以下、それぞれA～Cの順に記述する。

Aは口縁部70点、胴部568点が得られ、計638点である。IV類の中で占める割合は10.3%で、口縁部のみでは14.0%の割合となる。第62図～67図に図示した。

図62・63は2点とも厚手の胴部で、粘土接合面が水平方向に隆起する。どちらも器面両方に指頭痕が顕著に見られる。

図64も同様で、口唇部には粘土を貼り付け、玉縁状に強調する。図65～67は有文で、胎土や器面調整などからIV類に分類した。図65は外面に2条の凸帯文を縦位に貼付、図66は外面に沈線文(曲線+直線)と刺突文を組み合わせ、図67は外面に刺突文を「L」字形に施す。

Bは口縁部61点、胴部1872点の計1933点である。IV類の中で占める割合は31.1%で、口縁部のみを見ると12.2%となる。Aの口縁部と合わせても131点で、IV類における割合は26.3%と少なく、IV類の中では少量の出土である。図68～72に5点を図示した。粘土接合面が明瞭で、Aに比べると薄手である。図68はS12・13でまとまって検出され、相伴して出土した底部と同一個体と考えられることから、図上復元を試みた。本資料は粘土接合面が隆起するが、堅致な土器で混和材も少なくキメ細かい。

図69・70は口縁部が内彎するものである。後者は二枚貝有孔製品集中(SS05)出土で、同一個体と思われる尖底の底部(図188)も得られ、図上復元を行った。図71は外面に押捺刻文を施すものであるが、胎土などからIV類とした。図72は口縁部と思われ、ミニチュア土器とした資料である。

Cは口縁部343点、胴部2671点と計3014点で、IV類の中では48.5%の割合を示し、最も多く出土した。IV類の口縁部では約68.7%と高い割合を示す。復元土器や形状の分かるものが多いことから、本遺跡のIV類の主体となる。主なものを図73～82に図示した。図73・74は直状を呈し、口～底部まで復元された資料で、底部はいずれも尖底である。図73は一括で出土したもので、土器集中④の土器である。遺構の項で述べたように出土状況から原位置の可能性が考えられる。口縁部に幅1.8～2.3cmの薄い粘土が半周ほど貼り付けられ、口唇部には1cm間隔で刻み目文が施されている。外面は粘土接合部がやや明瞭である。本資料に類似した土器が具志川島遺跡群(1978)の報告に見られる。図74はR11の第IV層から一括で出土し、口縁部と胴下部には有孔も見られ、口～底部まで復元が出来た。器壁は薄手で胎土は粗く、両面ともナデ調整痕が顕著である。図75は薄手で小型の土器である。本資料も二枚貝有孔製品集中(SS05)近くで出土した。口唇部には刻み目文、外面には沈線文が不規則に施されている。図76は口唇部に鞍状凸帯文を施すもので、器面はやや滑らかである。図77・78は口縁部が外反するもので、前者は堅致でやや厚手である。口縁上部が幅3.5cmの薄い肥厚帯を呈し、その直下に有孔が見られる。底部まで直線的な形状を呈するものと思われる。後者は小型で、薄手のしまりの良い胎土を呈する。口縁部上端が外反し、胴部はやや膨らむ。

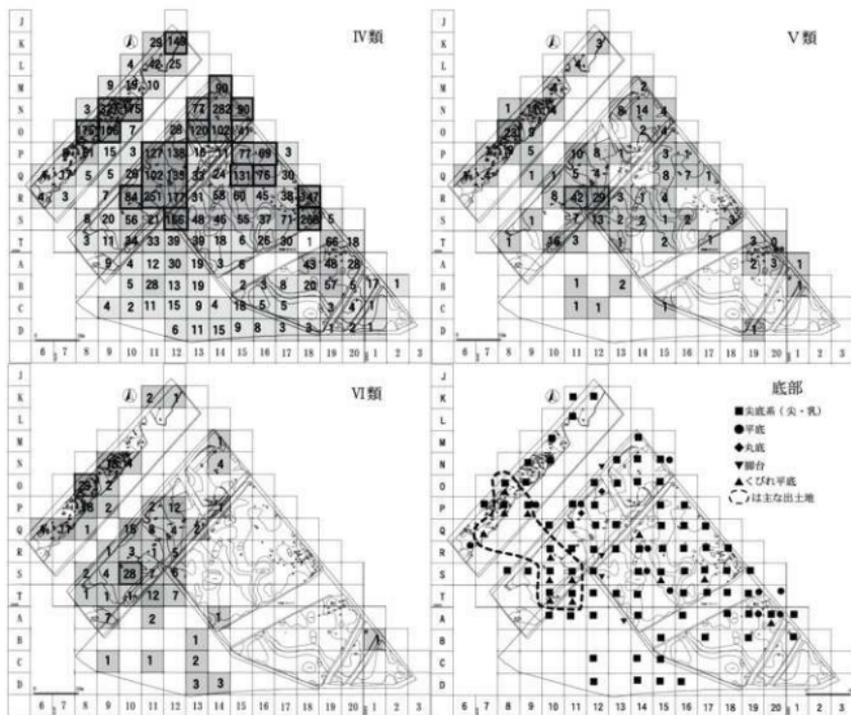
図79～81の3点は口縁部が外反し、薄手で頸部が屈曲するものである。図79はS10から一括して出土した土器集中⑥のもので、口～底部まで復元出来た資料である。口唇部は舌状を呈し、第2粘土帯で屈曲する。口縁部には有孔が見られ、底部は尖底である。粘土積み痕は不明瞭で、外面はナデにより滑らかである。図80はS12・13の土器集中部の出土である。口縁部に複数の有孔を持ち、口唇部には刻み目文が施される。内面には煤の付着が目立ち、年代測定を行ったところ、1770±20BP(第IV章5節)の値が得られた。図81もほぼ同様な形状、文様を呈する。出土地に近いことから、同一個体の可能性もある。

図82の器形は全体的に丸みを持ち、粘土接合部も平滑であるが、胎土等から今回はIV類とした。口唇部にのみ1cm間隔で刺突文が施され、器面調整を見ると指頭痕は残る。本資料はB13から一括して出土した。

他に、胎土などの特徴からIV類としたが、破片が小さく、細分類が出来なかったものが口縁部、胴部を合わせて628点あった。

V類はI～IV類以外の有文土器で、分類が出来ない有文の小破片は全てV類に含めた。また、器形や文様などが具志原式土器やアカジャンガー式土器と類似しているものも見られたが、第38図の平面分布を見るとIV類と出土範囲が重なり、同層面から一括でV類とIV類が出土、くびれ平底には有文土器と同胎土は見られないなど、今回はそれらの資料もV類とした。今後の課題の一つである。

また、無文の口縁部でも、胎土やその他の特徴からV類と思われるものはV類に分類した。口縁部は204点、胴部138点の計342点が得られ、II群在地土器の3.9%の割合である。中でもV類全体では第IV層出土が76.9%を占め、IV類と同層出土である。地区別にはハ・ニ地区が61.4%と高く、R11・12、08で多く出土している。形状の分かるものをA～Cに分類し、形状不明はDとして文様別にア～オに分類した。形状の分かるA～Cから記述する。



第38図 口縁部・胴部分類別平面分布2

Aは図83～85の3点を図示し、図83は唯一形状が分かるものである。口縁部は外反し、頸部はくびれて胴部が張り出す。口唇部は強調されて幅広く、その上には幅太の沈線文が圍繞している。伊礼原D遺跡(2013)でも同様なものが出土し、それからすると、底部は丸底的尖底になると思われる。伊礼原D遺跡の図39と同じ文様構図で、出土地も近いことから同一個体の可能性が高く、同図の底部を参考に図上復元を試みた。伊礼原D遺跡では施文の仕方や胎土などから縄文時代晩期系としたが、本遺跡においては同層からIV類など貝塚時代後期に属する土器が出土していることから、その時期の有文土器と捉えたい。他の有文土器と層序や出土範囲が重なることから、本資料も同時期と思われる。ただ、本資料の底部は尖底と思われ、胎土や施文具、文様等にも他の有文土器とは若干の違いが見られる。図84・85は胴部で、図83と同様な施文具による文様が施されていることから、Aに分類した。これらも伊礼原D遺跡において類似のもの(第22図43・44)が出土する。

Bは図86・87の2点で、沈線文主体の文様を施している。図86は口唇部に深めの刻み目文、外面に曲線の沈線文と叉状工具による刺突文を連続させた文様構図である。図87は口唇部に密な刺突文、外面に幅広い鋸歯状沈線文を交差させ、内面には刷毛目痕が明瞭に残る。両方とも図83とほぼ同じ形状であるが、口唇部は強調しない。文様などはアカジャンガー式土器に類似する。

Cは図88・89のように、器形がIV類に類似し、直状でスムーズに底部へ移行するものと、図90のように口縁部が外反するものがある。図88は器高が他に比べて高く、粘土帯積み痕の隆起も明瞭である。口唇部には刺突文、外面には刺突文の施された逆「U」字状凸帯文とラフな細沈線文が見られる。第36図の平面分布図から接合関係を見ると、ほとんどはR・S11出土だが、約35m離れたK12出土の破片もある。底部近くまで図上復元が出来、それからすると尖底系の可能性が高い。内面の刷毛目痕も明瞭である。図89は口唇部に刺突文、外面に楕円状の薄い凸帯文を貼り付け、曲線状の沈線文を施している。図90は口唇部に1cm間隔で刺突文を施し、外面には刺突文の施された凸帯文が一部ひねりを加えて「O」字状を呈し、頸部を圍繞している。器形・文様ともアカジャンガー式土器に似ているが、S12・13の土器集中部からIV類の土器と共に出土した。

Dは形状の掴めない有文口縁部で、文様によって以下のように細分類した。有文胴部も外面の文様別に口縁部の文様に準じて分けた。

ア：口唇・外面ともに有文

イ：口唇有文、外面無文

ウ：口唇無文、外面有文(沈線文・刺突文など)

エ：口唇無文、外面に凸帯文or肥厚帯

オ：口唇無文、外面有孔

第13表にIV・V類の口縁を文様別に示した。S12・13の土器集中部ではIV・V類とも層序、深度とも同じであることから両方の無文口縁も合わせて関連性を見た。それからすると、有文の割合はIV・V類合わせて42.9%、無文は57.1%と、若干後者の方が多い。IV類のみでは有文は21.0%、無文は79.0%と後者の割合が高い。口唇部の文様からすると鞍状凸帯文はIV類が多く、沈線文・指圧文はV類、他の文様はIV・V類のどちらにも見られる。

アは口唇部、外面とも有文の口縁部で、IV・V類の有文口縁の33.4%を占める。口唇部に刻み目文・外面に有孔の組み合わせが最も多く、次いで口唇に刻み目文、外面は無文のものが多い。アは図91・92の2点を図示した。前者は口唇に刻み目文、外面には沈線文が斜位に施されている。後者は外反する口縁部で、口唇部に鞍状凸帯文を貼り付け、外面に刺突文を施している。

イは口唇部有文、外面無文のもので、IV・V類の有文口縁に占める割合は15.9%である。口唇部に

刻み目文を施すものが最も多く、次いで刺突文と続く。4点を図示した。図93～95は刺突文、図96は指圧文を施す。

ウ～オは口唇部が無文、外面は有文のもので、IV・V類の有文口縁全体では50.7%の割合である。

ウは外面に刺突文や沈線文を施すもので、3点を図示した。刺突文は僅かで、沈線文がほとんどを占める。図97は横・斜位の沈線文と曲線になった凸帯文、図98は内彎し、径2mmの筒状の施文具で列点文が等間隔で施されている。図99は直状で、外面に鋸歯状の沈線文が施されている。

エは外面に凸帯文や肥厚帯を貼り付けるもので、前者が比較的多い。凸帯文は無文と刻み目文を施すものが多く見られる。後者の肥厚帯は無文がほとんどで、1点のみ肥厚帯下に沈線文が見られる。外面に凸帯文を有するもので、「U」字・逆「U」字状など曲文になっているものは図101～104で、横位の凸帯文を有するものは図105～107で、図106の胴部には有孔も見られる。図107も胴部で三角状凸帯文を施す。厚さや胎土からII類Bとも思われるが、形状が不明で今回はV類とした。

図108は肥厚帯を呈するが、かなり薄手で幅は3cm程である。図109の胴部も破損しているが、肥厚部が残る。

オは外面に有孔が見られるものである。図110・111は胎土に白色粒を多量に含む厚手の土器である。前者は頸部で若干「く」字状に屈曲し、後者は直状を呈する。図112は上記2点と胎土や厚さが異なるもので、直状を呈する。口唇を平らに整え、口縁部には有孔が見られる。

VI類は復元した図113を参考に分類したもので、246点が出土した。II群在土器での割合は僅か2.8%で、図113～116に4点を図示した。泥質で内面に刷毛目痕を持ち、器色もほぼ灰橙色を呈するのが特徴的で、胎土や器色などが独特である。層序を見るとIV類と同じく第四層出土がほとんどで、出土範囲も一部同じであることから、IV類の容量の小振りな器種の可能性もあり得る。しかし、第38図に示した底部の平面分布図ではH19地区からはほとんど出土せず、二地区、八地区出土が217点とVI類中88.2%と高い割合を示す。さらに、VI類とくびれ平底が多数出土した範囲が重なり、胎土・器色・器面調整も同じ傾向を示すことから、VI類の底部はくびれ平底が想定される。以上のことから、VI類はIV類に後続するくびれ平底系土器の可能性も考えられる。また、伊礼原D遺跡(2013)の4409SXで出土したフェンサ下層式土器の泥質を主体としたものと器形や胎土、器面調整や大きさ等が類似し、その範疇で捉えるのが今後の課題の一つである。形状から鉢形をA、甕形をBとして分類した。

第13表 IV・V類土器文様別分類出土量

外面文様 口唇文様	外面																IV類合計	V類合計	合計					
	刺突文	凸帯文上の文様					肥厚帯		有孔	沈線+刺突文	無文													
		IV	V	IV	V	IV	V	IV				V	IV	V	IV	V								
刺突文	1		4			7		7		1		1		1	1	17	1	39	40					
刻み目文			4	4			16	1	1					50			21	55	42	97				
沈線文																			0	1	1			
輪状凸帯		1					1											7	8	1	9			
指圧文																			2	0	2	2		
無文	1	2	2	27	1	2	1	2	1	16	3	1		36	35	23	394	7	435	119	554			
小計	1	4	6	35	1	2	2	25	2	17	10	1	1	1	36	1	85	23	1	402	47	499	204	703
合計	5		41		3			59						36	1	108	1	449				703		

Aは図113で、口～底部まで復元が出来た。口縁は外反し、胴部はあまり張らずにそのまま底部に移行する小型土器である。底部は本遺跡で唯一くびれ平底を持つもので、外面はナデ調整を行い、内面には刷毛目が残る。S10のSK02とS11第IV層出土のものが接合出来た。

Bは口縁部が外反し、胴部は張るタイプの土器である。図114～116の3点を図示した。いずれも胎土や器面調整の仕方などはAと同じである。VI類は海岸側で出土し、図113の復元土器や口径の推算出来るものからすると、小型が多い。VII類に分類した図129も同胎土、同色、内面に刷毛目痕が見られるなど、VI類の壺の可能性がある。

VII類は壺の器種をまとめた。本来なら胎土や混和材等の特徴から分類すべきであったが、一応ここに分けた。口縁部35点、胴部10点の計45点の出土で、II群在地土器に占める割合は僅か0.5%である。口縁部のみを見ると、3.2%の割合となる。深鉢のI～IV類に即して分けると、H19地区の山手側で出土した厚手の壺はII・III類、ハ地区の中央で出土した有文の壺はIV・V類、ニ地区の海岸側で出土した壺はVI類に相当するものが多く、平面分布ともほぼ一致する。

形状や器厚、文様などの特徴によりA～Fに分類した。

Aは厚手で無文の有頸壺で、図117～119の3点を図示した。図117は両面ともナデが丁寧で、内面に僅かに指頭痕が残る。胎土などからII類またはIII類の壺と思われる。残り2点も外面のナデは丁寧だが、内面は雑であることからIII類の壺と思われる。

Bは無頸壺で図120・121の2点を図示した。前者は胎土や調整がAと類似性を持つ。器厚は10mmと厚いが、パウダー状で軽く、II類またはIII類の壺の可能性がある。

Cは薄手の有頸壺で、胴部以下は形状不明なものである。口縁部の2点と頸部の1点を図示した。図122は凸帯文を逆「U」字状に貼り付け、凸帯上に指頭文らしきものが見られる。図123は口唇に刺突文、外面に細沈線文が施される。図124は頸部で、形状からCに分類したもので、刺突文の施された凸帯文を横位や斜位に貼り付けている。

Dは胴部の張らない壺で、図125～127の3点を図示した。図125は完形の状態です出土した片口の小型壺で、土器集中①の遺物である。出土状況は遺構の項にて記述する。粘土積み痕・指頭痕が明瞭で、底部は尖底を呈し、IV類Bと思われる。図126は外面に縦の凸帯文、図127は横耳状の凸帯文を貼り付ける。後者の2点は図125に比べると、外器面はナデがやや丁寧で、粘土の積み痕は明瞭ではないことからIV類Cの壺と思われる。

Eは胎土がかなり精製され、両器面ともナデが丁寧に施されている有頸壺で、胴部は張るタイプである。図128の1点を図示した。口唇部には刺突文、口縁部には凸帯文が横位と逆「U」字状に貼り付けられ、その上にも刺突文を施している。

Fは片口の壺で、図129の1点を図示した。底部（第60図197）と出土地がほぼ同じで胎土や器面調整などの特徴も類似し、同一個体と思われることから図上復元したものである。外面は丁寧なナデが施され、内面には刷毛目が明瞭に残る。底部は立ち上がり丸みを帯びた径の小さな平底である。ただ、VI類の底部は復元した図113のようなくびれ平底が想定されるが、本資料は尖底系底部（尖底・乳房状尖底）の製作技法によって作られた平底で、胎土や器面調整は前述したVI類と同様であることから、VI類の壺と思われる。

これまでの分類に含まれない不明なものは口縁部43点、胴部592点の計635点あり、特徴のあるものや形状の分かる口縁部など7点を図示した。図130は口縁部の外反が強く、ナデが丁寧に施されている。図131～135は胎土に石灰質の白粒や石英を多量に含むものである。

図131は波状を呈する外反口縁部で、厚手の土器である。底部は尖底系が予想され、粘土積み痕が

明瞭である。外面には、器面自体の粘土が剥がれ落ちた、あるいは粘土を薄く貼り付けた可能性のある箇所が見られる。下部は雑仕上げで器壁の厚さが増す。図132も厚手の口縁部で、本資料も粘土を貼り付けて器壁を厚くする。外面には貼り付けた粘土を整えず、部分的に粘土が垂れている様な箇所が見られた。図133は口縁上端の外反度が強く、粗粒の石英を多量に含む。両面ともユビナデで調整されており、指頭痕も残る。図134は石英の含量が特に多い口縁部で、チャートらしき混和材も含まれている。図135も外反する口縁で、僅かに微小貝を含む。本品も粘土積み痕が分かるものであるが、外面はナデが丁寧である。図136は受け口にも見えるが、形状不明である。

図137～139は胴部で、いずれも横耳状の凸帯を持つものである。図137は厚手で、断面から見ると三角状の凸帯文を貼り付けている。破片で詳細が不明なことから、今回は耳とした。図138の耳は幅広で、図139は幅が狭い。図140はパウダー状の粉が手に付く軽い胴部で、図121に示した壺と類似するが、器面調整などが若干異なる。本資料も縦に粘土を貼り付けており、外面は丁寧なナデが行われている。図141・142は胴部で、内面の刷毛目や条痕に特徴が見られることから図示した。

図143は残存部からおそらく円形を呈していたと思われるものである。器厚は7mmと一定で、側面を平らに整えて底面を平らにしている。径は9.0cmと小さく、壺等の蓋の可能性も考えられる。上面は底面に比べると調整が雑で、側面に沿って文様らしき沈線が施されている。胎土からはIV類の時期に製作されたと思われるが、類例がなくはっきりしない。

## ②底部

底部は復元土器を除いて総数358点が出土し、全てII群土器である。底部の分類は伊礼原D遺跡(2013)に準じ、A類:丸底、B類:尖底、C類:乳房状尖底、D類:平底、E類:くびれ平底、F類:脚台とした。

第14表に底部の出土量、第38図に底部の平面分布を載せた。貝塚時代後期の層である第IV・V層からは、B類やC類が多数出土し、両者を合わせた割合は全体の83.8%とかなり高い。その他は少なく、次に多いE類でも僅か5.9%の出土である。口縁部・胴部の分類との関連性を見ると、I～V類の底部はB・C類主体の底部、VI類のみE類が想定され、口縁部の割合ともほぼ一致することから、本遺跡はB・C類主体の土器群と思われる。層位的に見ると、第IV層までは各種の底部が出土し、それ以下の第V・VI層ではD類1点、B・C類の底部23点、分類が出来なかったものが2点検出された。

第38図の底部平面分布において、B・C類はほとんどのグリッドで出土するが、その他は分布が片寄る。特に、E類はハ・ニ地区の南西区の海岸側でまとまりが見られ、くびれ平底系の口縁部(VI類)の出土状況とも一致する。同遺跡においてB・C類とE類の平面的な出土状況の違いは、本町の小堀原遺跡(2012)や伊礼原D遺跡(2013)でも見られた。F類脚台は搬入土器との関係から別項にて示し、集計は底部に含めた。以下、分類別に全体的な特徴とそれぞれの遺物について略述する。

### A類:丸底

A類は僅か3点の出土で、2点を図示した。底部全体の0.8%と1割にも満たない。図144は僅かに底面が残り、丸底と推定できる。均一で、ナデ調整が丁寧な底部である。伊礼原D遺跡(2013)で報告した第31図137に類似している。図145は図144に比べると外面がやや雑な仕上げで、若干厚手である。内面は黒褐色を呈し、若干の煤が見られる。底部の製作技法をみると、粘土を重ねて貼り付け、器壁を厚くする。いずれも胎土は砂質で、混和材は石英を主体とする。

### B類:尖底

B類は154点の出土と最も多く得られ、全体の43.0%の割合である。復元土器ではIV類の図73、

74、79の3点とⅦ類(Ⅳ類の壺)図125が見られた。第38図をみても分かるように、遺跡全体から出土しているが、ニ地区の0・P8、H19地区のN・014、T17を中心とした周辺での出土量が多い。層的には第Ⅳ層出土が最も多く、H19地区では第Ⅴ層出土の底部も僅かに得られた。胎土は約80%が砂質で、石英を混和材の主体とするものが多い。他には赤色粒中心とするものも見られ、数量的には少ないが、角閃石を含むものも見られる。形状から以下のように細分類した。分類出来ないものを除くと、a・b種がほとんどを占める。以下、分類の順に記述する。

- a：底面が尖るもの(底厚が10mm以下は薄手、15mm以上は厚手)
- b：底面がaに比べるとやや丸みを呈するもの(底厚が10mm以下は薄手、15mm以上は厚手)
- c：底面がやや砲弾状を呈するもの
- d：外底面に凹みを有するもの

aは42点の出土で、9点を図示した。bとともにB類の主流となる形状である。底厚が薄手のものは図149・150、厚手は図151～154で、図146・147は中間の厚さである。図146の外面には木の葉痕らしき文様が見られる。沈線が深く施され、外面と同色を呈することから今回は文様とみなした。図148は外底がつぶれ、外面の細かい混和材が抜け落ちてアバタ状を呈する。図149は胴部への立ち上がりが急で胴部も張らないことから、壺の可能性が考えられる。

図150の底面は調整痕が雑で、指頭痕が明瞭に残る。混和材もかなり粗粒で、内面は煤が付着している。図151～153は底厚が厚く、胴部への立ち上がりがスムーズである。図154は底面が破損しているが、B類と思われることからここに含めた。

bは48点の出土で、最も多く出土した。底面がやや丸みを呈するもので、図155～159の5点を図示した。図155は底厚・器厚ともほぼ同じで、内底の中央には黒斑が見られる。図156～159は、器厚に比べ底厚が15mm以上と厚くなる。

cは僅か8点の出土で、a・b種に比べると出土量は少なく、図160～163に4点を図示した。

第14表 土器底部出土量

地区	層序	分類 (大類)	形1(丸底)					形2(丸底尖底)					形3(丸底)					形4(尖底)					分類 不明	合計	備 考						
			a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a	b												
H19		B																							4						
		B(遺構)		2																						2					
		B				1																				1					
		B(遺構)						6	1																	4					
		IV	19	14	3	2	13	6	18	12	4	8	1	14	2	1	2									131					
		IV(遺構)		1					1	1																3					
		V		4		1	2		2			3	1	3												2	23				
VI																								1							
不明		1																						1							
イ		B					2																		2						
		B(遺構)							1		1		1													4					
		B		4			2		1		1	2														2	13				
		IV																								1					
		V																								1					
ハ		B		1	2																				4						
		B(遺構)			2																					5					
		B			2																					6					
		B(遺構)			5	2																				1	2				
		IV	1	9	7	2			14	2	7	1	5	2												62					
		IV(遺構)	1																							5					
ニ		B		1				2	1	1															1	8					
		B				1	1	2																		9					
		B(遺構)																								3					
		IV		3	8	1			6	3	6	2	3	1												43					
		IV(遺構)			1				4																	5					
不明			2																					2							
合計		3	42	48	8	4	52	14	40	4	31	15	14	1	29	2	2	3	1	1	6	1	10	1	3	6	2	1	2	14	358
器種別計		3			154								116												21			5	14	358	

H19地区：B(遺構)SK10,16,36 III(遺構)P1,2,6,8,16,42 IV(遺構)P5・S01  
 イ地区：B(遺構)P4,13,46・S09  
 ハ地区：B(遺構)SP8～10,11,12,21・S01 III(遺構)SP2,4,7,11,15,17,21,24,25,34,38,44・S04 IV(遺構)SP2,38,38・S01,02  
 ニ地区：B(遺構)SP2,23・S05 IV(遺構)SP8,11,24

図160はどっしりとした尖底で、器厚の厚い底部である。図161～163は底厚が厚いもので、図163は外底面が破損している。

dは更に少なく4点のみの出土で、図164・165の2点を図示した。2点とも外底に凹みを呈し、重量感のある尖底である。どちらも凹みはほぼ球状に近い。同様な底部が具志堅貝塚(1986)でも出土している。

### C類：乳房状尖底

C類は116点と尖底に次いで多く、全体の32.4%の割合である。胎土、混和材ともB類とほぼ同じ要素を見せる。C類も多様な形状が見られることから、下記のように分類した。復元土器ではII類の図58・IV類の図68に見られた。乳房状尖底も尖底と同じくほぼ遺跡全体から出土する。以下、分類の順に記述する。

- a：乳頭部が小・中振りで高いもの（底厚が厚いものも含む）
- b：乳頭部が小・中振りで低いもの
- c：乳頭部が大振りで高いもの、（底厚が厚いものも含む）
- d：乳頭部が大振りで低いもの
- e：乳頭部の外底面に凹みを持つもの

aは14点の出土で、図166～169の4点を図示した。図166はS12の第V層より一括して出土した土器集中⑤の底部である。本資料はその位置でつぶれた状態のまま出土した。内面には刷毛目の調整痕が明瞭に残る。粘土積み痕が明瞭なことや胎土、混和材などからIV類Bの底部と考えられる。胴下部には孔が施され、孔径は約5mmで外→内へ穿たれる。図167・168は乳頭部が高く、後者は乳頭部のみが残るものである。図169の乳頭部は小振りで、外底に粘土を貼り付けて乳頭部を作ったものと思われる。

bは40点の出土で、C類の中で最も多く見られる。図170～174の5点を図示した。図170・171は乳頭部が小振りなもので、図172～174は乳頭部が若干大きく、中振りである。

図170は復元したIV類B・Cに類似しており、本品もIV類の底部と思われる。図171の内面にはヘラ痕が明瞭に残る。図172は器厚が9mmとやや厚く、重量感のある底部である。図173は外底に粘土を貼り付けて乳頭部を作る。図174は外底に沈線文を施すもので、文様は調整痕か判断に迷うが、明瞭であることから、今回は文様とした。混和材に石英を多量に含み、他に比べて外反度がかなり強い。

cは僅か4点のみで、図175～177の3点を図示した。図175は外底に粘土を貼り付けて乳頭部を作る。図176は内外底とも粘土を薄く貼り付けて製作されている。外底はややつぶれた様な感であるが、内底は丁寧にナゲ調整が行われている。他と比べて胎土の砂質が強く、厚手で乳頭部は大振りである。第IV層と第VI層出土の破片が接合出来た底部である。胎土や器厚などが類似した口縁部(図57)が隣接するQ15の第VI層より検出されており、同一個体の可能性もある。図177は乳頭部が丸みを呈し、かなり厚手である。外面はヘラナゲにより乳頭部が突出する。

dは31点の出土で、図178～181の4点を図示した。図178・179は底面が平らで、前者は平底の可能性もあるが、底径が3cm弱と小さいことからC類のdに分類した。図180は胎土の砂質が強く、パウダー状で、混和材に角閃石を含むことから口縁・胴部分類のII類Aに分類できる。図181は胴下部まで残り、乳頭部は大振りで低い。

eは13点が出土し、図182～187の6点を図示した。図182・183は外底の凹みが深く、底厚も薄い。凹みはいずれも楕円形状を呈する。

図184～186は外底に僅かな凹みを呈するもので、底厚は厚い。図187は外底に幅2mm、長さ8mm

程の刻文が底面の端部に施されており、中央部の凹み部には見られない。文様か、意図的な機能を持つのか不明である。図188は底部が破損しているもので、S12にある二枚貝有孔製品集中（SS05）から出土した。図70に示した同遺構の口縁部と同一個体の可能性があることから、図上復元を試みた。口縁はやや内彎し、粘土積み痕が明瞭であることなどから底部はB類の可能性が考えられる。図189も底部が破損しているが、乳頭部らしき膨らみが僅かに残っていることからC類と思われる。

#### D類：平底

D類は15点が出土したが、B類やC類に比べるとかなり少なく、底部全体の4.2%の割合となる。弥生土器の1点（図21）も集計上含む。胎土は砂質が主で、混和材は石英を主体とするものが多い。図示した8点は形状などがそれぞれ異なり、型式の違いによるものと考えられる。

第38図の底部平面分布を見ると、A・T20辺りから出土したD類は、口縁部分類のI類に胎土や混和材などが類似する。層位的には、B・C類の出土した第IV層を中心に第V層からも得られた。

a：立ち上がりは角を持ち、胴部へ直線的に外反するもの

b：立ち上がりは角を持つが、aより外反度が強いもの

c：立ち上がりの角は丸みを呈し、底厚と底径が大きいもの

d：立ち上がりの角は丸みを呈し、胴部へ直線的に外反するもの

e：立ち上がりの角はやや丸みを呈し、底厚がより厚いもの（弥生土器）

aは図190・191の2点で、両面ともナデ調整を行っている。前者は泥質で、やや直状に立ち上がって外反する。後者は底厚が若干厚く、直状に外反し、胎土などから口縁・胴部分類のI類の底部が考えられる。

bは図192・193の2点で、両方とも外反度が強く朝顔状に開く。図192はC類にも見えるが、器面調整や胎土が図193と類似しており、口縁部・胴部分類のI類の底部の可能性があるのでD類とした。

cは図194・195の2点で、立ち上がり部が丸みを呈するもので、底厚は厚く、胎土などが他と若干異なる。図196は立ち上がり部が破損しているが、胎土や底厚の厚さなどがcと思われ、D類に含めた。

dは図197の1点の出土で、底径は小さく立ち上がり部も丸みを呈することからB類に近いものである。図129に図示した復元土器の底部であるが、接合が出来なかったことからここで記述した。胎土はやや泥質に近く、内面には刷毛目が明瞭に残るもので、B類の製作技法によって作られている。胎土や器面調整などの特徴は口縁部分類のVI類に相当する。

eは1点の出土で、弥生土器の底部であることから、口縁・胴部の項にて記述した。

#### E類：くびれ平底

E類は僅か21点が出土し、底部全体の5.9%の割合である。図198～208の11点を図示した。本遺跡のE類は復元をした図113のような泥質と、砂質でやや薄手の均一なものに分けられ、ほぼ半々の割合である。混和材は石英を主体とするものと、赤色粒を主体とするものに分かれる。第38図の底部平面分布を見ると、ハ地区のS10・ニ地区のP8周辺での出土が多く、H19・イ地区ではまばらな出土傾向を見せる。伊礼原D遺跡（2013）の報告においても、ニ地区のN9・08に近いC区で最も多く検出されている。出土状況を見ると平面的にまとまりが見られ、B・C類より出土数は遙かに少ない。層位的には第IV層以下ではB・C類が出土し、E類は得られないことから両者の間には僅かな時期差があるかもしれない。E類の胎土や大きさ、底厚と器厚の関係など諸々の要素を関連づけて見たが、出土数が少ないこともあって詳細は掴めなかった。E類も伊礼原D遺跡の分類基準に従い、下記の4種に細分類した。以下、分類ごとに記述する。

a : くびれの張りが強いもの（底面からの角度が40°以下）

b : くびれの張りが弱いもの（底面からの角度が40°以上）

c : 底径が小さいもの（4 cm以下）

d : くびれの張りがより強く、鐮状を呈するもの

a は図198の1点のみの出土で、僅かに残る立ち上がり部で判断した。外底にナデ痕が明瞭に残る。

b は10点の出土で、最も多い形状である。図199～207の9点を図示した。図199は内面に刷毛目が見られ、外底は僅かに上げ底状を呈する。外底が上げ底状を呈するものが多く、図200・205は外底が平らである。

c は1点の出土で、図示は省略した。

d も3点のみの出土で、図208の1点を図示した。立ち上がりは鐮状を呈し、外底が上げ底となるが、内底は盛り上がりせずに平らである。

## F類：脚台

F類は5点が出土したが、在地と在地外の両方があり、まとめてⅡ群土器の搬入土器の項にて記述した。

### <引用・参考文献>

高宮廣衛 1960 「具志川村アカジャンガー遺跡調査概報」『文化財要覧』pp1~29 琉球政府文化財保護委員会

伊是名村教育委員会 1978 『具志川島遺跡群』伊是名村文化財調査報告書第2集

具志川市教育委員会 1980 『宇堅貝塚・アカジャンガー貝塚発掘調査報告』

伊江村教育委員会 1979 『伊江島ナガラ原西貝塚』伊江村文化財調査報告書第8集

本部長教育委員会 1986 『具志堅貝塚』本部町文化財調査報告書第3集

沖縄国際大学文学部考古学研究室 1989 「宜野湾市宇地泊兼久原遺跡発掘調査報告」『神国大考古』第10号

浦添市教育委員会 1993 『嘉門貝塚B』浦添市文化財調査報告書第21集

高宮廣衛・他 1993 「読谷村大当原貝塚発掘調査概報」『読谷村立歴史民俗資料館紀要』第17号 読谷村教育委員会  
歴史民俗資料館

宜野座村教育委員会 2005 『前原貝塚』宜野座村乃文化財17集

北谷町教育委員会 2013 『伊礼原D遺跡』北谷町文化財調査報告書第35集

中園聡 1997 「九州南部地域弥生土器編年」『人類史研究』第9号 人類史研究会

岸本義彦・他 2000 「沖縄編年後期の土器様相について」『琉球・東アジアの人と文化－高宮廣衛先生古稀記念論集－』  
上巻 高宮廣衛先生古稀記念論文集刊行会

新里貴之 2004 「沖縄諸島の土器」『考古資料大観12 貝塚後期文化』小学館

木下尚子 2005 「貝交易からみた異文化接触」『考古学研究』206号 考古学研究会

宮城弘樹 2005 「沖縄貝塚時代後期土器の研究（Ⅲ）－浜屋原式土器とその概念整理－」『廣友会誌』創刊号

宮城弘樹 2009 「貝塚時代後期土器の研究Ⅳ～大当原式土器の概念整理～」『廣友会誌』第5号

木下尚子・他 2013 『ナガラ原東貝塚の研究』熊本大学文学部



第15表-2 土器観察一覧

調査年度	調査区	分類	形状	部位	目録番号 （調査・観察・報告書）	調査		原料				胎土 調査	胎色 （表・内面）	器面調査	調査 場所 （小・中・大）	調査 番号 （調査・観察・報告書）							
						目録 番号 （調査）	器面 調査 （調査・観察）	灰土 調査	赤土 調査	白土 調査	緑土 調査						その他						
第15表-2 土器観察一覧	調査区	I	A	丸	口縁部	口縁部（縁部）	16.1	8	中程度	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△				
							103.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
							—	9	観察 少数	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
							—	49.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
							29.8	7~15	中程度	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
							—	59.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
							29.8	7	中程度	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
							—	27.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
							29.9	7	中程度	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
							—	26.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
調査区	I	B	丸	口縁部	口縁部（縁部）	16.0	8	中程度	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△					
						121.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
						—	11	観察 多数	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
						—	67.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
						16.8	9	観察 少数	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
						—	86.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
						19.2	7	観察 多数	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
						—	134.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
						—	18.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
						調査区	I	丸	口縁部	口縁部（縁部）	口縁部（縁部）	13.1	10	中程度	△	△	△	△	△	△	△	△	△
66.0	—	—	—	—	—							—	—	—	—	—	—	—	—	—			
14.0	9	観察 少数	△	△	△							△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
—	16.6	—	—	—	—							—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
—	6.2	—	—	—	—							—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
—	6	—	—	—	—							—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
16.5	9~7	観察 少数	△	△	△							△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
—	17.2	—	—	—	—							—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
18.1	9	中程度	△	△	△							△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
—	64.0	—	—	—	—							—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
調査区	I	丸	口縁部	口縁部（縁部）	口縁部（縁部）	—	7	中程度	△	△	△	△	△	△	△	△	△						
						—	21.7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
						29.0	6~8	観察 少数	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△			
						—	80.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
						29.0	6~8	観察 少数	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
						—	33.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
						30.8	6~8	観察 少数	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
						—	199.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
						37.0	7	観察 少数	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
						—	185.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
調査区	I	丸	口縁部	口縁部（縁部）	口縁部（縁部）	—	6~7	観察 少数	△	△	△	△	△	△	△	△	△						
						—	68.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
						29.3	5	中程度	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△			
						—	113.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
						12.8	8	観察 少数	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
						—	62.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
						—	6~10	観察 多数	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
						—	220.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
						23.7	7	観察 少数	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
						—	123.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
調査区	I	丸	口縁部	口縁部（縁部）	口縁部（縁部）	—	10~12	中程度	△	△	△	△	△	△	△	△	△						
						—	119.7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
						—	10	観察 多数	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
						—	31.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
						34.2	10	観察 中程度	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
						—	620	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
						25.4	10	観察 少数	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
						—	321	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		

凡例 (○)→赤土に多い (△)→赤土に少ない (△)→赤土に多い (△)→赤土に多い

第15表-3 土器観察一覧

調査年度	調査地	分類	形状	部位	以経・土質・胎土 文様有無	湯量		原料				胎土 状況	胎色		器面状態	備考		
						以経 径長 (cm)	器口 径長 (cm)	灰質 土質	赤土 質	赤土 質	白土 質		胎 色	胎 色				
昭和30年代	60	器	Ⅲ	古瓶	以経(頸部)無文様	16.3	30	中硬 少量	○	△	△	△	砂質良好	外-赤褐色 内-赤褐色	外-11° 内-11°(頸部)	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	第213号 小ナリツド 横 溝溝 器上番号 台帳番号	
	61	器	Ⅲ	平鉢	以経(頸部)有文様(縁部)	—	32	中硬 多量	○	△	△	△	砂質良好	外-赤褐色 内-赤褐色	外-11° 内-11°	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	
	62	器	Ⅲ	A	一 脚鉢	以経(頸部)有文様(縁部)	—	5~10 261	中硬 中量	○	△	△	砂質良好	外-赤褐色 内-赤褐色	外-11° 内-11°	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	
	63	器	Ⅲ	A	一 脚鉢	以経(頸部)有文様(縁部)	—	7~10 110.82	中硬 中量	○	△	△	砂質良好	外-赤褐色 内-赤褐色	外-11° 内-11°	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	
	64	器	Ⅲ	A	Ⅲ	以経(頸部)有文様(縁部)	—	7~1.2 33.72	中硬 多量	○	△	△	砂質良好	外-赤褐色 内-赤褐色	外-11° 内-11°	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	
	65	器	Ⅲ	A	Ⅲ	以経(頸部)有文様(縁部)	—	8~12 24.0	中硬 多量	○	△	△	砂質良好	外-赤褐色 内-赤褐色	外-11° 内-11°	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	
	66	器	Ⅲ	A	一 脚鉢	以経(頸部)有文様(縁部)	—	8~13 32.28	中硬 中量	○	△	△	砂質良好	外-赤褐色 内-赤褐色	外-11° 内-11°	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	
	67	器	Ⅲ	A	Ⅲ	以経(頸部)有文様(縁部)	—	5~10 19.4	中硬 中量	○	△	△	砂質良好	外-赤褐色 内-赤褐色	外-11° 内-11°	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	
	68	器	Ⅲ	B	古瓶	以経(頸部)有文様(縁部)	30.0 1765	10 143	中硬 少量	△	△	△	砂質良好	外-赤褐色 内-赤褐色	外-11° 内-11°	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	
	69	器	Ⅲ	B	古瓶	以経(頸部)有文様(縁部)	16.2	5~7 42.69	中硬 少量	○	△	△	砂質良好	外-赤褐色 内-赤褐色	外-11° 内-11°	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	
昭和30年代	70	器	Ⅲ	B	Ⅲ	以経(頸部)有文様(縁部)	21.8 10.5	6~8 35.5	中硬 中量	○	△	△	砂質良好	外-赤褐色 内-赤褐色	外-11° 内-11°	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	
	71	器	Ⅲ	B	一 脚鉢	以経(頸部)有文様(縁部)	—	3~5 18.2	中硬 多量	○	△	△	砂質良好	外-赤褐色 内-赤褐色	外-11° 内-11°	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	
	72	器	Ⅲ	B	Ⅲ	以経(頸部)有文様(縁部)	—	5 8.0	中硬 中量	○	△	△	砂質良好	外-赤褐色 内-赤褐色	外-11° 内-11°	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	
	73	器	Ⅲ	C	Ⅲ	以経(頸部)有文様(縁部)	27.2 18	6~7 38	中硬 中量	○	△	△	砂質良好	外-赤褐色 内-赤褐色	外-11° 内-11°	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	
	74	器	Ⅲ	C	Ⅲ	以経(頸部)有文様(縁部)	32.8 6	12 1214	中硬 少量	○	△	△	砂質良好	外-赤褐色 内-赤褐色	外-11° 内-11°	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	
昭和30年代	75	器	Ⅲ	C	古瓶	以経(頸部)有文様(縁部)	16.7	3	中硬 少量	○	△	△	砂質良好	外-赤褐色 内-赤褐色	外-11° 内-11°	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	
	76	器	Ⅲ	C	Ⅲ	以経(頸部)有文様(縁部)	25.8 —	6 29.8	中硬 中量	○	△	△	砂質良好	外-赤褐色 内-赤褐色	外-11° 内-11°	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	
	77	器	Ⅲ	C	Ⅲ	以経(頸部)有文様(縁部)	11.8 —	5~7 716.5	中硬 少量	○	△	△	砂質良好	外-赤褐色 内-赤褐色	外-11° 内-11°	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	
	78	器	Ⅲ	C	Ⅲ	以経(頸部)有文様(縁部)	30.0 —	5 25.1	中硬 少量	○	△	△	砂質良好	外-赤褐色 内-赤褐色	外-11° 内-11°	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	
	79	器	Ⅲ	C	古瓶	以経(頸部)有文様(縁部)	20.0 28.1	5~7 1760	中硬 少量	○	△	△	砂質良好	外-赤褐色 内-赤褐色	外-11° 内-11°	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	
昭和30年代	80	器	Ⅲ	C	Ⅲ	以経(頸部)有文様(縁部)	27.2 —	5~7 213	中硬 中量	○	△	△	砂質良好	外-赤褐色 内-赤褐色	外-11° 内-11°	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	
	81	器	Ⅲ	C	Ⅲ	以経(頸部)有文様(縁部)	—	3 22.9	中硬 少量	○	△	△	砂質良好	外-赤褐色 内-赤褐色	外-11° 内-11°	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	
	82	器	Ⅲ	C	Ⅲ	以経(頸部)有文様(縁部)	27.5 —	5~7 —	中硬 中量	○	△	△	砂質良好	外-赤褐色 内-赤褐色	外-11° 内-11°	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	
	83	器	Ⅲ	V	A	Ⅲ	以経(頸部)有文様(縁部)	27.2 31.5	4~8 626	中硬 中量	○	△	△	砂質良好	外-赤褐色 内-赤褐色	外-11° 内-11°	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表
	84	器	Ⅲ	V	A	一 脚鉢	以経(頸部)有文様(縁部)	—	5~8 24.9	中硬 多量	○	△	△	砂質良好	外-赤褐色 内-赤褐色	外-11° 内-11°	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表
昭和30年代	85	器	Ⅲ	V	A	一 脚鉢	以経(頸部)有文様(縁部)	—	5~7 43.5	中硬 多量	○	△	△	砂質良好	外-赤褐色 内-赤褐色	外-11° 内-11°	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表
	86	器	Ⅲ	V	B	Ⅲ	以経(頸部)有文様(縁部)	26.8 —	5~7 596.5	中硬 中量	○	△	△	砂質良好	外-赤褐色 内-赤褐色	外-11° 内-11°	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表	イ 411 表 イ 412 表 イ 413 表 イ 414 表

凡例 ○=赤土質 △=赤土質 △=赤土質 △=赤土質 △=赤土質

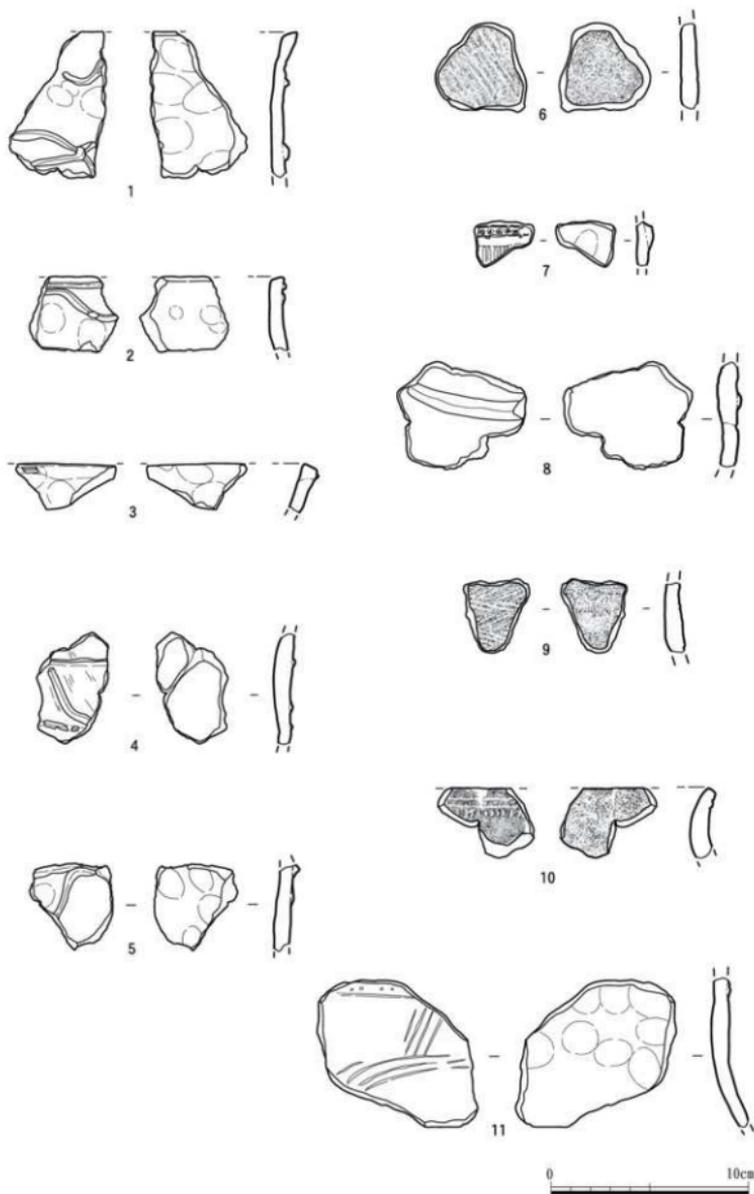
第三章 第3節





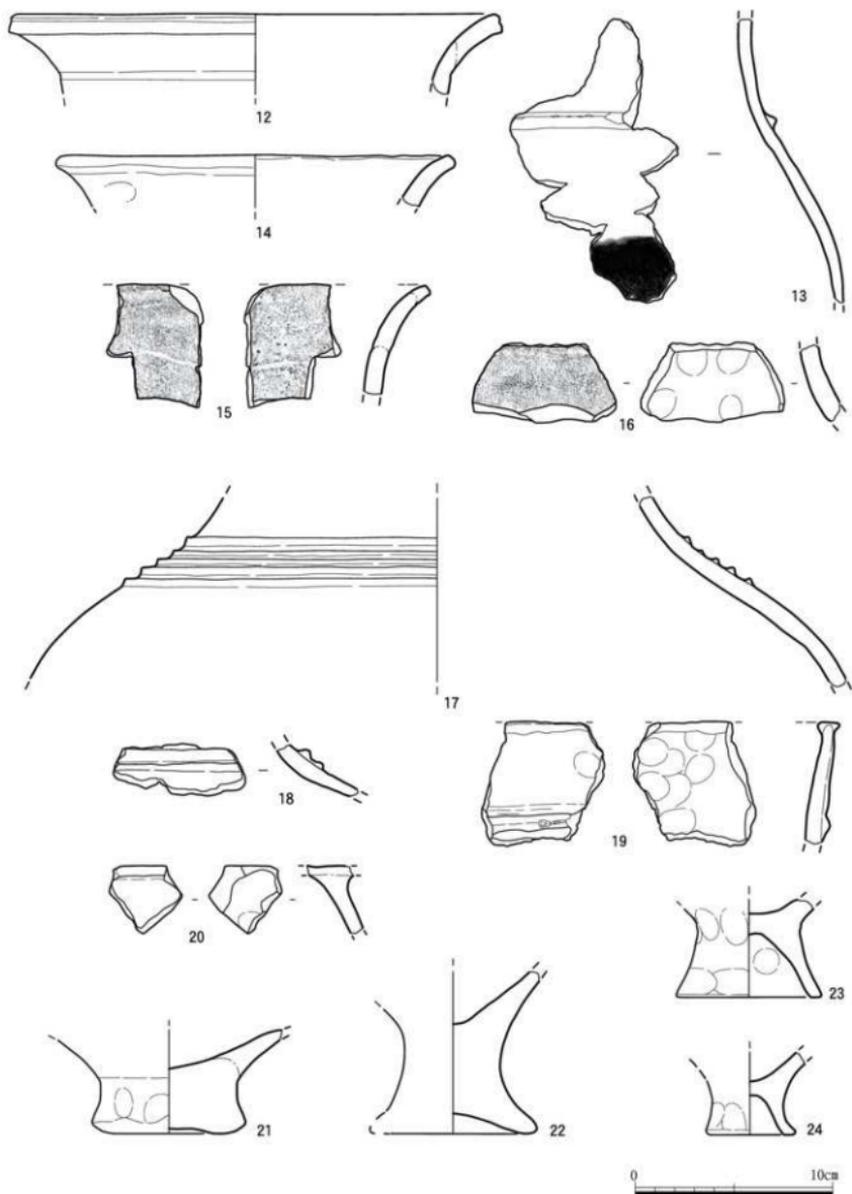






第39圖 土器 1

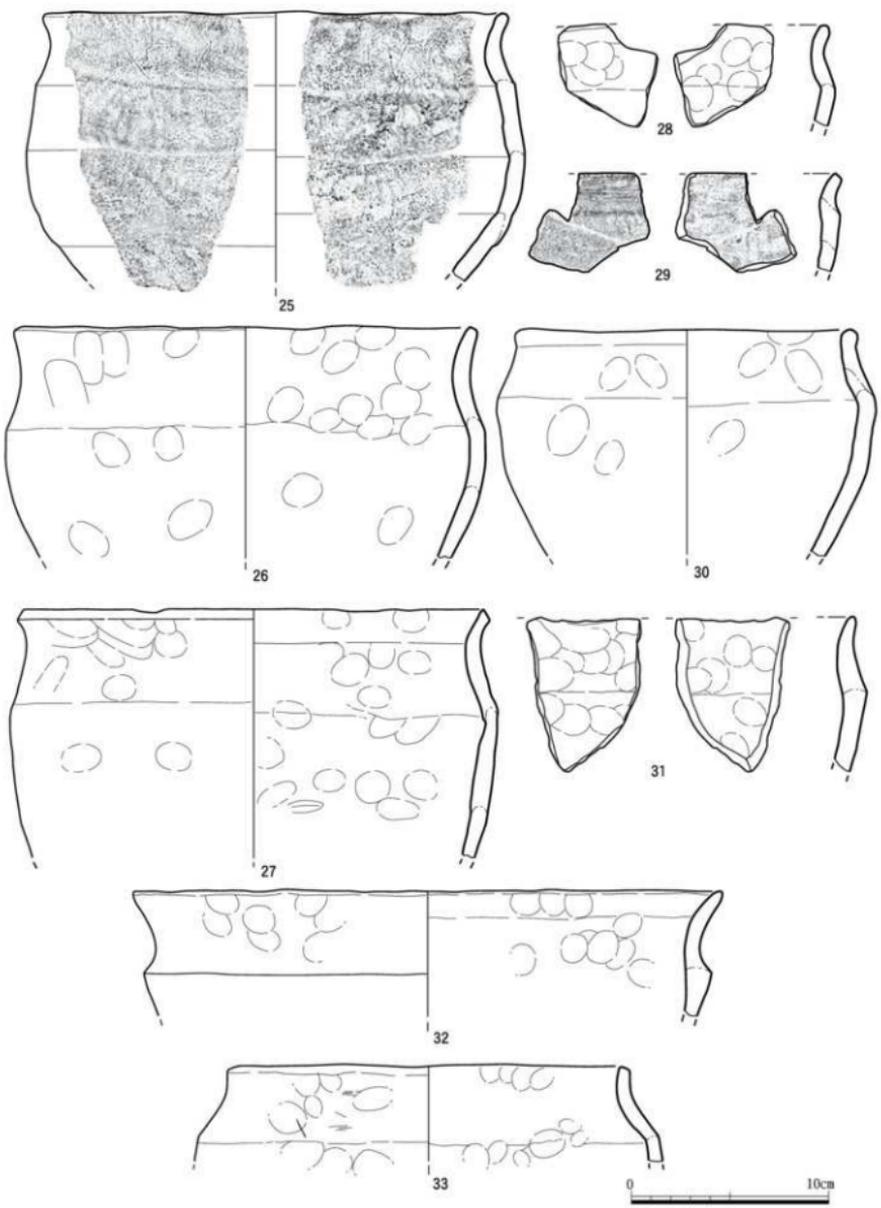




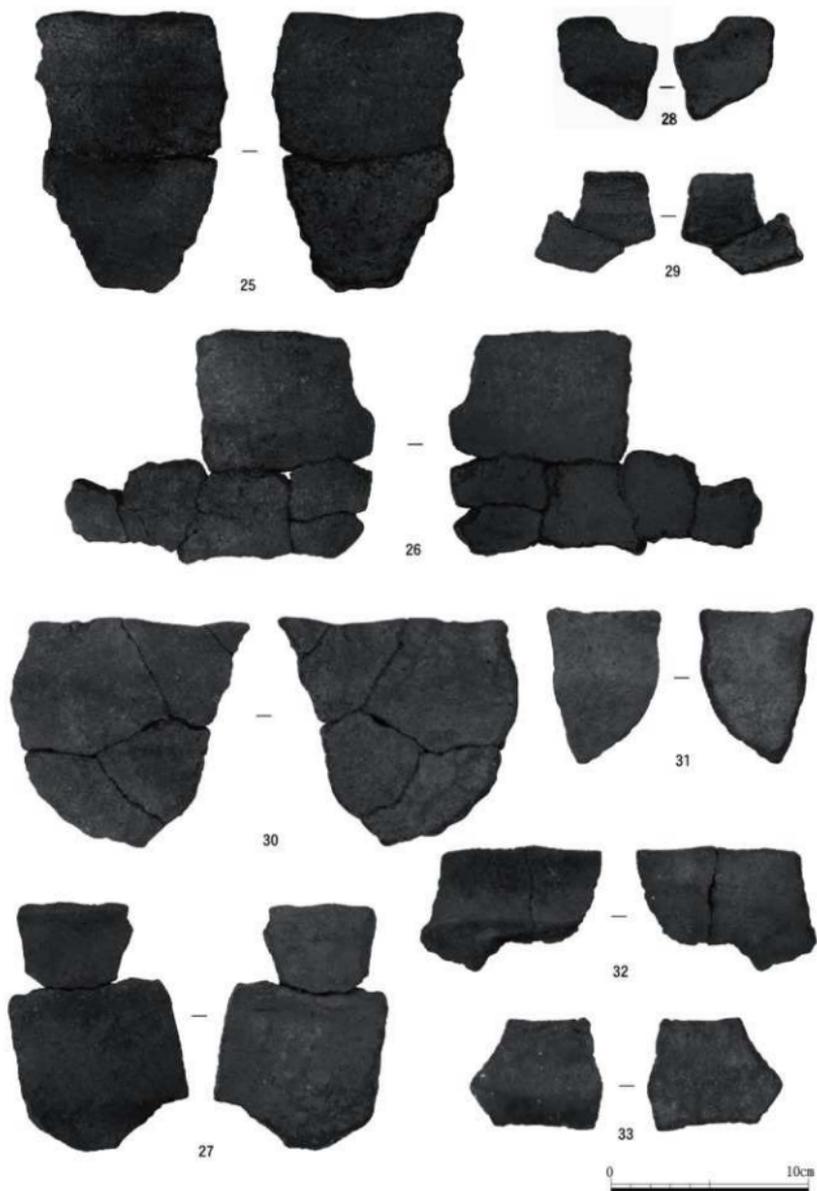
第40圖 土器2



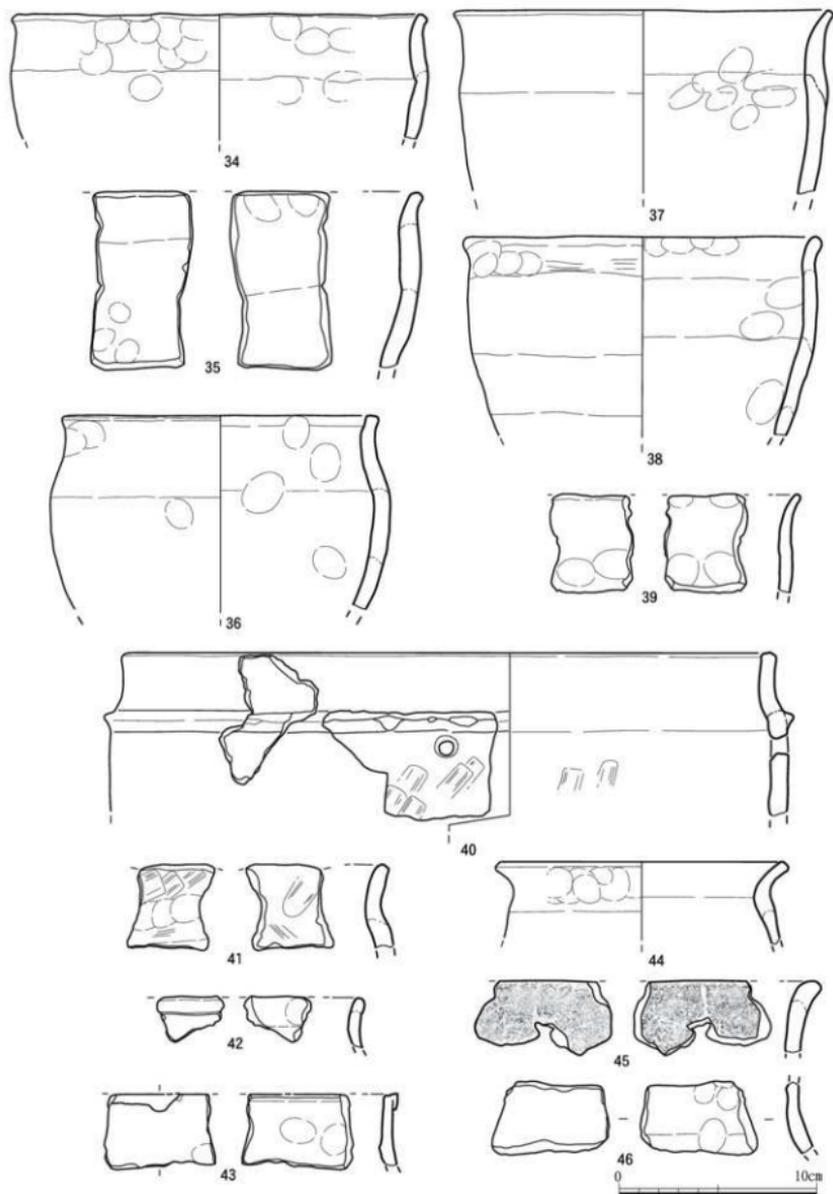
图版28 土器2



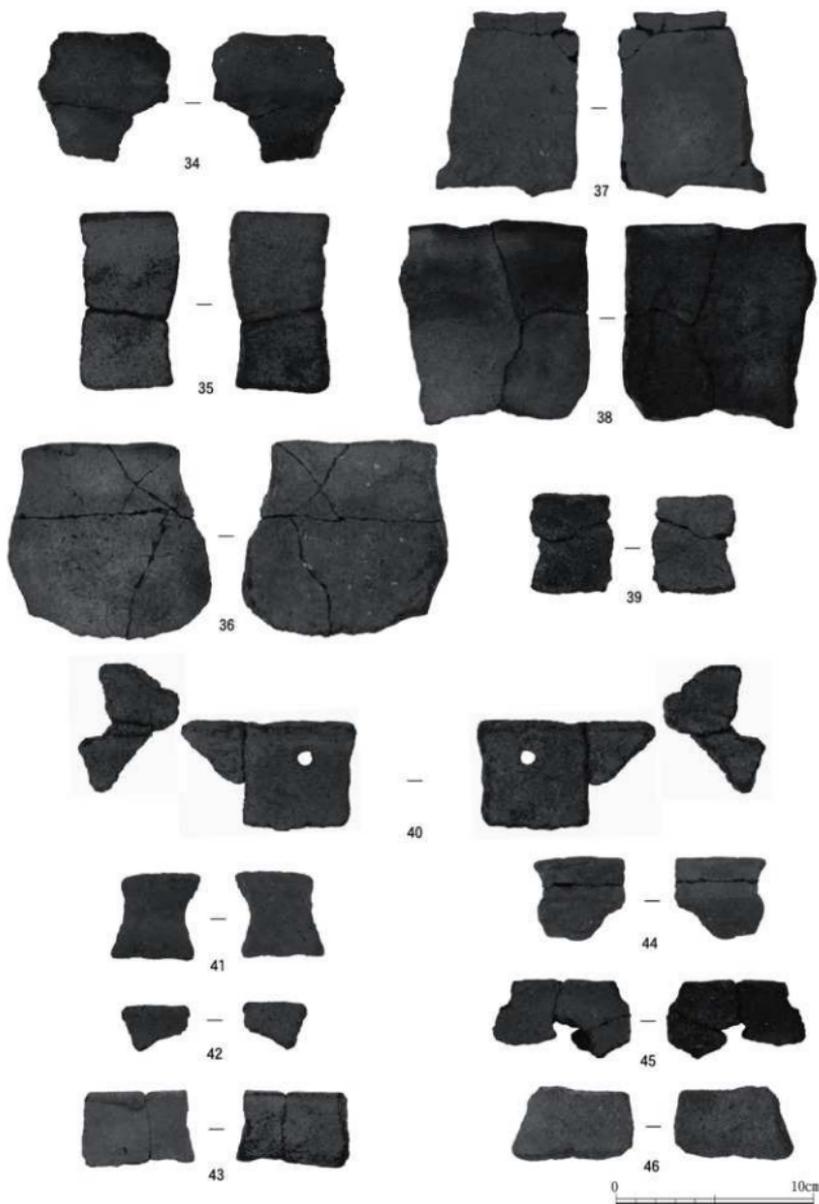
第41圖 土器3



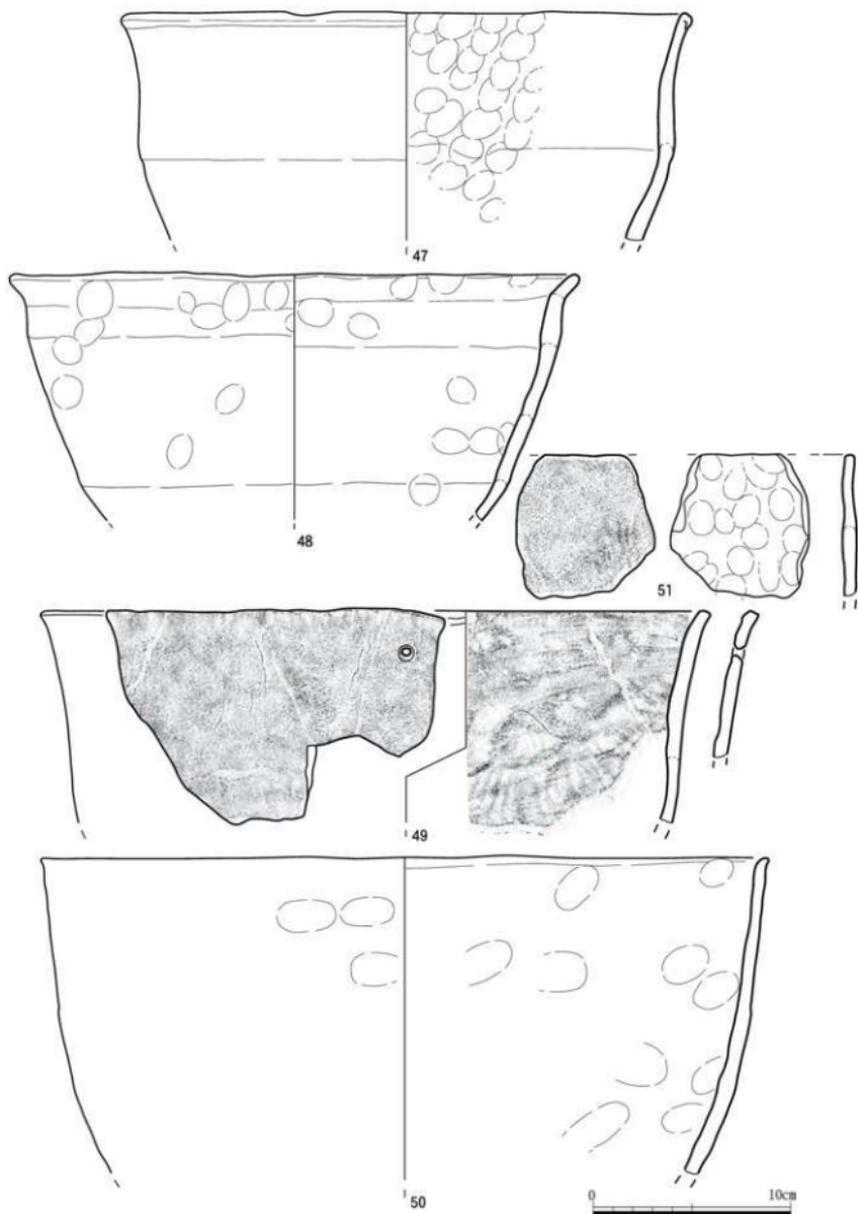
图版29 土器3



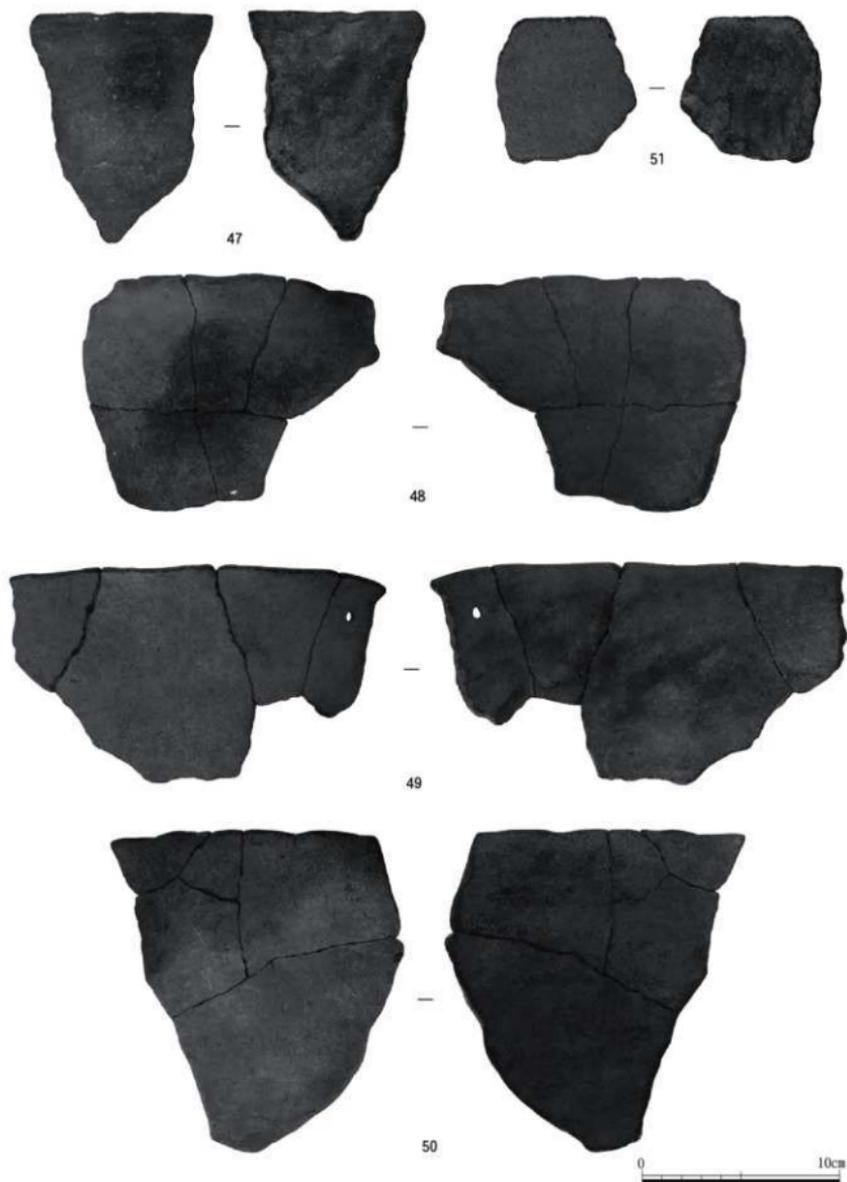
第42圖 土器4



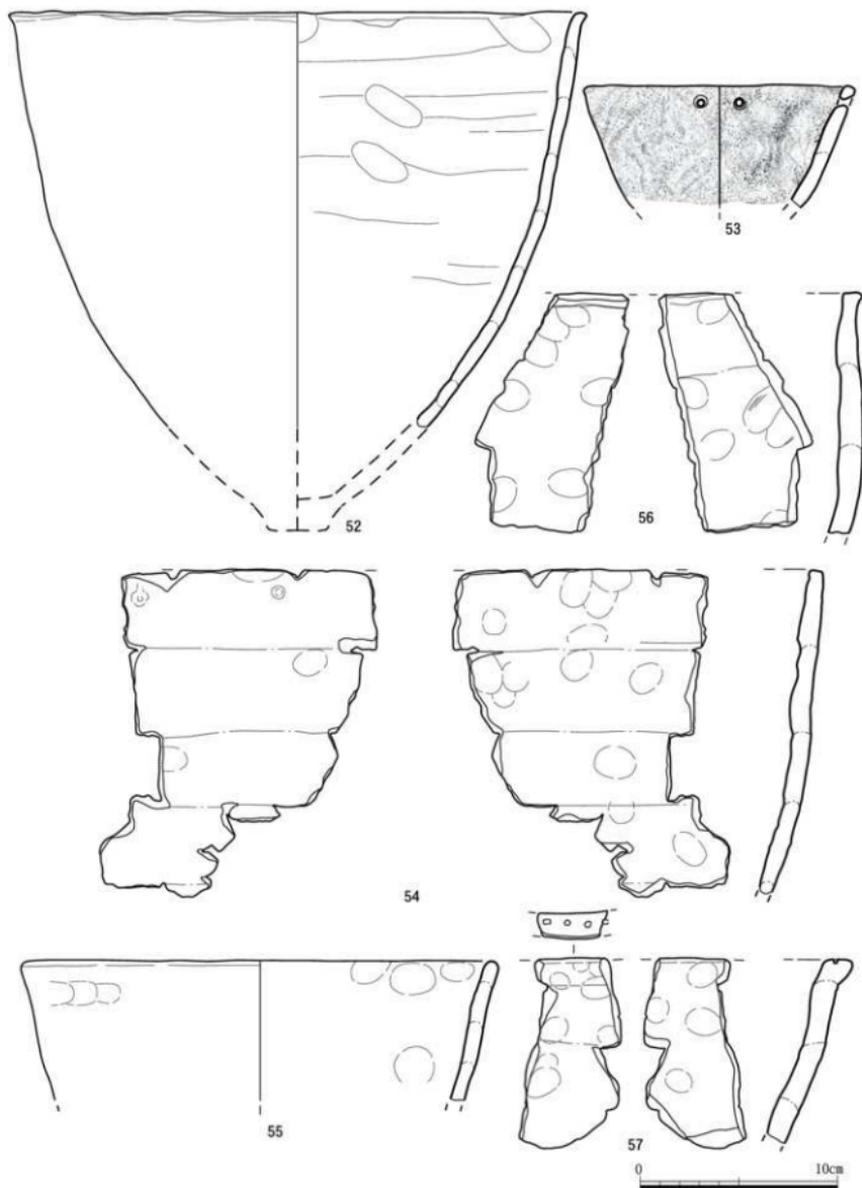
图版30 土器4



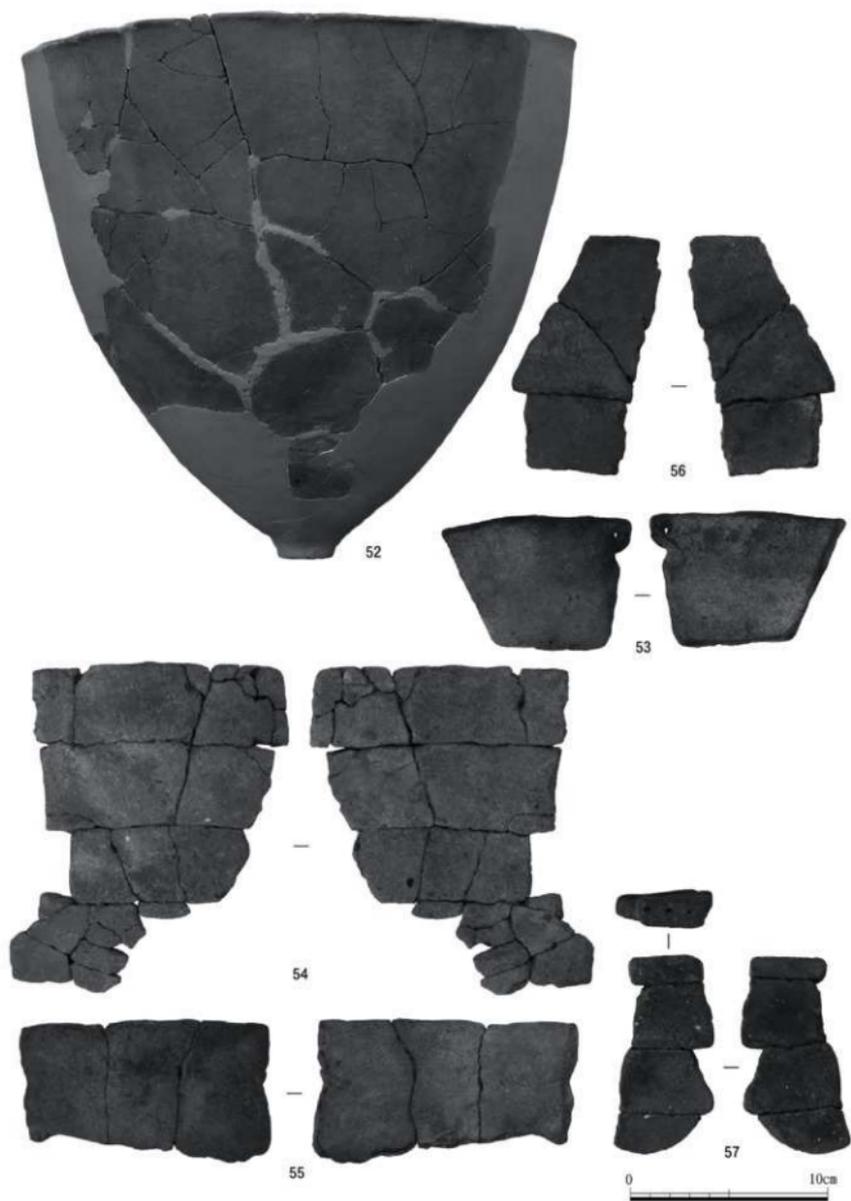
第43圖 土器5



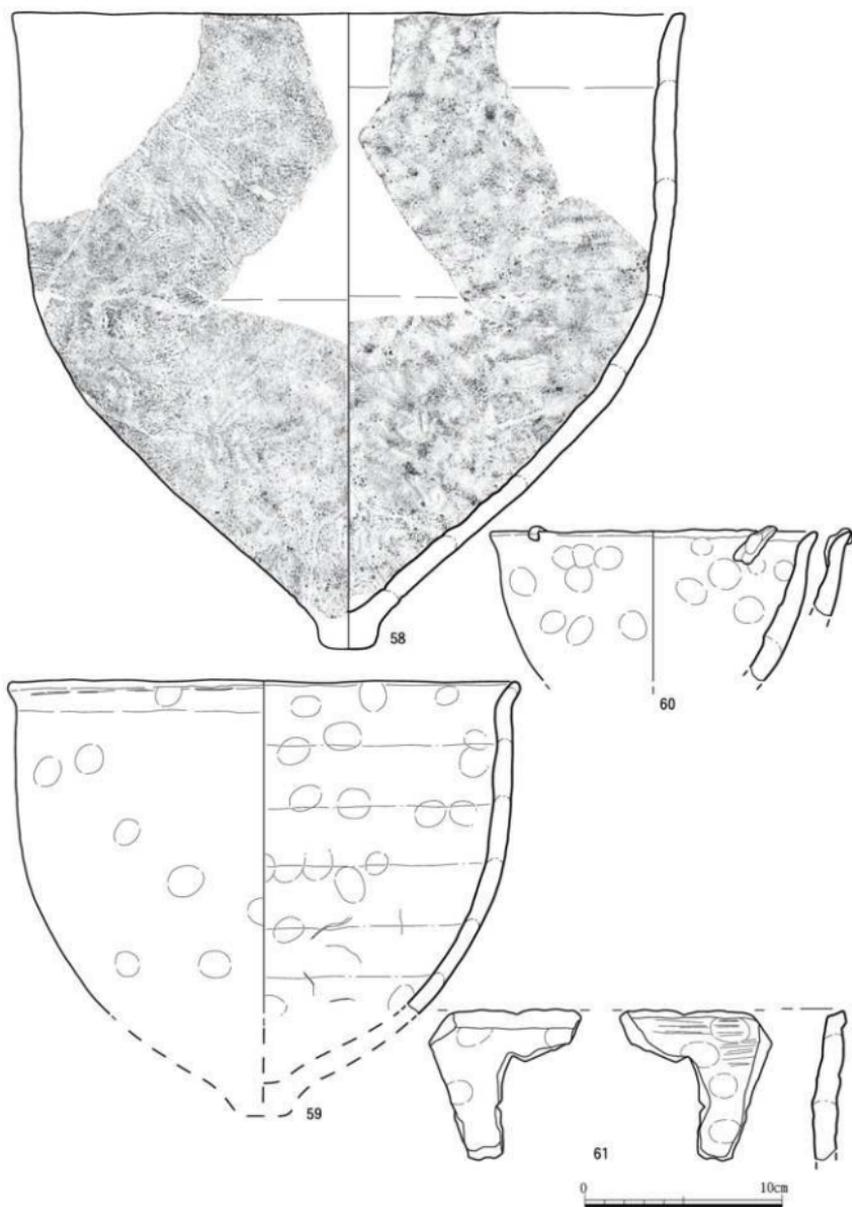
图版31 土器5



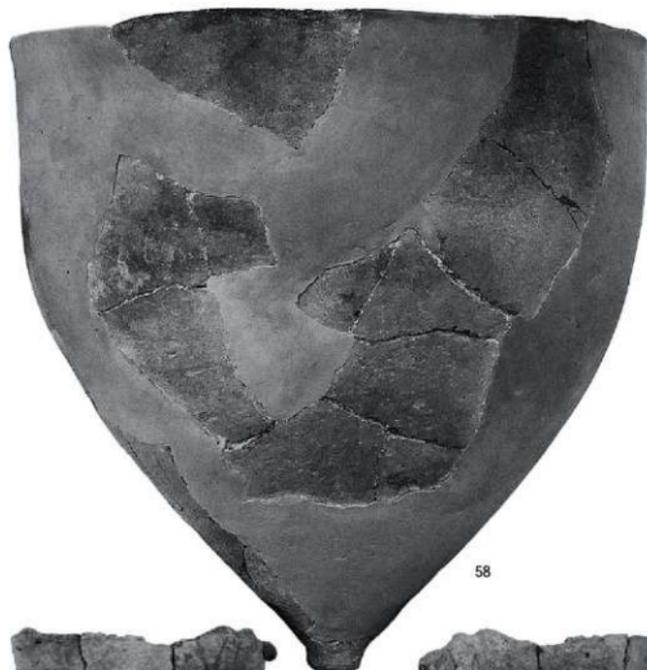
第44圖 土器6



图版32 土器6



第45圖 土器7



58



60



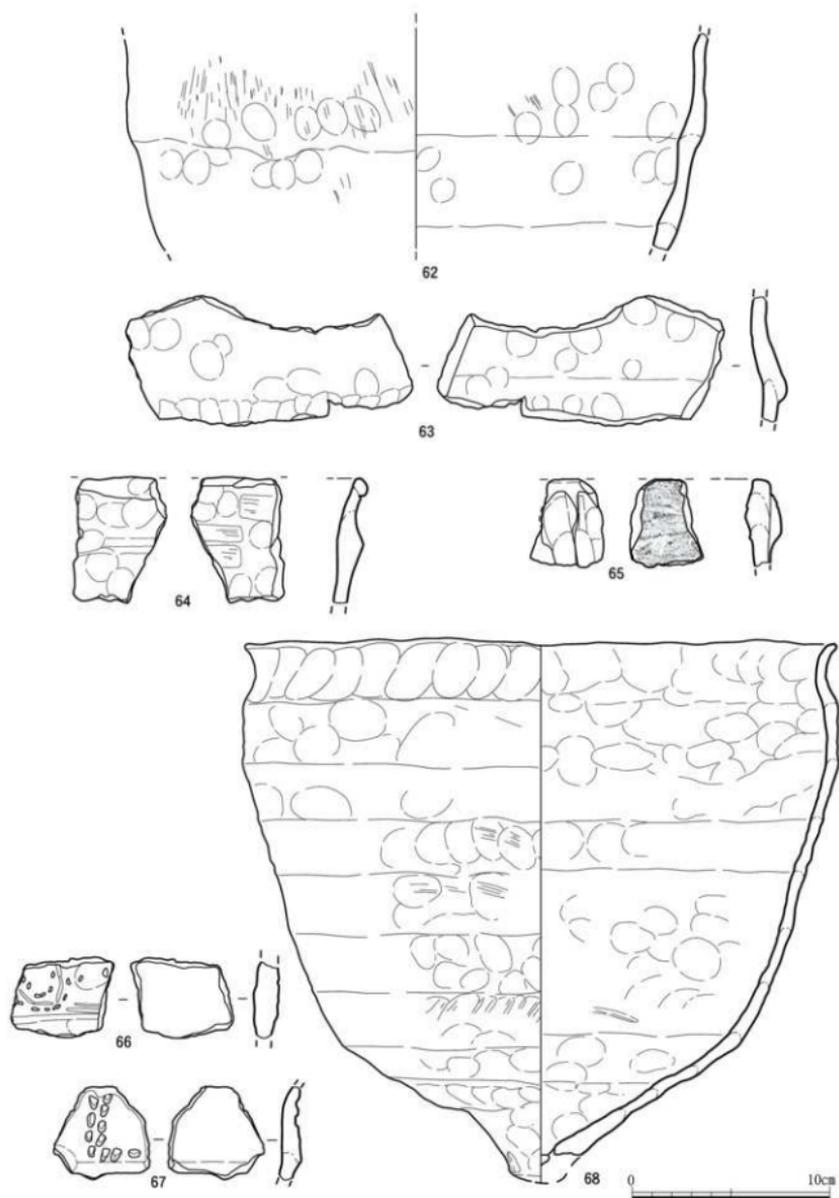
59



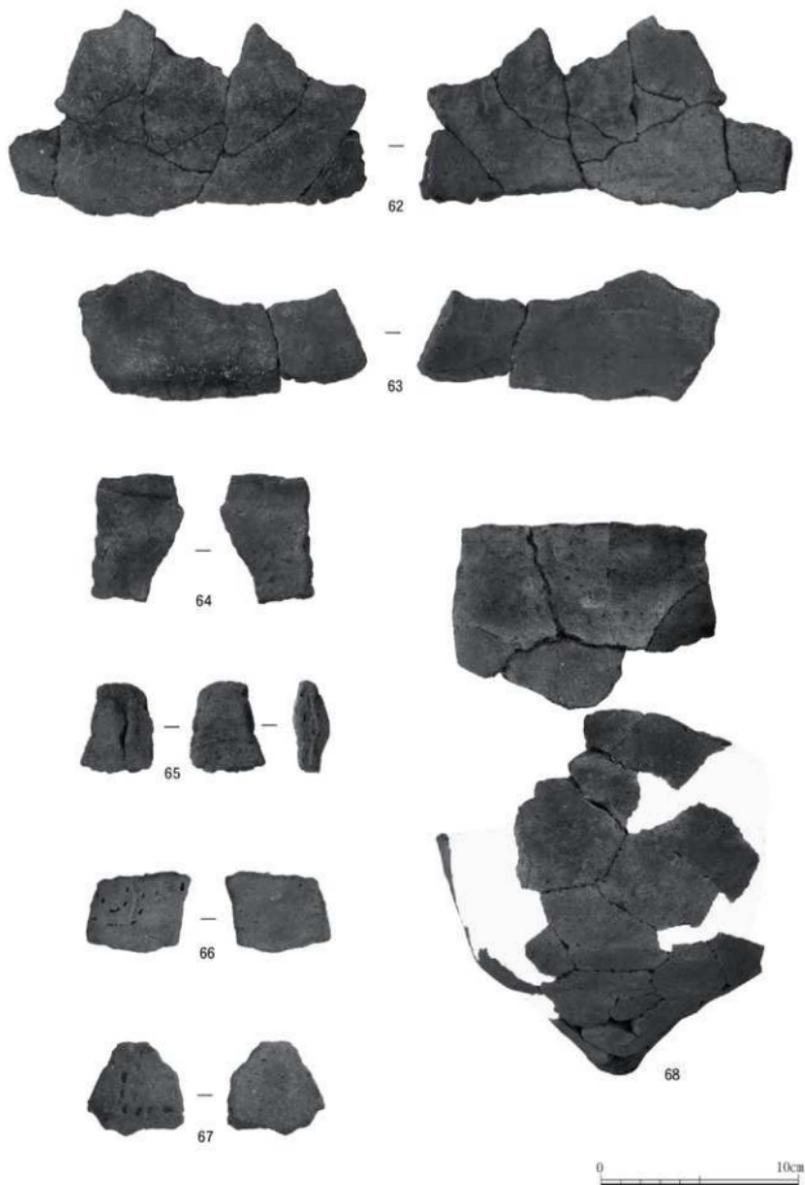
61

0 10cm

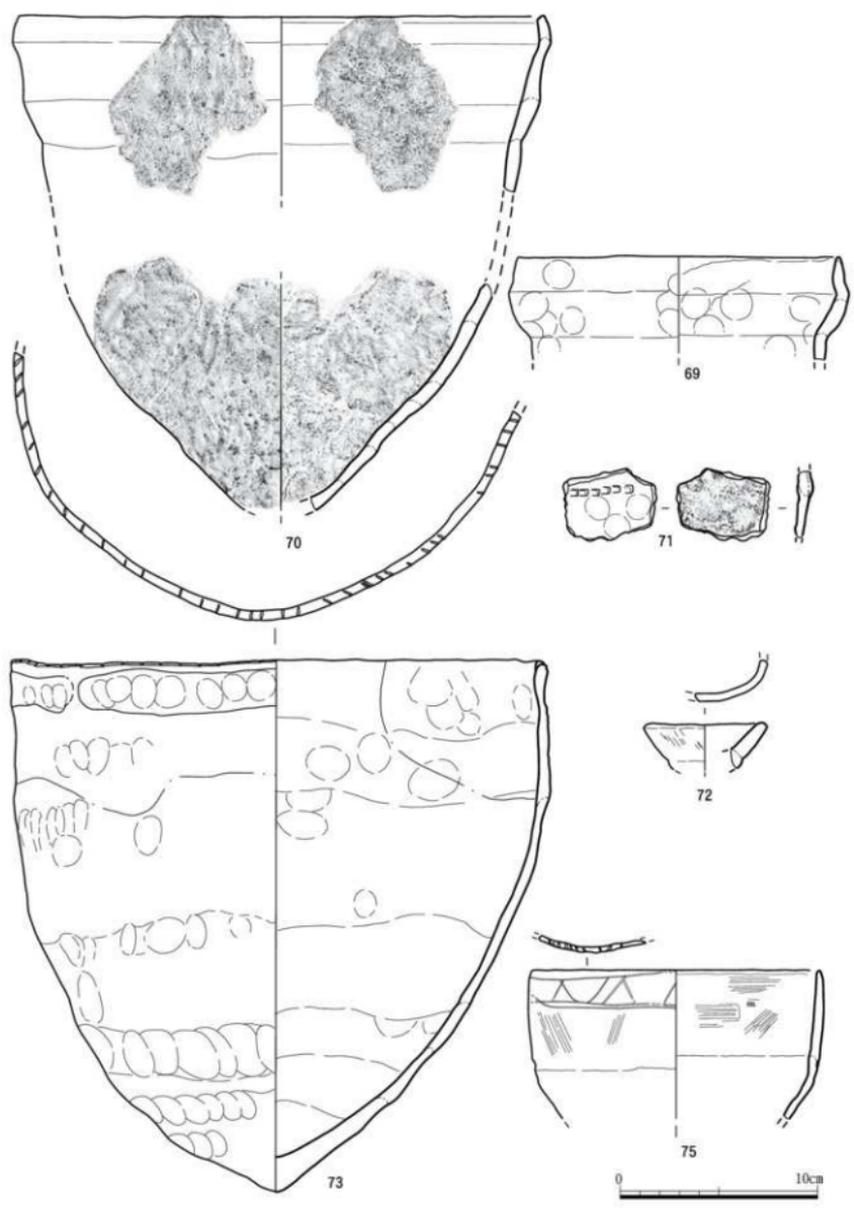
図版33 土器7



第46圖 土器 8



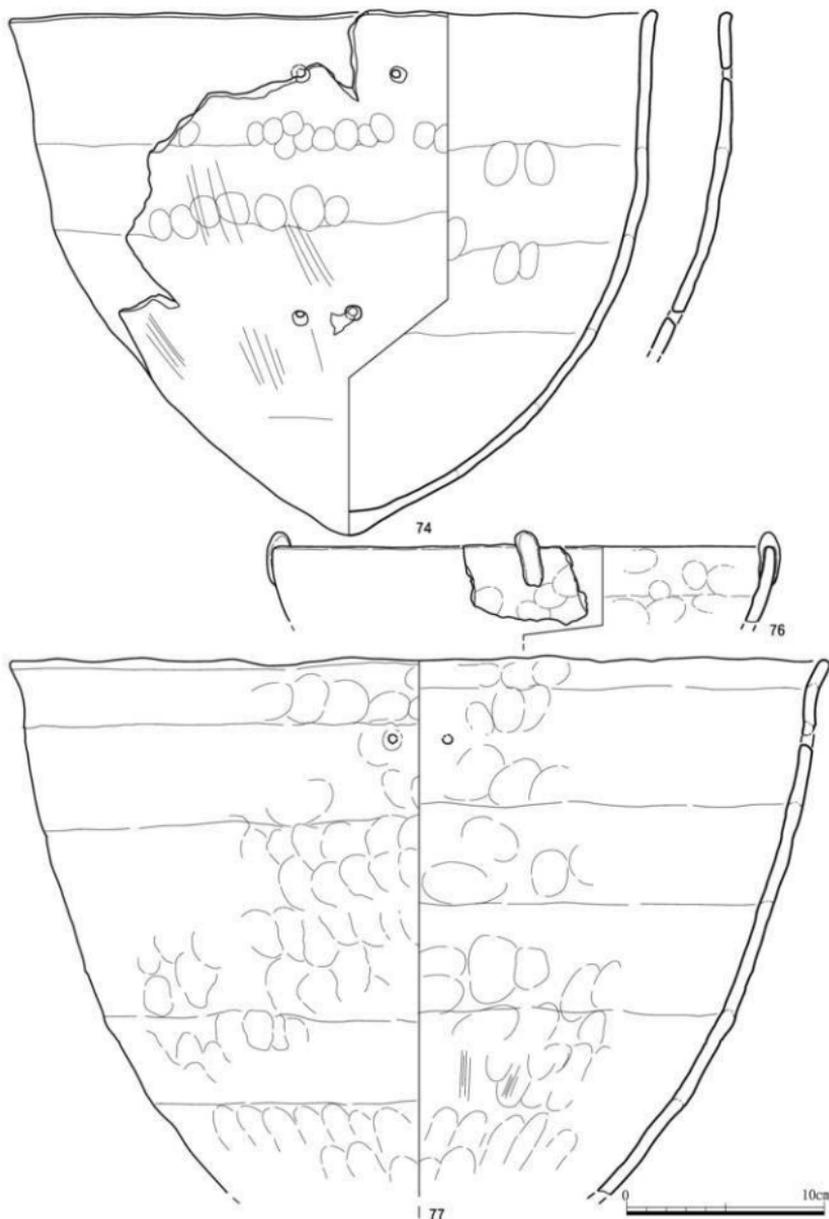
図版34 土器8



第47圖 土器9



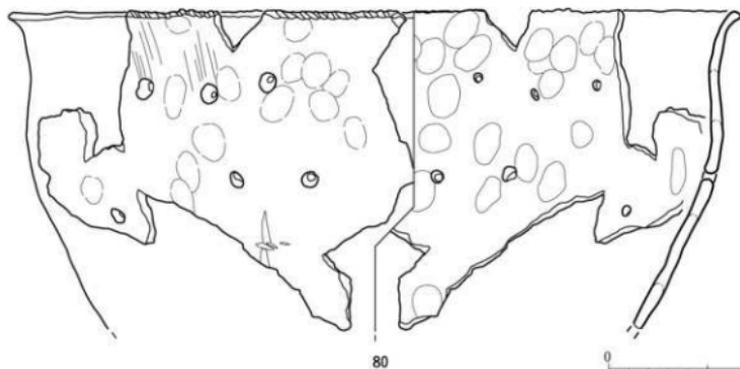
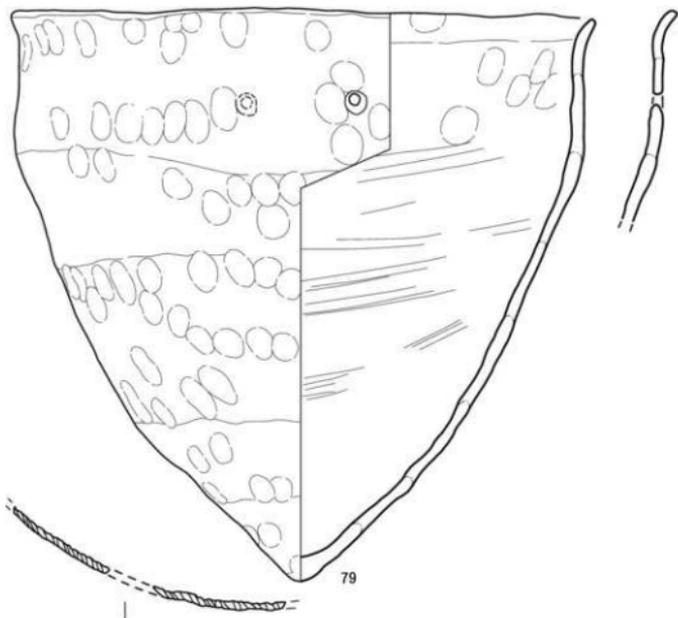
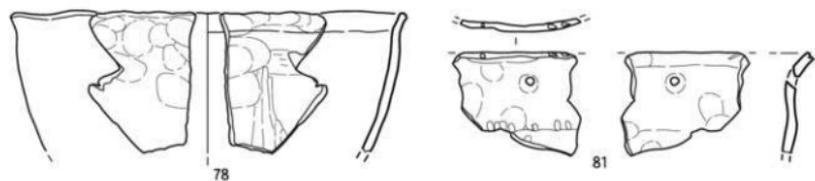
図版35 土器9



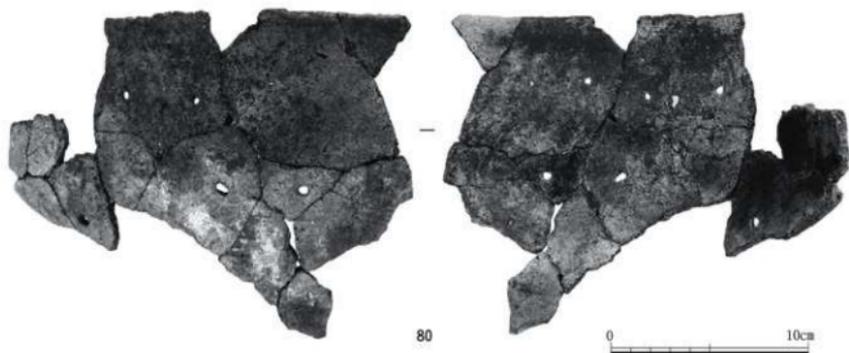
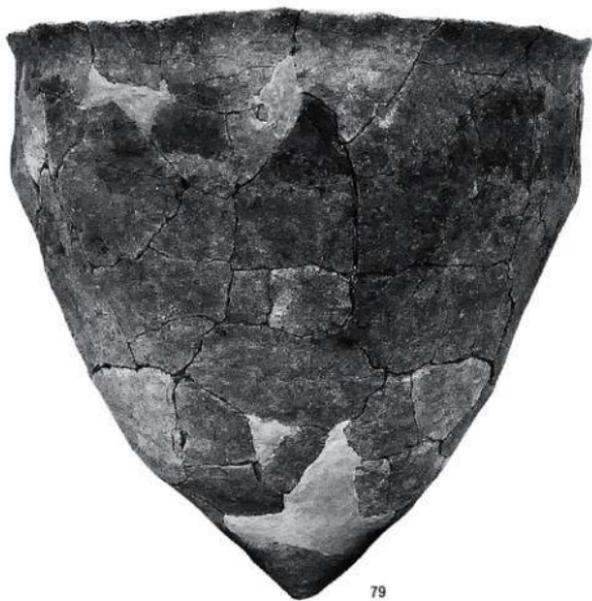
第48圖 土器10



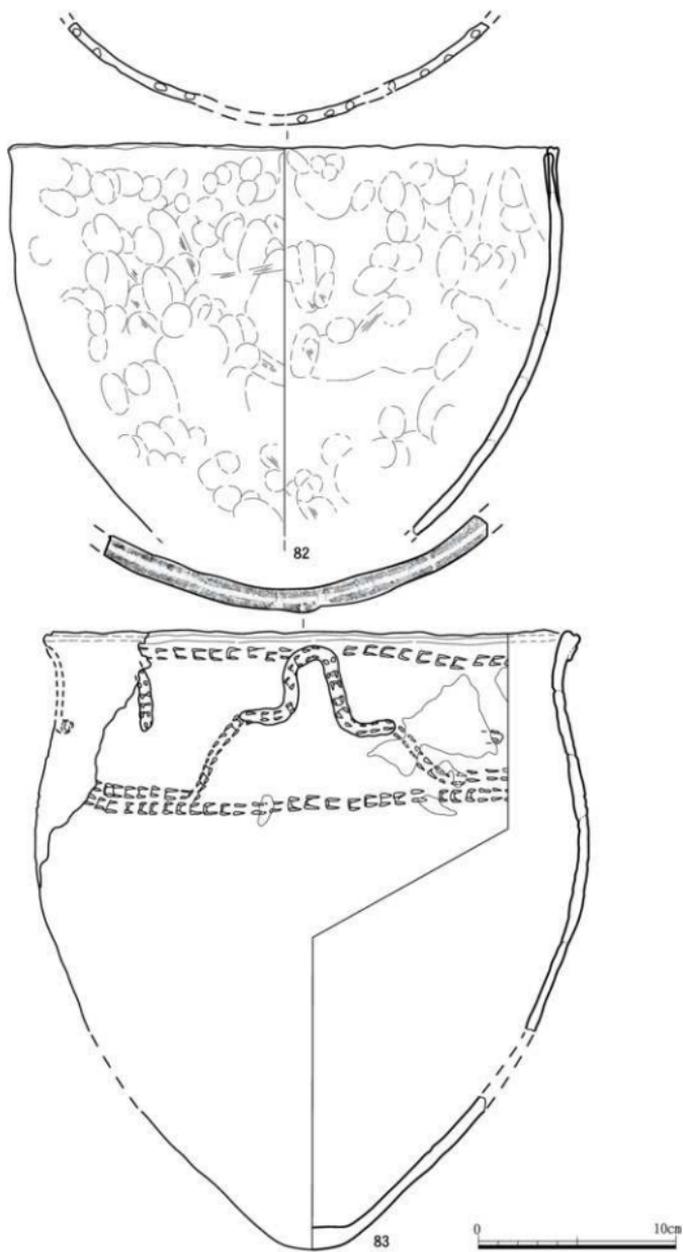
图版36 土器10



第49圖 土器11



图版37 土器11



第50圖 土器12

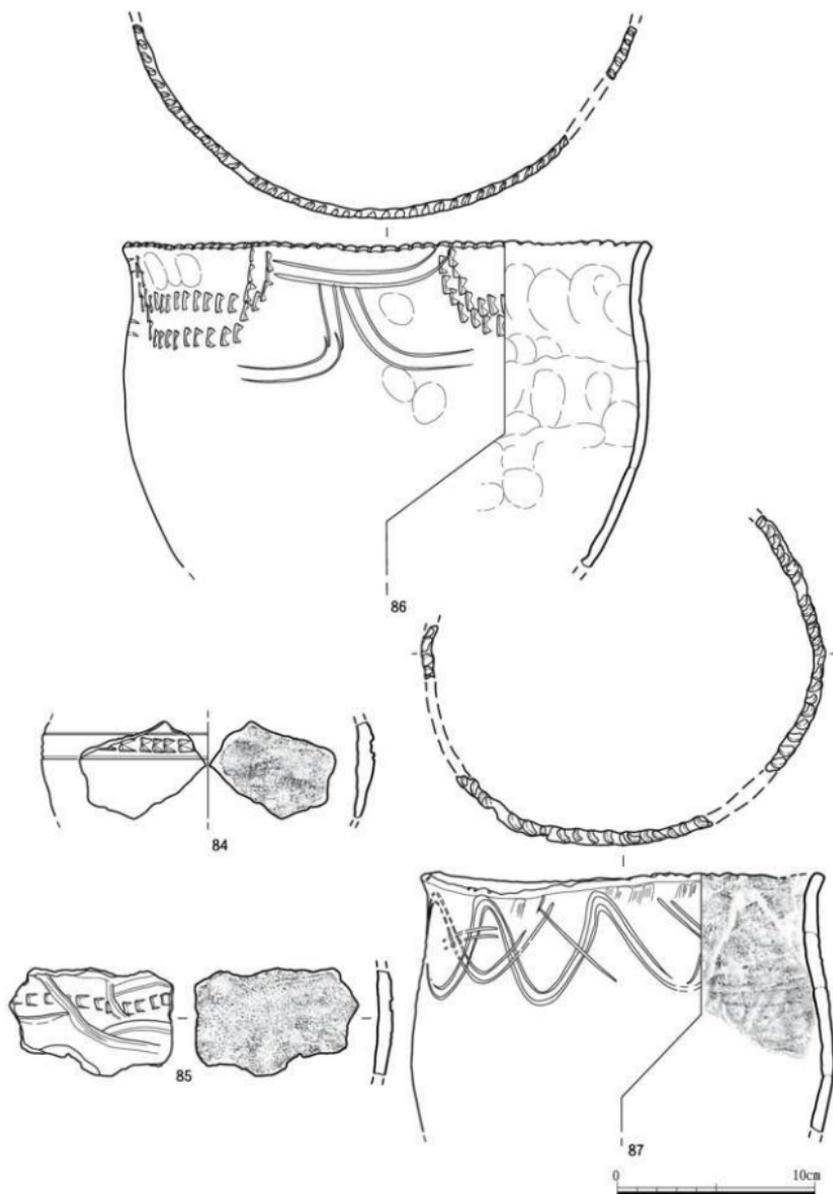


82



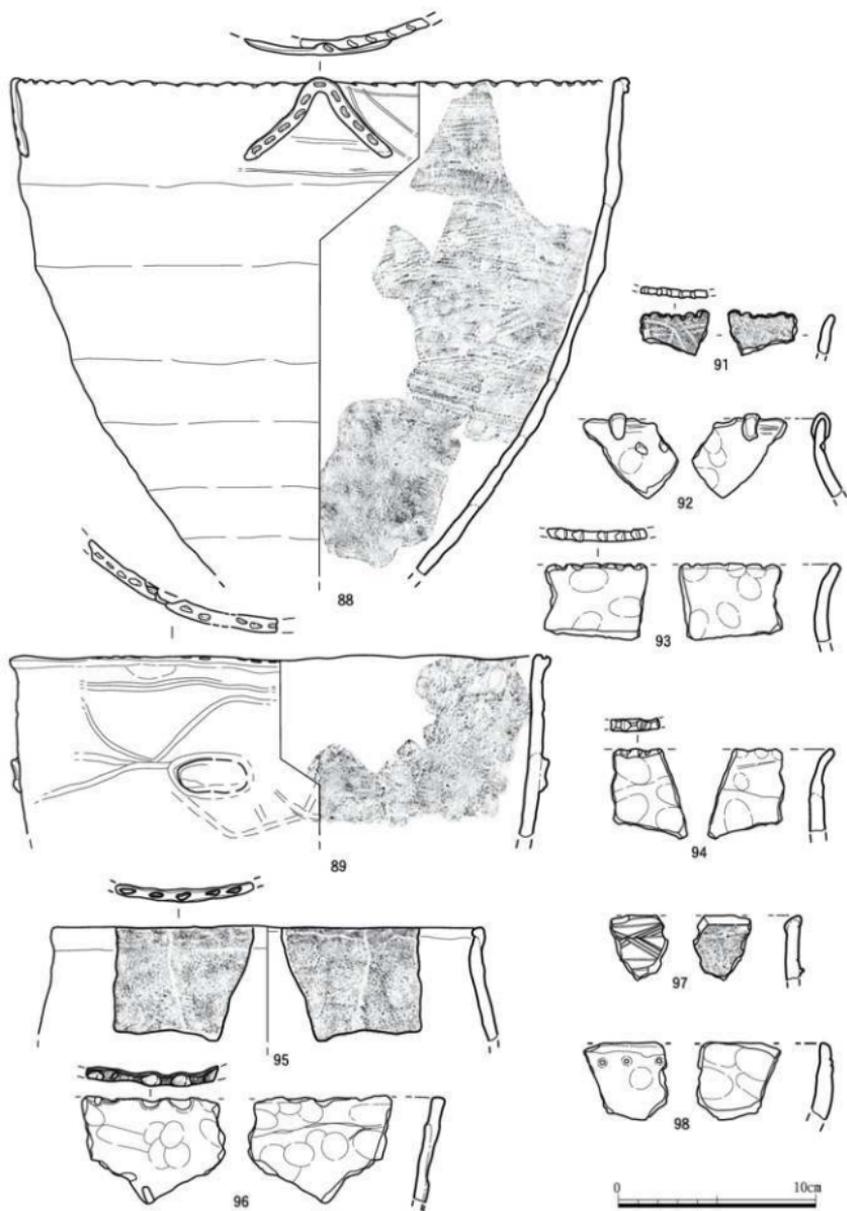
83





第51圖 土器13

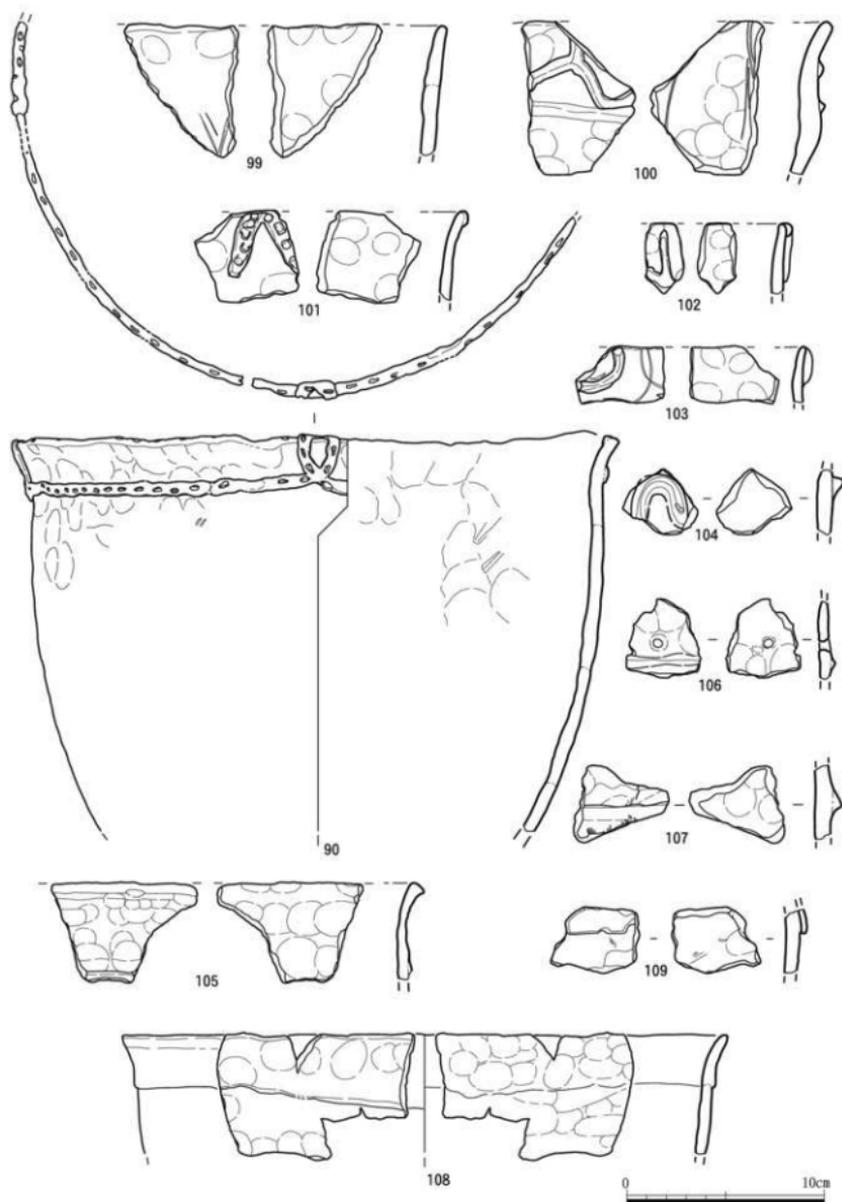




第52圖 土器14



图版40 土器14



第53圖 土器15



99



100



101



102



103



90



104



106



107



105

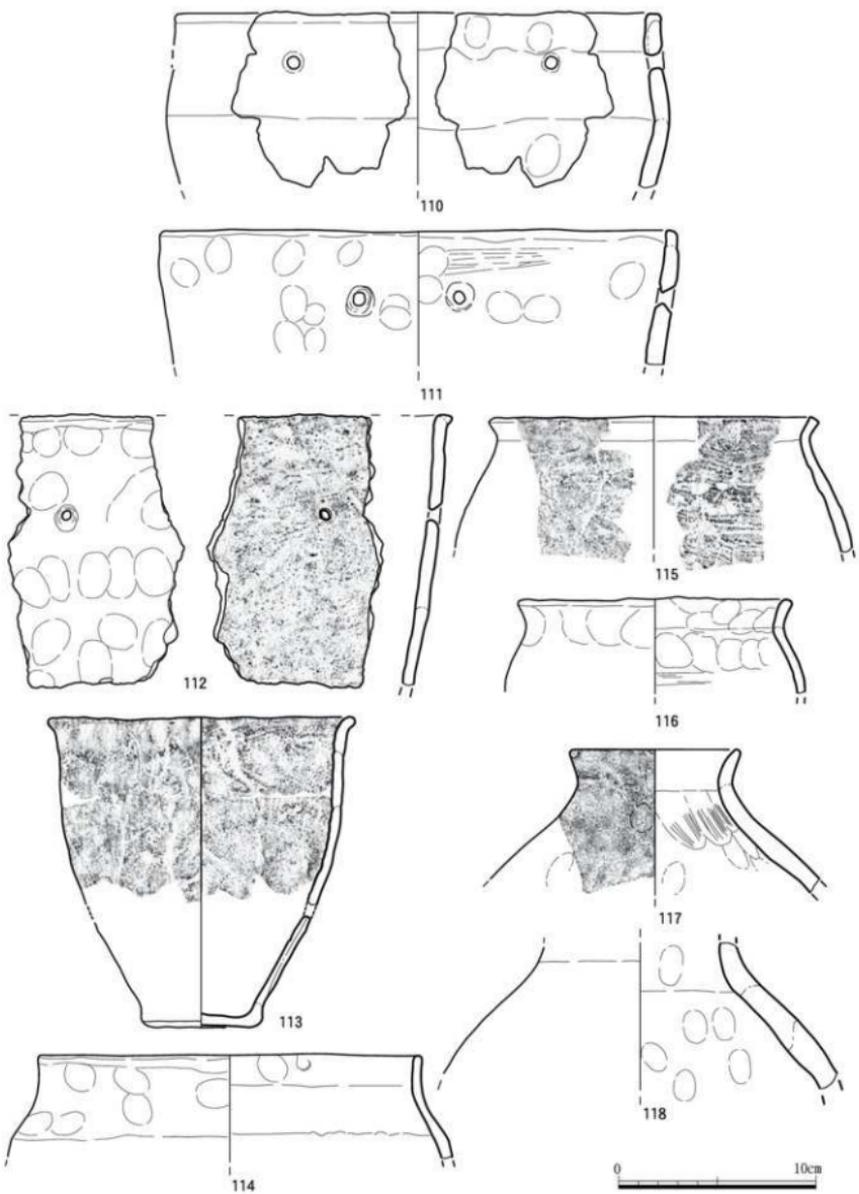


109

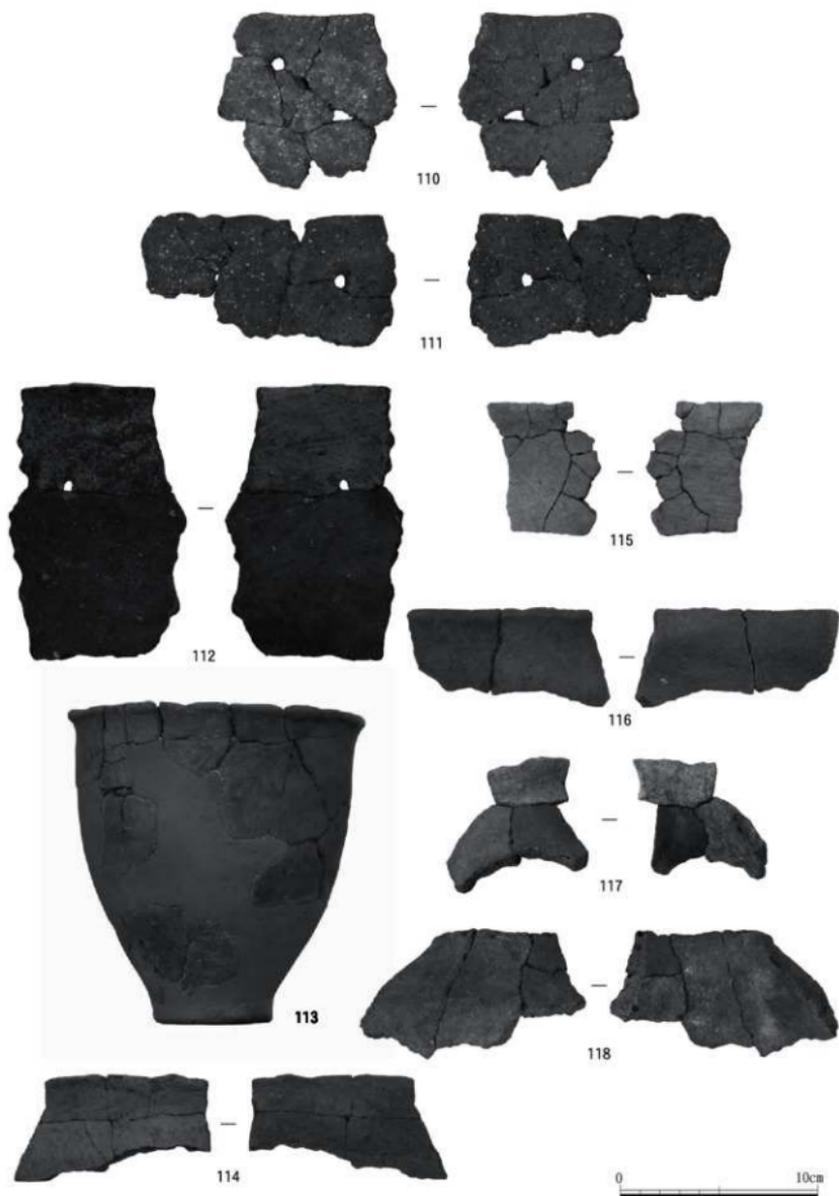


108

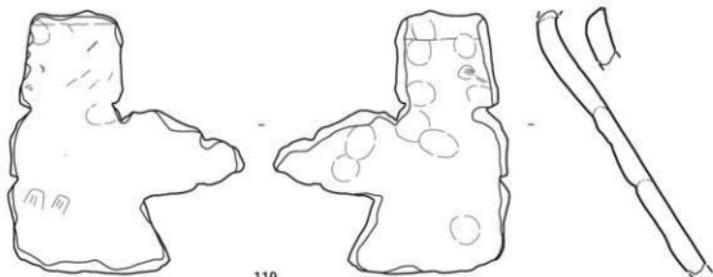




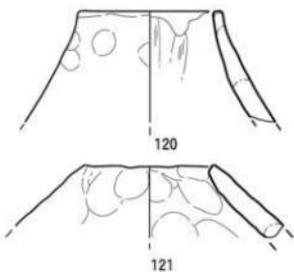
第54図 土器16



图版42 土器16

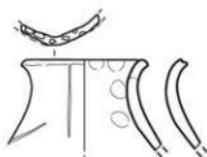


119

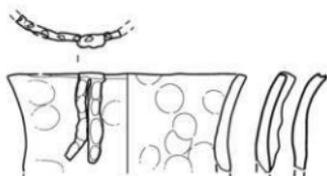
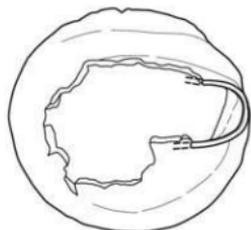


120

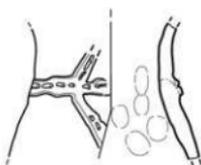
121



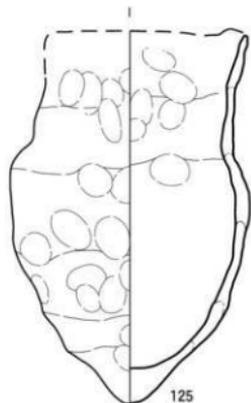
123



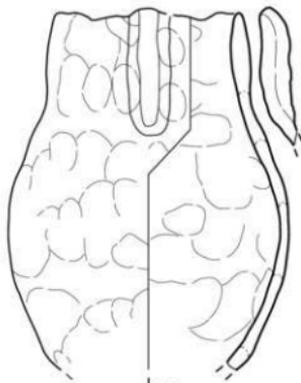
122



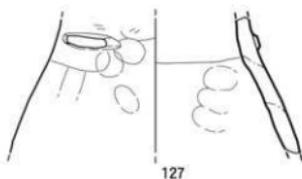
124



125



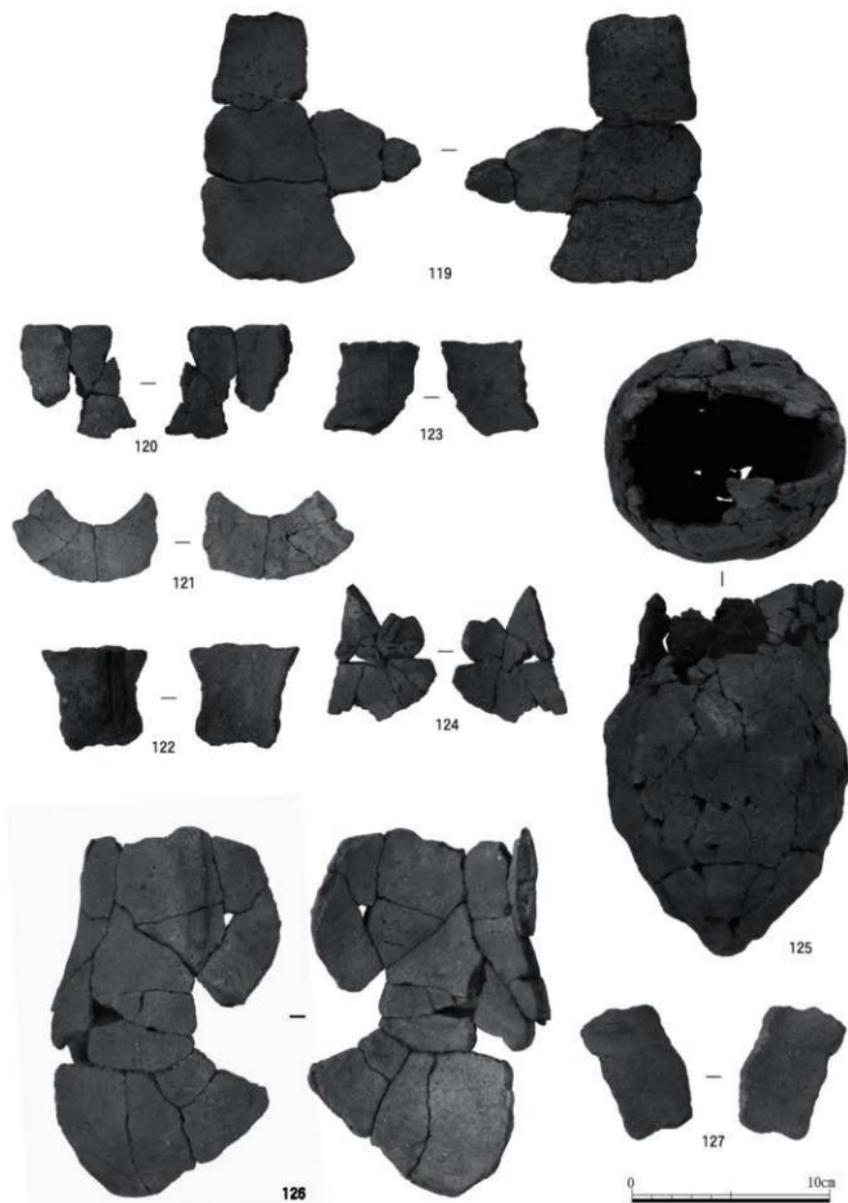
126



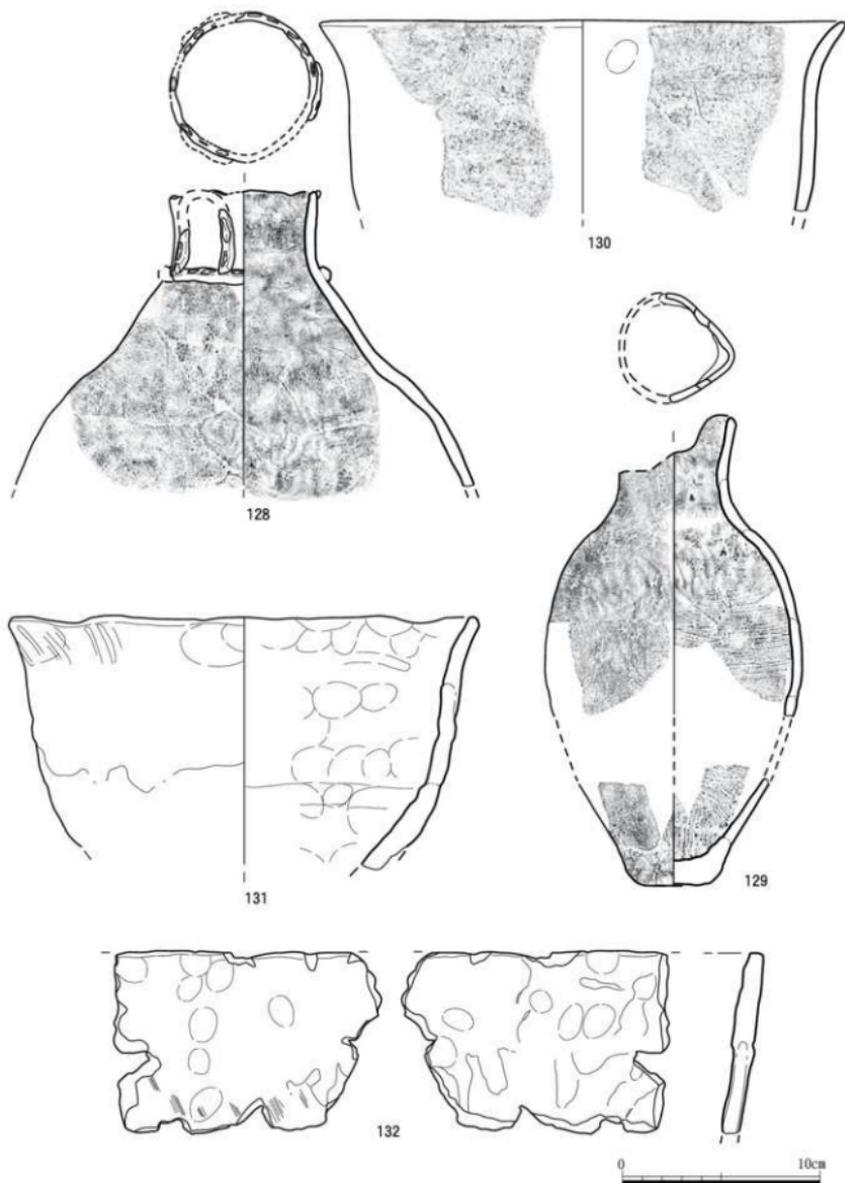
127



第55圖 土器17



图版43 土器17



第56圖 土器18



128



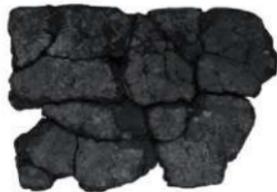
131



129



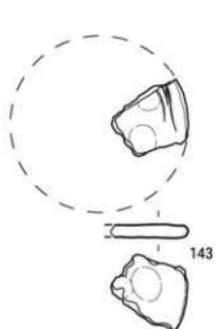
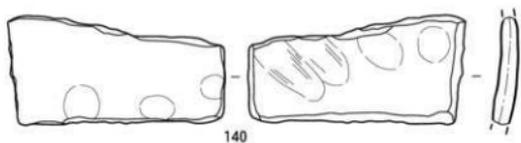
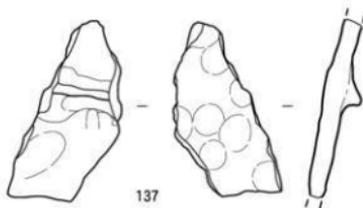
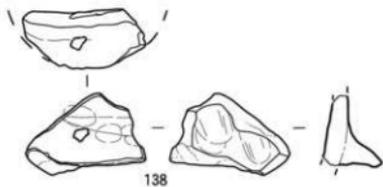
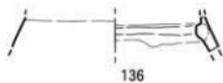
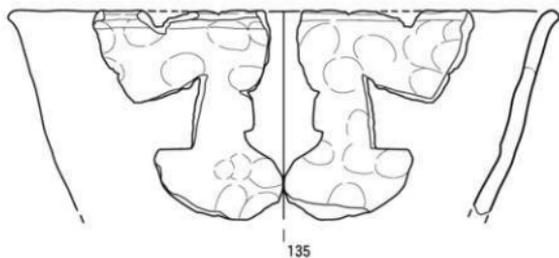
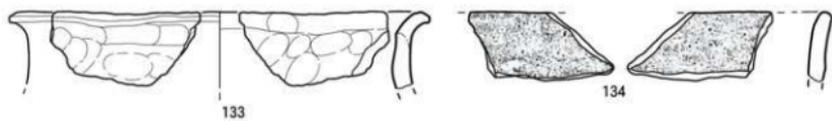
130



132

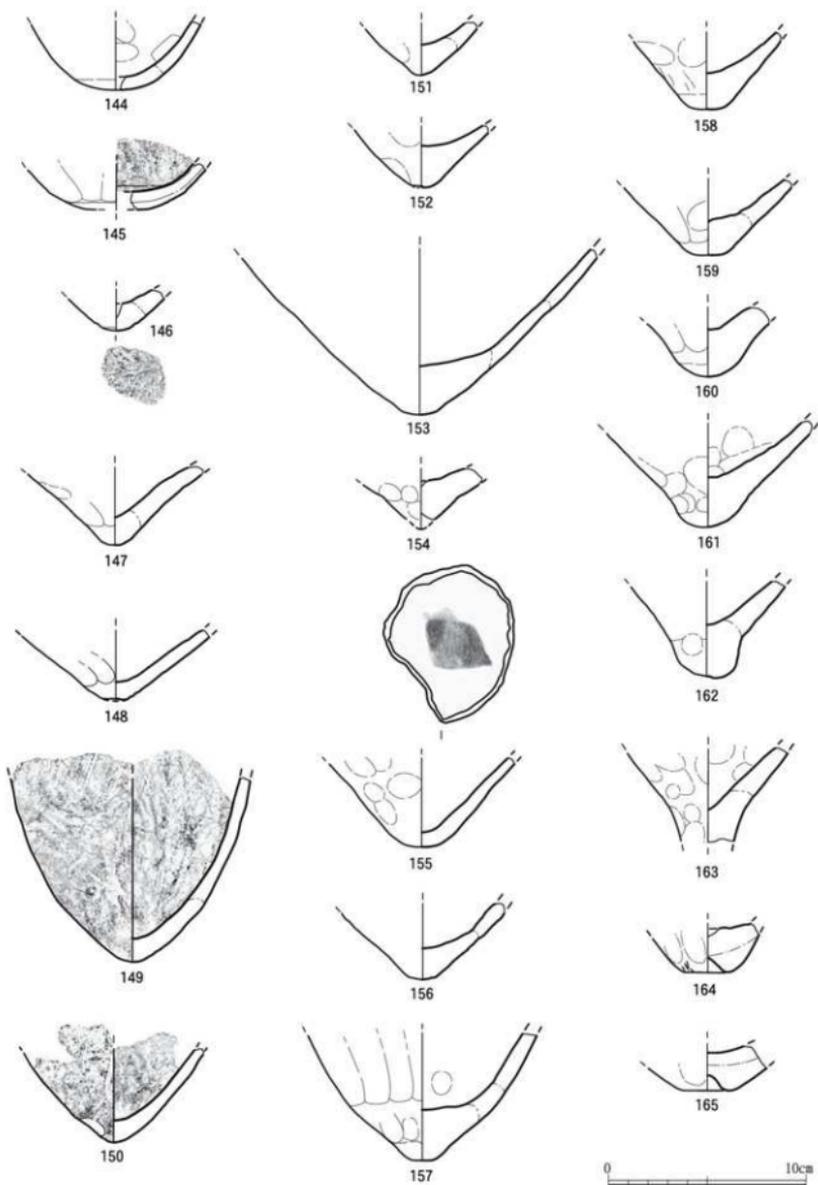


0 10cm

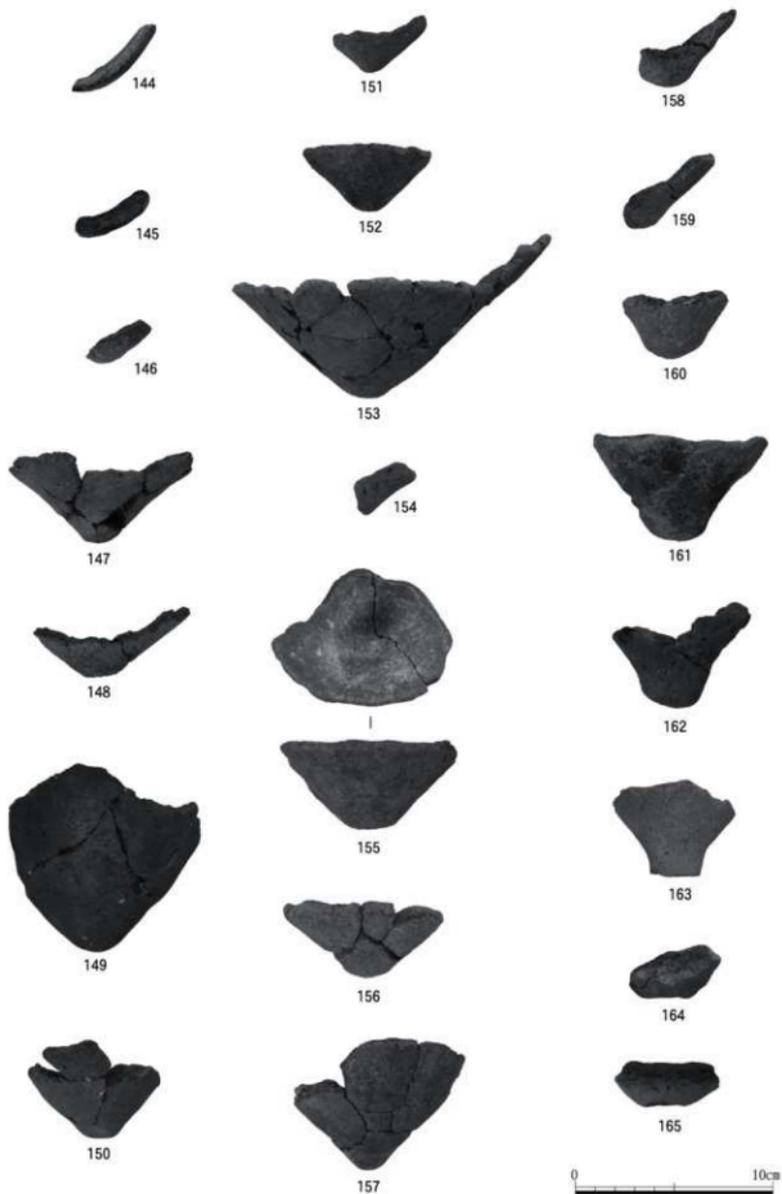




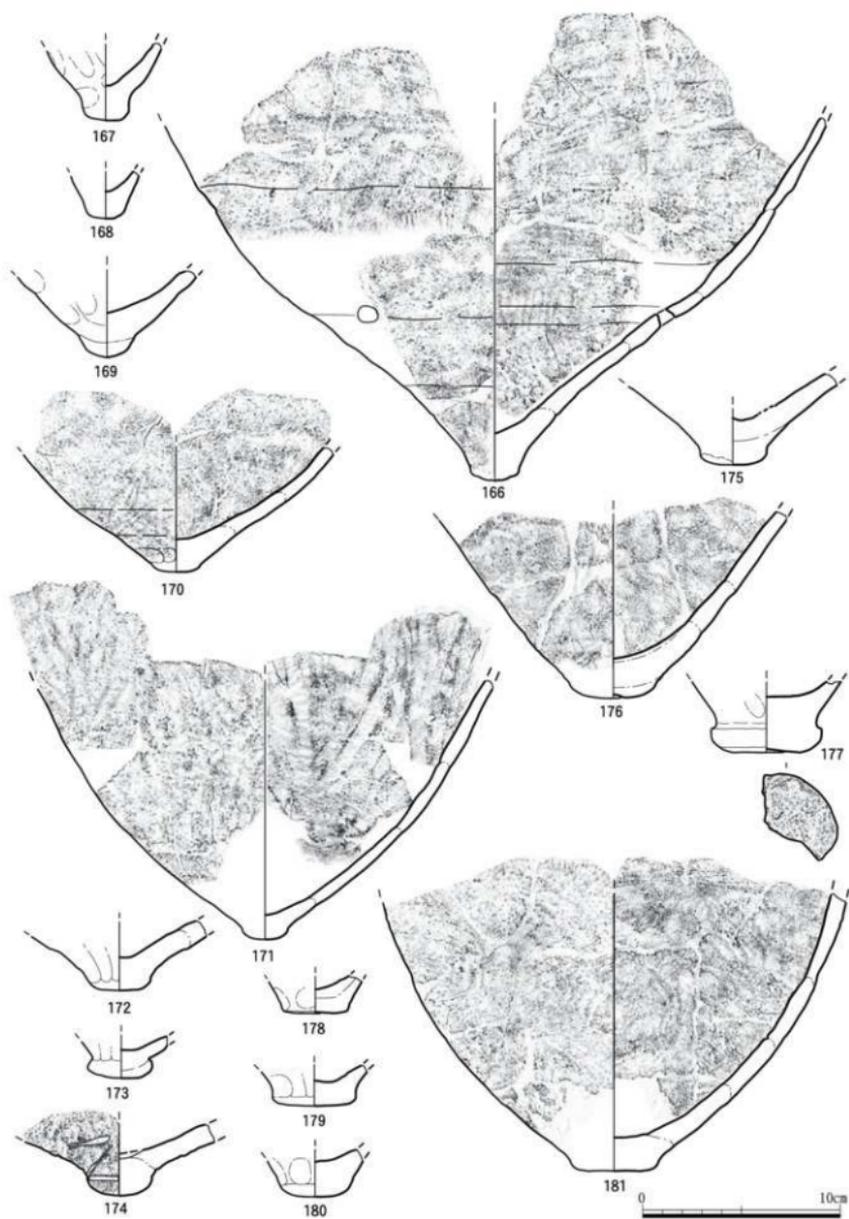
图版45 土器19



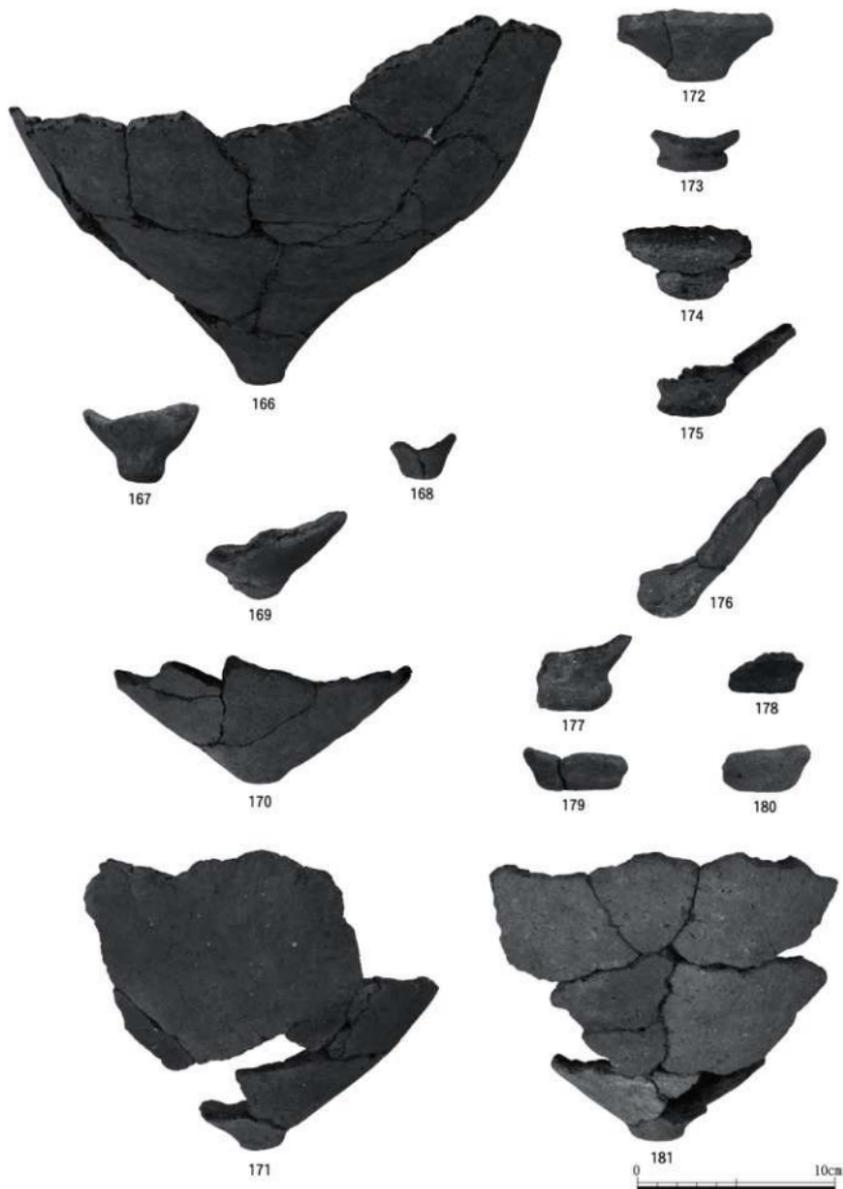
第58圖 土器20 (底部)



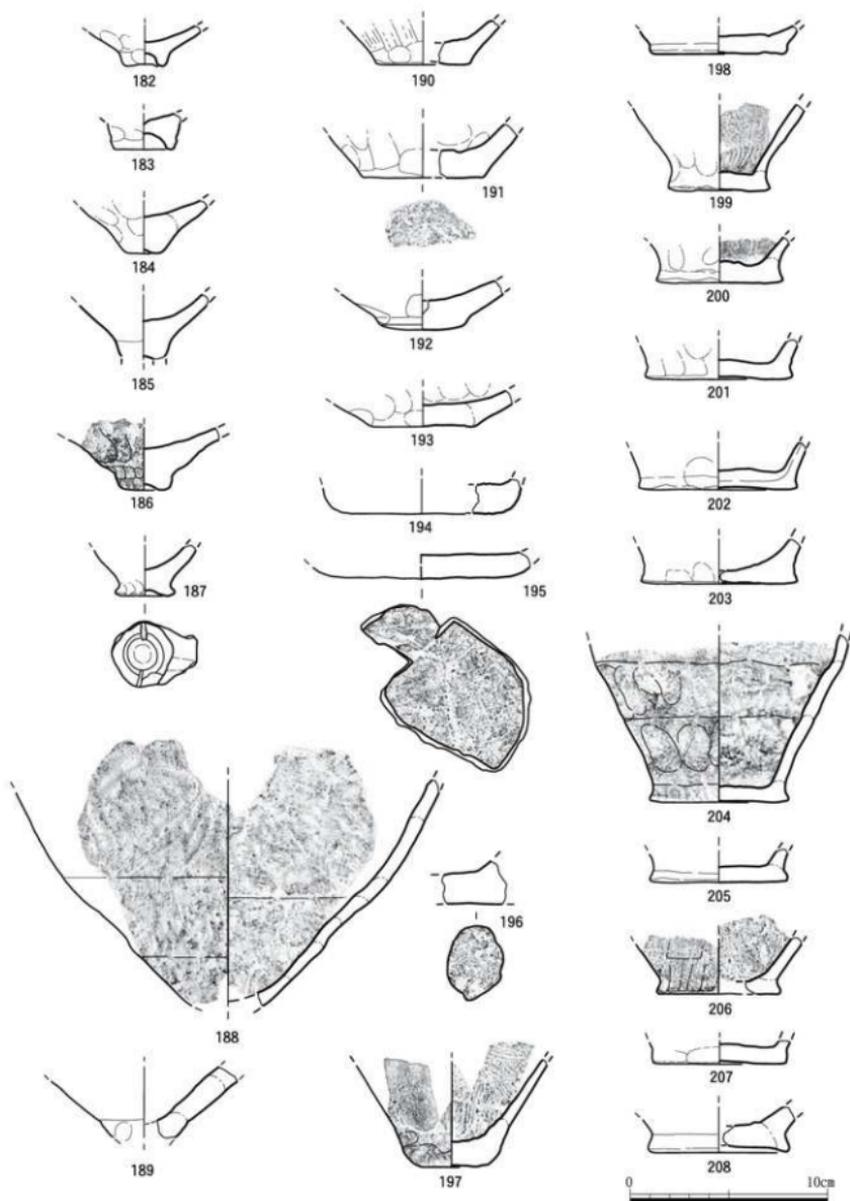
图版46 土器20 (底部)



第59圖 土器21 (底部)



图版47 土器21 (底部)



第60圖 土器22 (底部)



図版48 土器22 (底部)

## (2) 石器

石器は173点出土し、器種は石斧、敲石、敲石兼磨石、磨石、台石、石皿、砥石、有孔石製品、石球型未製品、チャート剥片である。地区別で遺物の出土状況を見るとH19地区48点、イ地区24点、ハ地区65点、二地区36点である。層序は第Ⅲ層（Ⅲ層遺構含む）、第Ⅳ層が主体となるが、僅かに第Ⅴ層、第Ⅵ層からも出土する。下層出土の石器はAトレンチ枝サンゴ層から石斧、白砂層で石皿、Cトレンチ白砂層で磨石、015第Ⅵ層は石斧（転用品）が各1点ずつ出土している。H19地区調査範囲の一部に白砂層、枝サンゴ層が確認された。遺構出土は26点で、溝状遺構2点、土坑3点、柱穴から4点と、柱穴の出土が僅かに多いが攪乱遺構からの出土がほとんどである。

### A. 石斧

石斧は24点で、H19地区が7点、イ地区3点、ハ地区8点、二地区6点の出土である。完形は9点で中型の楕形石斧もみられるが、平面視の長さが11cmを超える資料は図1、2、7の3点のみで、10cm以下の中型一小、小型の石斧が僅かに多く確認された。刃部の残る資料も刃の消耗が激しく、刃こぼれが生じる資料がほとんどである。

破損品は、基部が4点、刃部5点である。未製品は粗加工のみ施し研磨がないもの、基部に若干、擦痕はあるが刃部が作り出されていないものが3点確認された。転用品は、刃部の破損したものを敲石に転用、刃の潰れが激しく石斧の用途を成さない資料が3点認められる。敲石に再利用した資料も含め形態上、石斧類として同じ扱いで分類した。図3の石斧は小型で形が整えられ研磨されるものの石質の違い、風化作用等により研磨の光沢が欠失したか研磨面に滑沢は見られない。

特徴的な資料として図4～6の基部の表面中央から側面に浅い指痕大の窪みや、幅広帯状の窪みが半周する類似石斧が3点確認された。3点ともハ・二地区の下層出土である。有段状石斧の形態を意識したか、或いは同種の用途を持つ石斧の可能性もある。

第16表 石器出土量

地区	層序	遺構	石斧						敲石兼磨石	敲石	磨石						有孔石製品	石球型未製品	チャート剥片	小計	地区合計			
			完成形	基部	刃部	未製品	転用品	破損			大			小								台石	石皿	砥石
											a. 大型	b. 大型-小	c. 中型	d. 小型	e. 分類不可	二次製品								
H19	Ⅲ						1													2				
	Ⅳ				1		7		1		3	1	3		1		1			18				
	Ⅴ	1	1	1			3			3	1	1	1				2			14				
	Ⅴ	遺構						1												1				
	Ⅵ			1		1						1				1				4				
	枝サンゴ層一括							1	1	1										3				
	不明							1				2								3				
小計				7		12				24			1	1	3			1	48					
イ	Ⅲ																			4				
	Ⅲ	遺構	1	1			1				3		3							8				
	Ⅳ							1			1	1	1							4				
	Ⅳ	遺構							1			1	1							3				
	Ⅴ								1	1						1				3				
	Ⅵ						1	1							1	1				4				
小計				3		3	3			11			1	1	1		1		24					
ハ	Ⅲ		1								3			1		1				6				
	Ⅲ	遺構	1	1			1	2		1	1	7		1	4	1	1	1		22				
	Ⅳ										1			3						3				
	Ⅳ	遺構	1			1	1	3	2	2	3	2	7	1	3					27				
	Ⅴ															1				1				
	下層-中		2									1								4				
小計				8		1	5			44			1	4	1	1			65					
二	Ⅲ								1			2		2						5				
	Ⅲ	遺構	1							1		2		2						5				
	Ⅳ								1		1			3						8				
	Ⅳ	遺構	1			1	1	3		3		3		3						13				
	調査区西側														1					1				
	二地区一括						1													1				
下層南部		1																	1					
小計				6		1	2			23			1	1				1	36					
合計				24		5	22			193			4	7	5	1	1	1	173					

第17表-1 石器観察一覧

(法量単位: cm, g)

器種	図号	器種	形態 (残存)	完/破	残存 部位	加工痕 使用痕の有無	刀型形態	分類	最大長 最大幅 最大厚 重量	観察事項	石質	地区・サブフィールド 器種 取上番号 古帳番号
第13器種・ 燧石類	1	石斧	磨形	完形	-	研磨痕 基部・刃部	両月	中型一大	11.5 6.0 2.9 289	磨形、基部はやや湾曲し刃部に向けて若干平みを帯び、刃部形態は両月を呈し、刃部表面を両面から研ぎ直した痕跡あり。明確な刃口は認められず、刃先に鋭さはなく鈍る。	成紋岩	ハ-Q13 Ⅲ 付2540
	2	石斧	磨形 (ハチ形)	完形	-	研磨痕	片月	中型一大	11.7 5.6 3.6 369	磨形を呈し、刃部から基部まで成形は良い。裏面刃部の湾曲部分を整えるため刃部から基部にかけて研磨向きが変化する。刃部は片月を成し、刃口は鋭直所のみされる。	輝緑岩	イ-B13 P13 Ⅲ 取216 付2336
	3	石斧	磨形	完形	-	研磨痕 基部・刃部	両月	小型	8.5 4.7 2.4 153	基部の数ヶ所に小さい欠けが確認されるが、大きな破損なし。基部も成形良好をもち、刃先は鈍直し、刃が鈍る。全面成形され研磨痕跡は腐食による研磨による欠けが認められない。腐化によるものか。	角閃岩	ニ-Q 7Ⅲ 921 付2482
	4	石斧	磨形	完形	-	研磨痕 基部・刃部	両月	小型	9.8 5.7 2.9 254	基部表面中央から側面中央に幅広い浅いくぼれが裏面対称に同様にみられる。使用によりくぼれが生じる。	輝緑岩	ニ- 1層埋部 付2667
	5	石斧	短薄形	破損	基部・刃部	研磨痕 基部・刃部	片月	中型一小	9.7 5.2 3.0 228	基部一部が破損。基部から刃部の研磨は顕著。両面に指痕程度の窪み、破損後さらに両面研磨を研磨し、刃先は磨かれている。	角閃岩	ハ- 1層埋部 付2668
	6	石斧	磨形	欠損	基部	研磨痕 基部・刃部	-	中型一小	9.3 6.5 2.8 230	表面はほとんど基部まで大きく破損し、裏面基部中央に残り磨かれた痕跡あり。刃は破損により刃部形態を成さず破損後に再度研磨を施すが、表面面とも刃部残存面は研磨が僅かである。	角閃岩	ハ- 1層埋部(中層) 付2669
	7	石斧	磨形	欠損	基部	研磨痕 基部	-	中型一大	11.3 6.4 3.5 403	磨形を呈し、基部は丁寧な成形される。裏面基部中央に研磨。基部の一部と刃部は大きく破損し、刃部形態不明。	輝緑岩	ハ-Q11 IV 付2529
第14器種・ 燧石類	8	石斧 (転用品)	丸棒状	転用品	基部 研磨痕あり	-	-	中型	9.0 6.0 3.9 320	基部に厚みあり、基部両面は面を成さず裏面と裏面に破損が確認なし。裏面、表面中央に研磨痕跡。刃部は鋭直し破損する。端石に転用し、一部に刃の潰れ痕跡あり。	輝緑岩	ハ-R11 IV E60 付499
	9	石斧 (転用品)	厚手磨形	転用品	-	磨痕 研磨痕	-	中型一小	10.8 7.0 3.1 371	ほぼ完形に近い。形態は基部から刃部まで直線的。表面は基部中央が高く左右にゆるくなる。両側面にも研磨が確認され、刃先は鋭直なり。基部にも磨痕がみられる。刃部と両端端石に使用が。	輝緑岩	H19-015 VI 調査区北内 付2229
	10	石斧	不定形	完形	-	研磨痕 表面	-	中型一小	8.1 6.1 2.9 250	基部破損。形状全体に向がく研磨は不明。研磨の痕跡あり。刃部基部上部と下部の僅かに鋭く、刃部は刃口が鋭く両側面確認され、片刃の要素が強い。	輝緑岩	ニ-01 IV 取136 付1136
	11	石斧 (木製品)	楕円状扁平	木製品	-	調整痕 表面	-	中型一小	10.5 8.1 3.4 450	石斧製作途中の木製品。表面以外の両側は加工痕跡あり。表面面を突出した小さい端部で部分的研磨。刃部は未完成。	黒レイ石	ニ-08 IV E309 付309
	12	石斧	扁身・棒状	完形	-	研磨痕	-	小型	10.3 3.8 2.8 176	全体は磨形、身の幅は扁平。基部の一部を破損後も成形直した痕跡あり。研磨は基部の表面、両面に顕著で、刃部は破損。刃の潰れにより刃先は首無に近く刃部形態不明。	砂岩	H19-020 V 取1293 付3245
	13	石斧	扁平	完形	-	研磨痕 基部・刃部	片月	小型	9.2 4.3 1.4 110	扁平石斧刃部。基部とも研磨。側面も面を成し、研磨の痕跡あり。刃部基部上部と下部の僅かに鋭く、刃部は刃口が鋭く両側面確認され、片刃の要素が強い。	輝緑岩	ハ-012 Ⅲ 99 付2631
	14	石斧	扁身	破損	刃部	研磨痕	片月	小型	3.5 4.0 1.4 27	石斧刃部資料。基部破損。全形状長さ不明。刃部形態は片刃石斧。表面、裏面、両面とも研磨は顕著。裏面両側研磨出しが一度研磨され刃部幅が4.0cmと小さく加工用小型石斧か、刃は鋭く刃口は二箇所のみ。	輝緑岩	H19-44の2層 A157 付3223
15	石斧	不明	破片	刃部	研磨痕	両月	小型	7.9 3.9 1.4 58	裏面が破損し表面のみ基部から刃部の一部が残存。全形態は不明。基部、刃部とも研磨状態よく確認され、刃部上の端石を含み基部扁平の石斧と推測。両刃的。	角閃岩	H19-519 V E358 付3240	
16	石斧	不定形	破損	刃部	研磨痕	片月	小型	5.1 3.8 0.8 28	上端、片側、側面が破損し、全形状不明。基部は自然面を呈し、刃部のみ加工。刃の研磨出しが確認され、刃先が使用により面を作る。具製品類より短尺の小型石斧。	砂質片岩	イ-C11 Ⅲ 取282 付1891	

「完/破」の項-欠損: 完形に対し一部欠ける 半欠: 完形の二分之一残存 破損: 完形の大きさが不明 破片: 破損より細かく全体形の一部

### B. 蔽石

蔽石は5点出土し、1点を図に示した。蔽きの要素が強く、形状は縦長や厚手不定形など定形化しないが縦長の形状は上下、又は下端部、不定形のものは表裏面に蔽打が確認できる石器である。

### C. 蔽石兼磨石

蔽石兼磨石は22点で、図に13点を示した。蔽きと磨りの痕跡を合わせ持ち、磨石との区別に大きな差はないが、蔽きの痕跡が若干多くみられた資料をこの項目に分類した。大型資料はなく手に握れる程度の大きさが蔽きと磨りの用途を兼ねた標準の大きさだと思われる。

### D. 磨石

磨石は数が最も多く103点で、完形16点、破損資料56点、残存部は少ないが磨石と判別できる破片が29点出土した。形態に一律同形の資料は少なく形態での分類は不可能なためサイズと重量による分類を行った。まず先に全ての磨石を残存サイズ別に大、中、小に分類を試みた。大型資料は21点、中型44点、小型7点である。資料の中には破損品や破片が相当数みられるため、重量の違いでも4つに分類を行った。1. 重い（1kg以上の資料）2. やや重い（500g以上～1kg未満）3. 軽い（100g以上～500g未満）4. 分類不可（100g以下の資料）その結果、破損資料や破片は重量が「軽い」か、分類不可のグループに属す。次に完形資料16点のみに限定しサイズ分けすると大型4点、大型一少6点、中型4点、小型2点である。重量分類では「重い」が7点、「やや重い」が7点、「軽い」が2点である。これを分析すると、大型と大型一少の一部が重量で「重い」、大型一少の一部と中型が「やや重い」、小型資料は重量が「軽い」グループに集中した。この結果、800g～2kg前後の磨石が多く使用されたと推測される。二次製品は2点出土した。磨石の破損試料を再加工し破損箇所を縁を打ち割りしたもので形状がマウス状を呈し平坦面にも研磨痕確認される。

### E. 台石

台石は4点出土し、図55に1点示した。蔽石の台座と考えられる資料で蔽打のある資料である。

### F. 石皿

石皿は7点出土した。図62は大型石皿で状態が良く表面中央に石斧の形状を呈す使用痕が顕著で、ある。左右に細長い「V」字状の2本の溝も研磨が確認され裏面片側にも研磨痕が窺えられ、砥石との併用と考えられる。

### G. 砥石

砥石は5点出土し図に3点を示した。H19地区で3点、イ地区1点、ハ地区から1点得られた。

出土状況としては散見される程度で、集中した箇所はみられず不定形資料である。

### H. 有孔石製品

有孔石製品はハ地区、Q11、第III層から1点の出土で図59に示した。細粒砂岩製で研磨を加え、幾つかの面を成す。原形時は環状を呈していたと想定されるが半欠状態で破損しているため全形は窺えない。

### I. 石球型未製品

図58は、形状が石球状で突起の部分を含め鈴型を呈す。孔を穿った加工痕が突出箇所を両側に確認され製品扱いにしたが、孔は貫通しておらず未製品のため使用目的や用途が不明である。

第18表 磨石完形法量一覧

磨石 分類	計測値 (cm)			重量区分 重い 1.000g以上 やや重い 999g～500g 軽い 499g～100g	重量 (g)	図番号
	最大長	最大幅	最大厚			
大型	14.2	13.9	8.8	重い	2,400	図なし
大型	17.5	11.0	7.4	重い	1,890	図なし
大型	11.5	11.4	5.1	重い	1,250	第685041
大型	13.8	9.9	6.5	重い	1,050	第705048
大型-小	13.2	10.6	5.4	重い	1,190	第705049
大型-小	13.2	10.8	5.1	重い	1,090	第685040
大型-小	13.4	9.8	4.0	重い	1,060	第685038
大型-小	13.5	10.2	4.9	やや重い	996	図なし
大型-小	14.1	6.4	6.4	やや重い	990	第652019
大型-小	12.4	9.7	5.2	やや重い	940	第675036
中型	10.9	7.7	5.5	やや重い	850	第675032
中型	10.3	10.1	4.4	やや重い	830	第675035
中型	10.9	8.1	5.7	やや重い	827	第675033
中型	10.9	8.5	5.6	やや重い	800	第685029
小型	6.5	4.5	4.0	軽い	160	第655021
小型	5.7	4.9	3.3	軽い	124	図なし

第17表-2 石器観察一覧

(質量単位: cm, g)

器種	図番号	器種	形態(残存)	完/破	加工痕 使用痕の有無	敲打研磨の 部位	分類	最大長 最大幅 最大厚 重量	観察事項	石質	出所 調査番号 発掘番号	
第16類 ・ 編製器	17	磨石	分銅形	完形	敲打	表面・側面 上下	中型	13.0 7.9 6.0 850	分銅形を呈す。表面中央に4cm前後の敲打研磨がみられ、両側面にも同様の敲打研磨が確認できる。上下端部にも敲きの痕跡が窺える。	輝緑砂岩	イ C12 P12 E2737	
						18	磨石兼磨石	袋形	完形	研磨痕	表裏側面 下部部	中型
	19	磨石	五角柱	完形	研磨痕		二面	中型	14.1 6.4 4.4 990	縦長不定形。両側面は自然産物で覆さる。時間経過により行割面の状態よく、研磨は表裏面ののみ。まっつな凹凸のため研磨は部分的。	輝緑岩	ハ R11IV E225 台125
							20	磨石	縦長不定形	破損	研磨痕	三面研磨 上面 側面
	21	磨石	楕球形	完形	研磨痕	表裏側面 一面		小型	6.5 4.4 4.0 160	小型の転石利用。石英質がみられ質は悪い。表面中央に小さい敲きの痕跡あり。研磨は表裏面の一部分に置られる。	砂岩	ハ R11 IV E226 台326
							22	磨石兼磨石	多面球形	完形	磨り痕	全面
	23	磨石兼磨石	変形球状	完形	敲打研磨 研磨痕	表面		小型-小	6.6 5.8 4.2 232	小型の球状を呈す資料で、敲きと研磨による磨り痕が確認できる。表面の中央一帯に磨りの痕跡が認められ打穴により一部欠損しているが研磨痕は見られる。側面、周縁は敲打研磨が随つとも面をつくる。	砂岩	H19 S12 IV E274 台3283
							24	磨石	楕丸方形	欠損	敲打研磨 研磨痕	一面
	第16類 ・ 編製器	25	磨石	二次製品 (マウス状)	完形	研磨痕 磨痕	全面	小型-中	8.1 5.1 4.2 265	平面鏡はマウス状を呈し、楕円形の磨石を二分した状の上下二次製品を呈す。ほぼ全面に研磨痕が認められ打刺された面も、微かに磨りの痕跡が見られる。縁の周辺を細かく打ち削り調整を施す。	角閃石安山岩	H19 T19 V E2191 台3247
							26	磨石	二次製品 (扁平マウス状)	破片	研磨痕	表面
27		磨石兼磨石	石輪状	完形	研磨痕 敲打研磨	表裏面・側面 上下	小型	7.7 7.0 4.9 460	石輪状を呈す。敲打研磨は敲打の深みの両側面、上下面に認められる。研磨痕は敲打の深みの両側に僅かに確認される。	砂岩	イ L12 皿 E218 台1944	
						28	磨石兼磨石	楕丸方形	完形	敲打研磨	表面・裏面 上下	小型
29		磨石兼磨石	変形石輪状	完形	研磨痕 敲打研磨	表面中央 側面敲き 表裏研磨	中型	11.0 9.4 7.0 1,360	変形した石輪状を呈す。厚み、重量ともに対象物を敲く、磨る、滑すの用途に呈し適す。表面は研磨は滑沢で磨着。研磨痕は表裏面にみられ磨着。側面周縁も半周一部に研磨。しかし僅かである。	砂岩	ハ N13 IV E221 台224	
						30	磨石兼磨石	長楕円形	完形	敲打研磨 研磨痕	上下	小型-小
第17類 ・ 編製器		31	磨石	円形・丸形	破損	研磨痕	表裏面・側面 周縁	小型-小	4.3 8.3 5.7 3.2	厚平円形を呈し、残存資料は完形の約二分の一程度。表面研磨は滑沢で磨着。研磨痕は表裏面にみられ磨着。側面周縁も半周一部に研磨。しかし僅かである。	輝緑砂岩	H19 B19 皿 一版 台3285 ハ Q12 S97 台2662
							32	磨石	変形石輪状	完形	研磨痕	表裏側面 側面敲打
		33	磨石	変形石輪状	完形	研磨痕	表裏側面	中型	10.9 8.1 5.7 827	変形した厚平石輪状。中央厚く両側薄く表裏面中央に敲打研磨あり。両面とも研磨は明瞭。両側面、下面に強い線研。	砂岩	ハ O13 皿 台2668
							34	磨石	石輪状	半欠	研磨痕	表裏面
	35	磨石	略三角形	完形	研磨痕	表裏面 片面中央	中型	10.3 10.1 4.4 830	略三角形の厚平。表面中央に敲打研磨。上下端に敲打研磨を成す。表裏面は研磨明瞭。使用面の研磨の向きが異なる。表面は中央から左右方向、裏面は中央から上下方向へ向かい研磨。	輝緑砂岩	ハ R11 IV E2319 台3319	
						36	磨石	楕円状	完形	研磨痕	表裏面 上下端	中型

「完/破」の項へ欠損：完形に対し一部欠ける 半欠：完形の二分の一残存 破損：完形の大きさが不明 破片：破損より細かく全体形の一部

第17表-3 石器観察一覧

(質量単位: cm, g)

器名	区番号	器種	形態 (残存)	完/破	加工痕 使用痕の有無	敲打研削の 部位	分類	最大径 最大幅 最大厚 重量	観察事項	石質	地区 小エリア 大エリア 調査番号
第69区 - 炭酸塩	37	磨石	石輪状磨石	手欠	研磨痕	表裏面 下端部	中型-小	11.5 6.9 5.0 454	中型、石輪状磨石、半穴品だが研削溝が顕著。 敲打痕が側面と下端部にあり。	花崗閃緑岩	ハ Q11 IV 遺跡時 台2527
	38	磨石	厚手・楕円形	完形	研磨痕	表裏面	中型-中	13.4 9.8 4.0 1,000	厚手の楕円形磨石で通常、定形化した形態である。 表裏面とも研磨痕は明瞭で、側面、両縁に敲打痕は なく、磨りの用途専用に見える。	凝灰砂岩	H19-001 一添 台4387
	39	磨石	楕円状	完形	研磨痕	表裏面 両側面	中型	16.9 8.5 5.6 800	ほぼ楕円形、側面と下に厚みの違いあり。 下部厚く、表裏面研磨が顕著。縦状も確認される。 敲打痕弱く、両側面に前後大の敲打面あり。	砂岩	ハ N13 IV 取25 台25
	40	磨石	変形三角	完形	研磨痕	両面研削 片面中央	中型	13.2 10.8 5.1 1,000	変形楕円、側面縦や厚手。表裏面に研磨あり。研 磨によるテカりは消滅、両側面中央、下部に敲打痕 あり。	砂岩	ハ Q11 IV 取71 台71
第70区 - 炭酸塩	41	磨石	楕円状	完形	研磨痕	表裏面研削 両面中央	大型	11.5 11.4 5.1 1,250	やや円形、厚手、下部は節理面から剥離する。 両面中央に小さく浅い縦向き、研磨痕、表裏面にあり 。研磨は消滅でない。	砂岩	ハ S8 IV 取181 台181
	42	炭石兼磨石	厚手変形形	完形	敲打痕 研磨痕	側面 両縁部	中型-大	12.6 11.8 5.9 1,570	厚手円形状を呈し主に縦きの縦筋、磨りの縦筋は不明 瞭。磨りの縦筋は表面中央に浅く、縦きの縦筋は 裏面と側面両縁に多く確認できる。	砂岩	H19 P15 IV 取285 台3388
	43	炭石兼磨石	厚手楕円形	完形	敲打痕 研磨痕	表面中央 裏面中央 側面	中型-大	15.2 12.8 5.8 1,910	厚手楕円形で全体に丸みを帯びる。磨りによる研磨 痕は浅く、縦きの縦筋は表面中央、裏面中央、側面両 縁に中々所明瞭に確認できる。	砂岩	H19 S18 V ハ 取286 台252
	44	磨石	円筒形/円柱	破損	研磨痕	一面	中型	12.3 5.9 4.7 570	平面観大厚手円筒形、厚手。表裏面の平坦面は節理 面を利用し研磨を加える。研磨は表裏面に部分的に 部分的にあり。	砂岩	ハ E11 IV 取68 台388
第71区 - 炭酸塩	45	磨石	楕円状	破損	研磨痕	表裏側面	大型	13.2 10.4 6.6 1,200	厚手楕円形、質の悪い自然産物を利用。 節理により欠けが生じ、表面に顕著な研磨なし。 研磨は裏面のみ顕著。	砂岩	ニ R7 IV 取235 台235
	46	磨石	不定形	破損	研磨痕	二面	大型	15.1 7.9 4.0 620	大型磨石の破片、残存形態は扁平不定形。 表面に縦筋し、底部の四分の一程度が残存と推測。 研磨痕は二面で消滅している。	砂岩	ハ E10 IV 取293 台293
	47	磨石	不定形	破損	研磨痕	二面	大型	9.6 11.0 4.7 780	残存資料の二倍の大きさと推定される。研磨は一部 顕著。裏面は大きく打欠けするが、下部に浅い縦向き あり。	硬レイ岩	ニ K12 IV 取3 台3
	48	磨石	三角柱状	完形	研磨痕	三面研削	大型	13.8 9.9 6.5 1,670	自然産物を利用、平面観変形三角、横断面三角形、研 磨痕三面にあり、面の境に縦筋、下部に浅い縦きの 縦筋あり。	片状砂岩	ハ 一 ハ 層確認② 台2671
第72区 - 凝灰岩	49	磨石	変形楕円三角	完形	敲打痕 研磨痕	上下	中型-小	13.2 10.6 5.4 1,190	平面観は楕円形を呈し、左右の厚みがわずかに違う。 部つな形状だが全面研磨された研磨は明瞭。敲打痕は 上端と下端の一部に部分的に見られる。	凝結岩	H19 P17 IV 取191 台3270
	50	炭石兼磨石	変形板形	完形	敲打痕 研磨痕	表面中央 上下	中型-大	13.3 9.5 7.6 1,540	変形四角柱→楕円形。表裏面は研磨痕が明瞭。表面中 央部に浅く敲打痕が認められ、上下端部に面の 向きが違う敲打痕、磨痕による面が二面ずつ確認で きる。	砂岩	イ D14 V 取500 台1971
	51	炭石兼磨石	長楕円 横断面三角	完形	敲打痕 研磨痕	上下	大型-中	16.1 9.2 6.1 1,900	長楕円形、横断面は三角形を呈す。研磨痕は表裏面 とも顕著。右側面は面の境目の段差が特に顕著で、 上下端部には敲打痕がみられ、幾つかの面が成す。	凝結岩	H19 Q15 一添 台3212
	52	炭石兼磨石	三角柱	完形	敲打痕 研磨痕	上下	大型-中	16.0 9.6 9.3 1,900	平面観は下部に向かう縦長の長方形、横断面が三 角形を呈し、片手で浅い縦向きの磨り。 二面の境に段差がみられ、磨り面は明瞭に研磨されて いる。上下端部には敲打痕が確認できる。	砂岩	H19 R18 V 取293 台3387
第73区 - 凝灰岩	53	炭石兼磨石	厚手変形楕円	手欠	敲打痕 研磨痕	側面	大型-小	13.6 10.9 6.5 1,640	半穴品だが、大型の資料と推定される。楕円形で厚 手。表面中央はかたや研磨痕が明瞭である。裏面は 手形で形成した縦筋が顕著、側面に敲打痕が確認で きる。	角閃石安山石	H19 T15 IV 取23 台3276
	54	砥石	厚手反伏 不定形	破損	研磨痕	表裏	大型	37.8 19.9 4.8 6,000	表面中央と、縦方向に浅い窪みを呈す箇所、平坦な 部分、両者とも研磨が確認される。裏面はさらに平 坦な研磨を呈す。側面両縁は縦筋、形態不明で、自 然面が顕著する。	砂岩	H19 T19 V 取1330 台3293
	55	台石	厚手不定形	破損	敲打痕	表面・裏面	大型	19.8 17.2 7.3 4,800	厚みのある資料で細粒砂岩質。表面中央に敲打痕が 多くみられ、右石として上に対象物を乗せ、縦いた 縦筋が顕著。裏面にも若干の縦向きが確認されるが 石の性質上、風化にさらされたか、使用痕が不明瞭。	凝結砂岩	H19 R13 IV 取280 台3388

「完/破」の項=欠損: 完形に対し一部欠ける。手欠: 完形の二分の一残存 破損: 完形の大きさが不明 破片: 破損より細かく全体形の一部

第17表-4 石器観察一覧

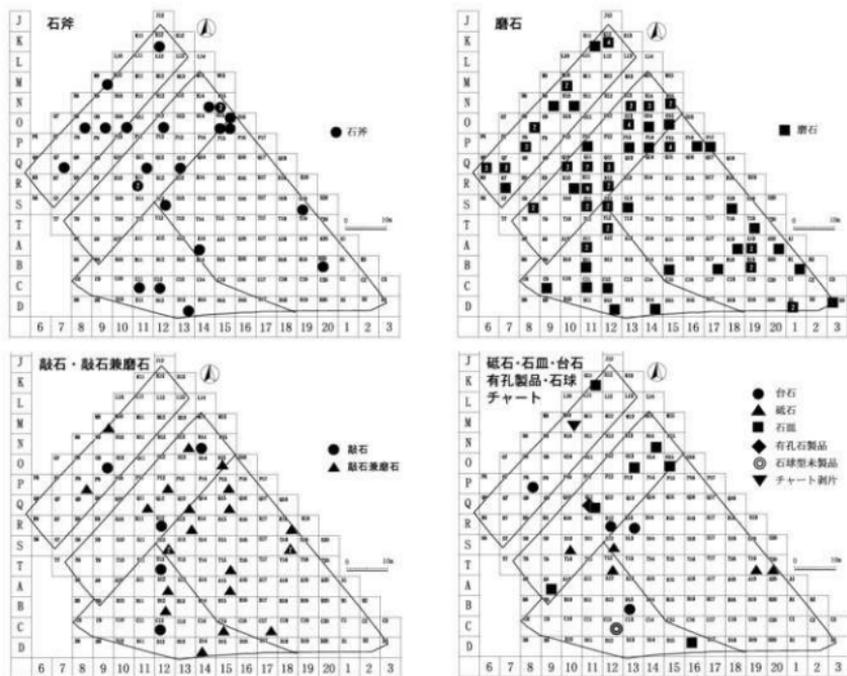
(質量単位: cm, g)

器名 図面 番号	区 番号	器種	形態 (残存)	完/破	加工痕 地用痕の有無	発見場所の 部位	分類	最大径 最大幅 最大厚 重量	観察事項	石質	地区 小アフリック 調査区番号 調査番号
第72 層 土 器 類 表	56	砥石	厚半不定形	破片	成形痕 研磨痕	表面・側面	中型	10.6 9.2 5.3 47g	形態は扁平、やや縦長の形状を呈したと考えられ、全体に形成された痕跡がみられる。 表面中央に縦長の溝状窪みがある。裏面は自然面が 大きく剥離、両側面の一部にも研磨痕が確認できる。	砂岩	H19 S12 IV 取252 台3382
	57	砥石	不定形	破損	研磨痕	表・下側面	小型	3.6 9.0 3.7 9g	残存部は薄く、類似形態から中型砥石に成りうる。 両面と同様、研磨面中央に縦長の浅い溝状の研磨痕 がある。下側面にも研磨面あり。縦断面は自然面が 露出。	黄緑岩	ハ S10 S82 台2644
	58	石球型 未製品	球状・鈴形	完形	穿孔痕 研磨		小型	5.8 5.5 4.7 19g	球状を呈し、上部に突起の部分が残る。 突起両側面に穿孔の痕跡、貫通せず突起下には溝状 の痕跡、一周する。両端は溝かに面取りを施した痕 跡。	イ C12 黒 取155 台1991	
	59	有孔石製品	楕状	半欠	穿孔痕 研磨痕	表面	小型	4.3 2.4 2.2 2g	楕状、半欠品、両面から穿孔。穿孔面に縦溝痕。細 い面取りの痕跡あり。	細粒砂岩	ハ Q11 黒 台2511
第73 層 土 器 類 表	60	石皿	板状	破損	使用痕	表面中央	大型	26.4 16.8 4.7 2,900	表面中央部による痕跡、エンガイが付着し、長周 囲雨水に浸る状態にあったと想定される。	細粒砂岩	ハ N14 IV 台2573
	61	石皿	板状・不定形	半欠	研磨痕	表面	大型-中	21.5 30.0 5.6 4,300	破損の為、全体は窺えない。使用面は表面の一面の みで縦断面の先端が中央部と考えられ、研磨が確認 できる。縦断面の端部に研磨の痕跡も認められる。	砂岩	イ D16 一箇 台1888
第74 層 土 器 類 表	62	石皿	厚半球形	完形	研磨痕 擦痕	表面・裏面	大型-大	61.9 39.2	大型石皿。平面形態は略菱形。表面中央に石質が納 まる形状の使用痕あり。その左右にも細長い溝状使 用痕あり。断面が半円。又はV字状を呈す。棒状の ものを研磨したか、溝が2本ずつ左右に確認される。 中央の窪み、溝とも研磨が明確。裏面は中央が山な りが高く、左右は窪みと見られるが、裏面片側にも全 体に研磨と半円状の溝が認められる。	細粒砂岩	H19 A117 中央 下層発露時 白砂 一箇
								13.1 29,300 (29, 38g)			

「完/破」の項へ欠損: 完形に対し一部欠ける 半欠: 完形の二分之一残存 破損: 完形の大きさが不明 破片: 破損より細かく全体形の一部

第61図に石器の出土状況を平面分布で示した。層序ごとの出土量を前記したが、分布図をみると石斧はどのグリッドからも1点、又は2点の出土と少ない。H19地区は7点の出土だが、どの資料も第IV層～第VI層、下層出土である。I地区からは3点のみで全て第III層出土である。ハ地区は第III層、IV層出土で、個々の資料は近いグリッドに集中し、下層出土の資料も2点みられた。ニ地区では、第IV層の資料が3点で、08、09、010にみられた。一見すると点数が少ないため石斧は散見される程度のようなが、分布状況は調査区全体の北側、ハ・ニ地区に集中する。石斧の出土はばらつきがみられ分布状況も集中箇所は限定的である。最も出土の多い磨石はハ地区に集中する。グリッドR11を中心にQ～Tに出土が多く、N、O、P12から15にもやや集中する傾向がみられる。敲石は点数が少ないため集中傾向はない。敲石兼磨石はH19地区に多く出土する。

砥石は第III層の資料を後述するグスク時代の項でまとめ、貝塚時代後期から下層にかけての点数は少なく散見される程度で集中箇所はみられない。H19地区、I地区、ハ地区の各グリッドに1点の出土である。石皿は7点で地区別ではハ地区に4点とやや多く、H19地区、I地区、ニ地区に各1点程出土している。台石は点数が少ないため各地区で1点ずつ散見される程度である。有孔石製品、石球型未製品、チャート剥片は、各1点ずつ第III層からの出土だが、平面分布では、それぞれハ地区、I地区、ニ地区と出土地区にばらつきがあり有孔石製品と石球型未製品はグスク時代の遺物と考えられるが直接的な関連はみられない。磨石以外の器種は各グリッドから1、2点の出土で集中出土するグリッドはみられなかった。他の遺物において土層の堆積状況では山側に古い層が残り、海側には残らない傾向が確認されるが石器においてはその傾向も薄く、H19地区に僅かに白砂、枝サンゴ層が確認される程度である。



※点数記載なしは1点

第61図 石器平面分布

<石質>

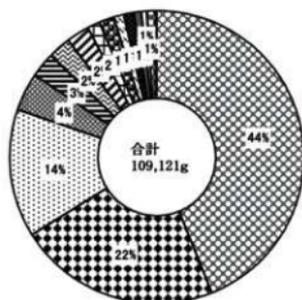
石質は同定の結果、19種の岩石が確認された。岩石形成段階での火成岩、変成岩、堆積岩の区別で岩石名を列挙すると、火成岩は花崗閃緑岩、安山岩、流紋岩、輝石安山岩、角閃石安山岩、輝石角閃石安山岩、角閃石輝石安山岩、角閃岩、輝緑岩、斑岩、斑レイ岩、石英斑岩の12種、変成岩は砂質片岩、片状砂岩の2種、堆積岩は砂岩、礫質砂岩、細粒砂岩、石灰質砂岩、チャートの5種である。第19表と第62図に示すように石器に使用された岩石で最も多いのは砂岩で比率にして石器全体の44%を占める。これは砂岩が磨石に利用される場合が多いことによる。次に多く使用される岩石は細粒砂岩で22%にあたる。石皿、砥石に使用される場合が多く石皿は今回大型資料が出土したこともあり、点数が少ない割に重量があるためである。その次に多いのが輝緑岩で14%である。上記の3種の岩石で石器に使用される岩石全体の8割を占め、その他の種類は少量の出土であった。

素材として確認された岩石には雲母片岩、頁岩、結晶質石灰岩、玄武岩、シルト岩、珪質岩、石英の7種が確認された。石器の石質を含めると26種の岩石が確認できた。

今回の調査で確認された岩石のうち火成岩性の岩石は北谷町内では産出されない。よってその種の岩石、流紋岩、安山岩、花崗閃緑岩などは奄美、徳之島からの持ち込みが推測される。石器の素材以外の岩石で最も多いのは石灰岩、石英などで北谷町の地形、地盤を形成するもので、北谷町周辺で採集されるものがほとんどである。石器の素材に適する岩石は母岩の大きさがある程度、岩塊状でなければ荒割り、粗加工が不可能で石質もある程度限定される。

第19表 器種別石質相関関係

石質	石斧		敲石		磨石		台石		石皿		砥石		有孔石製品		石球型石錘		フリート		合計	合計		
	個重	個重	個重	個重	個重	個重	個重	個重	個重	個重	個重	個重	個重	個重	個重	個重	個重	個重	個重	個重		
安山岩					1	369													1	369		
角閃石安山岩			2	2,300	5	2,323													7	4,623		
角閃石輝石安山岩		1	437																1	437		
角閃岩	4	669		1,001	8	1,499													13	3,169		
輝石角閃石安山岩			1	1,035															1	1,035		
輝石安山岩					2	1,321													2	1,321		
輝緑岩	12	2,375		4,189	8	8,691													23	15,255		
細粒砂岩		3	2,650	1	589			2	5,200	5	14,207	1	1,630	1	22	1	198		14	24,596		
砂岩	3	853	1	698	13	12,910	66	20,548	2	2,030	1	4,900	2	6,474					88	47,923		
砂質片岩	1	26																	1	26		
石英斑岩					1	591													1	591		
石灰質砂岩					1	290				1	2,400								2	2,690		
チャート																		1	10	10		
礫質砂岩					3	1,543					1	89					1	10	4	1,602		
花崗閃緑岩					3	1,022													3	1,022		
斑岩					1	29													1	29		
斑レイ岩	3	935		1,780															4	1,715		
片状砂岩			1	493	3	2,135						1	91						4	2,626		
斑紋岩	1	289																	2	289		
合計	24	5,147	3	3,695	22	22,317	103	41,139	4	7,230	7	21,107	5	8,256	1	22	1	198	1	10	173	109,121



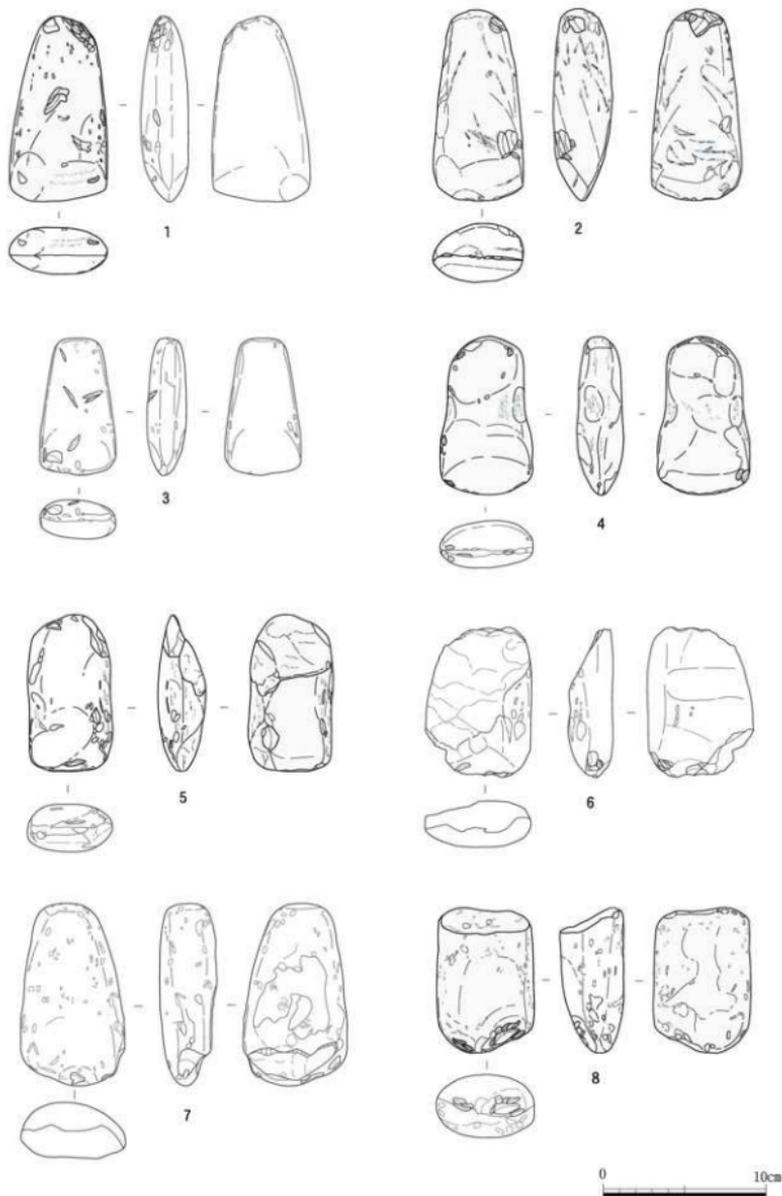
第62図 石質別比率 (%)

- 砂岩
- 細粒砂岩
- ▨ 輝緑岩
- ▩ 角閃石安山岩
- ▧ 角閃岩
- ▦ 石灰質砂岩
- ▥ 片状砂岩
- ▤ 斑レイ岩
- ▣ 礫質砂岩
- ▢ 輝石安山岩
- 輝石角閃石安山岩
- 花崗閃緑岩
- ▟ 石英斑岩
- その他

当遺跡の石器は磨石が最も多く103点で石器全体の59%を占める。石斧は24点出土のうち刃部の刃こぼれや、刃の潰れが激しい資料が多く確認された。刃潰れが激しい資料のほとんどは敲石に転用されている。今回の調査で特筆する資料として大型の石皿が挙げられる。(巻首図版11) 平面観は不定形だが、一抱え程度の大きさで最大長が60cmを超え、最大幅も40cm近く、重量が30kg近くある据え置き型石皿で、既に調査確認された遺跡の石皿は破片として出土したものが殆どで4cm～6cm程度の厚みの資料が多く使用頻度が高い場合、破損理由の一要因でもあるが、本資料は表面中央に中型程度の石斧が納まる形状の窪みが顕著で本土の遺跡で出土する石皿を思わせる。左右に細長い「V」字状の溝が確認され、溝の断面も半円状になる。これも有溝砥石と同様な用途に使用した可能性がある。この溝は石皿表面の空白箇所を使い切る形で利用され、裏面にも片面に同様の有溝が2本みられた。下層確認調査で出土したため相伴する土器等の遺物がみられず時期的なものは不明だが、使用痕跡や状態から貝塚時代前IV～V期あたりの石皿と推測される。

<参考文献>

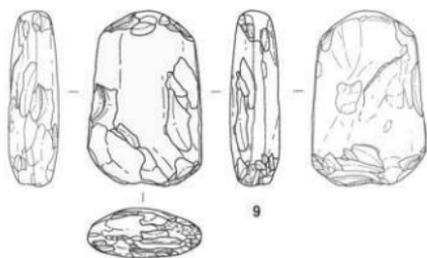
- 北谷町教育委員会 2007 『伊礼原遺跡』 北谷町文化財調査報告書第26集
- 北谷町教育委員会 2008 『伊礼原D遺跡』 北谷町文化財調査報告書第28集
- 北谷町教育委員会 2013 『伊礼原D遺跡』 北谷町文化財調査報告書第35集



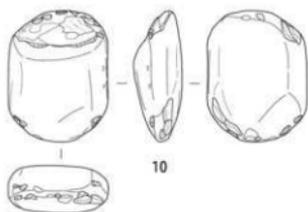
第63圖 石器 1



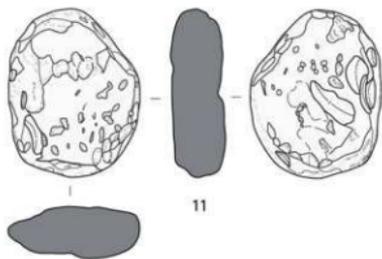
图版49 石器 1



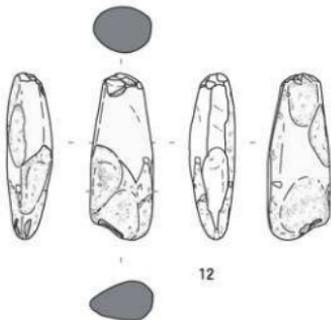
9



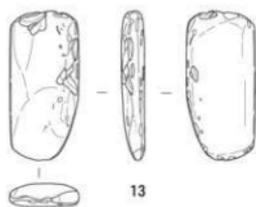
10



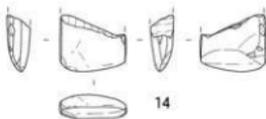
11



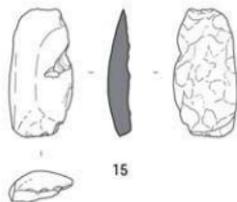
12



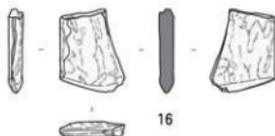
13



14



15

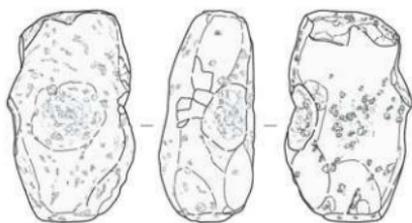


16

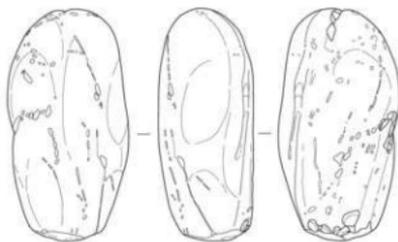




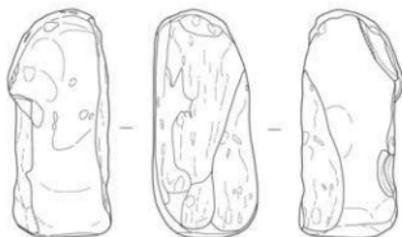
图版50 石器2



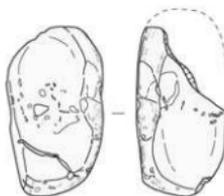
17



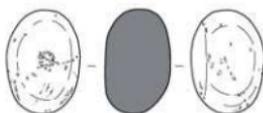
18



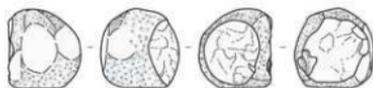
19



20



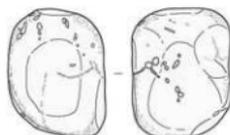
21



22



23



24

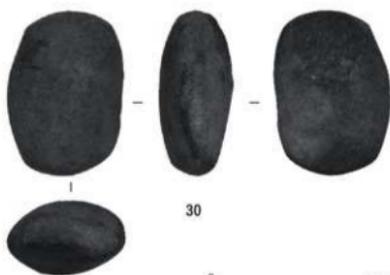
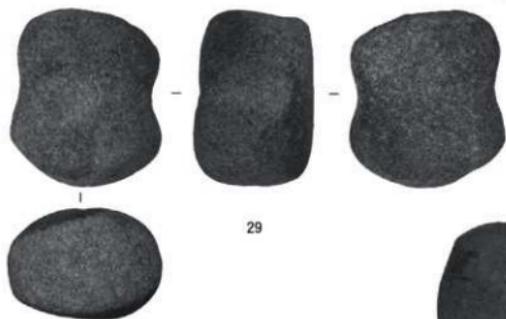
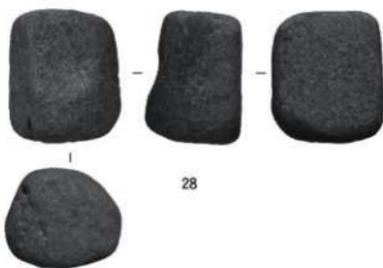
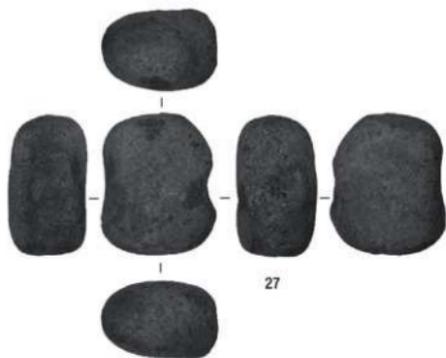
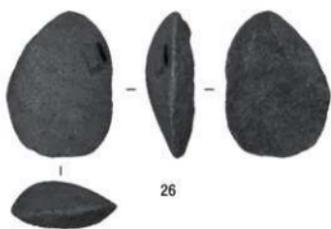
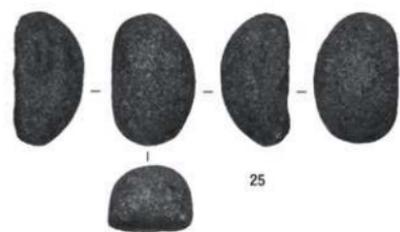


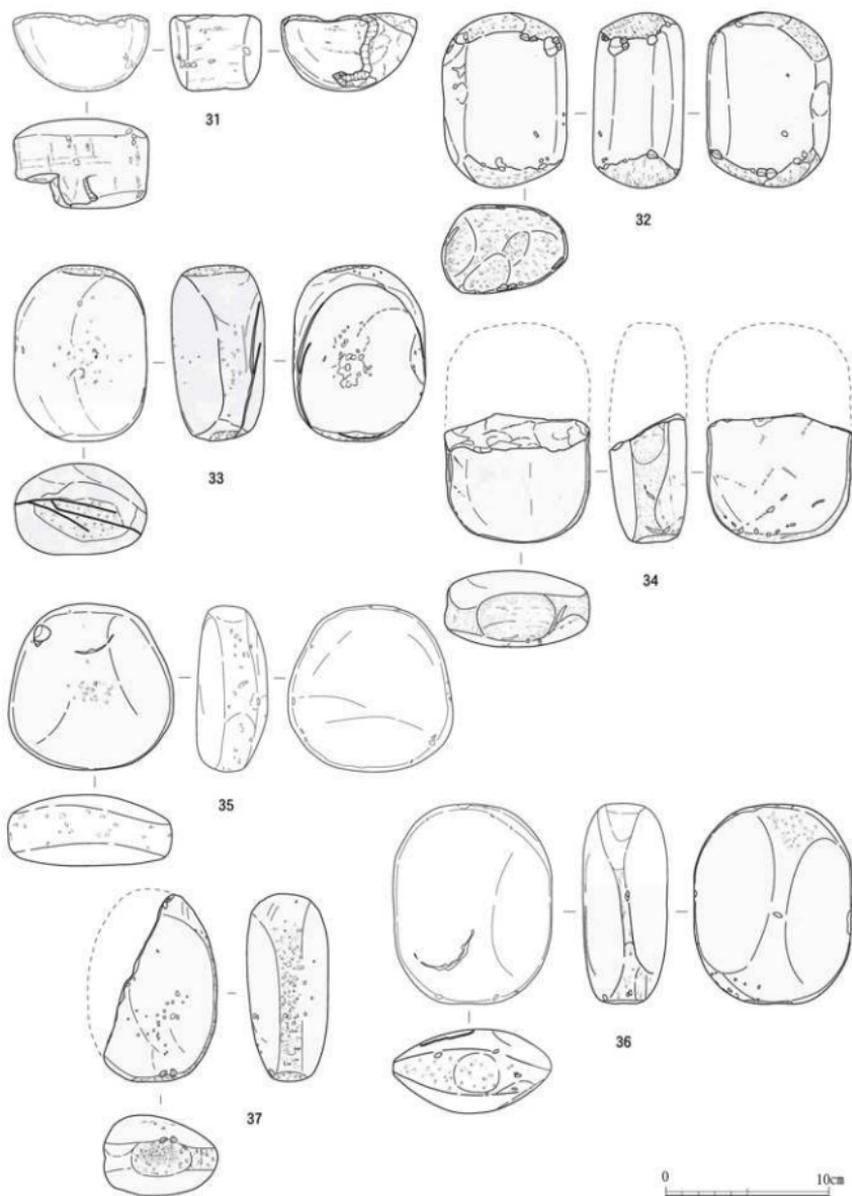


图版51 石器3

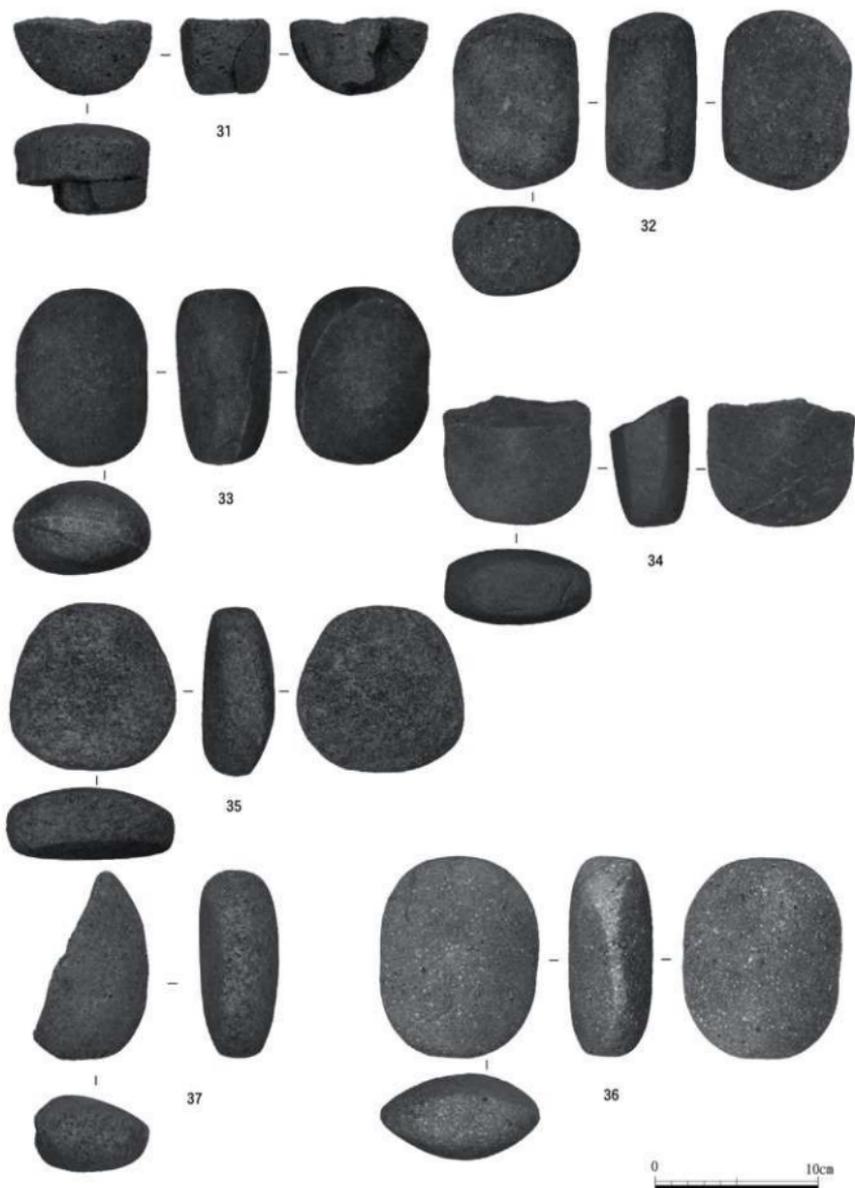


第66圖 石器4

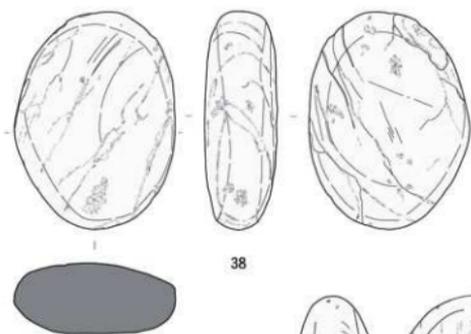




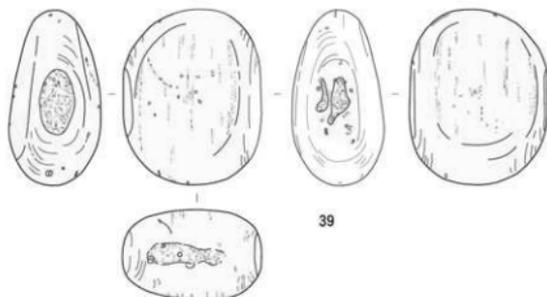
第67圖 石器5



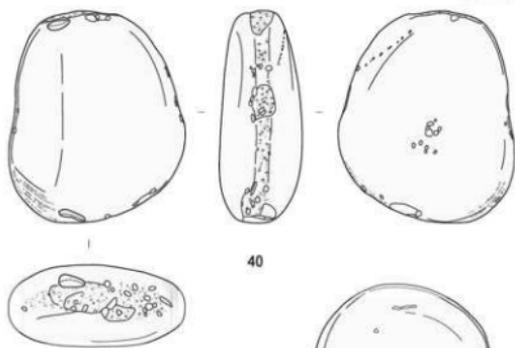
图版53 石器5



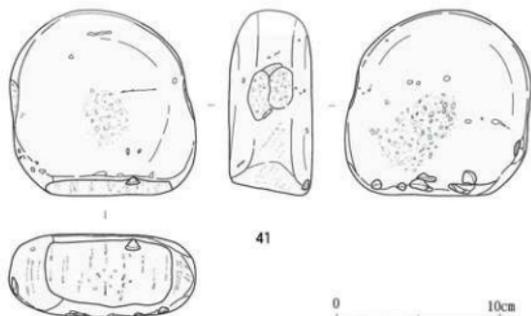
38



39



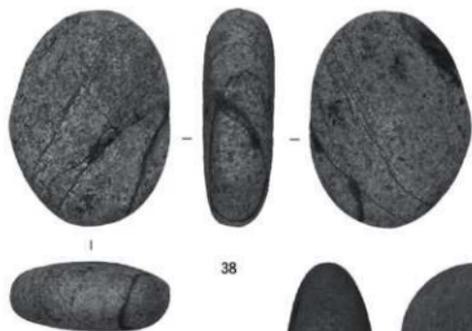
40



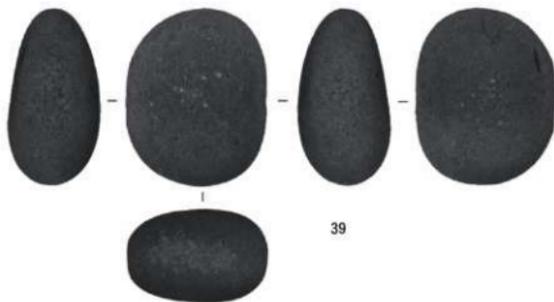
41



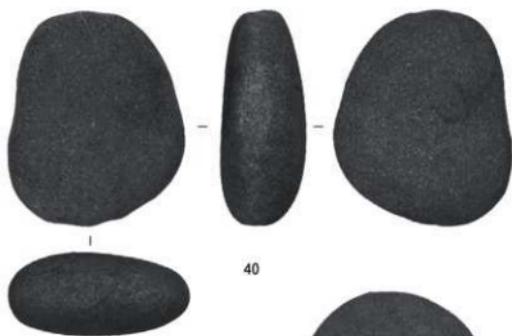
第68圖 石器6



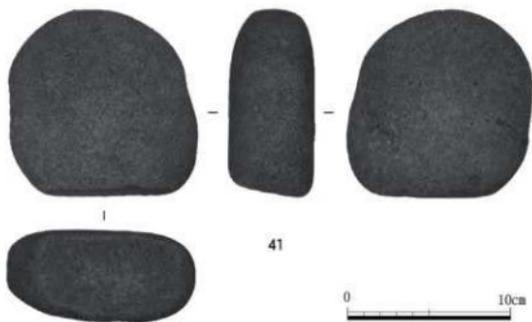
38



39

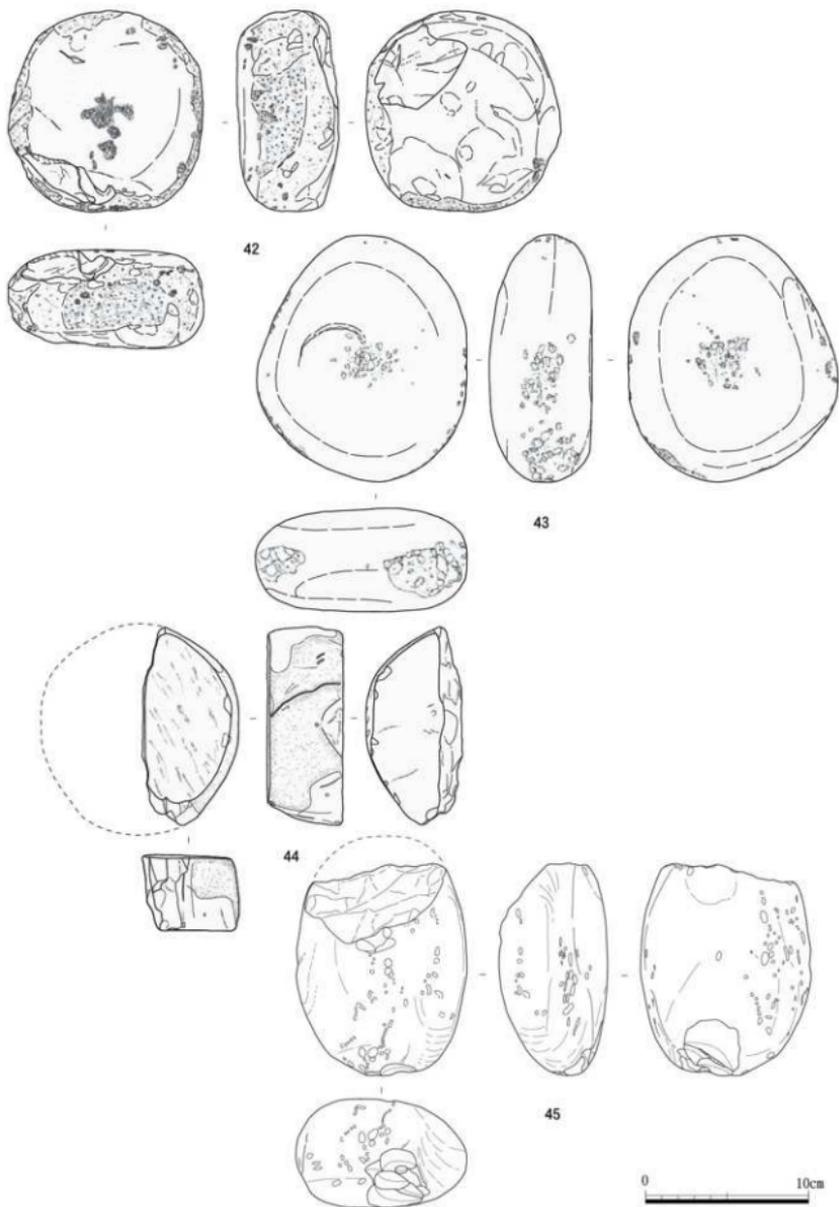


40



41

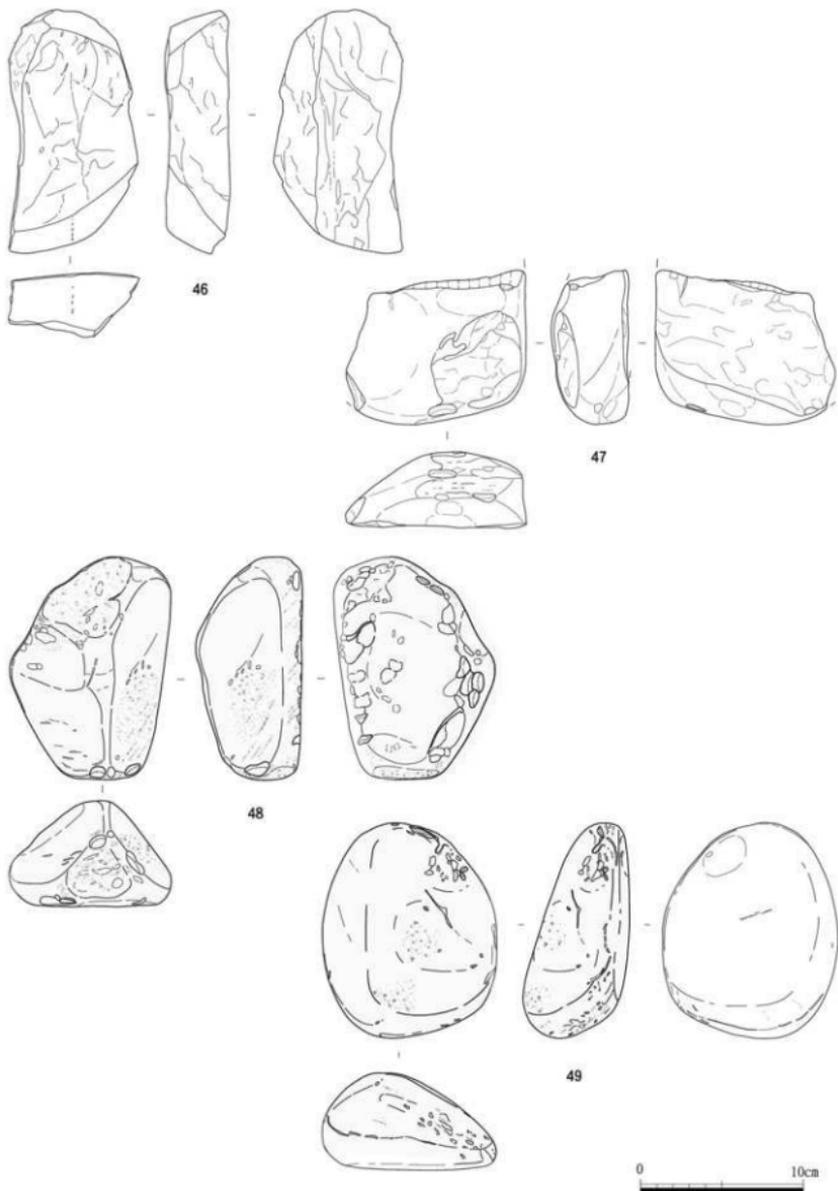




第69圖 石器7



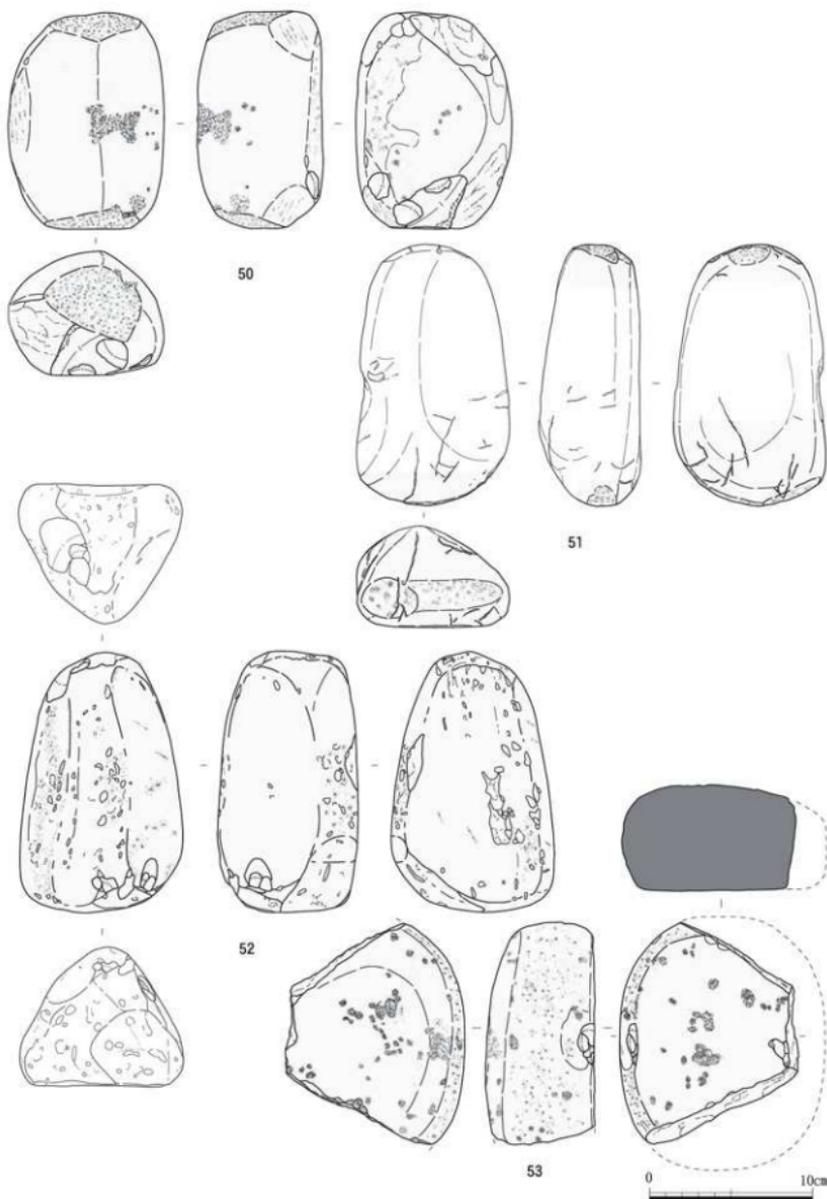
图版55 石器7



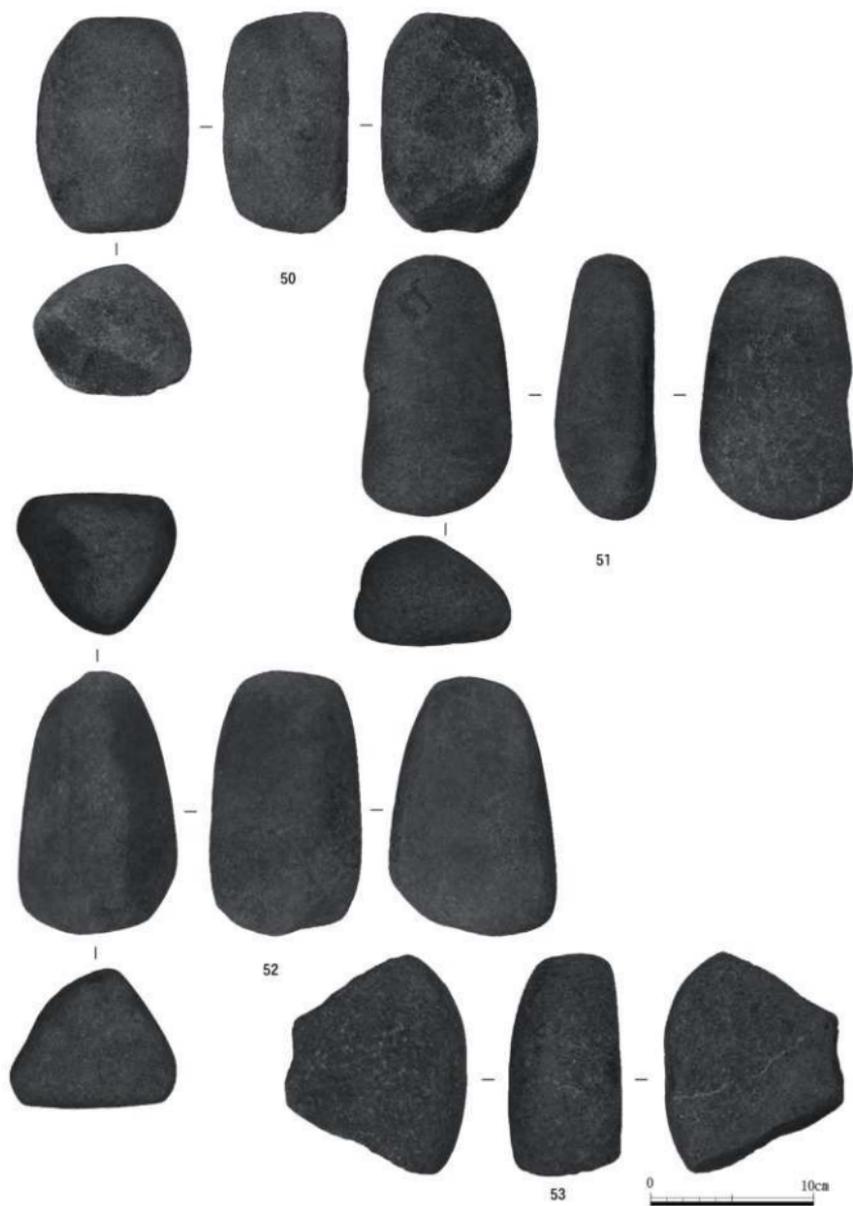
第70圖 石器8



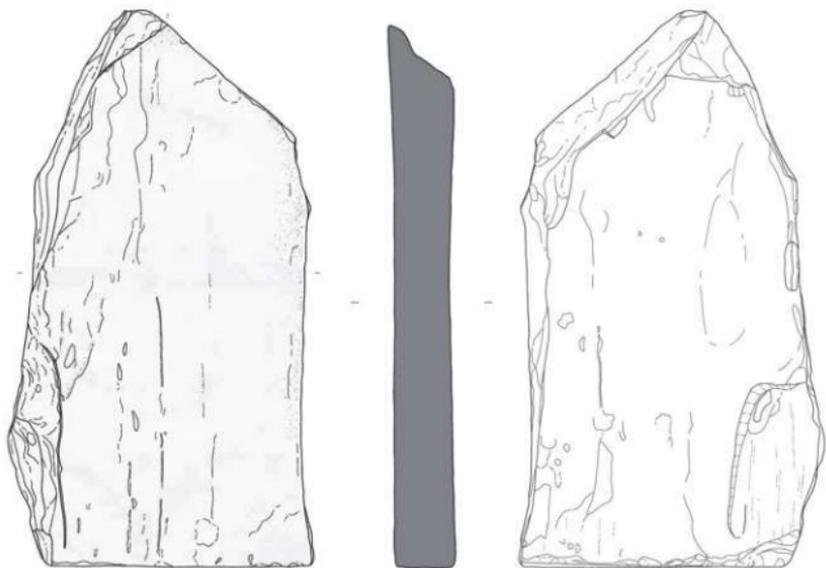
图版56 石器8



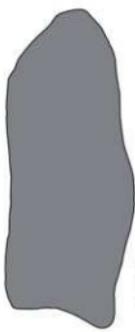
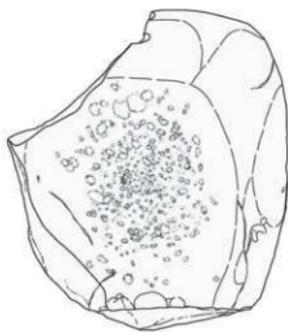
第71圖 石器9



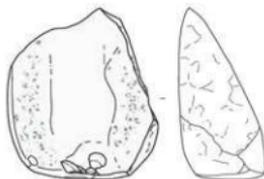
图版57 石器9



54



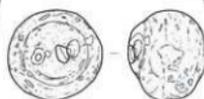
55



56



57



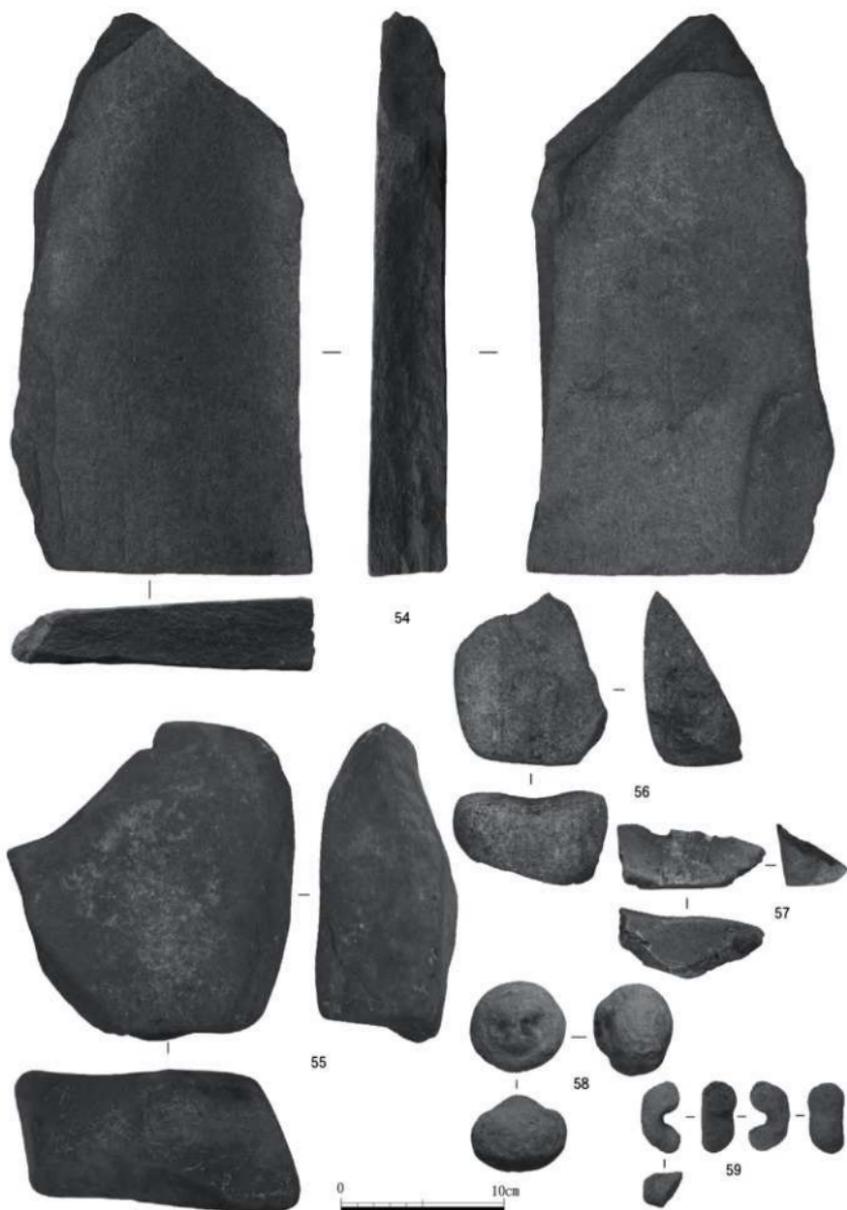
58



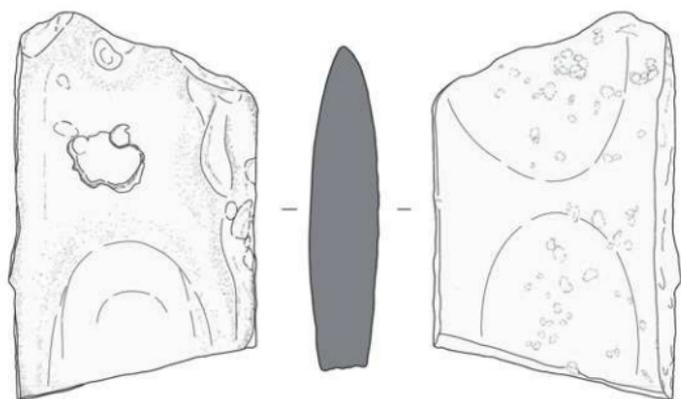
59



第72圖 石器10

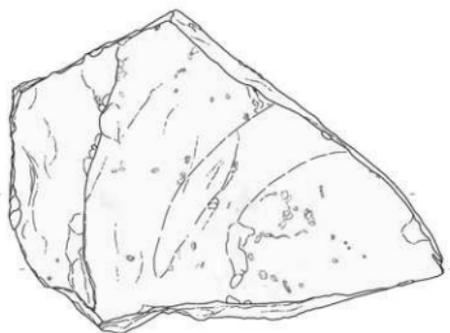


图版58 石器10



1

60



1

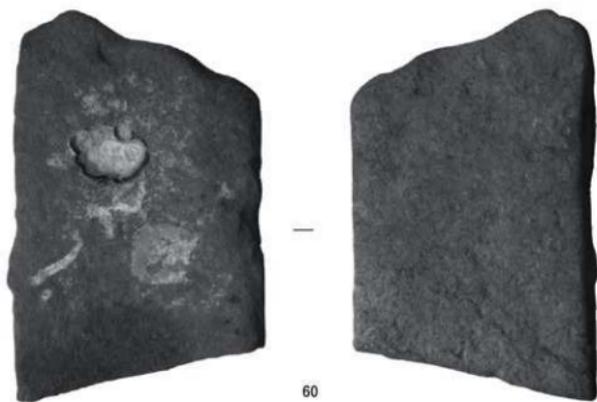
61



1



第73圖 石器11



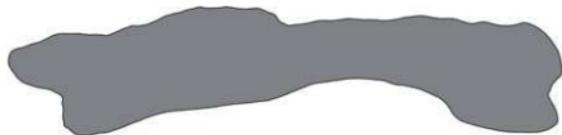
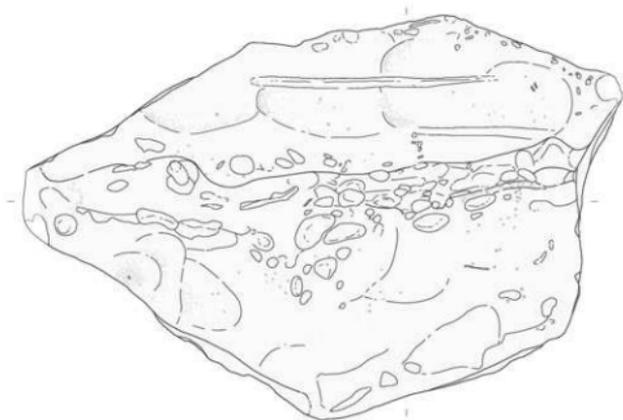
60



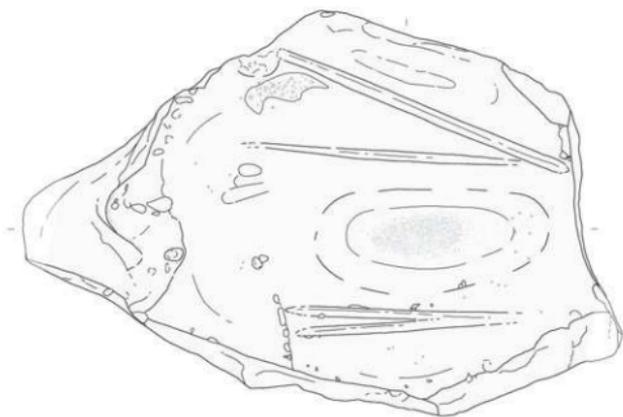
61

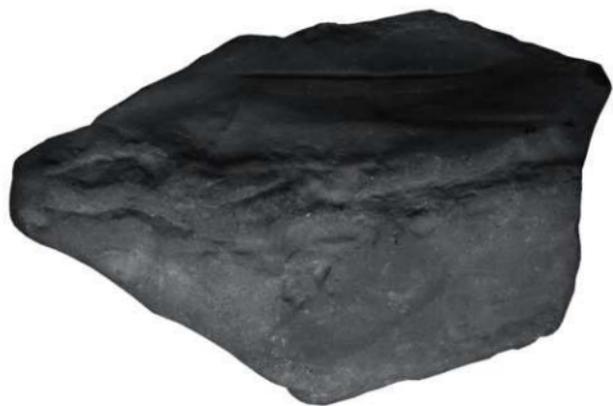


0 10cm



29





29



图版60 石器12



図3はこれまで報告したキャンプ桑江北側地区の遺跡出土の中では最も大きく、図4・5は前者より小さい。いずれもオオツタノホのような丁寧な研磨はなく、内外縁に打割を施すのみである。

しかし、図2は内縁に顕著な研磨が認められるもので、大きさは図3に近い。これらの出土地をみるとハ地区Q11・12で3個(図1・3・4)得られている。

## B.二枚貝(シャコガイ)

図6はシラナミの左殻で輪状に加工するもので、蝶番部から幅2.5cmの厚手の貝輪と考えられる。本品から母貝を復元すると殻長13.0cm、殻高8.6cmが想定される。外殻と破損面に大きなアバタが見られることから死貝を用いたと考えられる。H19地区R18第IV層からの出土である。シャコガイを削り込んだ製品は伊礼原E遺跡(2013 第152図99)でも出土している。

第21表 貝輪(一枚貝・二枚貝) 観察一覧

(質量単位: cm, g)

第図 図版	図 番号	製品 番号	貝種	完破	縦	横	孔縦	孔横	重さ	貝状態	観察事項	地区 小'1'1'1' 層 遺構 台帳番号
第78 図・ 図版 61	1	154	オオツタノホ	破	(12.0)	(8.0)	-	-	8.58	色残△	下縁の幅が1.7cmと貝輪では太い方。外殻は研磨顕著で成長線を露出。内殻は自然で、部分的に研磨有り。	ハ Q12 III 台3338
	2	141	オオベッコウガサ	破	(8.7)	(7.5)	(7.0)	(6.2)	40.2	色残○	縁幅0.8cm、内外縁とも研磨。	ハ R12 IV 台3173
	3	150	オオベッコウガサ	完	8.7	7.3	6.5	5.3	16.55	色残○	縁幅1.0～1.1cmとやや不定。内縁は貝の成長線に沿うように粗い打割。外縁は上と下に若干の破損。外殻に僅かな研磨認められる。	ハ Q11 IV 取34 台34
	4	148	オオベッコウガサ	完	6.5	5.3	4.9	3.8	8.48	色残◎	縁幅0.6～0.9cm。上縁が細く、下縁が太い。内縁は粗い打割。外縁は下縁近くに細かい打割。	ハ Q11 IV 取177 台177
	5	510	オオベッコウガサ	破	(6.9)	(5.45)	(5.1)	(4.0)	6	色残○	縁幅1.5cm、内縁打割が細かい。	H19 B20 IV 台219
	6	518	シラナミ	破	-	-	-	-	20	風化○ アバタ○	左殻、蝶番部。縁幅2.5cm、外殻及び腹(外)縁、内縁の研磨顕著。貝の成長線が若干残す。内殻自然面、蝶番部は研磨顕著。死貝。	H19 R18 IV 台1428

凡例: ( )=推定寸法、◎=多・強、○=普通、△=少・弱、△=僅少、×=なし

## C.巻き貝(ゴウホウラ・アツソデガイ)

ゴホウラとアツソデガイの背面を用いるもの(背面型)と腹面を用いるもの(腹面型)があり、各々2点出土した。これらは、南海産貝輪交易(木下1996)の対象とされる遺物で、完成品と未製品がある。以下、型式ごとに略述する。

a. 背面型: 図7はゴホウラの背面を用いたもので、研磨は丁寧で完成度は高い、貝輪の幅はやや太めで、内殻は自然で、数個のアバタが確認される。

図8はアツソデガイの背面を用いたものでほぼ完成品である。貝輪の幅は1.8～2.6cmと太めで、蝶塔部の内外面、内外縁は顕著に研磨され、研磨面は丸みを帯びる。

b. 腹面型: 図9はほぼ完成品で、破損するが腹面を割りとり、内外縁とも研磨が顕著で断面は舌状を呈する。諸岡型に酷似。同じような製品は伊礼原遺跡(2007)で報告されているが、本品はやや太く、一大結節の名残が明瞭であることを考慮すると、まだ未完成の可能性が高い。H19地区S18第IV層の出土である。

図10は未製品で内縁についてみると、腹面は敲打が顕著で背面は粗割調整のままである。加工についてみると大結節周辺ではヘビガイのクリーニング途中であるが、研磨面も三方に確認できる。

H19地区T20第V層の出土である。

上記2点は貝集積SS01近くで出土している。

c. 有孔製品：ゴホウラとアツソデガイの背面と腹面に粗孔を施すもので、貝集積(SS01、SS02、SS03)など南海産貝輪交易に関連する遺物である。(木下1996・島袋2004)

図11はゴホウラの背面頂部に2.0cm弱の粗孔を施すものである。背面はヘビガイの付着状況を見ると、背面頂部から前溝孔にかけては削りとられ、殻頂側にはヘビガイの残存率が高い。この種の加工品は上唇部も打割調整されることが多いが、本品は腹面に貝色が残り、加工痕は見られない。内唇にゴカイが付着し、外唇周辺はアバタが多い。背面型貝輪の粗加工品と考えられる。近接する伊礼原D遺跡からは粗孔はないものゴホウラのクリーニングの段階を示す資料が得られており、貝交易のため、あるいは貝輪加工の前段階として、ゴホウラに付着したヘビガイをクリーニングしたことがわかることから、在地の貝交易への関わり方の一端が窺える。

図12はアツソデガイの腹面に3.3×2.7cmの粗孔を施したものである。貝殻は風化が著しく、背面にヘビガイやアバタが顕著に見られる。他に加工痕は認められない。腹面型貝輪の粗加工品と考えられ、いずれも貝交易のための加工品と思われる。

第22表 貝輪(巻き貝) 観察一覧

(法量単位: cm, g)

第図 図版	図 番号	製品 番号	貝種	完 破	縦	横	孔 縦	孔 横	重 さ	貝状態	観察事項	地区小「リット」 層 台帳番号
第78 図版 61	7	487	ゴホウラ 背面型	破	-	-	-	-	9	内面に7ハ 9数個	貝輪の縁幅1.6～2.1cmとやや太め、厚0.2～0.3cmと不定であるが、貝の属性に起因。全面研磨。	H19 B1 IV 台129
	8	153	アツソデガイ 背面型	完	11.8	8.5	4.9	4.3	92	風化△	縁幅1.8～2.6cmで太めの輪状で、さらに研磨するかは不明。外縁が研磨、内縁が打割と研磨が認められる。内外縁とも自然面の方が多いが、螺旋部の内外面は研磨が顕著である。	ハ Q11 IV 取83 台83
	9	486	ゴホウラ 腹面型	破	-	-	-	-	48	ヘビガイ△ アバタ△	縁幅1.35～2.85cm、太めの貝輪である。腹面型の諸同型に近い。一大結節部研磨顕著、研磨面の稜を残す。螺旋・螺旋部の研磨も顕著。内外縁は顕著な研磨で両面から細くなるが、特に内殻からの研磨が顕著、丸味のある道具を用いる。	H19 S18 IV 台720
	10	488	ゴホウラ 腹面型 未製品	完	12.4	6.7	5.4	2.3	193	ヘビガイ△ 色残△	未完成品のため、縁幅2.3～5.3cmを測る。側面一大結節を中心研磨明瞭。背面側にヘビガイクリーニング痕あり。螺旋部は粗割調整。孔-腹面:楕円、敲打。背面:楕円、粗割。	H19 T20 V 取1290 台1290
第79 図版 62	11	485	ゴホウラ	完	16.9	12.8	1.9	1.8	600	ヘビガイ○ アバタ○ 腹縁-色残	成貝。背面頂部に2.0cm前後の隅丸形状の粗孔。背面はヘビガイが付着するが、背面頂部付近は削られクリーニングされる。	H19 S17 V 台170
	12	481	アツソデガイ	完	12	8.6	3.3	2.7	240	ヘビガイ◎ アバタ◎ 風化◎	腹面に打割による粗孔。	H19 B1 IV 台130

凡例: ◎=多・強、○=普通、△=少・弱、△=僅少、×=なし

## (2) 貝玉

図13は小型のイモガイの螺旋部を用いたもので、外殻面は風化が著しく加工面は明瞭でない。内殻を凹面状に研磨する。厚さ0.25cmと薄手でこのような形状の例は少ない。中央の孔は0.3cmを測るが、風化のため人工か自然かは判断できない。H19地区A19第IV層の出土である。

図14はマガキガイの螺旋部を打割調整したもので、貝玉の未製品と思われる。H19地区R15第III層P40の出土であるが、遺物の所属は貝塚時代後期と考える。

### (3) イモガイ未製品

図15はアンボンクロザメなどの大型イモガイを加工したもので、未製品である。螺旋部を研磨するが、肩部はまだ自然面を残し、殻頂を打割て穿孔するものである。体層は一部を残し、外唇から三分の一を打割、内唇溝が露出する。おそらく円盤状製品の製作途中と思われる。

第23表 貝玉・イモガイ製品観察一覧

(法量単位: cm, g)

第図 図版	図 番号	製品 番号	貝種	完 破	縦	横	孔縦	孔横	重さ	貝 状態	観察事項	地区 小グッド層 遺構 台帳番号
第79 図・ 図版 62	13	335	イモガイ	完	2	2.2	0.3	0.3	1.5	風化 ○	小型のイモガイ螺旋部。外殻は風化、内殻を凹面状に研磨。厚さ0.25と薄手。中央の孔も風化のため、人工か自然か不明。	H19 A19 IV 台1445
	14	509	マガキガイ	完	2.7	2.6	—	—	12	色残	螺旋部を用い、体層側を打割調整し平坦にする。殻頂は突起は欠損することから、穿孔途中かと推察される。	H19 R15 III P40 台54
	15	334	アンボンクロザメ? 未製品	完	6.5	6.1	0.8	1	90	風化 ○	螺旋部は研磨、殻頂は打割による穿孔。肩部は自然面を残す。体層は外唇から3分1程打割、内唇溝が露出する。	H19 B1 IV 台187

凡例: ⊙=多・強, ○=普通, △=少・弱, ◡=僅少, ×=なし

### (4) 貝符

図16は大型イモガイを用いたもので、いわゆる南島型(木下1996)貝符である。平面はほぼ正方形で四隅に4個の孔を配すもので、各辺の中央に「M」字状の挟りを施す。孔は両面から回転で穿孔され、外殻面は研磨が顕著で、内殻面は凹部に自然面を残す。紐ずれをみると上位の孔は外殻面が中央方向、内殻面が外縁方向に確認され、下位の孔には紐ずれがみられないことから、図のような紐の装着が想定される。貝殻の成長線は外殻面で縦位、横側面では同心円状に確認でき、湾曲からイモガイの殻径は4.3cm前後と推定される。縁厚は下端0.5cm、上端が0.4cmを測る。土サンプル(黒色土層)の水洗いからの採集で、H19地区S18第IV層の出土である。類例は野国貝塚(1984)で報告されている。

### (5) 巻き貝製品

#### A. ウミウサギ

後端と前端に穿孔するもので、第IV層と表面採集で各々1点の計2点得られた。

孔は横位に研磨して穿孔(図17)するものと、打割により穿孔するもの(図18)がある。本品は伊礼原E遺跡(2010)、安座間原第一遺跡(1989)34号人骨土年・男性・左手着装例、宮城島高嶺遺跡(1989)、住吉貝塚(2006)など貝塚時代前IV～V期の遺跡で報告されている。

第24表 巻貝観察一覧

(法量単位: cm, g)

第図 図版	図 番号	製品 番号	貝種	完 破	縦	横	重さ	貝 状態	観察事項	地区 小グッド層 遺構 台帳番号
第79 図・ 図版 62	17	514	ウミウサギ	完	7.6	4.6	56	風化 アバタ△	前端と後端近くを研磨して穿孔。孔の周縁に研磨面明瞭。孔径: 前端0.4×0.4、円形。後端0.4×0.4、円形。	H19 T20 IV 台827
	18	515	ウミウサギ	完	9.2	5.3	76	色残○	前端、後端近くを打割て穿孔。孔は外殻一内殻、複数の打割有。前端B=0.4×1.55、楕円形。後端A=0.65×0.7、やや方形。	H19 I 台50
	19	145	マクラガイ	完	2.4	1.9	4.7	風化○	管玉状。腹面は殻口に含わせて水平に研磨し、背面と外唇側には文様が施される。文様は幅0.2cmの浅い凹文を2条、烈点文6個を施す。烈点文の大きさは、径0.15cmが5個、径0.3cmが1個配される。	ハ T10 III SP14 台3805

凡例: ⊙=多・強, ○=普通, △=少・弱, ◡=僅少, ×=なし

## B.マクラガイ

マクラガイの螺旋部及び体層の端部を切り取り、管玉状に加工したものである。背面と外唇側には文様が施される。文様は凹文を横位に2条、その下位に烈点文を6個施すものである。

類例は久米島清水貝塚（1989）、本部町兼久原貝塚（1977）の貝塚時代後期中頃に出土し、種子島広田遺跡（2003）では古墳時代の埋葬人骨に伴って検出されている。

### (6)タカラガイ製品

ハナピラダカラの背面を除去したもので、研磨が施されており、貝種から装飾品に含めた（島袋1997）。図20は除去した背面を水平に研磨するが、図21は背面の除去のみで自然欠損の可能性も否定できない。

第25表 タカラガイ製品観察一覧

(法量単位: cm, g)

第図版	図番号	製品番号	貝種	完破	縦	横	重さ	貝状態	観察事項	地区 小テリタノ層 遺構 台帳番号
第79図版 65	20	190	ハナピラダカラ	完	2.4	1.7	2.27	色残○	背面切り取り、水平に研磨。殻軸が残る。	ニ P7 IV SP12 台2763
	21	322	ハナピラダカラ	完	2.7	2	4	色残○	背面欠落、殻軸あり。背面は複数の打割。	イ C11 III 台2454

凡例: ◎=多・強、○=普通、△=少・弱、△=僅少、×=なし

## 2. 実用品と考えられるもの

ヤコウガイの容器2点、貝匙12点、未製品3点、製品の切り取り残存部7点、ホラガイ有孔製品9点、貝皿1点、貝包丁2点、螺蓋製貝斧8点、ヤコウガイ有孔製品2点、二枚貝有孔製品351点、スジガイ製品1点の計398点得られた。他にパイブウニ製品1点が得られたが、便宜上ここで報告する。

### (1) 容器

ヤコウガイの貝殻をそのまま利用したもので、伊礼原D遺跡（2013第61図33）が初例である。2点得られ、図22はヤコウガイの殻口を打割調整し、ほぼ水平にしたものである。外唇の瘤はわずかに研磨される。ほかに小ぶりなもの（製624）が出土している。

第26表 ヤコウガイ容器観察一覧

(法量単位: cm, g)

第図版	図番号	製品番号	貝種	完破	縦	横	重さ	貝状態	観察事項	地区 小テリタノ層 台帳番号
第80図版 63	22	619	ヤコウガイ	完	15	18.5	832	アバタ○	外唇の瘤はやや研磨、他は打割。殻頂は破損、真珠層露出。稜は大きく打割し、平滑に調整。老貝、容量460cc	イ A14 IV 台3164
図版なし	—	624	ヤコウガイ	完	14	14	495	ヘビガイ○	外唇から臍の一部、打割。殻頂研磨か摩耗。やや若い貝殻。容量260cc	H19 P16 VI 台873

凡例: ◎=多・強、○=普通、△=少・弱、△=僅少、×=なし

### (2) 貝匙

ヤコウガイの殻口近くの体層を匙状に加工したもので、第II層で2点、第III層で4点、第IV層で6点の計12点の出土である。いずれも背面型で完形1点、身8点、柄3点の出土である。本品以外に腹面型の貝匙が出土しているが、形状からグスク期のものとした。（第4節（15）貝製品 第124図1）

図23は完形で、殻口側が柄に相当する。伊礼原D遺跡（2013 第60図28）と同じように無柄タイプであるが、比較すると本品は外殻面の稜は研磨され、中でも螺旋側は真珠層が露出する。匙の縁は研磨調整が主であるが、わずかに打割痕がこのころ。素材貝は前出の伊礼原D遺跡より大きい。

図24は外殻の稜及び臍部を顕著に研磨したものである。貝匙の柄か身かは明瞭でないが使用部位を考慮すると柄の可能性が高い。近世遺構（SK62）の出土であるが、所属時期は貝塚時代後期と判断される。

図25は貝匙の身の先端で、匙の縁は丸みを帯び、外殻の稜を大きく割りとったのみで他に加工は見られない。前2者比べて加工はやや粗く、粗加工段階と思われる。

#### ・未製品

未製品は3点出土した。製38は背面部で稜の部分に粗い打割、製56は殻口近くに穿孔されるが、周縁は自然の割れ、製72は体層で打割が複数確認されるもので集計のみに示した。いずれも第Ⅳ層の出土で製38がニ地区09、製56がハ地区Q12、製72がハ地区P12で得られた。

#### ・切り取り残存部

貝匙をつくるために残った貝殻で、打割など加工の痕跡の残るもの7点得られ、集計に示した。

第27表 貝匙観察一覧

(法量単位: cm, g)

第Ⅳ層版	図番号	製品番号	貝種	完破	縦	横	重さ	貝状態	観察事項	地区	小ゾット層	遺構	台帳番号
第80図 図63	23	149	ヤコウガイ	完	16	8.3	164	アバタ△	背面型c。深さ3.6cm、200cc。	ハ	R11	Ⅳ	取163 台163
	24	255	ヤコウガイ	柄	-	6.1	32	アバタ○	背面型。外殻は稜及び臍部を研磨。	イ	A11	Ⅱ	SK62 台2497
	25	252	ヤコウガイ	身	-	-	34	アバタ○	背面型。部の研磨顕著。外殻の稜に研磨痕。	イ	D16	Ⅲ	台2401
国・版なし	-	42	ヤコウガイ	身	-	-	130	アバタ△	背面型。稜に打割。	ニ	-	Ⅳ	台2768
	-	45	ヤコウガイ	身	-	-	23	アバタ○	背面型。体層部分の稜の研磨、真珠層露出。	ハ	R11	Ⅳ	台2702
	-	46	ヤコウガイ	身	-	-	78	アバタ◎	背面型。体層部分、打割4回。	ハ	R11	Ⅳ	台42
	-	47	ヤコウガイ	身	-	-	101	アバタ△	背面型。体層、打割はなし。真珠層。	ニ	N9	Ⅳ	台135
	-	73	ヤコウガイ	柄	-	-	85	アバタ◎	背面型一柄。体層～殻口、外唇、打割・接合。	ハ	Q12	Ⅳ	台3166
	-	76	ヤコウガイ	身	-	-	20	アバタ△ ヘビガイ△	背面型一身。体層が厚く、貝は大きい。	ニ	N10	Ⅲ	台3946
	-	77	ヤコウガイ	身	-	-	17	アバタ△	背面型一身。体層、研磨有。	ニ	-	Ⅲ	台3964
	-	91	ヤコウガイ	柄	-	-	5	アバタ×	背面型一柄。殻口。	ハ	T8	Ⅲ	SD08 台3816
	-	92	ヤコウガイ	身	-	-	58	アバタ○	背面型一身。体層・粗割。	ハ	R12	Ⅱ	SP21 台3436

凡例: ◎=多・強、○=普通、△=少・弱、△=僅少、×=なし

分類: 伊礼原D遺跡 (2013) に準ずる

### (3) ホラガイ有孔製品

ホラガイの内唇に2.0cm前後の粗孔を1～2個施し、さらに殻頂を丸くするもので、9点出土した。殻頂近く研磨するものが2点得られている。これらはいずれも貝塚時代後期の出土で、図26は柱穴から出土した。大きさについてみると大(図27・製425・623)、中(図26・製188・189)、小(図28)があり、容量は大が460～700cc、中が120～190cc、小が50ccを測るが、小に関しては実用品の使用としては疑問が残る。以下、殻頂の加工状況で略述する。本品は民具事例から薬缶(上江洲1973)の用途が想定されるが、小についてはそれには当たらず、機能について明瞭でなく、今後の資料を待って検討したい。

#### A. 殻頂研磨

図26・27は殻頂近くを研磨するもので、図26は体層部を大きく破損するため、内唇の粗孔は1個か2個か不明。殻頂の加工をみると上下面とも弧状の工具で横位に擦るもので、その結果、穿孔する。下面方が抉りは深い。

図27は体層部を破損し殻頂が丸みを帯びるもので、内唇に1孔を有する。孔は滑層に施され、他より深い。殻頂近くの螺旋部の凸面を3カ所研磨する。上下面の研磨の範囲は約5cm、さらにその

側面に丸みのある研磨が認められる。

両者は研磨の位置はほぼ同じであるが、その施し方が異なり、研磨の意味は不明瞭である。類例は嘉門貝塚B（1993）、アンチの上貝塚（2009）に報告がある。後者は「ホラガイ不明研磨製品」と報告されているが、本品の形状から有孔製品と判断される。

### B. 殻頂丸味（摩耗）

殻頂が丸味を帯びるもので小さいもの（図28）と大きいもの（図29）の2点を図化した。図28は殻径が6.5cm、図29は殻径11.3cmを測るもので、いずれも孔は1個である。孔の大きさはほぼ同じである。孔の位置はいずれも滑層より外側に施される。

第28表 ホラガイ有孔製品観察一覧

(質量単位: cm, g)

第図版	図番号	製品番号	貝種	完破	縦	横	孔縦	孔横	重さ	貝状態	観察事項	地区	小層	層	遺構	取上番号	台帳番号	
第81図版64	26	423	ホラガイ	破	-	-	-	-	106	色残○	体層部破損のため、孔は1個か2個か不明。殻頂近くを上下面研磨、その結果、孔。研磨は「U」字状の工具を用いる。	H19	R17	IV	P2	台1107		
	27	422	ホラガイ	3/4	25	-	2.1	2.4	234	色残△	外唇～体層破損、殻頂丸み。1孔タイプ、滑層に穿孔。打割による楕円、外殻～内殻。殻頂近くの螺旋部の凸面を3カ所、研磨。研磨の範囲は約5cm。側面は研磨面が丸みを帯びる。	H19	A20	V	SS004	取1103	台1103	
	28	618	ホラガイ	完	15.6	6.5	2	2	106	色残△	殻口未調整、殻頂丸み。1孔タイプ。孔は滑層より外側。容量50cc	H19	P15	IV	取196	台3167		
	29	424	ホラガイ	完	29.5	11.3	2.1	2.6	355	色残△	殻口未調整、殻頂丸み。1孔タイプ。孔の位置は滑層より外側。460cc	イ	A13	IV	台430			
図・図版なし	-	421	ホラガイ	完	24	9.7	2.1	2.7	227	風化○	体層破損、殻頂摩耗。1孔タイプ。	H19	A20	V	取1433	台1433		
	-	425	ホラガイ	破	27.5	-	3.5	3.4	327	アバタ◎ 風化○	外唇～背面破損。1孔タイプ。	H19	S18	V	取657	台857		
	-	623	ホラガイ	完	27.7	12.2	4	4.5	398	風化○	背面わずかに破損。1孔タイプ。孔は大きく、楕円。殻頂丸み。容量700cc	H19	R18	V	台872			
	-	188	ホラガイ	完	23.5	9.4	3.1	2.5	183	色残△	殻頂わずかに欠、背面にヒビ。1孔タイプ、やや楕円、滑層より外側に穿孔。容量190cc	ハ	Q12	IV	台2801			
	-	189	ホラガイ	完	21.5	8.8	2.8	2.7	209	色残△	殻頂わずかに欠損。1孔タイプ、滑層から体層にかけて穿孔。隅丸方形。孔は複孔。容量120cc	ハ	R11	IV	台70			

凡例：◎=多・強、○=普通、△=弱、∠=僅少、×=なし

### (4) 貝皿

図版63-①（製102）はヒメジャコで、腹縁を摩耗するもので、他に加工痕は認められない。殻長11.5cm、殻高8.1cm、重さ169.5gを測る。貝の大きさに比べ重い。これらの状況から貝皿の可能性が考えられるため、写真のみを掲載した。ハ地区R11第IV層の出土で取上331（第11表）、標高2.8mと低い。

### (5) 貝包丁

クロチョウガイを方形状に加工したもので、腹縁部分を直線状に整えたものと腹縁部分を内外殻から研磨したものの2種がある。

腹縁を直線状に加工し方形にし、刃部は丸味を帯びるもの（図30）、また腹縁部を外面から研磨して刃状にしたもの（図31）がある。刃の形状は異なるが図30は住屋遺跡（1983）に類似する。

第29表 貝包丁観察一覧

(法量単位: cm, g)

第図 図版	図 番号	製品 番号	貝種	完破	縦	横	重さ	貝状態	観察事項	地区 小'リット'層 台帳番号
第81 図 64	30	146	クロチョウガイ	完	8.3	7.0	23	色残○	全形は方形に整え、腹縁は直線呈するが断面はやや丸味を帯びる。殻頂近くは剥離し、真珠層露出。	ニ IV 台2768
	31	147	クロチョウガイ	完	9.0	8.2	41	色残○	全形は自然貝の形状を残すが、殻頂は破損。腹縁部分を内外殻面から研磨、刃状を呈する。	ハ R11 IV 取331 台331

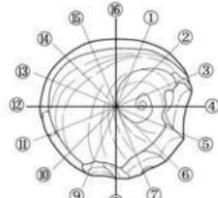
凡例: ◎=多・強、○=普通、△=少・弱、△=僅少、×=なし

(6) 螺蓋製貝斧

ヤコウガイの蓋の薄い部分を連続して剥離するもので、第II層で1点第III層の柱穴で1点、第IV層で4点(うち柱穴1点)、第V層で2点の計8点の出土である。

大きさは縦が6.2~7.95cm、横が6.9~8.9cmがあり、そのうち最も小さいもの(図32)、最も大きいもの(図34)、附刃が深いもの(図33)の3点を図示した。

図34は軸頂部にも打痕が認められる。附刃は一方方向(A)、二方向(B)に分類(伊礼原E遺跡2010)でき、観察一覧に示した。



『シメグ堂遺跡』(1985)

第75図 ヤコウガイの蓋附刃分布

第30表 螺蓋製貝斧観察一覧

(法量単位: cm, g)

第図 図版	図 番号	製品 番号	完破	縦	横	重さ	貝状態	観察事項	地区 小'リット'層 遺構 台帳番号
第80 図 64	32	433	完	6.2	6.9	102	色残△	附刃A: ④-⑪	H19 B1 V 台125
	33	431	完	7.7	8.0	190	色残△	蓋自体が自然に湾曲。附刃A: ④-⑯	H19 C17 III P14 台963
国・ 図版 なし	34	432	完	7.95	8.9	209	パナ風化△	刃も摩耗、製品後風化。附刃B: ③-⑪⑯⑰	H19 T13 IV 台702
	—	442	完	—	8.2	176	色残○	附刃A: ③-⑯	H19 S13 V 台367
	—	444	3/4	—	—	137	—	附刃A: ⑥-⑯	H19 Q16 IV 台1304
	—	113	完	7.5	7.4	142	—	附刃B: ③-⑪、⑬-⑰	ニ L11 II 台4183
	—	114	完	7.8	7.3	164	—	附刃B: ⑥-⑯⑰-⑱	ニ N9 IV 台3894
	—	115	完	7.9	7.4	182	—	附刃A: ③-⑯	ニ N10 IV SP12 台4079

凡例: ◎=多・強、○=普通、△=少・弱、△=僅少、×=なし

(7) ヤコウガイ有孔製品

ヤコウガイの殻を板状に切り取り、1.0~2.0cm前後の粗孔を施すもので、孔は外→内に穿かれています。背面(図36)と腹面(図35)の用いたものがあり、前者が49.8g、後者は14.9gを量る。

奄美大島マツノト遺跡(2006)では後述する二枚貝有孔製品と一括して出土している。前者がメンガイ類、後者がソメワケグリと出土した。本遺跡でも二枚貝有孔製品が多数出土しているのので、同じような用途が想定される。このような製品は貝塚時代後期で数例出土しているが、奄美大島に比べて出土数は少ない。

第31表 ヤコウガイ有孔製品観察一覧

(法量単位: cm, g)

第図 図版	図 番号	製品 番号	貝種	完破	縦	横	重さ	孔 縦	孔 横	貝状態	観察事項	地区 小'リット'層 取上番号 台帳番号
第82 図 ・ 図版 65	35	152	ヤコウガイ	完	48.2	42.6	14.9	1.4	1.17	色残△	腹面利用、周縁及び孔を打削調整。外殻突起は自然のまま。	ハ S10 IV 台2707
	36	151	ヤコウガイ	完	7.2	6.8	49.8	2.1	1.85	色残△ ヘビガイ○	背面利用。周縁は粗く打削後研磨。孔縁は打削調整、外殻自然のまま。	ハ R10 IV 取295 台295

凡例: ◎=多・強、○=普通、△=少・弱、△=僅少、×=なし

## (8) 二枚貝有孔製品

二枚貝の殻頂近くに1.0～2.0cm前後の粗孔を施すものである。伊礼原D遺跡で示したように下記の条件を2つ以上満たすものを「二枚貝有孔製品」として扱った。本品は漁網錘としての用途の可能性が高いが、貝種によっては別の用途の可能性（島袋2004）も考えられる。報告段階では前述の名称で報告する。

- a：孔の穿孔時に複数の打割が見られるもの
- b：孔に複数の切り合いがあること
- c：腹縁に複数の剥離（使用痕）があること

層別出土をみると第Ⅱ層34点、第Ⅲ層51点、第Ⅳ層232点、第Ⅴ層33点、下層1点計351点の出土で貝製品の中で最も出土が多い。

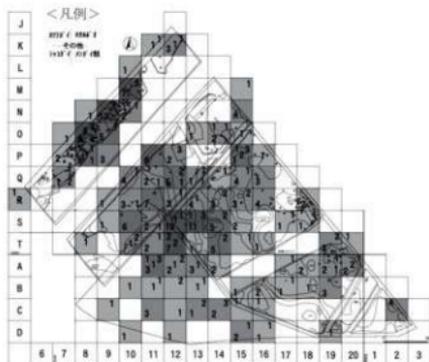
第Ⅱ層および第Ⅲ層出土のものはそのほとんどが遺構の出土で遺構構築による混ざり込みの可能性が高いことから、他の貝塚時代後期の遺物と同様、第Ⅳ層に属すると思われるので平面分布では出土層位に関係なく示した（第76図）。

貝種別にみるとシャコガイ（シラナミとヒメジャコ、ヒレジャコを含む、以下「シャコガイ」と記述）219点（62.39%）、リュウキュウサルボオ74点（21.08%）、カワラガイ16点（4.56%）、メンガイ類17点（4.84%）、リュウキュウマスオ11点（3.13%）、リュウキュウシラトリ8点（2.28%）、シレナジミ2点（0.57%）リュウキュウザルガイ2点（0.57%）、リュウキュウバカガイ1点（0.28%）、ソメワケグリ1点（0.28%）の計351点の出土である。シャコガイ科が62.39%と最も多い。

第32表 二枚貝有孔製品貝種・重さ別出土量

貝種	R・サルボオ	R・シラトリ	R・バカガイ	R・マスオ	カワラガイ	シレナジミ	ソメワケグリ	シラナミ	ヒメジャコ	ヒレジャコ	メンガイ類	合計
0～9	2	2	8	1	6	2	1	2	8			32
10～19		34			5	12	1	17	74		7	150
20～29		21				2		14	31		8	76
30～39		11						7	14	1	2	35
40～49		4						8	12			24
50～59		1				1		2	6			10
60～69		1							5			6
70～79									3			3
80～89								1	2			3
90～99								3	3			6
100～								2	2			4
200～								1	1			2
合計	2	74	8	1	11	16	2	1	57	161	1	351

R：リュウキュウの意



第76図 二枚貝有孔製品平面分布

平面分布（第76図）をみると10点以上の出土はS12周辺とN9周辺の2カ所に分かれ、S12では本品が一括して出土（SS05）、N9と08には貝塚時代後期の柱穴や一括土器（土器集中⑧）が得られている。両地域はIV類土器が主体となる場所で、SS05からは第47図70のIV類土器も搬出しており、本品の使用時期を示す貴重な資料である。

重量別にみると10～19gが最も多く、次に20～29g、30～39gと続く。これは隣接する伊礼原D遺跡（2013）と同様な傾向を示すものである。

近接する遺跡出土量と比較すると小堀原遺跡（2012）が30点、伊礼原D遺跡（2013）が237点、と本遺跡が最も多い。貝種の構成をみると（第77図）いずれの遺跡もシャコガイが最も多いという同

じような傾向を示す。これは若干の時期の相違はあるものの、前面の海岸の環境が同じであることから、一定の重さと数を必要とする網の錘に適した貝種を用いるためであろう（島袋2004）

シャコガイ有孔製品はグスク時代に属する北谷町クマヤー洞穴遺跡でも一括で35個得られ（中村1989）、民具事例（上江洲1973）と大きさを比較する（第22図）と、本遺跡出土のものは個数および大きさが小さいことから網の規模も小さくなると推定される。

### (9) スイジガイ製品

図61はスイジガイの腹面の内唇側に1.5cm前後の粗孔を施し、突起の①⑤⑥をほぼ半欠、突起②③④を全欠したもので、他に加工痕はみられない。貝は背面が若干アバタを残し、腹面は貝色が残る。H19地区S18第V層の出土である。貝製品として扱うには疑問が残るが、今後の研究の深化により、明らかになると思われるので資料として掲げる。

### (10) パイブウニ製利器

図62はパイブウニの棘の先端を鉛筆の先のように円錐状、さらに基部を丸く研磨したもので、完形である。長さ2.9cm、径0.9cm、重さ1.5gを測る。現生種の棘の長さが5cm程度あることから、本品はかなり削り込んでいると思われる。H19地区R17第V層の出土である。

パイブウニ棘の製品は貝塚時代後期の渡喜仁浜原貝塚（1977）から出土。本遺跡とは異なり、両側面から削り。平刃状を呈する。いずれも用途は不明。形状から利器の用途が想定される。

### <引用・参考文献>

島袋春美 1997「県内出土の「タカラガイ製品」について」『南島考古』No.16 沖縄考古学会

島袋春美 2004「奄美・沖縄諸島の漁網錘の形態的研究（その3）」『南島考古』No.23 沖縄考古学会

中村 愿 1989「砂辺貝塚・クマヤー洞穴遺跡」『北谷町史』北谷町教育委員会

大島郡伊仙町教育委員会 1985『面鏡貝塚群 第1貝塚 第2貝塚 第3貝塚 第4貝塚』伊仙町埋蔵文化財発掘調査報告書（3）

沖縄県教育委員会 1984『野国貝塚群B地点発掘調査報告』沖縄県文化財調査報告書第57集

呉屋義勝 1989「沖縄県真志喜安座間原第一・第二遺跡」『日本考古学年報』（1987年度版）日本考古学協会

沖縄県教育委員会 1989『宮城島遺跡分布調査報告-1.宮城島の遺跡分布 2.高嶺遺跡』沖縄県文化財調査報告書第92集

鹿児島県知名町教育委員会 2006『住吉貝塚』知名町埋蔵文化財発掘調査報告書（10）

具志川村教育委員会 1989『清水貝塚』具志川村文化財調査報告書第1集

本部町教育委員会 1977『兼久原貝塚発掘調査報告』

広田遺跡学術調査研究会編 2003『種子島広田遺跡』鹿児島歴史資料センター黎明館

浦添市教育委員会 1993『嘉門貝塚B』浦添市文化財調査報告書第21集

本部町教育委員会 2009『瀬底島・アンの上貝塚』本部町文化財調査報告書第9集

今帰仁村教育委員会 1977『渡喜仁浜原貝塚 調査報告書〔1〕』今帰仁村文化財調査報告書第1集

笠利町教育委員会 2006『マツノト遺跡』笠利町文化財調査報告書第28集

平良市教育委員会 1983『住屋遺跡（俗称・尻間）発掘調査報告書』

上江洲 均 1973『沖縄の民具』慶友社

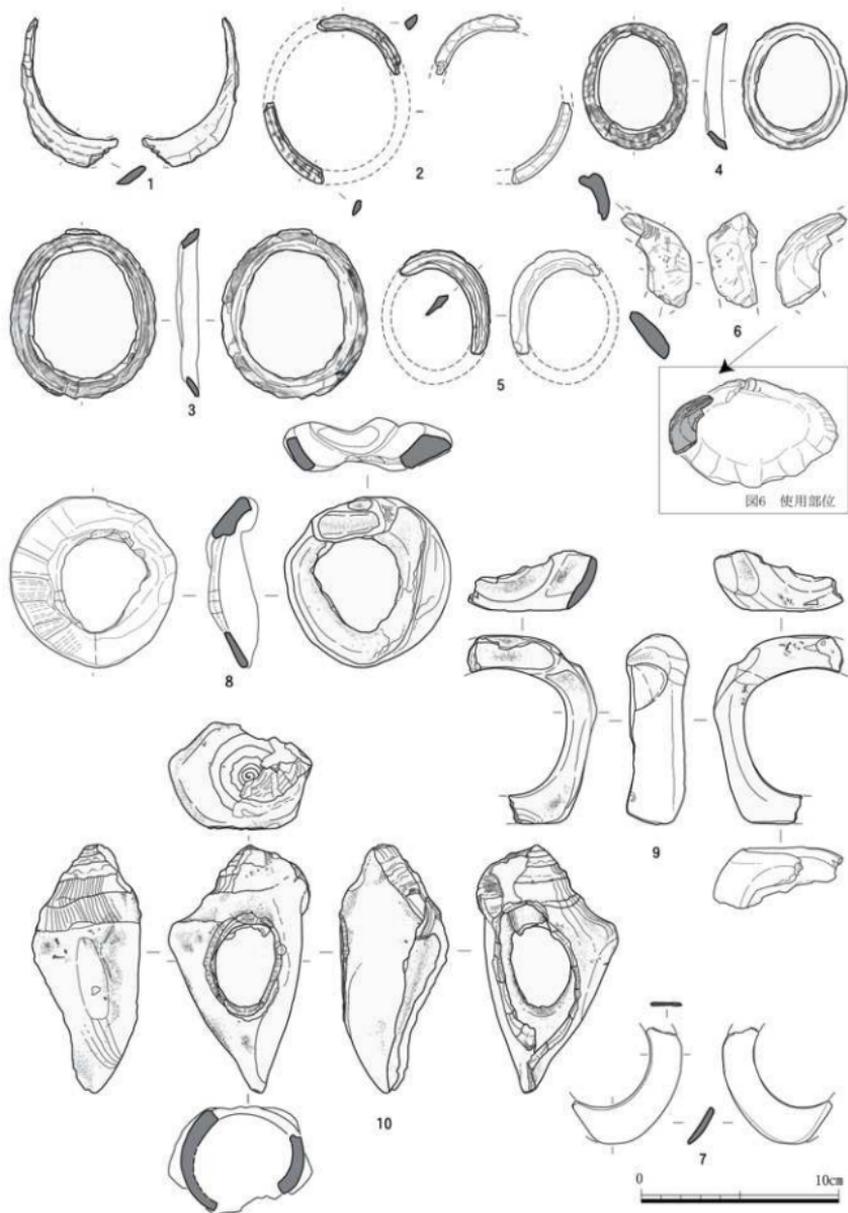
第33表-1 二枚貝有孔製品観察一覧

図番	No.	貝種	科	産地	殻高 cm	殻長 cm	孔数	孔径 mm	産地 高さ	孔-包圍 上中下 の中心	孔-内 方角・外 径・此	孔打	穿孔 方向	属化	階級	地区 取上番号	小ダツド 番号	層 番号	遺構 名称		
57	11597	L	完	4.2	6.9	1.3	3.1	16	上層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S805	16541	01541
58	11598	R	完	4.2	6.3	1.2	2.9	14	上層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S803	16543	01543
59	11599	R	完	4.5	6.3	1.2	3.4	14	上層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S805	16543	01543
60	41592	L	完	5.0	7.9	1.7	3.2	24	上層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S805	16544	01544
61	11597	R	完	4.2	6.4	1.1	3.1	12	上層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S805	16543	01543
62	61597	L	完	4.3	6.1	1.2	1.7	13	中層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S803	16543	01543
63	71592	L	完	4.5	6.2	1.3	1.6	19	上層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S805	16547	01547
64	81592	L	完	4.7	6.3	1.3	1.6	13	上層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S805	16548	01548
65	91592	L	完	4.2	6.2	1.2	2	16	上層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S805	16549	01549
66	101597	R	完	4.3	6.1	1.2	1.7	13	中層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S803	16549	01549
67	11597	R	完	5	7.3	1.2	1.2	30	上層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S805	16553	01553
68	121592	L	完	4.5	6	0.8	1.3	20	上層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S805	16554	01554
69	131597	L	完	4.2	5.8	1.1	2.2	14	中層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S805	16554	01554
70	141597	L	完	9.2	14.8	1.1	1.4	20	中層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S805	16554	01554
71	151597	L	完	7.2	10.2	1.5	1.6	83	上層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S805	16554	01554
72	161597	L	完	4.1	6.1	0.8	1.8	11	中層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
73	171597	R	完	3.9	5.7	0.7	0.8	12	上層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
74	181597	R	完	3.5	5.3	0.7	1.3	9	上層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
75	191597	L	完	4.1	6.2	0.7	1.1	14	上層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
76	201597	R	完	4.3	6.4	0.9	1.6	18	上層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
77	211597	R	完	4.3	6.2	1.1	1.4	14	中層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
78	221592	L	完	4.4	6.1	0.8	1.4	17	上層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
79	231592	L	完	3.8	5.8	0.6	0.7	13	上層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
80	241592	R	完	4.1	5.8	0.8	0.9	12	中層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
81	251592	R	完	4.2	6.1	0.8	1.2	13	中層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
82	261592	R	完	4.3	6.1	0.6	1.2	13	上層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
83	271592	R	完	3.9	6.3	1.2	2	16	上層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
84	281597	L	完	3.5	5.3	0.5	0.6	9	中層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
85	291597	R	完	4.1	6.2	1.3	2.3	25	中層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
86	301597	L	完	5.6	9	0.7	1.4	42	中層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
87	311592	R	完	5.2	7.3	1.7	2.1	21	中層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
88	321592	R	完	4.3	6.2	1.3	1.9	15	中層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
89	331592	R	完	4.8	6.1	0.9	0.9	16	上層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
90	341597	L	完	3.6	6.3	1.1	1.7	10	中層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
91	351592	R	完	4.4	6.6	1.6	3.5	15	上層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
92	361597	R	完	7.8	12.2	1.9	2.4	104	中層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
93	371597	L	完	3.1	6.5	1	1.8	10	中層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
94	381592	L	完	3.9	5.5	0.9	1.1	12	上層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
95	391597	R	完	4.3	7.9	1.2	0.8	25	中層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
96	401592	R	完	4.3	7.1	1.3	1.4	21	中層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
97	411597	R	完	4.8	7	0.8	1.1	19	中層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
98	421592	L	完	5.8	8.6	0.8	1	27	上層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
99	431592	R	完	6.2	9.8	0.8	1	23	中層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
100	441592	R	完	6.9	8.4	0.8	2.4	64	上層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
101	451592	L	完	8.3	12.3	1.8	1.9	100	中層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
102	461592	R	完	4.6	6.7	0.8	1.1	19	中層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
103	471592	R	完	7.8	12.2	1.9	2.4	104	中層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
104	481592	R	完	6.9	10	0.9	1.7	50	中層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
105	491592	R	完	5.3	7.4	1.4	1.2	27	中層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
106	501592	R	完	7.1	9.2	1.1	3.3	63	中層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
107	511592	R	完	5.1	7.2	1.3	2.4	21	中層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
108	521592	L	完	5.4	8	1	1.5	33	中層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
109	531592	L	完	6.8	9.1	1.1	1.3	30	中層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
110	541592	R	完	7.2	8.6	1.2	3.1	88	中層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
111	551592	R	完	5.1	6.4	1.5	2.5	25	中層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
112	561592	L	完	6	7.6	1.8	2.7	31	中層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
113	571592	R	完	4.1	5.7	0.7	0.8	12	上層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
114	581592	R	完	4.9	6.8	1.1	2.7	20	中層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
115	591592	R	完	4.1	7.4	0.6	1.5	20	中層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
116	601592	L	完	4	5.7	0.8	0.6	12	中層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
117	611592	R	完	4.6	6.1	1.1	3.3	18	上層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
118	621592	L	完	4.1	6.2	0.6	1.5	20	中層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
119	631592	L	完	6.1	8.7	1.8	2.4	44	上層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
120	641592	L	完	5.3	7.2	0.8	1.5	22	中層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
121	651592	R	完	4	5.3	1.3	1.6	10	上層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
122	661592	L	完	4	5.1	1.1	1	12	中層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
123	671592	R	完	4.4	2.8	1.8	1.1	22	中層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
124	701597	R	完	5.4	7.3	0.8	1	24	上層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
125	711592	L	完	4.4	6.4	1.1	1.1	19	中層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
126	721597	L	完	4.8	7.1	1.1	1.1	18	中層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
127	731597	R	完	5.4	7.8	1	1.1	26	中層	凹陥	裏	内	内	属化△	階級中	019	S12	V	S808	16598	01598
128	741592	R	完	4.5	6.3	1.1	1.9	16	上層	凹陥	裏										





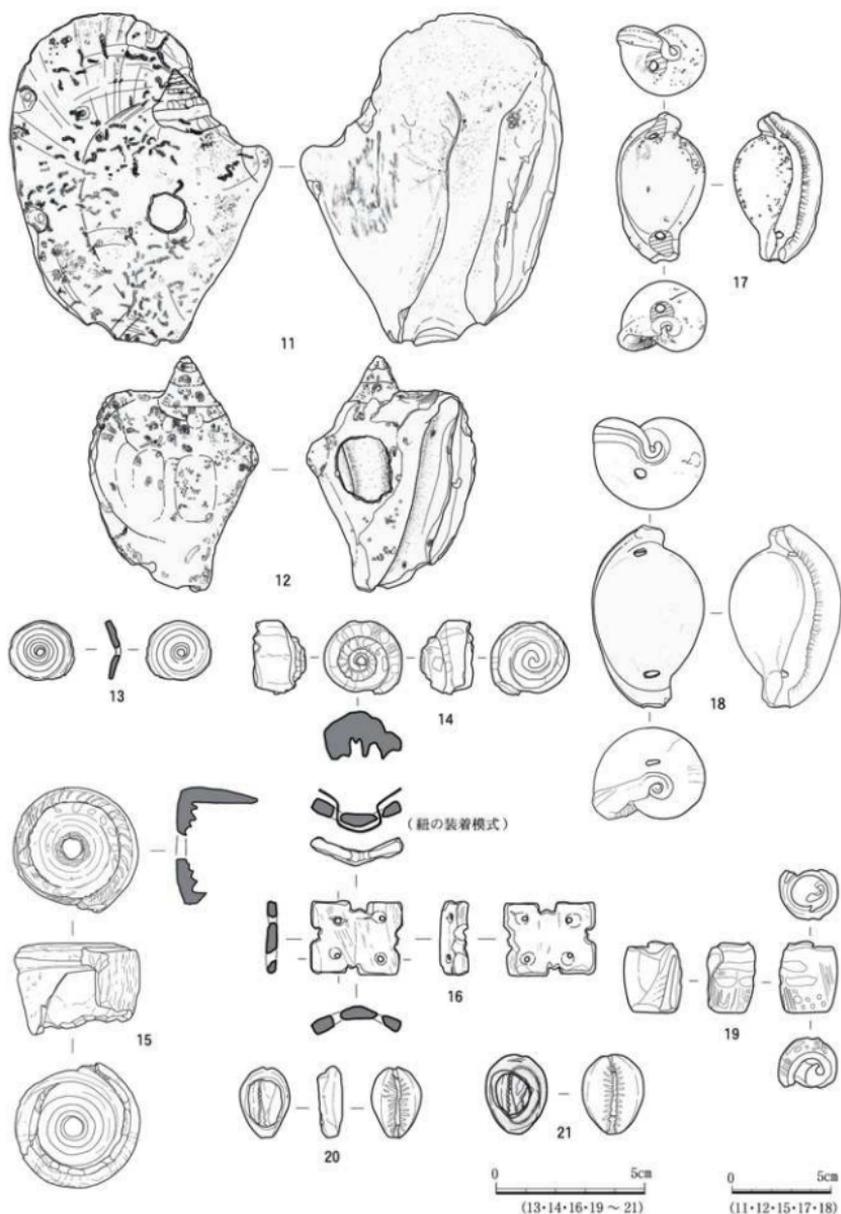




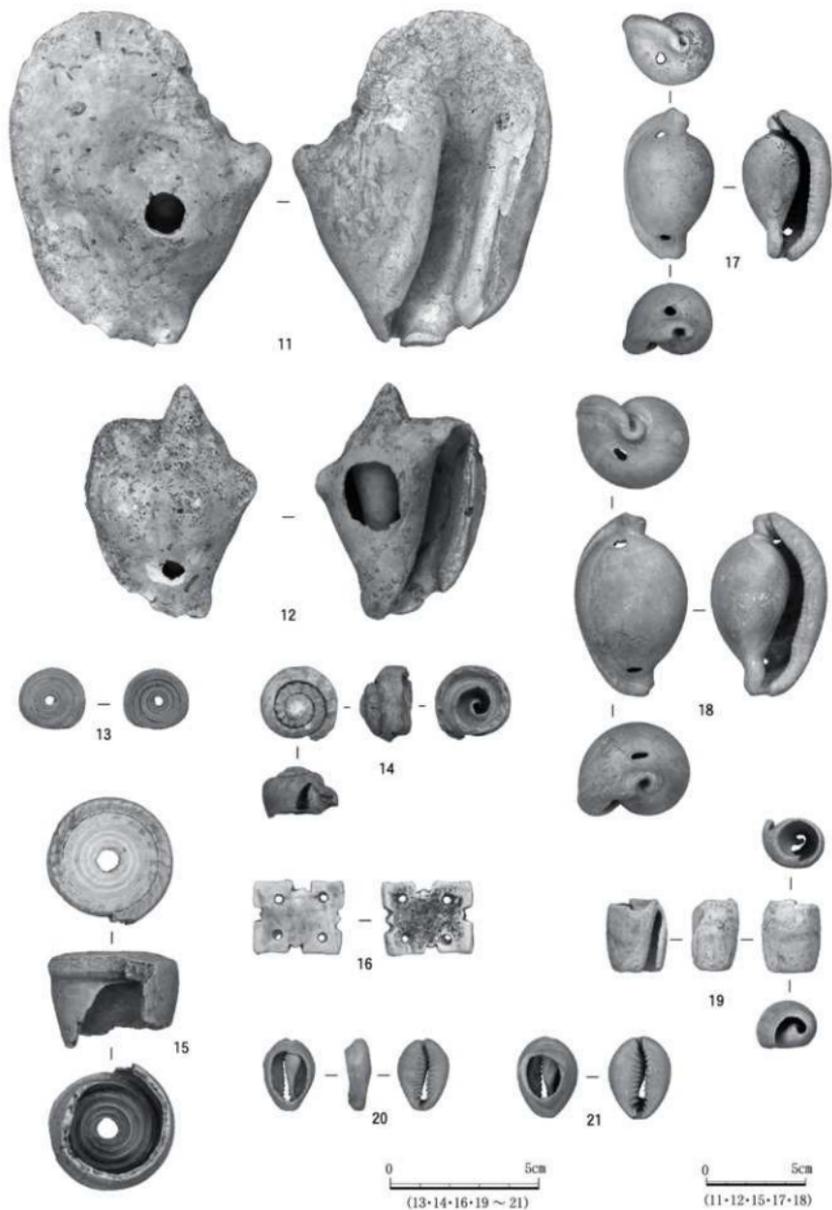
第78圖 貝製品 1



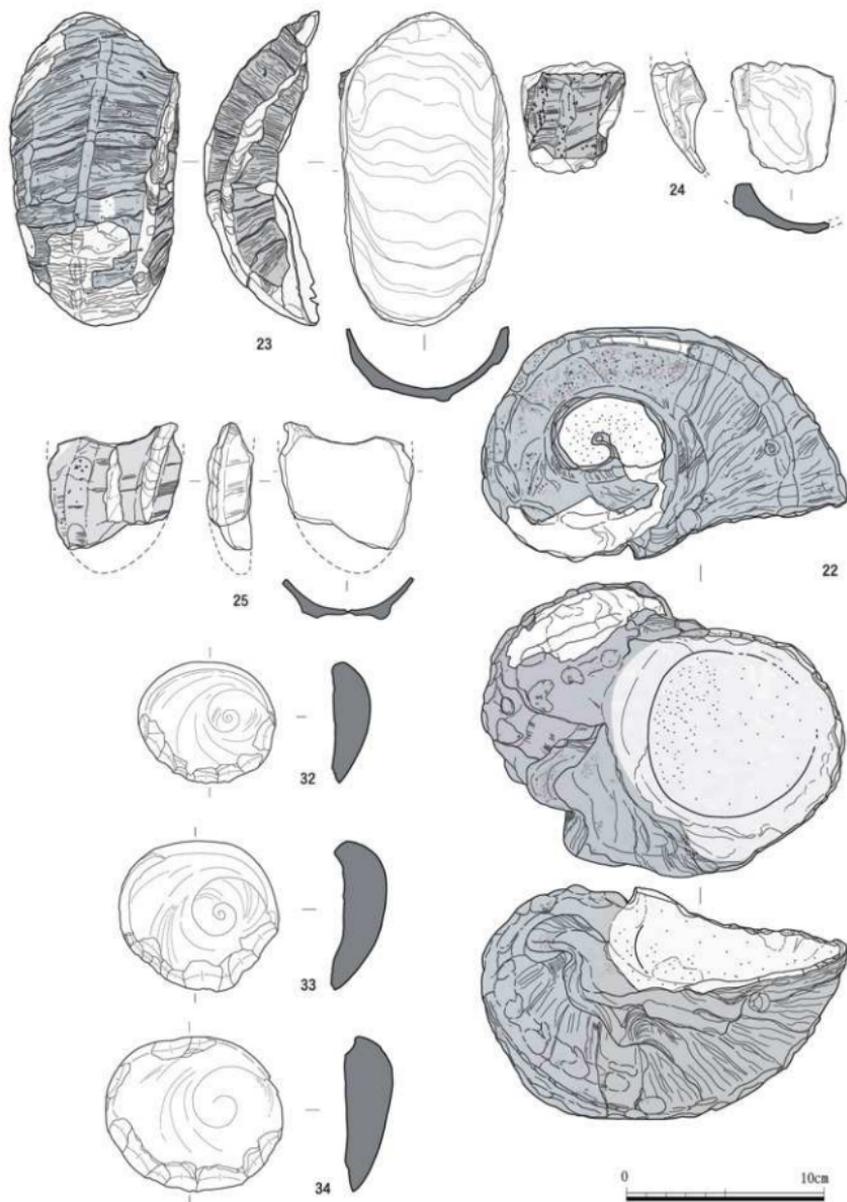
図版61 貝製品 1



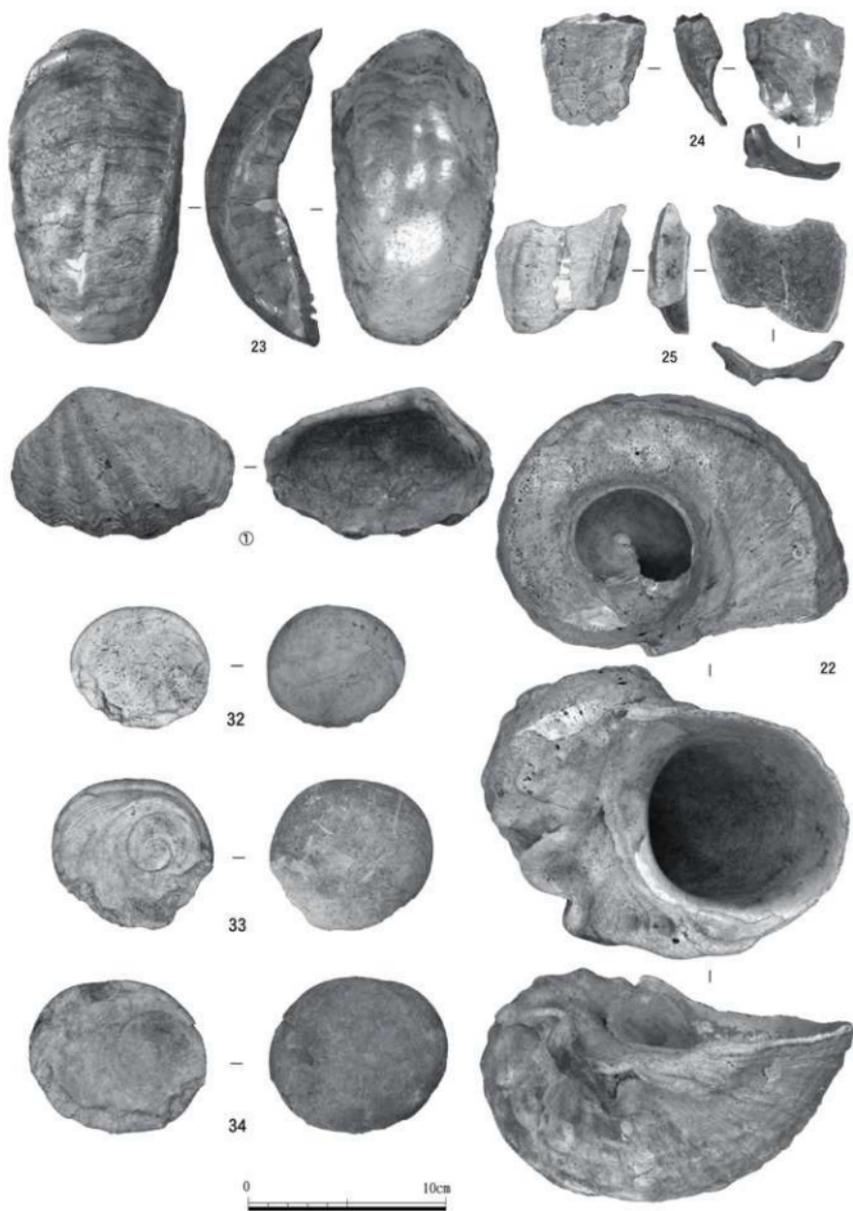
第79図 貝製品2



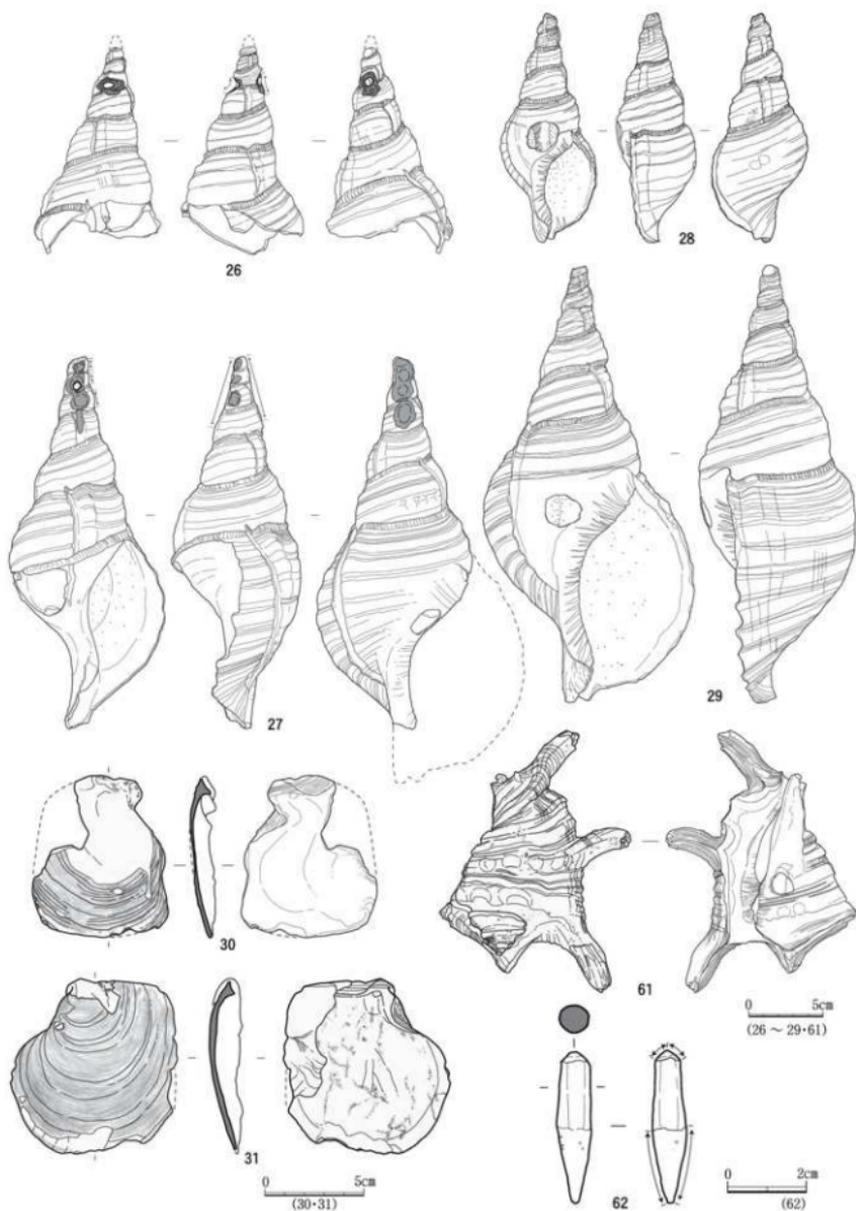
図版62 貝製品2



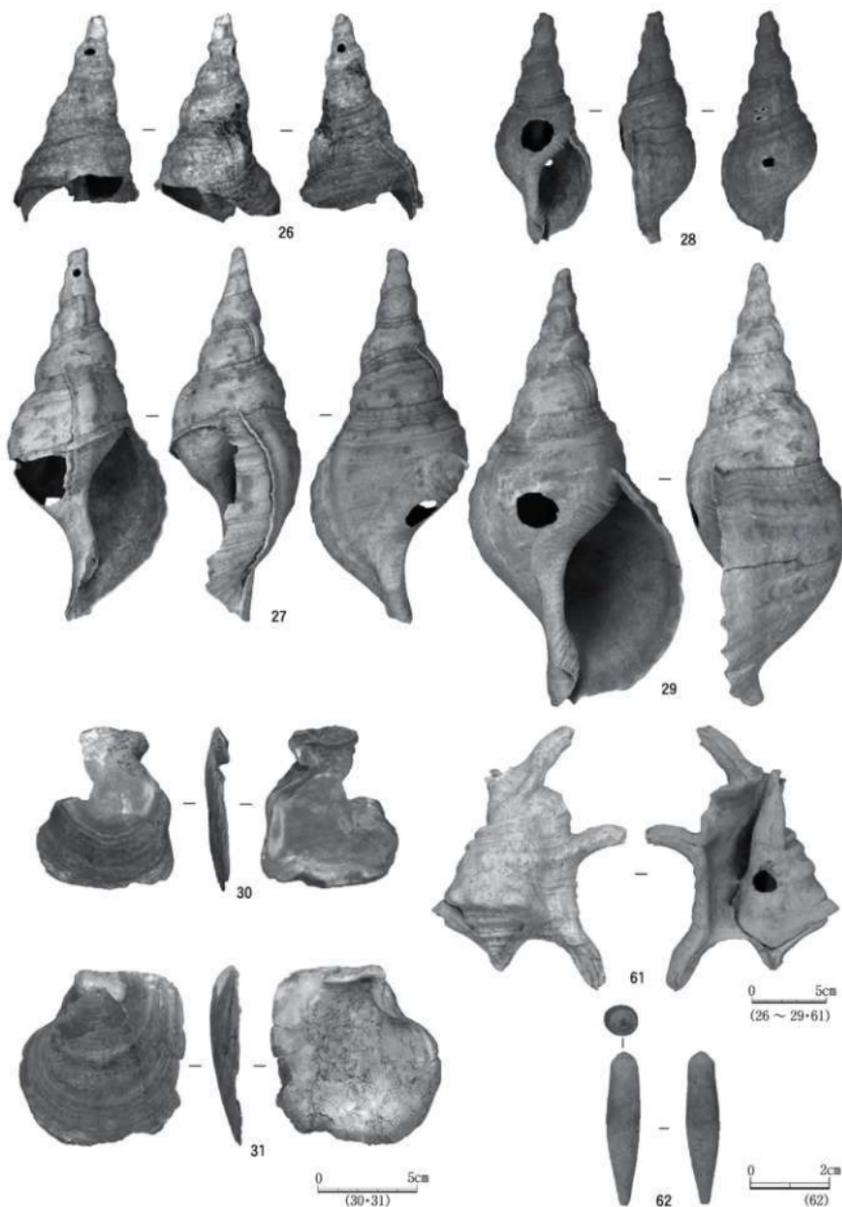
第80圖 貝製品 3



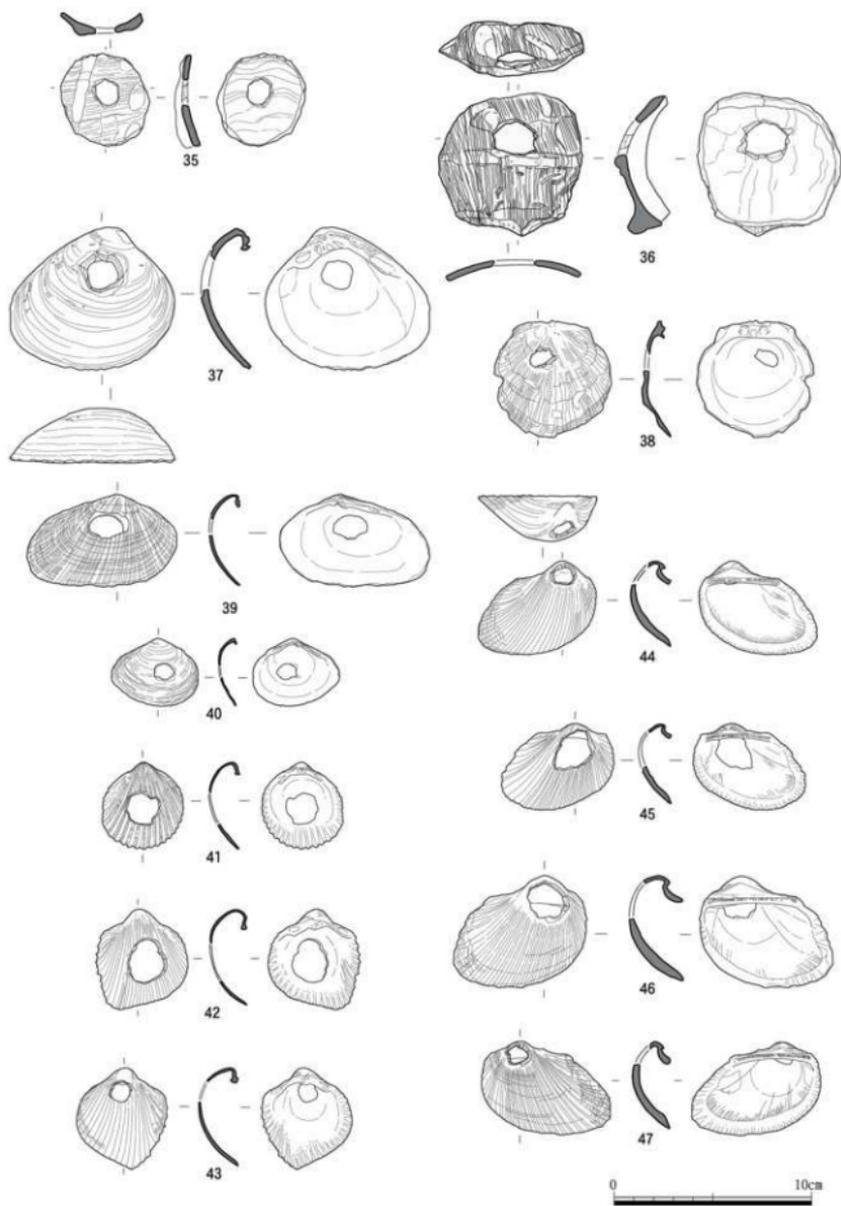
図版63 貝製品 3



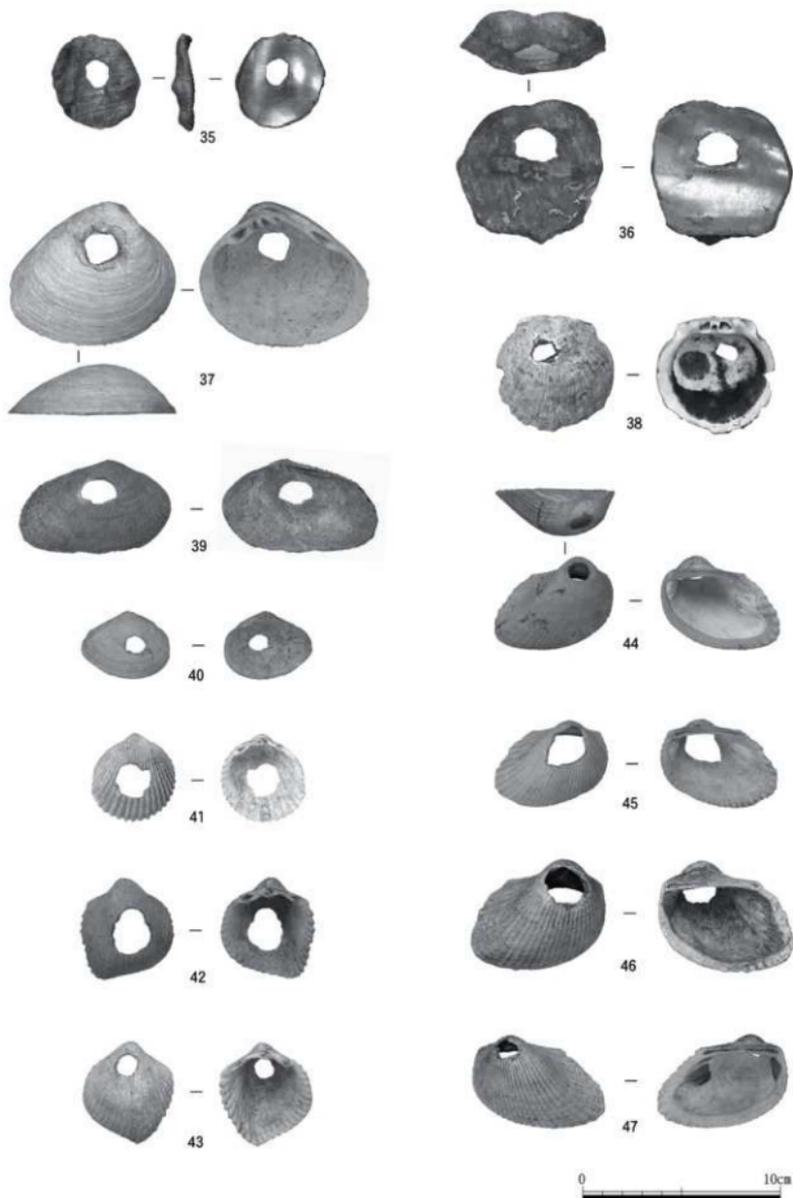
第81圖 貝製品 4



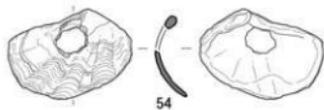
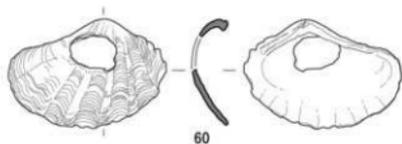
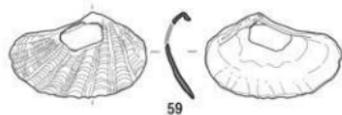
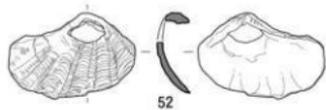
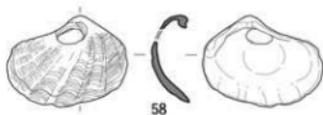
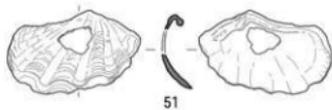
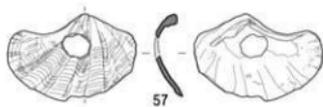
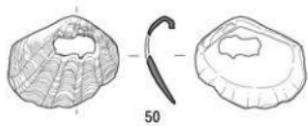
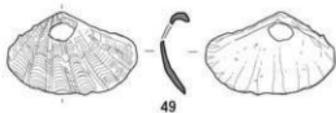
図版64 貝製品4



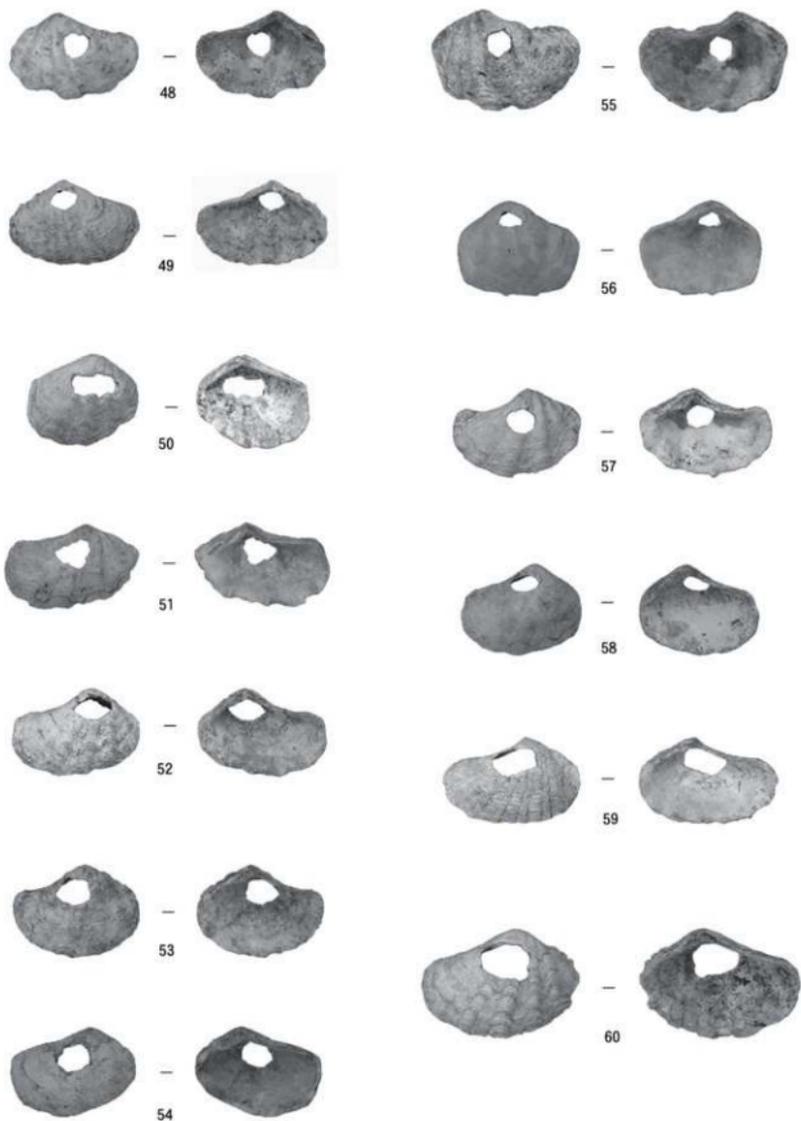
第82圖 貝製品 5



図版65 貝製品 5



第83圖 貝製品6



図版66 貝製品6

#### (4) 骨製品

8点出土したが、用途が明瞭なものはヘラ状製品のみで、他は加工途中の可能性が高いため骨の種類でまとめた。ヘラ状製品4点、ジュゴン加工品1点、クジラ加工品1点、ウミガメ加工品2点の出土である。出土地をみるとH19地区で6点、イ・ハ地区でそれぞれ1点の出土である。

層別にみると第Ⅲ層で1点、第Ⅲ層遺構(ピット)で3点、第Ⅳ層2点、第Ⅴ層で1点、不明1点の出土である。第Ⅲ層及びその遺構出土ものは土器などと同様、混ざり込みの可能性が高い。

ヘラ状製品はイノシシ四肢骨を縦位に裂き、ヘラ状にしたもので先端部1点、軸部3点得られた、主に半裁面の研磨が顕著である。図1は先端部でやや丸みを帯びるものであるが、側面も破損し、大きさは不明である。H19地区第Ⅳ層の出土である。

軸部は図2～4の3点で、図3は横断面が丸く、加工も下端に徐々に細くなることからポイント状を呈する。骨質もイノシシ骨よりはやや軟質を呈するが、明瞭でないため一応ここに分けた。

図5～図8は海獣骨で、図5はジュゴン、図6はクジラ、図7・8はウミガメ類と考えられるものである。加工途中あるいは加工が明瞭でなく、種類ごとにまとめた。図5はジュゴン肋骨の近位部～遠位部あるもので、湾曲する外面を部分研磨し、遠位側を大きく剥離するものである。肋骨の横断面の最大径は2.2×1.7cmを測り、ジュゴンとしては細身である。研磨のみで用途は不明。

図6はクジラの肋骨を縦位に切り取り、方形状に加工したもので、曲面から復元すると直径6.8cmと想定される。下端には「U」字状の抉りが確認される。図7と8はウミガメの骨と思われるが、後者はやや化石化して重い。図7は棒状に加工され、片側はやや細くなり尖るものと思われる。断面は横楕円を呈することからポイント状の製品が想定される。図8もやはり棒状を呈するが、骨の加工はあまり明瞭でない。横断面は三角形を呈することから、ウミガメの烏甲骨と思われる。

第34表 骨製品出土量

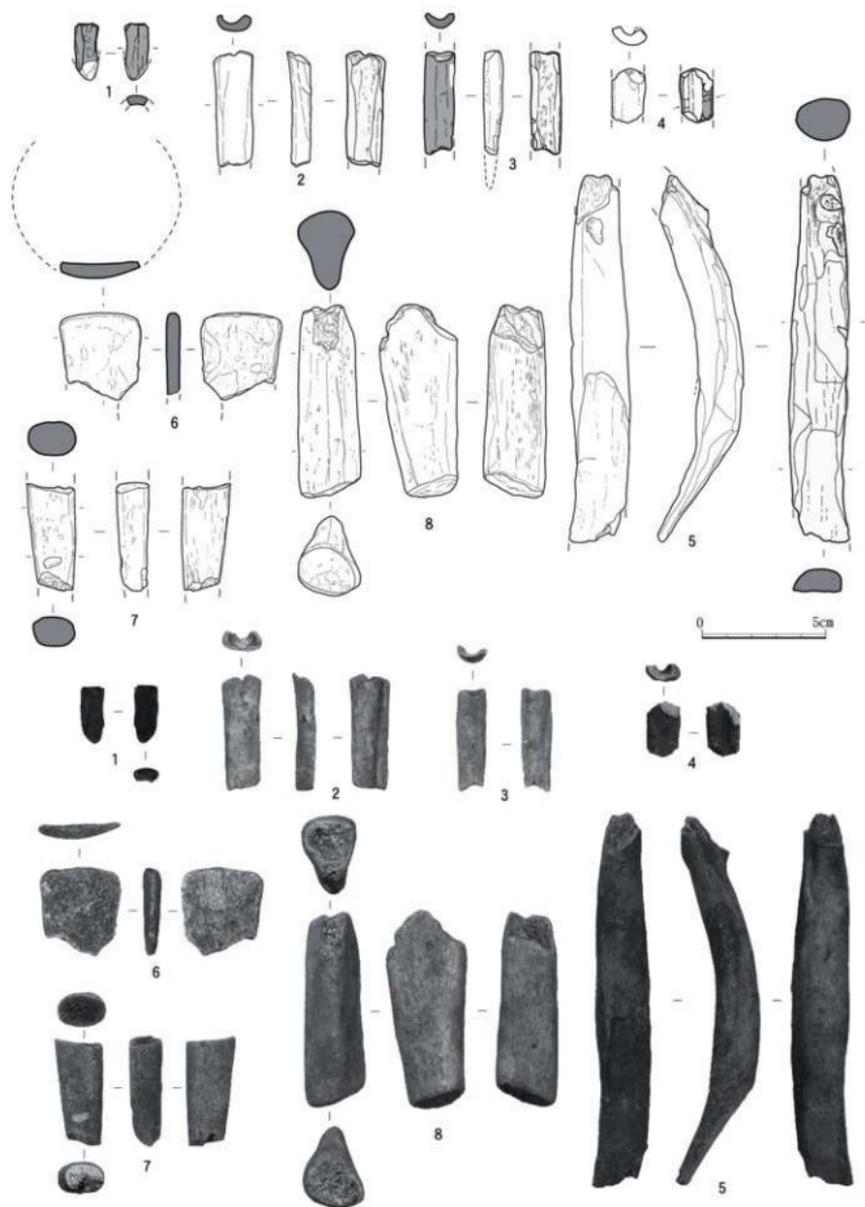
地区	層位	分類		ジュゴン	クジラ	ウミガメ	合計
		ヘラ状製品 先端部	軸部				
H19	Ⅲ		1				1
	Ⅲ 遺構			1		1	2
	Ⅳ	1	1				2
	Ⅴ		1				1
	イ	不					1
ハ	Ⅲ 遺構				1		1
合計		1	3	1	1	2	8

第35表 骨製品観察一覧

(法量単位: cm, g)

図版 番号	図 番号	製品	部位	残存	長さ	幅	厚さ	重さ	観察事項	地区	小ケラド層 遺構 台帳番号
第 84 図 ・ 図 版 67	1	ヘラ状製品 先端部	四肢骨	破	△2.35	0.95	0.40	1.40	光沢有、先端丸み、半裁面は研磨	H19	Ⅳ
	2	ヘラ状製品 軸部	四肢骨	破	△4.75	1.45	0.35	3.70	半裁し、板状、研磨は雑。	H19	S15 Ⅲ 台2942
	3	ヘラ状製品 軸部	四肢骨	破	△4.25	1.20	0.40	2.20	研磨顕著、断面丸く、下端に斜めに研 磨、ポイントかウイノシシではないか も。	H19	S12 Ⅴ 取537 台2920
	4	ヘラ状製品 軸部	四肢骨	破	△2.20	1.35	0.45	1.20	半裁部分は、研磨加工無。幅0.2の「U」 字状の溝、斜めに入れる骨体、機骨半 裁面研磨	H19	T14 Ⅳ 台2581
	5	ジュゴン 未製品	肋骨	破	14.90	2.20	1.70	44.72	近位～遠位部で自然面が多い。遠位部 の外縁研磨、内縁剥離。	H19	S14 Ⅲ P10 台4221
	6	クジラ 未製品	肋骨	破	△3.60	3.30	0.60	4.44	板状、隅丸方形、断面丸味、内外面や や研磨。下端に曲状加工	ハ	Q12 Ⅲ P75 台1005
	7	ウミガメ 棒状	烏甲骨?	破	△4.50	1.95	1.35	8.70	棒状、両端欠、裏面は海綿露出。下端 細くなる。ポイント状	イ	Aレゾ 台975
	8	ウミガメ 未製品	烏甲骨?	破	7.70	2.20	3.15	56.54	棒状か、両端摩耗、石灰化、製品?	H19	T14 Ⅲ P26 台4229

(凡例: △=残存長)



第84圖・図版67 骨製品

## (5) 土製品

土製品は2点出土した。土器の破片を利用し円形に二次加工した資料である。図1は、ほぼ正円を呈し断面の厚さは9mmである。表面に文様はなく裏面にも器面調整の痕跡は確認できない。表裏面には焼成された痕跡が窺えるが側面にはみられず正円にする為、周縁を擦ったと考えられる。胎土は泥質で数種類の混入物が観察され後期土器の様相を呈す。

図2は、土器破片の周縁を細かく打ち割るがいびつな形状を呈し角が残る。表面に文様はなく裏面にも器面調整痕は認められない。器面の色調は全体に表面が黄褐色で部分的に黒色、赤褐色に焼け、裏面は茶褐色を呈す。胎土は砂質で細かい混入物と雲母、長石が含まれる。浜屋原式土器の破片と推測される。土製品は本町周辺の遺跡でも出土し、伊礼原D遺跡(2013)出土の土製品と比較すると今回の資料は若干小さい。又、伊礼原E遺跡(2010)出土の土製品とは大きさ、資料の状態から目的の違うものと推測される。図1、2の資料とも計測値は同程度のサイズを示す。

第36表 土製品観察一覧

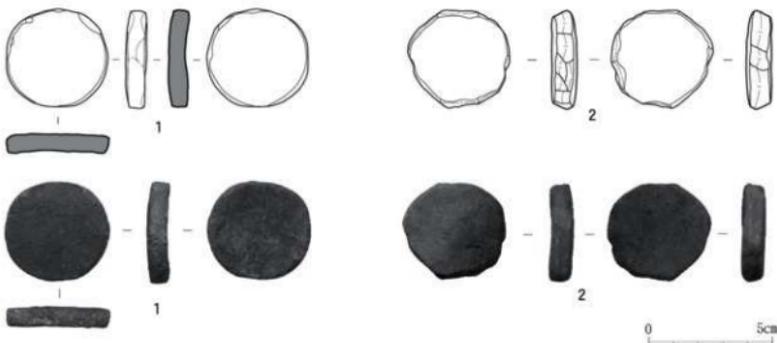
第図 図版	図番 号	形状	器種	部位	文 様		計 測 値 (cm / g)				地区	小グリッド層	台帳番号		
					外面	内面	縦	横	厚	重さ					
図第 版85 68図	1	正円	土器	胴部	—	—	4.0	4.1	0.9	17.2	H19	C1層	一括	白砂層	台3224
	2	角あり	土器	胴部	—	—	4.0	4.1	1.0	19.3	二	—	IV層	清掃時一括	台1695

### <参考文献>

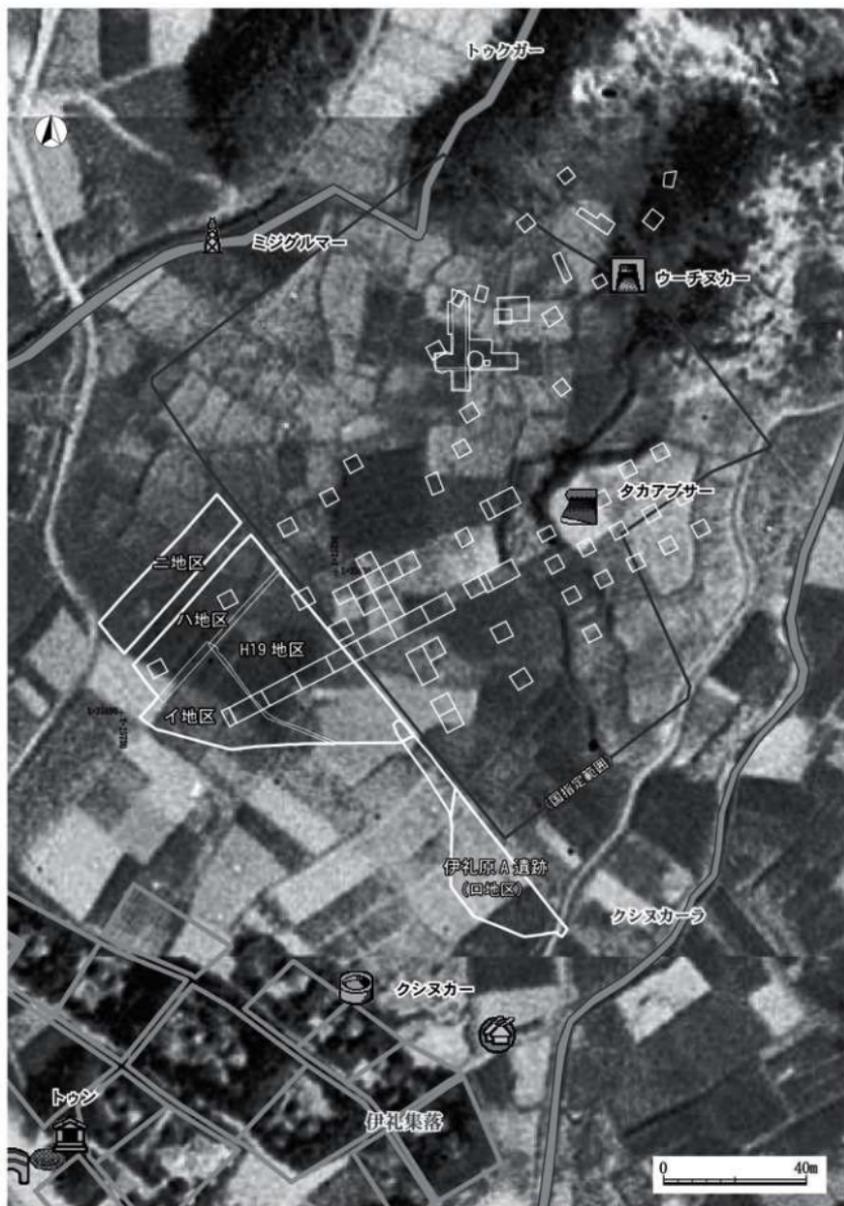
伊仙町埋蔵文化財発掘調査報告書(2)1984 大田布貝塚 鹿児島県大島郡伊仙町教育委員会

沖縄県北谷町教育委員会 2010『伊礼原E遺跡』北谷町文化財調査報告書第31集

沖縄県北谷町教育委員会 2013『伊礼原D遺跡』北谷町文化財調査報告書第35集



第85図・図版68 土製品



図版69 1945年頃の伊礼原遺跡周辺図（『北谷町の地名』を一部抜粋・加筆）

## 第4節 グスク時代

### 1. 遺構

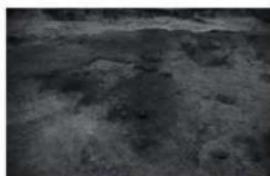
グスク時代の遺構は第Ⅲ層において検出された溝状遺構(SD):8・ピット(P・SP):1010・土坑(SK):56・用途不明遺構(SX):4・土坑墓:1・サンゴ礫集中部:1ヶ所である。特徴的な遺構として青磁皿出土土坑、人骨出土土坑、土坑墓、サンゴ礫集中部が挙げられる。以下、遺構の種類ごとに概略し、個々の特徴は観察表に譲る。なお、遺構内より貝塚時代後期の遺物が出土するのは当時の掘削による混ざり込みと考えられ、近世以降の遺物が出土するのは調査時の混ざり込みと考えられる。

#### (1) 溝状遺構

溝状遺構は6ヶ所確認できた。A18～A16に伸びる1-SD01とN14・15に伸びる2-SD06は近くに掘立柱建物想定プランの組める柱穴が広がることから、屋敷囲い溝の可能性も考えられる。

第37表 溝状遺構観察一覧

遺構名	F・S 計	サイズ(m)			方位	遺物	備考
		長径	短径	深さ			
1-SD01	A17 A18 B18	7.5	1.2	0.2	南～北	土器(胴IV類B・胴II類・口II類・底乳)・青磁碗(11)・貝	ほぼ南北に直線的に伸びる。A18で西側(南側)に60cm幅の溝が枝状に接続する。B18あたりで、埋土も薄い灰色になり、浅くなって消える。
1-SD06	S16 S17 T16 T17	13.5	1.2	0.3	南～北	土器(胴IV類A)・歌骨・貝	1-SD01に近い土質。北谷町の行なった試験トレンチ(2007)に切り抜詳細は不明だが、南側で1-SD01に接続するようである。北側は1-SD03(近世以降)に切られている。
1-SD09	T11 T12	5.11	0.85	0.2	東～西	土器(胴IV類A・胴IV類B・胴IV類C・胴IV類・底乳)・白磁皿(口)・髹輪陶器(婁底・意胴(第115図20))・貝・歌骨	イ地区北側で東西方向に伸びる形で検出された。
2-SD05	L11 L11	5.04	0.38	0.12	南～北	土器(胴IV類C・胴IV類・口IV類・口VI類・底乳)・歌骨	南北に伸びる溝状遺構。L11途中で切れる。
2-SD06	N14 N15	13	1.2	0.12	南～北	土器(胴IV類A・胴IV類B・胴IV類C・口II類)・歌骨	ハ地区東端で検出。東壁で「く」字状に折れる。
2-SD07	O12 P13	2.31	0.62	0.2	西北西   東南東	土器(胴IV類面・胴IV類C・胴IV類)・青磁(碗口・皿口)・髹輪陶器(婁底)・歌骨	O12とP13の間が攪乱により途切れる。
2-SD08	S8 T8	2.27	0.91	0.21	南西   北東	土器(胴IV類面)・染付(碗・鉢口・碗底)・髹輪陶器(意胴)・焼土・貝製品(1779(貝墓))・歌骨	S8方向(東側)に延びる。西側は攪乱により消失。
2-SD10	S8 S9	2.49	0.9	0.17	南西   北東	土器(胴IV類面・胴IV類C)・青磁碗(口・底)・白磁皿(第106図30)・髹輪陶器(婁口・胴)・歌骨	SD08に繋がる溝か。



1-SD01検出状況(南から)



1-SD01 Bの断面(北から)



1-SD01 Cの断面(北から)



1-SD06断面

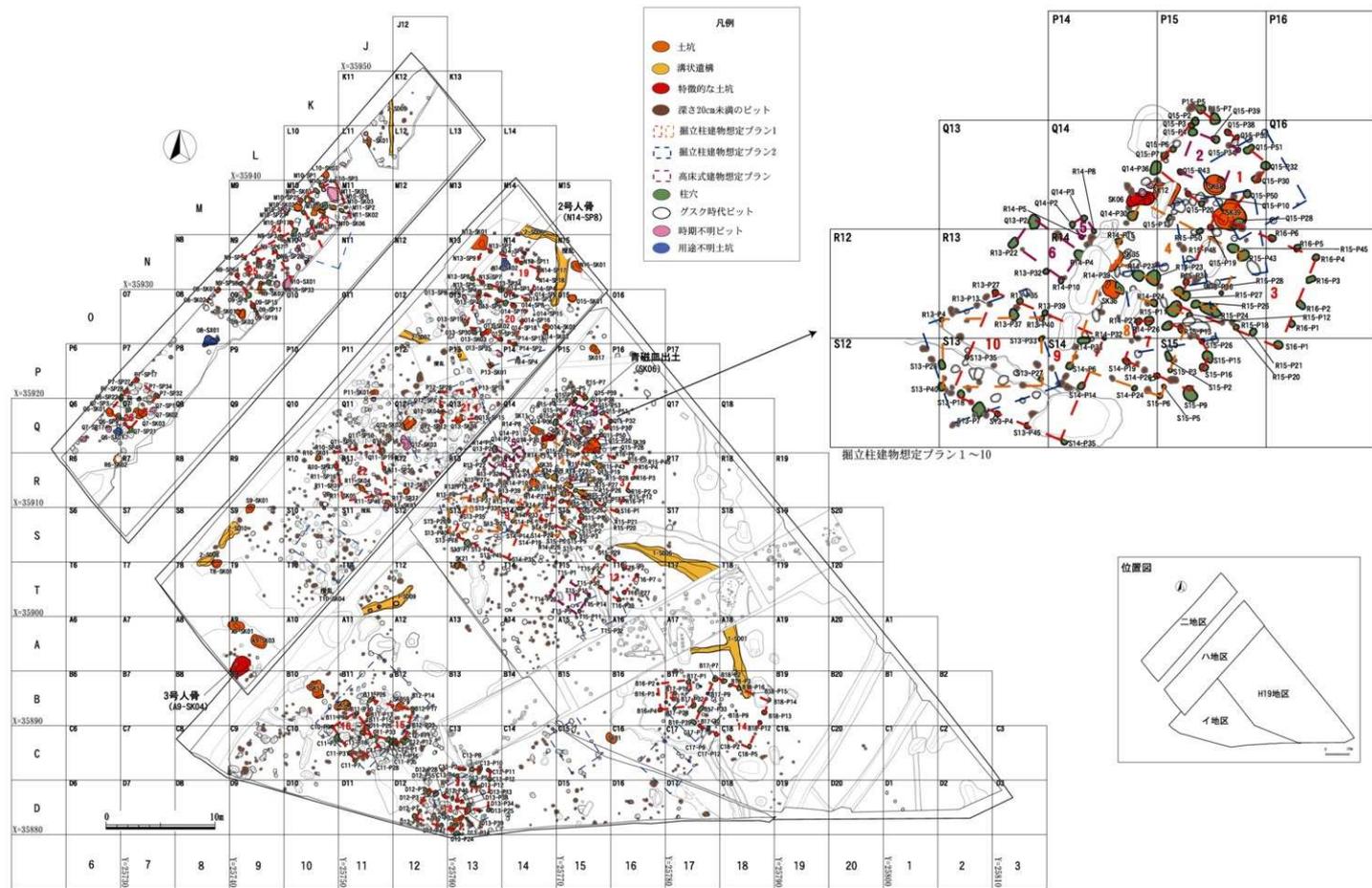


2-SD06土層断面(南から)



2-SD08・T8-SK01土層断面(北東から)

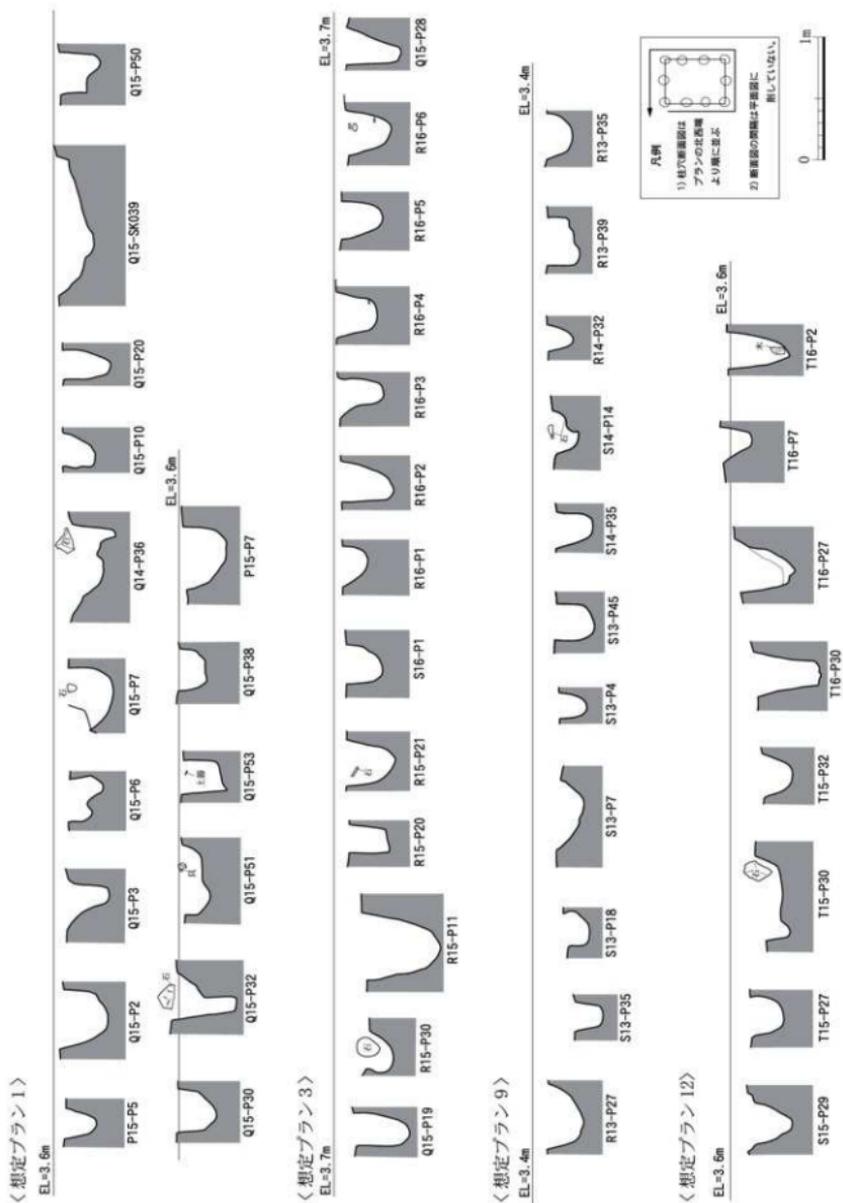
図版70 溝状遺構検出状況



第86図 第Ⅲ層検出遺構



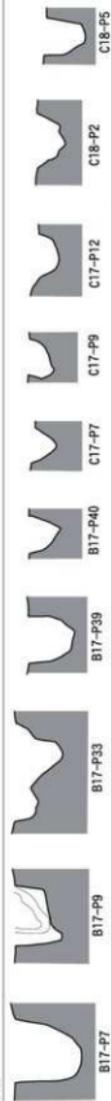




第87図 グスク時代柱穴断面1 (想定プラン1・3・9・12)

〈想定プラン 14〉

EL=3.7m



EL=3.7m

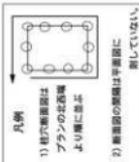
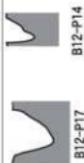


〈想定プラン 15〉

EL=3.0m

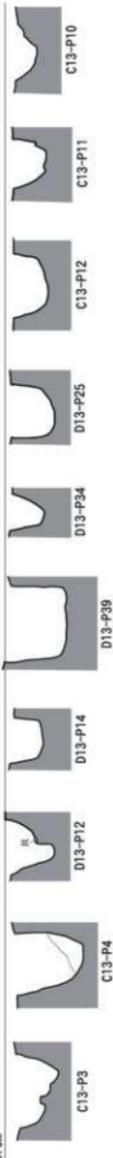


EL=3.0m

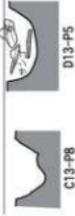


〈想定プラン 17〉

EL=3.0m

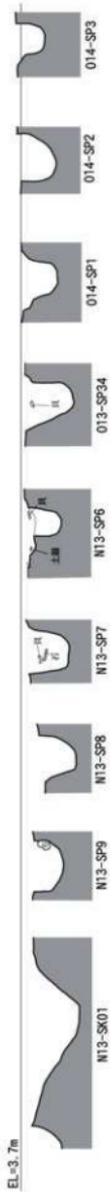


EL=3.0m



第88図 グスク時代柱穴断面2 (想定プラン14・15・17)

〈想定プラン19〉



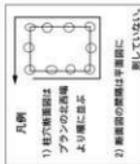
EL=3.7m



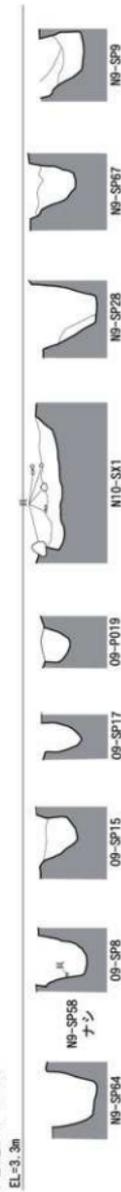
〈想定プラン20〉



EL=3.7m



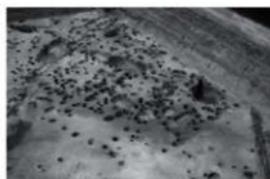
〈想定プラン25〉



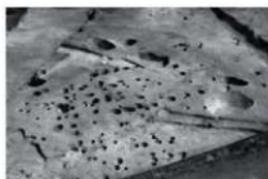
EL=3.3m



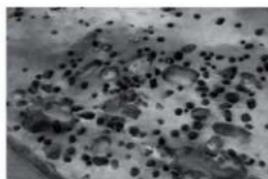
第89図 グスク時代柱穴断面3 (想定プラン19・20・25)



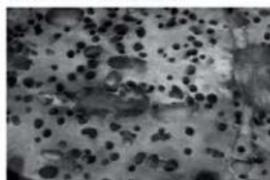
H19 調査区北側(東から)



B18 周辺(西から)



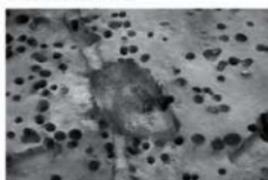
Q15 周辺(北から)



R14 周辺(北から)



R15 周辺(西から)



S14 周辺(北から)



T13 周辺(北から)



イ地区完掘状況(南西から)



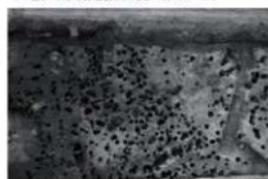
イ地区南端完掘状況(西から)



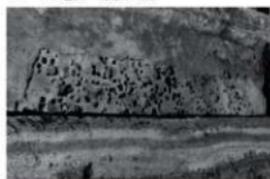
ニ・ハ地区(南から)



ハ地区北側(南から)



ハ地区中央(東から)



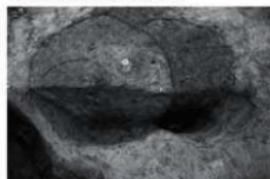
ニ地区完掘状況(北から)



ニ地区中央(西から)



S15-P2



Q7-SP12・13(北から)



Q7-SP23がQ6-SP11(弥生)を切る



P16-P12

図版71 柱穴・ピット検出状況

### (3) 土坑

土坑は56ヶ所検出された。平面形は楕円が多く、断面形は不定形が多いが二段状、楕円などもあった。深さは6cm～103cmまで幅があり、中でも50～60cmがやや多めである。埋土は黒色砂で微細貝や炭が混ざることが多い。A9-SK01・03・04以外は掘立柱建物想定プランの周辺やピット群に混在して検出されていることから、柱穴の可能性は高いと思われ、特にM10-SK01は底面に敷石があり(図版72)、東西にSK05・03・02と底面に敷石を持つSP6が並び1本の軸を呈するので、大型の掘立柱建物の存在が推測されるが、米軍基地建設に伴う攪乱範囲に広がっているため詳細は不明である。なお、青磁皿出土土坑と人骨出土土坑については項目を改めて報告する。

第41表 土坑観察一覧

遺構名 (ブツID含む)	サイズ (cm)			平面 形状	断面 形状	遺物	概要説明
	長軸	短軸	深さ				
A9-SK01	154	66	56	*楕円	有段状	土器(ⅢⅣ類・ⅢⅣ類)	甲
A9-SK03	158	107	56	*円	U		
A9-SK04	208	156	64	楕円	U		
B10-SK52	173	108	108	楕円	有段状	白磁皿(第106図19)・土器(ⅢⅣ類B・C・ⅢⅣ類・ⅢⅣ類C・ⅢⅣ類)・人骨・青磁碗(Ⅲ)・陶質土器(Ⅲ)・自然貝	A9-SP18(近世)とA9-SP19(ダスク)の一部切られる
B10-SK54	158	74	85	楕円	不定	土器・土器(ⅢⅣ類・ⅢⅣ類)・自然貝	大層で非常に深い。南北に二箇所の中層的な平坦部あり。混じりのない純粋な堆積のため一度に堆積したと思われる。
B12-SK59	85	57	11	楕円	皿	青磁碗(第100図32)・木陶(Ⅲ)・軽石・自然貝・軟骨	B12-P3(ダスク)に切られる
C16-SK01	110	109	60	方	U	二枚貝有孔製品(977)・第82図43)・土器細片	
L10-SK01	60	60	46	不明	二段状	土器(ⅢⅣ類A)・自然貝	二地区北壁にかかると
L11-SK01	104	54	16	不明	有段状	無	後世の建物に切られる
M10-SK01	82	69	25	楕円	有段状	自然貝(977)・土器細片	大型の平石が出土。シラナヒは風化がすすむ
M10-SK02	77	76	41	楕円	有段状	自然貝	二地区北壁の一部かかると
M10-SK03	60	47	30	楕円	有段状	土器細片・青磁碗(Ⅲ)・軟骨	黒褐色砂質土層/サンゴ礁・少量の炭化物
M10-SK05	111	63	41	長方	進台形	I：自然貝・土器細片 II：自然貝	やや縮まりのある黒褐色砂質層/赤色粒子・炭化物
M10-SK06	67	33	22	楕円	有段状	土器(ⅢⅣ類C)・自然貝	白砂と黒色砂が均等に混じりあう
M11-SK01	70	17	14	不明	皿	自然貝	層別明確。M10-SP6(ダスク)に切られる
M13-SK01	158	107	40	不明	ナリ鉢	土器(Ⅲ)・陶輪陶器(Ⅲ～Ⅳ)・焼土・青磁碗(第99図18)	ほとんどが後世の建物に切られる
N15-SK01	128	82	25	不明	W	土器(ⅢⅣ類C・ⅢⅣ類)・二枚貝有孔製品(977)・自然貝	六地区北壁にかかると
N9-SK02	100	37	28	楕円	U	土器(ⅢⅣ類C)・焼土	09-SP9(近世以降)に切られる
013-SK02	112	41	20	楕円	有段状	土器(ⅢⅣ類)	013-SK03に切られる
013-SK03	65	20	27	楕円	V	無	013-SK02を切る
014-SK02	63	54	44	楕円	U	土器(ⅢⅣ類B・C・ⅢⅣ類)・二枚貝有孔製品(977)・青製品(第124図4)・自然貝	
014-SK03	50	44	6	楕円	不定	無	
015-SK01	80	75	18	楕円	有段状	土器(ⅢⅣ類A・B)・自然貝	
08-SK01	57	40	32	不明	U	土器(ⅢⅣ類B・C・ⅢⅣ類)・染付皿(第110図24)	二地区北壁にかかると
08-SK02	42	21	32	(円)	不定	自然貝	08-SP26(ダスク)に切られる
09-SK01	51	48	35	楕円	不定	土器(ⅢⅣ類)	09-SK02に切られる
09-SK02	97	62	28	不明	有段状	無	鉄分が沈着し、明褐色を呈す箇所あり。白砂がブロッカ状に入る
P11-SK01	72	44	40	楕円	有段状	土器(ⅢⅣ類B・C・ⅢⅣ類)・二枚貝有孔製品(977)・自然貝	P11-P5(近世)に切られる
P13-SK01	68	57	20	不明	ナリ鉢	自然貝	後世の建物により大半が消滅。2-S007の一部か
P15-SK17	110	70	49	楕円	二段状	土器(ⅢⅣ類)・軟骨・軽石・自然貝	II：柱礎 III：掘り方の層
Q12-SK02	142	96	37	楕円	不定	土器(ⅢⅣ類)	Q12-SP54(近世)に切られる
Q12-SK03	145	55	43	楕円	W	土器(ⅢⅣ類)	
Q12-SK04	111	48	37	楕円	有段状	土器(ⅢⅣ類C・ⅢⅣ類B・ⅢⅣ類)・青磁碗(Ⅲ)・染付皿(第111図40)・白磁皿(第106図22)	Q12-SK05(近世)・SP84(時期不明)に切られる
Q13-SK01	0.1	84	55	楕円	U	陶輪陶器(Ⅲ)	Q13-SP27(近世)・SP69(ダスク)に切られる
Q14-SK11	140	70	13	楕円	皿	二枚貝有孔製品(R-948)・軟骨・軽石	底は平坦。Q14-P31(ダスク)・P32(ダスク)・P39(ダスク)に切られる
Q14-SK12	180	40	53	不明	U	無	米軍爆弾に切られる
Q15-SK38	100	100	18	円	U	土器(ⅢⅣ類C・ⅢⅣ類)・軽石・石灰・自然貝	検出面は黒色砂で下位は砂と粘質土の互層
Q15-SK39	140	140	27	円	有段状	土器(ⅢⅣ類A・B)・青磁碗(Ⅲ)・貝製品(977)・軟骨・軽石	底部：平坦・掘り方：ほぼ垂直
Q6-SK01	82	69	57	不明	U	陶輪陶器(Ⅲ)・土器(ⅢⅣ類)・焼土・青磁碗(Ⅲ)・木皿(Ⅲ)・自然貝	Q15-P27(ダスク)・P28(ダスク)に切られる。西角に深い部分あり
Q7-SK02	77	68	47	楕円	U	青磁皿(Ⅲ)・自然貝	二地区北壁にかかると
Q7-SK03							Q7-SK03を切る

\*：おおよそ 遺物：土器は目録(貝塚時代後期)を省略して示す

遺構名 (グリッド含む)	サイズ (cm)			平面 形状	断面 形状	遺物	概要説明
	長軸	短軸	深さ				
Q7-SK03	108	49	36	円	不定	無	検出面にてサンゴ礁。Q7-SP10 (グスク)・SK02に切られる
R10-SK01	56	50	27	楕円	すり鉢	自然貝	R10-SP4 (グスク) を切る
R11-SK01	—	—	10	楕円	W	土器 (胴IV類C)	R11-SP29 (グスク) に切られる
R11-SK04	40	27	7	*不明	不定	土器 (胴V類C)	R11-SP43 (グスク)・R11-SK05 (グスク) 及び擾乱に切られる
R11-SK05	78	52	20	*楕円	W	土器 (胴III類・IV類ABC)	R11-SP43 (グスク)・R11-SK04 (グスク) を切る。擾乱に切られる
R12-SK01	102	72	19	楕円	すり鉢	自然貝	単
R14-SK35	(100)	(20)	48	不明	不定	自然貝・獣骨	未家擾乱に切られる
R14-SK36	90	80	70	楕円	V	土器 (胴)・獣骨・自然貝	R14-SP39 (グスク) に切られる
R6-SK02	78	54	36	楕円	有段状	無	R6-SP1 (近世)・R7-SP1 (近世) に切られる
S9-SK01	103	71	49	円	U	土器 (胴IV類B・底乳)	
T10-SK04	78	40	8	不定	不定	無	後世の建物と擾乱に切られる
T13-SK21	120	90	46	楕円	有段状	土器細片・獣骨・自然貝	柱の抜き取り痕と思われる部分あり
T8-SK01	94	78	13	楕円	皿	陶磁器・土器 (胴IV類B・胴VI類・口V類)・二枚貝有孔製品・魚・ワラビ・白・自然貝	単

\*: おおよそ ※遺物: 土器はII群 (貝塚時代後期) を省略して示す



M10-SK01 (西から)



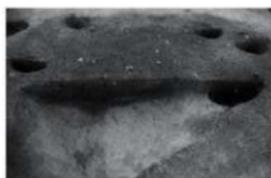
P15-SK17 (東から)



T13-SK21 (北から)



Q7-SK02・03 (南から)



Q15-SK39 (南から)



M10-SK06 (北から)

## 図版72 土坑検出状況

### (4) 用途不明遺構

用途不明遺構はハ・ニ地区で4ヶ所確認された。長径は100cmを超える物が多く短径は70cm前後、深さは24cm～80cmと幅のある、いずれも大型の土坑であるが用途が不明であるため、土坑とは別に報告する。なお、第III層では黒色砂に微細貝や炭が混ざっている様子が多く見られたが、N10-SX01は埋土の様子が違うことと、時期不明ピットに切られる事から近世以降の土坑の可能性もある。

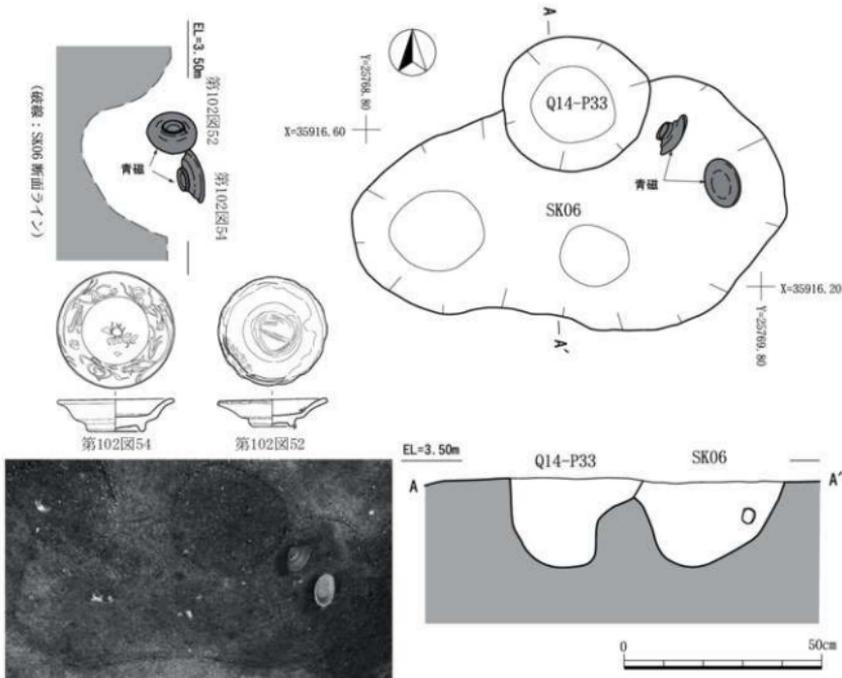
第42表 用途不明遺構観察一覧

遺構名	サイズ (cm)			平面 形状	混入物など	遺物	備考
	長径	短径	深さ				
N14-SX02	134	75	80	楕円形	微細貝片・炭・焼土粒など	土器 (胴IV類C・口V類C)、貝	単・サンプル採取
08-SX01	143	85	28	不整形	黄褐色ブロック、貝片泥、締まる。黒褐色砂質土。にぶい黄褐色粘土混じる。灰黄褐色砂層。	自然貝・土器 (胴IV類A・B・C)、青磁碗 (胴)・鉄	08-SP20 (グスク) を切る
06-SX01	76	74	39	円形	検出面にスポット的な黒褐色砂が見られたが、包含物の残りと思われる。混じりは少ない。	自然貝、青磁、土器 (胴)	Q7-SP20 (グスク) を切る
N10-SX01	148	60	24	不整形	微細貝片、オリーブ色土ブロックが混じる。やや締まりあり。	土器 (胴IV類A・B・C・V類ウ)、獣骨 (ウミガメ・イノシシ)	N10-SP33 (不明) に切られる

※遺物: 土器はII群 (貝塚時代後期) を省略して示す

### (5) 青磁皿出土土坑

長軸1.30m短軸0.5m深さ0.21mの楕円形を呈する土坑(Q14-SK06)の第Ⅲ層(黒色砂層)より青磁皿が2枚出土した(第102図・図版82)。皿は15世紀頃に製作された稜花皿と外反皿の完形品で内面には草花文が施される。稜花皿は見込みが上向けで外反皿は横倒して半分埋まった状態で検出された。下図では青磁皿の見通し断面図とSK06の断面図を重ね、皿の配置を理解する一助としたい。



図版73 青磁皿出土状況

第90図 青磁皿出土状況

### (6) 人骨出土土坑

土坑墓(N14-SP8) 長軸49cm短軸43cm深さ6cmのほぼ円形を呈する土坑から未成人骨が出土した。体全体を東側に向け(推定頭位は北)膝を曲げた状態で、腹部周辺には手の指骨、足先には趾骨が確認できるほど保存状態は良好であった。人骨についての詳細は第Ⅳ章第3節に土肥直美先生より報告されており、1歳未満の乳児との事であった。解剖学的位置を保った横臥屈葬であるため埋葬されたと考えられる。土坑墓周辺には柱穴や深さ20cm未満のピット(第91図(灰線で表示))が並ぶ。沖縄県内において死産児・乳児は胎衣と同様に裏庭(家の後方)に埋められたと市町村史(誌)等で報告されており、また、平敷令治先生によると『死産児を家の後ろの雨垂れの所に埋める習俗は大正年間まで続いた』(註)そうである。ピット群と乳児埋葬土坑墓の時期が整理できれば民俗事例の実例になると思われる。なお、当遺跡南西側に位置する小堀原遺跡(2009)ではピットに切られた1号土坑墓から乳児骨(頭位南・仰臥屈肢葬:生後6ヶ月以内)が出土している。

A9-SK04では長軸208cm短軸156cm深さ67cmの平面形状は楕円を呈する土坑より成人女性の大腿骨(右)が、白磁(第106図19)・青磁・獣骨(ウシ・ウシorウマ・イノシシ)を含む第Ⅲ層下層より出

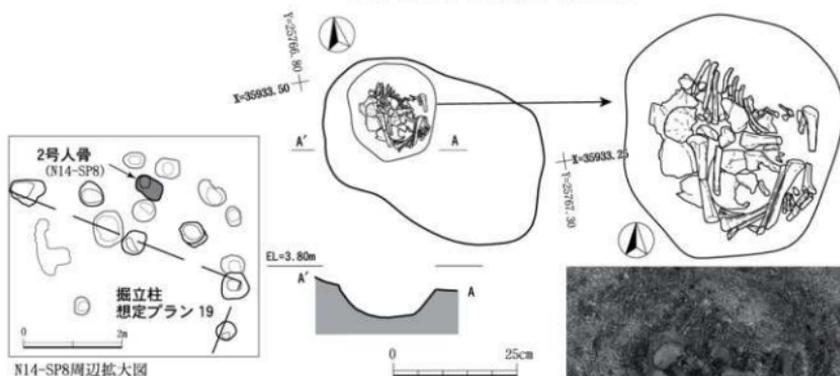
土した。大腿骨片のみの出土で詳細は不明。埋葬の可能性は低いと思われる。

註：平敷令治 1990『沖縄の祭祀と信仰』 第一書房・『中城村史』第3巻資料編2 1993 他

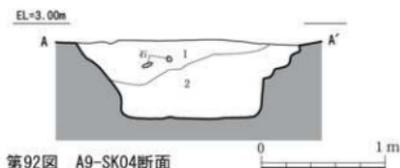
第43表 人骨出土土坑観察一覧

人骨	遺構名	グリッド	サイズ (cm) 長 短 深	形状	混入物など	遺物	概要説明
2号	SP8 土坑墓	N14	49 43 6	円形	黒褐色砂質土 微細な貝片・炭	乳児骨	乳児骨が1体確認された。東向きの横臥で膝を立てていたようである。保存状態は良く下半身の様子がよくわかる。H24年度調査時には第1号人骨として扱われた。
3号	SK04	A9	208 156 67	楕円形	微細貝片・炭 白砂混、粘質砂層	白磁皿 (第106図19)・土器 (胴IV類B・胴VI類・口IV類C・口VI類)・青磁 (碗・胴口)・陶質土器 (胴)・自然貝	大腿骨骨体部と小破片が検出された。骨体部は女性 (右) で、小破片も同一個体の上である。全体的にやどかりによる削りあり。SP18とSP19に一部切られる。

※遺物：土器はII群 (貝塚時代後期) を省略して示す



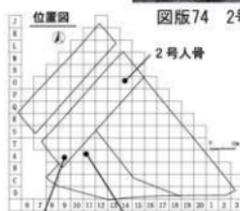
第91図 2号人骨出土状況 (N14)



第92図 A9-SK04断面



図版74 2号人骨検出状況 (南より)



3号人骨 1号人骨 (貝塚後期)



図版75 3号人骨出土状況 (A9西側より)

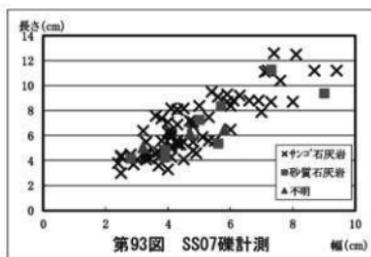


拡大図版

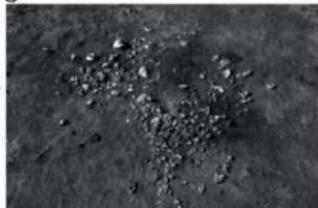
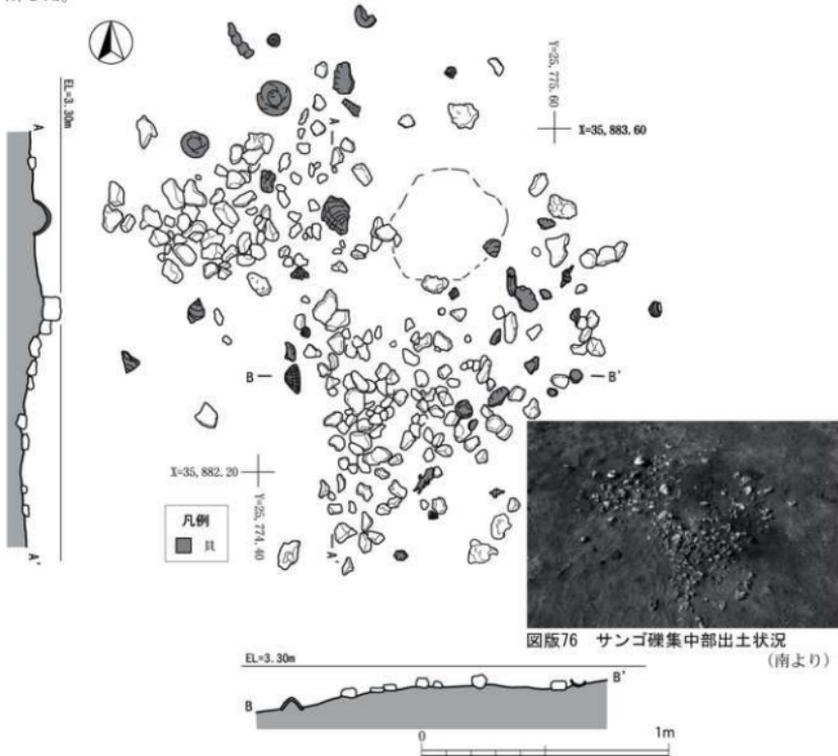
## (7) サンゴ礁集中部 (SS07)

イ地区D15～D16の標高3.20m～3.10mに1.3×1.6mの範囲にサンゴ及び石灰岩礫が集中するものである。ほぼ平坦だが、西側で僅かに低くなる。平面は略方形で同じ面で東側部分に黒褐色砂が見られるが、柱穴は検出されなかった。沖縄産無釉陶器(標高3.2m)や土器(取403、標高3.1m)が検出されている。

礫はサンゴ石灰岩75個と砂質石灰岩8個、他3個からなり、大きさは第93図に示したように礫の大きさは3.0～12.6cm、重さは5.0～439gで平均6.6×4.8cmで、礫の形状をみると丸味(61.7%)、角(24.7%)で、これらの状況から礫の意図的な配置の可能性は低い。出土遺物は前述の沖縄産無釉陶器のほか、土器の乳房状尖底や薄手の胴部片、二枚貝有孔製品(製52)などの人工遺物、ヒレジャコやサラサバティラなどの大型の自然貝も含まれる。検出面の標高や他の遺物との関連からグスク期のもつと判断した。



第93図 SS07礫計測



図版76 サンゴ礁集中部出土状況 (南より)

第94図 サンゴ礁集中部SS07 (D15・16)

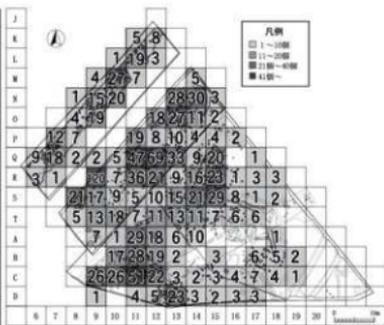
## 2. 出土遺物

第Ⅲ層から出土した遺物は滑石製石鍋、須恵器、白磁、青磁、染付、褐袖陶器（タイ産・中国産）瑠璃釉、黒袖陶器、三彩、翡翠釉、タイ産鉄絵、瓦質土器、本土産陶器（備前産播鉢・瀬戸天目）、銭貨、鉄製品、砥石、骨製品、貝製品、ガラス玉、羽口、焼土で第44表からグスク時代後期の遺物が多いようである。なお、瓦質土器は近世の生産遺跡で生産された物であること、本土産陶器は8点のみの出土であることから、次節（第5節-2-（1）（2））で報告する。出土量が多いのは青磁で、以下、褐袖陶器、染付、白磁と続き、タイ産鉄絵、三彩など他は数点ずつである。産地別では合計1,249点と圧倒的に中国産が多く、タイ産（褐袖陶器・鉄絵）218点、本土産（滑石製石鍋・須恵器・本土産陶器）は14点のみで、グスク土器の出土は無かった。当遺跡から700mほど南東に位置する後兼久原遺跡（2003）では2万点近いグスク土器が出土しているが、後兼久原遺跡より北側の遺跡では現在のところグスク土器の出土は極端に少ない傾向にあり、今後の調査報告がまつれる。遺物の分布状況としてはハ地区R9が多く、ハ地区Q12・地区C11ハ地区Q11と続く。いずれも柱穴や土坑またそれらの切り合いが多く確認されているグリッドであるが、分布状況は貝塚時代後期の遺物分布とは重ならない。以下、各々の遺物について概略する。

第44表 グスク時代出土遺物概要

出土遺物	備考	14C	15C	16C	17C
滑石製石鍋	石鍋破片	6C～11C			
須恵器	カムイヤキと産地不明須恵器が混ざる	須恵器：日用雑器への完全変容 9～11C カムイヤキ：11～13C			
白磁	古手は少ない。伏見高台皿に伴う直口白縁皿等				
青磁	雲文、絡蓮雲文				
染付	徳化室（明・清）				
褐袖陶器	15Cを主体とする中国及びタイ産				
瑠璃釉	舞臺積産				
黒袖陶器	天目茶碗に似るが異なる形状				
三彩	福寿産（長興丸形水注・鳥型水注・壺）				
翡翠釉	梅瓶（脚）、中国では弘治・正徳年間（1488～1521）から多用				
中国産軟質陶器（蓋）	15C～16C（中国産褐袖陶器（最大径を肩部に持つ大型の無耳蓋とセットか））				
タイ産軟質陶器	シーサッチャナライ産産				
銭貨	中国銭（元豊通寶・聖宋元寶・洪武通寶）				

※ 塗りつぶし：出土遺物推定製作期間



第95図 グスク時代遺物分布状況

第45表 グスク時代遺物出土量（グリッド別）

地区	グリッド	遺物種別					合計
		青磁	褐袖陶器	白磁	染付	その他	
イ	A14	4	5	1			10
	A18	1					1
	B15	1	1				2
	B16		2				2
	B17	3	1				4
	B18	1	2				3
	B19		1				1
	C15	3	3				6
	C16	1	1				2
	C17	3	2				5
	C18	1	1				2
	C19	2	2				4
	C20	2	2				4
	C21	1	1				2
	C22	1	1				2
	C23	1	1				2
	C24	1	1				2
	C25	1	1				2
	C26	1	1				2
	ハ	A12	4	5	2		
A13		2	1			壺1	3
A14		2	1				3
B11		6	8	5			19
B12		7	6	2			15
B13		4	8	1			13
C10		6	6	3			15
C12		18	16	1		壺1	35
C13		4	2	6			12
C14		1	1				2
C15		1	1				2
C16		1	1				2
C17		2	3	2			7
C18		1	1				2
C19		2	1				3
C20		2	1				3
C21		10	2	1			13
C22		2	1				3
C23		2	1				3
C24		1	1				2
C25	1	1				2	
C26	2	1				3	
C27	1	1				2	
C28	1	1				2	
C29	1	1				2	
C30	1	1				2	
C31	1	1				2	
C32	1	1				2	
C33	1	1				2	
C34	1	1				2	
C35	1	1				2	
C36	1	1				2	
C37	1	1				2	
C38	1	1				2	
C39	1	1				2	
C40	1	1				2	
C41	1	1				2	
C42	1	1				2	
C43	1	1				2	
C44	1	1				2	
C45	1	1				2	
C46	1	1				2	
C47	1	1				2	
C48	1	1				2	
C49	1	1				2	
C50	1	1				2	
C51	1	1				2	
C52	1	1				2	
C53	1	1				2	
C54	1	1				2	
C55	1	1				2	
C56	1	1				2	
C57	1	1				2	
C58	1	1				2	
C59	1	1				2	
C60	1	1				2	
C61	1	1				2	
C62	1	1				2	
C63	1	1				2	
C64	1	1				2	
C65	1	1				2	
C66	1	1				2	
C67	1	1				2	
C68	1	1				2	
C69	1	1				2	
C70	1	1				2	
C71	1	1				2	
C72	1	1				2	
C73	1	1				2	
C74	1	1				2	
C75	1	1				2	
C76	1	1				2	
C77	1	1				2	
C78	1	1				2	
C79	1	1				2	
C80	1	1				2	
C81	1	1				2	
C82	1	1				2	
C83	1	1				2	
C84	1	1				2	
C85	1	1				2	
C86	1	1				2	
C87	1	1				2	
C88	1	1				2	
C89	1	1				2	
C90	1	1				2	
C91	1	1				2	
C92	1	1				2	
C93	1	1				2	
C94	1	1				2	
C95	1	1				2	
C96	1	1				2	
C97	1	1				2	
C98	1	1				2	
C99	1	1				2	
C100	1	1				2	
合計		531	888	81	266	39	1345

## (1) 滑石製石鍋

石鍋の口縁部と思われる資料が1点確認できた。第96図1・図版77に示す。口縁部は若干内彎し口唇部は摩耗している。外面には縦にて右側から左方向にノミによる調整痕がうっすらと残り、内面は研磨されている。器壁12～15mm・重量38.8gを測る。ハ地区S8第Ⅲ層にて出土。伴出遺物としては流紋岩製砥石(第123図2)が確認できた。

## (2) 須恵器

壺や甕の胴部破片と思われる資料が5点出土した。うち3点(第96図2～4)は徳之島伊仙町のカムイヤキ窯で焼かれた資料と酷似しており、残りの2点(第96図5・6)は器面調整や器色などカムイヤキの特徴が見られないが、焼成は軟質であるため産地不明須恵器として扱う。器厚の違いも顕著で前者は薄手で4～7mmを測り、後者は厚く8～10mmであった。出土状況を見てみると、産地不明須恵器はイ地区A13・T12第Ⅱ層と近い場所出土していたが、カムイヤキは地区層位とともにまともは無かった。以下、第46表にて詳細を記載し、図版77に示す。

なお、これまでの北谷町内における発掘調査にて出土した須恵器については、カムイヤキ以外の須恵器の存在の可能性を提示されて(註1～3)いる。また、三辻利一氏による「カムイヤキ(須恵器)の蛍光X線分析」においても、カムイヤキ領域に近づく成分(Rb・Sr)と遠く離れる成分(K・Ca)が含有されているため、カムイヤキとは判断し難い須恵器が北谷町及び南西諸島の遺跡から頻度高く出土することが指摘されている(註4)。

註1: 北谷町教育委員会 2003『後兼久原遺跡』北谷町文化財報告書 第21集

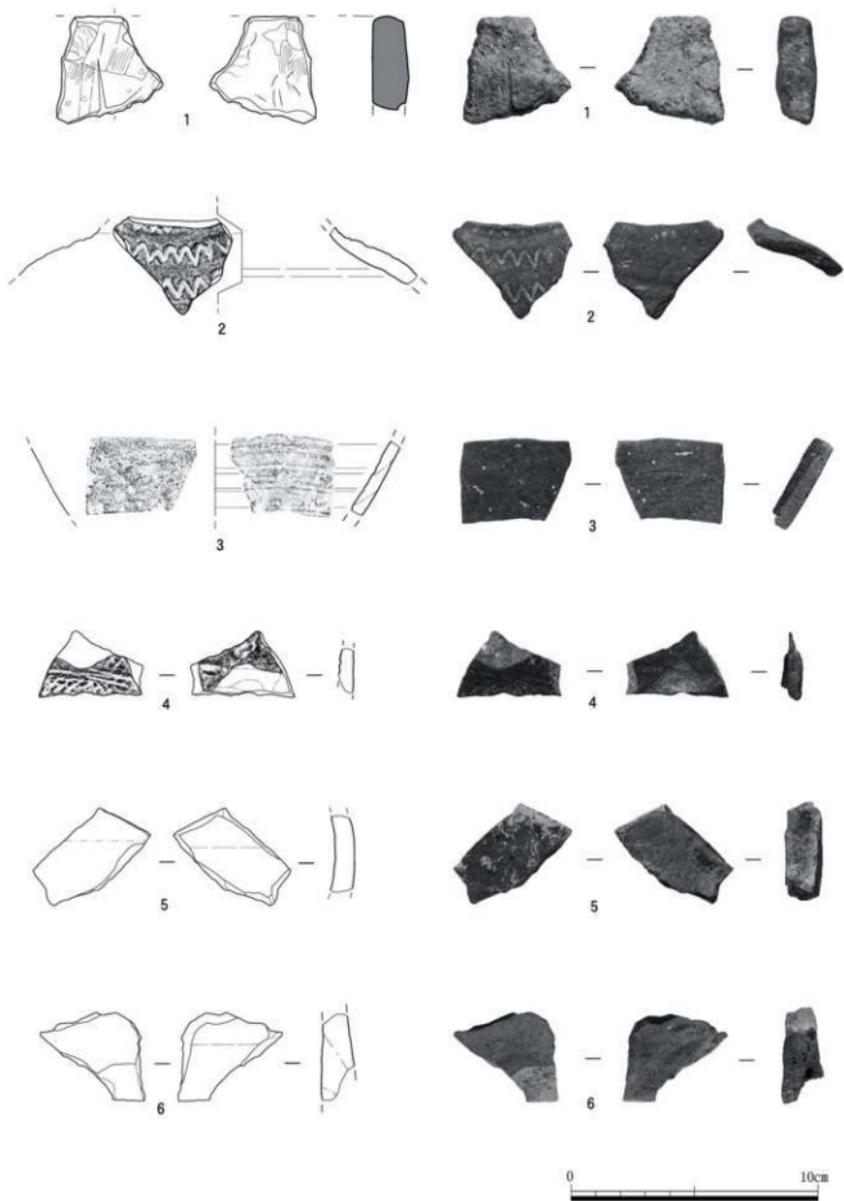
註2: 沖縄県立埋蔵文化財センター 2004『後兼久原遺跡』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書 第22集

註3: 北谷町教育委員会 2012『小堀原遺跡』北谷町文化財報告書 第34集

註4: 北谷町教育委員会 2009『小堀原遺跡』北谷町文化財報告書 第30集

第46表 須恵器観察一覧

第96図 図版	番号	器種	部位	口径 器高 底径 (cm)	重量 (g)	器厚 (mm)	器色 (芯部)	素地 (混和材)	器面調整		備考	産地	地区 小グッド 層(遺構) 取上番号 台帳番号
									内面	外面			
第96 図版 77	2	壺	肩	- -	11.66	7	暗黄褐 (暗灰)	粘質 (微細な白色粒)	指ナゲ + 鋭削り	指ナゲ	外面: 波状沈線文	徳之島伊仙町	H19 R15 Ⅱ (SK18) 台2079
	3	壺 or 甕	胴	- -	12.6	4	暗茶褐	粘質 (微細な砂粒)	回転擦痕	指ナゲ うっすらと叩 き痕	粘土の積み上げ痕 明瞭		ニ ー Ⅱ 台2336
	4	壺	胴	- -	6.89	5	暗青灰 (赤茶褐)	堅緻 (微細な白色粒 赤色粒 黒色粒 石灰岩粒)	指ナゲ + 叩き(格子状)	回転擦痕 + 叩き(綾杉状)	素地に3×1mmの石 灰岩粒を含む	イ C11 Ⅲ 台1719	
	5	壺	胴	- -	15.84	8	暗灰 (暗紫)	粗粒子 (微細な砂粒)	回転擦痕 + 指ナゲ + 叩き(青海波状)	指ナゲ	外面: 焼成による 若干のポーラス	不明 (本土産?)	イ A13 Ⅱ 取425 台1785
	6	壺 or 甕	底 付近	- -	12.26	10	灰褐	粗粒子 (微細な砂粒 黒色粒 石英粒)	回転擦痕 + うっすらと叩き痕	指ナゲ	外面: 焼成による 若干のポーラスと 焼き跡	イ T12 Ⅱ 台1699	



第96圖・圖版77 滑石製石鍋・須惠器

### (3) 青磁

青磁は574点出土した。器種は碗・皿・盤・瓶・壺・鉢・馬上杯の7種類確認された。その中で碗が最も多く463点、次いで皿76点、盤5点、瓶4点、壺3点、鉢1点、馬上杯1点となっている。出土状況を見てみると、第III層で448点と多く出土している。調査区の北側から中央部にかけて集中している。以下、器種ごとに分類概念を述べ、個々の詳細は第48表に記した。

#### A. 碗

碗は蓮弁文碗、雷文帯碗、有文碗、無文碗がある。その中で蓮弁文碗が多く出土し、次いで雷文帯碗、無文碗、有文碗となっている。各種碗の分類概念を述べ、個々の紹介は第48表の観察表にて記すこととする。

##### I 類：蓮弁文碗

蓮弁文碗は無鎬蓮弁文碗、線刻細蓮弁文碗の2種類に分けられる。前者をA類、後者をB類として分けた。

##### I 類A：無鎬蓮弁文碗

無鎬蓮弁文碗の器形は直口口縁である。文様の施文方法によりaからcの3種類に細分した。

##### I 類Aa種 (第98図1)

片切彫りによる蓮弁文を描き、弁先は開く。内面も片切彫りによる花文を描く。

##### I 類Ab種 (図2)

片切彫りによる蓮弁文碗を描き、蓮弁は交わる。内面は片切彫りによる花文を描く。

##### I 類Ac種 (図3)

小振りの碗である。片切彫りによる蓮弁文碗を描き、弁先は開く。弁尻は蓮弁が重なる。

##### I 類B：線刻細蓮弁文碗

線刻細蓮弁文碗の口縁部の器形は、口縁部片を見る限り直口口縁が主体である。文様の施文方法よりa・bの2種類に細分した。

##### I 類Ba種 (図4)

直口口縁で片切彫りによる蓮弁文を施す。蓮弁文は左右より大きく弁先が弧を描くように施すため弁先は重なるように描く。文様は腰部まで施す。

##### I 類Bb種 (図5～12)

全て直口口縁で、篋描き又は丸彫りによる蓮弁文を施す。図5・6は発色が悪い。蓮弁文は弁先より弁尻まで一描きで単位を成し、それを連続して巡らす。弁先はやや丸味を帯びる。図7の蓮弁文は弁先と蓮弁は別々に施す。先に弁先を片切彫りにより施文し、後に蓮弁を弁先の凸部または凹部から描き下ろすようである。図8は弁先を細い篋状工具による丸みを帯びた弁先を描き、蓮弁は丸彫りにより腰部下までを施す。内面胴下部に波状の文様を施す。図9の蓮文は先に弁先を鋸歯状に連続して施し、弁先の凹部より蓮弁を描き下ろす。発色は悪い。図10は蓮弁文の施文が細い。文様は先に弁先を鋸歯状に施した後、蓮弁は丸彫りにより凹部直下または弁先から離して描き下ろす。図11・12は底部である。図11は、外面は蓮弁文が丸彫りにより腰部下まで施す。見込みは圏線と印花文が施される。図12は、外面は篋彫りにより蓮弁文が腰部まで施される。内面は印花文が施される。

##### II 類：雷文帯碗

雷文帯碗はすべて直口口縁である。雷文帯の文様の施文方法で分類を行った。A・B種は片切彫りによる雷文、C種はスタンプによる雷文を施すものである。

Ⅱ類A：雷文帯の雷文は片切彫りにより施文される。文様構成よりaとbの2種類に細分した。

#### Ⅱ類Aa種（図13・14）

雷文帯の雷文は崩れ、胴部に片切彫りによる花文を施す。内面は有文（図13）と無文（図14）がある。図15は片切彫りによる雷文帯で雷文はかなり崩れ省略している。外面胴部及び内面に片切彫りによる花文を施す。図16も片切彫りによる雷文帯で雷文はかなり崩れ省略している。胴部に横位沈線が見られるが構図は不明である。

#### Ⅱ類Ab種（図15～20）

片切彫りによる雷文帯での雷文はやや崩れ省略している。胴部には片切彫りによる蓮弁状の文様を施すものと無文がある。内面は無文と有文がある。

図15は口縁部片で、片切彫りによる雷文を描くが構図は不明である。図16は胴部片である。片切彫りによる蓮弁文状の文様を施す。図17は片切彫りによる雷文帯で雷文は横長に伸びやや崩れている。胴部は無文である。図18は片切彫りによる雷文帯で雷文はやや崩れている。及び胴部に片切彫りによる蓮弁文状の文様を呈する。内面は無文である。図19は片切彫りによる雷文帯で雷文は反時計と時計回りから成り帯を成すと思われる。胴部は片切彫りによる蓮弁文状の文様を、内面は片切彫りによる花文を施す。図20は底部片である。外面高台縁に片切彫りによるラマ式蓮弁と思われる弁尻が見られる。見込みは圏線を巡らしその中に印花文が施される。外底面は蛇の目軸剥ぎである。

Ⅱ類B種：大振りの碗である。片切彫りによる雷文帯を巡らし、胴部及び内面も片切彫りによる花文を施す（図21）。

#### Ⅱ類C種：雷文帯の雷文と内面胴部の花文はスタンプである。（図22～24）

図22・23は、外面は雷文帯のみで、内面胴部も花文のスタンプが施文されている。図21の外面の軸の発色は悪いため雷文帯がやや見づらい。図24は外面に雷文帯を、胴部に線刻細蓮弁状を施文する。軸が厚く文様が不明瞭、内面も文様があるが構図は不明である。

### Ⅲ類：有文碗

有文碗は内外面に片切彫りによる花文を施す。口縁部の形状により、直口口縁をA種、外反口縁をB種に細分し、口縁部がないものをC種とした。

#### Ⅲ類A種

直口口縁である（図25）。

図25は大振りの直口口縁碗である。内外面ともに片切彫りによる刻花文を施す。

#### Ⅲ類B種

外反口縁碗である。口唇部に刻みを施すものと施さないものがある。前者をa、後者をbとした（図26～28）。

#### Ⅲ類Ba種

図26口縁部は外反し、口唇部は輪花状を呈する。内外面に片切彫りによる花文を施すが構図は不明である。

#### Ⅲ類Bb種（図27・28）

図27・28の口縁部は外反する。図27は大振りの碗である。両資料とも片切彫りによる花文を内外面に施す。

### Ⅲ類C種（図29・30）

図29は底部である。内面にスタンプによる草花文を施す。見込みは圏線とその中に印花文を施す。図30は胴部で内面に人形手と思われる文様が施される。

### Ⅳ類：無文碗

無文碗は口縁部の形状により直口口縁をA種、外反口縁をB種の2種類に細分した。

#### Ⅳ類A種

口縁部が直口口縁である（図31～39）。

図31は胴部が丸みを帯びて立ち上がり口縁部は直口する。口縁下部の器壁は窄まり薄くなる。見込みは目跡で印花文が露胎する。高台は畳み付け外端部を斜位に削り畳み付けは狭まる。高台内は削り痕が残る。図32は胴部から口縁部まで直口を呈する。内外面ともに腰部まで軸を施す。高台は畳み付け外端部高を削る。高台内は無軸である。図33は胴部から口縁部まで直口する。口唇部は外端が舌状を呈する。図34は胴部がやや丸味を帯びて立ち上がり口縁部は直口する。口縁下部は窄まり口縁部は肥厚する。見込みは蛇の目軸剥ぎで高台外面まで施軸する。高台内は若干軸が掛けられている。高台は畳み付け外端部を削る。図35は胴部がやや丸味を帯びて立ち上がり口縁部は直口する。外面は鉋削り調整痕が明瞭である。内面腰部最下部まで施軸されていることから見込みは目跡又は蛇の目軸剥ぎが施されていたと思われる。図36は胴部が丸みを帯びながら立ち上がり口縁部は直口する。器厚のある碗である。

図37は大振りの碗である。胴部が丸みを帯びながら立ち上がり口縁部は直口する。図38は、胴部から口縁部は逆「ハ」の字状を呈する。口縁部は肥厚し、口唇部外端は舌状を呈するため口縁部は外反気味を呈する口縁部下の器壁は薄い。図39は、器高が低い小振りの碗である。胴部は丸みを帯びながら立ち上がり口縁部は直口する。見込みは目跡で「卍」をまるで囲うスタンプ文が施される。外面は腰部まで施軸する。高台は内端が畳につく。高台内は篋により粘土を削り取り、高台まで及ぶ。

#### Ⅳ類B種

口縁部が外反口縁である（図40）。

第40図は、胴部は丸みを帯びながら立ち上がり口縁部で外反する。

### 碗底部

図41・42は、胴部は丸みを帯びながら立ち上がる。口縁部形態は不明。内外面に文様がないためⅣ類の底部と思われる。図43は、見込みは蛇の目軸剥ぎである。露胎部は淡褐色を呈する。高台は「ハ」の字状を呈する。高台外端部を斜位に削り畳付は狭まる。高台内より高台外面まで無軸で淡褐色を呈する。図44は、高台の削りが深いため高台は高い。高台内は目跡である。畳付は内外端を削るためやや舌状を呈する。図45は、高台径が小さく、高台内から畳付まで無軸である。腰部に文様が見られないことからⅣ類の底部と思われる。

図①は見込みに雷文帯を円形にし、中心部に文字をスタンプする。

### B.皿

皿は口折皿、外反皿、直口口縁皿がある。そのうち外反皿が最も多く、次いで口折皿、直口皿となっている。外反皿が2点完形で出土している。各種皿の分類概念を述べ、個々の紹介は第48表の観察表にて記すこととする。

### I類：口折皿

器形は、口縁部は折れ鉢状を呈し、胴部は丸みを帯び底部が広く畳付は方形状を呈する。文様外面に蓮弁文、内底面にスタンプの双魚文又は印花文が施される（図46・47）。

図46は底部である。外面胴部は片切彫りによる蓮弁文が施され、内底面にはスタンプの双魚文が施される。高台径が広く畳付は方形状を呈する。外底面は蛇の目軸剥ぎである。図47は口縁部である。外面は片切彫りによる幅広の蓮弁文を施す。胴部は丸みを帯びる。

### II類：外反皿

口縁部が大きく外反するもので、腰部で折れ大きく開く。口唇部の形状より2種類に分けた（図48～55）。

#### IIA類

口唇部の刻みを施す稜花皿である。文様の有無によりさらに2種類に細分した。

#### IIAa類

内外面文様を施文するものと内面のみ施文するものがある。（図48～51）。

図48は、外面は櫛描文状で内面は草花文を施す。図49～51は内面に草花文を施す。

#### IIAb類

無文である（図52・53）。

図52は完品である。腰部で屈曲して大きく開く浅い皿で、見込みは目跡である。底部は高台外端を斜位に削り断面は台形状を呈する。高台画面まで施軸し畳付より外底まで露胎となる。図53は図52に比べやや深めである。

#### IIB類

口縁部に刻みを施さないものである。文様の有無によりさらに2種類に細分した。

#### IIBa類

内面に文様を施すものである（図54）。

図54は完品である。器壁がやや厚めである。腰部で屈曲し大きく開く。底部は高台の断面はやや丸味を帯びる。文様は内外面に片切彫りによる草花文、見込みに花文を施す。全施軸である。

#### IIBb類

無文である（図55）。

### III類：直口口縁皿

胴部は曲線を帯び口縁部は立ち上がる。口唇部の形状により2種類に分けた。

#### IIIA類

口唇部に刻みを施すものである（図56）。

図56は口唇部に刻みを施し、外面は口唇部の凹部より縦位に沈線を施し、蓮弁文を表現する。内面は丸彫りによる花卉を施す。

#### IIIB類

文様の有無により2種類に細分する。

#### IIIBa類

外面に片切彫りによる蓮弁文を2段施す（図57）。

#### IIIBb類

無文である（図58）。

### 皿底部

図59は内外面とも腰部まで施釉する。見込みに菊花文?のスタンプが施される。

図60は見込みに花文を施す。外底は蛇の目軸刺ぎである。

### C.盤

図61は底部である。見込みに花文を施す。外底は蛇の目軸刺ぎである。

### D.馬上杯

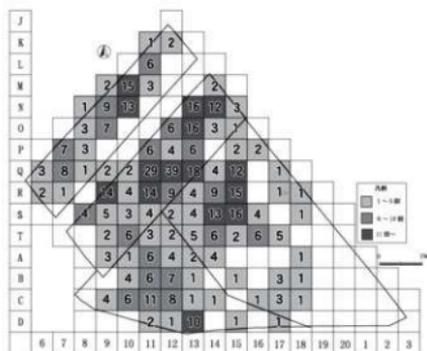
図62は口縁部と底部を欠き、胴部外面には片切彫りの弁尻が見られる。脚の上部に陽圏線を巡らす。見込みは渦巻が施される。

### E.壺

図63は撫で肩を呈する胴部である。文様は見られない。図64は底部で、碁箱底を呈する。

### F.瓶

図65は口縁部分で口唇部と把手を欠く。外面に丸彫りによる蓮弁文が施される。図66は胴下部で、外面に3本の圏線を巡らしその下に片切彫りによる蓮弁文を施文する。内面は露胎である。



第97図 青磁平面分布

第47表 青磁出土量

地区	層	器種	碗				皿				盤		馬上杯		壺		瓶		鉢		不明		小計	地区別計
			口底	口	胴	底	口底	口	胴	底	口	底	脚	胴	胴	底	口	胴	胴	胴	底	底		
田9	II			2	8	1									1	1							13	141
	II	遺構		1	3					1								1					6	
	III		40	36	7			7		2													92	
イ	III	遺構		12	8	2		2	5			1											30	85
	II			2	1	1	1	1													1	6		
	II	遺構		1			2		1														4	
ハ	III		1	22	24	5		2	2								1						57	237
	III	遺構		8	5	1		1				1	1								1	18		
	I			1																			1	
二	II		1	19	17	10		3	6	4		1					1		2	2			66	107
	II	遺構		1																			1	
	III		3	44	27	13		10	3	6	1					1					3	1	112	
二	III	遺構	1	22	17	5		7		1	1											3	57	107
	II			13	8	3		2		1												2	29	
	III			12	16	4	1	2				1							1		2	1	40	
不明	III	遺構		12	14	3		6														3	38	4
	III			2	2																		4	
小計			7	213	186	57		6	46	10	14	3	2	1	2	1	1	3	1	17	4		574	
器種別計				463				76				5		1		3		4		1		21		

第48表-1 青磁観察一覧

(法量単位: cm)

国 図 版	図 番 号	器 種	分類	部位	口径 器高 底径	器形・文様などの諸特徴	素地	釉色	地区 小(ワ)ラ) 遺構 取上番号 台帳番号																																																								
第98図・ 図版78	運 弁 文 碗	I	I Aa	口縁部	-	直口口縁碗。外面の蓮弁文は弁先が開く。内面は、片切彫りによる菊文を施す。	白色微粒子	淡灰緑色 貫入は粗い	H19 S15 III 台3344																																																								
										I Ab	口縁部	-	直口口縁碗。外面の蓮弁文は弁先が開く。内面は、片切彫りによる菊文を施す。	灰色微粒子	オリーブ軸 貫入はなし	H19 R13 III 台1745																																																	
																	I Ac	口縁部	7.8 -	直口口縁碗で小張りである。蓮弁の弁先は尖る。	灰色微粒子	オリーブ軸 貫入はなし	ニ 重槌型刷 II 台2333																																										
																								I Ba	口縁部	-	直口口縁碗。弁先は重なるよう丸みを帯びて腰まで施文する。	淡灰白色微粒子	暗緑色 貫入は粗い	ハ N13 II 台2121																																			
																															I Bb	口～底	15.8 8.9 6.0	直口口縁碗。弁先より弁尻まで一掃きを施し、それを器面の右側方向に連続して施す。	灰色微粒子	淡灰緑色 貫入は粗い	ハ O13 III 台2309																												
																																						I Bc	口縁部	15.6 -	直口口縁碗。蓮弁は弁先が丸みを帯びて施される。	灰色微粒子	淡灰緑色 貫入は粗い	H19 S17 III 取235 台2423																					
																																													I Bb	口縁部	11.6 -	直口口縁碗。蓮弁は弁先を先に片切彫りにより施文し、凸凹部どちらからも掃き下ろす。内面は片切彫りにより菊状を構位に連続して施される。横図は不明。	淡灰白色微粒子	淡灰緑色 貫入はなし	ハ S10 III SF39 台2228														
																																																				I Bb	口縁部	13.0 -	直口口縁碗。蓮弁文は先に弁先を描き、弁先の凹凸部の両部より隈掃きにより掃き下ろす。内面下部に波状文が施される。	淡灰白色微粒子	淡灰緑色 貫入はなし	H19 Q15 III 台1616 H19 S16 III 取174 台1624							
																																																											I Bb	口縁部	14.6 -	直口口縁碗。蓮弁文は弁先を先に掃き、凹部より掃き下ろす。内面にも文様を施すが不明。	淡茶白色微粒子	淡茶緑色 貫入は粗い	ハ P11 III 台2149
I Bb	底部	-	底部である。胴部に縦列細蓮弁文が腰下部まで施される。見込みには印花文が施される。高台内及び登み付けは露胎である。	透明軸 貫入はなし	ハ R12 III S301 台2192 ハ S8 II 台2100																																																												
						I Bb	底部	-	底部である。胴部に縦列細蓮弁文が腰下部まで施される。見込みには印花文が施される。高台内は露胎である。	淡灰白色微粒子	淡緑色 貫入は粗い	H19 R15 III 台1626																																																					
													II Aa	口縁部	11.8 -	口縁部で雷文帯の雷文は彫れる。文様は、外面は片切彫りによる雷文と花文、内面は、片切彫りによる花文を施文する。	白色微粒子	淡緑色 貫入はなし	H19 B18 III S D01 取56 台2355																																														
																				II Aa	口縁部	14.9 -	口縁部で、雷文帯の雷文は片切彫りにより施文されている。	淡灰白色微粒子	暗灰緑色	H19 不明 III P05 台4314																																							
																											II Ab	口縁部	-	口縁部で外面口縁部下には雷文帯の雷文が片切彫りで施文されている。	白色微粒子	淡緑色 貫入は粗い	H19 S14 III P25 台4311																																
																																		II Ab	胴部	-	胴部で外面の文様は、雷文帯下に施される蓮弁文と思われる。片切彫りで施文されている。	淡灰白色微粒子	淡灰緑色	H19 S14 III P18 台4313																									
																																									II Ab	口縁部	13.0 -	口縁部で、雷文帯の雷文は片切彫りによる施文が施される。	淡灰白色微粒子	淡灰緑色 貫入は粗い	H19 S15 III 台3344																		
																																																II Ab	口縁部	15.4 -	口縁部で片切彫りによる雷文を施す。その下も同様な施文で花文を施す。	淡灰白色微粒子	淡緑色 貫入は粗い	ハ N13 III SK01 台2218											
																																																							II Ab	口縁部	17.4 -	口縁部で片切彫りによる雷文を施す。その下も同様な施文で蓮弁状の文様を施文する。内面は片切彫りによる花文を施文する。	白色微粒子	淡緑色 貫入は粗い	ハ N14 III 台2203				
																																																														II Ab	底部	6.2	底部である。見込みは圈線と印花文。外面は片切彫りによる蓮弁状の文様を施す。外底面は蛇の目軸割ぎである。
II B	口縁部	18.4 -	大張りの碗で口縁部は、片切彫りによる雷文を施す。胴部も同様な施文方法で花文を腰部まで施す。内面も同様に花文を施文する。	白色微粒子	淡灰緑色 貫入はなし																																																												
						II C	口縁部	15.0 -	口縁部で雷文帯の雷文はスタンプと思われる。内面胴部はスタンプによる花文が施される。	淡灰白色微粒子	淡緑色 貫入はなし	ハ N13 III 台2129																																																					
													II C	口縁部	15.6 -	口縁部で、雷文帯の雷文はスタンプと思われる。内面胴部はスタンプによる花文が施される。釉の発色は悪い。	白色微粒子	淡灰緑色 貫入はなし	H19 不明 III P02 台4071/4067																																														
																				II C	口縁部	18.0 -	口縁部で、雷文帯の雷文はスタンプと思われる。胴部はスタンプによる縦列細蓮弁を施す。内面も文様が施されているが不明瞭である。	灰色微粒子	淡灰緑色 貫入はなし	ハ 重槌型刷 III 台2057																																							

第48表-2 青磁観察一覧

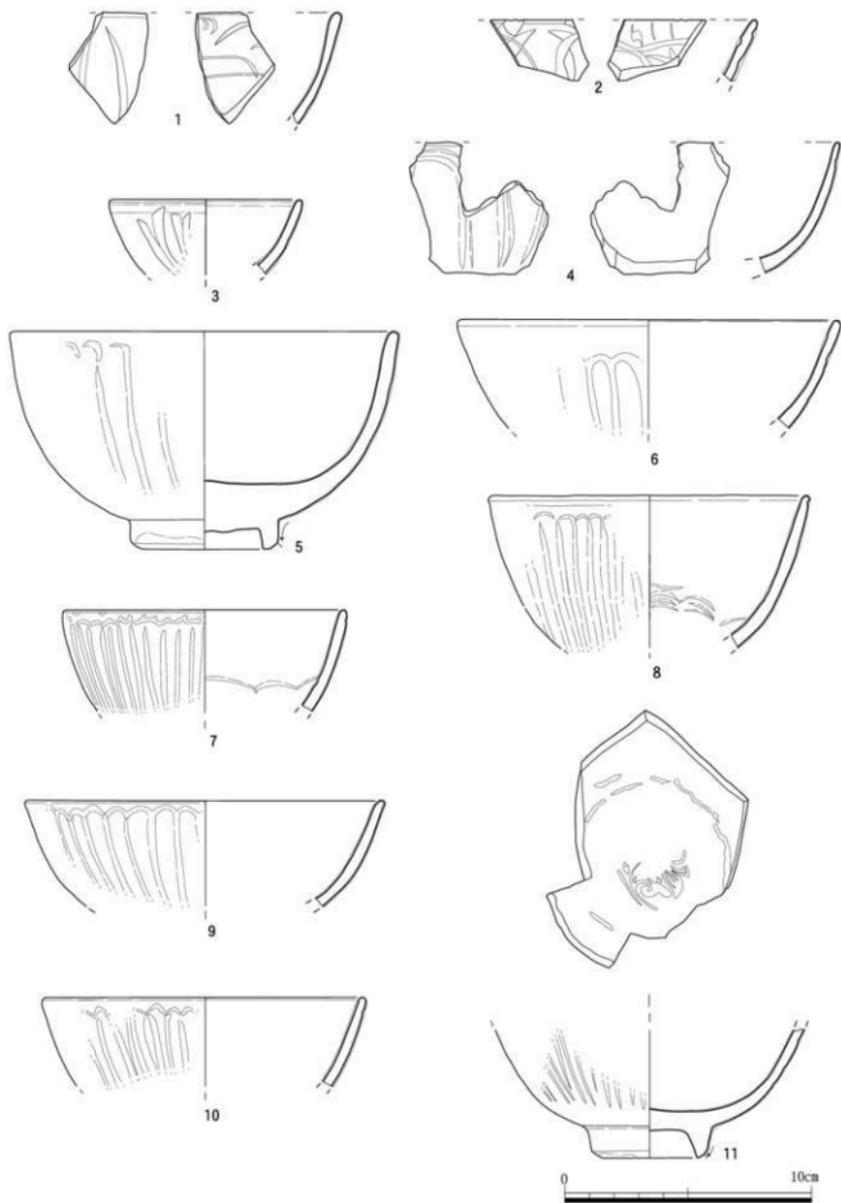
(法量単位: cm)

器図 図版	器 番号	器 種	分類	部位	口径 器高 底径	器形・文様などの諸特徴	素地	釉色	地区 小作り 遺構 取上番号 台帳番号	番 号
第100図・ 図版80	有 文 編	有 文 編	ⅢA	口縁部	16.6 — —	口縁部で内外面ともに片切彫りによる花文を施文する。	淡灰白色微粒子	淡灰緑色 貫入はなし	ハ T10 Ⅲ SP10 台2235	
			ⅢBa	口縁部	15.0 — —	外反口縁で口唇部に割みを施す。外面に片切彫りによる花文を施す。	淡灰白色微粒子	淡灰緑色 貫入は細かい	ハ Q12 Ⅲ SP57 台2298	
			ⅢBb	口縁部	16.6 — —	外反口縁で内外面ともに片切彫りによる花文を施文する。	白色微粒子	オリーブ軸 貫入はなし	ハ P13 Ⅲ 台2188	
			ⅢBc	口縁部	— — —	外反口縁で内外面ともに片切彫りによる花文を施文する。	淡灰白色微粒子	淡灰緑色 貫入はなし	H19 R15 Ⅲ 台1631	
			ⅢC	底部	— — 6.8	残存部の外面に文様は見られない。内面は草花文、見込みに圓縁と印花文?が施される。	淡灰白色微粒子	淡灰緑色 貫入は細かい	ハ S13 S14 Ⅲ 台2129/2209	
	ⅢC	胴部	— — —	残存部の外面に文様は見られない。内面は人形手と思われる。	淡灰白色微粒子	淡灰緑色 貫入はない	H19 R14 Ⅲ P38 台1317			
	ⅣA	口～底	13.4 4.4 5.4	器形が分かる資料である。底部より丸みを帯び立ち上がる。見込みは目録で動物とおもわれるスタンプが施される。	白色微粒子	灰色 貫入は粗い	ハ Q13 R9 Ⅲ 台2211/2131			
	ⅣA	口～底	13.6 4.5 6.4	器形が分かる資料である。底部より丸みを帯び立ち上がる。底部より斜位に立ち上げる。内外面ともに胴部まで施軸される。	灰色微粒子	灰白色 貫入なし	イ B12 Ⅱ SK59 台613			
	ⅣA	口縁部	16.8 — —	逆「ハ」の字状に立ち上がる。口唇部は舌状を呈する。	淡灰白色微粒子	釉色は発光が 無い	イ B11 Ⅲ 取301 台1280			
	ⅣA	口～底	15.4 5.5 6.0	器形が分かる資料である。底部より丸みを帯びながら立ち上がる。見込みは蛇の目輪割ぎである。	灰色微粒子	淡灰緑色 貫入はなし	イ B11 C12 Ⅲ 取129/339 台1783/1293			
無 文 編	無 文 編	無 文 編	ⅣA	口縁部	17.0 — —	器形は図34に類似する。施軸方法も同様である。大振りの編である。外面に輪縁痕が明瞭に残る。	淡灰白色微粒子	淡灰緑色 貫入はなし	ニ Q7 Ⅲ SP5 台2367/台2416 ニ R11 Ⅲ P28 台2158	
			ⅣA	口縁部	12.0 — —	やや小振りの編である。	淡灰白色微粒子	くすんだ淡灰 緑色 貫入はなし	ハ N14 Ⅲ 台2124/2127/2209	
			ⅣA	口縁部	17.2 — —	大振りの編である。器形は図36に類似する。	灰色微粒子と 茶褐色微粒子	淡茶緑色 貫入はなし	ハ S14 Ⅱ 台2128/2168	
			ⅣA	口縁部	18.6 — —	口縁部が肥厚し、断面が方形状を呈する。	白色微粒子	淡灰色 貫入はなし	イ C12 Ⅲ P34 台2066	
			ⅣA	口～底	13.4 5.4 5.4	器形が分かる資料である。底部より丸みを帯びながら立ち上がる。見込みは目録でスタンプによる「卍」文が施される。外面胴部まで施軸する。底部の器壁は厚い。	白色微粒子	透明軸 貫入は細かい	ハ S9 Ⅱ 台2103 ハ R9 Ⅲ 台2152	
第101図・ 図版81	有 文 編	有 文 編	ⅣB	口縁部	13.6 — —	外反口縁編である。胴部は丸みを帯びる。	茶褐色微粒子	淡オリーブ軸 貫入はなし	H19 B17 Ⅲ P10 台4247	
			底部	— — 5.2	高台内削りが深く高台は高い。胴部は丸味を帯びる。見込みは圓縁と印花文が施される。	白色微粒子	淡緑色 貫入は細かい	H19 T16 Ⅲ P7 台4180		
			底部	— — 5.2	高台内削りは深く高台は高い。胴部は丸味を帯びる。見込みは印花文が施される。	灰白色微粒子	淡緑色 貫入は細かい	ハ N13 Ⅱ 台2150		
			底部	— — 7.9	高台は「ハ」の字状に開き、壺付内縁が量に付く。見込みは蛇の目輪割ぎである。外面高台脇まで施軸し、高台外面より外底は露胎である。	淡茶褐色微粒子	灰白色 貫入はなし	イ C11 Ⅲ P40 台2030		
			底部	— — 5.4	高台内削りは深く高台は高い。外底は目録である。	淡灰白色微粒子	淡灰緑色 貫入は細かい	H19 T17 Ⅲ 台3332		
	有 文 編	有 文 編	有 文 編	底部	— — 4.2	高台内削りはやや深い。壺付は露胎する。	灰色微粒子	茶緑色 貫入はなし	H19 S15 Ⅲ 台2441	
				底部	— — —	底部片で、見込みに雷文帯を円形に巡らし、中心部に文字がスタンプされる	淡灰白色微粒子	無軸	ハ Q12 Ⅲ 台2306	

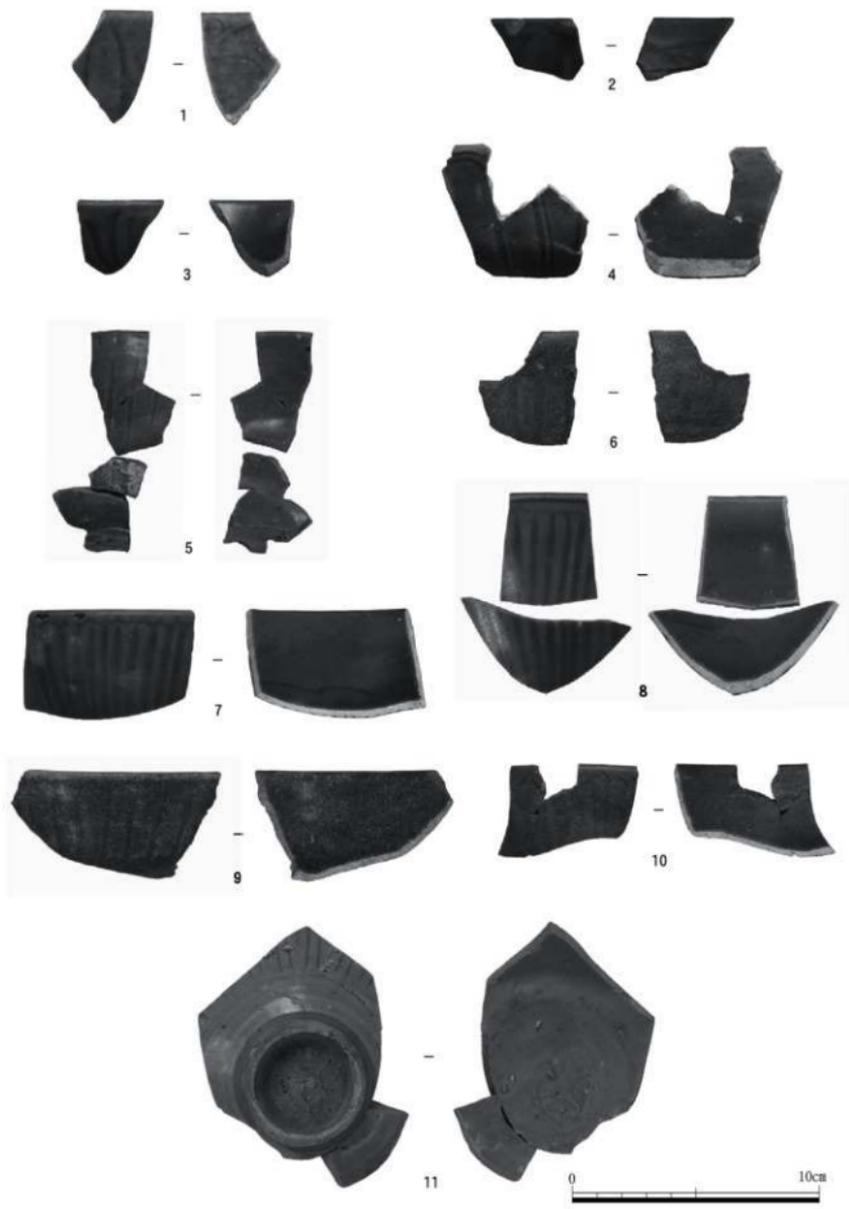
第48表-3 青磁観察一覧

(法量単位: cm)

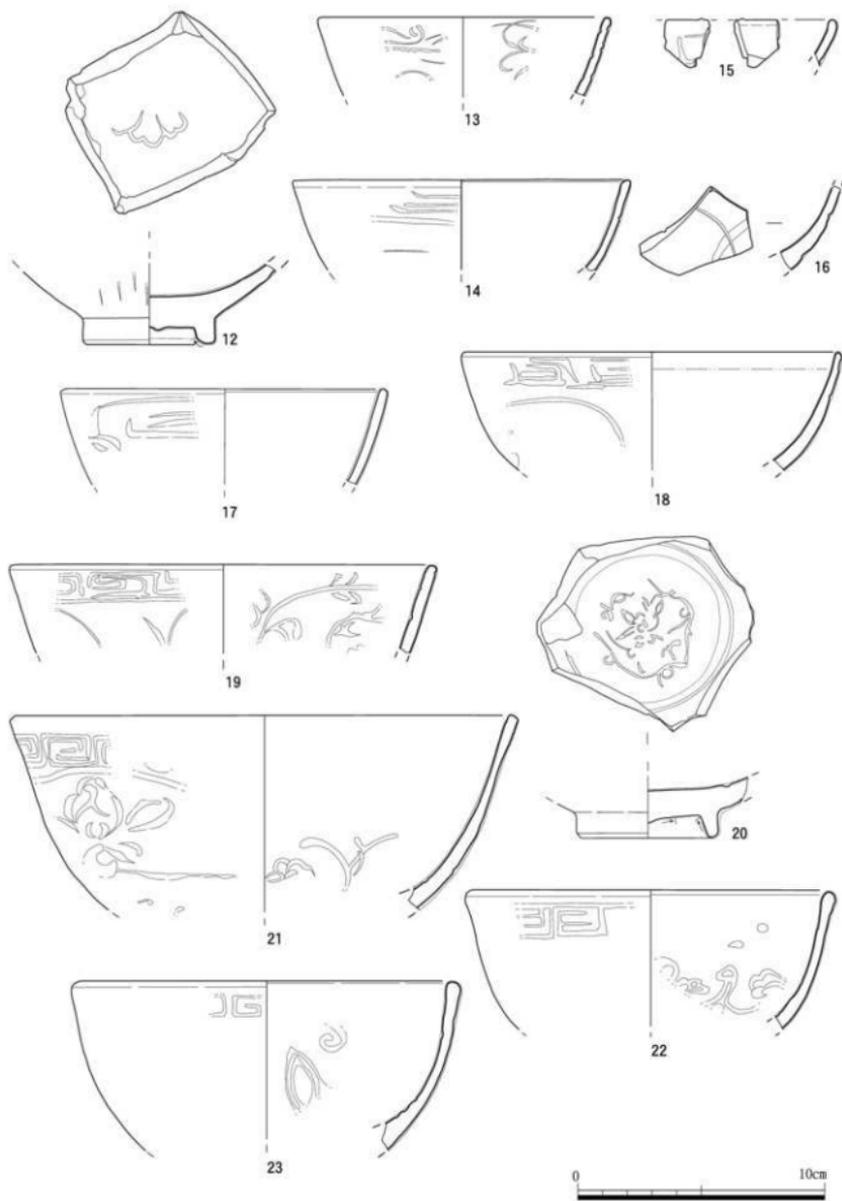
器図表	図番号	器種	分類	部位	口径 器高 底径	器形・文様などの諸特徴	素地	釉色	地区 小(ワ)リ 遺構 取上番号 台帳番号
第101図・図表81	46	折	I	底部	—	口折皿底部。見込みに双鱼文のスタンプが施される。外面は片切彫りによる蓮弁文。外底は蛇の目軸割ぎである。	淡灰白色微粒子	緑色 貫入はなし	ハ R10 Ⅲ SP07 台2153
	11.6 6.6								
	47	皿	I	口縁部	—	口縁部である。外面に片切彫りによる幅広い蓮弁文を施す。	白色微粒子	緑色 貫入はなし	H19 S15 Ⅲ 台3344
第102図・図表82	48	外	IIAa	口縁部	—	口唇部に刻みを入れる稜花皿である。外面は櫛掻文状、内面は片切彫りと櫛掻きで草花文を施す。	淡灰白色微粒子	淡灰緑色 貫入は粗い	ハ Q12 Ⅲ 台2166
	10.8 2.7 5.6								
	49	IIAa	口～底	—	口唇部に刻みを入れる稜花皿である。内面に片切彫りによる草花文を施す。外底は蛇の目軸割ぎ。	灰色微粒子	灰緑色 貫入は細かい	ハ O14 Ⅲ 台2143・2146・2147	
	12.3 2.9 4.7								
	50	IIAa	口縁部	—	口唇部に刻みを入れる稜花皿である。内面に片切彫りによる草花文を施す。	淡灰白色微粒子	淡灰緑色 貫入は粗い	H19 R14 Ⅲ P39 台4318	
	12.4 —								
	51	反	IIAa	口縁部	—	口唇部に刻みを入れる稜花皿である。内面に片切彫りによる草花文を施す。	淡灰白色微粒子	淡灰緑色 貫入は粗い	H19 R15 Ⅲ P44 台4316
	11.4 3.4 4.7								
	52	皿	IIAb	口～底	—	完品の外反皿で稜花皿である。見込みは目録、畳付より外底は露胎する。一部口縁部から胴部にかけて変色がみられる。	淡灰白色微粒子	茶緑色 貫入はなし	H19 Q14 SK06 取334 台3406
	12.6 —								
53	IIAb	口縁部	—	口唇部に刻みを入れる稜花皿である。口唇部及び外面胴部は風化し、釉が剥がれている。	白色微粒子	淡灰緑色 貫入は粗い	ハ R9 Ⅲ 台2130		
12.1 3.4 6.1									
54	IIAb	口～底	—	完品の外反皿で稜花皿である。内外面に片切彫りによる草花文。見込みに印花を施す。外底にハマワリ跡。	白色微粒子	緑色 貫入は粗い	H19 Q14 SK06 取335 台3407		
12.1 —									
55	IIAb	口縁部	—	外反皿である。口唇部は風化し、釉が剥がれている。	白色微粒子	くすんだ灰色 緑 貫入はなし	H19 T13 Ⅲ 取166 台2909		
10.1 2.7 4.8									
第103図・図表83	56	直 口 縁 皿	IIAa	口～底	—	口唇部に刻みを入れる。外面は刻みの凹部より深い沈線を入れ蓮弁文を表現する。内面は丸彫りによる花弁を施す。	淡灰白色微粒子	淡灰緑色 貫入はなし	イ C12 Ⅲ 取126 台1292
	12.4 —								
	57	IIAb	口縁部	—	直口縁皿である。外面に胴部中に区画線を施し、その上下に片切彫りによる蓮弁文を施す。	淡灰白色微粒子	淡緑色 貫入はなし	H19 R18 Ⅲ P3 台4312	
	10.6 —								
	58	IIAb	口縁部	—	直口縁皿である。	灰色微粒子	灰緑色 貫入は粗い	H19 Q13 Ⅲ P2 台4238	
	—								
	59	皿 底部	—	底部	—	内面腰部まで輪轉する。見込みは露胎で印花文が施される。外面も腰部まで露胎し、そこから外底迄露胎である。高台は畳付外端を面取りする。	淡灰白色微粒子	—	ハ S11 Ⅱ 台2094
	5.4 —								
60	皿 底部	—	底部	—	見込みに印花文が施される。高台は畳付内外端を面取りする。	淡灰白色微粒子	灰緑色 貫入はなし	H19 R15 Ⅲ 台1629	
6.8 —									
61	盤	—	底部	—	高台は広い。高台は畳付外端を面取りする。外底は蛇の目軸割ぎである。釉の発色が悪く見込みの構造が不明。	茶白色微粒子	不明 貫入はなし	ニ W10 Ⅲ 台2381 Ⅱ 台2383	
12.8 —									
62	馬上 杯	—	脚～胴	—	外面胴部に線彫りの蓮弁が施される。見込みには渦巻文。中脚は銅輪線が添る。	白色微粒子	淡緑色 貫入は粗い	イ C12 Ⅲ P06 台2159	
—									
63	—	—	胴部	—	撫で肩の意である。	灰色微粒子	淡灰緑色 貫入はなし	H19 B17 Ⅱ 台2267	
—									
64	—	—	底部	—	ベタ底を呈する。軸は外面底部辺りまで施す。内面は無軸。	淡灰白色微粒子	淡灰緑色 貫入はなし	H19 C17 Ⅱ 台2388	
5.0 —									
65	—	—	口縁部	—	口縁部から頸部の資料である。口唇部には舌状を呈する。外面口縁部直下に丸彫りによる蓮弁を施す。頸部には把手が付いているが破損。内外面輪轉する。	白色微粒子	淡灰茶色 貫入は細かい	ハ R12 Ⅲ 台2109	
—									
66	—	—	胴部	—	胴下部である。外面は3本の沈線が添りその下部に片切彫りによる蓮弁文を施す。内面は露胎する。	淡灰白色微粒子	淡灰緑色 貫入は粗い	ニ N9 Ⅲ 台2499	
—									



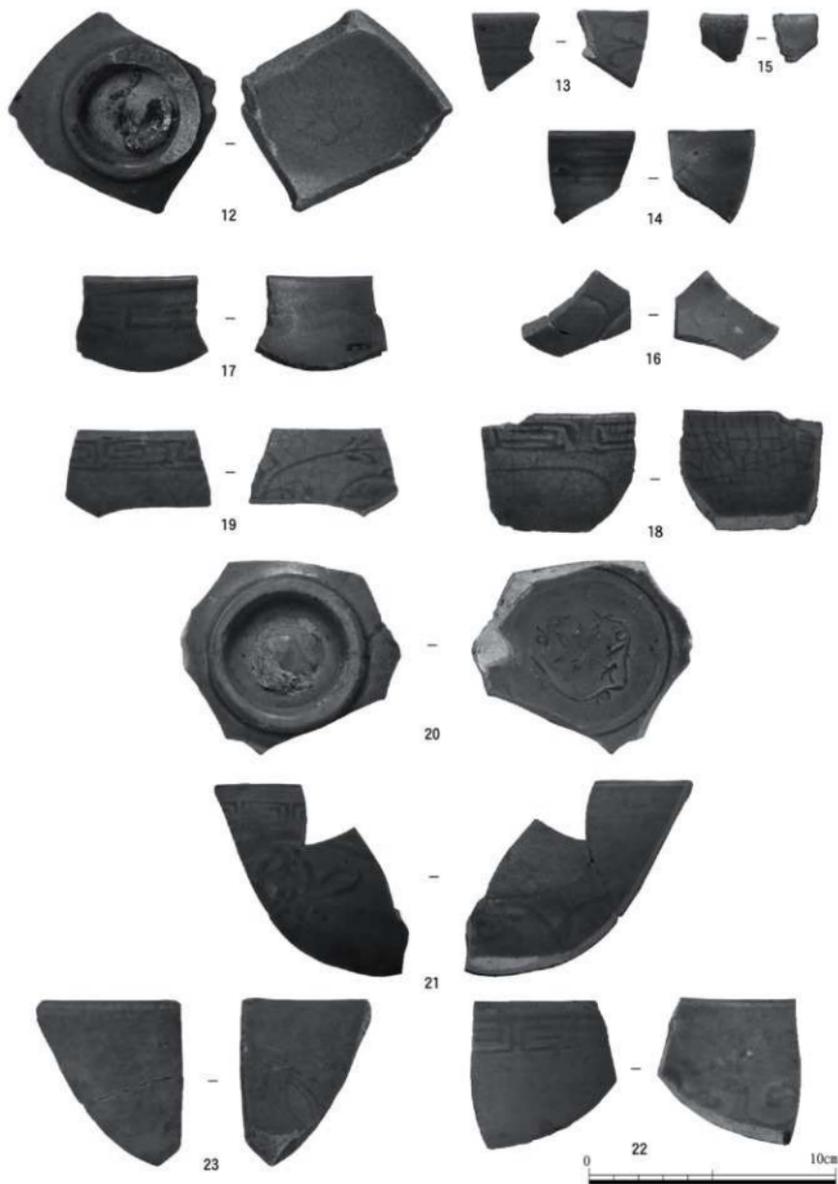
第98圖 青磁 1



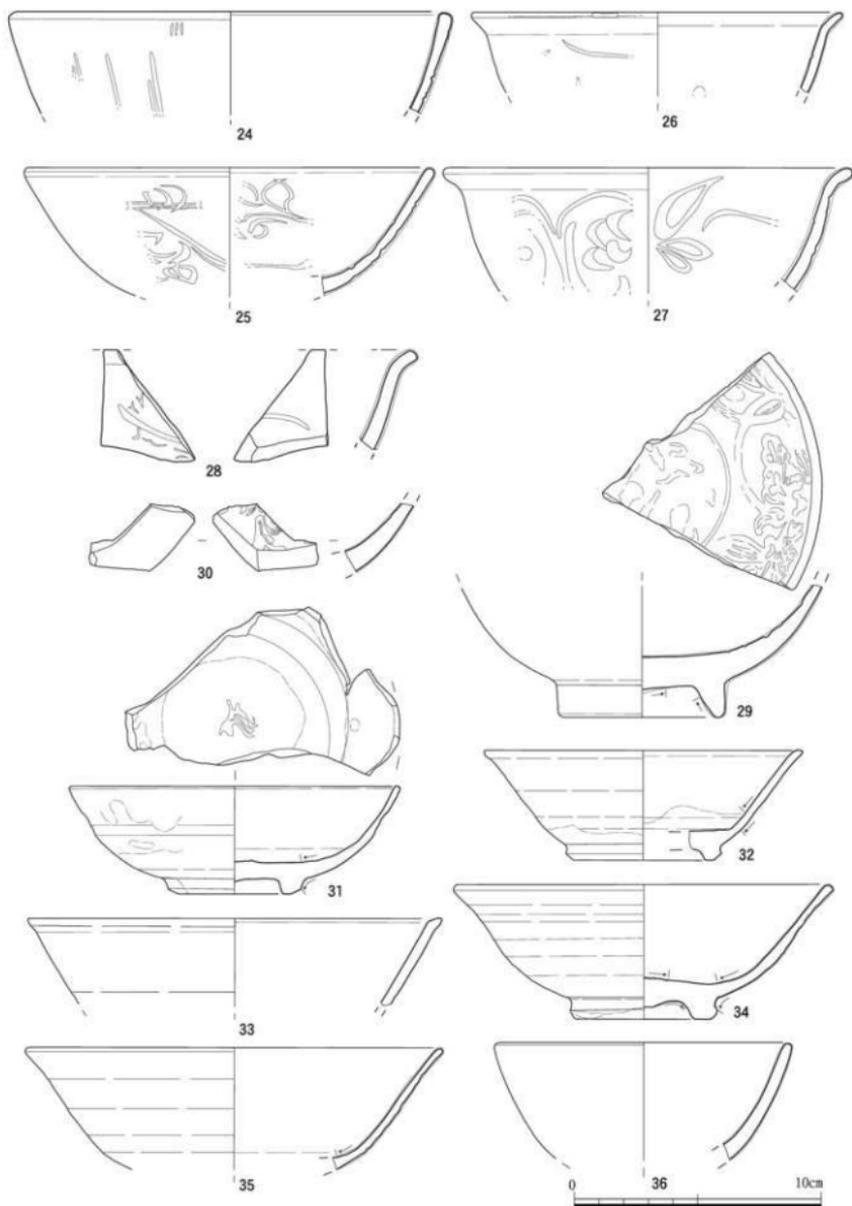
図版78 青磁 1



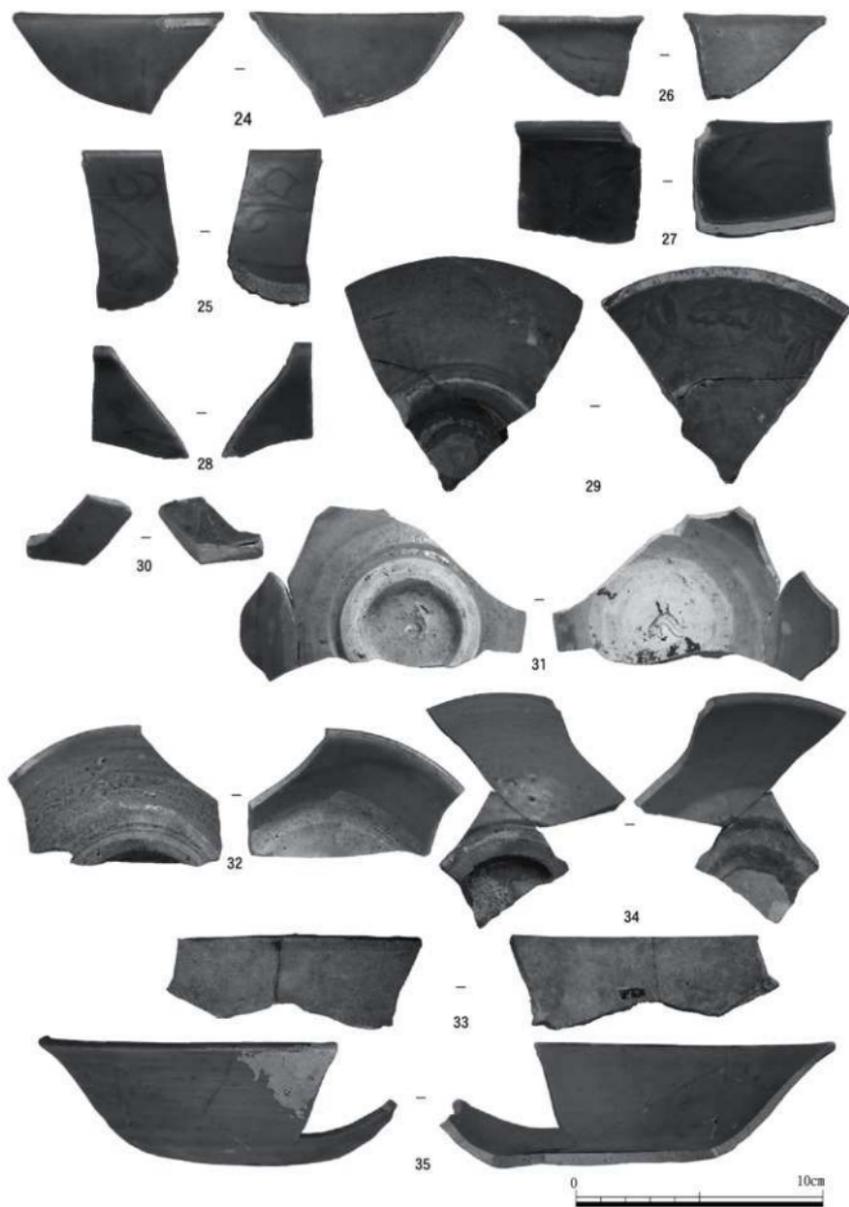
第99図 青磁2



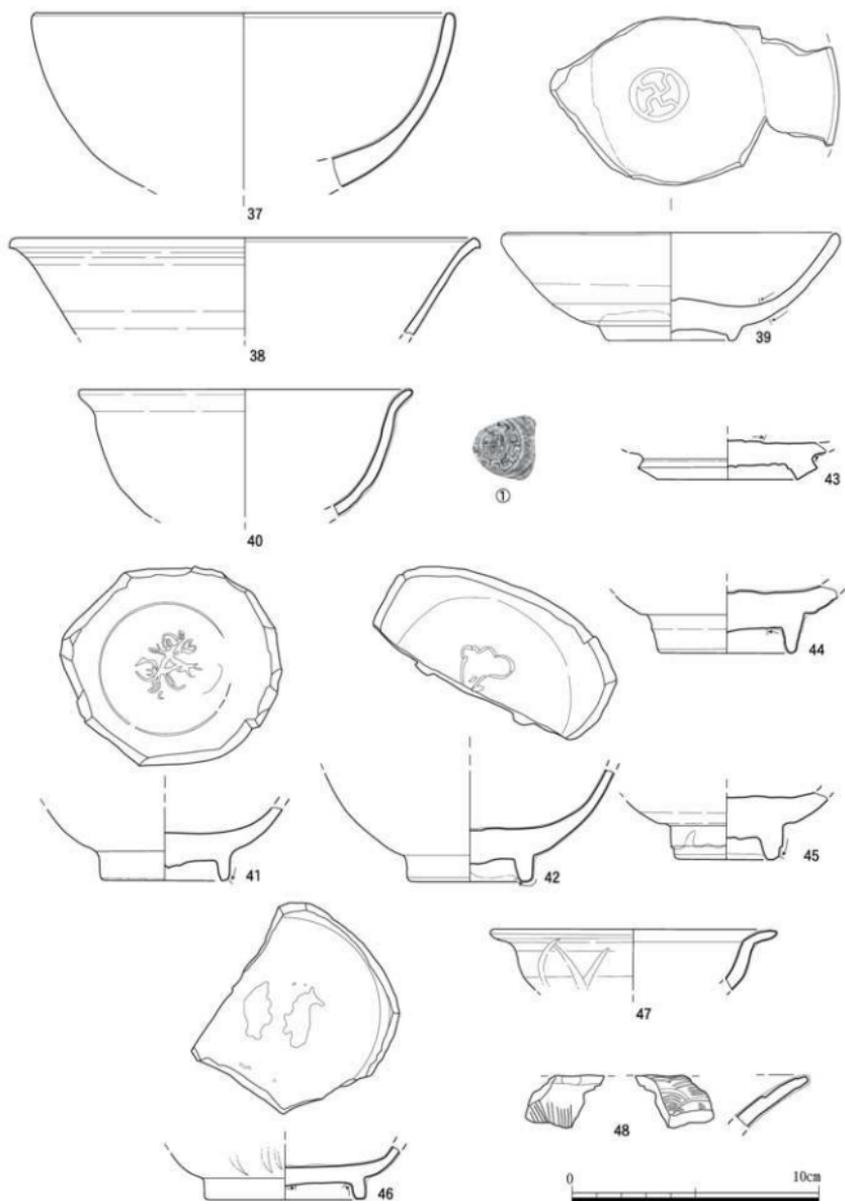
图版79 青磁2



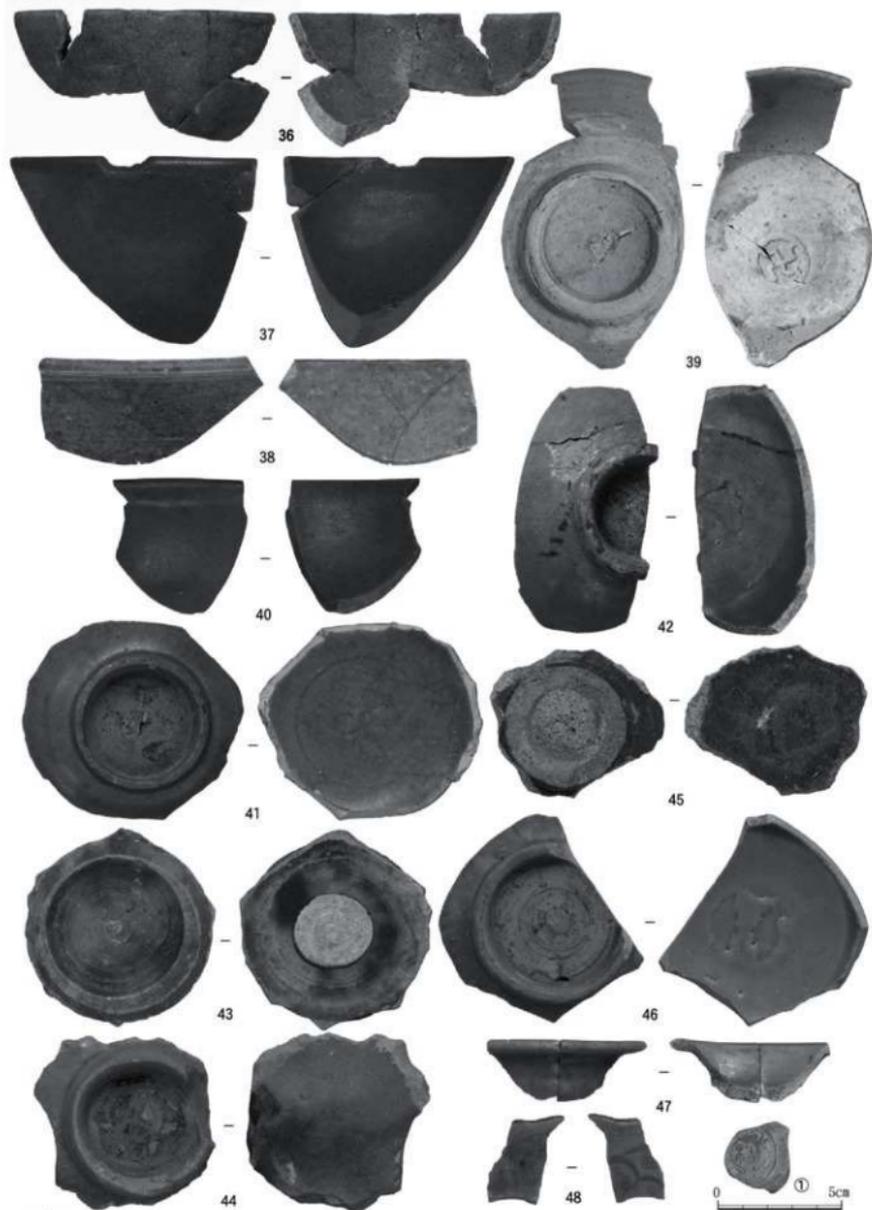
第100図 青磁 3



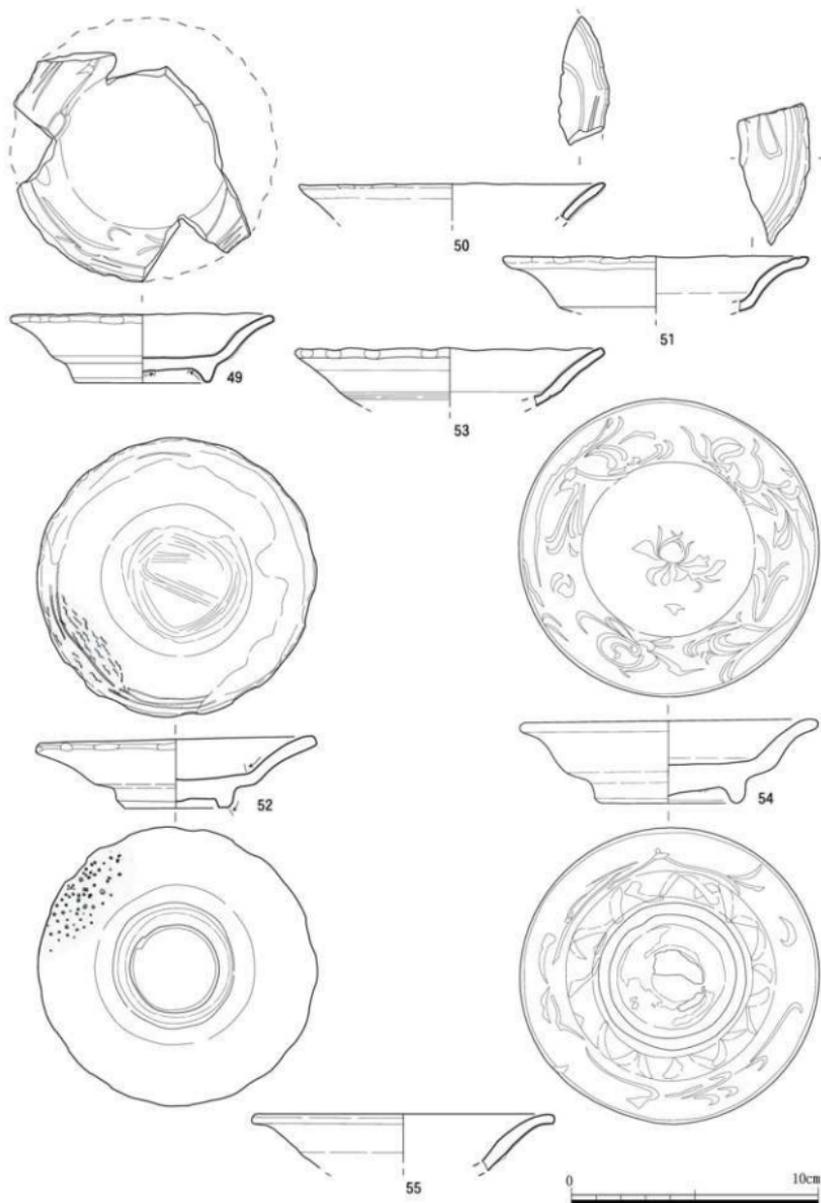
図版80 青磁 3



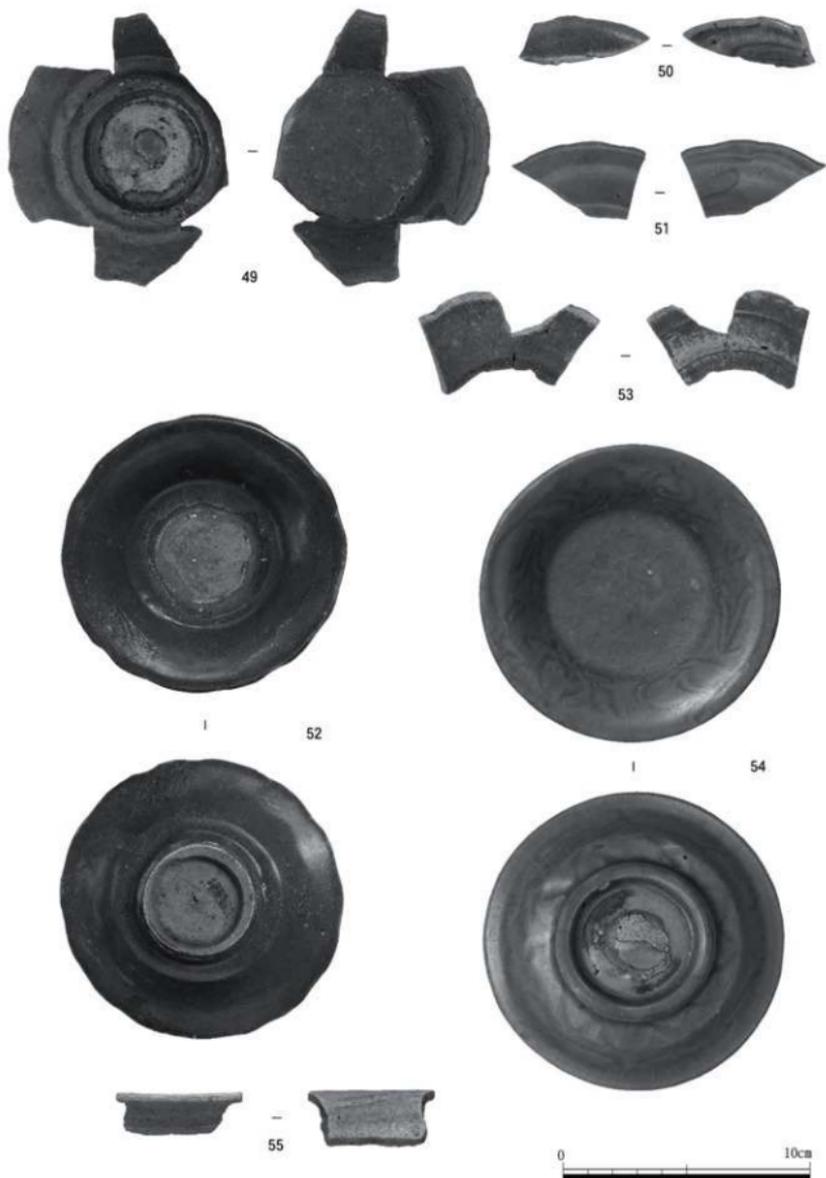
第101図 青磁4



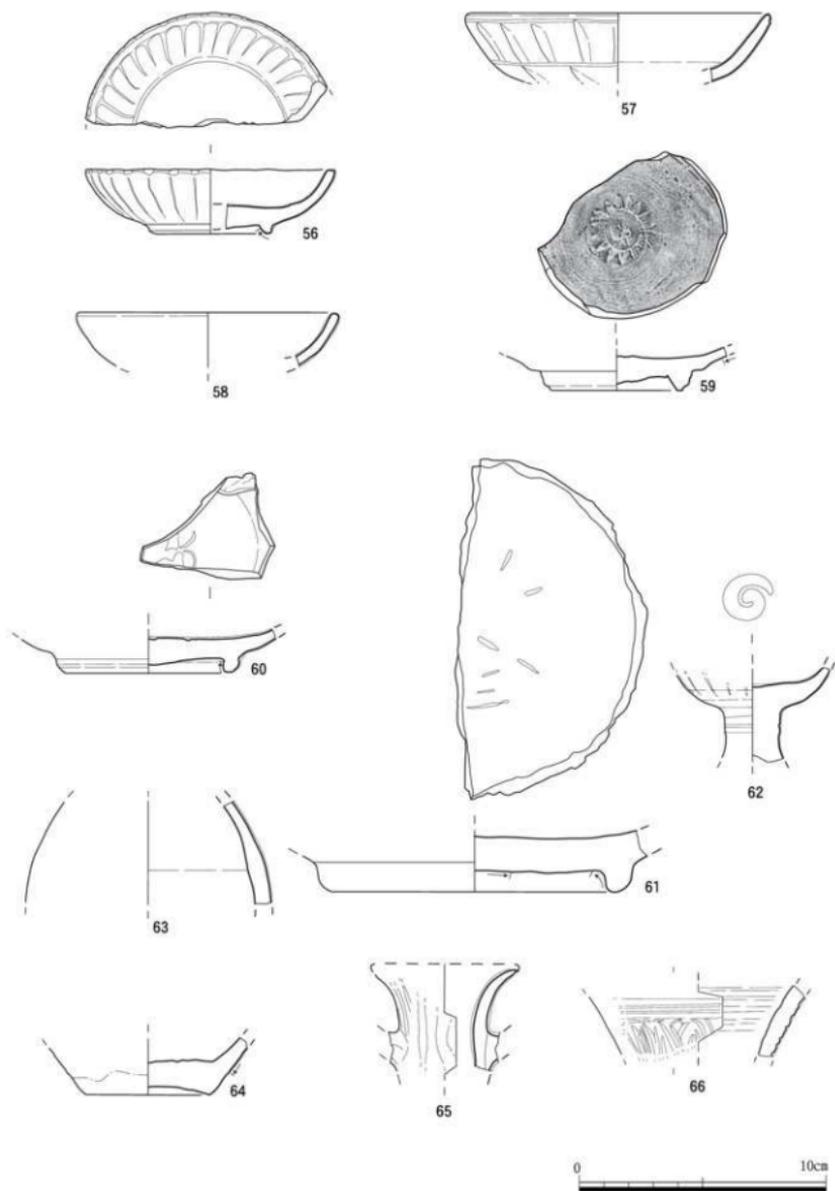
図版81 青磁 4



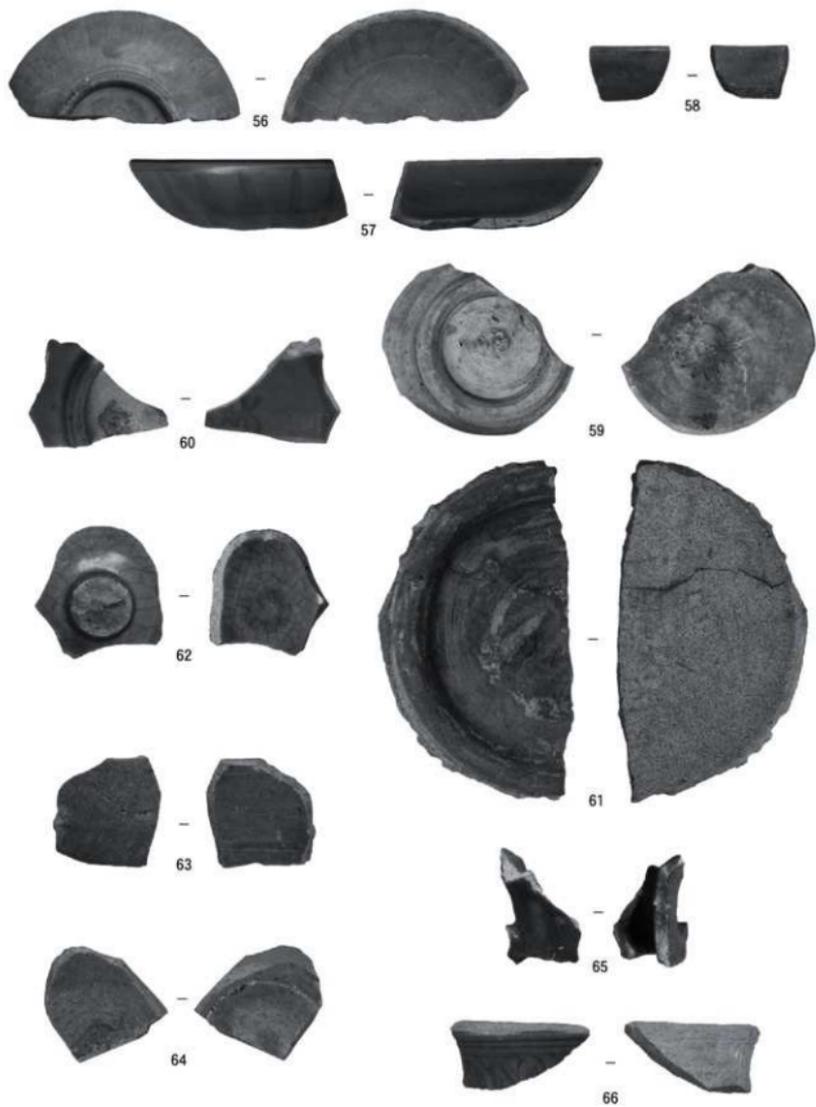
第102図 青磁 5



図版82 青磁 5



第103図 青磁6



図版83 青磁6

#### (4) 白磁

白磁は総数86点出土している。器種別では碗が42点と最も多く、次いで皿28点、壺5点、杯3点となっている。出土状況を見てみると、層別では第Ⅲ層で65点と多く出土している。調査区の南側に集中している。白磁は古手では玉縁口縁碗が2点、櫛目文碗が1点出土しているが少なく、概ね15世紀から16世紀頃が主体を成している。分類は器種別に行い、それぞれで細分可能なものは行った。個々の詳細は第49表に記した。

##### A. 碗

碗は器形より玉縁口縁碗、直口口縁碗、外反口縁碗、内彎口縁碗の4種類をⅠ～Ⅳ類に分けた。また、細分可能なものは行った。個々の詳細は第49表の観察表に記した。

##### Ⅰ類：玉縁口縁碗

口縁部は蒲鉾状に肥厚する。高台内削りは浅く高台断面は台形状で、内面側が斜位に削られる。玉縁口縁碗は口縁部と底部の2点出土している。口縁部は小破片のため割愛した。第105図1は底部片である。外面胴下部から外底は露胎である。内面は施軸する。

##### Ⅱ類：直口口縁碗

直口口縁碗には有文と無文がある。前者をA類、後者をB類に分けた。

A類：有文である。

図2は口縁部外面をやや突ませる。口唇部内端は稜を有する。外面に櫛描きの波状文を施す。この手に類似する資料が浦添市の当山東原遺跡で出土している(註1)。

B類：無文である。

口縁部は直口する(図3～5)。図3の外面口縁部下は窪みを呈し、口縁部は肥厚する。口唇部に沈線を巡らす。図4は外面口縁部下に稜を有する。図5は口唇部が平坦に成形する。

##### Ⅲ類：外反口縁碗

外反口縁碗は有文と無文がある。前者をA類、後者をB類とした。

A類：有文で外面に櫛目文が施される(図6)

図6の器形は、胴部は直口し、口縁部で反る。文様は口縁下部より極細の工具による櫛目文が施される。内面胴部に一条の横線が巡らされている。この手の資料は北谷町の後兼久原遺跡(註2)、小堀原遺跡(註3)で玉縁口縁碗と共存していることから12世紀頃と思われる。

B類：無文である。口縁部と口唇部の形状より更に3種類に分けた。

B a：口縁部は屈曲し鐮状を呈し、口唇部は舌状となる(図7)。

B b：口縁部内面を斜位に成形し、稜を有する。口唇部は舌状となる(図8～10)。

B c：口縁部は外反し、口唇部は舌状を呈する(図11)。

##### Ⅳ類：内彎口縁碗

A類：有文である。

図12は器壁が厚く重量感がある。口縁部はやや肥厚する。外面にヘラ彫りによる花文を施す。

B類：無文である。

図13は口縁部が口唇部はやや舌状をなす。

##### 碗底部

図14は外面胴部に丸彫りによる蓮弁文状を施す。高台は舌状を呈し、畳付は露胎である。図15は

高台外面を斜位に削り畳付は狭まる。高台脇は鉋削り痕が残る。内外面の胴下部まで施軸し内外底は露胎する。

### B.皿

皿は外反口縁皿、直口縁皿がある。前者をⅠ類、後者をⅡ類とした。個々の詳細は第49表に記した。

#### Ⅰ類：外反口縁皿

口縁部は外反し、無文の皿でサイズは大小の2種類ある。大きいサイズをア、小さいサイズをイに細分した。

ア類：口径が大きいサイズである（図16）。

イ類：口径が小さいサイズである（図17～20）。

図17は口縁部が強く屈曲し、鐔状を呈する。底部は高台外面を面取りし、畳付は尖る。図18は口縁部が微弱に外反する。底部は高台断面が台形状を呈する。図19は胴上部より緩やかに屈曲し外反する。外面は胴下部まで施軸する。図20は口縁部で外反する。底部は高台断面が三角形状を呈し、畳付は尖る。

#### Ⅱ類：直口縁皿

図21は口縁部外面を削り口唇部は舌状を呈する。

#### 皿底部

皿底部は有文をA種、無文をB種に分けた。

A：有文である。（図22・23）。

図22・23は内外面共に丸彫りによる蓮弁文を施す。図22は底径が広く高台は外端を面取りし、畳付は舌状を呈する。図23は底径が広く高台は内端を面取りし畳付は狭まる。

B：無文である。

図24はベタ底で口禿皿の底部と思われる。図25は底部より胴部の立ち上がりは弱く開き気味になる。高台は外端を面取りし、畳付は狭まる。図26は底部より胴部は立ち上がる。高台は外端を面取りし、畳付は尖る。

### C.杯

杯の口縁部は外反する。図27は薄手で口縁部は開く。図28は筒状を呈するため深めの杯である。図29は底部である。胴部は底部より立ち上がり口縁部で外反するタイプである。

### D.壺

図30は小型の壺で胴部外面まで施軸する。胴下部及び内面は露胎する。

### <註文献>

註1 浦添市教育委員会 2003『当山東原遺跡』浦添市文化財調査報告書 第33集

註2 北谷町教育委員会 2003『後兼久原遺跡』北谷町文化財報告書 第21集

註3 北谷町教育委員会 2012『小堀原遺跡』北谷町文化財報告書 第34集

第49表-1 白磁観察一覧

(法量単位: cm)

第9表 図取	図番 号	器 種	分類	口径 器高 底径	器形・文様・その他特徴	地区 小字「+」 器 遺構 取上番号 台帳番号
第105図・ 図版84	1	甕	I	— 6.4	玉縁口縁碗底面である。高台内削りは浅く、高台内面は斜位に成型し、高台は台形状を呈する。素地は白色微粒子で軸は淡灰白色。	イ B12 Ⅲ 取256 台1289
	2		IIA	— —	直口口縁碗である。口縁部外面に柳織きの波状文が施される。口唇部内面は稜を成す。素地は白色微粒子で軸は白色。貫入はなし。	ハ S8 Ⅱ 台200
	3		—	—	直口口縁碗である。外面口縁部下に窪みを有し、口縁部は肥厚する。口唇部に沈線を巡らす。素地は白色微粒子で、軸は淡灰白色。貫入はなし。	イ C11 Ⅲ 台1583
	4		II B	— —	直口口縁碗である。外面口縁部下に稜を有する。素地は白色微粒子で、軸は淡黄白色。貫入は細かい。	H19 S13 Ⅲ 台2348
	5		—	—	直口口縁碗である。口唇部は平坦である。素地は白色微粒子で軸は白色。貫入はなし。	イ A11 Ⅲ SK062 台2003
	6		IIIA	— —	外反口縁で外面に柳目文、内面に一条の横線が施される。器壁は薄い。素地は白色微粒子で軸色は白色である。貫入はなし。	H19 T14 Ⅲ 台2378
	7		IIBo	16.2 —	外反口縁碗である。口縁部は屈曲し鐮状を呈する。素地は白色微粒子で軸は乳白色。貫入はなし。	ハ Q11 Ⅲ SP14 台2316
	8		—	13.6 —	外反口縁碗である。内面口縁部を斜位に成形し、稜を有する。外面は輪轆底が残る。素地は白色微粒子で軸は白色である。貫入は細かい。	イ C11 Ⅲ 台1583
	9		IIIB	12.8 —	外反口縁碗である。内面口縁部を斜位に成形し、稜を有する。外面は輪轆底が残る。素地は白色微粒子で軸は白色である。内面胴下部まで施軸する。貫入は細かい。	ハ B9 Ⅲ 台2151
	10		—	12.0 —	外反口縁碗である。内面口縁部を斜位に成形し、稜を有する。素地は淡灰白色微粒子で軸は淡灰白色である。内面胴下部まで施軸する。貫入は細かい。	ニ Q7 Ⅲ SK01 台2374
	11		II Bc	10.6 —	外反口縁碗である。素地は白色微粒子で軸は淡灰白色。貫入はなし。	H19 S13 Ⅲ 台2345
	12		I VA	22.0 —	直口口縁皿である。口径が大きく深めで器壁が厚い。重量感のある碗である。外面に片切彫りによる花文を施す。口縁部はやや肥厚する。素地は白色微粒子で軸は白色である。貫入は粗い。	ハ B14 Ⅲ 台2203
	13		I VB	12.6 —	内彎口縁碗である。口縁部外面は軸が厚く、細かい貫入が見られる。内外面胴下部まで施軸する。	イ D13 Ⅲ P23 台2072
	14		底部	— 6.0	外面に丸彫りによる蓮弁文状の文様を施す。高台は舌状を呈する。畳付は露粘。素地は白色微粒子で軸は白色。貫入は細かい。	イ A11 Ⅲ SK062 台2003
	15			— 5.2	高台外面を斜位に削り畳付は伏まる。内外面胴下部まで施軸し、内外底は露粘である。素地は白色微粒子で軸は白色。貫入は細かい。	ハ B9 Ⅲ 台2131
第106図・ 図版85	16	Ⅲ	Iア	17.2 —	外反口縁皿で口径が大きいサイズである。やや深めである。素地は淡灰白色で軸は淡灰白色。貫入はなし。	イ C14 Ⅲ 取17 台17
	17		— 2.3 6.4	外反口縁皿である。口径は小さく浅めの皿である。口縁部の屈曲は大きく鐮状を呈する。高台は外面を面取りし畳付は伏まる。素地は淡灰白色で軸は淡灰白色である。高台内外面まで施軸し、畳付は露粘する。	ニ P7 Ⅲ SP24 台2327	
	18		Iイ	10.2 2.4 5.6	外反口縁皿である。口径は小さく浅めの皿である。口縁部は微羽に外反する。底部は高台断面が台形状を呈する。素地は淡灰白色で軸は淡灰白色である。高台内外面まで施軸し畳付は露粘する。	ハ P11 Ⅲ 台2161
	19		—	11.8 —	外反口縁皿である。口径は小さく浅めの皿である。胴上部より緩やかに屈曲し口縁部は外反する。外反胴下部まで施軸する。素地は白色微粒子で軸は淡灰白色である。貫入はなし。	ハ B9 Ⅲ SK04 台2244
	20		—	10.8 2.5 5.6	外反口縁皿である。口径は小さく浅めの皿である。底部は高台が三角形を呈し、畳付が伏る。底部の器壁は薄い。素地は白色微粒子で軸は乳白色である。	ハ B12 Ⅲ SP18 台2190
	21		II	8.4 —	直口口縁皿である。口縁部外面を削り口唇部は舌状を呈する。素地は白色微粒子で軸は白色。内外面胴下部まで施軸する。貫入はなし。	ニ B Ⅱ 取2337
	22		A	— 10.0	底径が広いことから大きいサイズの皿である。内外面に丸彫りによる蓮弁文を施す。高台は外面を面取りし畳付は舌状を呈する。素地は白色微粒子で軸は白色である。畳付は露粘する。貫入はなし。	ハ Q12 Ⅲ SK04 台2251
	23		—	— 9.6	底径が広いことから大きいサイズの皿である。内外面に丸彫りによる蓮弁文を施す。高台は内面を面取りし畳付は伏まる。素地は白色微粒子で軸は白色である。畳付は露粘である。貫入はなし。	H19 E13 Ⅲ 取265 台3120
24	B	— 6.0	バク底の皿である。内面の見込みから胴部の境で窪みを成して立ち上がる。口売皿の底部と思われる。素地は淡灰白色で軸は淡灰白色。貫入はなし。	イ C10 Ⅲ P17 台2075		

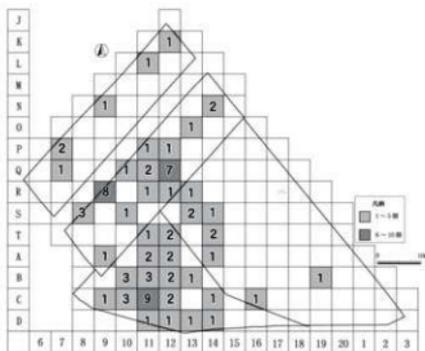
第49表-2 白磁観察一覧

(法量単位: cm)

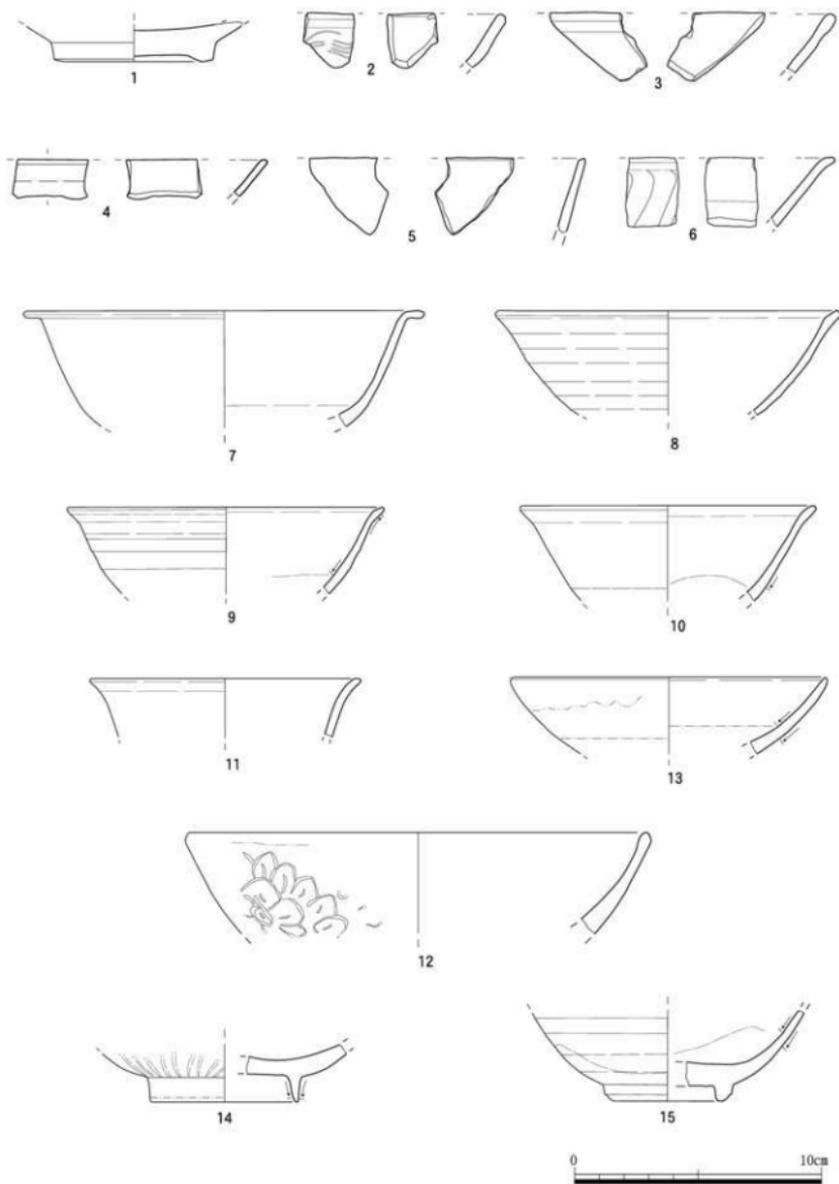
器種 図版	図版 番号	器種	分類	口径 器高 底径	器形・文様・その他特徴	地区 小計 '11' 器 遺構 出土番号 台帳番号
第106 図・ 図版 85	25	皿	B	— — 6.4	小さいサイズの皿である。高台外端を面取りし、高台は狭まる。素地は淡灰白色で軸は淡灰白色。貫入はなし。	イ C11 Ⅲ P24 台2065
	26	皿	B	— — 6.0	小さいサイズの皿である。高台外端を面取りし、高台は尖る。素地は淡灰白色で軸は淡灰白色。貫入はなし。	ハ P12 Ⅲ 台2180
	27	杯	—	7.0 — —	外反口縁の杯で口縁部は開く。薄手である。素地は白色微粒子で軸は白色。貫入はなし。	H19 S14 Ⅱ 台1619
	28	杯	—	4.8 — —	筒状を呈する深めの杯で薄手である。素地は白色微粒子で軸は白色。貫入はなし。	イ C12 Ⅲ 取123 台1567
	29	壺	—	— — 3.2	底部である。高台は外端を面取りし畳付は狭い。素地は白色微粒子で軸は白色。高台外面まで施軸し外底は露胎する。貫入はなし。	イ D11 Ⅲ 取76 台1621
	30	壺	—	— — —	小型の壺である。外面胴部まで施軸し、胴下部と内面は露胎する。素地は淡灰白色で軸は淡灰白色。貫入はなし。	ハ S8Ⅲ SD10 台2195

第50表 白磁出土量

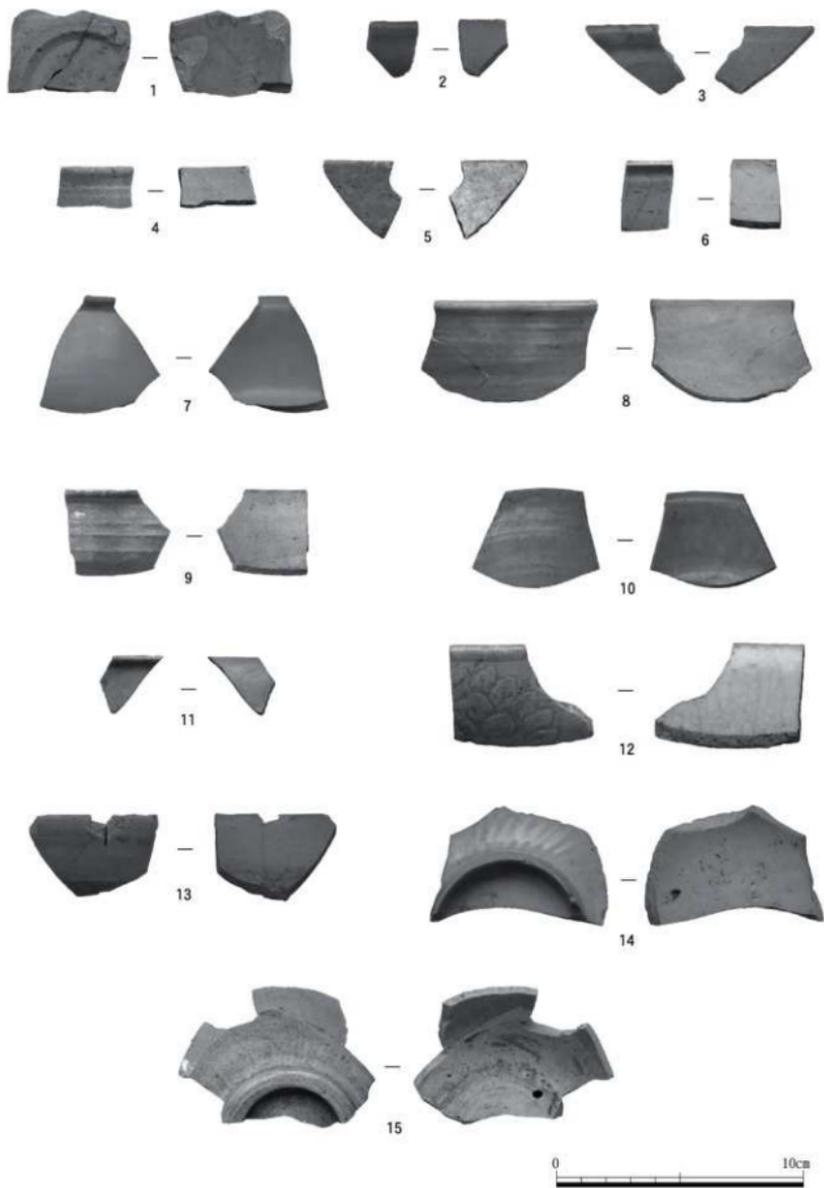
地区	器種	層序	碗		皿		杯		壺		不明		小計	地区 別計		
			口	底	口	底	口	底	口	底	口	底				
H19	Ⅱ			1				1					2	9		
		Ⅲ	3			2	1					1	7			
イ	Ⅱ	遺構	1	2								1	2	37		
		Ⅲ	7	7	3		2		1	1		3	1		25	
		遺構	2	1	1			2					1		7	
		Ⅲ	2	1		1	2	1			2				9	
ハ	Ⅲ	Ⅰ	1	2	1	1	2	1	1			1	11	29		
		遺構	1		1	1	3	2			1		9			
		Ⅱ					1				1		2			
ニ	Ⅲ	Ⅰ		1									1	6		
		遺構	1			1		1					3			
		Ⅱ			1								1			
不明	Ⅲ	Ⅰ			1								1	5		
		Ⅱ					2						2			
		Ⅲ	1				1						2			
小計			20	13	9	4	15	1	8	2	1	4	1	4	4	86
器種別計			42				28			3		5		8		



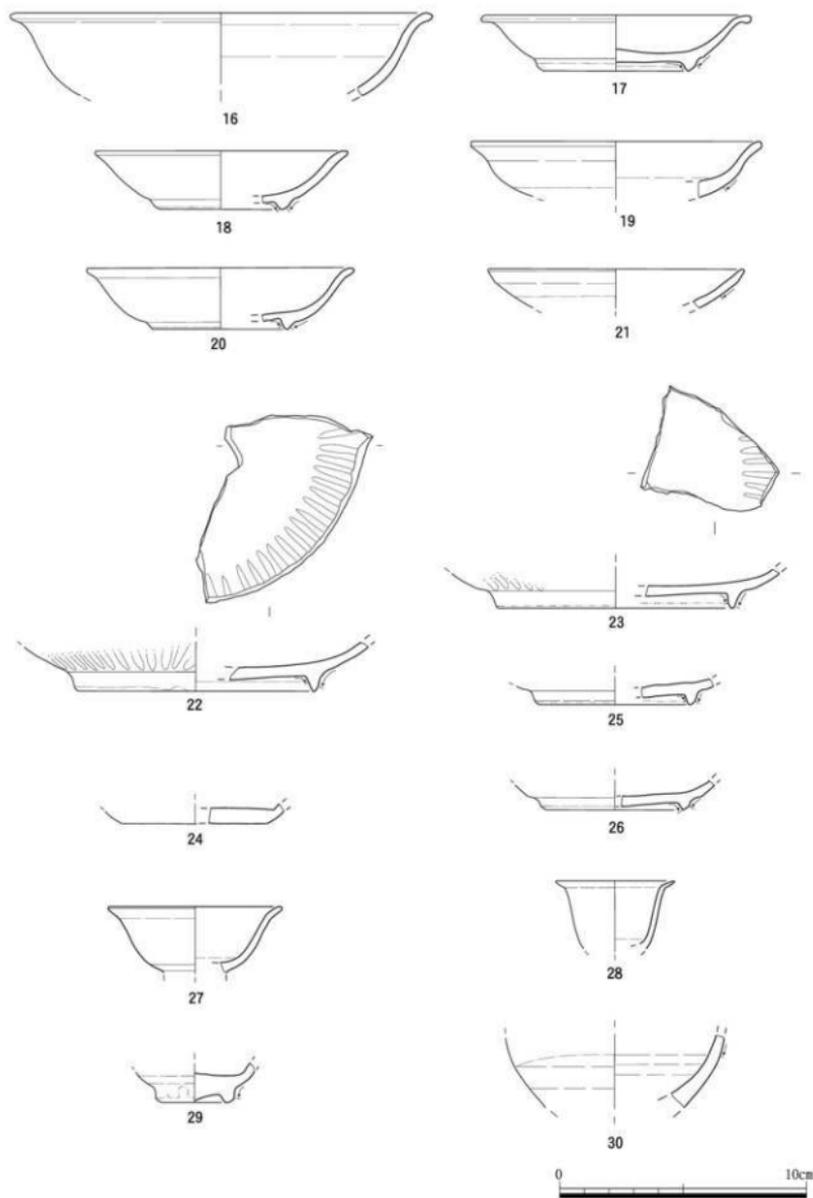
第104図 白磁平面分布



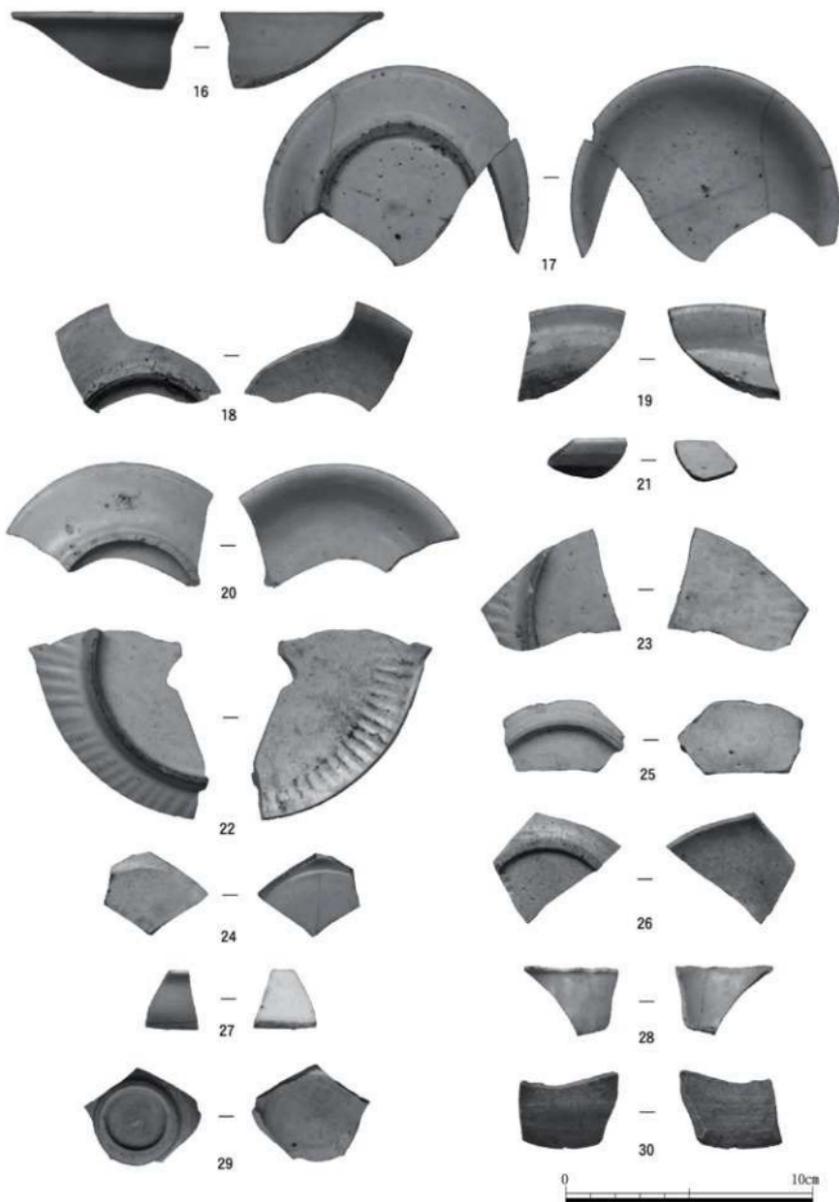
第105図 白磁 1



図版84 白磁 1



第106図 白磁 2



图版85 白磁 2

## (5) 染付

染付は総数230点出土している。得られた器種は碗、小碗、皿、瓶、杯、小杯、小瓶、鉢の8種類である。器種別では碗が177点と最も多く、次いで瓶18点、皿20点、小杯5点、鉢2点、小碗、杯、小瓶がそれぞれ1点となっている。出土状況を見てみると、層別ではⅢ層で154点と多く、調査区の中央部と南側に集中している。染付の分類は器種別に行い、それぞれで細分可能なものは行った。個々の詳細は第52表に記した。

### A. 碗

碗は器形より直口縁碗、外反口縁碗の2種類をⅠ・Ⅱ類に分けた。また、細分可能なものは行った。個々の詳細は第52表の観察表に記した。

#### Ⅰ類：直口縁碗

第108図1は口縁部内外面に界線、腰部内外面にも圏線が施される。見込みは目跡である。外面は腰下部まで施軸し外底は露胎する。高台は「ハ」の字状に開き、疊付内端が疊に付く。図2は外面口縁部下に2条の界線、胴部に草花文を施す。内面は口縁部下と見込みの縁側に界線を施す。図3は外面口縁部下に2本の界線を巡らす。胴部に人物文及び山水文、内面口縁部下と見込みの縁側に界線を巡らす。図4は外面口縁部下に界線を胴部には花文を施す。内面口縁部は界線を施す。図5は外面口縁部と下部に界線を巡らし、その間に唐草文を施す。内面口縁部に界線を巡らす。図6は外面口縁部下に2本の界線を巡らし、その下部に波濤文帯をさらに下部に2本の界線で囲う。胴部は芭蕉葉文、腰部と高台脇に界線を巡らす。内面は口縁部に界線、見込みに蓮花文を界線で囲う。図7は外面口縁部に界線、その下部に波濤文帯、腰部に芭蕉葉文を施す。図8の口縁部は口鏝を呈する。その下部に唐草文を施す。内面口縁部に界線を施す。図9外面は豹皮状文、内面口縁部下に界線を巡らす。図10は外面に花文を施す。図11は外面口縁部に雷文帯、胴部に唐草文を施す。内面口縁部とその下部に界線を巡らす。

#### Ⅱ類：外反口縁碗

図12は外面口縁下部に界線、胴部に宝相華唐草文、腰部に2本の界線を巡らす。内面は口縁部下に四方禪文を施す。

#### 碗底部

碗底部は口縁部の器形が不明なため、施軸方法により分けることとした。

A種：全施軸（図13）。

図13は腰部で唐草文を施す。内面腰部に界線を巡らす。外面に把手貼付け痕と思われ、他の器種の可能性もある。

B種：高台の疊付又は外底が露胎となる（図14～18）。

図14は見込みに草花文と2本の界線と腰部に1本の界線を巡らす。外面は腰部に2本の界線を巡らし、胴部は唐草文。図15は見込みに1本の界線を巡らし、外面は腰部に1本、高台外面位2本の界線を巡らす。図16は見込みが窪む蓮子碗である。外面は芭蕉葉文、見込みは蓮華文と圏線を巡らす。図17は見込みに蓮華文を施す。図18は外面に唐草文と腰部と高台脇に界線を巡らす。見込みは2本の界線を巡らす。

C種：内外面腰部まで施軸する（図19～21）。

図19の外面は胴部に唐草文を施し、その下部に界線を巡らす。内面は腰部に界線と直下に溝が巡る。図20・21は外面腰部下に界線を巡らす。内面腰部下に界線と溝が巡る。

**B.小碗**

図22は直口口縁碗で底部は上げ底状を呈し、疊付は舌状を呈する。外面胴部に花文を施す。

**C.皿**

皿は器形より直口口縁皿と外反口縁皿の2種類をⅠ・Ⅱ類に分けた。また、細分可能なものについては細分を行った。

**Ⅰ類：直口口縁皿**

図23の底部は碁笥底を呈する。文様は、外面口縁部下と胴上部に界線を巡らしその間に豹皮状文を施す。胴下部は芭蕉葉文、その下部に2本の界線を巡らす。内面は口縁下部の1本、腰部に2本の界線を巡らす。見込みは草花文？を施す。図24の底部は碁笥底を呈する。外面は無文。内面は口縁部下に1本、腰部に2本の界線が巡る。見込みは草花文？が施される。図25の底部は碁笥底を呈しやや大きめの皿である。口縁部を欠損するが直口口縁の可能性のあることからここで扱った。外面胴部は草花文？その下部に2本の界線が巡る。内面は腰部に2本の界線が巡り、見込みに寿文を施す。

**Ⅱ類：外反口縁皿**

図26は底部の高台内削りは浅く、高台は方形状を呈する。疊付から外底は露胎である。高台外面には砂の付着が残る。文様は外面の口縁部と高台脇に界線が巡る。胴部にも文様が施されるが構図が不明である。内面は口縁部に1本、胴部に2本、腰部に1本の界線が巡る。胴部の界線上に文様を施すが構図は不明である。見込みは草花文を施す。図27の文様は口縁部に界線を巡らし、胴部は唐草文を施す。内面は口縁部と腰部に界線を巡らす。図28は底部である。高台内削りは浅い。疊付は舌状を呈する。疊付は露胎である。文様は外面に草花文？腰下に2本、高台際に1本の界線が巡る。見込みは腰部に2本の界線が巡り、見込みは十字文を施す。図29の高台は舌状を呈する。疊付は露胎である。文様は外面胴部に唐草文と高台脇に2本の界線が巡る。内面は腰部に2本界線が巡り、見込みには十字文を施す。図30は大型の皿である。高台は三角形状を呈し、疊付は露胎する。文様は胴部に唐草文を施し、高台脇と高台外面に界線を巡らす。内面は胴部に唐草文？胴下部に1本、腰部に2本の界線を巡らす。見込みは唐草文と思われる。

**D.杯**

図31は外面胴部に如意頭文、高台脇に界線、高台外面に2本の界線を巡らす。見込みは如意頭文と2本の界線を巡らす。

**E.小杯**

小杯は器形より直口口縁をⅠ類、外反口縁をⅡ類、角杯をⅢ類の3種類に分けた。

**Ⅰ類：直口口縁**

図32は外面口縁部に界線、胴部に唐草文？を施す。内面は口縁部に界線を巡らす。図33口唇部を欠く。外面は胴部に唐草文？を施す。内面は口縁部と腰下部に界線を巡らす。

**Ⅱ類：外反口縁**

図34は口縁部に界線を巡らし、胴部に草花文？を施す。図35は本破片資料には文様が見られない。

### Ⅲ類：角杯

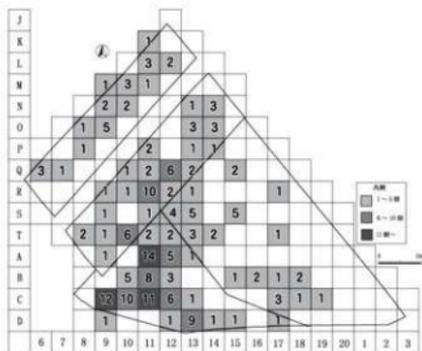
図36は角杯を呈するが全体像は不明である。内面は口縁部に界線、見込みに文様を施すが構図は不明。

### F.瓶

瓶は器形より2種類に分類した。

I類：仙蓋瓶と思われ、長い注口と把手、蓋が付くものと思われる。

図37は胴部に面を持ち、そこに草花文の窓絵の構図が施される。他に草花文を施す。高台脇と高台外面に圏線を巡らす。内面にも軸が掛る。



第107図 染付平面分布

Ⅱ類：口縁部は外反し頸部は窄まり、胴部は丸味を帯びる。

図38は口唇部と口縁部下の内外面に界線を巡らす。頸部は草花文？が施される。図39は胴上部で頸部は窄まるようである。草花文を施す。内面に若干軸垂れが見られる。図40は胴上部に宝相華唐草文を施し、その下部に2本、間隔を開けて更に1本の界線を施す。胴部は牡丹唐草文？を施す。内面にも軸が掛る。図41は牡丹唐草文？が施される。内面にも軸が掛る。図42は高台外面に2本の界線が巡る。内面は露胎である。

### G.小瓶

図43はベタ底で外底は露胎する。胴部に牡丹唐草文？が施される。

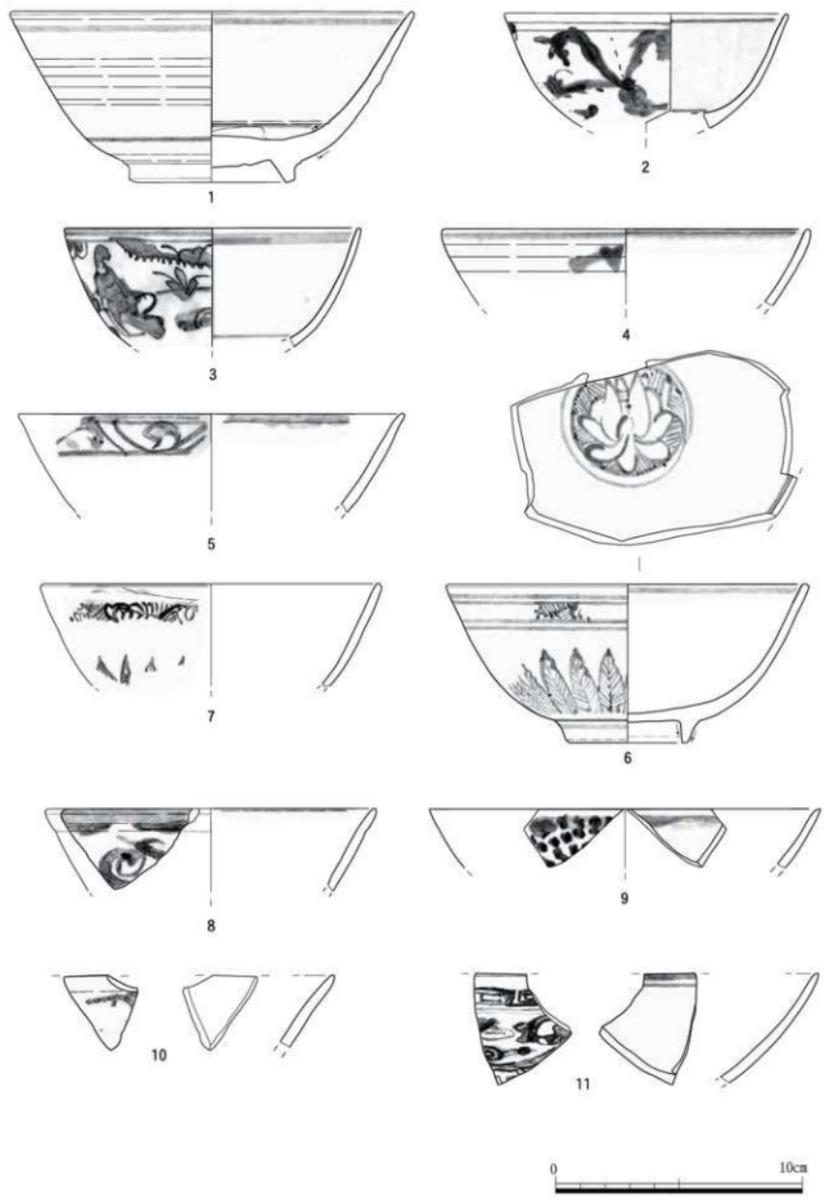
第51表 染付出土量

地区	層	器種	碗		小碗		皿		杯		小杯		瓶		小瓶		鉢		不明	小計	地区別計	
			口底	口	口底	口	口底	口	口底	口	口底	口	口底	口	口底	口	口底	口				
Ⅲ	Ⅱ		1	2	2							1									6	34
		遺構		1	2																	
Ⅲ	Ⅱ		9	6	5									1						1	22	3
		遺構		2	1																	
イ	Ⅱ		5	4	2									1							12	95
		遺構		1	1			1													1	
Ⅲ	Ⅱ		24	13	6			1	1			1	1	5						1	53	53
		遺構		10	6	3		1	1			2	3								1	
Ⅱ	Ⅱ		6	7	4					1				1		1				1	22	54
		遺構		1	7	3	2				1				1						1	
Ⅲ	Ⅱ		5	1	3	1	2	1	1					3							17	17
		遺構		4	4	5			3			1		1							1	
Ⅱ	Ⅱ								3	1											5	36
		遺構		1	4	3	2		1	1											12	
Ⅰ	Ⅱ		1		1																2	2
		遺構		2	3									1							6	
不明	Ⅱ		1																		1	11
		遺構		1																	1	
		不明							1											1	2	
小計			2	83	55	37	1	3	8	1	8	1	2	3	1	15	2	1	1	1	3	2
器種別計			177				1		20			1	5		18		1	2		5		230

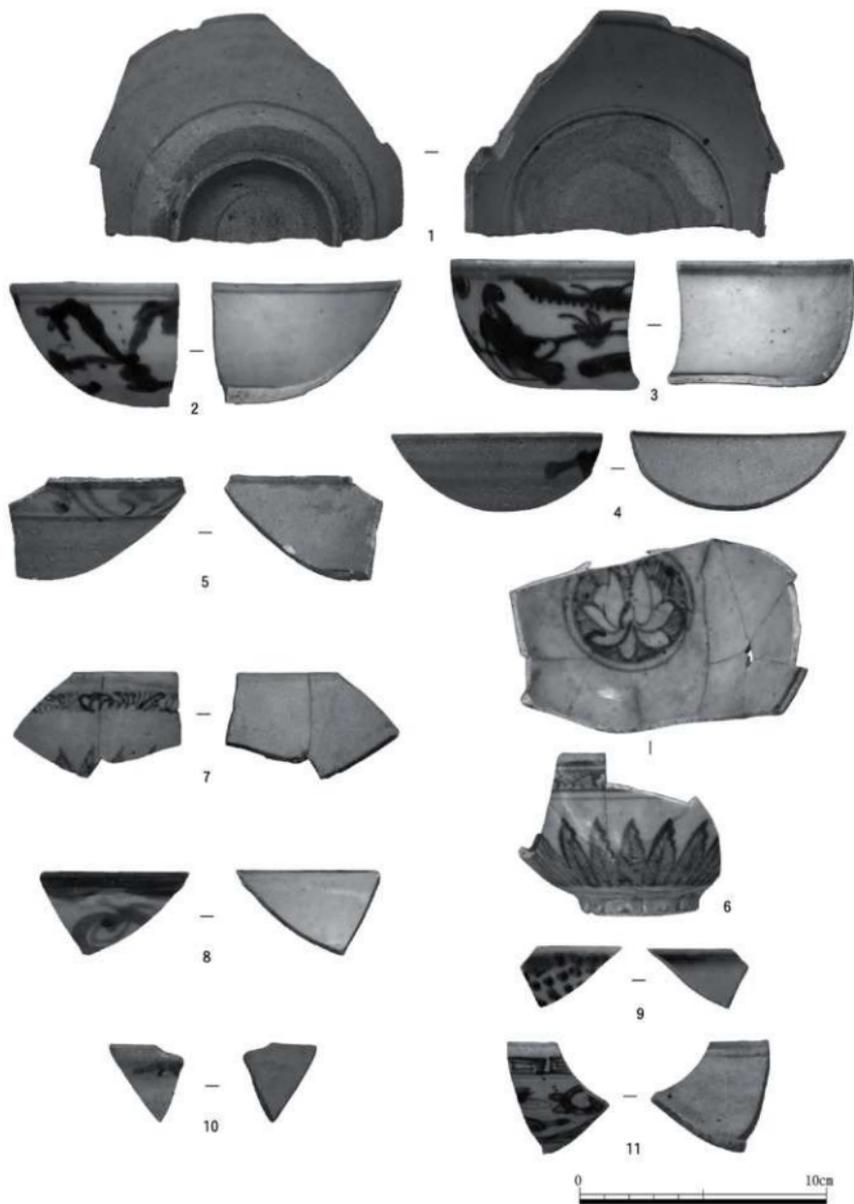
第52表-1 染付観察一覧

(法華単位: cm)

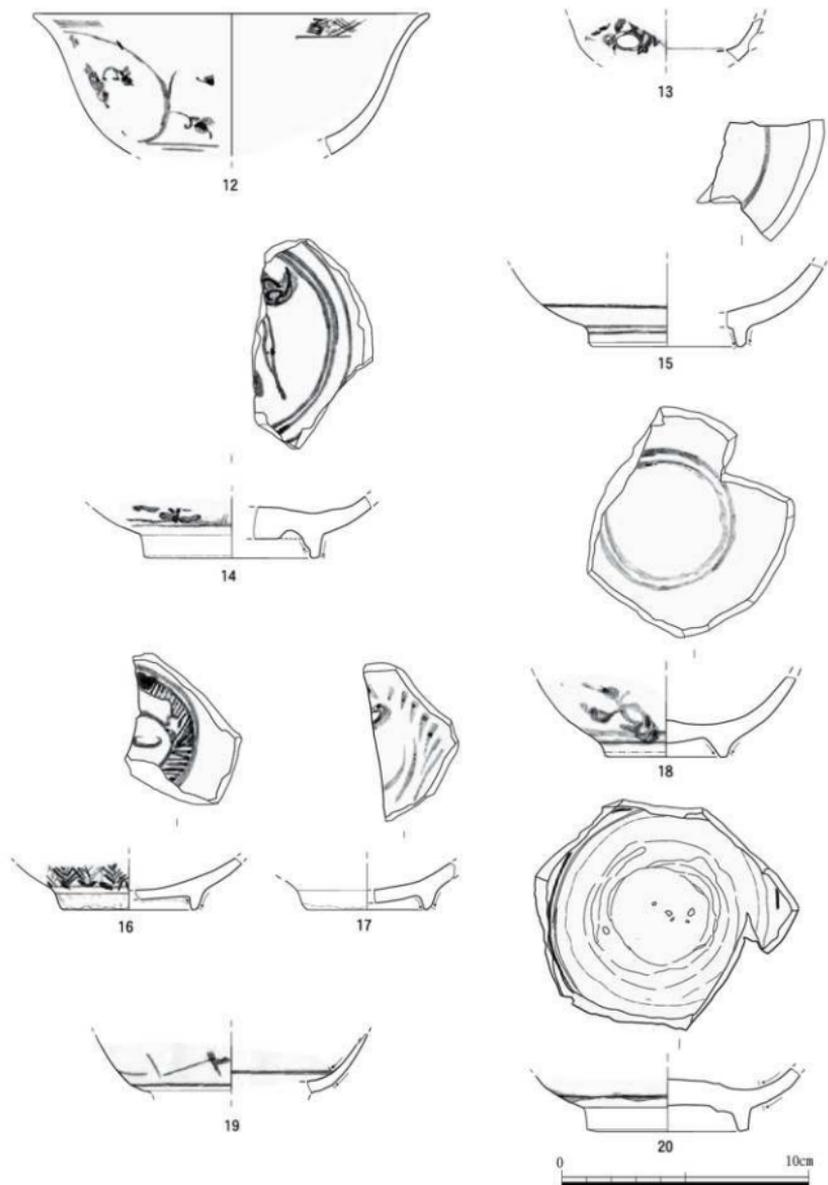
図版 図取	図 番 号	器 種	分 類	口径器 高さ径	素地	施繪・貫入	文様構成・呉須の発色等	地区 遺構 取上番号 台帳番号
第109図・ 図取87	I	碗	1	16.4 8.0 6.8	灰茶色細粒子	淡灰色で内外面腰部まで施繪する。 貫入は細かい。	内外面の口縁部と腰部に界線を施す。呉須は薄い。	ニ M9 III SP1 台2265
			2	11.5 -- --	白色微粒子	淡青白色。 貫入はなし。	外面口縁部に2本の界線を施らし胴部に草花文、内面口縁部と腰部に界線を施す。呉須の発色は良い。	ハ R9 III 台2130
			3	12.0 -- --	白色微粒子	淡青白色。 貫入はなし。	外面は口縁部下に2本の界線、胴部に人物文及び山水文。内面は口縁下と腰部に界線を施す。呉須は部分的に黒ずむ。	ハ R11 III SP28 台2158
			4	14.9 -- --	灰茶色微粒子	淡灰色。 貫入はなし。	外面は口縁部下に界線、胴部に花文、内面口縁部下に界線を施す。呉須はやや黒ずむ。	イ R11 III 取298 台1610
			5	15.4 -- --	淡灰色微粒子	淡灰色。 貫入は細かい。	口縁部直下と胴上部に界線を施らしその間に唐草文、内面口縁部に界線を施す。呉須は淡黒色である。	イ C11 III P22 台2940
			6	14.8 6.5 5.0	白色微粒子	淡灰白色。 貫入はなし。	外面は口縁部下に2本の界線を施らし、その下部に波瀟文を、更に2本の界線で囲う。胴部に芭蕉葉文、腰部と高台脇に界線を施す。内面は口縁部に界線、見込みに蓮花文と界線を施す。	ハ P11 III 台2149
			7	13.6 -- --	白色微粒子	淡青白色。 貫入はなし。	口縁部は波瀟文、胴部に芭蕉文を施す。呉須は淡黒色である。	H9 T14 III 台2354
			8	13.2 -- --	白色微粒子	淡灰白色。 貫入はなし。	口縁部は口縁、胴部は唐草文を施す。呉須の発色は薄い。	H9 R18 III 取69 台2357
			9	15.8 -- --	白色微粒子	淡灰緑色。 貫入は粗い。	口縁部外面は豹皮状文を施す。呉須の発色は良い。	ハ R11 III 台2097
			10	-- -- --	淡灰色微粒子	淡灰白色。 貫入はなし。	口縁部下に花文?を施す。呉須は薄い。	H9 R17 II 台2267
			11	-- -- --	白色微粒子	淡青白色。 貫入はなし。	口縁部に雷文帯、胴部に唐草文を施す、内面は口縁部下に2本の界線を施す。呉須は黒色である。	H9 T13 III 台1750
第109図・ 図取87	II	A	12	16.0 -- --	淡灰色微粒子	淡灰白色。 貫入は粗い。	外面口縁部の界線、胴部に宝相華唐草文、腰部に2本の界線を施す。内面口縁部に四方禪文、呉須の発色は良い。	H9 R18 III P8 台4276
			13	-- -- --	白色微粒子	白色。 貫入は粗い。	外面に唐草文、内面腰部に界線を施す。呉須の発色は良い、外面に把手貼付け痕か?	ハ Q12 II 台2204
			14	-- 7.0 --	白色細粒子	淡灰白色。 貫入は粗い。	外面は唐草文、腰部に2本の界線を施す。見込みは草花文、腰部に3本の界線を施す。呉須の発色は薄く部分的に黒ずむ。	H9 C18 II SK02 台2343
			15	-- 6.4 --	淡灰色微粒子	淡灰白色。 貫入はなし。	外面は腰部に1本、高台外面に2本の界線を施す。内面腰部に1本の界線を施す。呉須は薄い。	イ A11 III 取355 台1608
			16	-- 5.6 --	淡灰色微粒子	淡灰白色。 貫入はなし。	蓮子碗と思われる。外面は芭蕉葉文。見込みは蓮華文と界線が施される。呉須は黒色味が強い。	H9 C10 III 取32 台1634
			17	-- 4.8 --	淡灰色微粒子	淡灰白色。 貫入はなし。	見込みは蓮華文?。呉須は薄い。	H9 S12 III 取242 台2343
			18	-- 5.0 --	淡灰白色微粒子	白色。 貫入は粗い。	外面胴部に唐草文?腰部と高台脇に界線を施す。見込みは2本の界線を施す。	ハ R9 III 台2130+2152 R10 III 台2141 R11 II 台2106
			19	-- -- --	淡灰色微粒子	淡灰白色。 貫入はなし。	外面は唐草文?、内面腰部に界線が施す。呉須はやや黒ずむ。	イ A11 III P8 台2071
			20	-- 6.4 --	淡灰色微粒子	淡灰白色。 貫入はなし。	外面腰部に鈿附り痕と界線が施す。内面腰部に界線と溝が施す。呉須は薄い。	イ C11 III P20 台2048
			21	-- -- --	淡灰色微粒子	淡灰白色。 貫入はなし。	内外面腰部に界線が施す。呉須は薄い。	H9 D18 III 台2416
			第110図・ 図取88	I	皿	22	7.0 3.7 3.0	淡灰茶色微粒子
23	10.4 2.4 2.6	淡灰色微粒子				淡灰白色。 貫入はなし。	外面口縁下と胴部上位に界線を施し、その間に豹皮状文、胴部に芭蕉葉文の下部に2本の界線を施す。内面は口縁部下に1本、腰部に2本の界線を施し、見込みは草花文と思われる。呉須の発色は良い。	ハ O13 III SP30 台2295
24	10.0 2.7 3.2	淡灰色微粒子				淡灰白色。 貫入はなし。	内面口縁部に1本、腰部に2本の界線を施す。呉須はやや黒ずむ。	ハ O8 III SP1 台2272 SK01 台2273



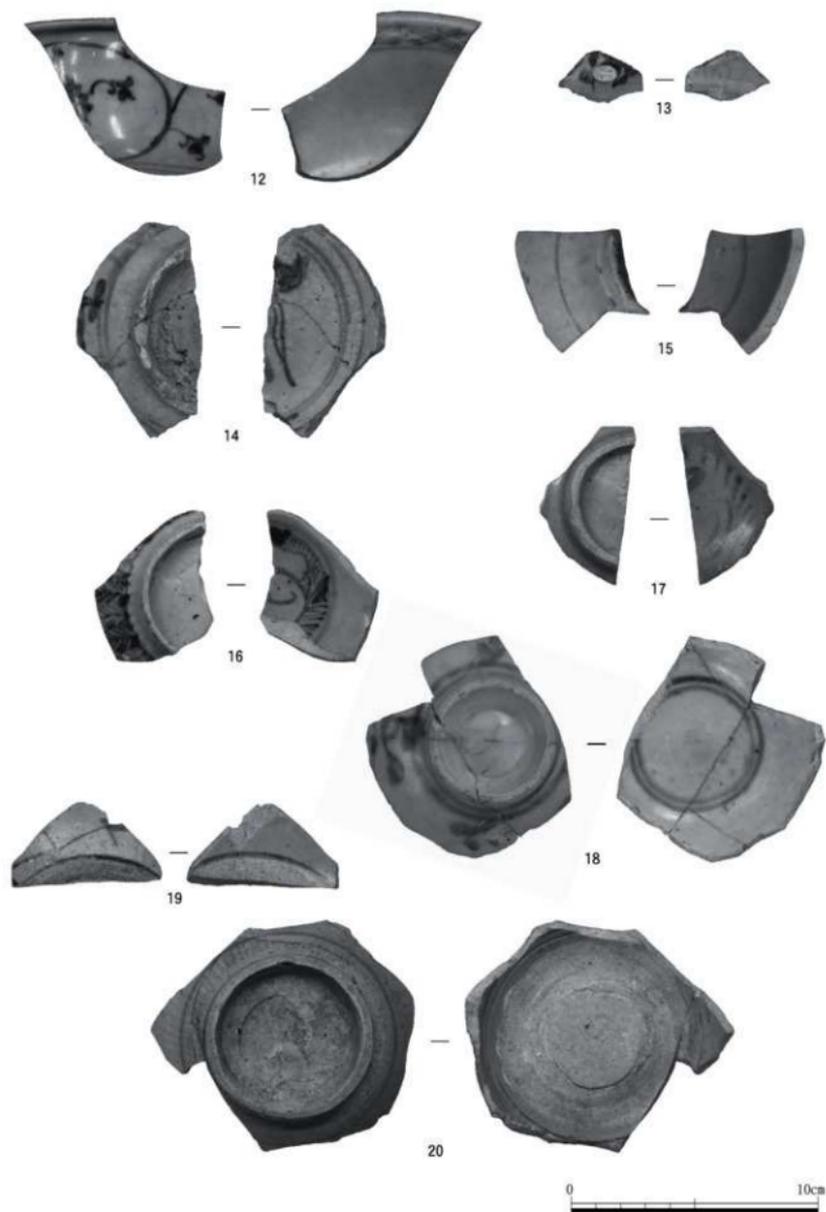
第108図 染付 1



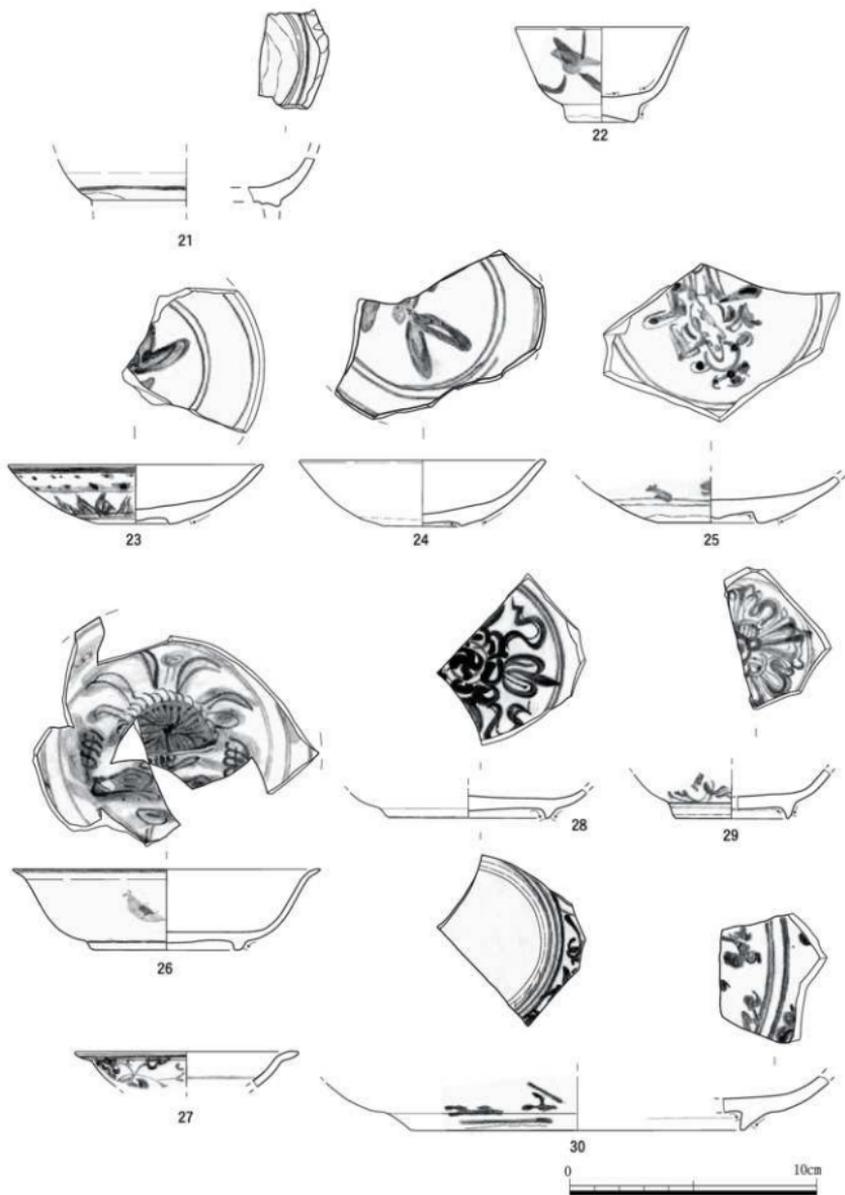
図版86 染付1



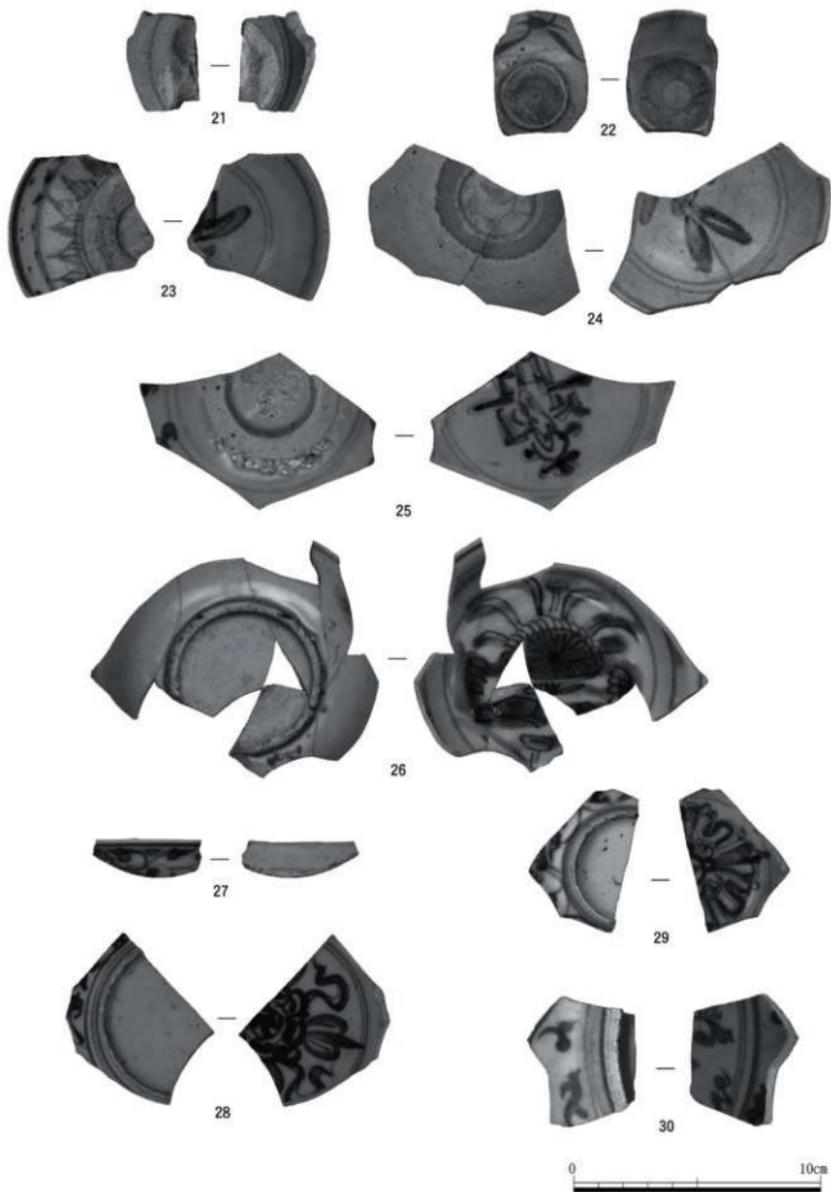
第109図 染付2



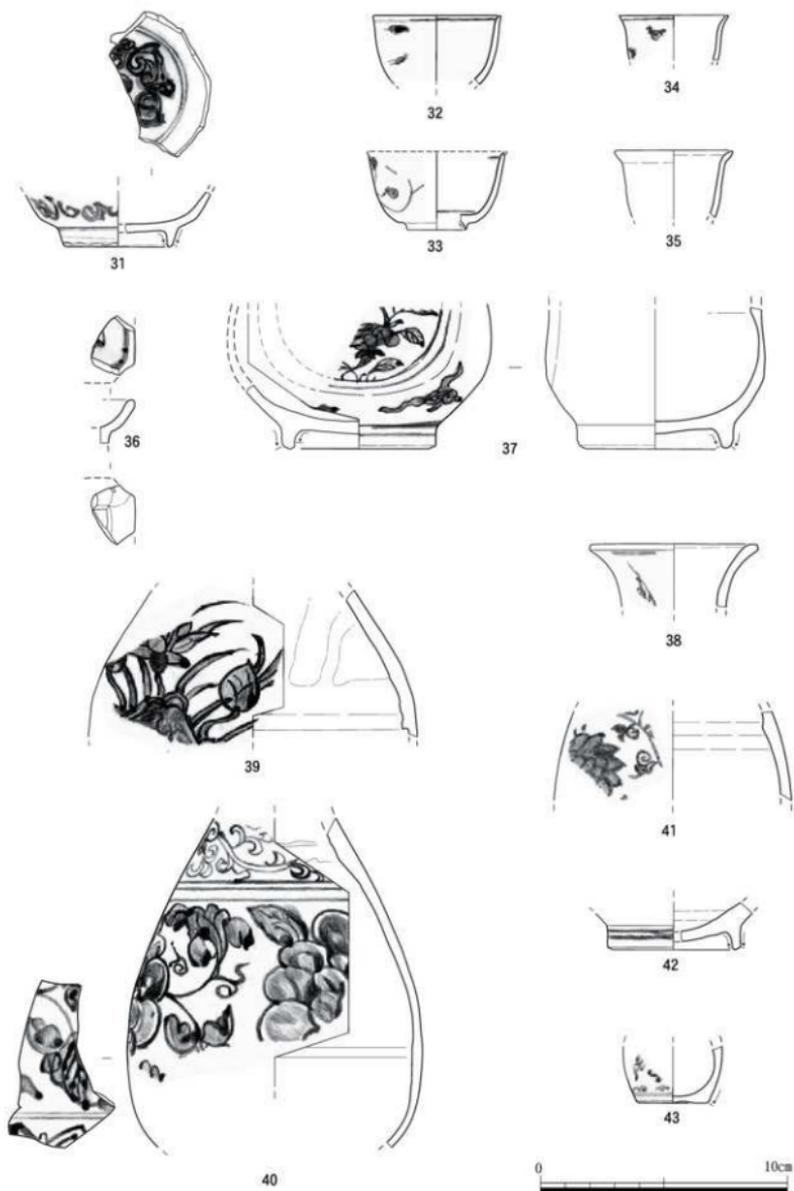
図版87 染付2



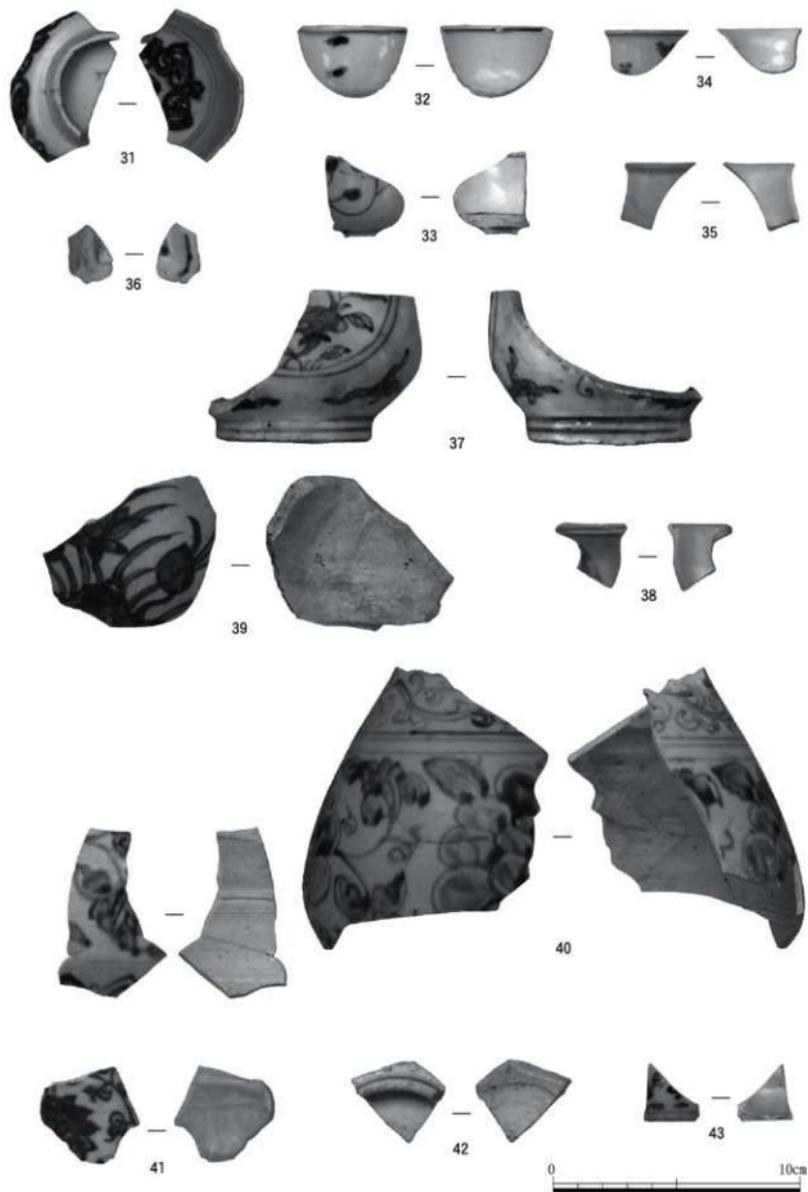
第110図 染付3



図版88 染付3



第111図 染付4



図版89 染付4

第52表-2 染付観察一覧

(法量単位: cm)

原図 図版	図 番 号	器 種	分 類	口径器 高さ径	素地	施繪・貫入	文様構成・呉須の発色等	地区 遺構 取上番号 台帳番号			
第110図・ 図版88	皿		I	-	淡灰色微粒子	淡灰白色。 貫入はなし。	外面胴部は草花文?腰部に2本の界線を施す。内面腰部に2本の界線を施し見込みは寿文を施す。呉須は部分的に黒ずむ。	ニ N9 III 台2408			
				12.4 3.3 6.0	白色微粒子	白色。 貫入はなし。	外面は口縁部と高台脇に界線が施る。内面は口縁部に界線、その下部に花文?腰部に界線、見込みは草花文が施される。呉須は発色が良い。部分的に黒ずむ。	イ C12 III P34 台2032/2033 P6 台2041			
				9.0 -	白色微粒子	白色。 貫入はなし。	外面口縁部下に界線を施らし、胴部は唐草文を施す。呉須の発色は良い。	ニ O9 III S01 台2278			
			II	-	淡灰白色微粒子	白色。 貫入はなし。	外面胴部は唐草文、高台脇に2本、高台外面に1本の界線を施す。見込み2本の界線が施り、十字花文を施す。呉須はやや黒ずむ。	ニ N10 III SP28 台2340			
				-	淡灰色微粒子	淡青白色。 貫入はなし。	外面は唐草文、高台脇と高台外面に界線を施す。見込みは2本の界線が施り、十字花文を施す。呉須の発色は良い。	ニ O9 III 台2400			
				4.8 -	白色微粒子	白色。 貫入は粗い。	外面胴部は唐草文、高台脇と高台外面に界線を施す。内面は唐草文?。見込みは3本の界線が施り、唐草文?を施す。呉須の発色は良い。	イ C11 III R191 台1604			
			第111図・ 図版89	小 杯		I	-	白色微粒子	白色。 貫入はなし。	外面胴部は如意頭文を施し、高台脇に1本、高台外面位2本の界線が施る。見込みは2本の界線が施り、如意頭文を施す。呉須はやや黒ずむ。	ニ Q7 III 台2417
							5.2 -	白色微粒子	白色。 貫入はなし。	外面口縁部下に界線が施り、胴部に花文?を施す。内面は口縁部下に界線が施る。呉須の発色は良い。	イ O9 III P21 台2063
							5.6 3.2 2.4	白色微粒子	白色。 貫入はなし。	外面に唐草文?を施し、高台脇に界線を施す。内面は口縁部下と腰下部に界線を施す。呉須の発色は良い。	イ T13 III 台1750
						II	4.4 -	白色微粒子	白色。 貫入はなし。	外面は口縁部下に界線を施らし、胴部に草花文?を施す。呉須は発色が良い。	イ O9 III P7 台2068 イ C11 III 取283 台1040
4.4 -	白色微粒子	白色。 貫入はなし。					内面腰部下に界線が施される。呉須は発色が良い。	H9 C17 II 台2363			
-	淡灰色微粒子	白色。 貫入はなし。					内面口縁部下と見込みに界線が施される。呉須の発色は良い。	ニ L11 II 台2392			
I	6.2	淡灰色微粒子				白色。 貫入は粗い。	外面は草花文の窓枠の構図で、周囲にも草花文が施される。高台脇と高台外面に界線が施る。呉須の発色は良い。	ハ 重機屋削 II 台2101 ハ P11 III 台2160			
	6.6 -	白色微粒子				白色。 貫入はなし。	口唇部と口縁部内外下に界線を施す。胴部には草花文?が施される。呉須はやや薄い。	イ B10 III 取53 台1620			
	-	淡灰色微粒子				白色。 貫入はなし。	外面は草花文を施す。呉須はやや黒ずむ。	不 不 III 台1765			
	II	-				淡灰色微粒子	白色。 貫入はなし。	胴上部は宝相草唐草文、その下部に2本の界線を施らし、更に下部に1本の界線を施らし、胴部に牡丹唐草文を施す。呉須はやや薄く部分的に黒ずむ。	ハ Q12 III S04 台2251 ハ Q13 III P02 台2247		
		-	白色微粒子	白色。 貫入はなし。	胴部は牡丹唐草文?を施す。呉須はやや黒ずむ。	ハ 重機屋削 II 台2101					
		5.4 -	白色微粒子	白色。 貫入はなし。	高台外面に2本の界線を施す。呉須の発色は良い。	H9 S13 III 台2348					
	2.9	淡灰色微粒子	白色。 貫入はなし。	胴部は牡丹唐草文?が施される。その下部に界線が施る。	ハ N13 II 台2150						

## (6) 褐釉陶器

褐釉陶器は中国産348点、タイ産212点の総数560点得られた。器種は壺・壺又は甕・瓶・播鉢などで、中国産、タイ産共に壺が最も多く出土している。産地別に紹介する。

### A. 中国産

中国産褐釉陶器は348点出土した。得られた器種は壺181点、瓶3点、急須・鉢・播鉢各1点、壺又は甕5点、器種不明が156点となっている。出土状況を見てみると、第Ⅲ層241点、第Ⅱ層84点、第Ⅰ層13点となっている。調査区では中央部から南西側に集中している。以下、器種ごとに分類概念を述べ、個々の詳細は第55表に記すこととする。

#### 1. 壺

壺は口縁部の形状や器形からⅠ類からⅥ類の6種類に分けた。胴部は丸味を帯びるもの(図15・17・18)と胴上部がいかり肩又は最大径を成し底部へ移行するものがある(図14・19・20)。

底部は反りながら立ち上がるもの(図22・24・25・27)と直線的に立ち上がるもの(図23)、ややくびれて直線的に立ち上がるもの(図26・28)、高台を成すもの(図21)がある。

Ⅰ類：口縁部は不定型な隅丸方形を呈し、口唇部は水平に仕上げる(図1～3)。

図1～3の口縁部外端は突出し、図1・3は内面もわずかに張り出す。頸部は内傾し肩部はいかり肩となる。大型の壺である。

Ⅱ類：口縁部は方形を呈し、口唇部は水平である。口唇部内外端を揃み出す(図4)。

口縁部断面は方形を呈し、頸部は内傾すると思われる。

Ⅲ類：口縁部断面が三角形を呈し、口唇部は平坦となる。肩部は丸味を帯びるものと撫で肩がある(図5～7)。

図5は口縁部から胴部へと丸味を帯びる。図6の口縁部下はくびれ、胴上部で胴部の最大径となると思われる。図7の頸部は内傾し、胴上部で肩が張ると思われる。

Ⅳ類：口縁部は内彎し、口唇部は丸味を帯びる(図8)。

無頸で器壁が薄いことから小型の壺と思われる。

Ⅴ類：口縁部は外反する(図9)。

口縁部は外反し、頸部は内傾する。胴部は上部で僅かに張り丸みを帯びる。

Ⅵ類：口縁部は肥厚する(図10～13・図16)。

図10は玉縁状に肥厚し、内端部は微弱に張り出す。頸部は内傾し、胴部は丸味を帯びる。図11は口縁部外端部を張り出し肥厚する。図12の口縁部外端部は微弱に張り出す。頸部は内傾し、胴上部はいかり肩を成す。図13・16の口縁部外端は揃み出し突出する。図16は図上復元を行った。頸部は内傾し、胴上部で最大径を呈する。底部は上げ底状を呈し高台を成す。

#### 2. 急須

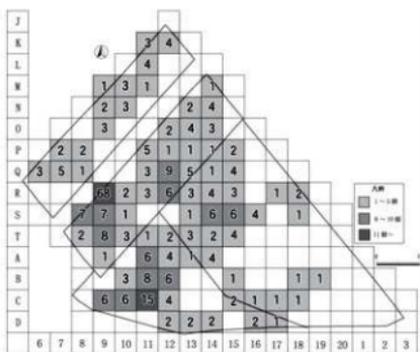
図29は急須の底部で撮み状に貼付けたものである。

#### 3. 不明

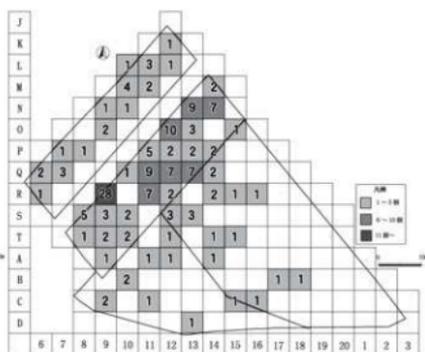
図30は口縁部で逆「L」字状を呈し、口縁部内面には蓋受と思われる突起を有する。

第53表 褐釉陶器（中国産）出土量

地区	層	分類	壺		壺or甕	罍鉢	鉢	瓶	急須	不明			合計	地区別計			
			口	底	口	頸	胴	底	胴	胴	胴	底			口	頸	胴
III	II			1	4							2	7	58			
		遺構										1	1				
	III		1	1	27	2	1					7	1		40		
		遺構	1		6										7		
	IV			1	1								1		1		
表採			2	5								3	10				
I	II			1			1					3	5	77			
		遺構							1			3	1		41		
	III		1	1	27	5	2		1			4	21				
		遺構				13	1	1	2						13		
II	I		1	1								11	13	163			
		遺構			1	9	2		1		19	4	37				
	III		1	5	1	19	3			1	1	60	3		94		
		遺構		2		5						8	1		16		
	IV			1								2	2		3		
遺構				1	11			1			8	2	23				
I	II				1							4	11	50			
		遺構				6	1								11		
	III		2		6					1	2		11				
		遺構			1							2	1		4		
合計			1	17	7	142	14	5	1	1	3	1	3	2	138	13	348
器種別計			181			5	1	1	3	1	156						



第112図 褐釉陶器（中国産）平面分布



第113図 褐釉陶器（タイ産）平面分布

## B.タイ産

タイ産褐釉陶器は212点出土している。得られた器種は壺159点、瓶6点、播鉢1点、壺又は甕5点、器種不明が41点となっている。出土状況を見てみると第Ⅲ層で128点、次いで第Ⅱ層67点、第Ⅰ層9点となっている。調査区では中央部から南西側に集中している。以下、器種別に述べ、個々の詳細は第55表の観察表に記した。

### 1. 壺

壺は、口縁部は玉縁状又は隅丸方形状で肥厚し外反する。図31は口縁部が長楕円状で肥厚する。釉の風化が顕著で素地が露胎する。図32は、口縁部は直下で若干窄まり肥厚する。釉の風化が見られる。図33は、口縁部が隅丸方形状に肥厚するもので、口縁部外下は横位に削り調整が行われ浅い抉りが残る。口縁部から外面にかけて軸は施される。図34は、撫で肩を成す胴部片で、器壁は薄い。外面に軸が施される。内外面ともに轆轤痕が残る。図36は胴部片で下部と思われる。外面に軸垂れが見られる。図37は、肩部片で肩が張る。横耳を有していたようで貼付け痕が残る。頸部下に小さな山形に突出が巡る。図38は、大型壺の胴下部で、軸垂れが見られる。図39～42は底部片である。図39は、内面の器面調整は丁寧である。外面は下部に2本の沈線が巡る。図40は、底部は薄く胴部へはやや直線的に立ち上がる。外面底部近くまで施軸する。図41は、高台状の底部で逆「ハ」の字状に開く。図42は、器壁が厚い。輪積みの痕跡が残るが、器面調整は丁寧に仕上げる。底部から胴部への立ち上がりは緩やかに開く。

### 2. 瓶

図35は瓶の胴部で頸部にかけて窄まる。

### 3. 播鉢

図43は内面に15条の櫛目が見られる。外面は轆轤調整痕が明瞭に残る。

第54表 褐釉陶器（タイ産）出土量

地区	層	分類	壺		壺or甕	播鉢	瓶	不明		合計	地区別計		
			口	頸	胴			底	胴			頸	胴
III	I				1						1	22	
				1	2						3		
	III			9	1	2			2		14		
		遺構	1		2						1		4
I	II			1							1	10	
				2	1	3					6		
	遺構			1	1		1				3		
ハ	I		1		5	1				1	8	133	
			2	1	23	3		1	5	3	38		
	III		1	1	38	3		3	1	15	2		64
		遺構			10	4		1		3			18
	IV				4					1	5		
ニ	II				20	1			2	1	24	47	
		遺構			1								1
	III				8	1			2	1	12		
		遺構			4	2		1					7
	IV				2			1			3		
合計			5	3	133	18	5	1	6	2	30	9	212
器種別計			159			5	1	6	41				

第55表-1 褐釉陶器(中国産・タイ産)観察一覧

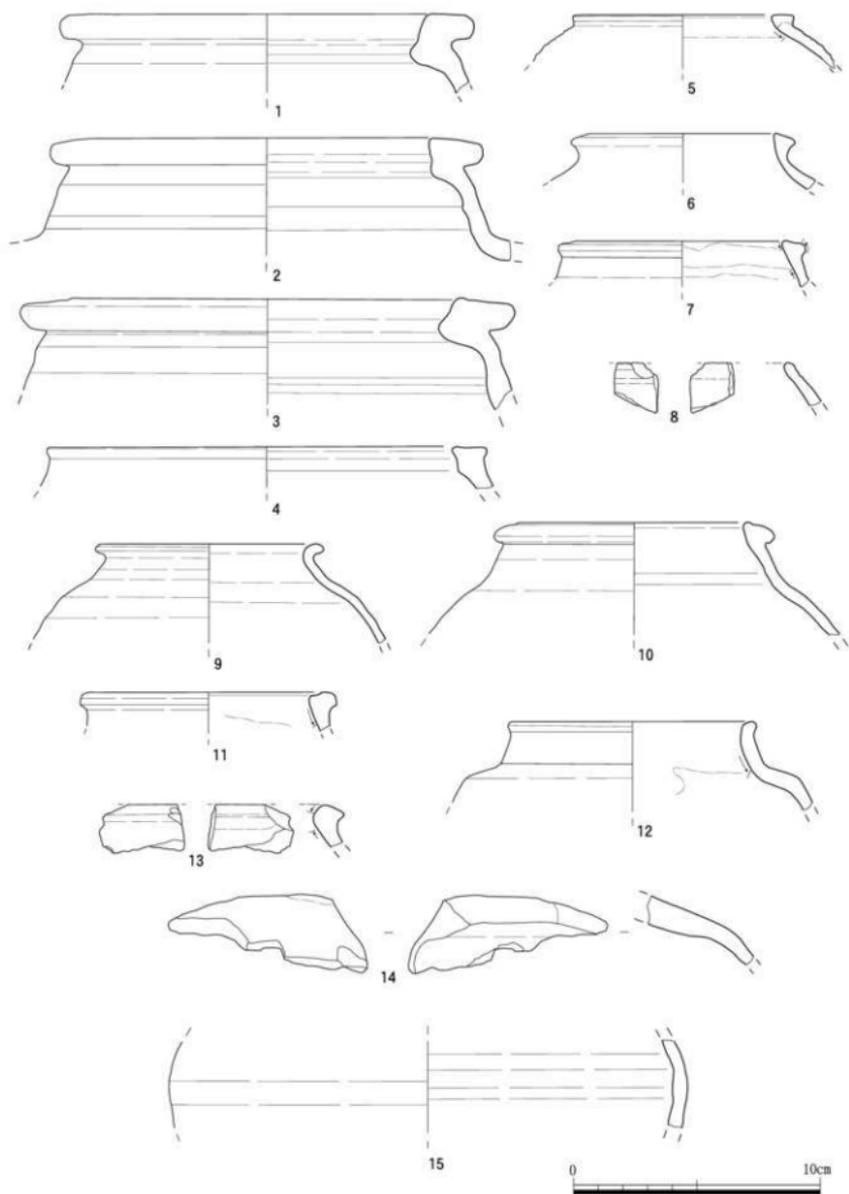
(法華単位: cm)

図版	図番号	産地	器種	分類	口径 器高 底径	素地	釉色	その他特徴	地区 小ナリ 層 遺構 取上番号 台帳番号
第114 国・ 図版 90	中 国 産			I	16.0	灰色細粒子	褐色釉が施されているが釉の風化が見られる。	口縁部の断面は不定型な隅丸方形を呈する。口縁部内面下は僅かに突出する。	H19 S14 II 台2438
					17.6	濃灰色細粒子 細かい赤色粒を含む	黒褐色施される。	口縁部の断面は不定型な隅丸方形を呈する。頸部から肩部への屈曲からいかり肩を呈する。内面に轆轤痕が残る。	ハ R9 III 台2130
					20.0	灰茶色細粒子 細かい白色粒を含む	淡茶緑色釉である色があせている。	口縁部の断面は不定型な隅丸方形を呈する。口縁部内面下は僅かに突出する。	ハ R9 III 台2130
				II	17.8	灰色細粒子 細かい白色粒を含む	茶褐色釉を施す。口唇部は露胎する。	口縁部断面は方形状を呈し、口唇部内外端を揃み出す。	ハ 不明 I 台2102
					9.0	灰色細粒子 白色粒を含む	外面に緑褐色釉が施されるが釉が剥がれ二つこつする。	口縁部は断面が三角形を呈し、口唇部が平直となる。器壁が薄い。	ハ R11 III SP28 台2158
				III	8.8	灰色細粒子	黒色釉が施される。	口縁部は断面が三角形を呈し、口唇部が平直となる。器壁が薄い。	イ B11 III 台1725
					10.0	茶紫色細粒子 白・黒色粒を含む	淡茶緑色釉である色があせている。	口縁部は断面が三角形を呈し、口唇部が平直となる。器壁が薄い。頸部から肩部で屈曲しいかり肩が想定される。	ハ N14 II 台2128
				IV	灰色細粒子	外面に茶褐色釉が薄く施される。	口縁部が内彎する。口縁部下に2本沈線が施される。	イ C11 II 台1717	
				V	9.2	淡褐色細粒子	茶褐色釉が薄く施される。	口縁部が外反し、肩部はなで肩を呈する。胴部は丸味を帯びると思われる。	H19 R13 III P13 台4242 P27 台4243
				VI	11.2	淡灰黒色細粒子 黒色・白色粒を含む	外面に淡灰黒色釉が薄く施される。	口縁部は玉縁状に肥厚する。口唇部内端は微弱に突出する。なで肩で胴部へ移行する	ニ 97 III SP6 台2369
					9.9	淡灰黒色細粒子 白色粒を含む	淡褐色釉が薄く施される。	口縁部外端は突出する。口唇部に凹みがある。	イ C9 II 台1708
					10.0	淡褐色細粒子	淡茶色釉を薄く施す。	口縁部外端が微弱に突出する。いかり肩を呈する。	ニ K11 II SP2.3.4 台2263
					灰色細粒子 白色粒を含む	淡褐色釉が薄く施される。	口縁部外端は揃み出す。	H19 S18 III 台1795	
				胴部	淡灰色細粒子 白色粒を含む	淡褐色釉を薄く施す。内面は露胎する。	肩部片で口縁部に向かって器壁が厚くなる。	ニ 不明 II 台2333	
					淡灰色細粒子 白・黒色粒を含む	外面に褐色釉を薄く施す。内面は露胎する。	胴部片で丸みを帯びる。	イ B11 III 取215 台1643	
第115 国・ 図版 91				VI	19.9	内外面は淡褐色	灰褐色釉を底部近くまで施胎する。	口縁部の外端部は揃み出す。頸部は短く肩部は張り肌上部で最大径を成す。肩部に耳の貼付け部が残る。底部は上げ底で高台状を呈する。器表面はアバタ状が見られる。	ハ R9 S8 R11 I II III 台2152 2130. 2131. 2102. 2100. 1509
					45.8	中心部は灰黒色で			
					18.6	白・赤色粒を含む			
				胴部	灰色細粒子	外面に薄い茶褐色釉を施す。	内外面に轆轤痕が残る。	イ C11 III 台1705	
					灰色細粒子	内外面に淡緑褐色釉を施す。	丸味を帯びる胴部である。	イ B11 III P15 台2008	
					淡灰茶色細粒子 白色粒を含む	外面に一部に褐色釉がみられる。	内外面共に明瞭に轆轤痕が残る。胴下部とおもわれ、外面は灰色、内面は茶色である。胴長の蓋である。	イ T13 III 取276 台1639	
					淡灰色細粒子 白色粒を含む	外面に一部に褐色釉がみられる。	内外面共に轆轤痕が残る。胴長のの蓋で器壁もやや厚い。	イ T11 III SD09 台2085	
					淡灰色細粒子 白色粒を含む	内外面共に露胎である。	高台内削りは浅く、底部及び腰部の器壁は薄い。	H19 B15 III 台3132	
					5.6	淡灰色細粒子 白色粒を含む	内外面共に露胎である。	高台内削りは浅く、底部及び腰部の器壁は薄い。	H19 B15 III 台3132
					11.8	淡灰色細粒子 白色粒を含む	外面に淡褐色釉を施す。	底面よりわずかに反りながら立ち上がる胴長の蓋である。内面に轆轤痕が残る。	H19 Q14 III 台2406

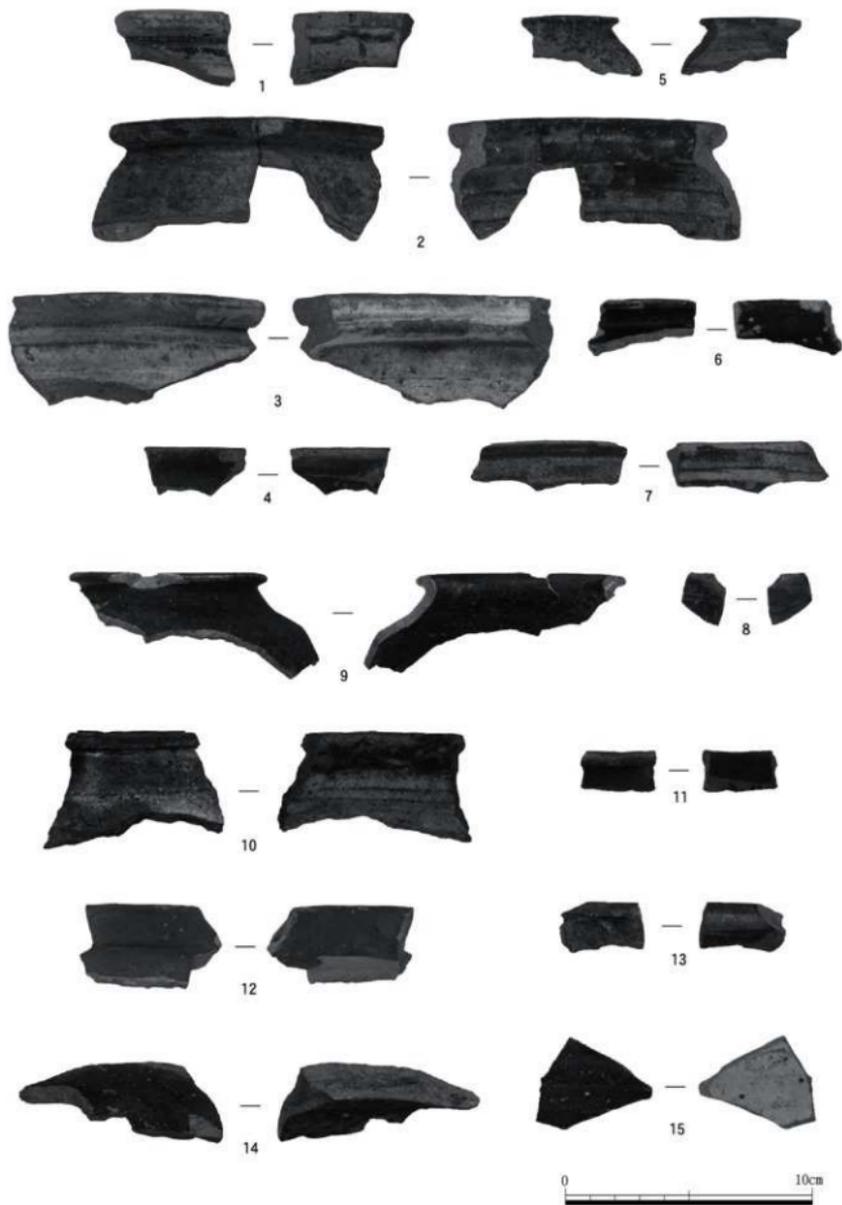
第55表-2 褐釉陶器(中国産・タイ産)観察一覧

(法量単位: cm)

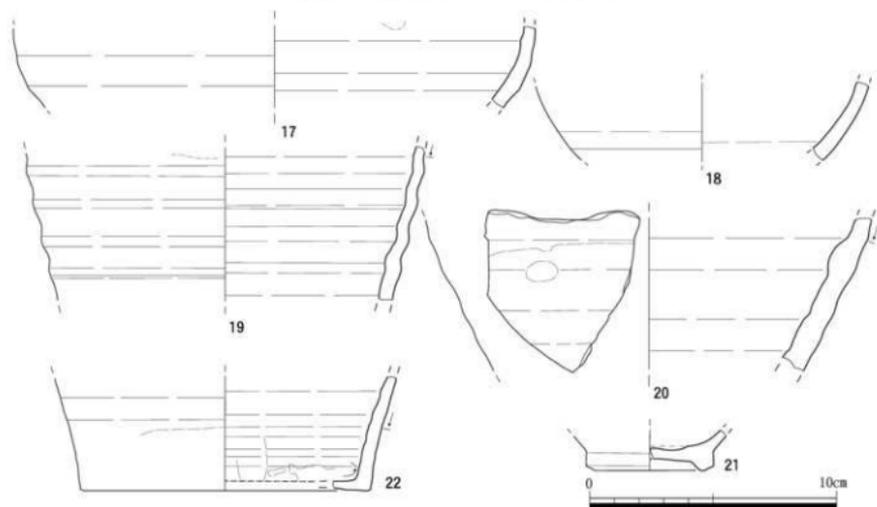
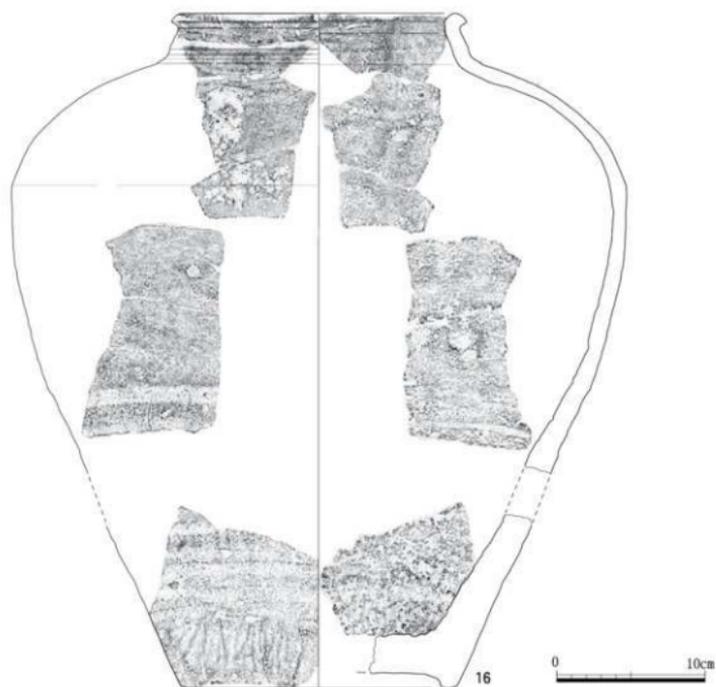
図版	図番号	産地	器種	分類	口径 器高 底径	素地	釉色	その他特徴	地区 層 遺構 取上番号	小ナリ 台番号
第116 版	116	中国産	甕	底部	-	-	内外面共に露胎する。	底面よりの立ち上がりは逆「ハ」の字状に開く。	イ 不明	Ⅲ 台2031
					8.4	淡灰色細粒子 白色粒を含む	内外面共に褐色釉を施す。	底面からの立ち上がりは微弱にきびれて立ち上がる。外底面中央部は盛り上がるようである。	ハ S9	Ⅱ 台2103
					15.0	淡灰色細粒子 白色粒を含む	外面に黒褐色釉が施される。	底面からの立ち上がりは反りながら立ち上がる。	ハ R9	Ⅲ 台2130
					10.6	淡灰色細粒子 白色粒を含む	外面に褐色釉を施す。	底面からの立ち上がりは微弱にきびれて立ち上がる。	ハ R9	Ⅲ 台2131
					15.0	淡灰色細粒子 白色粒を含む	内面及び外面腰部に淡緑褐色釉を施す。	底面の器壁は厚い。底面より大きく開きながら立ち上がる。	イ B12	Ⅲ 取193 台1595
					10.0	淡灰色細粒子 白・黒・赤色粒を含む	外面に淡褐色釉を施す。	底部より一端直に立ち、そこから反りながら立ち上がる。外底面は盛り上がる。	ハ R9	Ⅲ 台2131
					12.6	淡灰色細粒子 白色粒を含む	外面に露胎、内面は淡茶色釉?	器壁が薄い。円錐状の粘土を外底面に貼付け先端を平面に仕上げる。	ハ N14	Ⅲ 台2126
					11.6	淡灰紫色細粒子 白・赤色粒子を含む	肩部より褐色釉が施される。	口縁部は逆「L」字状を呈し、口縁部内面に蓋受けと思われる突出部が見られる。	ニ P7	Ⅲ SP24 台2327
					12.6	淡紫色細粒子	淡茶褐色の釉が全面に施されているが軸の風化が見られる。	頸部より口縁部が外反する際肥厚する。	H19 R15	Ⅲ P43 台4245
					13.6	濃紫色細粒子 細かい白色粒を含む	茶黒色が前面に施されるが軸の風化が見られる。	口縁部内面に小福な窪みが見られる。	ハ P12	Ⅲ 台2175
16.5	灰紫色細粒子 黒色、赤色細粒子を含む	茶褐色で頸部下は白色軸は見られる文様の一部か?	器壁が厚く大型の甕と思われる。	ハ 不明	I 台2102					
第117 版	117	タイ産	甕	胴部	-	灰紫色細粒子	外面に茶黒色釉が施される。	器壁が薄く中型から小型の甕と思われる。	H19 P15	Ⅲ P6 台4239
					-	灰紫色細粒子	外面に黒褐色釉が施される。	軸がやや厚く施軸する。	イ C9	Ⅲ P25 台2025
					-	灰紫色細粒子 黒色、赤色細粒子を含む	外面に赤褐色の釉が薄く施される。	器壁が厚く大型の甕と思われる。	イ C9	Ⅲ P25 台2022
					-	淡茶色細粒子 黒色、赤色、白色の細粒子を含む	外面に緑黒色釉が施される。	器壁が厚く重量感のある甕と思われる。	ハ R9	Ⅲ 台2151
					-	茶紫色細粒子 赤色粒子を含む	外面に淡緑色釉が施される。	器壁はやや厚い。	ハ R9	Ⅲ 台2151
					11	茶紫色細粒子 赤色粒子を含む	外面に褐色釉が薄く施される。	底面からの立ち上がりは直線的である	イ A11	Ⅲ SK62 台2078
					12.8	灰紫色細粒子 白色、黒色粒を含む	外面に黒褐色釉が施される。	底面からの立ち上がりは直線的である	ハ 不明	I 台2102
					15	淡灰白色細粒子 白色、橙色粒を含む	外面に黒褐色釉が施される。	底面は高台状を呈する。胴部へは大きく開きながら立ち上がる。	イ A12	Ⅲ 取244 台1650
					34.4	淡茶色細粒子 赤色、白色粒を含む	内面底部近くに褐色釉が見られる。	器壁が厚く重量感のある甕と思われる。胴部への立ち上がりは緩やかに開く。	イ B10	Ⅲ P10 台2062
					第117 版	117	タイ産	甕	底部	-



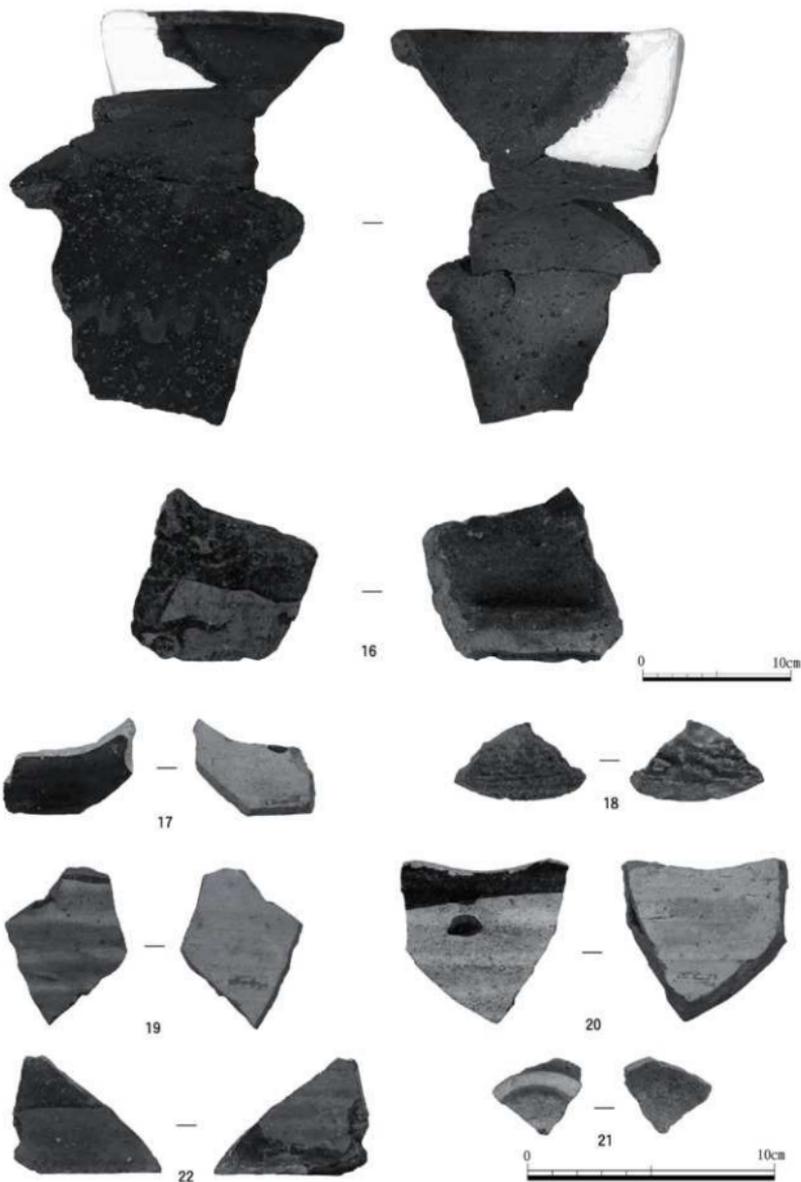
第114圖 褐釉陶器 1



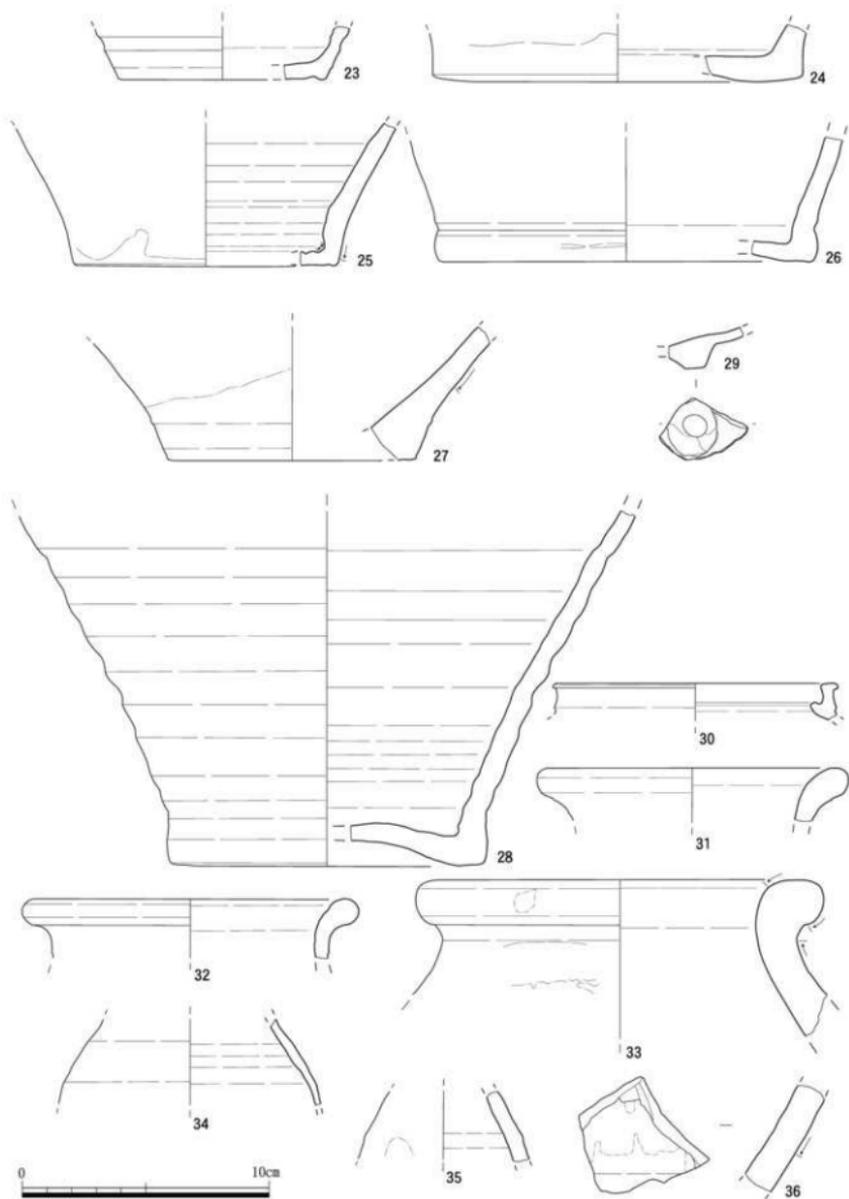
図版90 褐釉陶器 1



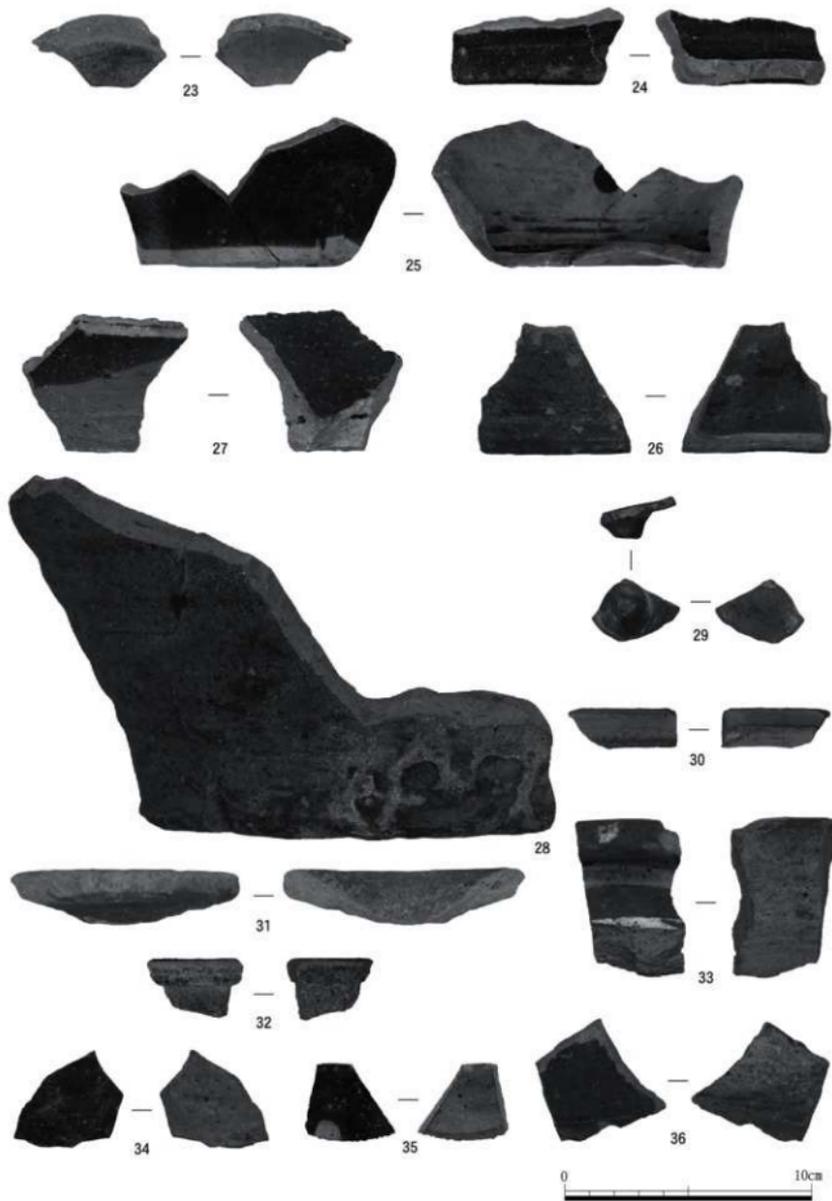
第115図 褐釉陶器 2



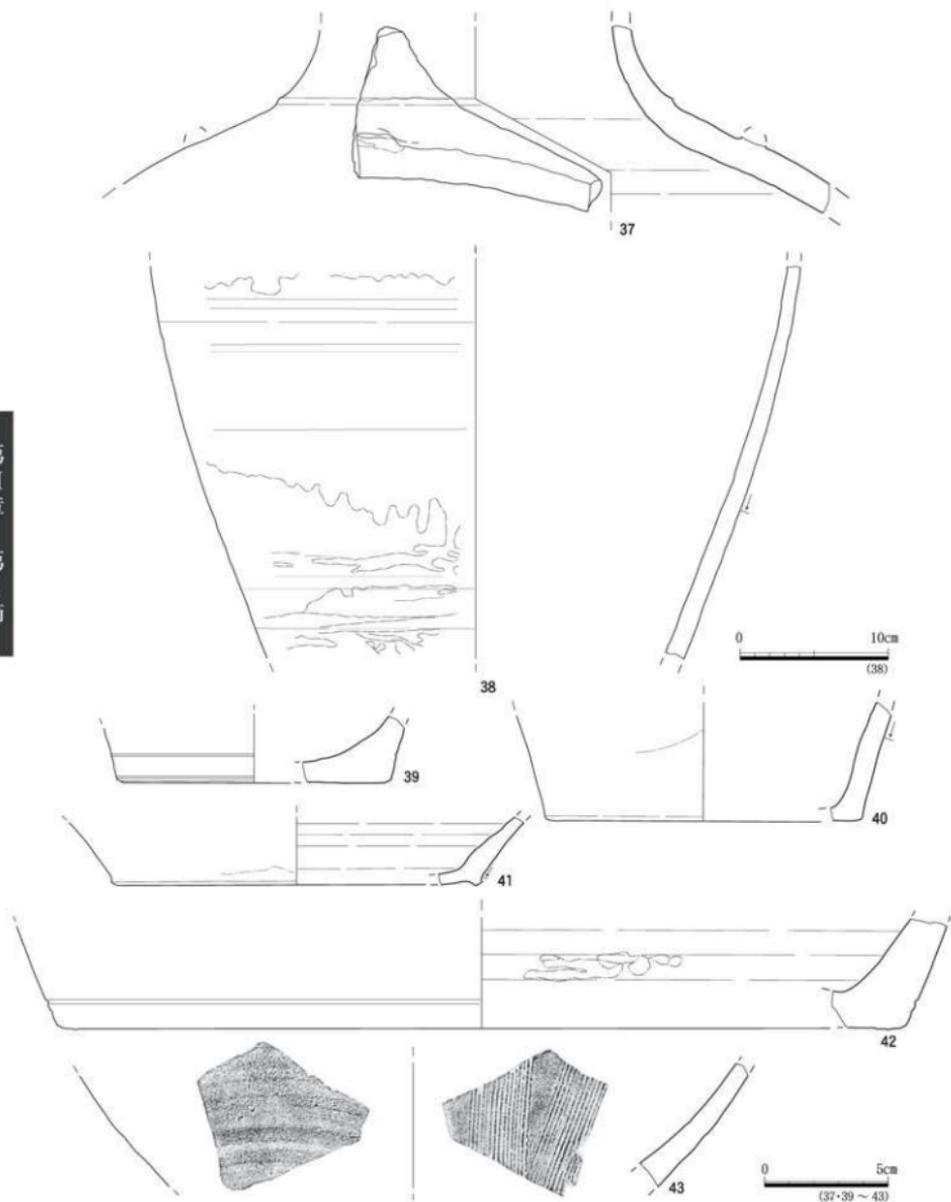
図版91 褐釉陶器 2



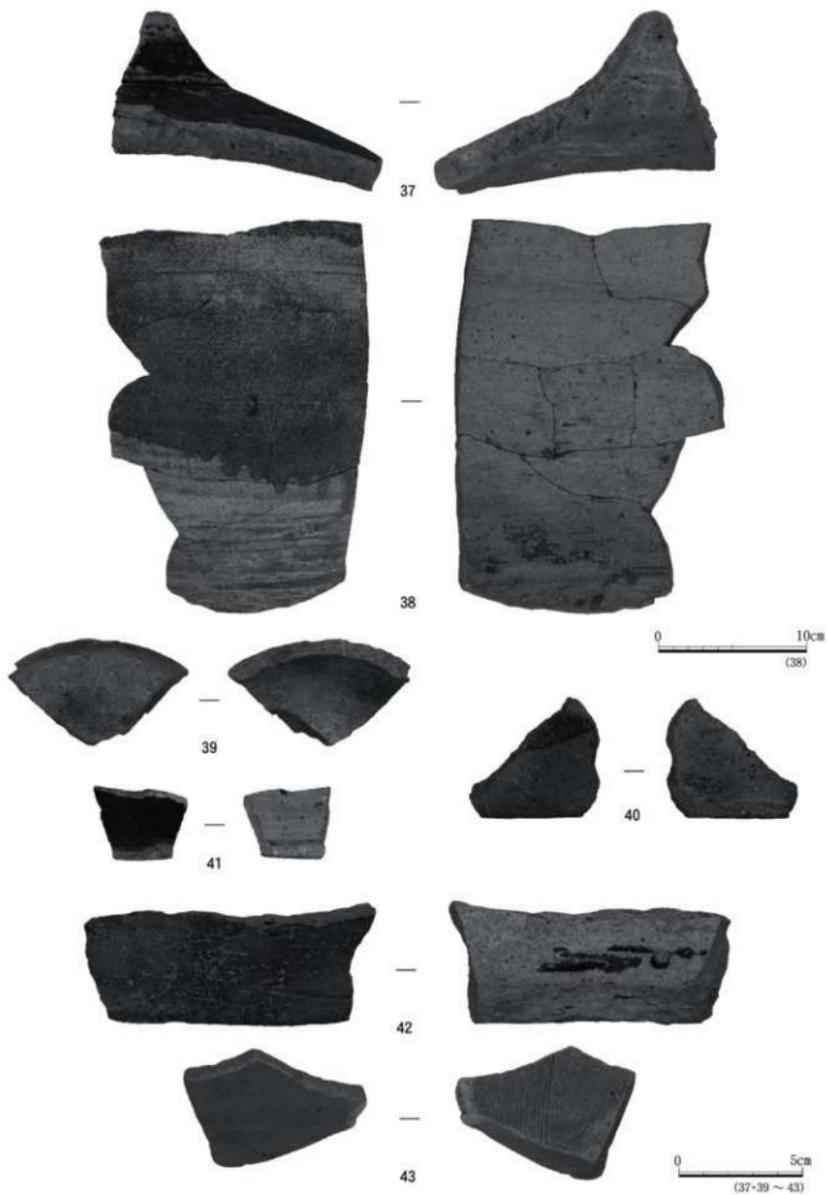
第116圖 褐釉陶器 3



図版92 褐釉陶器3



第117図 褐釉陶器 4



図版93 褐釉陶器 4

### (7) 瑠璃釉

3点のみの出土で大碗口縁部1点と胴部細片の2点が確認できた。第118図(図版94)1・2に示す。外面に瑠璃釉、内面に青灰白色に発色した透明釉の掛け分けで釉の発色は良好である。素地はいずれも白色堅緻でピンホールが散見できた。図1は口径14.5cmの大碗の外反口縁で、外面口唇部下で透明釉と瑠璃釉の重なりが見られる。外面には轆轤痕が残る。ハ地区R12第Ⅲ層出土、青磁との伴出。図2は器厚と丸みから碗か小碗の胴部と思われる破片でH19地区T13第Ⅱ層出土。他にハ地区N14第Ⅱ層からも器種不明胴部片が出土した。いずれも青磁、染付、中国産褐釉陶器、三彩との伴出であった。

### (8) 黒釉陶器

黒色の釉薬が掛けられるが天目茶碗とは形状が異なる全形の窺える碗と碗底部が確認できた。第118図(図版94)3・4に示す。内面総軸で外面は腰部までの施釉であるが、いずれも溶解がすすみ多数の気泡が生じ釉は変色し、わずかに黒色の部分が残るのみである。図3は小さめの高台を持ち、高台脇から一旦角度を変えてほぼ直線状に開き、口縁下で若干すぼみ口唇部は外反する碗である。口径12.2cm、器高5.6cm、底径4.3cmを測る。高台は非常に浅く外底までの高さは0.3cm足らずである。底厚は0.7cmを測る。イ地区C12第Ⅲ層出土(取128)、青磁、白磁との伴出。図4は碗底部で図1同様高台は非常に浅く、やや兜巾高台で器肌がささくられて縮緬状を呈する。畳付けは研磨されている。イ地区D11第Ⅱ層出土、沖縄産無釉陶器との伴出であった。

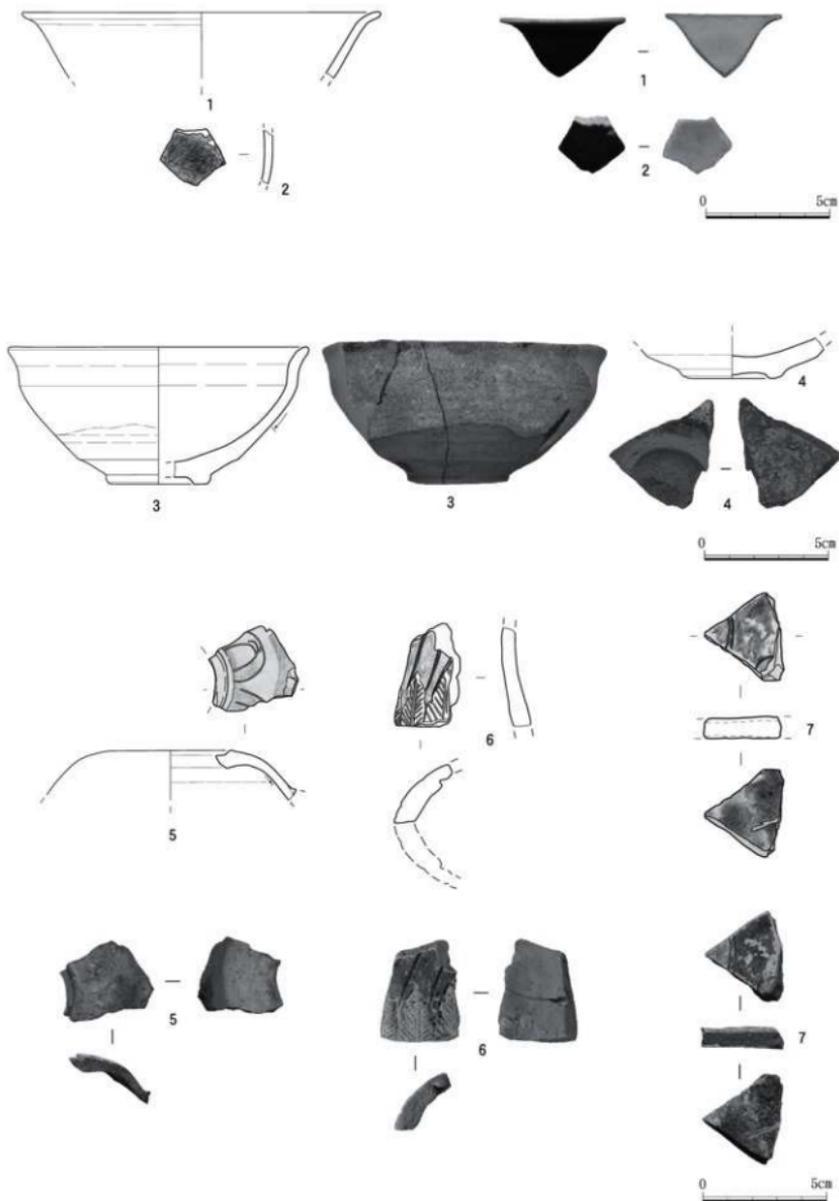
### (9) 三彩

5点のみの出土で水注の口縁部1点・胴部2点、皿の胴部1点、盤の底部1点が確認できた。第118図(図版94)5～7に示す。いずれも施釉方法から福建産で15C～16Cのようである。図5は長胴丸型と思われる水注の口縁部で周辺には線刻による葉文が刻まれる。口径は5cm。肩部に把手貼り付けの一部が残る。内面上部と外面に白化粧を施した後、外面には緑釉を掛ける。素地は灰色粗粒子で若干の黒色粒と石英粒が混ざる。ハ地区N14第Ⅱ層出土。図6は鳥型の水注胴部で、型成形による羽状が施文された後、片切彫りによる斜位の沈線が確認できる。外面には白化粧後緑釉と黄釉が掛かり、内面は露胎で型成形や指ナデの痕が残る。素地は淡黄白色粗粒子で器壁は1.5～0.8cmを測る。ニ地区L11第Ⅱ層出土で、内外面に白化粧後緑釉が掛かる三彩皿の胴部と伴出した。水注の胴部と思われる小片はニ地区M10第Ⅱ層より出土。外面は白化粧後緑釉を掛け、型成形の痕が残る。素地は淡黄白色粗粒子で石英粒が混ざる。図7は盤の底部と思われる資料で、見込みには線彫りが施されるが、図柄は判然としない。素地は灰色粗粒子、底厚は0.8cmを測る。内面には薄く外面には非常に厚く白化粧を施した後、内面には緑釉と黄釉、外面には褐釉を掛ける。イ地区C13第Ⅱ層出土。いずれも中国産陶磁器、沖縄産施釉陶器や沖縄産無釉陶器との伴出であった。なお、長胴丸形水注と盤は『首里城跡』(註1)に類似資料が見られた。

註1：沖縄県立埋蔵文化財センター2001『首里城跡』沖縄県立埋蔵文化財センター報告書 第3集

### (10) 翡翠釉

梅瓶の胴部が1点出土した。第119図(図版95)1に示す。外面には線刻による牡丹唐草文が施され白化粧後翡翠釉を掛け、内面は無釉で轆轤痕と中央部に積み痕が顕著である。素地は淡灰色で粗粒子、若干の黒色粒と多数の気泡が確認できる。首里城跡(註1)出土の梅瓶と類似している。ハ地



第118图·图版94 琉璃釉·黑釉陶器·三彩

区S10第Ⅲ層SP31出土、青磁との伴出であった。

註1：沖縄県立埋蔵文化財センター 2001『首里城跡』沖縄県立埋蔵文化財センター報告書第3集

## (11) 産地不明陶器

円盤状で握みや袴を持たない蓋と思われる資料が1点確認できた。第119図(図版95)2に示す。軟質で素地は締胎状に浅黄橙色と淡橙色の土がマーブル状に混在する。片面は擦痕と指ナデが残り丁寧に器面調整され、片面はアバタ状で未調整のままである。径は8.0cm以上、器厚は0.7cmと考えられる。H19地区R14第Ⅱ層出土、沖縄産陶器との伴出。首里城跡からは最大径を肩部に持つ大型の無耳壺とのセット関係が報告されている(註1)。当資料の出土同日に同グリット第Ⅲ層よりタイ産褐釉陶器の大型壺底部が出土した。類似資料としては『首里城跡』(註1～3)、『渡地村跡』(註4)があり、それらの特徴と比較して中国産の可能性が考えられる。

註1：沖縄県立埋蔵文化財センター 2013『首里城跡』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第69集

註2：沖縄県教育委員会 1998『首里城跡』沖縄県文化財調査報告書 第132集

註3：沖縄県立埋蔵文化財センター 2010『首里城跡』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第54集

註4：沖縄県立埋蔵文化財センター 2007『渡地村跡』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第46集

## (12) タイ産鉄絵

合子の蓋3点、身2点、脚1点の合計6点が出土した。いずれも鉄軸にて格子・圏線・草花等を描文後、透明釉を掛ける。第119図(図版95)3～7に示し、第56表に詳細を記す。産地はいずれもシーサッチャナライ窯だと思われる。図3・4は合子蓋の底部で図5・6は合子身の胴部である。図7は合子身の脚である。高脚合子の参考資料として『タイ・カンボジアの陶磁』(註1)掲載の「鉄絵高脚草花文合子」(14C～15C)を示す。図録の解説には比較的珍しい形状である事と使用痕が無いことからインドネシアでは副葬品用の器として輸入されたかもしれないとある。

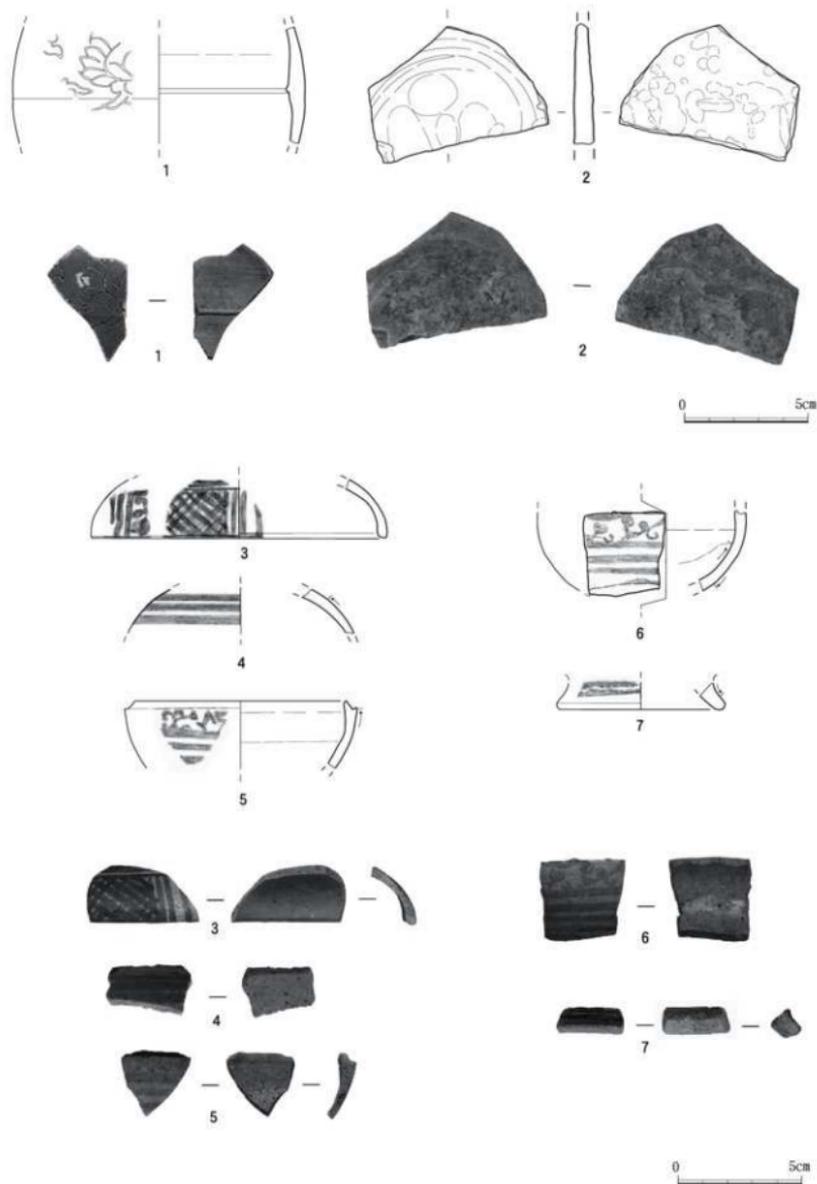


参考資料(註1)

註1：福岡市美術館1996『タイ・カンボジアの陶磁』

第56表 タイ産鉄絵観察一覧

邦国・地区	番号	器種	部位	口径 器高 底径 (cm)	重量 (g)	器厚 (mm)	素地	器面		備考	地区小グリッド 罫(遺構) 台帳番号
								内面	外面		
●	3	合子蓋	底	12.0 -	5.81	3	淡灰色で鐵質 黒色粒と気泡多数	無軸	鉄軸で格子と縦位の線を描いた後、透明釉を掛ける	底端部：内側に玉線に彫らむ	ハQ13 ■ USK02 台2314
	4	合子蓋	底	- -	4.68	2.8 4.5	淡灰色で鐵質 黒色粒と白色粒が多数 若干の気泡	透明軸	鉄軸で横位の太線を複数描いた後、透明釉を掛ける	器身近くは無軸	ニS10 II 台1521
	5	合子身	胴	9.6 -	3.73	3 4	淡灰色で鐵質 黒色粒が多数 若干の白色粒と気泡	下部に 透明軸	鉄軸で口縁部直下に草花、その下に四本の横位の太線を複数描いた後、透明釉を掛ける	透明軸は白濁	ハ T10 III 台2049
	6	合子身	胴	8.2 -	7.06	3 4	淡灰色で鐵質 黒色粒が多数 若干の白色粒と気泡	不規則な 透明軸	鉄軸で口縁部直下に草花、その下に四本の横位の太線を複数描いた後、透明釉を掛ける	透明軸は白濁	HS S12 III 台2415
	7	合子脚	脚	- 6.8	3.71	3 6	淡灰色で粗粒子 黒色粒と白色粒が多数 若干の気泡	無軸	鉄軸	袴状の脚部	ハ 014 III 台2143



第119図・図版95 翡翠釉・産地不明陶器・タイ産鉄絵

### (13) 銭貨

本遺跡より出土した銭貨は7点で、中国の北宋銭、明銭と日本銭及び不明に分類される。

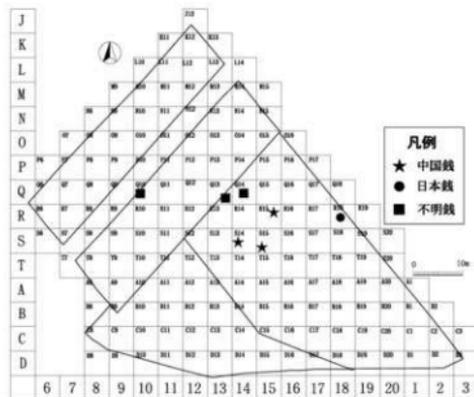
中国銭のうち北宋銭は元豊通寶(図1)、聖宋元寶(図2)、明銭は洪武通寶(図3)3点、日本銭は寛永通寶(図4)1点、不明1点である。

図5・6は錆がひどく判読不可能であるが、大きさや錆の具合及び出土地が近いことから同類の銭貨と判断される。詳細は観察一覧に示した。

元豊通寶と聖宋元寶は他より大きく径3.0cm、明代の洪武通寶は径2.3cmと一回り小さくなる。これらの書体は、いずれも篆書である。日本銭の寛永通寶は形状から新寛永に分類される。破片で図に示されていないものがあるが、出土地は本品と近接しており、形状から図5・6と同類のものと思われる。これらの出土から銭貨のVI期(宮城2008)に相当すると思われる。

また、元豊通寶はR15、取上159で標高3.6mから出土、裏面に重ね痕があることから模鋳銭の可能性が高い。聖宋元寶はS14、取上339で標高3.024mから出土。洪武通寶はS15、SD02。不明はQ13、Q14の柱穴から出土しており、グスク時代の遺構との関連が高い。寛永通寶はR18でほかの銭貨とは離れて出土しており、後述する近世の時期に属するものと思われる。

註：宮城弘樹 2008『琉球出土銭貨の研究』『出土銭貨』第28号 出土銭貨研究会

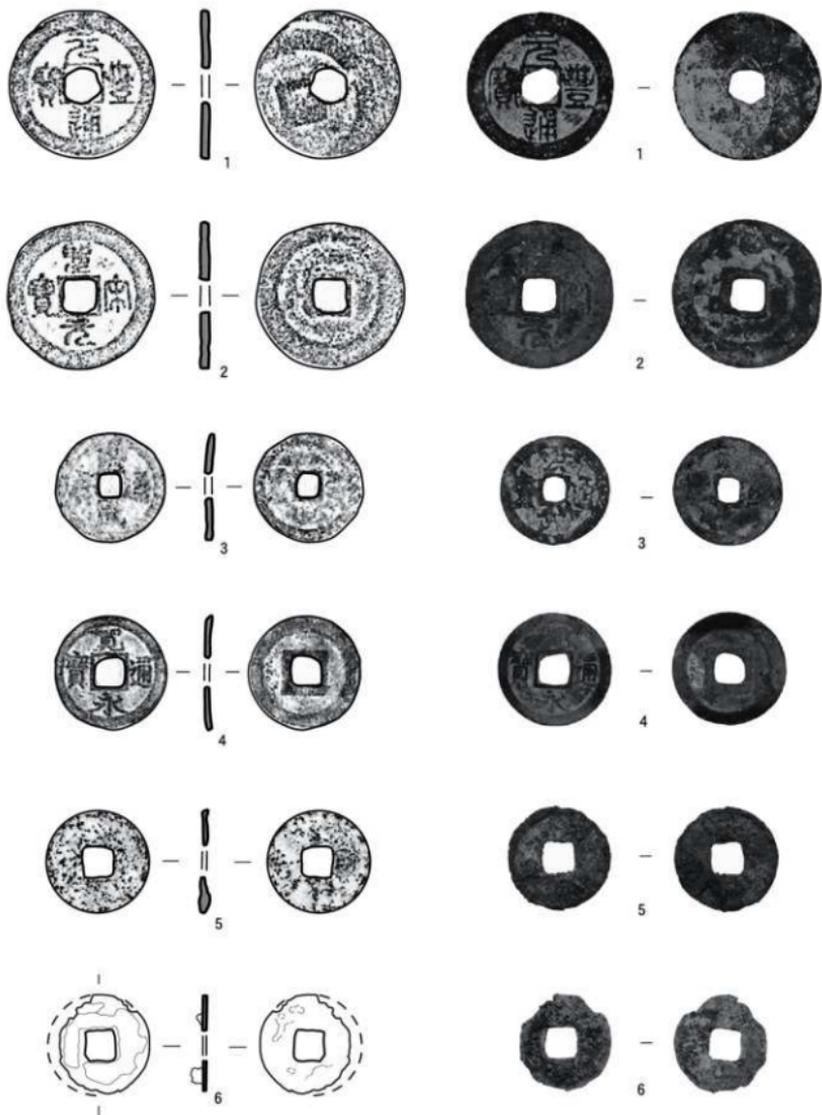


第120図 銭貨平面分布

第57表 銭貨観察一覧

第121図・図版96	図番号	種類 銭貨名 銭文	背文字	初鋳造年	状態	外径 (cm)	内径 (cm)	縁幅 (cm)	縁厚 (cm)	重さ (g)	字体	内縁	観察	地区 小(大)遺構 取上番号 台帳番号
第121図・ 図版96	1	「元豊通寶」	なし	元豊元年 (1078)	完形	3.0	0.76	0.26	0.14	5.7	篆書	縁は方形、パ リで楕円	字体明瞭	田9 R15 Ⅲ 取159 台3411
	2	「聖宋元寶」	なし	建中靖国元年 (1101)	完形	3.0	0.66	0.33	0.15	6.9	篆書	縁、孔とも方 形	字体ややつぶれる	田9 S14 Ⅲ 取339 台3409
	3	「洪武通寶」	なし	1368	完形	2.2	0.51	0.13	0.13	2.5	篆書	方形	字体錆ふくれて明 瞭でない	田9 S15 Ⅲ SD02 台3412
	4	「寛永通寶」	なし	元禄10年 (1667～)	完形	2.3	0.62	0.13	0.1	2.1	行書	方形 パリ有	字明瞭 新寛永	田9 R18 Ⅲ 台3410
	5	「○○○○」	—	—	完形	1.9	0.60	—	—	0.8	—	方形	錆が大きく不明 字の可能性あり	田9 Q14 Ⅲ P20 台4003
	6	「○○○○」	—	—	完形	2.1	0.63	—	0.13	1.3	—	—	—	二 09 IV 台2677
—	—	—	—	破損	—	—	—	—	2.0	—	方形	—	田9 Q13 Ⅲ P2 台4001	

<凡例> ○：文字不明



第121圖・圖版96 錢貨

## (14) 砥石

砥石が14点得られた。形態にグスク時期の砥石と考えられる資料も数点みられたため第Ⅱ層、Ⅲ層の時期の資料をこの項に示した。層序別では第Ⅱ層3点、第Ⅲ層3点、第Ⅳ層遺構（グスク遺構）から8点の出土である。

図に示したものは7点で、個別にみると図1は長方形板状の砥石で、自然礫をほぼ原形の状態を利用してと思われる。表面の三分の二に研磨が確認され砥面は一律に平坦、一部にテカリがみられる。裏面も突出した箇所部分的に研磨を確認できる。石質は砂岩である。図2は残存状態が台形、拳大の大きさで石質は流紋岩、三面研磨され表裏面中央に浅い反りが確認され、上下が破損する。置き砥石と考えられる。図3は残存が小型、不定形の砥石である。この資料も石質は流紋岩、三面に研磨があり特に側面の反りが顕著で上下、裏面が破損している。図4の形状は平面観が三角舌状を呈し、やや厚みのある中型砥石で石質は流紋岩、表裏に加え右側面にも研磨の痕跡が窺われ、表面は使用面が滑らかに反り上がり湾曲する。図5は小型、四角柱の砥石だが破損し全体大きさが特定できない。石質は黒色片岩、堆積岩のため脆い。表面の研磨は浅く、両側面は研磨がみられない。裏面、上下端の割れの箇所は新しく自然面が露呈する。図6は扁平短冊形の形状を呈し、石質は輝緑岩、小型の資料である。全体に研磨が行きとどき、下端面も研磨により面を成す。札状手持ち砥石の一種と思われる。図7は変形短冊形の小型資料で研磨痕は表裏、側面にみられ細い線状痕も窺える。上端の孔の左右に欠損がみられるが、一部に小さな研磨面が確認されることから破損後再度、研磨を加えたようである。石質は流紋岩、重量49gと軽く上部に両面から孔を穿つ。孔は両面とも左方向から斜めに広く穿たれるが、貫通する孔の径は3mmである。上部の厚さが9mmに比べ下部が1.7cmと厚みの違いが顕著で均一でなく使用頻度は高い。

上記の7点以外に、出土した資料も一覧表に計測値と観察事項の所見を示した。サイズの分類は残存する最大長、幅、厚、重量のそれぞれを比較し3分類したが破損品が半数以上を占める。

第58表 砥石観察一覧

第Ⅱ層 第Ⅲ層 第Ⅳ層 図版97	遺構号 (石器No.)	残存 形態	完破	石質	残存 サイズ	計測値				観察事項	地区小グループ 遺構敷土番号 台帳番号
						最大長	最大幅	最大厚	重量		
第123層 図版97	1	板状 変形長方形	完形	砂岩	大型	23.2	10.2	2.2	664	自然礫を利用表面三分の二研磨 一部にテカリあり裏面突出箇所研磨	H19713層 P7台4351
	2	台形	破損	流紋岩	中型	8.9	8.0	5.8	538	三面研磨表面中央に反り上下破損	ハ58層 台2501
	3	変形台形	破損	流紋岩	小型	5.3	4.6	3.2	85	三面研磨側面に反り上下破損	二09層 SK01台2474
	4	舌状三角形	破損	流紋岩	中型	10.6	10.3	3.6	410	板状表裏、側面に研磨痕 表面湾曲から使用箇所反り上がる置砥石	イ012層 P25台2354
	5	四角柱	破損	黒色片岩	小型	6.1	3.1	1.9	67	表面研磨良好裏面、上下端破損 残存部打削面新しく自然面露呈	ハ510層 SK01台2643
	6	短冊形	完形	輝緑岩	小型	6.2	4.2	1.3	65	短冊形扁平全体的に研磨 札状手持ち砥石の一種下端面研磨	イC11層 取169台1899
	7	短冊形	完形	流紋岩	小型	6.9	3.8	1.7	49	扁平変形上部に両面から穿孔表裏面使用 使用頻度高い下部に比べ上部欠け	イC09層 P14台3149
no.11	厚手方形	完形	砂岩	中型	6.2	4.6	3.7	211	六面体短冊四角柱意図的に面を作る 風化作用平坦。平直な部分は裏面のみ研磨	H19817層 台3251	
no.50	扁平長楕円	破損	砂岩	中型	9.6	6.7	2.3	168	研磨痕は表面の一部研磨は部分的に顕著 角縁に角をおとした痕跡裏面は自然面	H19C18層 台3232	
no.81	扁平不定形	破片	砂岩	小型	5.8	5.2	1.0	43	扁平破片一面に浅い研磨痕あり	H19Q15層 SK38台3267	
no.284	変形長方形	完形	細粒砂岩	中型	11.9	4.7	2.8	242	形状丸短冊形一面研磨その他の面は 自然面が露呈し石質は軟質仕上げ用砥石か	H19R13層 P18台4379	
no.313	板状不定形	破損	砂岩	大型	19.2	16.7	4.3	1,640	破損、形不明厚手残存推定大型 表面中央研磨痕長くあり 裏面、側面、角縁部自然面露呈	イC11層 PS台2353	
no.367	扁平不定形	破片	砂岩	小型	7.9	4.2	1.5	51	表面、側面に研磨痕研磨痕で凹凸有 凹凸部分の窪み箇所にも研磨が残る 細い部分の研磨用か	二06層 SK01台2488	
no.399	台形不定形	破損	石英閃緑岩	中型	8.8	8.3	4.9	530	厚み一定研磨は表裏、側面片側に反り上下破損	ハ09層 台2515	

石質は砂岩、細粒砂岩、黒色片岩、石英閃緑岩、輝緑岩、流紋岩で、砂岩の資料が6点、流紋岩が4点、その他、各1点の出土である。流紋岩は北谷町周辺、中南部では産出されない火成岩類の岩石で、採集可能な地域としては恩納村、沖縄本島北部のごく一部の地域と限られるが沖縄本島以外の島からの持ち込みも考えられる。

第122図に砥石の出土状況を示した。第II層(近世)出土砥石は山手側Q15、S17、C18に出土し、第III層(グスク時代)出土砥石はイ、ハ地区の海側寄りに分布するが、H19地区から5点、イ地区4点、ハ地区3点、二地区2点の出土で、グスク時代、近世琉球の砥石の出土に地区ごとの極端な差はみられない。

C11では砥石が2点出土しており、白磁、青磁、褐釉陶器、染付、円盤状製品、煙管の出土も多い。

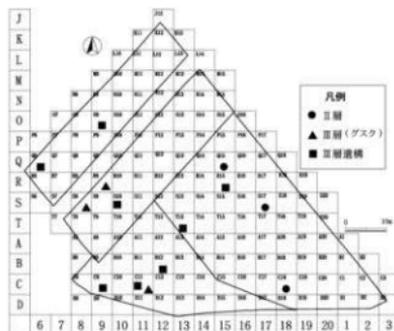
形態的特徴が貝塚時代後期に出土する砥石と相違する資料も数点確認されておりグスク時代、古琉球～中世、近世琉球の時期と思われる資料をこの項にまとめたが、この時期の砥石は稲福遺跡、今帰仁城跡、糸数城跡、浦添ようどれからも出土している。この種の砥石として二種類の砥石が確認される。

一つめの種類に砥面に滑らかで使用面が三面以上と多い、小型の砥石である。砥石の摩滅具合や反りの状態が激しい資料など消耗の顕著なものが特徴で、どの遺跡から出土する砥石にも形状的類似点が多くグスク時代以前の砥石と研磨用途の違いがあると推測される。図3、4の砥石は今帰仁城跡からも類似資料が出土しており、九州での類似資料として鍛冶工房からの出土がみられる。二つ目の種類に小型の短冊形、又は角柱状、それに類似する形態の持ち砥石が挙げられる。持ち砥石には穿孔のある資料と穿孔のないものに分けられ、穿孔のある資料は、腰に下げる紐通しの孔が開けられた携帯用砥石と考えられている。穿孔する資料にも二タイプあり、1.表裏面に穿孔するもの、2.両側面、上端の三方向から穿孔するものがあり、今帰仁城跡では二タイプとも出土している。

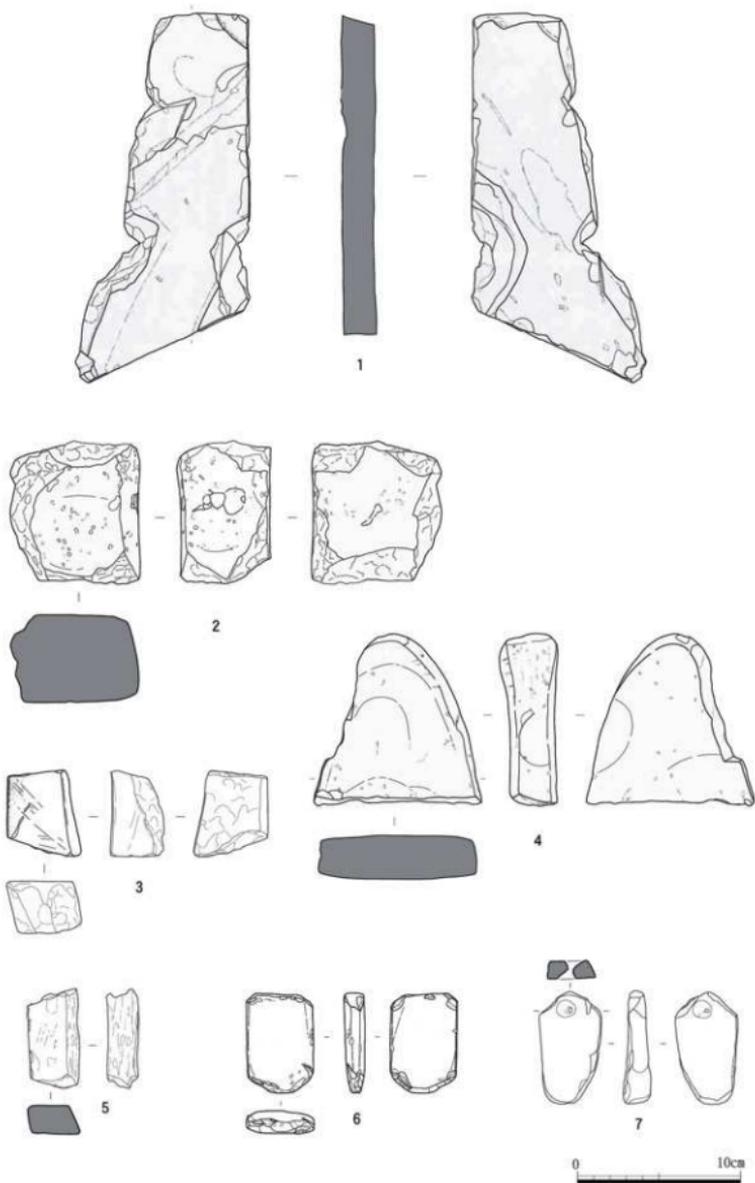
携帯用砥石は類例の報告が少ない当初は、穿孔がみられることから垂飾品や護符的なものとされたが、安里氏の報告で中国、東南アジアとの交易が盛んな時代、貿易品の項目に「磨刀石」として品目がみられるとの見解から携帯用砥石と捉えられるようになった。砥石に関する資料や論文は多くないが、上原氏や安里氏の記述は、札状の手持ち砥石や腰に下げるため携帯用に孔を穿った砥石は近世琉球時期の磨刀石やそれに類似する砥石と考えられるとの見解を示している。

#### <参考・引用文献>

- 沖縄県教育委員会 1983『稲福遺跡』沖縄県文化財調査報告書 第50集  
 沖縄県今帰仁村教育委員会 1983『今帰仁城跡発掘調査報告Ⅰ』今帰仁村文化財調査報告書 第9集  
 安里嗣淳 1985「磨刀石」『南島考古だより』沖縄考古学会 第33号  
 沖縄県教育委員会 1986『竹下遺跡』沖縄県文化財調査報告書 第78集  
 沖縄県・玉城村教育委員会 1991『糸数城跡』玉城村文化財調査報告書 第1集  
 今帰仁村教育委員会 2007『今帰仁城跡周辺遺跡Ⅲ』今帰仁村文化財調査報告書 第24集  
 浦添市教育委員会 2007『浦添ようどれⅢ』—金属工房跡編— 浦添市文化財調査研究報告書  
 上原静 2010「琉球砥石考」『南島考古』沖縄考古学会 第29号



第122図 砥石平面分布



第123圖 砥石



图版97 砥石

## (15) 貝製品

ヤコウガイ製貝匙1点、タカラガイ製貝錘11点の計12点の実用品が出土した。以下、それぞれについて略述する。

### A. 貝匙

図1はヤコウガイの腹面を用いた貝匙である。貝匙の柄の部分で方形を呈する。外面は表層を削り真珠層を露出させる。内面は表層が残る。D12第Ⅲ層の出土である。

伊礼原D遺跡(2013)でも2点検出され、柄の部分が魚の尾鱗状のものが得られている。

### B. 貝錘

ハナマルユキの背面を除去するもので、民俗事例から漁網錘とされる。下記の条件を持つものを貝錘として扱った。

- ①背面除去され、側面からみると除去面が整う。
- ②殻軸部分の巻きが欠損。
- ③殻底部分に打割調整を有す。

さらにA:殻軸巻きを残す、B:殻軸をとる、C:殻軸を半欠、に細分できる。

11点得られ、Aタイプ1点(①)、Bタイプ9点(図2)、Cタイプ1点(図3)が確認された。

出土地をみるとすべて第Ⅲ層とその遺構から得られている。特にイ地区のB11第Ⅲ層から3点と、その近くのC10・11、A12・13などから出土している。B11はグスク時代の遺構(第86節)の可能性もある。伊礼原D遺跡(2013)でハナマルユキが第Ⅱ層から2点、第Vb層擾乱から4点、第Vb層から1点出土しているが、本遺跡の状況から伊礼原D遺跡のものはグスク時代に帰属するものと思われる。

### <参考文献>

上原 静 1989『考古学ジャーナル』311ニュー・サイエンス社

島袋 春美 1997『タカラガイ製品』『南島考古』№16 沖縄考古学会

北谷町教育委員会 2013『伊礼原D遺跡』北谷町文化財調査報告書 第35集

第60表 タカラガイ製貝錘観察一覧

(法量単位: g, cm)

第図 図版	図 番号	製品 番号	貝種	完破	重量	縦	横	分類	観察事項	貝状態	地区 小「リット」層 遺構 台帳番号
・ 図版124 図98	2	332	ハナマルユキ	完	8	3.4	2.5	無B	緑整う、表裏に刺痕、細ずれか	色残○	H19 S15 Ⅲ P1 台1175
	3	328	ハナマルユキ	完	4	3.1	2.2	半欠C	緑整う	風化or木腐	イ C10 Ⅲ 台1720
	①	321	ハナマルユキ	完	6	3.2	2.4	有A	緑整う、焼け、前面炭で覆う	焼け○	H19 Q15 Ⅲ P9 台1070
図・図版なし	—	323	ハナマルユキ	完	6	3.2	2.3	無B	風化、緑整う	色残○	H19 Q14 Ⅳ 台1254
	—	324	ハナマルユキ	完	6	3.4	2.3	無B	緑整う	風化○	イ A12 Ⅲ 台1844
	—	325	ハナマルユキ	完	8	3.6	2.6	無B	緑整	色残△	イ B11 Ⅲ 台1580
	—	326	ハナマルユキ	完	6	3.1	2.3	無B	緑整う	色残△	イ C11 Ⅲ 台2454
	—	327	ハナマルユキ	完	6	3.4	2.5	無B	緑やや整う	風化△	イ A13 Ⅲ 台1803
	—	329	ハナマルユキ	完	6	3.2	1.4	無B	緑整う	風化○	イ D16 Ⅲ 台2410
	—	330	ハナマルユキ	完	6	3.2	2.3	無B	緑整う	色残△	イ B11 Ⅲ P30 台2361
	—	331	ハナマルユキ	完	7	3.2	2.4	無B	緑整う	風化○	イ B11 Ⅲ 台1586

凡例: ◎=多・強、○=普通、△=少・弱、∠=僅少、×=なし

## (16) 骨製品

ウシの板状製品が3点出土した。図を第124図に示す。

図4～6はウシカウマなどの肋骨を厚さ0.3cmの板状に加工したもので、半月状(図4)と方形状(図5・6)に分類される。半月状のものは弧状の部分を薄く削り刃状をなすもので、勝連城跡では裁縫へらと報告されている。方形状のものはいずれも径0.1cmの孔を有し、角を切り落とすもの(図5)や、切り込みを入れ段を作るもの(図6)がある。孔には金属が付着した例が住屋遺跡で出土しているが、用途は明瞭でない。出土地をみると半月状がO14 SK02 第Ⅲ層、方形状がT12・C12第Ⅲ層の出土で図6は取上番号381で確認されている(第11表)。他に後兼久原遺跡(2003)伊礼原D遺跡(2013)、渡地村跡(2007)などに報告例がある。

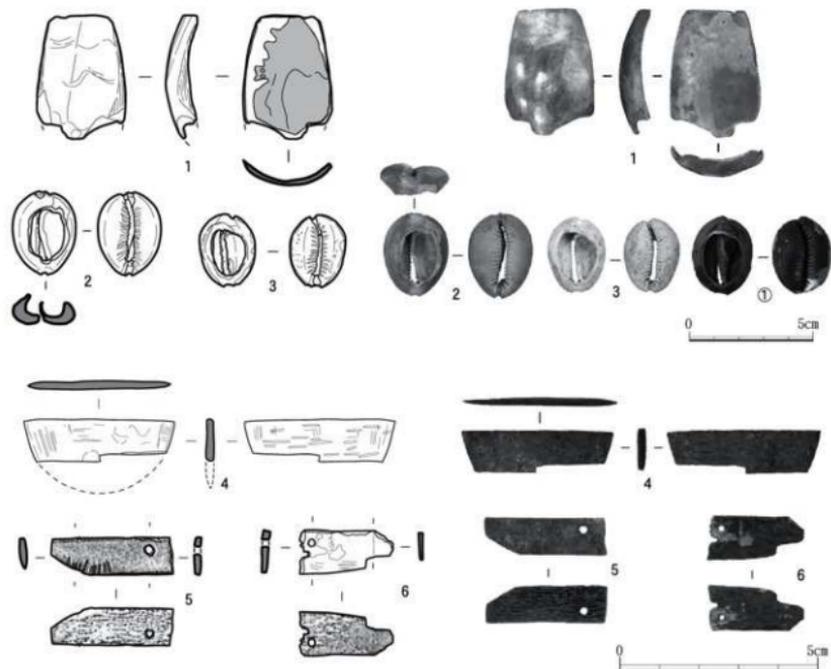
## &lt;参考文献&gt;

平良市教育委員会 1983『住屋遺跡(俗称・民間)発掘調査報告書』

勝連村教育委員会 1990『勝連城跡』「勝連村の文化財」第11集

砂辺和正 1997「金属製鋳を伴う骨製品」『南島考古だより』58号 沖縄考古学会

豊見城市教育委員会 2003『宜保アガリヌ御嶽』豊見城市文化財調査報告書 第6集



第124図・図版98 貝製品・骨製品

## (17) 鉄製品

鉄製品は刀子1点、鉄鏃2点、角釘1点が出土した。以下、略述する。

### A. 刀子

図1は、刃先に向かって細くなる。茎は欠損し身との境目に錆が見られる。長さ18.4cm、厚さ0.7cm、重さ64g。イ地区、A12、第Ⅲ層取上番号219、278出土。

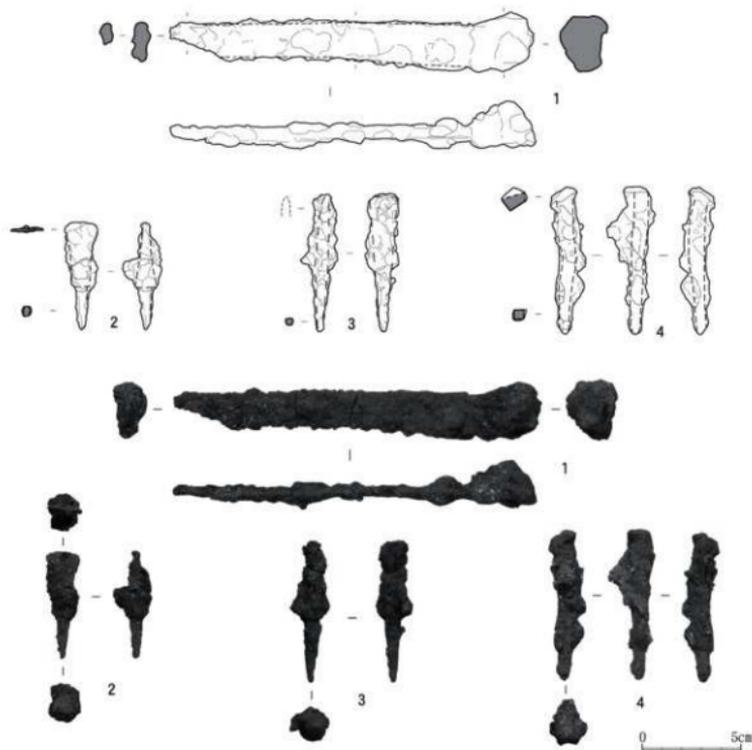
### B. 鉄鏃

図2は、茎先や刃部よりも身部に錆が見られる。刃部がやや幅広となる。刃部幅1.7cm、全長5.5cm。身と茎の境は明確になるもので、茎は身の基部より先端が細くなり欠損する。断面は長方形、長径は0.5cm、短径が0.3cm。重さ11.2g。ハ地区、Q11、第Ⅲ層、SP1出土。

図3は身部に錆が多く見られ、刃部幅1.3cm、全長7cm、茎先の断面は方形で径0.4cm、重さ16.3g。ニ地区、M10、第Ⅲ層 SP5出土。

### C. 角釘

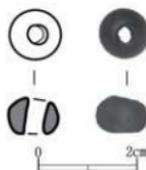
図4は頭部が逆「L」字状になるもので、逆「L」字の先端は尖る。全長7.5cm、頭部の径1.1cm、先端部の径0.5cm、重さ18.7g。ハ地区、Q12、第Ⅲ層出土。



第125図・図版99 鉄製品

## (18) ガラス玉

右図は透明のガラス玉で、内部に気泡が見られる。大きさは直径1.0cm、厚さ0.75cm、重さ0.87gを測る。中央の孔は0.4cmで筒状を呈し、孔縁は両側とも細かい剥離が確認されることから使用時のものと思われる。玉の内部には若干の気泡と製作時の巻きラインが確認される。ハ地区R11第Ⅲ層の出土である。



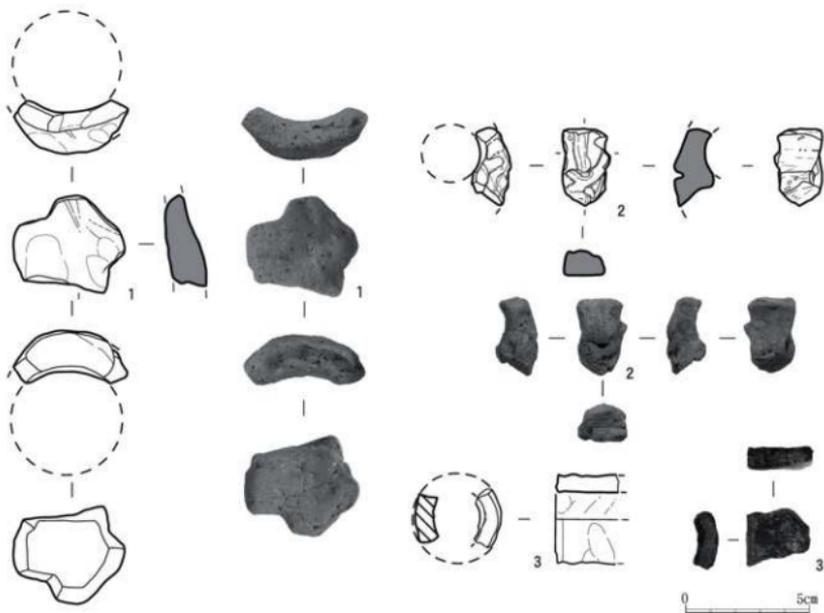
## (19) 羽口

羽口と考えられるものは3点出土した。

第126図1は、円筒状を呈すると見られるもので、先端部に向かって僅かに窄まる。推定内径4.1cm、内外面に砂粒が目立ち、粘土接合のスジも見られる。重さ20.5g、ハ地区Q11、SP37出土。

図2は、円筒状を呈し、表面中央の凸部に沿ってナデが見られ、内面に曲面を有する。推定内径2.3cm、胎土に白色粒を含み、焼け土に見られるものと同様な幅3mmの草痕(ワラ?)が見られる。重さ6.65g、イ地区B17、P32出土。

図3は、円筒状を呈する口縁部破片。口唇部は平坦に整形され、内面縁に僅かに土の盛り上がりがあり、混入物の石英、不定形の黒色鉱物、長方形の黒色鉱物などが見られる。内外面にはナデが見られ、外面は胴部に、内面のナデはスペースべた手触りである。焼成は土器に比して硬質で、外面は黒褐色、内面はほぼ暗褐色を呈し下部に橙色となる部分もある。推定外径約3.6cm、内径2.2cm、重さ4.98g、H19地区。グリッド不明のP5出土。類例資料が、熱田貝塚(1979)で報告されており、同資料では鉄滓が付着している。



第126図・図版100 ガラス玉・羽口

## (20) 焼土

焼土は総重量3,902g出土。層は主に第Ⅲ層だが、僅かに攪乱出土もある。遺構で検出されるものも多く、P・SPが48ヶ所、SKは2ヶ所、SDは1ヶ所、SXは2ヶ所で、その中でも二地区Q7が13ヶ所（SP11ヶ所、SX2ヶ所）と最も多い。第127図の重量出土分布で見ると、16ラインより西側のグリッドで多い傾向が見られ、隣接する伊礼原D遺跡（2013）からの広がりと考えられる。

焼土には成形面のあるものとなないものがあり、前者が22%、後者が78%である。成形面のあるものの割合は平坦面を有するものが91%、曲面を有するもの8.6%、両方を有するもの0.4%である。平坦面には1面のもの、角を呈する2面のもの（図1）、両方を有するもの（図2）がある。

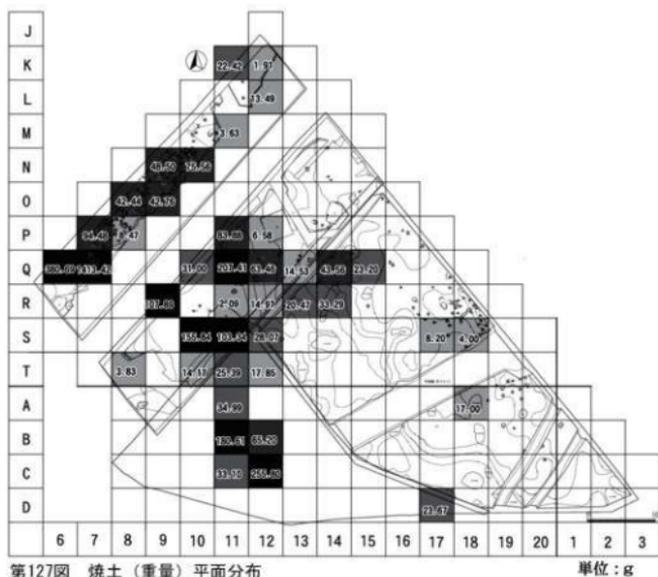
胎土は砂質が主体で、泥質も僅かに見られる。混入物には砂粒、石英、白色粒、赤褐色粒、草痕、まれに貝殻、魚骨の棘（図版103-①）や雲母と見られるものがある。貝殻にはヌノメカワニナ（図版103-②）（註1）も見られる。また、幅2～3mmの草痕（ワラ？）が見られ、内面には複数の線状痕を伴っている。「へ」字状に曲がるもの（図版103-③）もある。土色は橙色が主体的で、にぶい橙色や赤褐色・暗赤褐色・褐色を呈するものが見られ、暗赤褐色のものに硬く焼き締まったものが見られる。

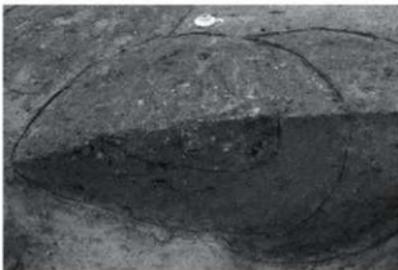
隣接する伊礼原D遺跡（2008）では炉が検出されたグリッドからの出土が多く、同遺跡（2013）の出土分布からも炉に関連するものと考えられる。また、焼土の成形面が内面の孔と見られるものがあり、羽口の可能性も考えられる。以下、特徴的なものを略述する。

図1は表・右側の2面に平坦面を有しその断面形が角を呈するもので、方形の可能性が考えられる。重さ10.8g。イ地区C11、P20出土。

図2は断面が舌状を呈し先端部と見られるもので、外面の成形面はややうねりを持ち、内面は曲面を有する。胎土には白色粒、草痕が見られる。重さ98.76g、イ地区B11、SK56出土。

註1：黒住耐二氏の見解による。

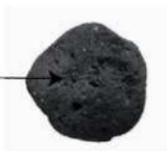




図版101 07-SP23 焼土検出状況



図版102 S10-SP25 焼土検出状況



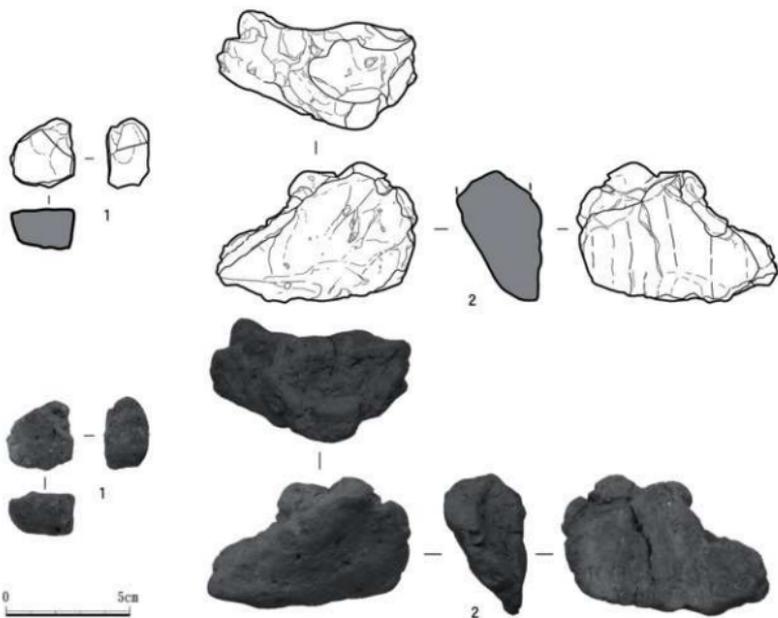
①魚骨の棘



②スノコ



③草痕



第128図・図版103 焼土

## 第5節 近世～現代

### 1. 遺構

第Ⅱ層から検出された遺構は、第129図に示したとおり、焼成跡：2、貝集中部（SS）：3、溝状遺構（SD）：10、ピット（P・SP）：289以上、土坑（SK）：26、用途不明遺構（SX）：1、米軍による攪乱（廃棄場所）：31ヶ所であった。なお、用途不明遺構と米軍による攪乱は紙面の都合上、報告は割愛する。『北谷町の地名』（註）によると、戦前の伊礼集落の主業は農業で芋、サトウキビ、米などを作っていたとあり、当遺跡を「米軍撮影空中写真」（1945.2.28撮影）（図版69）に重ねてみると田畑に該当するが、検出した遺構との関連性を見出す事はできなかった。調査時には第Ⅱ層上面まで最大で2mの厚さをもって造成されており、米軍接収時に埋め立てが行われた後の土地利用による影響もあるものと思われる。以下、遺構毎にサイズ・出土遺物・概要を表にて記す。なお、遺構内よりグスク時代や貝塚時代後期の遺物が出土するのは当時の掘削による混ざり込みと考える。

註：北谷町教育委員会 2006 『北谷町の地名』北谷町文化財調査報告書第24集

第61表 近世～近代遺構一覧

地区	H9		イ		ハ		ニ		総数	
遺構種別	H9		イ		ハ		ニ		総数	
焼成跡	1	(S12)	1	SK56 (B11)	0		0		2	
溝状遺構	3	1-S002 (R12・S13・S14・S15・T15・A15・B16・C16・C17・D18) 1-S003 (S15・S16・S17・S18) 1-S004 (C17・C18・D18)	3	1-S006 (D09) 1-SD10 (D17) 1-SD11 (C10)	1	2-S004 (P12・P13) (畑の区画もしくはは畝)	3	2-S001 (K12・L12) 2-S002 (M09・N10) 2-S003 (P8) (畑の区画もしくはは畝)		10
ピット	※H9・イ地区のピット検出については調査上の都合で割愛した。				280		9		289	
土坑	6	SK02 (C18), SK03 (B16) SK16 (P14・P15・Q14・Q15) SK20 (R14), SK29 (D19) SK30 (D2)	6	SK49 (D10), SK50 (C10) SK55 (B11), SK57 (B12) SK58 (B11-12), SK53 (C12)		012-SK01, 013-SK01 Q10-SK01, Q11-SK01 Q11-SK03, Q12-SK05 Q13-SK02, R10-SK03 R12-SK02, S10-SK02 S10-SK03, T10-SK01 T10-SK02, T10-SK03	0		26	
貝集中部	0		2	(C11) P5・6・7・8周辺 (T11)	1	SX01 (N15・O15)			3	
用途不明遺構	0		0		0		1	SX01 (O9)	1	
合計	10		12		296		13		331	

### (1) 焼成跡

S12（図版104）とSK56（B11）（図版105）の2ヶ所で焼成跡が確認された。様相は違うがどちらも褐色粘質土中に炭が混ざり、焼土が板状に堆積していたため近世遺構と判断した。S12焼成跡は上位に米軍による造成土が堆積し棒状の鉄製品（現代）が出土した。SK56は周辺にグスク時代以降のピット（掘立柱建物想定プラン含む）が多数検出されており、屋外もしくは屋内炉として使用された可能性もあると思われる。なお、S12焼成跡は調査時には攪乱として扱われ詳細不明。

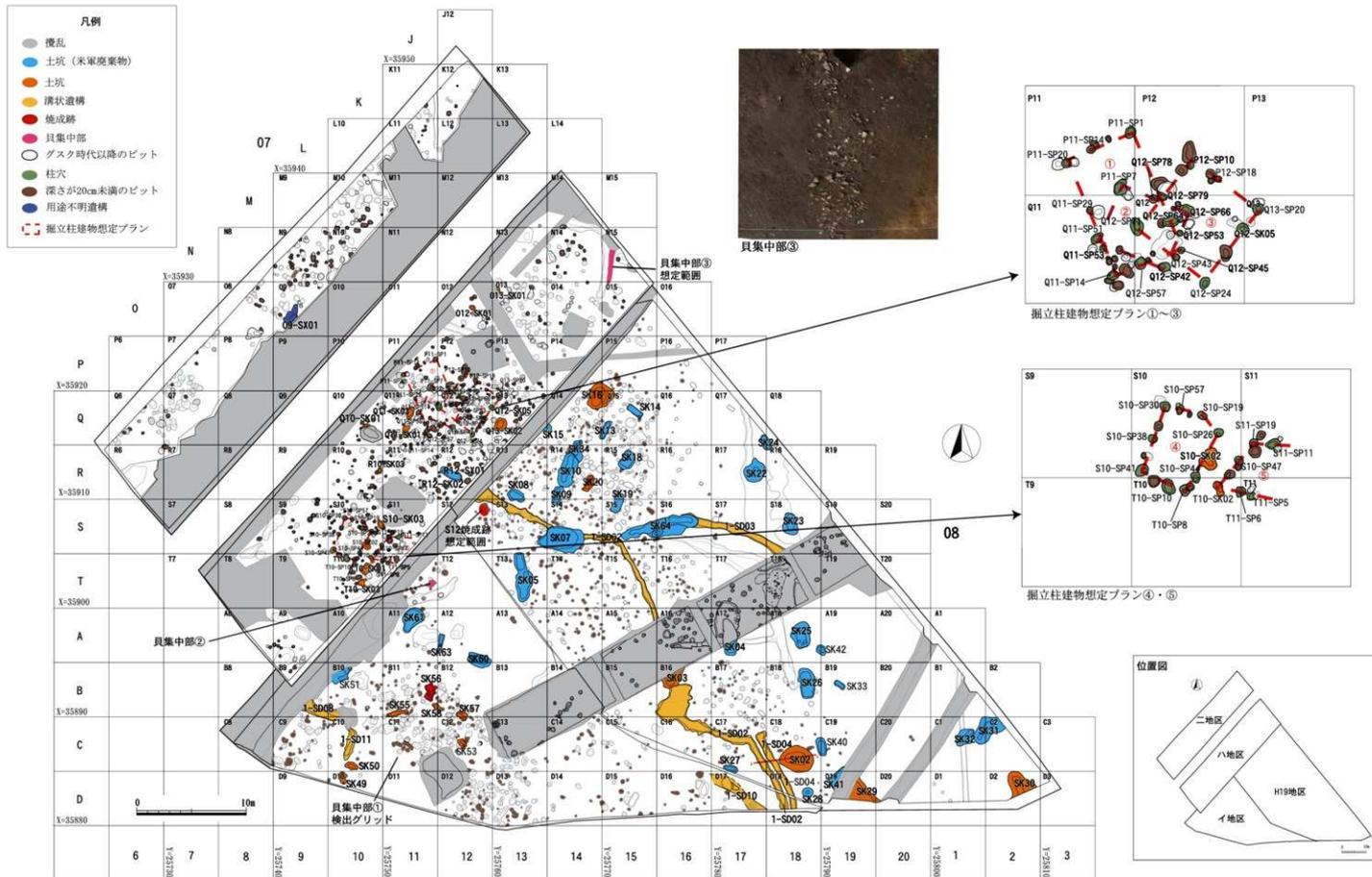


図版104 S12焼成跡

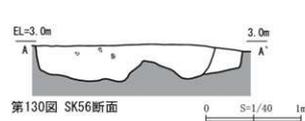
第62表 焼成跡観察一覧

No.	グリッド	サイズ (cm) 長軸 短軸 深さ	形状	遺物	概要説明	時期
S12 焼成跡	S12	80 40 15	楕円	上位から鉄製品（現代）が出土	鍋底状に横や斜に回り、底面に沿って厚さ2～5cmの板状の焼土や炭が見られる。それに平行して褐色粘質土が堆積している。	近世～近代
SK56	B11	184 64 29	不定形	土器（口直型・胴四型C）・塗付皿・沖無毒銅部・加土類・二枚貝有孔製品（?712・3,07・0744の「シララ」・3,074の「シ」（貝塚時代後期）） 自然貝	華大の罐が全体に散る。南北に不整形で検出された。中央部に平出面があり端と端に深まりがある。検出面にて焼成を受けたと思われる粘土塊が出土した。機能は不明。	

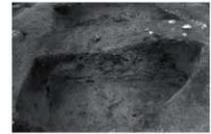
※遺物：土器は貝塚（貝塚時代後期）を省略して示す



第129図 第Ⅱ層検出遺構



第130図 SK56断面



図版105 SK56堆積状況

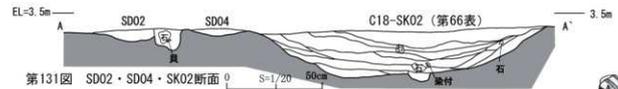
## (2) 溝状遺構

溝状遺構は全部で10ヶ所確認できた。うち二地区とハ地区では畑の区画または畝間溝等と考えられる溝状および段状を呈するところもあったが、近代以降の可能性も否めず報告を愛し、埋土が褐色粘質土であった近世以降と判断できる6ヶ所を報告する(第63表)。特に1-SD02はH19地区をほぼ横断するように検出されたが、北側のハ地区では確認できなかった(第129図)。

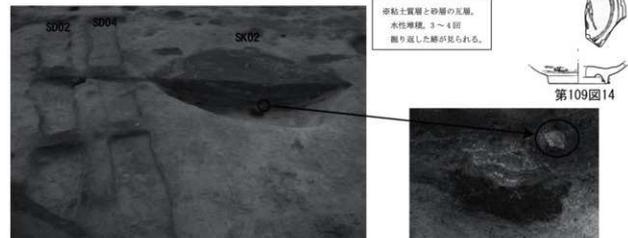
第63表 溝状遺構観察一覧

遺構番号	グリッド	サイズ (m)	方位	遺物	概要	時期											
1-SD02	R12・S13	48	0.8	0.2	北西 南東	押無蓋銅(第144図23)・一枚貝有乳製品(7213・R145*)・土器(口耳類・胴IV類B・胴IV類C)・付着土器片・刀削片・土管・9.3口径青甲・シロコ助骨・軽石・722・造武遺骨(第121図3)	北西から南東へ調査区を横切る砂堤の南側に検出された。埋土は旧表土と同質のもので、この遺構に沿って家塚の埋土が検出されることから近代まで使用されていた遺構と考えられる。ただ、底面が不整で水による堆積が見当たらないことから、「溝」として使用された可能性あり。	近世 ～ 近代									
	S15								西 南東	本跡跡のみ口～底・土器(口I類・胴I類・胴IV類A・胴IV類B・上蓋骨・刀削片)・骨管・刀削片*上蓋・軽石・自然貝・飲料用ガラス瓶(ガラス製瓶③)・鉄製金具	SD02に接続するような形で検出される。埋土はSD02と同じく旧表土と同質のもので、家塚の埋土がこの溝を切って検出されたことから、近代まで使用されていた遺構と考えられる。底面が不整であることによる家塚が見当たらないことから、「溝」として使用された可能性あり。	近世 ～ 近代					
	S16												0.8	0.3	—	SD02と並行する形で検出された。埋土も、断面形も同質のもので、同時期の遺構と判断される。東側へ延びているようにも見られたが、明確なプランは確認できなかった。	近代 遺構 ～ 近代
	S17 S18																
1-SD04	C17 C18 D18	8	0.8	0.2	北西 南東	—	SD02と並行する形で検出された。埋土も、断面形も同質のもので、同時期の遺構と判断される。東側へ延びているようにも見られたが、明確なプランは確認できなかった。	近代 遺構 ～ 近代									
1-SD08	B09	3.1	0.63	0.1	北西 南東	軽石・ウシ中手骨・722*14*	東西方向に伸び、埋土によって切られる。SD02と近似した埋土で、しまりのある褐色粘質土の単一層である。	近代 遺構 ～ 近代									
1-SD10	D17	6.1	0.67	0.2	北西 南東	土器(胴IV類B・胴IV類C)・自然貝・ウマ下顎	検出した遺構の中央部に回りがあり、埋土中から焼けた縄が出土した。	近代 遺構 ～ 近代									
1-SD11	C10	2.87	0.74	0.1	北西 南東	青磁碗・中国産陶輪車or製網・自然貝	埋土をはきんで、SD08と接続すると想定されるため同一の遺構であったと思われる。	近代									

※遺物：土器はII群(貝塚時代後期)を省略して示す



第131図 SD02・SD04・SK02断面



図版106 SD02・SD04・SK02堆積状況

拡大：染付出土状況

### (3) ビット

第Ⅱ層で検出されたビットはハ地区で280ヶ所、ニ地区で9ヶ所であった。大きさを見ると直径16.0cm～75.5cm、深さ5.0cm～68.0cmとバラつきがあり、平面形は楕円や円形が多く方形や不定形などが見られ、断面形は「U」字状、「V」字状、「W」字状、すり鉢状、皿状、二段状、有段状、逆台形など大きさや形ともに様々であった。ほとんどのビットの埋土や混入物は同一で、土質は粘質で粒子は細かく(シルト)微細貝・炭・赤色粘質粒を含むものであった。ビット同士の切り合いや重なりも多く見られ、第Ⅲ層より検出されたビットを切るだけでなく、第Ⅱ層より検出のビットや土坑とも切り合いが見られたので、掘立柱建物の建て替えや柱の入れ替えが行われた事が窺え、一部ではグスク時代から生活の場として住み続けられた事も考えられる。

今回は深さが20cm以上あり、その径や平面及び断面形状に併せて、ビット同士が等間隔に並ぶ等の理由から掘立柱建物プランが想定できたビットについて柱穴として報告する。ハ地区にて5棟の掘立柱建物プランを想定することができた(第129図)。あくまで想定した掘立柱建物プランではあるが、第64表より面積を比較してみると、2タイプあり、プラン①・③はプラン②・④の2倍強にあたる。また、各プランとも長軸上で柱穴の間隔が他に比べて1～2個分間く部分があり、出入り口の可能性が考えられた。

第129図では深さが20cm以下のビットを着色し、その広がりにも着目した。当初は耕作痕、植栽痕などを想定していたが、特に集中部も規則性も無く遺跡全体に広がっていた。また、数個のビットが直線上に等間隔で並ぶことはあるが、その単位で並列する事は無く明確な用途は不明である。

第64表 掘立柱建物想定プラン面積比較

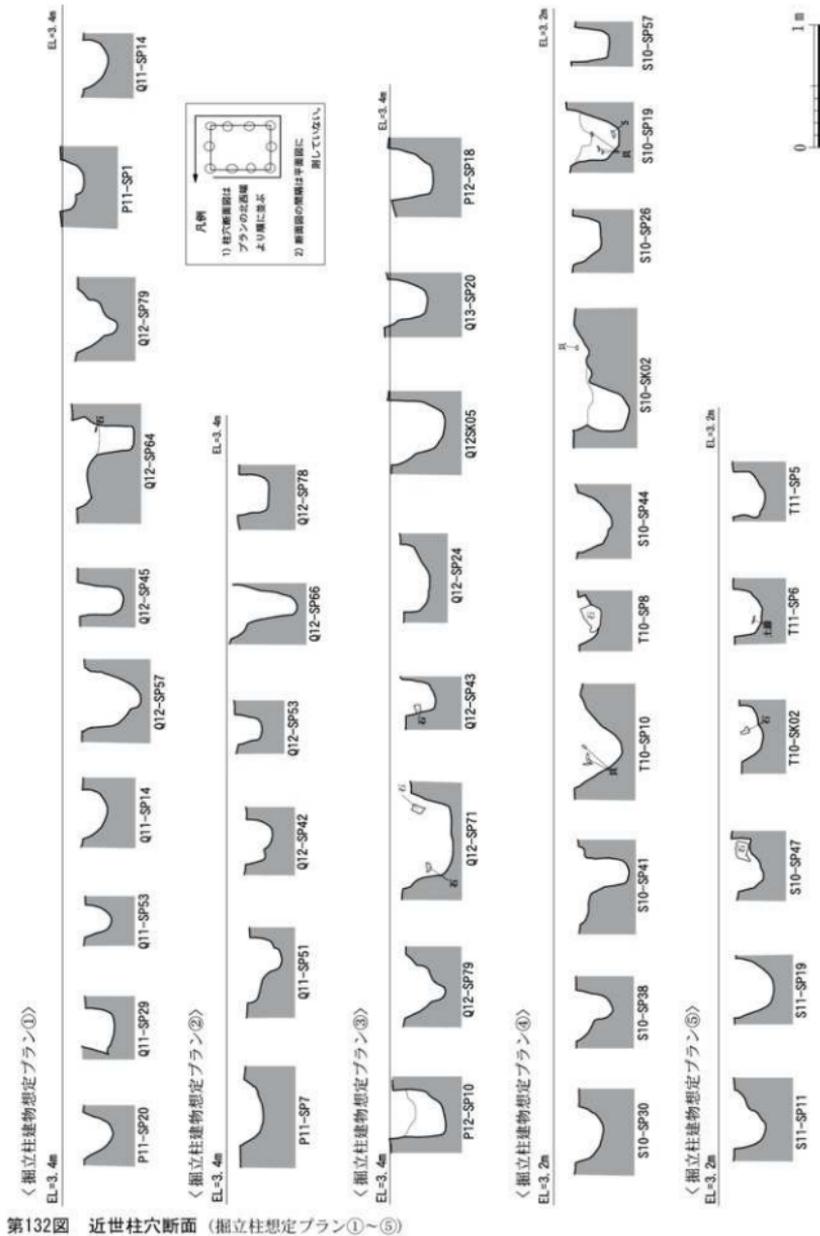
建物想定プラン	長軸 (m)	短軸 (m)	面積 (㎡)	間	方位
①	5.71	3.18	18.16	2×4	北西-南東
②	3.24	2.69	8.72	2×2	西北北-東南東
③	4.06	3.90	15.83	2×2	北東-南西
④	3.13	2.09	6.54	2×2or2×3	北東-南西

※数値は全て小数点以下第3位を四捨五入

第65表 柱穴観察一覧

プラン	柱穴No.	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	形状	断面形状	遺物		
①	F11-SF20	41	41	26	円形	U			
	Q11-SF29	42	35	35	不定形	不定形	イノシシorブタ・ウミガメ・土器(銅V類C・IV類A・IV類C)		
		41	35	35	不定形	不定形			
	Q11-SF53	32	28	20	円形	U	青磁細片・ウミガメ甲殻・土器銅V類B		
	Q11-SF14	56	42	31	楕円形	U	土器銅IV類C・銅V類・白磁碗(第105図了)・ほ乳乳頭四枚骨片		
	Q12-SF57	56	43	38	不定形	U	青磁細片(第109図B)・土器細片・自然貝		
	Q12-SF45	32	30	36	円形	U			
	Q12-SF64	71	46	50	楕円形	二段状			
	Q12-SF79	53	32	34	楕円形	楕円形	鯨骨細片・土器細片		
	F11-SF1	51	46	29	楕円形	二段状			
	F11-SF14	40	35	26	円形	U			
	F11-SF7	83	59	21	楕円形	U			
Q11-SF51	66	41	26	楕円形	二段状				
②	Q12-SF42	57	48	22	楕円形	二段状			
	Q12-SF53	29	28	37	円形	U	二枚貝有孔製品(ヒメジャコ)		
	Q12-SF66	71	52	55	楕円形	U	発行痕・中国産陶輪軸・ハリセンボン歯上顎骨or歯骨・ウシorウマ四肢骨・土器(銅V類C・銅V類A)		
	Q12-SF78	38	32	35	円形	U			
	P12-SF10	60	27	48	不定形	不定形			
	Q12-SF79	53	32	34	楕円形	V	鯨骨細片		
	③	Q12-SF71	83	60	42	楕円形	U	土器(銅IV類B・IV類C(第55図126))・青磁碗(口・胴)	
		Q12-SF43	37	34	24	円形	U		
		④	Q12-SF24	62	49	23	楕円形	U	自然貝
			Q12-SF05	60	43	45	楕円形	U	
			Q12-SF20	52	49	35	方形	U	
			P12-SF18	44	44	39	円形	壘	
S10-SF30	52		46	24	円形	U			
S10-SF38	48	35	31	楕円形	二段状	白磁碗・土器底面(第60図205)			
S10-SF41	65	50	42	楕円形	二段状				
⑤	T10-SF10	73	57	39	楕円形	V	青磁碗口(第109図25)・発行痕(第110図2)・二枚貝有孔製品(オウウツウツラト)・鯨骨・土器銅IV類C		
	T10-SF8	53	36	20	不定形	不定形	土器銅IV類C		
	S10-SF44	52	42	30	楕円形	U			
	S10-SF02	55	37	50	不定形	二段状	沖無細片・イノシシ上顎骨・ウミガメ甲殻or青甲殻・土器IV類B(第54図12)・口1輪(第42図39)・銅V類・砥石・二枚貝有孔製品(ヒメジャコ)		
	S10-SF26	42	41	22	円形	壘有痕			
	S10-SF19	56	37	42	楕円形	U	イノシシ四肢骨		
	S10-SF57	48	37	32	楕円形	U			
	S11-SF11	69	51	26	楕円形	V			
	S11-SF19	50	40	31	円形	U			
	S10-SF47	29	15	23	楕円形	二段状			
	T10-SF02	40	38	18	不定形	壘	青磁碗口		
	T11-SF6	45	38	23	楕円形	U	土器口V類B(第510図87)銅V類A・イノシシ四肢骨		
T11-SF5	44	33	25	不定形	U				

※遺物：土器は日野(貝塚時代後葉)を省略して示す



## (4) 土坑

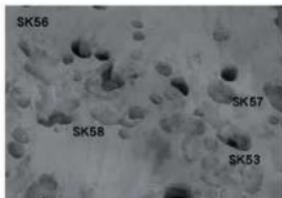
第Ⅱ層より近世～近代に使用されたと考えられる土坑が26ヶ所検出できた。平面形は円や楕円など丸みをもつものが多く、断面形では二段状や深鍋状が多く見られ、「U」字、「V」字、皿状も見られた。深さは14cm～110cmまで様々であるが20cm～30cmがやや多めである。埋土は粘質で細かく(シルト)微細貝と炭、赤色粘土粒を含むものがほとんどであった。用途は不明だがほとんどの土坑がピット群に混在している(図版107)ことから柱穴の可能性もあり、特にQ12-SK05はそのサイズや形状、掘立柱建物想定プラン③での位置からも柱穴と考えられた。中にはB16-SK03・R14-SK20・C18-SK02(第131図)のように粘質土と砂層の互層による水性堆積が見られる土坑や、直径28cmの木製柱と埋土に切られ近代の遺構を米軍が再利用した可能性のある土坑(P14・P15・Q14・Q15-SK16(図版109))も検出された。切り合い関係ではピットと同様に第Ⅲ層のピットや土坑を切るだけでなく、第Ⅱ層のピットや土坑を切る事もあった。

第66表 土坑観察一覧

遺構名 (ゾナリヤ含む)	サイズ (cm)			平面 形状	断面 形状	遺物 (備考)	時代
	長径	短径	深さ				
Q12-SK01	59	46	35	円	V	自然貝	近世
Q13-SK01	57	39	55	楕円	二段	遺物無し。Q13-P19を切る	近世
Q10-SK01	78	33	14	楕円	深鍋	遺物無し。大部分が攪乱によって消滅している。	近世
Q11-SK01	92	43	53	楕円	二段	イノシシ四肢骨・自然貝	近世
Q11-SK03	343	50	45	方	深鍋	土器(口IV類A・胴IV類B)・磨石・青磁碗2・タイ産鶏軸歯・焼土・軟骨細片・自然貝	近世
Q12-SK05	60	43	45	楕円	U	遺物無し。掘立柱建物想定プラン③	近世
Q13-SK02	138	115	56	楕円	二段	青磁碗口胴細片・中国産鶏軸不剥・タイ産鶏軸歯刺・タイ産鉄結合子蓋(第119図3)・ウミガメ腹or青甲板・軟骨細片・石材・土器(細片・胴IV類C・IV類D、二枚貝有孔製品(ヒメジャコ)・自然貝	近世
R10-SK03	67	62	22	楕円	V	土器口胴IV類C・二枚貝有孔製品(ヒメジャコ)・自然貝	近世
R12-SK02	69	54	14	楕円	皿	軟骨細片・土器(口V類C・胴IV類C・胴IV類D、胴II類)	近世
S10-SK02	55	37	50	不定	二段	沖麻痺片・焼土・ウミガメ腹or青甲板・土器(口底IV類(第54図113)・口I類(第42図30)・砥石・自然貝・二枚貝有孔製品(ヒメジャコ)	近世
S10-SK03	93	62	26	楕円	深鍋	土器胴IV類C・自然貝	近世
T10-SK01	109	55	32	方	二段	青磁碗口・沖麻痺片・イノシシorブタ肋骨・軟骨細片・土器胴IV類C・二枚貝有孔製品(リュウキュウサカルボオ)・自然貝	近世
T10-SK02	40	38	18	不定	二段	青磁碗口444(台2229)・貝3804	近世
T10-SK03	94	87	15	不定	皿	遺物無し。P13の隣。一部攪乱を受ける。	近世
D10-SK49	119	50	22	楕円	V	沖麻痺片・沖麻痺刺・自然貝	近世～近代
C10-SK050	120	74	20	楕円	深鍋	白磁碗刺・自然貝・土器細片	近世～近代
B11-SK055	199	53	28	楕円	二段	軟骨細片・自然貝	近世～近代
B12-SK57	106	71	34	楕円	深鍋	青磁碗・自然貝・焼土	近世～近代
B11・12-SK58	94	49	27	楕円	V	軽石・自然貝・ジュゴン?岩様骨	近世～近代
C12-SK53	82	55	36	長方	二段	自然貝	近代
C18-SK02	420	250	80	楕円	深鍋	染付碗底(第109図14)	近代
B16-SK03	(240)	(110)	90	方	深鍋	染付碗刺・沖麻痺火取口(第140図15)・沖麻痺刺・沖麻痺刺3(第144図7)・自然貝・土器細片・軽石	近代
P14・P15・Q14・Q15-SK16	240	210	110	楕円	深鍋	青磁碗刺2・本磁湯のみ・沖麻痺or養豚細片・陶質火取口(第147図3)・土器胴III類・軟骨細片・自然貝・木柱	近代
R14-SK20	150	80	40	楕円	V	青磁碗刺・本磁碗口・自然貝・土器細片・ウシ中腸骨	近代
D19-SK29	(280)	(180)	70	不定	一	遺物無し。田表土からの掘り込み。	近代
D2-SK30	(230)	190	60	方	一	遺物無し。底部より木柱が出土。木柱は幅70cm、長さは壁に切られ不明だが1.8m以上ある。間に間仕切りあり。	近代

( )はおよその数値

※遺物：土器はII群(貝塚時代後期)を省略して示す



図版107 イ地区土坑検出状況



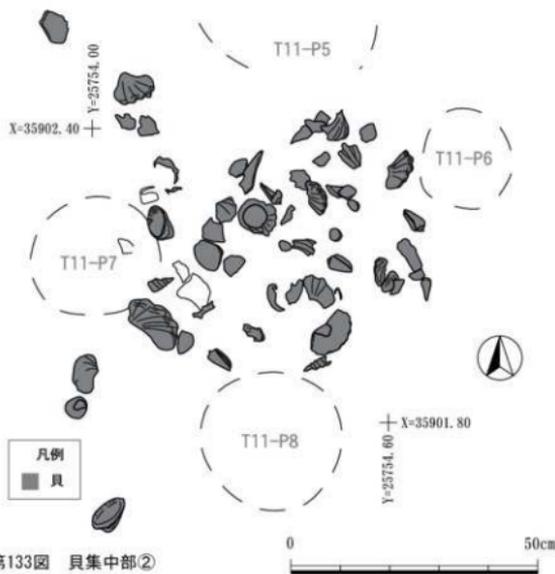
図版108 S10-SK03



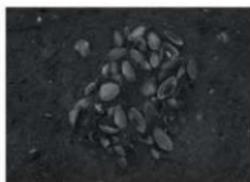
図版109 P14-P15-Q14-Q15-SK16

(5) 貝集中部

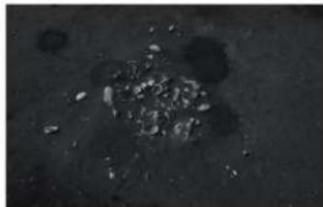
第Ⅱ層からは貝集中部が3ヶ所で確認できた。遺構名が付いていないため便宜的に①～③の番号を付け報告する。①：C11検出貝集中部（図版110）、②：T11検出貝集中部（第133図、図版111）、③：ハ地区北側のN15・015検出貝集中部（第129図）とする。貝の出土数は第67表のとおりで、①では主に中型の二枚貝がおよそ25cm×20cmの方形状に集中して検出された。合併したマスコガイが4組見られることから、一括廃棄されたものと思われる。②ではグスク時代のピットであるP5・6・7・8の上層におよそ40×60cmの方形を呈する形で検出された。大型の二枚貝とその破片が多く出土しているので、ピットが使われなくなり第Ⅱ層が堆積した後、①と同様に人為的に廃棄されたと考えられる。③では二枚貝と巻貝の破片がおよそ3.3m×0.3mの範囲で帯状に広がっていた。グスク時代の溝状遺構である2-SD06上部に該当するので、窪みが残り滞留し易かったと考えられる。貝と共に赤色粒や焼土・礫も混ざっていたことから自然堆積の可能性が高いと思われるが、検出時は用途不明遺構（SX01）として扱われていたため詳細は不明。なお、貝集中部①については位置が特定できなかったため第129図では出土グリッドを明示している。



第133図 貝集中部②



図版110 貝集中部①



図版111 貝集中部②（南東より）

第67表 貝集中部出土量

貝種	①		②		
	最少数個体数 (破片数)	最大数個体数 (破片数)	最少数個体数 (破片数)	最大数個体数 (破片数)	
ツルギノガイ		1	17		
ツルギノガイ	(1)				
ハマノガイ	1	7	11		
ハマノガイ	1	1	1		
ハマノガイ	1				
ハマノガイ		2			
ハマノガイ		(1)			
ハマノガイ	1	4	(1)	16	
ハマノガイ	1	(3)	(3)		
ハマノガイ	1			60	
ハマノガイ	2	10	(28)	6	
ハマノガイ		1	(1)	2	
ハマノガイ	1	1	1		
ハマノガイ	2	3		3	
ハマノガイ	1	2	4	(2)	
ハマノガイ	(1)			(1)	
ハマノガイ	6	1	1		
ハマノガイ	130	1	2		
ハマノガイ		2	1		
ハマノガイ	(1)				
ハマノガイ	1	2	2	(2)	
ハマノガイ	3	2			
ハマノガイ	2			(1)	
ハマノガイ		1			
ハマノガイ		3	(2)		
ハマノガイ		1			
ハマノガイ		2	(1)	5	
ハマノガイ		2	3	(2)	
ハマノガイ	1	(3)	1	4	(2)
ハマノガイ		1	2	(4)	8
ハマノガイ	1				
ハマノガイ		2	2	2	
ハマノガイ		2	(1)	(1)	
ハマノガイ	1				
ハマノガイ		1	(2)		
ハマノガイ		14	(6)	106	
ハマノガイ		1	(1)		
ハマノガイ		1	(1)		
ハマノガイ		1			
ハマノガイ		5			
ハマノガイ		1	(1)		
ハマノガイ		2			
ハマノガイ		1			
ハマノガイ		2	(2)		
ハマノガイ		1	(1)		
ハマノガイ		10			
ハマノガイ		1			
ハマノガイ		10	(5)		

※主要貝種

## 2. 出土遺物

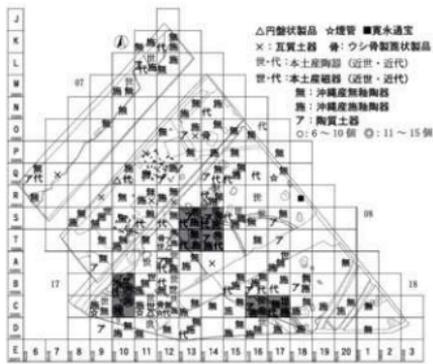
第II層から出土した遺物は17C半ばからの使用が考えられる本土産陶磁器（唐津・有田）、沖縄産陶器（湧田・壺屋）、陶質土器、瓦、煙管、銭貨（寛永通宝）、先島系土器、円盤状製品と19C半ば（明治維新以降）の本土産近代陶磁器（瀬戸美濃・砥部・萬古）、米軍廃棄に伴うガラス瓶や金属製品などである。なお、瓦質土器は第III層からの出土であるが、近世の生産遺跡である湧田窯で作られた製品と考えられるので近世の遺物として扱う。出土量が多いのは沖縄産無軸陶器（227点）で鉢類と壺もしくは甕と考えられる容器類が多く、以下、沖縄産施軸陶器（99点）、瓦（63点）、本土産近代磁器（57点）、陶質土器（30点）等が続く。出土量の多い箇所はS13・14、T13・14やC16・17（H19地区）、B10・C10（イ地区）である。グスク時代の遺物分布と比較してみるとハ・ニ地区で見られた遺物の集中は無くなり、H19地区やイ地区で見られた集中箇所併せてC16・17周辺で1ヶ所増えている。いずれもグスク時代の掘立柱建物想定プランの直近であり南西方向にずれる。以下、各々の遺物について概略する。

第68表 近世～近代出土遺物概要

出土遺物	備考
瓦質土器	湧田産瓦質土器：16C後半～17世紀前半
本土産陶器（近世）	唐津（砂目）・内野山（御縁軸）・薩摩（鼠目）
本土産磁器（近世）	有田・美濃（山本水・見込み瓦藏文）
沖縄産無軸陶器	湧田古窯跡：17C中葉、釜倉・知花古窯：17C後半
沖縄産施軸陶器	辰橋窯（1667～） 酸化コバルト（1852以降）
陶質土器	壺屋地陶結（1682）
本土産磁器（近代）	明治以降昭和初期、日用雑器が大量に移入された
本土産陶器（近代）	四日市萬古地（半磁器製品「大正焼」）
銭貨	日本銭（寛永通宝）

出土遺物	17C	18C	19C	20C
瓦質土器	■			
本土産陶器（近世）	■	■	■	■
本土産磁器（近世）	■	■	■	■
沖縄産無軸陶器	■	■	■	■
沖縄産施軸陶器	■	■	■	■
陶質土器	■	■	■	■
本土産磁器（近代）	■	■	■	■
本土産陶器（近代）	■	■	■	■
銭貨	■	■	■	■

■ 出土遺物推定製作期間



第134図 近世～近代遺物分布状況

第69表 近世～近代遺物出土量

地区	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ	合計	地区	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ	合計
019	154						154	019	115						115
019	117	1	2				120	019	116						116
019	125	1	3				129	019	117		3				123
019	113	2	4				119	019	118	1	1				120
019	016	4	1				17	019	015	2	12	15			31
1119	117						117	イ	113	2	1	3	1	1	8
019	018	1	2	1			4	イ	112	2	1	3	1	1	8
019	031	1					1	イ	113	2	2	1	1	6	
019	012	2					2	イ	110	14	1	1	3	19	
019	016	6	7	1			14	イ	111	3	2	2	2	9	
019	017	5	3				8	イ	112	2	2	2	2	8	
019	018	2	3				5	イ	009	4	2			6	
1119	016						0	イ	008	14	3		1	18	
019	026	2	1				3	イ	111	3	3	1	11	17	
019	001	1					1	イ	112	4	3		1	8	
019	016	1					1	イ	113	1	1			2	
019	016						0	イ	111	3	1	3		7	
019	017	1					1	イ	115	2	2			4	
019	014	5	1	1	2	9	18	イ	110	1	1	1		4	
019	012	2	1			3	6	イ	110	1	1			2	
1119	016						0	イ	111	1	1	1	1	4	
019	017	1					1	イ	112	1	1			2	
019	014	5	1	1	10	17	17	イ	113	4	1	1	6	12	
019	016					0	0	イ	115	1	1	1	2	5	
019	012	4				4	8	イ	116	2	1	1	3	7	
019	013	9	1	3	1	14	14	イ	117	1	1			2	
019	014	6	2	1	2	11	11	イ	118	1	1			2	
019	015	1	1			2	2	イ	119	1	1			2	
019	016	3	1			4	4	イ	120	2	1	1	3	6	
019	017	3	1			4	4	イ	121	6	1	1	1	9	
019	018	3	2			5	5	イ	122	2	1	1	1	5	
019	019	7	4	1	1	13	13	イ	123	2	1	1	1	5	
								イ	124	2	1	1	1	5	
								イ	125	1	1			2	
								イ	126	1	1			2	
								イ	127	1	1			2	
								イ	128	1	1			2	
								イ	129	1	1			2	
								イ	130	2	1	1	1	5	
								イ	131	1	1			2	
								イ	132	1	1			2	
								イ	133	1	1			2	
								イ	134	1	1			2	
								イ	135	1	1			2	
								イ	136	1	1			2	
								イ	137	1	1			2	
								イ	138	1	1			2	
								イ	139	1	1			2	
								イ	140	1	1			2	
								イ	141	1	1			2	
								イ	142	1	1			2	
								イ	143	1	1			2	
								イ	144	1	1			2	
								イ	145	1	1			2	
								イ	146	1	1			2	
								イ	147	1	1			2	
								イ	148	1	1			2	
								イ	149	1	1			2	
								イ	150	1	1			2	
								イ	151	1	1			2	
								イ	152	1	1			2	
								イ	153	1	1			2	
								イ	154	1	1			2	
								イ	155	1	1			2	
								イ	156	1	1			2	
								イ	157	1	1			2	
								イ	158	1	1			2	
								イ	159	1	1			2	
								イ	160	1	1			2	
								イ	161	1	1			2	
								イ	162	1	1			2	
								イ	163	1	1			2	
								イ	164	1	1			2	
								イ	165	1	1			2	
								イ	166	1	1			2	
								イ	167	1	1			2	
								イ	168	1	1			2	
								イ	169	1	1			2	
								イ	170	1	1			2	
								イ	171	1	1			2	
								イ	172	1	1			2	
								イ	173	1	1			2	
								イ	174	1	1			2	
								イ	175	1	1			2	
								イ	176	1	1			2	
								イ	177	1	1			2	
								イ	178	1	1			2	
								イ	179	1	1			2	
								イ	180	1	1			2	
								イ	181	1	1			2	
								イ	182	1	1			2	
								イ	183	1	1			2	
								イ	184	1	1			2	
								イ	185	1	1			2	
								イ	186	1	1			2	
								イ	187	1	1			2	
								イ	188	1	1			2	
								イ	189	1	1			2	
								イ	190	1	1			2	
								イ	191	1	1			2	
								イ	192	1	1			2	
								イ	193	1	1			2	
								イ	194	1	1			2	
								イ	195	1	1				

## (1) 瓦質土器

湧田産と思われる瓦質土器で壺の肩部3点・底部1点、香炉1点、不明胴部2点の合計7点が出土した。器色は灰褐色で芯部にうっすらと灰黒色を呈するものが多いが、陰刻された資料について素地と器面の色調が違うのはあるいは何らかの着色が行われた可能性も考えられ、他の破片と併せてタイ産の可能性も否めない事から、今後、類似資料の増加を待ちたい。瓦質土器は主に第Ⅲ層より出土しており、遺構から確認されたのはP11-SK01では二枚貝有孔製品（シラナミ）・獣骨細片、R11-SP5・6では自然貝、Q7-P21では青磁碗口縁部・小型石斧（第63図3）・獣骨細片と伴出していた。いずれの遺構もピット集中部からはやや離れているが、周辺からはグスク時代の遺物が多数出土している。なお、H19地区A14第Ⅳ層より壺の底部が出土しているのは第Ⅲ層からの混ざり込みと考えられる。

以下、器種ごとに略述し、主な遺物については第71表に詳細を記載し、第135図、図版112に示す。

### A. 壺

壺は全部で4点確認できた。うち3点が肩部で2点は沈線で圏線と唐草と思われる文様が陰刻される（図1・2）。底部は1点が確認できたが、腰部の叩き目と胎土の状況からタイ産半練土器の可能性も考えられる（図4）。

### B. 香炉

香炉は底部が1点出土した。底面からほぼ直線的にやや外傾しながら口縁まで移行するタイプで、3カ所に三角錐状の脚を貼り付けるようである（図5）。

### C. 器種不明

胴部が2点確認できた。うち1点は内傾気味の器形で素地や器色は図3の壺肩部と酷似する。小破片のため図示はしていない。図6は直線的な器形で、素地に微細な角閃岩を多数含み、器色は淡灰色と濃灰黒色のサンドイッチ状を呈するためタイ産半練土器の可能性も考えられる。

第70表 瓦質土器出土量

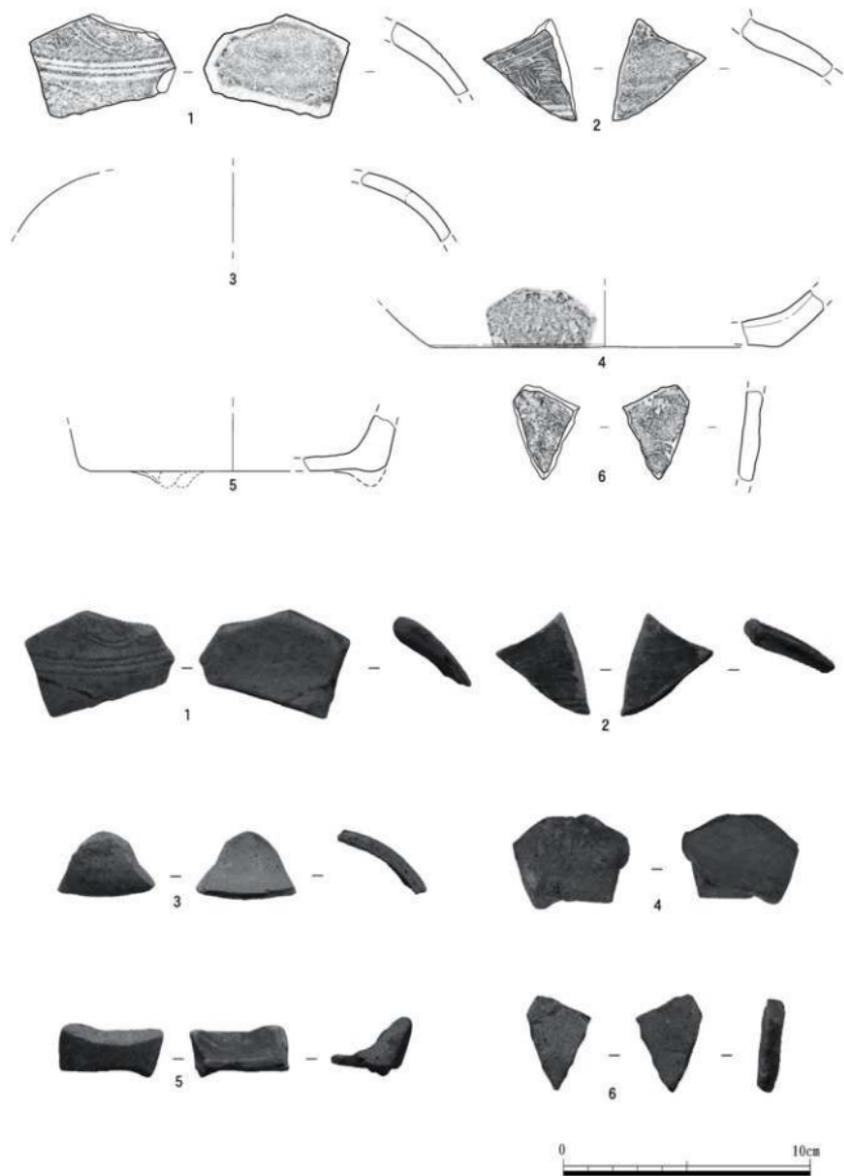
地区	器種・部位	壺			不明	合計
		肩部	底部	胴部		
H19	IV		1			1
ハ	II		1		1	2
	III	2				2
ニ	II (遺構)			1		2
	III (遺構)				1	1
合計		3	1	1	2	7

ハ地区Ⅱ (遺構)：P11-SK01 R11-SP5・6

ニ地区Ⅲ (遺構)：Q7-SP21

第71表 瓦質土器観察一覧

第135時・図版112	番号	器種	部位	口径 器高 底径 (cm)	重量 (g)	器厚 (mm)	色調 (芯部)	混和材	器面		文様等	地区 小グリッド 層 (遺構) 台帳番号	
									内面	外面			
第135時・ 図版112	1	壺	肩	-	16.63	4~8 上部は 厚い	灰褐色 (灰黒色)	黒色粒 茶色粒 石灰質砂粒	指ナゲ	指ナゲ	沈線で3本の圏線 と直上に唐草?を 描く	ハ Ⅲ 台2309	
	2	壺	肩	-	9.72	8~6 上部は 厚い	灰褐色 (灰黒色)	黒色粒 茶色粒 石灰質砂粒	指ナゲ	指ナゲ 鈍削り	沈線で圏線と直上 に唐草?を描く	ハ R9 Ⅲ 台2131	
	3	壺	肩	-	15.74	-	6	雲母 黒色粒 石灰質砂粒	ナゲ消し 指圧	指ナゲ (左から右 への斜位)	横み上げ痕が残る	ハ R11 Ⅲ (SP5・6) 台1960	
	4	壺	底	-	25.47	器 厚:12 底厚:8	橙褐色	赤色粒 若干の黒色粒と 石灰質砂粒	指ナゲ	未調整	腰部外面に叩き目	H19 A14 Ⅳ 台2025	
	5	香炉	底	-	29.72	器厚:9 底厚:5	12.4	灰褐色	雲母 黒色粒 石灰質砂粒	指ナゲ	指ナゲ 指圧	脚部は貼り付け	ハ Ⅲ (SK01) 台1843
	6	器種 不明	胴	-	5.61	-	6	淡灰色 (灰黒色)	微細な角閃岩多数 茶色粒 石灰質砂粒	指ナゲ	未調整	底部もしくは蓋の 可能性あり	ニ Ⅲ (SP21) 台2371



第135図・図版112 瓦質土器

## (2) 本土産陶器（近世）

17世紀から明治時代までに製作されたとと思われる本土産の陶器が合計20点得られた。碗4点、皿3点、壺1点、播鉢7点、甕1点、器種不明4点で、生産地としては薩摩、内野山、唐津が確認できた。ほとんどが第Ⅱ層からの出土であるが、第Ⅲ層から備前産播鉢と瀬戸産天目茶碗と内野山産碗が出土している。なお、備前産播鉢と瀬戸産天目茶碗は近世よりも古い可能性が高いが、いずれも長期に亘って製作されてきた製品であるため、当項で報告する。

伴出関係を見てみると、第Ⅱ層期の遺構B12-SK59では青磁碗（第100図32）と器種不明胴部（薩摩産）、C11-P20では肥前系碗と碗底部（内野山産）が伴出し、第Ⅲ層期の遺構A11-SK62では白磁碗底部（第105図14）・青磁・染付・中国産褐釉陶器壺底部（第117図39）・沖縄産無釉陶器・磨石・軽石・獣骨（ウシ）と碗腰部（内野山産）が伴出していた。また、遺構外でも沖縄産陶器及び本土産陶器・近代磁器などと伴出することが多かった。（第134図）。

以下、器種ごとに略述し、主な遺物については第74表に詳細を記載し、第137図、図版113に示す。

### A. 碗

内野山産と瀬戸天目と思われる碗が確認できた。前者は碗の直口口縁部・胴（腰）部・底部で後者は底部である。内野山産の資料は高台から斜め上方に向けて胴部が延び口縁部に至ると思われる器形で、いずれも轆轤木挽きで成形され、内面は灰釉や鉄釉を外面は腰部に露胎部を残し、銅緑釉を掛ける掛け碗であった。図1は腰部から底部にかけての資料で高台内側には兜巾と呼ばれる円錐状の突き出した削り残しが見られる。1650年代～1690年代に内野山で生産されたようである。露胎部分の複数箇所銅緑釉の軸垂れが見られる。図2は瀬戸天目と思われる碗の腰部で、高台脇に挾が入り、胴部にかけて逆「ハ」字状に開く。口縁下で角度を変えて立ち上がるタイプだと思われる。

### B. 皿

皿は唐津産と薩摩産が確認できた。唐津産は内面に白化粧土を施し、刷毛目文様を描いた上に透明釉を掛けている。薩摩産は鉄釉を直掛けする。図3は口縁部で口唇は玉縁状である。1780年～1860年代に唐津で生産されたようである。図4は薩摩産の皿の底部で高台は低く、見込みに胎土目の一部残る。外面腰部には不規則に軸が垂れる。図5は唐津産の皿の底部で見込みに砂目を確認できる。高台内の削りが高台脇より深く削りこまれている。17世紀に生産されたようである。

### C. 壺

薩摩産と思われる壺の胴部が1点確認できた。器壁は薄いため小型の壺胴部と思われる。素地は赤褐色で粗く黒色粒や白色粒が混ざる。轆轤痕が明瞭である。小破片のため報告は割愛した。

### D. 播鉢

播鉢は全部で7点出土し、産地不明の底部1点以外は全て備前産であった。櫛目は6～9本を一組とし、櫛目間も1.5～3mmと様々であったが、胴部に櫛描きの重複は見られなかった。図6は原形の推定可能な片口部の資料である。縁帯の外面は無文で下部の鰐状肥厚部の突出はあまり強くない。図7は胴部で轆轤痕が明瞭である。図8・9は底部で腰部に比べ底部の器壁は薄くなる。

第72表 本土産陶器（近世）出土量

地区	器種・部位	碗		皿		播鉢		壺		不明	合計
		口	底	底	胴	口	底	口	底		
H19	Ⅱ			1	1			1			4
	Ⅲ		1								1
イ	Ⅱ	1		2				1		1	5
	Ⅱ（遺構）		1						1		2
	Ⅲ						1				1
	Ⅲ（遺構）	1									1
ハ	Ⅰ										1
	Ⅱ				1						1
ニ	Ⅰ							2	2		4
	Ⅱ										1
合計		1	1	2	3	1	1	3	3	1	13
器種合計		4	3	1				7	1	4	20

イ地区 Ⅱ（遺構）：B12-SK59 C11-P20  
Ⅲ（遺構）：A11-SK62

## E. 甕

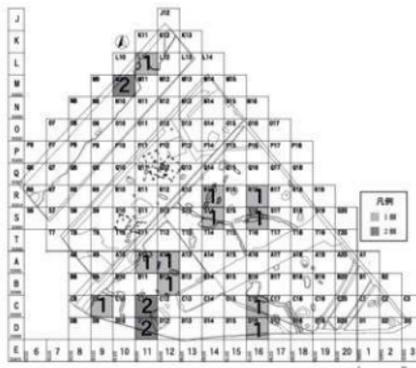
図10は薩摩産の甕の口縁部である。口縁部内側下及び外面から粘土を貼り付け、断面三角形に作る。口唇部は中央がやや盛り上がり、その箇所は軸は拭い取られ、貝目が残る。

### <参考文献>

九州近世陶磁学会 2000『九州陶磁の福年』

第73表 産地別出土量

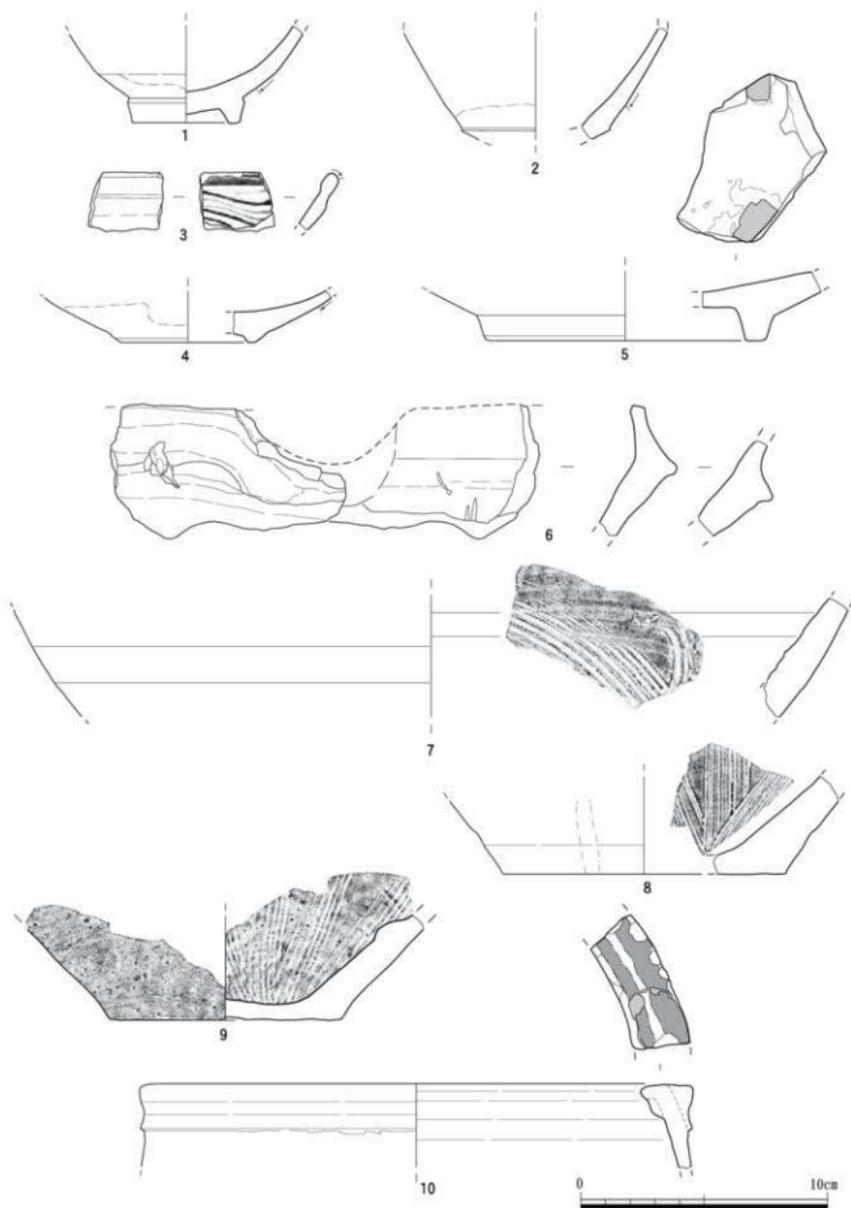
産地	部位	碗		皿		鉢		甕		不明	合計
		口縁	底	底	口縁	底	口縁	底			
瀬戸美濃			1								1
備前					1	3	2			1	7
唐津				2							2
内野山	1	1	1								3
薩摩		1		1				1	1	1	4
不明								1		2	3
合計		1	1	3	2	1	1	3	3	1	20



第136図 本土産陶器（近世）平面分布

第74表 本土産陶器（近世）観察一覧

第図版	番号	器種	部位	口径 器高 底径 (cm)	重量 (g)	素地	観察事項	産地	地区小グリッド 層（遺構） 取上番号 台帳番号
第137図・図版113	1	碗	底	4.4	63.21	淡灰白色で粒子はきめ細かく精良	外面：腰部に露胎部を残し銅緑軸を掛ける 内面：灰軸 内外面ともに細かく貫入が入る。高台はほとんどが破損しているが、一部甕付けに胎土目が見られる。高台内側に兜巾。	内野山 (17C 後半)	イ C11 (P20) 取60 台2160
	2	碗	底	4.0	16.77	灰白色で微粒子。若干黒色粒が混ざる。	外面：腰部に露胎部を残し鉄軸を掛ける 内面：鉄軸 天目碗の可能性	瀬戸美濃 (16C)	H19 S16 Ⅲ 台2442
	3	皿	口縁	-	6.5	灰白色で微粒子	口唇部は玉縁状に作る 内面：白化胚土を掛け刷毛目文様を描いた上に透明軸を掛ける。外面：土見せ	唐津 (18C 後半)	イ A12 Ⅱ 台1660
	4	皿	底	5.4	26.57	橙褐色で微粒子	外面：腰部まで鉄軸を掛けるが、一部高台脇まで垂れる 内面：全面に鉄軸を施す	薩摩	H19 R16 Ⅱ 台2379
	5	皿	底	11.4	68.47	暗赤褐色で微粒子	見込み：白化胚土を掛け刷毛目文様を描いた上に透明軸を掛ける。2箇所に砂目が残る 外面：残存部は無軸	唐津 (17C 前半)	イ D11 Ⅱ 台1690
	6	播鉢	口縁	-	108.14	暗褐色で橙褐色を挟む 粗粒子 白色粒を多く含む	縁部の外面は無文で下部の鰐状肥厚部の突出は弱い。縁部内面立ち上がり部分に横位のヘラ調整痕が流る。破損のため櫛目は2本のみ確認でき、櫛目間は2mm。	備前	ハ Ⅱ 台1548
	7	播鉢	胴	-	88.6	赤褐色で粗粒子 黒・赤色粒と砂粒を含む	櫛目は9本以上を1組とし重複せず、櫛目間は1.5～2.5mmと一定ではない。粘土の輪積みの様子が明瞭に残る。	備前 (16C)	イ C11 Ⅲ 取326 台1635
	8	播鉢	底	11.4	47.09	橙褐色と暗褐色で暗青灰色を挟む	櫛目は7本を1組とし重複せず、櫛目間は1.5～2mmと一定ではない。櫛目間の間隔は4mm以上。器壁厚13mm、底厚8mm。	不明	H19 S14 Ⅱ 取43 台2385
	9	播鉢	底部	-	83.5	淡灰色で大粒の黒色粒多、白色細粒若干含む	櫛目は6本を1組とし重複せず、櫛目間は1.5～3mmと一定ではない。櫛目間の間隔は1.3cm以上。焼き膨れが多い。器壁厚8mm、底厚6mm	備前	ニ M10 Ⅱ 台2383
	10	甕	口縁	-	34.8	赤褐色で粗粒子 若干の赤色粒と黒色粒を含む	口縁部は内側下及び外面から粘土を貼り付け断面三角形に作る。口唇部には重ね焼きのための貝目が残る。器厚7mm	薩摩	イ D16 Ⅱ 台1780



第137図 本土産陶器 (近世)



図版113 本土産陶器（近世）

### (3) 本土産磁器(近世)

明治時代以前に製作されたと思われる肥前系染付の碗2、小碗1、大碗4、皿1、瓶1の合計9点を確認した。素地や文様から生産地は有田や波佐見が考えられた。9点のうち3点がピット出土でB12-P22では中国産褐釉陶器と中国産染付、B11-P26では中国産染付・石器・獣骨、C11-P20では中国産褐釉陶器・中国産染付(第109図20)・内野山産碗(第137図1)・二枚貝有孔製品(シラナミ)と伴出した。周辺はグスク時代以降と考えられるピットが多数検出されており、特にB11-P26は掘立柱建物想定プラン(15)に含まれる。なお、A17-SK04では沖縄産施釉陶器・瓦・青磁と伴出するがSK04は米軍擾乱である。また、第Ⅲ層より出土している遺物は第Ⅱ層からの混ざり込みと考えられる。

今回は出土数が少ないため個々の資料の特徴について観察一覽にて示し、その中から残存状態の良い大碗4点と瓶1点を第138図に掲げ、2点を写真図版のみで紹介する。

図1は山水文碗で図3・4は高台の形に違いが見られる見込み荒磯文碗である。文様はかなり簡略化されており肥前と波佐見に類似文様が見られた。「17世紀後半の見込み荒磯文碗は山水文碗と共存する事が多い」(註1)が、今回は共存しておらず図1・4は隣接したグリッドからの出土であった。図2の文様は不明で今後の資料増加を待ちたい。図版114-7は見込みと畳付けに砂目が残る資料である。素地が堅緻である事や器色から中国産磁器の可能性もあるが、中城御殿跡(註2)に類似資料が掲載されていることと素地の様子から肥前産として報告する。

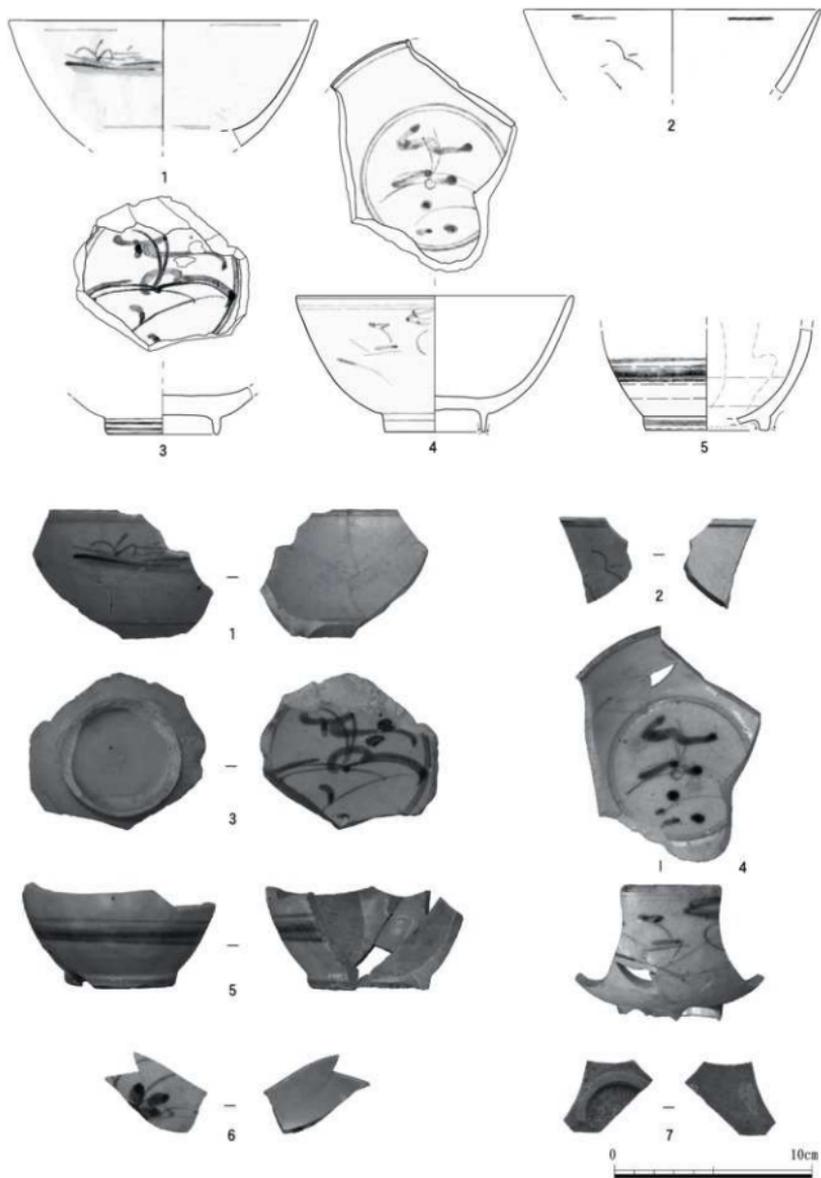
註1 野上建紀 2000「磁器の編年(色絵以外) 1.碗・小杯・皿・紅皿・紅猪口」『九州陶磁の編年』九州近世陶磁会

89頁

註2 沖縄県埋蔵文化財センター 2012『中城御殿跡(3)』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書 第63集

第75表 本土産磁器(近世) 観察一覽

第図図版	番号	器種	部位	口径器高底径(cm)	素地	施釉/発色	産地	備考	地区小グリッド層位(遺構)取上番号・台帳番号
第138図・図版114	1	大碗	口縁	15.6 -	青白色で滑らか	呉須にて外面には山水文と團縁、内面口縁下に團縁を描いた後、透明釉を掛ける。呉須の発色はにぶい。	肥前	山水文は17世紀前半より用いられる	イ B11 Ⅲ 取203 台1617
	2	大碗	口縁	15.0 -	青白色で滑らか	呉須にて絵付け後、透明釉を掛ける。呉須の発色はにぶい。	肥前	細片のため詳細不明	ニ Ⅱ 台2411
	3	大碗	底	- 5.6	灰白色で堅緻	呉須にて見込みには荒磯文、高台外面に二本團縁を描いた後、総釉。呉須の発色は鮮明。	肥前	文様はかなり簡略化される。肥前と波佐見で類似文様が見られ、その年代は17世紀後半である。	イ T12 Ⅲ 取287 台1615
	4	大碗	口 底	14.2 6.9 5.1	青白色で滑らか	呉須にて見込みには荒磯文、外面に雲龍を描いた後、総釉。畳付けのみ釉を掻き取る。呉須の発色はにぶい。	肥前	文様はかなり簡略化される。肥前と波佐見で類似文様が見られ、その年代は17世紀後半である。	イ B12 Ⅲ(P22) 台2047
	5	瓶	瓶底	- 6.2	白色で微粒子。黒色粒が混ざる。	胴部に呉須にて二重の團縁。畳付けは輪刺ぎ。高台内面に砂目の痕が残る。呉須、透明釉ともに発色はにぶい。	肥前	内面は無釉だが、一部に透明釉の軸垂れが見られる。	イ B11 Ⅲ(P26) 取25 台2036
	6	碗	胴	- -	白色で微粒子。黒色粒が混ざる。	呉須にて外面に草花文を描いた後、総釉。呉須の発色は良好。	肥前	内外面ともに貫入あり	イ C11 Ⅱ(P20) 台2049
	7	皿	底	- 4.0	褐色で微粒子。黒色粒が混ざる。	外面: 極々薄い透明釉が掛かる	肥前(中国産の可能性あり)	見込みには砂目が2箇所残るが、その角度から3箇所にあったと推定できる。また畳付けにも砂目が残る。外底は成形時の引き擦り痕が明瞭である。	イ B10 Ⅱ 取48 台1801
	-	碗	胴	- -	白色で微粒子。黒色粒が混ざる。	見込みに團縁後、透明釉。発色は良好。	肥前系	細片のため詳細不明	ハ (重機掘削) 台2102
	-	小碗	口 底	- 4.7 -	灰白色で微粒子	内外面ともに透明釉を掛け、畳付けのみ釉の掻き取る。	肥前系	無文	H19 A17 Ⅱ(SK04) 台4270



第138図・図版114 本土産磁器（近世）

#### (4) 沖縄産施釉陶器

「上焼(ジョウヤチ)」と称される沖縄産の施釉陶器が99点出土した。得られた資料は碗54点、杯1点、皿2点、瓶10点、鉢5点、急須3点、火取2点、蓋3点で完形は無かった。全体の98%が第Ⅱ層からの出土であり、第Ⅲ層より出土の碗胴部は第Ⅱ層からの混ざり込みと考えられる。第76表に器種ごとの出土量、第139図に平面分布を示す。釉薬は灰釉、鉄釉、透明釉(白化粧に伴う)が、絵付けには呉須(酸化コバルト)や鉛釉が使用された。施釉方法は「内外面ともに腰部まで釉を掛け下半部は露胎のまま残すもの」「全面施釉」「掛け分け」が確認できた。碗について器形と釉薬の関連性を見てみると、高台から口縁部まで直口するものは灰釉が多く、腰部に丸みをもち口縁部がやや外反するものには白化粧+透明釉が多く見られた。また、施釉後畳付けの釉を掻き取るものは白化粧+透明釉に限られ、中には焼成後の研磨により白化粧ごと剥ぎ取るものもあった。以下、器種ごとに略述し主な遺物については第77表に詳細を記載し、あわせて第140図、図版115に示す。

碗は口縁部15点、胴部24点、底部15点が確認できた。小破片が多く形状での分類は難しかったため、便宜上、施釉方法の違いで分類した。内外面ともに灰釉が掛かるもの(図1・5)14点、内外面ともに鉄釉を掛けるものは2点であった。白化粧後透明釉を施すもの(図2・3・7)は32点で碗の中で一番多く、うち白化粧後花型文押(イングーチチャー)を施すもの(図4)5点、呉須で絵付けするもの3点であった。灰釉と鉄釉の掛け分け(図6)は3点、白化粧後透明釉と鉄釉の掛け分けは2点出土した。杯(方言名:チブ)(図8)は胴部1点のみで、灰釉が掛かる。皿(図9)は

第76表 沖縄産施釉陶器出土量

地区	器種・部位 層位	碗		杯	皿		瓶		鉢	急須		火取	蓋	不明		合計			
		口	胴	底	口	底	口	胴	胴	蓋	身	注口	口	胴	口		胴	底	
H19	Ⅱ	5	12	5	1		1					1	1	2		2		34	
	Ⅱ (遺構)	2	1						1			1						5	
	Ⅲ (遺構)	1																1	
イ	Ⅱ	4	3	5			2	1	2		1					5	1	26	
	Ⅱ (遺構)	1							1						1			3	
ハ	Ⅰ								1									1	
	Ⅱ	4	3	4		1		1	1		1		1	1	4			21	
	Ⅱ (遺構)	1																1	
ニ	Ⅱ	1	1								1					3		6	
	Ⅱ (遺構)	1																1	
合計		10	12	10	0	1	0	2	1	6	1	1	1	0	1	0	1	2	99
器種合計		54		1	2		10		5	3		2	3				19		

H19地区 Ⅱ (遺構): B16-SK03 A17-SK04 R14-SK10

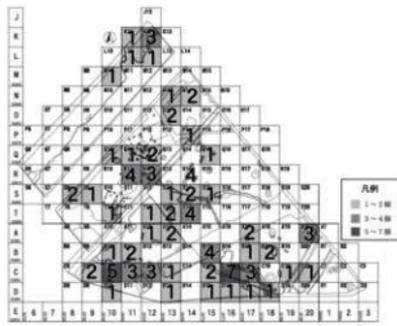
H19地区 Ⅲ (遺構): R14-P16

イ地区 Ⅱ (遺構): D18-P9 C11-P21 D10-SK49

ニ地区 Ⅱ (遺構): M10-SP13

ハ地区 Ⅱ (遺構): T10-SK01

口縁・胴・底部とも1点ずつ出土。鉄釉が掛かる。瓶(図10)は口縁部2点、頸部1点、胴部7点が出土し、鉄釉が掛けられたものと白化粧後透明釉が掛かるものが見られた。鉢(図11・12)は口縁部3点、胴部2点が出土し、鉄釉と白化粧の掛け分けが見られた。急須(図13・14)は蓋1点、身1点、注口1点が出土。蓋身ともに文様が入る。火取(方言名:ヒートゥイ)(図15)は口縁・胴部ともに1点ずつ出土。蓋(図16)は3点出土した。撮り周辺に鉄釉を掛けるのは共通するが、縁に直口と玉縁状の違いがあった。

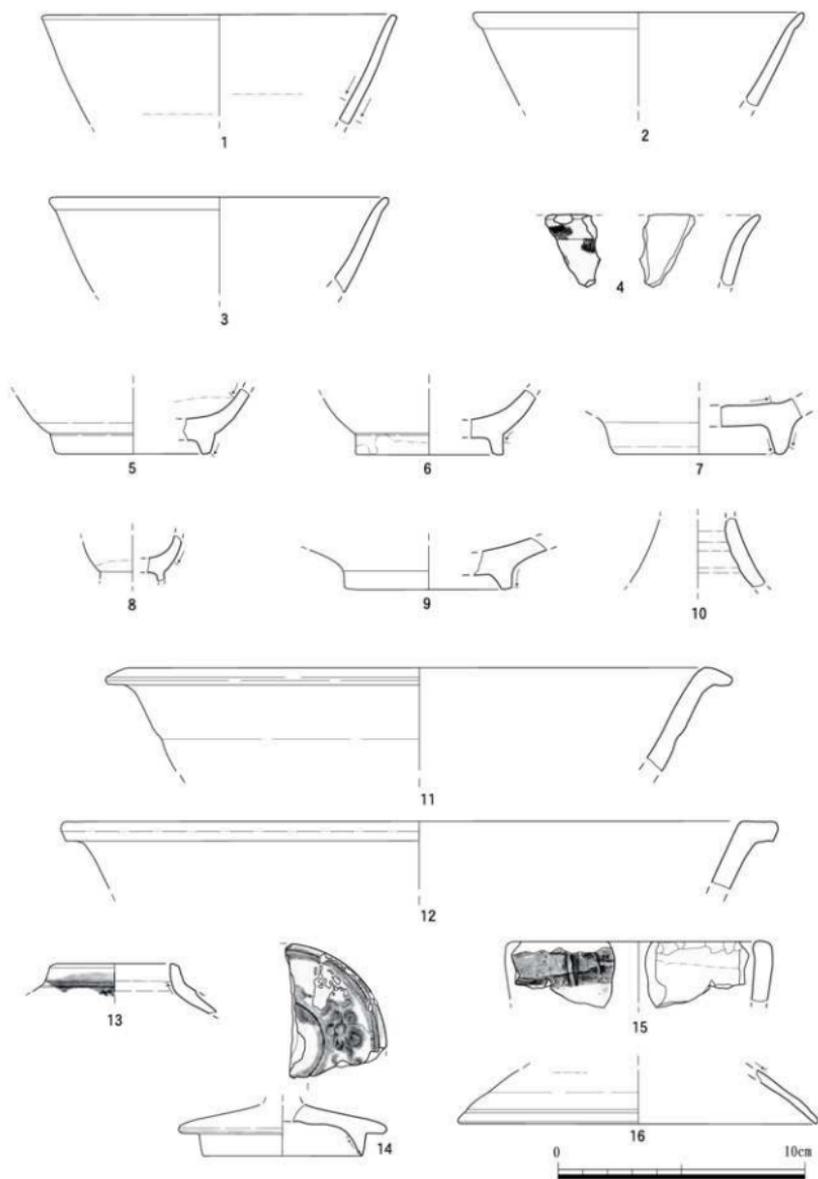


第139図 沖縄産施釉陶器平面分布

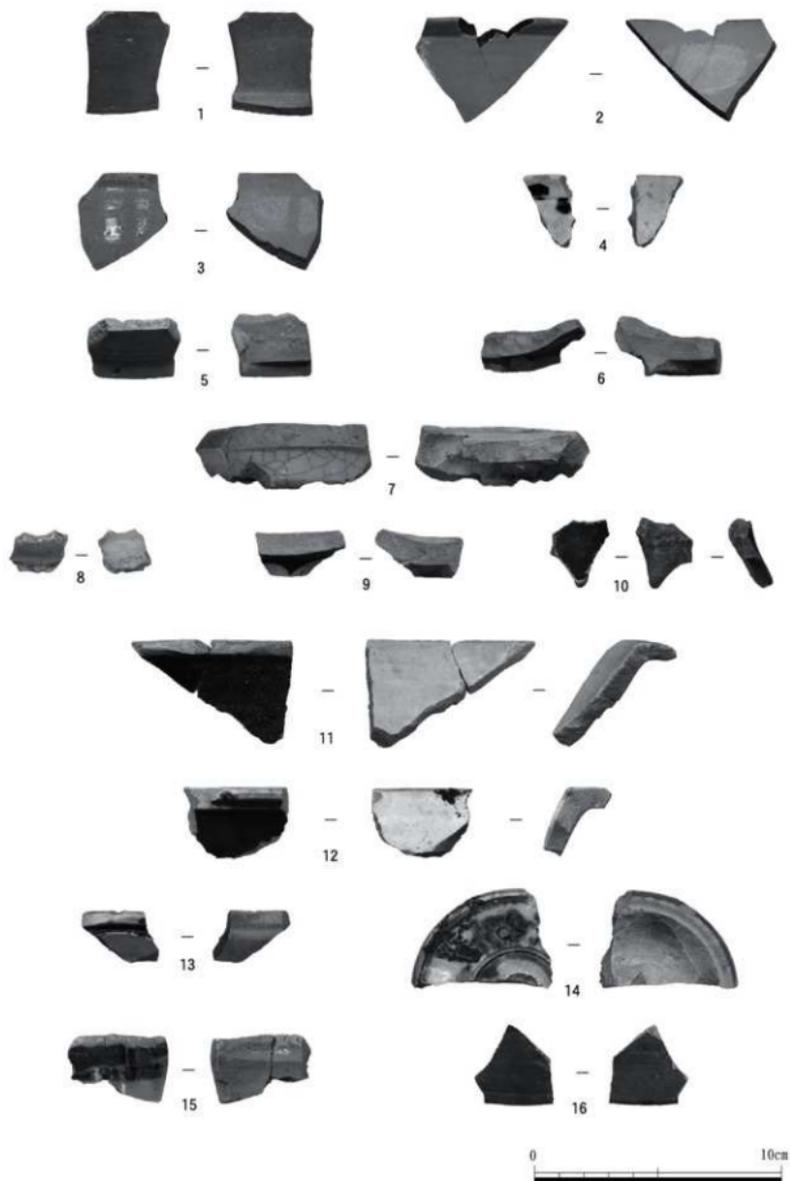
第77表 沖縄産施釉陶器観察一覧

器図 器号	器種	部位	分類	口径 底径 器高 (cm)	重量 (g)	器径 (mm)	形状	素地	施釉範囲	備考	地区 小グリッド 層位 (遺構) 取上番号 台帳番号
1	碗	口縁	灰釉	14.4 - -	11.54	2 ~ 4	口縁部は舌状で直口	淡灰色 微粒子	内外面: 腰部	-	H19 S15 II 取37 台2382
2	碗	口縁	白化粧 + 透明釉	13.4 - -	5.87	2.5 ~ 5	口縁部は舌状でやや 外反	淡橙色 粗粒子	内外面	轆轤直が顕著	ニ L11 II 台2392
3	碗	口縁	白化粧 + 透明釉	13.8 - -	11.11	3 ~ 6	口縁部は舌状で外反	淡黄白色 粗粒子	内外面	貫入あり	イ D15 II 台1709
4	碗	口縁	白化粧 + 透明釉	13.4 - -	3.31	3 ~ 5	口縁部は舌状でやや 外反	淡橙色 粗粒子	内外面	貫入あり 外面: 白化粧後 呉須 と鉛釉で花型文 押 (インダウナーチ ャー)	H19 B15 II 台3131
5	碗	底	灰釉	- 6.2	12.6	3 ~ 9	高台脇で段を有し、丸 みを持って立ち上がる	淡灰色 微粒子	胴部より上方	畳付けは平坦	イ D17 II 台1714
6	碗	底	掛け分け 内: 灰釉 外: 鉄釉	- 6.0	12.9	8 ~ 7	丸みを持って立ち上 がる	淡橙色 粗粒子	内面: 総軸 外面: 腰部より上方	高台内面にアルミナ 付着	H19 C16 II 台3129
7	碗	底	白化粧 + 透明釉	- 7.0	32.36	8 ~ 9	-	淡黄白色 粗粒子	内面: 蛇の目軸割 外面: 畳付けのみ輪 を割く	貫入あり	ハ R12 II 台2118
8	杯 胸 底	灰釉	-	-	4.46	3.5 ~ 6	高台脇から丸みを持 って立ち上がる	淡黄白色 微粒子	内面: 総軸 外面: 腰部より上方	腰部外面の土見せに 引き痕あり	H19 R15 II 台4284
9	皿	底	掛け分け 内: 不明 外: 鉄釉	- 6.8	10.73	7 ~ 9	直線的に立ち上がる	淡灰色 微粒子	内面: 無軸 外面: 畳付けより上方	畳付けは平坦	H19 C17 II 台2363
10	瓶	頸	鉄釉	- -	5.09	4 ~ 6	「ハ」字状に開く	淡灰色 粗粒子	外面のみ	貫入あり	イ T12 II 台1679
11	鉢	口縁	掛け分け 内: 白化粧 +透明釉 外: 鉄釉	23.0 - -	21.86	3 ~ 8	胴部から直線的に開く 口縁部は逆「L」字状 口唇部は丸	淡橙色 粗粒子	内外面	器面調整痕が顕著	H19 T13 II 台2393
12	鉢	口縁	掛け分け 内: 白化粧 +透明釉 外: 鉄釉	29.0 - -	19.53	8 ~ 9	胴部から直線的に開く 口縁部は逆「L」字状 口唇部は平坦	淡黄白色 粗粒子	内外面	口唇部のほば中央で 掛け分ける	ハ R11 II 台2105
13	急須	口縁	白化粧 + 透明釉	5.2 - -	4.20	3 ~ 6	口縁部で屈曲、口縁上 端が立ち上がる。口唇 部は平坦	灰色 粗粒子	内外面白化粧後、 外面のみ透明釉	肩部に饅頭り痕、呉 須で彩色	Q12 II 台2204
14	急須	蓋	白化粧 + 透明釉	6.4 - -	20.02	4 ~ 7	外面: 平坦 縁: 丸い から: 実る	淡黄白色 粗粒子	内外面白化粧後、 上部のみ透明釉	外面に饅頭りで圓縁 を彫らせた後、呉須・ 鉛釉で草花の絵付け	ニ R12 II 台2387
15	火取	口縁	白化粧 + 透明釉	10.6 - -	5.98	7	胴部から口縁部にか けて円筒形になる。口唇 部は丸みをもつ	淡黄白色 粗粒子	内外面白化粧後、外 面と内面の上部のみ 透明釉を掛け、口唇 部は無軸	口縁上部に呉須にて 彩色	H19 B16 II (S803) 台4268
16	蓋	底	鉄釉	14.6 - -	3.90	3	口唇部手前の一重の圓 縁を彫らせ、底部をや や膨らませる。口唇部 は舌状	淡橙色 粗粒子	外面: 中心から縁に 向けて中ほどまで鉄 釉を掛ける。	内外面ともに轆轤直 が明瞭	ハ N14 II 台2128

第140図・図版115



第140図 沖縄産施釉陶器



図版115 沖縄産施釉陶器

## (5) 沖縄産無釉陶器

「荒焼（アラヤチ）」と称される沖縄産の無釉陶器が227点出土した。基本的に無釉であるが、マンガン釉・泥釉を施すものも含まれている。器形のわかる資料は鉢（播鉢・水鉢）41点、鍋1点、火取1点・火炉9点、瓶7点・壺26点・甕6点であった。第79表に器種ごとの出土量、第142図に平面分布を示す。B10・C10から一番多く出土しており次いでS13周辺が多く、どちらからもグスク時代以降のピットが多く検出されている。沖縄産無釉陶器全体の割合としては日常的に使用される鉢・鍋・火取・火炉・瓶が26%、貯蔵容器である壺や甕が31%、器種不明破片が43%を占めた。ほぼ全ての沖縄産無釉陶器が第Ⅱ層から出土しており、T11第Ⅴ層から壺の胴部が出土しているのは、第Ⅱ層からの混ざり込みと考えられる。なお、素地に含まれる混入物で大別したところ、筋状の白土・赤土が含まれる壺・火炉・鍋・播鉢は32点を数え、全体の14%であった。

以下、器種ごとに略述し、主な遺物については第80表に詳細を記載し、第144～146図、図版116～118に示す。

### A. 鉢

鉢は播鉢、水鉢（ミジクブサー）等が確認できた。播鉢は32点で全体の2/3を胴部破片が占める。地区別に出土量を見るとH19地区13点、イ地区11点、ハ地区4点、ニ地区3点であった。今回は安里氏らの共同研究による播鉢編年（註1）に則して分類を行った。第78表にその内訳を示す。口縁部はⅠ式：

第78表 播鉢分類別出土量

形式 部位	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	不明	合計
口縁部	3	4	-	-	-	7
胴部	10		10		3	23
底部	1		1		-	2

口縁部直下が「く」字状に屈曲し、屈曲部に稜を二つ持つもの（図1・2）、Ⅱ式：口縁部直下が「く」字状に屈曲し、屈曲部に稜を1つ持つもの（図3・4）が確認でき、Ⅲ・Ⅳ式は未確認である。また、胴・底部では櫛描きの間隔が開くⅠもしくはⅡ式（図5・6・8）と櫛描きの間隔が詰まるⅢもしくはⅣ式（図7・9）に分類できた。なお、Ⅰ・Ⅱ式では器色の違いや素地に含まれる筋状の白土の有無の違いが見られ、筋状の白土が含まれるものは喜名・知花産の可能性が高いと思われる。なお、上記の共同研究で初期壺屋でもⅠ・Ⅱ式の播鉢が作られていた事が示唆されており、また近年においては沖縄県立埋蔵文化財センターより壺屋産無釉陶器とは別に初期沖縄産無釉陶器（湧田産）（註2）の存在が報告されている。今後の検討材料としたい。

播鉢の他に水鉢3点、鉢6点が出土した。図10は水鉢の口縁部で口唇面は肥厚し、最大径は胴上部となる。図11は小型の鉢の口縁部で口縁部直下に最大径を持ち、底部に向けて緩やかに内傾しながら逆「ハ」字状を呈する。図12は大型の鉢の口縁部で逆「L」字状に外へ折り曲げて水平にし、口唇に一条の圈線を廻らせる。安里氏らの共同研究による播鉢編年のⅣ式にあたる。胴部は底部に向けて直線的に逆「ハ」字状を呈する。

### B. 鍋

図13は鍋の底部で底面からの立ち上がりは丸みを呈する。素地には筋状の白土が多く含まれる。

### C. 火取（ヒートウイ）

図14は底部で上位に屈曲面を削り出す。器色は橙色で用途からも陶質土器の可能性を考えたが、焼成が良好で堅緻であるため本項に含めた。

### D. 火炉（ヒールー）

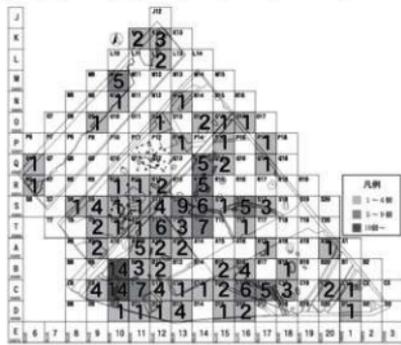
火炉のうち5点はイ地区西側からの出土である。火炉は口縁部に火窓を持つもの（図15）、口唇部に三つ葉状の火窓を持ち、肩部で折れ曲がるもの（図16・17）との2タイプが確認できた。図18は内部突起である。外面には菊の印が押され突起部の成形と貼付けは非常に丁寧である。菊花は浦添



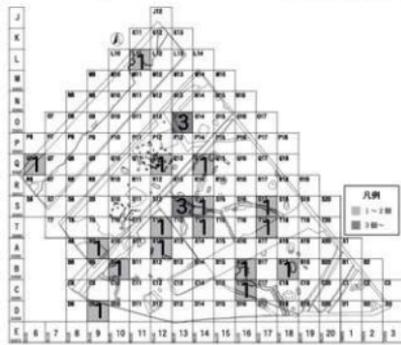
第80表 沖縄産無釉陶器観察一覧

第四版	番号	器種 (播鉢 編年)	部位	口径 器高 底径 (cm)	重量 (g)	器厚 (mm)	素地	色調	器面調整	文様等	地区 小グリッド 層位 (遺構) 取上番号 台帳番号
第144回・ 図版116	1	播鉢 (I)	口 縁	18.0 -	27.62	8	暗紫色	内面: 淡紫色 外面: 暗褐色	回転擦痕 外面: ナデ消し	口縁部直下で「く」の字状に湾曲し、屈曲部の稜は2つ。口唇幅8mm、唇日は1mm間隔の9本1組で縞描きの間隔は13mm。	H19 S14 II 台2437
	2	播鉢 (I)	口 縁	33.4 -	28.2	7	赤褐色 若干の気泡 と白色粒多 く含む	内面: 赤茶 外面: 赤茶褐色	回転擦痕	口縁部直下で「く」の字状に湾曲し、屈曲部の稜は2つ(2つ目の稜は弱い)。口唇幅15mm、縞描きの間隔は8mm。	イ B10 III (P10) 台2060
	3	播鉢 (II)	口 縁	20.6 -	11.26	4	暗紫色 白土を筋状 に含む	内面: 茶褐色 外面: 暗褐色	回転擦痕 外面: ナデ消し	口縁部直下で「く」の字状に湾曲し、屈曲部の稜は1つ。口唇幅12mm、喜名・知花焼?	イ A11 III (SK62) 台2081
	4	播鉢 (II)	口 縁	25.8 -	33.28	10	赤褐色 若干の砂粒 を含む	内面: 茶褐色 外面: 茶褐色	回転擦痕	口縁部直下で「く」の字状に湾曲し、屈曲部の稜は1つ。口唇幅17mm。	イ C20 II 台3130
	5	播鉢 (I or II)	胴	- -	77.54	9	暗紫色 黒色・白色 粒・気泡を 含む	内外面: 暗褐色	横上げ痕 + ナデ消し	唇日は19本1組で縞描きの間隔は12mm以上。喜名・知花焼?	イ A13 II 取289 台1652
	6	播鉢 (I or II)	胴	- -	40.40	7~8	暗紫色 若干の砂粒 を含む	内外面: 黒色	横上げ痕 + ナデ消し	唇日は磨耗がすすみ、本数は不明。縞描きの間隔は11mm以上。喜名・知花焼?	H19 C15 II 台2419
	7	播鉢 (III or IV)	胴	- -	29.87	7	橙色 若干の赤色 粒(極小へ 3mm)を含む	内外面: 橙色	横上げ痕 + ナデ消し	段間の無い唇目	H19 B16 II (SK03) 台4251
	8	播鉢 (I or II)	底	- 8.4	42.12	11 底厚 7	淡紫色で青 灰色を挟む 白土を筋状 に含む	内面: 淡紫色 外面: 暗褐色	横上げ痕 + ナデ消し	唇日は1mm間隔の13本1組で縞描きの間隔は5mm以上。喜名・知花焼?	イ C11 II (P23) 台2021
	9	播鉢 (III or IV)	底	- 10.2	100.17	8	赤褐色 赤色粒を含 む	内面: 赤褐色 外面: 暗褐色	外面: 回転台 を使用しない へら削り?	唇日は2~3mm間隔で重複	イ C17 II 台3127
第145回・ 図版117	10	水鉢	口 縁	26.0 -	24.83	8	赤褐色	内外面: 暗赤褐色。大粒の赤色粒と若干の石英を含む	回転擦痕 外面: ナデ消し	内外面マンガン鉄軸かる口唇幅12mm、肩部に四象の波状文	ニ K12 II 台2387
	11	鉢	口 縁	15.2 -	23.37	8	赤褐色	内外面: 朱色	回転擦痕 外面: ナデ消し	口唇幅12mm	イ C15 II 台788
	12	鉢 (IV)	口 縁	28.0 -	25.05	7	赤褐色 黒色粒・白色 粒を含む	内面: 暗赤褐色 外面: 赤褐色	横上げ痕 + 回転擦痕	逆「L」字状口縁部。口唇に一条の圈線を廻らす。	ハ S9 II 台2103
	13	鍋	底	- 12.8	56.87	7	暗紫色 白土を筋状 に含む	内面: 茶褐色 外面: 暗褐色	横上げ痕・回転 擦痕 外面: ナデ消し	底面に若干煤が付着する。喜名・知花焼?	イ C14 II 台1688
	14	火取	底	- 6.4	33.77	7	橙色 微細な黒色 粒	内外面: 橙色	横上げ痕 + 回転擦痕	底面縁上位に稜を有する	H19 S17 II 台3123
	15	火が	口 縁	12.4 -	16.92	8	赤褐色	内外面: 暗褐色	横上げ痕 + 回転擦痕	口縁部に火窓を持つ口縁外面に一条の圈線	ハ O14 II 台2142
	16	火が	胴	最大 胴径 18.4	21.86	7~8	暗紫色	内外面: 暗灰褐色	回転擦痕 外面: ナデ消し	口唇部: 平坦にし、三つ葉状の火窓を作る	不明

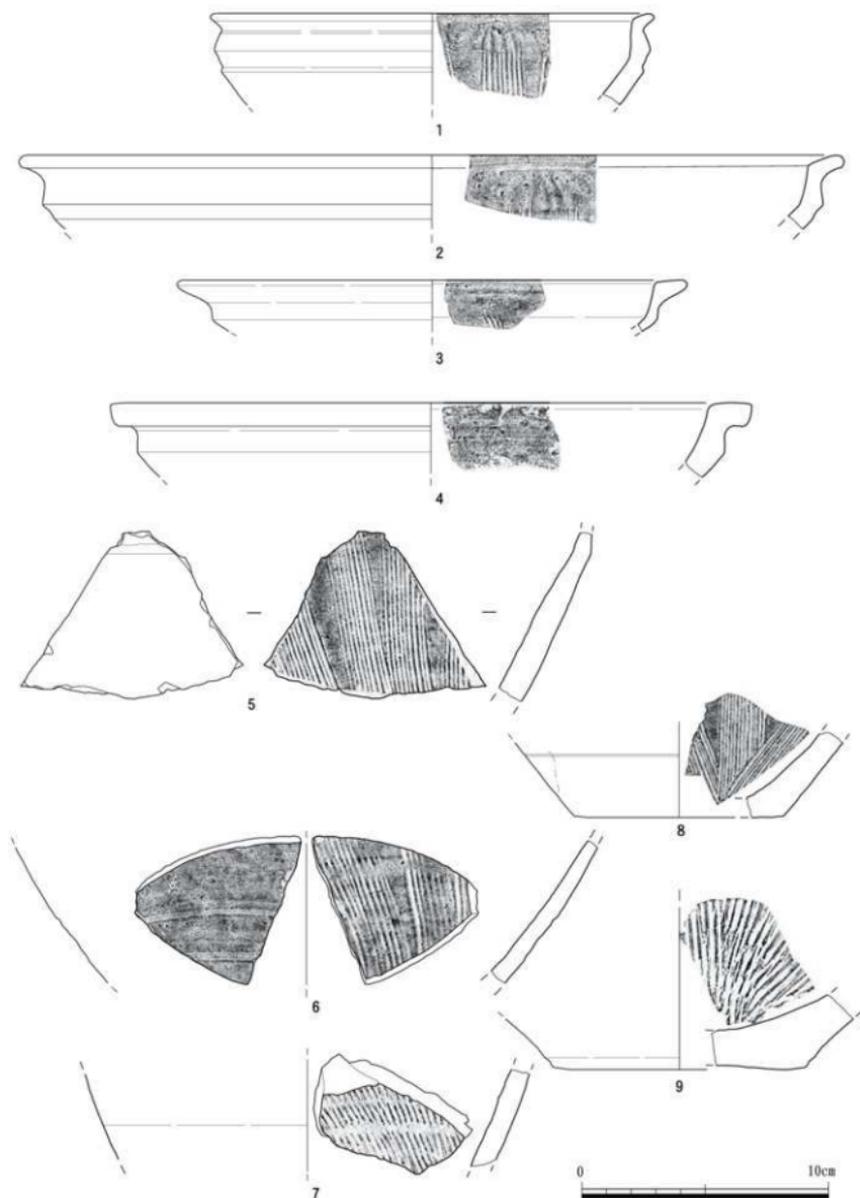
第図 図版	番号	器種 (採録 編年)	部位	口径 器高 底径 (cm)	重量 (g)	器厚 (mm)	素地	色調	器面調整	備考	地区 小グリッド 層位 (遺構) 取上番号 台帳番号
第145 図・ 図版 117	17	大炉	肩	最大 胴径 19.6	13.64	7	赤褐色	内面: 黒褐色 外面: 茶褐色	横上げ痕 + 回転擦痕	口唇部: 平坦にし、三つ葉 状の火窓を作る	ニ M10 II 台2347
	18	風炉	内部 突起	- -	24.61	10	赤褐色 若干の赤色粒 (極小~3mm) を含む	内外面: 茶褐色	外面: ナゲ酒し 突起部: 指ナゲ 突起は貼り付け	外面: 一条の圓線と菊の印花 (菊花は16弁以上) 内外面泥 軸	不明表採
第146 図・ 図版 118	19	瓶	口 縁	8.2 -	16.16	4	青灰色 微細なビン ホール多数	内外面: 黒褐色	全体をナゲ酒し	内外面: 泥軸	ニ M10 II 台2347
	20	瓶	胴	- -	23.46	7	暗紫色	内面: 暗紫色 外面: 暗褐色	回転擦痕 内面: ナゲ酒し	頸部内面: 手の届く範囲で 器面調整を行う	イ C11 III 取331 台1638
	21	壺	口 ~ 底	13.2 7.8 11.0	60.79	5	青灰色 微細なビン ホール多数	内外面: 茶褐色	横上げ痕 外面: ナゲ酒し	外面: 青灰色、紫褐色、橙 色など焼きムラが見られる	イ C12 II (P27) 台2011
	22	壺	口 縁	21.9 -	105.32	10	暗赤褐色 赤土を筋状 に含む	内面: 暗褐色 外面: 暗紫色	横上げ痕 + ナゲ酒し	薄鉢状の口縁部を外側に折 り曲げて形成する。 墓名・知花焼?	ハ S8 II 台2100
	23	壺	頸	- -	40.66	8	暗赤褐色	内面: 黒褐色 外面: 茶褐色	横上げ痕 + ナゲ酒し	肩部に二条の圓線	H19 S13 II (SD02) 台2213
	24	壺	頸	- -	19.31	5	暗赤褐色 微細な白色 粒を含む	内面: 黒褐色 外面: 暗赤褐色	回転擦痕 外面: ナゲ酒し	肩部に一条の圓線	ハ S8 II 台2048
	25	壺or甕	底	- 14.0	72.05	11 底厚 9	暗紫で青灰 色を挟む。 白土を筋状 に含む	内外面: 暗褐色	内面: 横上げ痕 外面: ナゲ酒し	底部は淡褐色 墓名・知花焼?	ハ II 台2101
26	壺or甕	底	- 12.6	87.64	7 底厚 7	暗紫色 微細な白・ 黒・赤色粒 を含む	内面: 赤褐色 外面: 黒褐色	横上げ痕 外面: ナゲ酒し +ヘラ削り	底部と胴部の粘土の接合面 が明瞭。内面: ところどころ に変色部あり (軸垂れ?)	イ B11 II 取348 台1786	
27	壺or甕	底	- 13.6	42.24	9 底厚 9	暗赤褐色 大粒の白・赤 色粒を含む	内面: 暗青灰色 外面: 暗赤褐色	内面: 轆轤痕 外面: ナゲ酒し	素地: 一部暗青灰色のサン ドイッチ状になっている	イ C10 II 取41 台1775	



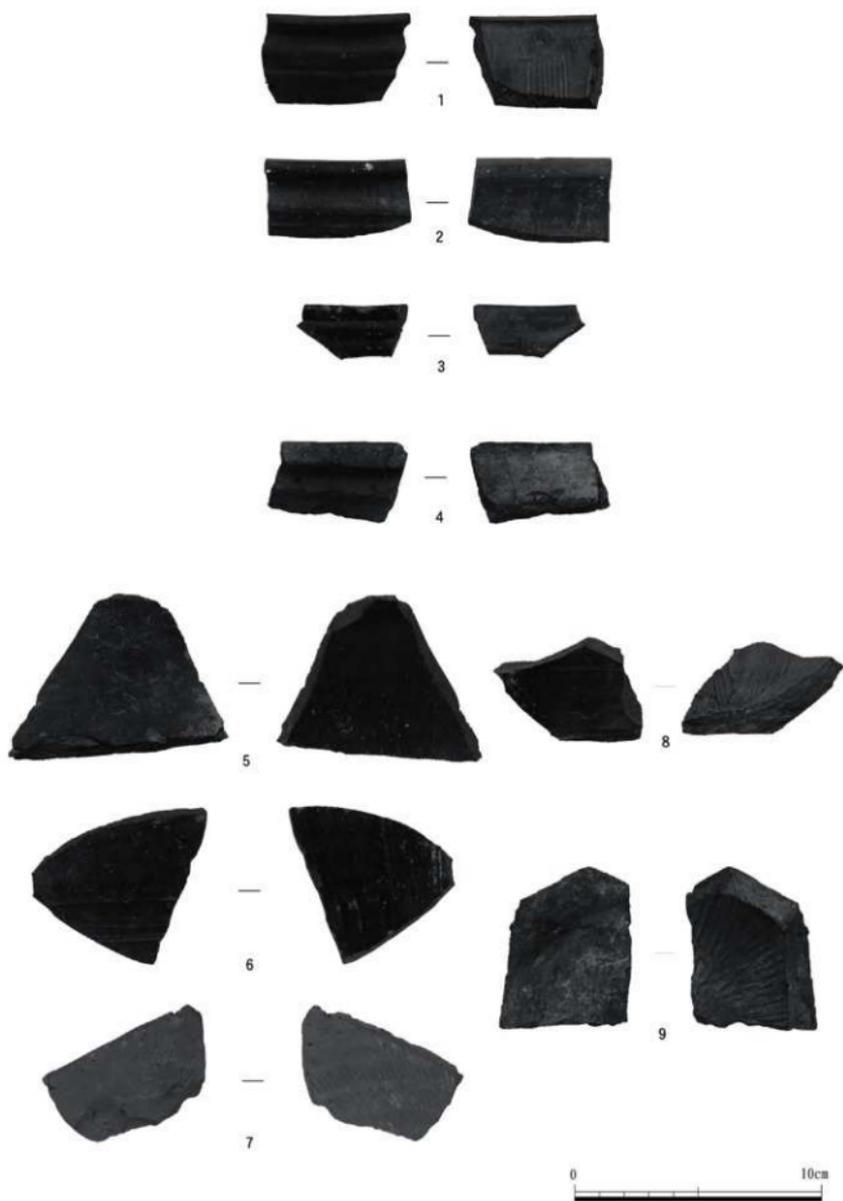
第142図 沖縄産無釉陶器平面分布



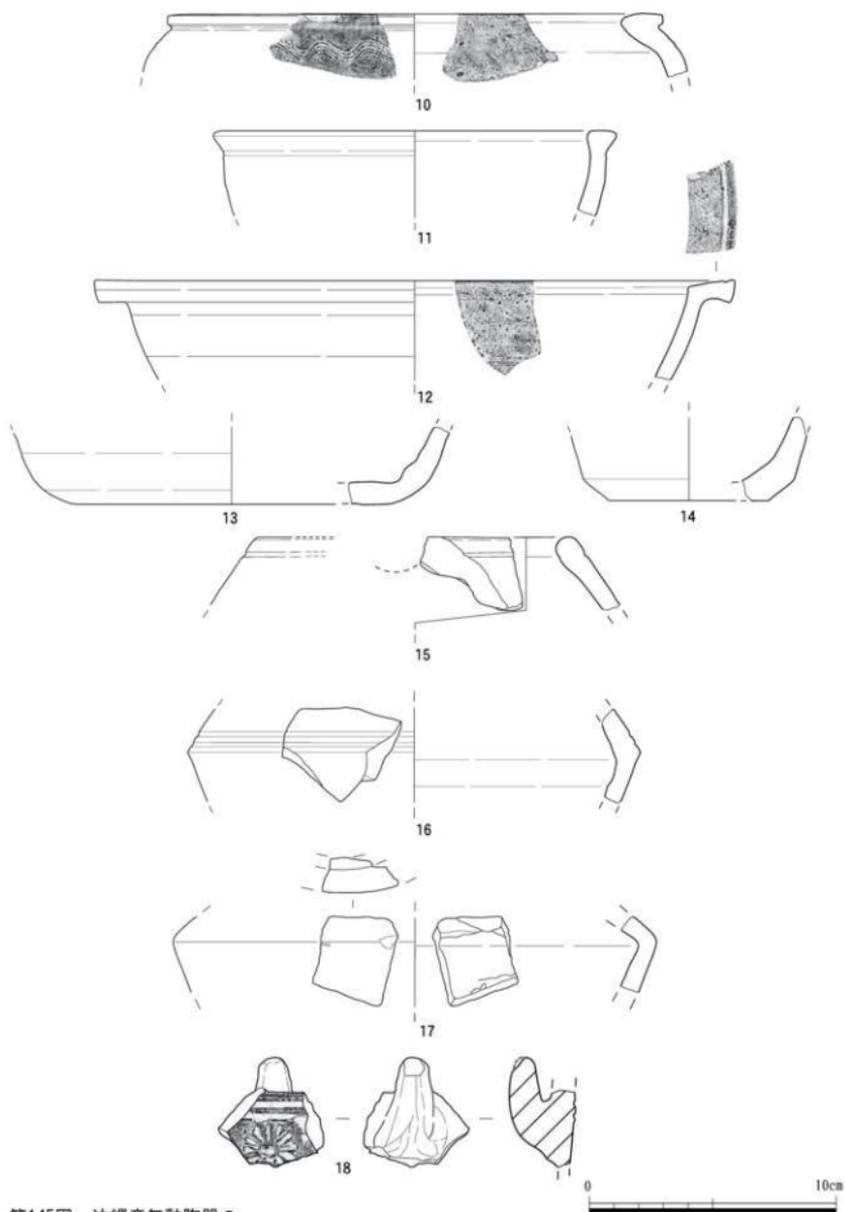
第143図 陶質土器平面分布



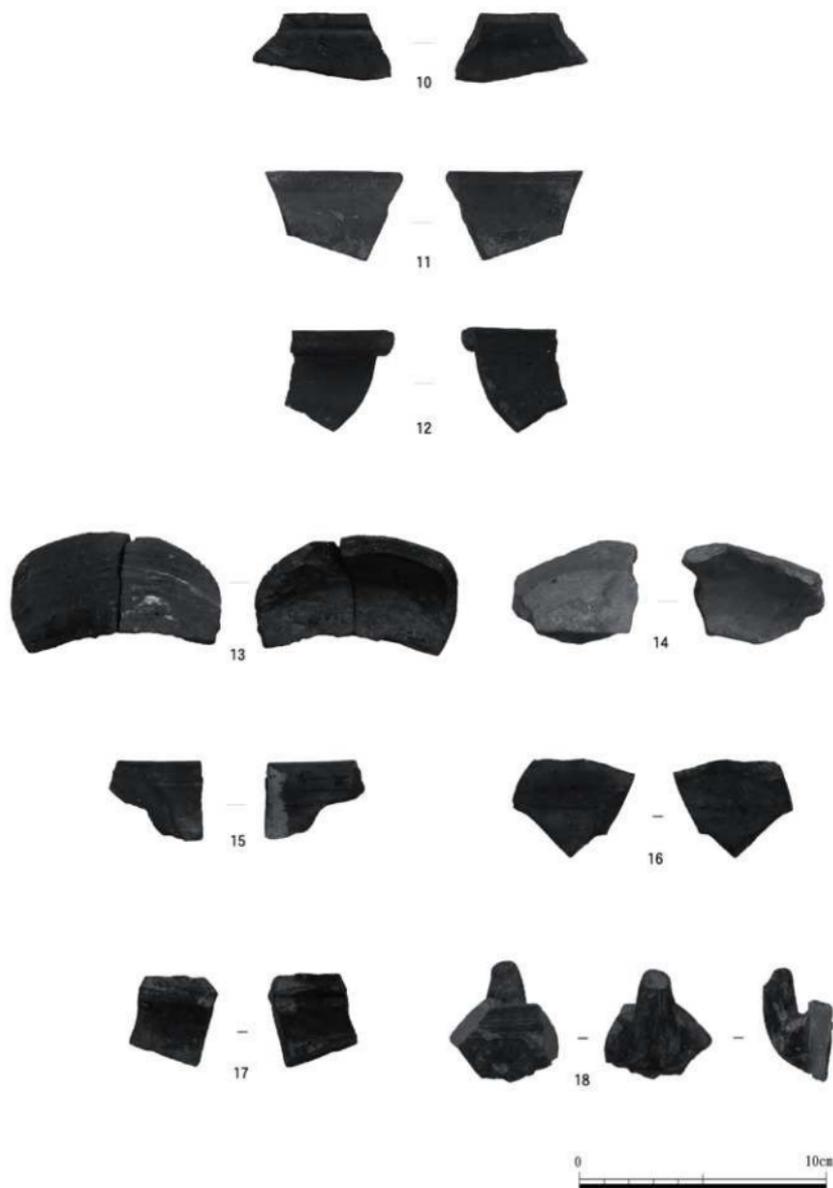
第144図 沖縄産無釉陶器 1



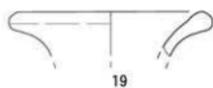
図版116 沖縄産無釉陶器 1



第145図 沖縄産無釉陶器 2



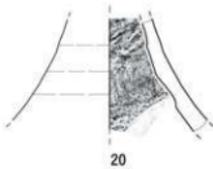
図版117 沖縄産無釉陶器 2



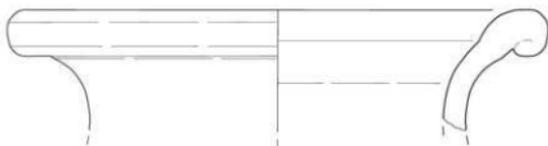
19



21



20



22



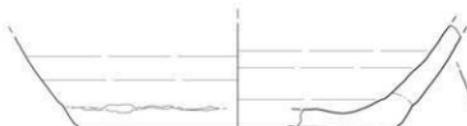
23



24



25



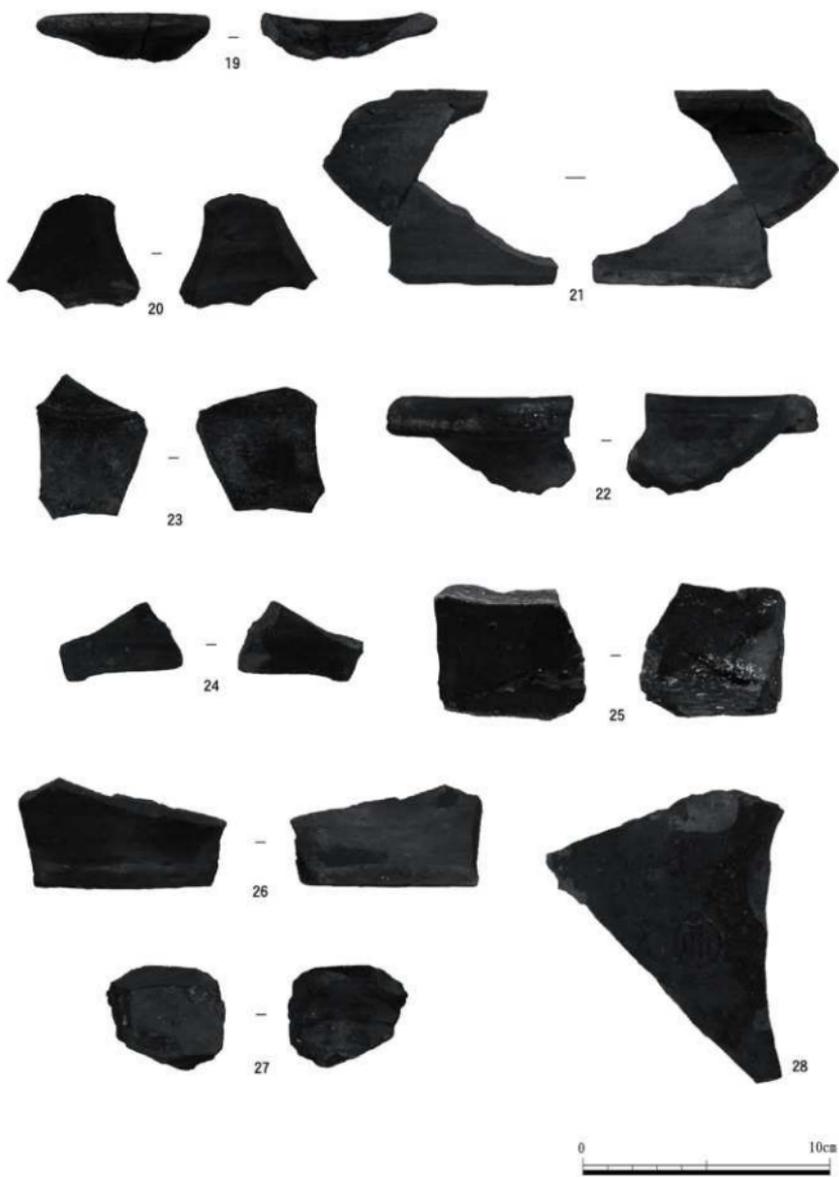
26



27



第146図 沖縄産無釉陶器 3



図版118 沖縄産無釉陶器 3

## (6) 陶質土器・鉄製焔炉

「アカムヌー」と称される沖縄産の陶質土器が30点出土した。今回得られた資料は鍋3点、鉢1点、火炉3点、急須(壺屋で「ヤックワン」と呼ばれる土瓶を含む)1点、蓋2点、器種不明20点である。第81表に器種ごとの出土量、第143図に平面分布を示す。薄手(2~3.5mm)タイプと厚手(5~9mm)タイプがあり、いずれも素地は細かい微粒子で雲母や赤色粒・黒色粒を含み、轆轤成形後ナデ消しを行うものが多数を占めた。鍋・急須・蓋は薄手、鉢・火炉は厚手で、割合的には全体の1/3を薄手、2/3を厚手の資料が占めた。厚みに関わらず触ると微粒子が付着し、また、水をつけて擦ると色が落ちる。第Ⅱ層からのみの出土で沖縄産施・無軸陶器との伴出が89%にのぼった。主な遺物については第82表に詳細を記載し、第147図、図版119に示した。また、今回の調査では鉄製焔炉が1点出土した。火窓を持つ器形は陶質土器製の火炉と類似しているため参考資料として併せて報告する。

図1は壺屋で「サークー」と呼ばれる把手付きの鍋の口縁部で受け皿状に成形される。図2は鉢の口縁部で外側に折り返して口唇を作る。図3・4は火炉でいずれも口唇部に三つ葉状の火窓を作り、前者は円筒形、後者は肩部で「く」字状に屈曲する器形である。全体が煤けているように見えるが、施軸によるものである。図5は急須の蓋で上面に煤が付着する。図6は土鍋の蓋の取みであるが小破片のため詳細は不明。

図7は三つ葉状あるいは四つ葉状の火窓を持つ鉄製の焔炉である。鋳造による製作で火窓内部に空洞が見られる。A12第Ⅱ層出土ではあるが、第Ⅲ層との境に近く、唐津産の皿や染付と伴出する。鉄製だが衝撃には強くなく、手に持つと赤錆色の微粒子が付着し落ちにくいことから、成分は鉄だけではないようである。

第81表 陶質土器出土量

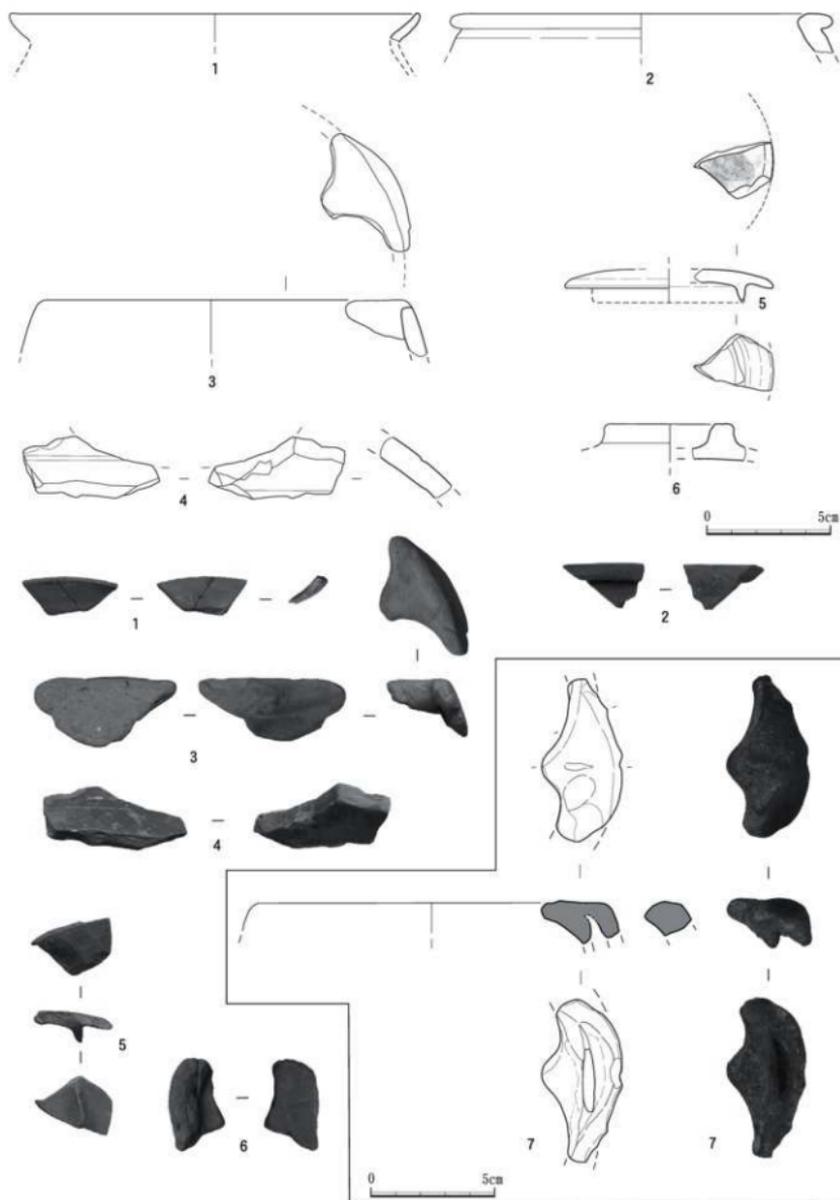
地区	器種・部位	鍋		鉢・火炉		蓋		急須		不明	合計
		口	胴	口	口	胴	胴	胴	胴		
H19	Ⅱ	1				1	1	1	5	9	
	Ⅱ(遺構)				1				1	2	
イ	Ⅱ								4	4	
	Ⅱ				1					1	
ハ	Ⅱ			1	1	1			3	6	
	Ⅱ(遺構)								1	1	
ニ	Ⅱ								5	6	
不明	Ⅱ	1								1	
合計		1	1	1	3	1	1	1	19	1	30
器種合計		3	1	3	2	1	1	2	20		

H19地区 Ⅱ(遺構): H16-SK03 Q14-SK06

ハ地区 Ⅱ(遺構): A9-SK04

第82表 陶質土器観察一覧

第147図・図版119	番号	器種	部位	口(胴・縁)径 器高 底(脚)径 (cm)	重量 (g)	口径 (mm)	混入物	器色	器形	備考	地区 小グリップ 層位(遺構) 台帳番号
第147図・ 図版119	1	鍋	口縁	16.8 -	3.57	3	極小の雲母・黒色粒が少量	内外面: 橙褐色	やや内彎 縁部は丸	上面に若干の煤が付着	不明 Ⅱ 不明
	2	鉢	口縁	16.4 -	6.4	8	極小の雲母・赤色粒・黒色粒が少量	内外面: 赤褐色	口唇部は外側に折り返して肥厚する	口唇部及び外面に釉のようなものが残る	ハ Ⅱ 台1569
	3	火炉	口	14.0 -	18.67	5	極小の黒色粒と貝殻の破片	内外面: 橙褐色	円筒形で貼り付けにより口縁内面に火窓を作る	火窓の貼り付けは丁寧で特に上面は接合面をナデ消す	H19 Q14 Ⅱ(SK16) 台2223
	4	火炉	口縁付蓋	- -	18.29	7	赤色粒・粘土の白土	淡褐色	肩部で「く」字状に屈曲し、口唇部で火窓を作る	外面と火窓の口唇部に泥軸を懸ける	ハ Ⅱ 台2102
	5	蓋	底く特	8.6 5.7	3.7	3	極小の黒色粒・赤色粒	外面: 橙褐色 (煤付着) 内面: 褐色	直口 口唇部はやや舌状	柄はやや「ハ」字状に広がる	H19 S17 Ⅱ 台1960
	6	蓋	取み	5.0 -	9.18	5	極小の雲母・赤色粒・黒色粒が少量	内外面: 褐色	-	直成り後、取みを貼り付ける	H19 C16 Ⅱ 台1635
	7	焔炉	口	14.0 -	-	7 13	無	内外面: 赤褐色	口唇部で火窓を作る	焼土のように赤く手に付着する	イ A17 Ⅱ 台1559



第147図・図版119 陶質土器・鉄製品

### (7) 先島系土器

宮古式土器、バナリ焼（八重山）と称するもので、胎土が泥質で、混和材に石灰または貝殻片の白色粒を含むものを先島系土器としてここにまとめた。総数91点出土、器種は鍋と壺、不明で全形の窺うえる資料は得られなかった。第149図、図版120に特徴的なものを図示し第83表に観察一覧、第84表に出土量・胎土分類、図148に平面分布を示した。

先島系土器は、胎土分類でⅠ～Ⅳ類に大別される。

Ⅰ類：混和材の白色粒が中・細粒のものを多量に含み、内外面の器色が赤褐色を呈するもの。

Ⅱ類：混和材の白色粒がⅠ類に比して少ないもの。

a) 外面の器色が暗褐色、内面は赤褐色を呈するもの。

b) 内外面ともに暗褐色を呈し、外面に研磨が施されるもの。

c) 外面の器色が褐色、内面はにぶい橙色または褐色を呈し、アバタ状を呈するもの。

Ⅲ類：混和材の白色粒が細粒で赤褐色粒が中粒のものを含むもの。

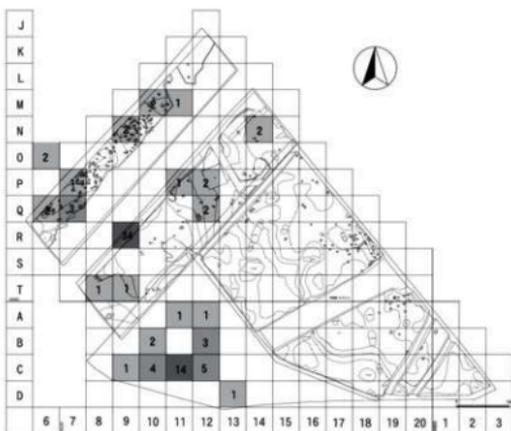
a) 外面の器色が暗褐色または褐色を呈し、内面はにぶい橙褐色または褐色を呈し、外面に研磨が施され、内面にアバタが見られるもの。

b) 外面の器色が赤褐色または褐色を呈し、内面は暗褐色を呈するがにぶい橙褐色の部分も見られ、内面のアバタが細かいもの。

Ⅳ類：混和材に白色粒を含み、Ⅱ類に比してさらに少量で、内外面ににぶい橙色を呈するもの。

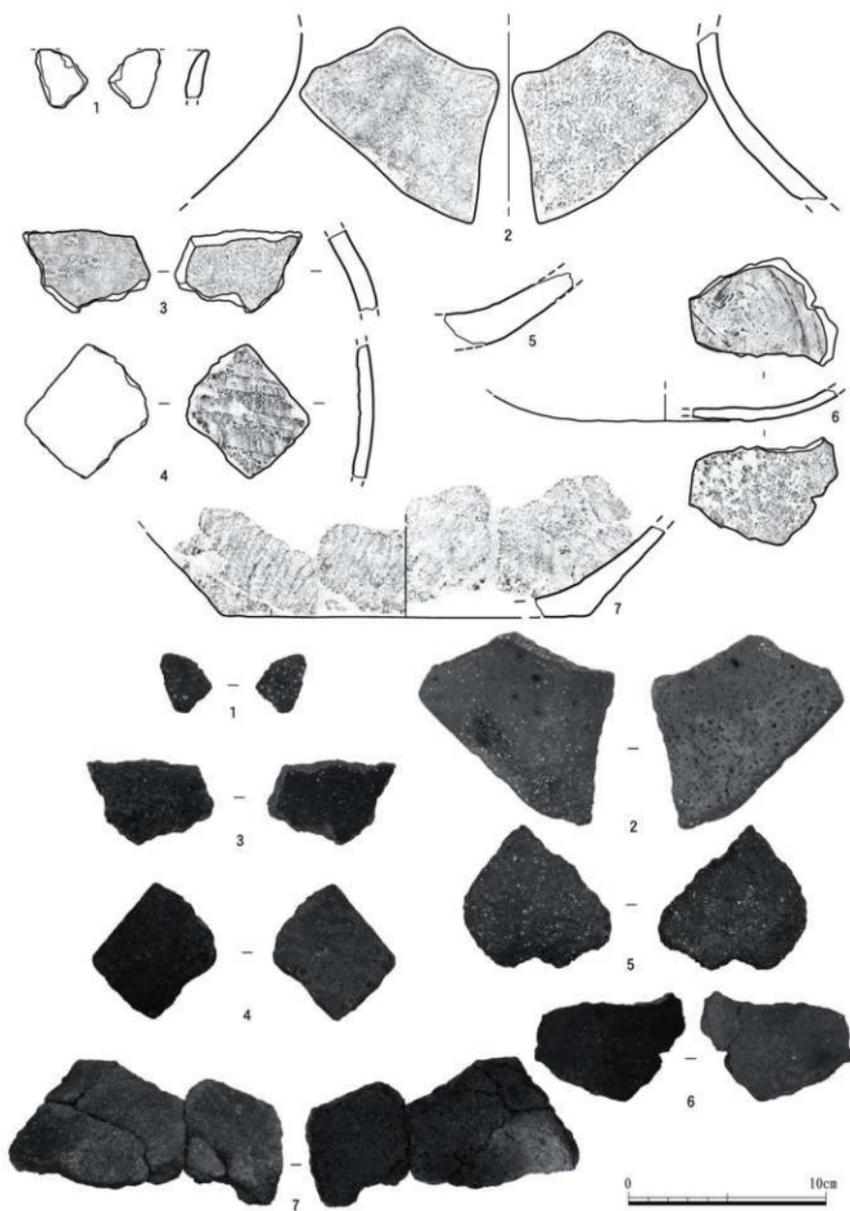
第84表の出土量・胎土分類で示すように鍋（図1）はⅠ類、壺（図2）はⅡc類、器種不明の頸部はⅠ・Ⅲa類、丸底の底部はⅠ・Ⅱa・Ⅲa・Ⅲb類に見られる。Ⅰ～Ⅳ類の器厚はⅡc類が0.8～1.2cmと厚手、Ⅰ・Ⅱa・Ⅱb・Ⅲb類は0.7～1cmでⅡc類に比してやや薄く、Ⅲa・Ⅳ類は0.6～0.7cmと薄手である。

出土量を見るとⅠ類は20点（22%）、Ⅱa類は12点（13%）、Ⅱb・Ⅲb類は各2点（2%）、Ⅱc類は4点（4%）、Ⅲa類は50点（55%）、Ⅳ類は1点（1%）となっており、第148図の平面分布で示すようにR9からⅢa類が29点と最も多く得られている。分布範囲は14ラインから西側にある。



第148図 先島系土器平面分布





第149図・図版120 先鳥系土器

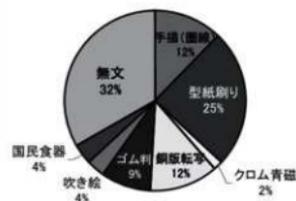
## (8) 本土産磁器 (近代)

明治時代～昭和10年代に大量生産を目的とした技法により製作された資料である。器種としては碗が最も多く26点、その他には小碗・杯・皿・猪口・鉢・湯のみ等が数点ずつ合計57点が得られた。それらの施文技法としては手描き(圏線)・型紙刷り・銅版転写・ゴム判・吹き絵が確認でき、型紙刷りの資料が最も多く14点と全体の25%を占めた(第85表)。1点のみだが型紙刷りとゴム判の併用(図版122-6)も見られた。産地は瀬戸・美濃、砥部が多く、70%が瀬戸・美濃産であった。第86表に器種ごとの出土量を示す。出土状況を見ると全体の95%が第Ⅱ層から出土しており、うち79%の割合で沖繩産陶器と伴出していた。なお、H19地区S13第Ⅲ層より出土の型紙刷り碗口縁部は第Ⅱ層からの混ざり込みと考えられる。第Ⅱ層の遺構からは8点が出土し、S15-SD03を除いて青磁・白磁・染付・沖繩産無軸陶器・陶質土器と伴出していた。沖繩産陶器が326点出土しているの比べ、本土産近代磁器は57点で1/6程の数量である。

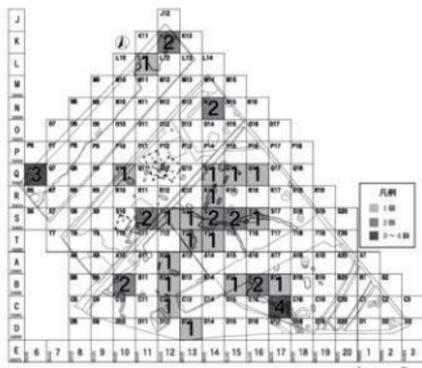
今回出土した型紙刷り碗では点描で菱形文意を描いた中に模式化された梅花文を描く碗(図1)が一番多く、他には点描の中に松竹梅を描く碗(図3)や腰部に環珞文を描く小碗もあった。また、明らかに線描や点描の様子の違う小皿(図版122-7)も出土しており、この違いは時期差によるものではないかと考えられ、今後の類似資料の増加が待たれる。銅版転写資料は細片ばかりで図柄の内容は掴めなかったが、繊細な線描の資料が多く、図柄も世風を反映したものではないため、初期に作られた資料ではないかと考えられる。以下、特徴的な碗4点と小碗1点を第151図に掲げ、5点を写真図版のみで紹介する。個々の資料の詳細は第87表に譲る。

第85表 施文技法別出土量

施文技法	個数
手描(圏線)	7
型紙刷り	14
クロム青磁	1
銅版転写	7
ゴム判	5
吹き絵	2
国民食器	2
無文	19



今回出土した型紙刷り碗では点描で菱形文意を描いた中に模式化された梅花文を描く碗(図1)が一番多く、他には点描の中に松竹梅を描く碗(図3)や腰部に環珞文を描く小碗もあった。また、明らかに線描や点描の様子の違う小皿(図版122-7)も出土しており、この違いは時期差によるものではないかと考えられ、今後の類似資料の増加が待たれる。銅版転写資料は細片ばかりで図柄の内容は掴めなかったが、繊細な線描の資料が多く、図柄も世風を反映したものではないため、初期に作られた資料ではないかと考えられる。以下、特徴的な碗4点と小碗1点を第151図に掲げ、5点を写真図版のみで紹介する。個々の資料の詳細は第87表に譲る。



第150図 本土産磁器(近代) 平面分布

第86表 本土産磁器(近代) 出土量

地区・層	器種	碗						小碗			皿		猪口		湯のみ		不明		合計			
		手描(圏線)	型紙刷り	クロム青磁	銅版転写	ゴム判	国民食器	手描(圏線)	吹き絵	型紙刷り	無文	無文	手描(圏線)	無文	手描(圏線)	銅版転写	無文	型紙刷り		吹き絵	ゴム判	無文
H19	表探		1																		1	
	Ⅰ																				2	
	Ⅱ(遺構)	2	6		4		1								1					3	1	18
イ	Ⅱ	1	1		1		1															6
	Ⅱ(遺構)				1	1																2
ハ	Ⅱ	1	1							2	1	1										1
	Ⅱ(遺構)		1			2		1	1	1											1	2
ニ	Ⅱ															2						1
	Ⅱ(遺構)																					3
合計		4	11	1	6	2	2	1	1	1	2	1	1	1	2	1	1	1	4	1	1	11
器種合計		26						3			3		3		1		6				57	

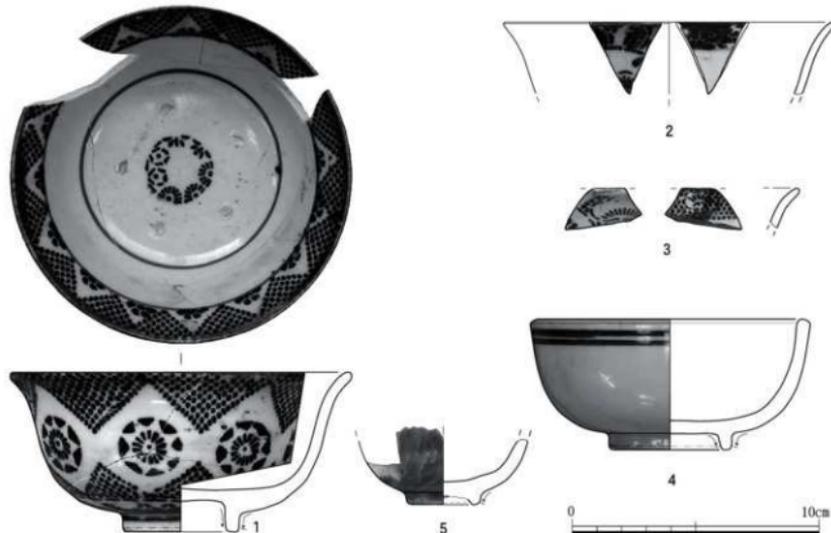
H19地区 Ⅱ (遺構): Q14-SK16 R14-SK20 S15-SD03

イ地区 Ⅱ (遺構): B10-SK01 B12-SK60

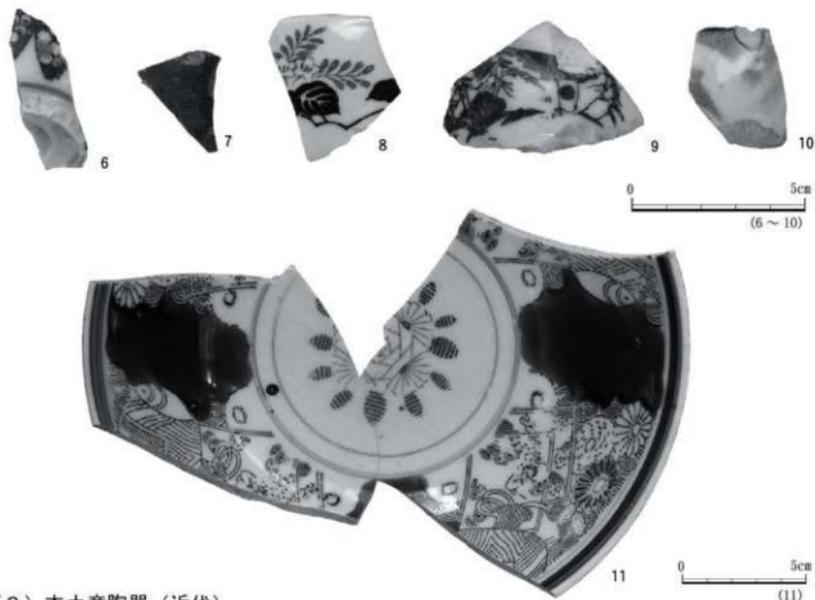
ハ地区 Ⅱ (遺構): Q6-SK01・P9

第87表 本土産磁器（近代）観察一覧

第151図・図版121	番号	器種	部位	口径 底径 器高 (cm)	重量 (g)	口縁部 形状	素地	釉の 発色	技法	観察事項	生産 地	地区 小グリップ 層(遺構) 台帳番号
第151図・ 図版121	1	碗	ほぼ 完形	13.8 4.8 6.5	227	外反	白色で 微粒子	良好	型紙刷り	外面：菱形窓に模式化された梅花文 施軸後豊付けのみ軸を掻き取る 内面：見込みに一葉の團線と松竹梅 五足の針ハマの痕	紙部	地区不明 表探 台2418
	2	碗	口縁	13.4 -	2.95	外反	灰白色で 微粒子	やや 鈍い	型紙刷り	外面：五弁花 内面：口縁部下約1cmの幅で五弁花を團 線で括む。	紙部	H19 S14 II 台2359
	3	碗	口縁	- -	2.57	外反	黄白色で 微粒子	良好	型紙刷り	外面：松と点描 内面：口縁部下約1cmの幅で点描と梅花	紙部	H19 S13 III 台2348
	4	碗	完形	11.4 5.0 5.4	262	直口	白色で 微粒子	良好	国民食器	外面：口縁部下に緑色二重團線 豊付け無軸	瀬戸 美濃	H19 T13 II 台3141
	5	小碗	胴～底	3.0 -	17.03	-	白色で 微粒子	良好	クロム 青磁	飛び陸後施軸 高台内面と豊付けは軸を掻き取る	瀬戸 美濃	I B10 II (S851) 台614
図版 122	6	小碗	胴～底	- -	10.00	-	淡灰色で 堅緻	良好	型紙刷り +ゴム判	型紙で花卉を酸化コバルト（藍色）で絵 付け後、ゴム印で酸化ウラニウム（黄色） の花蕊を押す。蛇の目間高台	瀬戸 美濃	ニ 台2338
	7	皿	胴～底	- -	3.00	-	淡灰色で 堅緻	良好	型紙刷り	内面のみ施文 施軸後豊付けの軸を掻き取る	瀬戸 美濃	ハ S12 II 台2051
	8	小碗	口～胴	- -	9.54	直口	白色で 堅緻	良好	銅版転写	正円子（暗紅色）と酸化コバルト（藍色） で草花を描く	瀬戸 美濃	H19 C17 II 台2363
	9	小碗	胴～底	- -	18.05	直口	白色で 堅緻	良好	銅版転写	酸化クロム（暗緑色）で山水を描く	瀬戸 美濃	H19 S16 II 台1958
	10	小碗	口～胴	- -	7.00	直口	白色で 堅緻	良好	吹き絵	1894年以降に製作された多色の吹き付け 製品	瀬戸 美濃	ニ III 台2338
	11	鉢	胴～底	20.5 8.9 6.5	273	直口	白色で 堅緻	良好	型紙刷り	内面：型紙にて菊花、菱形、打ち出の小 槌等を酸化コバルトで描く	瀬戸 美濃	H19 I 台2417



第151図・図版121 本土産磁器（近代）



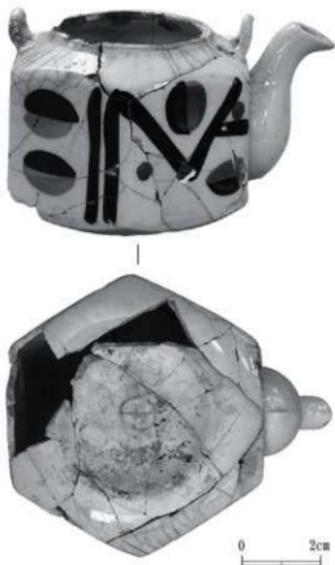
### (9) 本土産陶器（近代）

三重県四日市の『萬古焼』と思われる急須と器種不明の口縁部が確認できた。磁器の硬質さと陶器の柔らかさを兼ね備えた半磁器製品で大正時代初頭に製作されたことより「大正焼」とも呼ばれる。素地は黄濁色で硬質陶器の釉薬を施す。磁器に比べ低下度で焼成でき、また、型作りのため製造工程が平易でコストが低いことから、急速に普及したそうである。明治時代は四日市港の港湾整備が行われ、萬古焼の海外輸出も行われていたそうである。それが大正時代にも続いていれば、沖縄にはそのルートで入って来た可能性が高いと思われる。

図版122はH19地区016第Ⅱ層より出土の六角形急須で側面には樹木を模したと思われる絵付けがあり、底部には「十」の○囲みが見られる。型成形の後、注ぎ口と弦部を付けている。器種不明口縁部は表採資料で口唇部が「く」字状に内傾し胴部は直線状に外反する。内面には白色の釉、外面には濁った黒色の釉を掛け分けるものであった。器壁は3mmと薄い。小破片のため今回は報告を割愛する。

<参考文献> 萬古陶磁器振興協同組合連合会 2010

『よくわかる四日市萬古焼読本』



図版122 本土産磁器（近代）・本土産陶器（近代）

### (10) 円盤状製品

円盤状製品の出土は6点で、素材は白磁、青磁、染付、沖繩産無釉陶器、本土産陶器、本土産磁器各1点である。使用部位の内訳は胴部1点、底部高台3点、腰部～底部高台2点である。底部の器種は白磁が皿、青磁は碗又は大皿、染付は皿（碁筒底）、沖繩産無釉陶器は甕を使用している。

層序は6点のうち第Ⅱ層から3点、第Ⅲ層から2点、表採1点である。

図1は、青磁で器種は碗又は大皿、部位は腰部～高台部分の資料で、外面の文様はラマ式蓮弁文類の一種と思われる。内面は見込みから立ち上がり部分に文様が施され、軸は厚く色調は緑青色である。底径約8.0cmとすると大皿の底部とも考えられる。図2は白磁で器種は皿、挟り入り高台の底部である。軸葉は内外面とも薄く内底、見込みに重ね焼きの痕跡がみられ、高台接地面の部分の軸葉が剥がれている。外面の軸葉は一部軸垂れがみられるが高台には掛けられていない。高台部分は削り取った後に軸葉を掛けた痕跡がある。

図3は染付の底部で碁筒底を呈す。この資料も見込みに文様が施され、くずれた菊花文を中心に部に描いている。図4は沖繩産無釉陶器胴部で、表面にヘラ削りを施す。裏面に軸回転時の調整痕がみられ、厚みはほぼ一定で下部に若干厚みをもつ。磁器類に比べ厚みがある為、打ち割りは一部正円にならず略方形を呈す。図5は本土産陶器の碗、底部で打ち割りは粗く高台以外の部分も雑に残る。高台の外底は風化が激しく摩耗している。図6は本土産磁器、小碗の腰～底部の資料で高台の破損が確認できる。図柄は花卉の一部と唐草文がみられ、蔓（つる）草模様が描かれている。残存する高台から推定し、底径1.5cm～2.5cmの資料と思われる。

第88表 円盤状製品観察一覧

(単位: cm, g)

第152区・ 123	図 番号	素 材	器 種	部 位	文様 図柄	計 測 値					地区 小「トド」層 取上番号 台帳番号
						長径	短径	最大厚	底径	重さ	
	1	青磁	碗/大皿?	腰部～底部・高台	ラマ式蓮弁文	6.7	6.4	2.1	8.0	85.0	イ T12 II 取432 台1284
	2	白磁	皿	底部・高台	挟入高台 (削り高台)	5.0	4.2	1.2	4.0	18.0	H19 A トレンチ II 台4286
	3	染付	皿	底部・高台	菊花文	4.4	4.3	0.7	2.4	12.7	ハ Q10 III 台2187
	4	沖繩産無釉陶器	不明	胴部	-	4.8	4.4	1.2	-	23.0	H19 R14 III 台1749
	5	本土産陶器	碗	底部・高台	なし	5.8	5.4	2.1	4.8	40.8	イ C11 II 取263 台1642
	6	本土産磁器	小碗	腰部～底部・高台	唐草文	3.7	3.4	1.2	2.0	12.3	- 表採 -

今回の調査で円盤状製品は数量的に少なく詳細な分類にいたらなかった。円盤状以外の白磁、青磁、染付、本土産陶器、本土産磁器、沖繩産陶器なども少ない為、米軍基地接取時に大きく掘削、投棄された可能性もある。しかし、素材として古いものは白磁、青磁から新しいもので本土産磁器までバラエティーに富んでいる。円盤状製品に使用された白磁は挟入高台、又、青磁は内面、外面ともラマ式蓮弁文の片切り彫りで文様を施すため時期的に15C代の資料と思われる。染付は小型の器物で碁筒底を呈す。

本土産磁器の資料は古手の時期に属すと推測され小碗の器物で唐草文の絵付けを施し、図柄は花卉に唐草文の蔓草模様が描かれ花唐草とも蛸唐草（図柄を略した描き方）とも捉えられる。唐草文は中国産の青磁や染付の図柄に見られ本土産磁器も影響を受けたと思われる。唐草以外の文様と共に描かれることが多く、年代により描き方の種類が多い文様である。素材を詳細に確認した結果、本遺跡のグスク～近世、近代集落で流通した陶磁器、焼き物の変化を知ることができた。

#### <参考文献>

平凡社 1984 『やきもの辞典』

九州近世陶磁学会 2000 『九州陶磁の編年』 -九州近世陶磁学会10周年記念-

佐賀県立九州陶磁文化館 1984 『国内出土の肥前陶磁』 -古唐津・伊万里の流通をさぐる-



第152図・図版123 円盤状製品

### (11) 煙管

煙管は7点得られ、層序はすべて第Ⅲ層からの出土である。素材は陶器製、石製の2種類で、陶器製には無軸陶器の資料がある。煙管には火皿から吸い口までが一体の延べ煙管と雁首、吸管、吸口部分が分割される羅宇煙管に分類され、今回は羅宇煙管のみ出土した。部位は雁首のみで、煙管の吸口は出土していない。

#### A. 石製

図1は石製でシルト質の石を使用している。形状は円筒形と想定されるが残存する部分は破損している。図2も石製で硬質の細粒砂岩を使用している。形状は前者と同様の円筒形を呈す。長径、短径ともに他の資料より大きく側面は円筒形にするための削り痕が細かくみられる。

図3は石製の資料でシルト質の石を使用している。形状は円筒形に角をつけ末広がりを呈す。火皿部分の径が小さく火皿内側と吸管との接続部分は煙草の脂（ヤニ）で黒く変色している。

図4は石製でこれも粒子の細かい硬質の細粒砂岩を使用している。形状は円筒形を成し図2と図3の中間程度の大きさを呈す。特徴は雁首の先端に携帯用の突起が作られ、紐通しの孔が開いている。この資料は火皿部分の径が大きく開いている。

第89表 煙管観察一覧

(法量単位: cm/g)

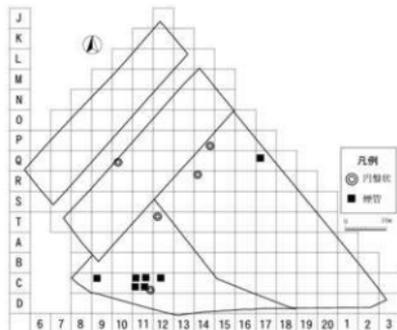
第四図章 第154図・ 図版124	図番号	素材	部位	色調	完/破	雁首計測値				観察事項	地区 小グリッド層 遺構 取上番号 台帳番号
						火皿 外径 内径	小口 外径 内径	長さ 高さ	重量		
	1	石製	雁首	薄灰色	破損	0.7 0.5	2.1 1.3	—	9.6	残存状態悪く脂(ヤニ)付着 シルト岩製	イ C9 Ⅲ P21 台2286
	2	石製	雁首	灰褐色	完形	1.4 0.7	2.4 1.4	3.6 2.4	27.0	資料のうち最も重い、火皿内部、 小口内部に脂(ヤニ)付着 シルト岩製	イ C11 Ⅲ 取253 台1984
	3	石製	雁首	灰褐色	完形	0.7 0.5	1.7 1.2	2.5 1.3	6.0	火皿内部、小口内部に脂(ヤニ)付着 シルト岩製	イ C12 Ⅲ 台1982
	4	石製	雁首	薄黄褐色	完形	1.3 0.7	2.2 1.2	3.3 2.1	19.0	携帯用紐通しのつまみ有り シルト岩製	イ C11 Ⅲ 取317 台1985
	5	無軸陶器	雁首	灰青色	破損	1.9 1.4	1.5 —	3.8 1.7	9.0	小口部分が銀元から破損	イ C11 Ⅲ 取151 台1983
	6	無軸陶器	雁首	灰青色	完形	2.1 1.4	1.6 1.0	4.4 1.9	11.0	火皿内部に脂(ヤニ)付着	イ C11 Ⅲ 取151 台1983
	7	無軸陶器	雁首	暗赤褐色	完形	1.7 1.3	1.4 0.9	3.9 1.4	7.0	軸葉は一部のみ残られる	H19 Q17 Ⅲ 台3405

#### B. 無軸陶器製

図5は無軸陶器製で雁首の端部が破損する。形状は金属製の羅宇煙管の雁首部分を模倣したように思われる。火皿部分は内径が大きく脂(ヤニ)反しの部分が裏面は僅かに細い。

図6は無軸陶器製で、羅宇煙管の形状を呈す。製作工程の際に粘土に混入物を混ぜたと想定され粒の大きな石が側面にみられ小石の抜けた穴も多く確認できる。

図7は軸葉が一部残るが無軸陶器製とした。羅宇煙管の形状を呈し、雁首の首部から吸管との接続部、小口部分に軸葉がみられ施軸の痕跡か、何によるか不明。同形態の図5、6と比較して火皿外径、脂反しの立ち上がりの高さ、雁首の首部の長さが小振りな作りである。



第153図 円盤状製品・煙管平面分布



第154図・図版124 煙管

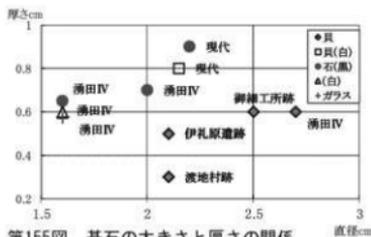
煙管が作られた時期、煙草が嗜好品として一般に流通し、雁首と吸口の部位も時代とともに素材や形態に変化がみられる。煙管の出土が量的に少なく詳細な分類にいたらず判断しうる範囲内での報告とした。明治5年に国産の紙巻煙草が製造され、煙管はしだいに使用されなくなる。沖縄では琉球王統下で煙草栽培がされていたが、琉球処分後は詳細が不明である。戦後1951年に沖縄産紙巻煙草が製造されるまで煙管を使用していた可能性が高い。

＜参考文献＞

- 日本民具学会（編）1997 日本民具事典（株）ぎょうせい  
 沖縄県教育委員会 1999 『湧田古窯跡（IV）』 沖縄県文化財調査報告書第136集  
 江戸遺跡研究会（編）2001 図説 江戸考古学研究事典 柏書房  
 沖縄県教育委員会 2003 沖縄県史各論編 第二巻 考古  
 沖縄県立埋蔵文化財センター 2003 『尻並遺跡』 沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第15集  
 石井竜太 2009 「琉球の喫煙文化」『南島研究』 東京大学文学部考古学研究室  
 シンポジウム『VOCと日蘭交流-VOC遺跡の調査と嗜好品-』 発表要旨 2010 たばこと塩の博物館・東京都江戸東京博物館・江戸遺跡研究会  
 石井龍太 2011 「琉球諸島出土キセルの基礎的研究」『東京大学考古学研究室 研究紀要』

(12) 基石

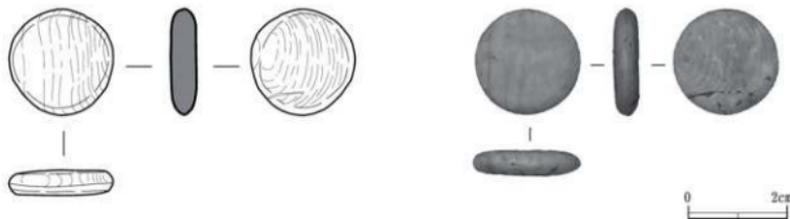
貝製の基石が1点得られた。表面に平行、裏面に弧状の縞模様が明瞭に確認できる。縞模様の基石はハマグリ製で、基石の中では高級品とされている。ハマグリ製基石の加工は県内では例がないことから輸入品と考えられる。直径2.15cm、厚さ0.5cm、重さ4.13gを測り、ハ地区D12第III層SP22の出土である。第155図に御細工所跡、湧田古窯跡（IV）、渡地村跡及び現代の基石の、大きさと厚さの相関関係を示した。これによると本品の大きさ及び厚さはほぼ中間サイズで、現代の基石断面がレンズ状を呈するのに対し、本品は板状を呈することから古手であろう。



第155図 基石の大きさと厚さの関係

＜参考文献＞

- 那覇市教育委員会 1991 『御細工所跡』 那覇市文化財調査報告書第18集  
 沖縄県教育委員会 1999 『湧田古窯跡（IV）』 沖縄県文化財調査報告書第136集  
 沖縄県立埋蔵文化財センター 2007 『渡地村跡』 沖縄県立埋蔵文化財センター第46集



第156図・図版125 基石

## (13) 瓦

瓦は丸瓦4点、平瓦32点、不明27点の合計63点出土、いずれも10cm以下の小破片で、いわゆる赤瓦である。出土量が少ないながらも分布状況は出土遺物の項で述べたようにS・T13・14に多い傾向が瓦にも見られ、S13・14で各5点、T13・14で各4点、P16は3点で、ほぼ第Ⅱ層出土（第90表）である。出土した瓦と2次製品について略述する。

図1は丸瓦の破片、色調は橙色で硬質、胎土は粗く、白色・茶褐色粒、小さな巻貝が見られる。重さ61.28g、P12出土。

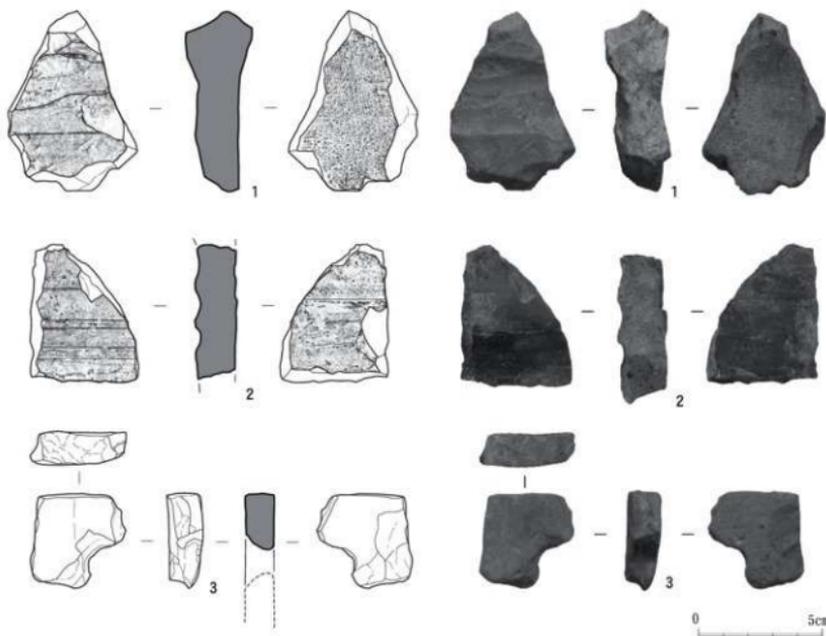
図2は平瓦の破片、横位に施される2条の凹は幅2mmの間隔を有し他に比して稜が明瞭である。重さ64.9g、P16、第Ⅱ層出土。

図3は、2次加工品と見られる。全体的に摩滅し上面に整形と見られる研磨痕があり、右下部には表面側への剥離痕を伴う摩滅した決りが見られる。胎土は粒子が細かく暗褐色や白色粒を含み陶質土器に類似する。重さ16.49g、第Ⅱ層出土。

丸・平瓦ともに胎土の混入物に黒・赤褐色粒、暗灰色粒、石灰粒を含み巻貝も僅かに見られ、硬質であるが、表面が滑らかなものとザラザラするものが見られる。

第90表 瓦出土量

層序	分類			合計
	丸瓦	平瓦	不明	
I		2	1	3
II	4	29	26	59
表採		1		1
合計	4	32	27	63



第157図・図版126 瓦

### (14) 石製品

円筒形礫の破損品と見られる。破損面には、上下に貫通する直径約4.5cmの孔があり、その左側破損面には抉れがあり、右側破損面の小さな窪みの中に貝化石が見られる。

破損面には、石灰分の結晶が僅かに付着し縁は摩滅する。長さ23cm、最大幅21.7cm、重量8.8kg、石質はシルト岩。図版129、第158図で示したようにニ地区K12東壁で立位の状態で見出されているが掘り込みは見られない。出土状況から所属時期は第Ⅱ層と判断される。

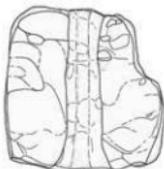
本資料は人為的に持ち込まれたものと考えられるが、石製品としての使用・加工痕は見られず用途は判然としない。類例を待ちたい。



図版127 石製品出土状況



図版128 検出状況 (K12東壁)



貝化石の付着

0 10cm

第158図・図版129 石製品

## (15) 現代遺物

ガラス製品（瓶、不明品）、プラスチック製品（シェービングブラシ、ケース、歯ブラシ）、磁器（罫子、不明）、金属製品（財布口金、丸釘、棒状、缶、金具、鎖、銃弾、鉄片）、真空管、サングラスがⅡ層や米軍攪乱遺構から出土した。第91表に出土状況、図版130に特徴的なものを示した。ほとんどが米軍基地の廃棄物で、キャンプ桑江北側地区の基地使用を示すものである。同地区内の小堀原遺跡（2012）にガラス瓶類の類例がある。

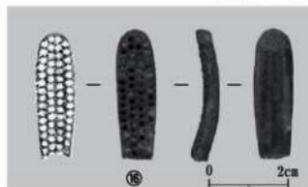
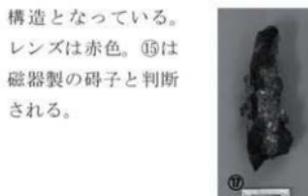
ガラス瓶は6種類あり、①～③は鉄蓋が付く無色の瓶で、高さ約9.5cm、瓶底に製造に関すると思われる記号と数字が陽刻される。②は瓶底の数字が型押しの際にずれて2重になる。⑥・⑦はプラスチック製の蓋が付く茶色の瓶で、高さ3cm。⑧はプラスチック製の蓋が付く無色の瓶で、高さ7.4cm。⑤の飲料瓶は胴上部に「NO DEPOSIT NO RETURN」「NOT TO BE REFILLED」、底に「Dwaalas」とマークの左右と下に数字が陽刻される。④の内部に「く」字状に曲がる芯と固形化した内容物が残存する。⑩は無色の瓶だが口縁部に螺旋状の溝が見られない。⑨はガラス製品の破損品で用途は不明である。縦断面が三角形を呈しており、台座の可能性があるとと思われる。

プラスチック製品は3種類、⑬はシェービングブラシで、表側に「Kesso」、裏側に「STERILIZED BRISTLES SET IN RUBBER」が印字される。⑭はケースの身、陽刻で正面中央下部に紋章、下位に「USN」（U. S. NAVYと考えられる）、その両側の縦線の間は表裏面・側面・底面にあり底面で交差する。⑮は歯ブラシ、毛を埋め込む孔15個4列が配される。

金属製品の棒状は、角柱状と先端が尖るものがあり、前者は性格不明、後者の⑯はテント固定用ベグと思われる。⑰は真空管、プラスチック部分に「Radiotron」「MADE IN USA」が印字され、底面には金属部品が残る。⑱のサングラスは耳かけ部分が螺旋状のパネ構造となっている。レンズは赤色。⑲は磁器製の罫子と判断される。

第91表 現代遺物出土量

種類	ガラス製品		プラスチック製品		磁器		金属製品						真空管	サングラス	合計	
	瓶	不明	シェービング ブラシ	ケース	罫子	不明	財布口金	丸釘	棒状	缶	金具	銃弾				不明鉄片
出土地区																
Ⅱ9地区	9	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	15	1	1	38
Ⅱ8地区							1			5			1			7
Ⅱ2地区								6	3	7		1	3			20
合計	9	1	1	1	1	1	1	7	4	13	1	2	19	1	1	65



図版130 現代遺物

## 第6節 伊礼原A遺跡（口地区）

### 1. 調査の方法と成果

#### （1）調査区の設定

伊礼原A遺跡は、伊礼原遺跡と伊礼原E遺跡間の標高4mに位置する周知の埋蔵文化財包蔵地である。調査区設定は予備調査の調査結果を踏まえつつ、のちに史跡指定を受けることとなる伊礼原遺跡の範囲を避けて行った。調査面積は約500㎡である。グリッド名称はキャンプ桑江北側地区で用いているグリッド設定手法に従い呼称した。なお、グリッドの設定方法、調査手法、記録作業、整理作業については、第III章第1節で既述のためここでは割愛した。

#### （2）自然科学分析

伊礼原A遺跡からは、①K8北壁の腐食質砂層（基本層序の第V層）、②L7北壁の泥炭層（同第V層）の土壌サンプルをそれぞれ採取し、花粉分析及び微細物分析を実施した。また、前述①から木片1点を採取し放射性炭素年代測定を実施した。分析結果については第IV章第5節を参照。

### 2. 層序

伊礼原A遺跡の基本層序は5枚に大別される。第1層は戦後の造成土。第2層は戦前の旧表土。第3層はグスク時代の無遺物層。第4層は貝塚時代後期の遺物包含層。第5層は貝塚時代前V期以前の泥炭層である。以下、各層について記述し、詳細を第92表に示す。

#### 第1層 戦後の造成土

戦後米軍により持ち込まれた造成土で赤土が大部分を占めている。厚さは70～100cm程度で非常に硬く締まっている。

#### 第2層 戦前の旧表土

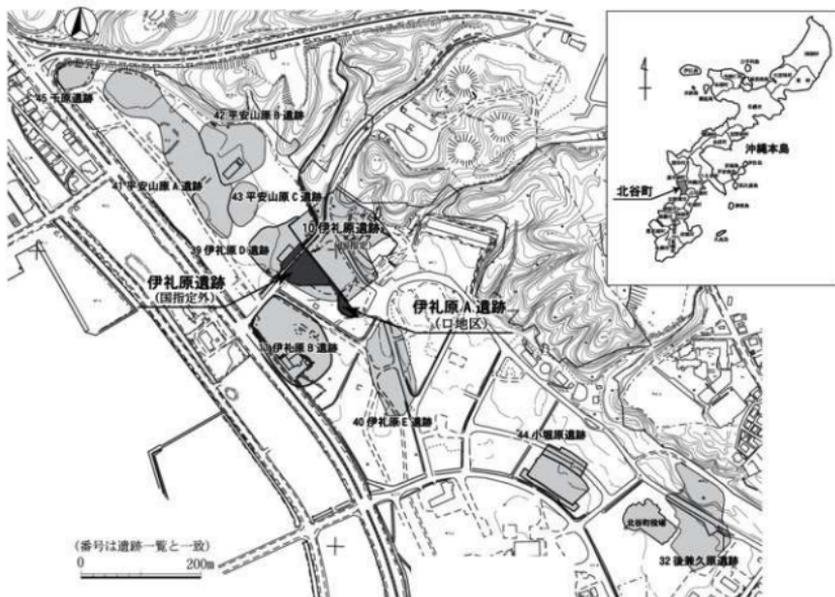
戦前の旧表土で茶褐色を呈し固く締まる。層厚は30～50cm程度で調査区の全面に見られる。当該地は戦前、畑となっていたことから耕作土と考えられる。

#### 第3層 グスク時代の無遺物層

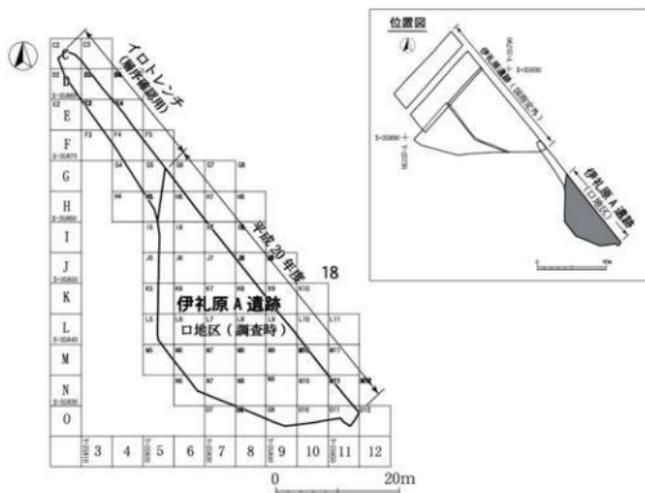
第3層はキャンプ桑江北側地区にて部分的に見られる層で概ね2枚に分けられる。第3a層は淡水に生息するカワニナを含む黒～灰色粘質土で層厚は20～60cm程度。第3b層はほとんどカワニナを含まない緑灰色シルトで層厚は10～40cm程度。第3a層は無遺物層であるが小堀原遺跡に類似層が見られ、同層からは13世紀後半～16世紀代の遺物が出土していることから、第3a層も同時期中に堆積したものと想定される。第3b層も無遺物層であるが、小堀原遺跡における類似層上面が11世紀～12世紀の遺構面となっているため、11世紀以前には堆積したものと考えられる。

#### 第4層 貝塚時代後期の遺物包含層

概ね2枚に分けられる。第4a層は海砂で構成される無遺物層で緑灰～白色のシルト。第4b層はラミネーションが見られる遺物包含層で黄～褐色のシルトまたは砂である。第4b層（特にR8層）からは仲泊式土器、船元系土器、大当原式土器のほか石斧や磨石がほぼ同一レベルから混在して出土する。大当原式土器をもって第4b層の下限と捉えた場合、後述の第5層に含まれる炭化物の年代測定値が2540±40BP（補正年代）であるため、第4b層の形成時期は貝塚時代前V期から貝塚時代後期中葉が想定される。第4b層からは人工遺物の他、チャート、アラスジケマン、シラナミ、イノシシ



第159図 キャンプ桑江北側地区の遺跡と伊礼原遺跡・伊礼原A遺跡の位置



第160図 グリッド設定

の骨等も出土する。

#### 第V層 貝塚時代中期以前の泥炭層

調査地の最下層で確認された無遺物層。泥炭、サンゴ砂利、シルトが互層状に成りながら、数回繰り返す堆積状況を示す。それぞれの層厚は2～5cm、15～20cm、5～10cmとなっている。堆積断面では、葉理や斜交葉理が観察できることから、海域や陸域に由来する流水環境にあったものと推測される。また、サンゴ砂利層が最も厚く堆積し、層中には大型の海産貝類が含まれていることから、当該期は海からの作用が強い波打ち際であったと考えられる。一方、泥炭質粘土は陸域からの供給が考えられる。泥炭層中に含まれる炭化物の年代測定結果は2540±40BP（補正年代）の値が得られている。第V層は汀線付近の堆積物と考えられる。

#### 小結

以上が伊礼原A遺跡における基本層序の概要であるが、ここからは本遺跡の立地条件や各層の特徴から堆積の推移（第V～Ⅲ層）を推測する。

本遺跡は伊礼原遺跡と伊礼原E遺跡の間に位置し、戦前はクシヌカーラと呼ばれる河川が遺跡の南側を西流していた。またクシヌカーラの右岸、本遺跡の東側にはタカブサーと呼ばれる標高10mの小高い丘陵があり、河川及び丘陵から土砂が流れ込みやすい場所となっている。

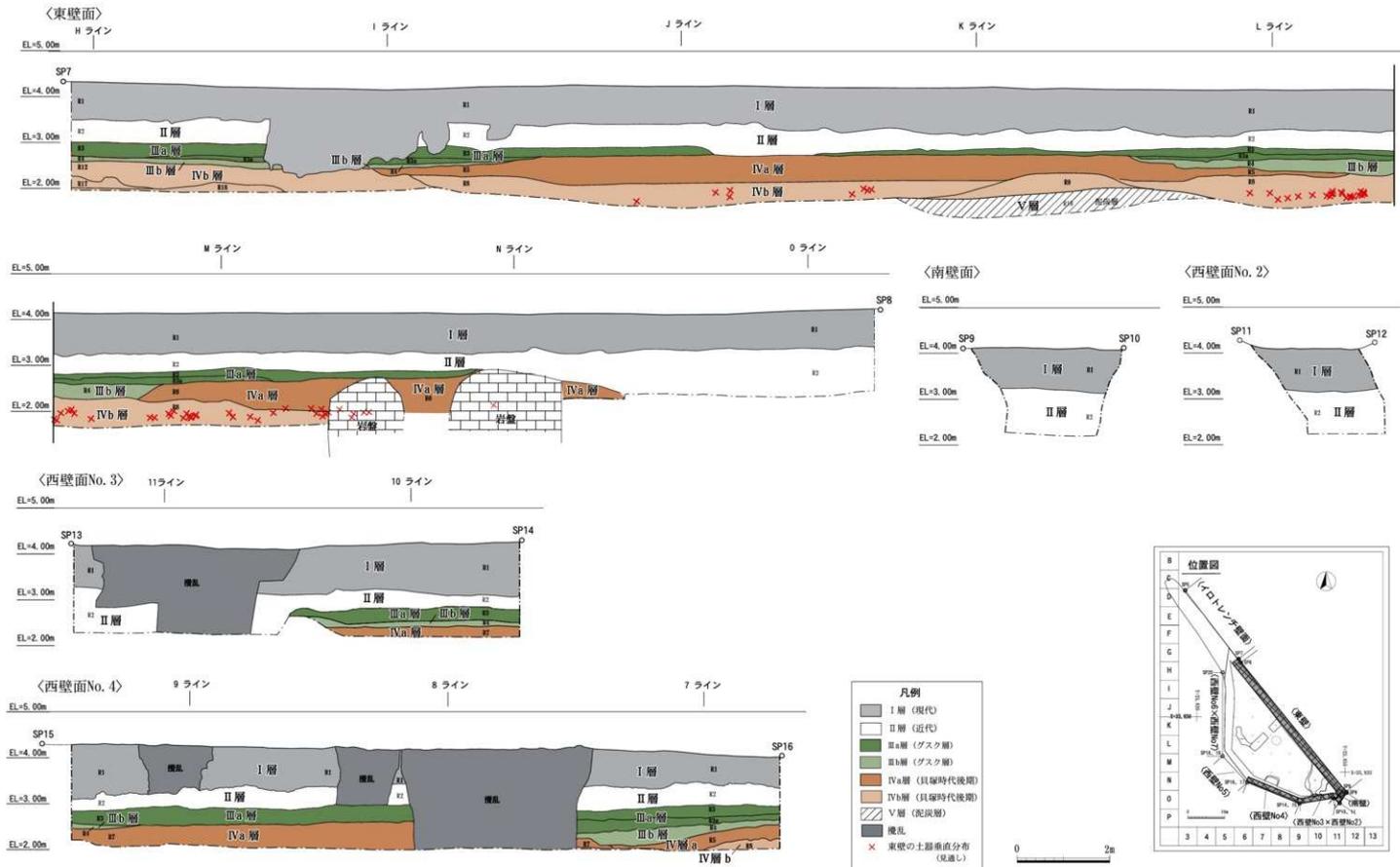
今回の調査で確認された最下層にあたる第V層は、泥炭、海成砂、シルトが互層を成していることから、陸と海から堆積物が供給される環境下にあったものと考えられる。汀線は現在よりも内陸に位置し、遺跡は河口（クシヌカーラ）付近に位置していたであろう。

第IVb層期になると泥炭は見られなくなるが、依然として海成砂とシルトが互層を成している。層中からは仲泊式土器、船元系土器、大当原式土器等（IV類）時代の異なる土器が出土し、第V層同様土砂が流入しやすい環境であったと想定される。

第IVa層期には海成砂が厚く堆積する。第IVb層から大当原式土器が出土することから、第IVa層は貝塚時代後期中葉以後に堆積したと考えられるが、時期を特定できる遺物が無いため明確ではない。

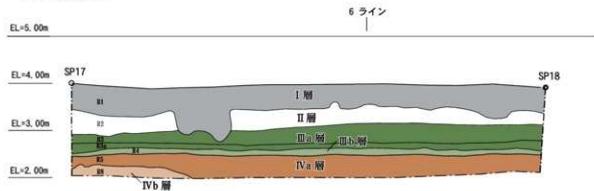
第Ⅲb層期になると淘汰の良いシルトが堆積し、その上部には淡水に生息するカワニナを含む粘質土（第Ⅲa層）が堆積する。第Ⅲb層に類似する堆積状況は本遺跡より南東へ700m離れた小堀原遺跡でも認められる。本遺跡のシルト層が小堀原遺跡と同一、同時期のものと仮定すると、第Ⅲb層は11世紀以前に堆積した可能性が高い。なお、小堀原遺跡ではシルト層が15～20cmと厚く堆積し、層中には石英粒が認められている。その供給源を付近の丘陵に求めた場合、丘陵から土砂が流れ出す何らかの自然的、もしくは人為的要因があった可能性も視野に入れる必要があろう。

淡水生のカワニナを含む第Ⅲa層は、遺跡の南側を流れていたクシヌカーラの流末が何らかの原因で、例えば浜堤の発達等により閉塞され、一帯は一時的に沼もしくは湿地のような状態になった結果形成されたものと考えられる。後兼久原遺跡では11世紀後半から13世紀の間の一時期にヌノメカワニナを含むシルト質土が堆積していることから、第Ⅲa層の年代値はその頃に該当する可能性がある。

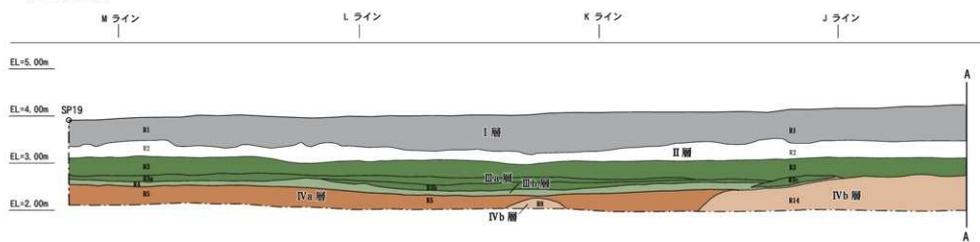


第161図 層序 1 (東壁・南壁・西壁No.2・3・4)

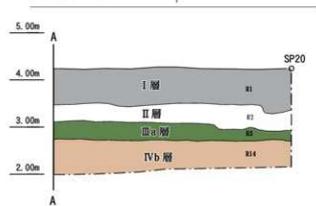
〈西壁面No. 5〉



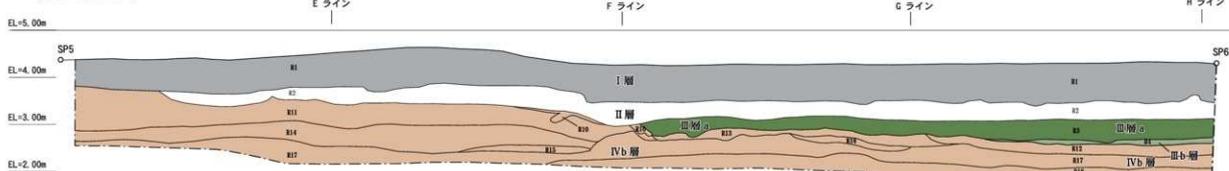
〈西壁面No. 6〉



〈西壁面No. 7〉

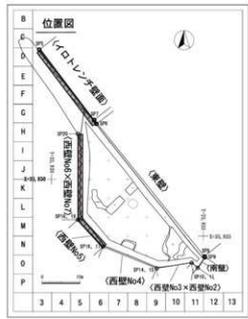


〈イロトレンチ〉



凡例

■	I層 (現代)
□	II層 (古代)
■	IIIa層 (グスク層)
■	IIIb層 (グスク層)
■	IVa層 (具保後期)
■	IVb層 (具保後期)



第162図 層序2 (西壁No.5・6・7 イロトレンチ)

第92表 層序観察一覧

基本層序	仮層序	色調		質	特徴	
I	R1	-	-	造成土	米軍による造成土	
II	R2	7.5YR4/3	褐色	粘質土	旧表土	
III	a	R3	N/2/1	黒色	粘質土	グスク時代の貝含層。粘性、締りあり。
		R3a	N/3/	暗灰色	土	R 3層より粘性が弱く、色調がやや灰色がかかる。
		R3b	N/2/1	黒色	砂質土	締り、粘性なし。部分的に貝小片が散る。
		R3c	2.5GY2/1	黒色	土	締り、粘性がなく、シャコガイや土器片を多く含む。堆積は層状に広がらず部分的にしか見られない。
	b	R4	7.5GY5/4	緑灰色	シルト	やや締りあり。安定した堆積層。干潟を成していたと思われる。
IV	a	R5	10GY5/1	淡緑灰色	シルト	風化した軽石が全体に散る。無遺物層。
		R6	2.5Y8/2	白色	シルト	挙大の褐色粘質土ブロックや黒色土ブロックが混じる。
		R7	N/2/1	黒灰色	土	部分的に緑灰色シルトと褐色の砂利が混じり、大型の貝や貝塚時代後期の土器を含む。
	b	R8	7.5YR5/4	にぶい褐色	シルト	部分的に炭化物が混じり、粗い砂利と互層をなす部分がある。大当原式土器、仲泊式土器が出土。
		R9	10YK5/8	黄褐色	砂利	水性により上層のシルト層と互層をなす。海側へ弧状に堆積していると思われる。
		R10	5Y R 3/1	黒褐色	土	締り、粘性なし。黒褐色土に鉄分がにじむ。
		R11	2.5Y R 7/6	明褐色	細砂	貝片、サンゴ片が多く混じる。
		R12	5Y6/2	灰オリーブ色	シルト	所々に黒色粘質土がブロック状に混じる。また貝片も散見される。
		R13	7.5Y R 5/8	明褐色	砂	粒子の粗い砂質で黒色粘質土がブロック状に混じる。
		R14	2.5Y R 8/6	黄色	細砂	砂の粒子が細かく均一である。遺物は見られない。
		R15	5Y R 8/3	淡橙色	砂	貝片、サンゴ片を多く含み、やや赤みを帯びる。
		R16	10Y R 4/2	灰黄褐色	砂	薄く堆積した層中に貝を密に含む。リュウキュウサルボオ、アラスジケマン等の二枚貝が主体。
		R17	7.5Y R 6/8	橙色	砂	白砂に鉄分が混じる。所々にサンゴ礫が散る。
R18	7.5Y 4/1	暗緑灰色	シルト	層中に挙大の礫が混じる。		
V	R19	-	灰白～灰淡黄～黄白 灰黒	シルト サンゴ砂利 泥炭	泥炭、サンゴ砂利、シルトが互層を成す。サンゴ砂利層は大型の貝を含む。	



第93表 取上遺物一覧

取上 番号	X	Y	Z	石巻 番号	小 字	出土遺物	国番号	取上 番号	X	Y	Z	石巻 番号	小 字	出土遺物	国番号
1	3536.870	2532.700	1.910	842	ウ	土器 (IV期)		97	3537.610	2537.200	2.020	1017		石材	
2	3537.470	2530.150	1.760	840	ウ	土器 (IV期)	第16回調査	99	3538.740	2538.900	1.900	682	88	土器	
3	3541.660	2530.170	1.970	641	イ	土器 (弥生中)	第16回調査	100	3538.270	2538.500	1.930	1511	88	土器	
4	3543.670	2530.620	1.960	643	イ	土器 (弥生中)		101	3541.820	2531.270	1.900	1500	18	土器	
5	3543.950	2530.620	1.960	644	イ	土器 (弥生中)		102	3538.270	2538.500	1.930	1510	88	石器 (磯石製器)	第16回調査
6	3542.040	2530.200	1.930	653	イ	土器 (弥生中)		103	3537.660	2538.000	1.830	1962	87	土器 (石巻)	第16回調査
7	3541.730	2530.420	1.900	646	イ	土器 (弥生中)		104	3537.030	2538.700	1.760	1960	87	土器 (石巻)	
8	3542.120	2531.440	1.920	1403	イ	土器 (弥生中)		105	3537.020	2538.810	1.780	1425	87	土器 (石巻)	
9	3542.270	2531.791	1.910	1404	イ	土器 (弥生中)		106	3543.520	2538.300	1.930	1474	88	土器 (石巻)	
10	3543.530	2531.820	1.900	2042	イ	貝 (野付石)		107	3545.450	2538.200	1.950	1945	88	土器 (石巻)	
11	3543.380	2531.850	1.890	669	イ	土器 (IV期)		108	3544.840	2537.670	2.040	1831	16	石器 (石巻)	
12	3543.210	2532.740	1.960	1099	イ	土器 (弥生中)	第16回調査	109	3543.510	2537.010	1.960	1011	16	土器 (石巻)	
13	3547.150	2532.520	1.990	1100	イ	Uzozoo (IV期)		110	3544.110	2537.660	1.990	1490	16	土器 (石巻)	
14	3541.270	2529.860	1.960	1305	66	榎石		111	3544.900	2537.100	2.000	1494	16	土器 (彌生)	
15	3543.620	2532.120	2.000	654	16	土器 (IV期)		112	3543.890	2537.230	1.960	1491	16	土器 (IV期)	
16	3542.990	2528.310	1.880	1914	16	土器 (石巻)	第16回調査	113	3544.620	2537.020	1.990	1497	16	土器 (石巻)	
17	3547.080	2532.620	1.960	639	89	土器 (IV期)		114	3544.900	2537.660	1.920	1397	16	Uzozoo (石巻)	
18	3543.530	2534.470	2.010	650	89	土器 (IV期)		115	3546.210	2538.460	1.970	1368	88	Uzozoo (石巻)	
19	3543.220	2534.420	2.050	684	89	土器 (弥生中)	第16回調査	115	3546.210	2538.460	1.970	1487	88	土器	
20	3543.170	2534.440	2.060	659	89	土器 (弥生中)		116	3546.960	2538.360	1.960	1425	88	土器 (石巻)	
21	3543.060	2534.800	2.050	665	89	土器 (弥生中)		117	3546.520	2538.140	1.960	1364	88	Uzozoo (石巻)	
22	3538.100	2534.600	1.990	660	89	土器 (弥生中)		118	3537.190	2538.900	1.900	1970	87	石器 (石巻)	第16回調査
23	3538.340	2534.180	2.000	666	89	土器 (弥生中)		119	3541.040	2538.840	1.820	1469	17	榎石	
24	3538.190	2534.660	1.990	667	89	貝		120	3538.950	2538.940	1.770	1506	87	土器 (石巻)	
25	3538.190	2534.660	1.990	667	89	Uzozoo (I期兼II期)		121	3540.060	2537.530	1.960	1971	88	土器 (石巻)	
26	3540.250	2541.060	2.010	3047	19	土器 (彌生)		122	3539.260	2540.760	2.220	1460	09	土器 (彌生 個人?)	
27	3548.380	2532.280	2.000	1392	87	Uzozoo (IV期)		123	3539.510	2541.120	2.100	1490	09	土器 (彌生)	
28	3548.380	2532.410	1.970	676	87	土器 (IV期)		124	3540.890	2539.140	1.720	1469	17	土器 (石巻)	第16回調査
29	3548.370	2532.510	1.980	677	87	土器 (IV期)		125	3539.660	2540.530	1.720	1504	17	土器 (石巻)	
30	3548.450	2532.200	2.000	1393	87	土器 (IV期)		126	3546.470	2538.290	1.960	1360	16	Uzozoo (I期兼II期)	
31	3548.870	2533.000	1.970	1329	87	石製器		127	3546.100	2538.260	1.960	1370	16	Uzozoo (IV期)	
32	3549.170	2534.140	1.960	1390	87	Uzozoo (IV期)		128	3545.010	2538.240	1.920	1371	16	土器 (石巻)	
33	3549.530	2534.000	1.900	1394	87	Uzozoo (IV期)		129	3545.990	2538.360	1.920	1371	16	土器 (石巻)	
34	3549.650	2543.720	1.940	870	89	土器 (弥生中)	第16回調査	130	3544.300	2538.520	1.970	1503	16	土器 (石巻)	第16回調査
35	3536.710	2545.720	2.000	1098	810	石器 (磯石)		131	3548.120	2543.010	1.740	1442	17	土器 (IV期)	
36	3536.710	2545.720	2.000	671	810	土器 (IV期)		132	3539.920	2543.270	1.720	1488	87	土器 (IV期)	第16回調査
37	3536.720	2545.130	1.960	880	810	土器 (IV期)		133	3538.030	2543.250	1.730	1540	87	土器 (IV期)	
38	3536.600	2543.860	2.010	672	89	土器 (IV期)		134	3537.010	2542.360	1.770	1951	87	石器 (石巻)	第16回調査
39	3549.850	2529.280	1.850	674	86	土器 (弥生中)	第16回調査	135	3537.010	2543.420	1.720	1949	87	石器	
40	3547.120	2530.190	1.870	1015	87	土器 (弥生中)	第16回調査	136	3538.010	2543.020	1.840	1928	88	土器 (弥生)	
41	3548.220	2532.430	1.980	1934	88	土器 (弥生)		137	3538.150	2543.530	1.960	1971	88	土器 (石巻)	
42	3548.090	2532.900	1.790	1935	88	土器 + 石材		138	3536.170	2542.850	1.840	1953	88	土器 (石巻)	第16回調査
43	3547.120	2529.860	1.830	1390	86	Uzozoo (IV期)		139	3536.090	2543.630	1.830	1955	88	土器 (石巻)	第16回調査
44	3549.430	2532.960	1.820	1399	86	Uzozoo (IV期)		140	3538.690	2543.750	1.760	1970	88	土器 (石巻)	
45	3549.210	2532.960	1.900	1401	86	Uzozoo (IV期)		141	3542.050	2543.840	1.830	1964	88	土器 + 石材	
46	3549.110	2532.240	1.780	1834	86	土器 + 石材		142	3541.100	2543.230	1.960	1981	18	土器 (石巻)	第16回調査
47	3544.690	2535.730	2.010	1136	16	土器 (弥生中)	第16回調査	143	3539.370	2543.430	1.900	1964	88	土器 (石巻)	
48	3546.220	2535.970	1.980	1965	16	石材		144	3539.610	2543.960	1.960	1520	88	土器 (石巻)	
49	3546.420	2536.110	1.960	1918	17	土器 (弥生)		145	3539.820	2544.330	1.930	1513	89	土器 (石巻)	
50	3545.420	2536.170	1.860	1919	17	土器 (弥生)		146	3538.360	2544.620	1.960	1521	89	土器 (石巻)	
51	3545.280	2536.140	1.860	1812	17	Uzozoo (I期)		147	3538.300	2544.290	1.840	1520	89	土器 (IV期)	
52	3545.420	2536.130	1.860	1918	17	土器 (弥生)		148	3538.420	2544.260	1.960	1521	89	土器 (IV期)	
53	3545.410	2536.130	1.860	1913	88	土器 (弥生)		149	3538.300	2544.410	1.950	1522	89	土器 (IV期)	
54	3547.220	2538.400	1.780	1916	88	土器 (石巻)	第16回調査	150	3538.070	2544.240	1.830	1535	89	土器 (IV期)	第16回調査
55	3543.260	2540.560	1.890	1919	88	土器 (石巻)	第16回調査	151	3538.320	2544.790	1.840	1534	89	土器 (IV期)	
56	3541.470	2539.860	1.910	657	14	土器		152	3538.490	2544.760	1.910	1520	89	土器 (IV期)	
57	3541.130	2539.870	1.930	648	14	土器		153	3538.440	2544.820	1.820	1520	89	土器 (IV期)	
58	3540.970	2540.200	1.900	649	14	土器 (IV期)		154	3537.300	2544.430	1.910	1526	89	土器 (IV期)	
59	3540.910	2540.370	1.920	647	19	土器 (IV期) 取上部位混合		155	3536.270	2544.720	1.820	1534	89	土器 (IV期)	
60	3540.640	2541.290	1.970	686	19	土器 (弥生)		156	3538.740	2544.840	1.840	1512	89	土器 (石巻)	
61	3541.020	2541.640	1.950	645	19	土器 (IV期)		157	3535.550	2544.600	1.900	1565	89	土器 (石巻 + 弥生)	第16回調査
62	3540.770	2540.230	1.930	2946	19	貝 (ワカボシ (自然貝))		158	3543.050	2544.910	1.870	1515	89	土器 (弥生 + IV期)	
63	3530.890	2541.290	2.010	1912	89	土器 (IV期)	第16回調査	159	3532.780	2544.730	1.960	1516	89	土器 (IV期)	第16回調査
64	3530.140	2539.910	1.980	2040	88	土器 (弥生)		160	3532.660	2544.730	1.970	1545	89	土器 (彌生)	
65	3534.650	2539.060	1.970	678	89	土器 (磯石製器)		161	3532.740	2544.190	1.910	1518	89	土器 (石巻)	第16回調査
66	3535.160	2541.520	1.980	1917	89	土器 (弥生)		164	3533.090	2537.800	1.840	1509	88	土器 (弥生)	
67	3548.780	2533.430	1.920	1911	88	貝 (野付石)		165	3533.090	2537.800	1.830	1510	88	土器 (弥生)	
68	3542.510	2532.920	1.950	1395	17	土器 (弥生)		166	3533.260	2538.790	1.940	1510	88	土器 (IV期)	
69	3542.720	2533.280	1.960	1492	17	Uzozoo (I期)		167	3534.720	2538.410	1.810	1502	88	土器 (IV期)	
70	3545.390	2533.290	1.820	651	17	土器		168	3534.240	2544.220	1.880	1365	89	Uzozoo (IV期)	
71	3545.280	2533.140	1.820	652	17	土器		169	3542.620	2544.170	1.910	1521	89	土器 (IV期)	
72	3545.110	2533.140	1.760	658	16	土器 (IV期)		170	3542.940	2544.670	1.870	1547	19	土器 (彌生)	
73	3546.020	2538.430	1.980	1903	86	土器 (石巻)		171	3542.470	2544.480	1.880	1541	19	土器 (IV期)	
74	3545.990	2538.620	1.980	662	86	土器		172	3544.110	2544.000	1.820	1522	19	土器 (IV期)	
75	3545.920	2538.760	1.970	663	16	土器 (彌生)		173	3541.220	2544.760	1.910	1521	19	土器 (IV期)	
76	3545.250	2538.660	2.010	655	86	土器 (彌生)		175	3544.810	2544.510	1.880	822	19	貝	
77	3541.240	2538.260	2.000	687	86	土器 (IV期)		176	3544.000	2544.900	1.770	1829	10	土器 + 石材	
78	3544.230	2538.430	2.000	1336	86	石 (I期)	第16回調査	177	3541.120	2544.900	1.830	1540	19	土器 (IV期)	第16回調査
79	3545.330	2538.430	2.000	656	16	土器 (弥生)		178	3541.190	2544.110	1.940	1529	19	土器 (弥生)	
80															

### 3. 出土遺物

#### (1) 土器

伊礼原A遺跡の土器は総数262点出土したが、全体的な形状を掴める遺物がほとんどない。土器の出土状況を見ると、第IV層から貝塚時代前・後期の土器が在地・搬入も合わせて226点出土し、遺跡中央部のトレンチ深掘りで確認された第V層からは、貝塚時代前期の室川下層式土器や面縄東洞式土器などが20点得られた。柱穴などの遺構はほとんど検出されず、遺物のみが出土する。平面分布の第161図からK6・L6の窪地部とL8・9・M9の窪地部の縁辺りで多数の土器が検出する状況が見られたことは、遺跡の地形と関係しているのであろう。主体となる貝塚時代後期の土器は、大半がIV類である。第161図に遺物全体の平面分布と垂直分布、表94に出土量、表95に観察一覧を記した。分類は、前述した伊礼原遺跡国指定外の分類に基づいて行い、貝塚時代前期はI群、後期をII群に大別し、その順で記述する。

#### A. I群土器

I群土器は総数33点の出土で、底部の1点はII群土器の底部の項にて記述する。集計はI群土器の中で分類した。表採から1点、中央部のトレンチ深掘りの第V層から20点、第IV層から12点が検出されている。第V層からは在地の室川下層式土器や面縄東洞式土器が得られた。いずれも小破片で、形状は不明である。第IV層出土のI群土器には、II群土器と混在して在地の仲泊式土器、面縄前庭式土器や搬入土器が見られた。数量的には第V層より少なく、何らかの理由で紛れ込んだものと思われる。搬入土器から記述する。

搬入土器は僅か6点の出土で、2点を図示した。いずれも第IV層出土で、形状などは不明である。図1は僅かに波状を呈する口縁部で、やや厚手である。胎土や混和材などの特徴から、搬入土器とした。K7出土で、隣のK6からも搬入と思われる土器が1点得られている。図2は器厚が11mmと厚手の胴部で、伊礼原E遺跡で出土した搬入土器の胎土に類似している。L9出土で、隣のM9からも同様な土器が2点得られた。

次に、在地土器であるが、図3～11は中央部の第V層、図12～14は第IV層で検出された。図3～10は室川下層式土器で、いずれも条痕が見られる。外面には短沈線などの文様が施されている。同一個体と思われる破片もあるが、土器の脆さなどの都合上、接合は出来なかった。器厚、器色などからa、bに分類した。

aは厚手で図3～6に図示した。器色はいずれも赤味が強い。図3は口縁部で、外面に斜位の深い短沈線が施されている。図4は「ハ」の字状に深めの短沈線が施されている。

bはaにくらべて若干器厚が薄く、図7～10に図示した。器色も前者と異なりやや茶・灰褐色である。小破片のため、ほとんどが形状不明である。図10の胴部は、湾曲していることから胴径が計測可能で、下部の径が13.8cm、上部の径が15.8cmと、底部に近い箇所と思われる。

図11は面縄東洞式土器の口縁部で、本品も第V層出土である。口縁上部の文様帯に押し引き手法による流水文が施され、文様帯の幅は4.8cmである。

図12～14は第IV層から出土したものである。図12はL10出土で、面縄前庭式土器の胴部片である。縦位に細沈線文を施している。図13・14は仲泊式土器で、前者はM9、後者はK6出土である。両者とも約1.5cmの凸帯文に貝殻文が施され、前者は明瞭、後者は不明瞭である。後者の貝殻文は一見沈線文にも見えるが、施文内に貝殻の肋の痕跡が僅かに見受けられる。

#### B. II群土器

II群土器は貝塚時代後期の土器で、口縁部、胴部、底部も合わせて229点が得られ、全体の87%を

占める。本遺跡の主体となる土器群で、中でもIV類に相当する土器が多い。口縁部、主な胴部から先に、次に底部を記述する。

図15～18は、胎土や文様などから縄文時代晩期系の影響を受けたものと思われるが、はっきりしないことから、集計では不明aとした。僅か5点の出土で、そのうち4点を図示した。図15は手触りがザラザラする砂質の強い口縁である。3cm幅の薄い肥厚帯を持ち、指頭痕により強調されている。L6出土である。図16は内彎する口縁部で、1.9cm幅の薄い肥厚帯を持つ。図17も肥厚帯を持つ口縁部で、口唇は欠如しているが、3cm以上の肥厚帯を持つものと思われる。図16に比べると、若干厚手で、肥厚帯も長めである。両者ともM8出土である。図18は「く」字状に屈曲する口縁部で、口径が推算12.8cmである。胎土は若干違うが、形状などの特徴からI類に分類可能である。

図19は器厚が1cmと厚手の胴部で、角閃石や石英を多量に含む。火山ガラスは含まないが、器厚などの特徴から弥生時代の搬入土器とした。L7出土である。

IV類の土器は163点が得られ、詳細に見ると、薄手で積み痕が隆起するBが74点と最も多く、次いでA・Cが同程度の出土量を示した。伊礼原遺跡国指定外ではIV類Cが最も多く、若干の違いが見られる。IV類以外を見てみると、II類は3点、有文のV類は4点の出土で、IV類に比べるとかなり少ない。小破片で分類が出来なかったものは集計の不明bとし、50点余りであった。

IV類Aは、厚手で粘土積み痕が明瞭なもので、40点が出土した。図20・21に2点を図示した。両者とも直状を呈する。

IV類Bは、薄手で粘土積み痕が明瞭なもので、74点の出土である。図22～25の4点を図示した。前3者は口唇部が舌状を呈し、内彎するものである。図22は若干厚みがあり、図23はかなり薄手である。図24は第1粘土積み痕での屈曲が明瞭で、他の2点に比べて内彎度が高い。図25も胎土や器面調整などの特徴からBとしたもので、口唇部を平らに整え、上部が「く」字状に屈曲する。

IV類Cは、全体的に器厚は均一で、粘土積み痕は隆起しない。破片が小さく、図示は省略した。混和材や胎土はIV類A・Bと同じである。

図26～29は有文で、伊礼原遺跡国指定外ではV類に分類した。中にはIV類に分類可能なものもあるが、有文でまとめた。僅か4点の出土で、全て図示した。図26は口縁部の上端が僅かに外反する形状を呈するが、小破片のためにそれ以下の形状は掴めない。外面に弧状の細沈線文を施している。粘土積み痕が隆起し、胎土なども考慮すると、IV類に分類出来そうである。図27は有文胴部で、外面の粘土積み痕は隆起し、やや明瞭である。内面にはヘラナゲ痕が横位に見られる。文様のラフさと胎土、混和材などの特徴から、IV類の範疇で捉えられる。図28は小型の有文土器の頸胴部で、横位に刺突文を巡らす。胴径は上部が8.9cm、下部が12.8cmと壺の可能性が高い。図29は外面に凸帯文を貼り付け、その上に二又状工具による刺突文が密に施される。さらに、その周囲には浅いラフな沈線文も見られる。

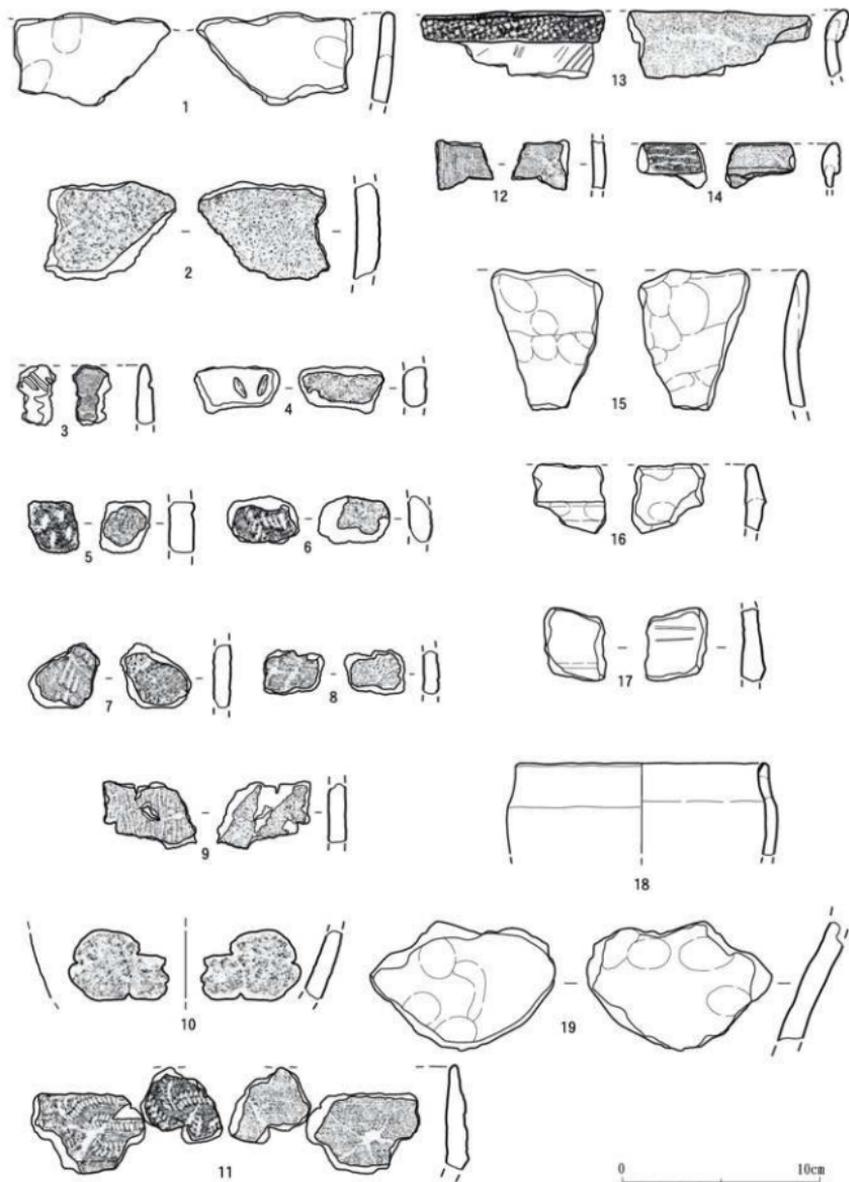
図30は無文の口縁部で、胎土はきめ細かく、均一で器面調整が丁寧である。口縁は外反し、胴部がやや張る。胎土はかなり精製され、調整も丁寧である。

底部は僅か12点の出土で、図31～36に6点を図示した。図31の1点はI群の底部と思われるが、1点のみの出土であることからII群の底部と一緒に記述する。II群の底部と口縁部の出土量を比較して見ると、1対3の割合を示し、口縁部の個体数に対して底部が少ないことが窺える。器種は尖底、乳房状尖底である。伊礼原遺跡国指定外の底部分類に従い、出土数が少ないことから胎土や混和材などの特徴による型式分類を組み合わせてみた。

図31はI群の底部で、石英を多量に含む平底である。立ち上がりの角は丸みを呈する。型式は不



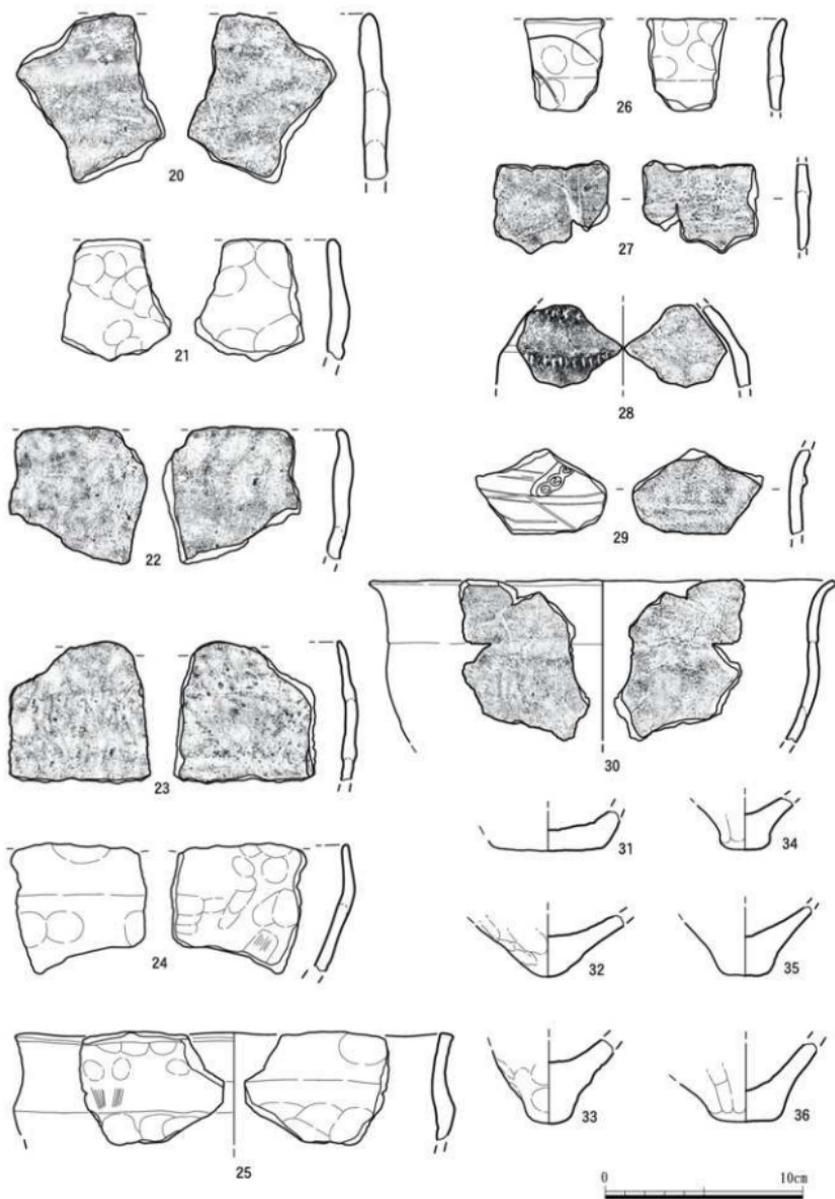




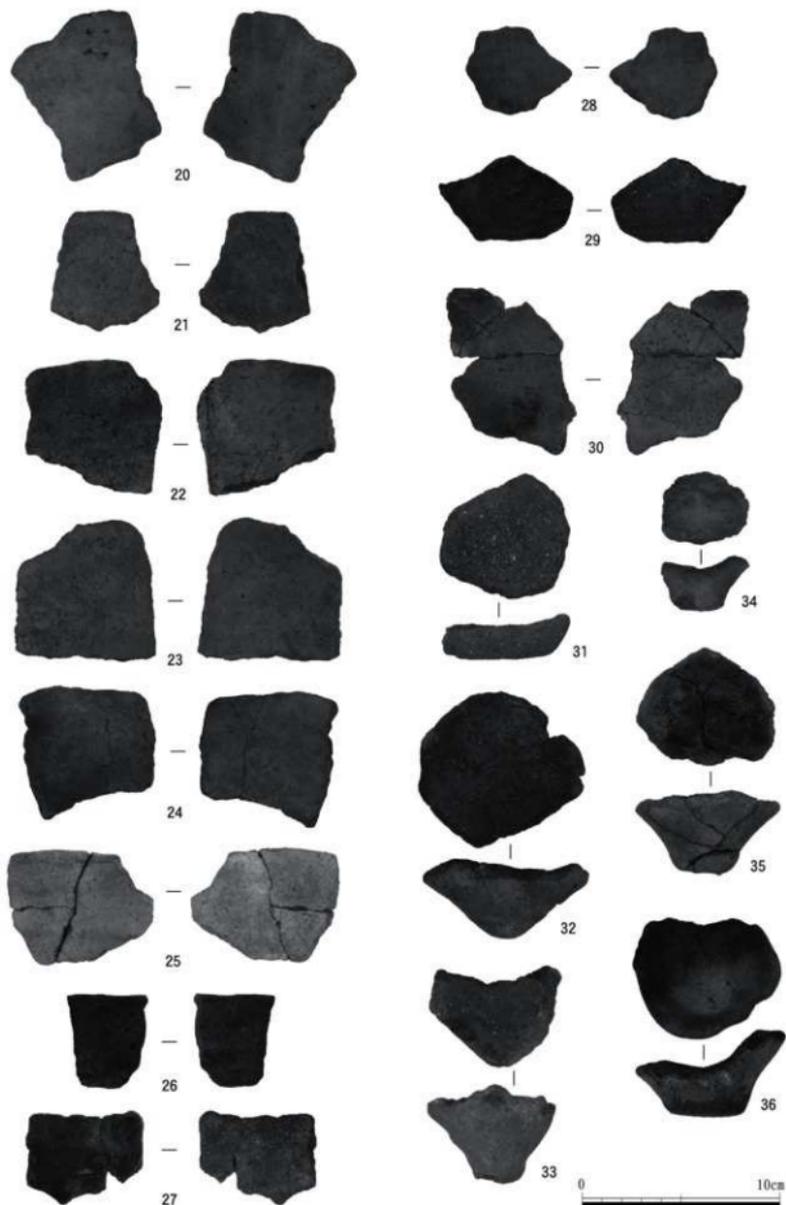
第164図 土器 1



图版131 土器 1



第165圖 土器 2



图版132 土器2

## (2) 石器

石器は45点の出土で、器種は石斧、石斧転用品、敲石兼磨石、磨石、二次製品（円盤状石器）、砥石、石皿、チャート（加工痕あり剥片）等である。器種では磨石が最も多く21点で、石斧は12点、砥石8点、その他の遺物は1点ずつの出土である。グリッド別では、M8から12点、M7が7点と多く、その他、調査区全体で少量ずつ出土している。

### A. 石斧（図1～12）

石斧は12点の出土で、完形1点、未製品2点、石斧転用品2点、破損資料7点である。破損資料の内訳は基部2点、刃部5点である。完形は若干、刃こぼれが生じるものの全体の形状、長さ、刃部形態は把握できる。破損品は基部と刃部片に分けられ、破損資料から全体の長さは窺えない。刃部形態から両刃、片刃の判断は可能だが、これも破損資料の場合、全体の形状は推測できない。基部の側面観から厚手と薄手のものに分けた。刃部は両刃1点と片刃3点がみられる。図化した石斧のうち図1は、製作途中の未製品と推測され転石を利用したと考えられる。基部は打割途中で、刃部もつくり出されていない。図2は、局部磨製石斧で刃部と基部表面の一部が研磨されている。刃の付け方は表裏面で、やや強弱があり裏面の研磨の面積や角度が片刃的である。図3は、刃部の欠損した資料で全体の形状は基部の厚いバチ形的様相を呈す。裏面の下部に僅かに研磨痕が確認できるが、刃部が破損した後の研磨と考えられる。

図9は扁平石斧の完形資料で形態は把握できるが一部欠失している。この資料は表面側からの研磨が強くみられ片刃石斧と考えると差支えないと考えられる。図10は、扁平両刃の石斧で上部が破損した資料である。扁平の薄手資料で刃の研ぎ出しは両面から均等に研磨されており、片刃石斧にみられる片側が極端に強く研磨される石斧とは若干違いがある。図12は、小型の石斧で突出した部分を研磨し平滑にしており研磨痕は顕著である。基部の先端も研磨され基端部分に面がみられる。扁平の両刃に仕上げているが、偏刃である。刃部は刃こぼれはほぼ見られず製作して未使用のように思われる。石斧の質にもよるが、どの程度の頻度で使用すれば刃こぼれがおきるのか検討したい。出土した石斧は片刃の資料がやや多く後期土器に伴うものと思われる。

### B. 磨石（図13～24）

磨石は小型の楕円状のタイプと大型不定形の資料がみられる。第167図19は、小型の磨石で表裏面と側面に敲きの痕跡がみられる。横断面の図から窪みの凹凸が確認できる。以下、状態の良い資料を図示し、観察表に提示した。

第96表は層序別に器種の出土状況を示したものである。包含層が薄いため石器は一括で採集された。一括取上げの石器はグリッドごとに採集、点上げ遺物のレベルを壁面層序で照らし合わせると、第IV層からの出土が多くみられる。土器は大本原式が主体で、石器もそれに伴う後期の時期と捉えられる。当地区では遺構の検出はなく下層調査のため深堀トレンチを設けた。深堀トレンチはK8とL7で、深堀トレンチ下層は泥炭質を成し第IV層より古い時期に属すと考えられる。深堀トレンチ内から5点の石器が出土し、内訳は磨石2点、砥石3点である。

第96表 石器出土状況

層序	器種	石斧				敲石兼磨石	磨石			円盤状石器	砥石	石皿	加工痕あり剥片	合計
		未製品	完形	転用品	破損		完形	破損	破片					
表探							1						1	
IV層		2	1	2	7	1	3	11	4	1	5	1	39	
V層								2			3		5	
合計			12			1		21		1	8	1	45	

### <石質>

当地区出土の石器は45点で、石材としたものは27点、石材に適さないサンゴ礫等が14点出土した。岩石類は総数91点、そのうち石器は49.5%を占める。

本遺跡の石質は概略的に伊礼原遺跡周辺の遺跡と同様、石材の石質も含め16種類の岩石が確認された。石器素材としての岩石は砂岩が多く、輝緑岩、角閃岩、斑レイ岩、黒色片岩、黒色千枚岩がみられた。北谷町内では今のところ石灰岩、クチャ（第三期鮮新世の島尻層青灰色泥岩）の岩層のみ確認されており、出土した石器の産地は町外からの持ち込みと推測される。

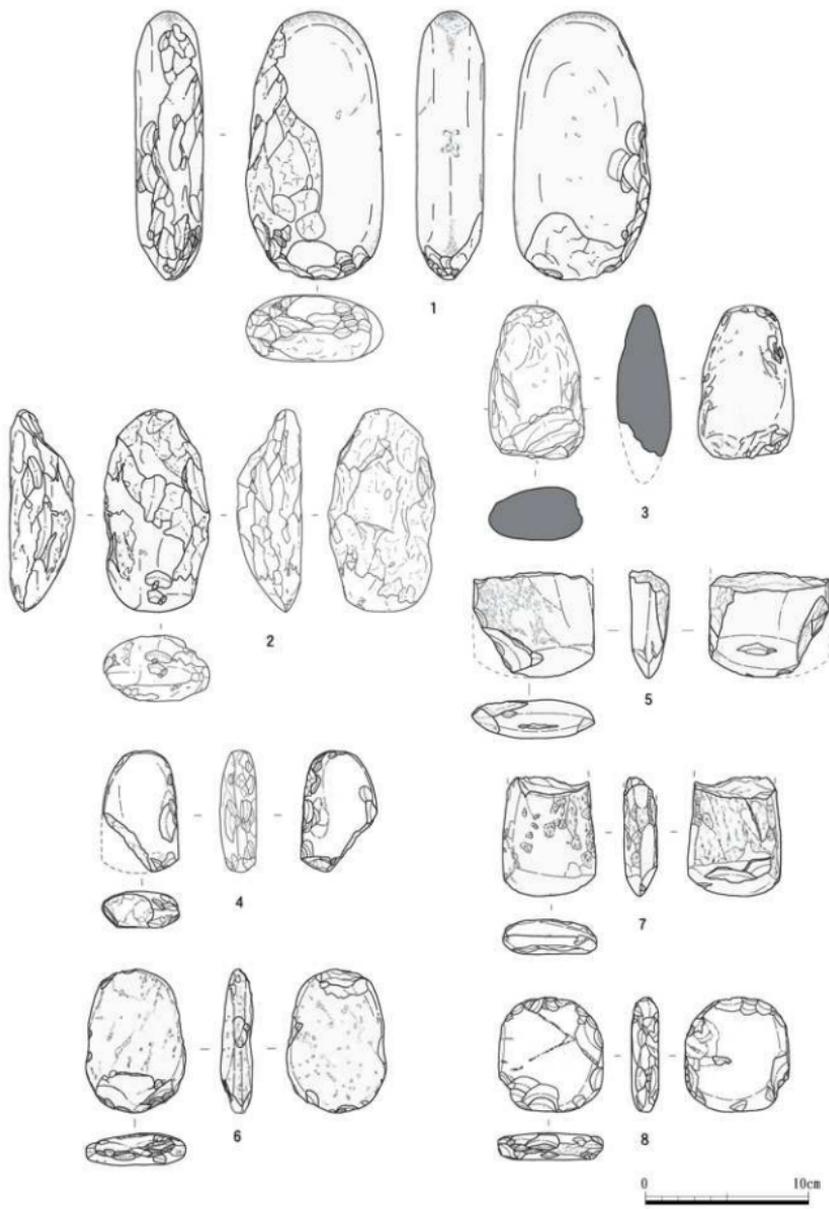
第97表 器種別岩石組成

岩石名	器種	石斧			蔵石兼磨石	磨石			円盤状石器	砥石	石皿	加工痕有り石器	合計
		未製品	完形	転用品		破損	完形	破損					
角閃岩							1	1					4
角閃石安山岩							1						1
輝緑岩			1				2	1					5
斑レイ岩				1									1
ひん岩							1						1
アブライト							1						1
砂岩		2		2		1	2	6	2	1	6		22
片状砂岩								1					1
細粒砂岩										1	1		2
緑色岩				1									1
緑色片岩				1									1
黒色片岩										1			1
砂質片岩				1									1
石英片岩								1					1
結晶質石灰岩							1						1
チャート												1	1
合計			12		1		21		1	8	1	1	45

当遺跡を石器全体でみると石器の数は調査範囲の面積から比較して少ない。石器全体では磨石が多く出土量の46%を占める。全体的に層序での遺物の推移が不確実である。遺物包含層が調査区内の東側と西側で堆積状況が異なり、面で捉えると包含層が薄い状況で層序の把握が困難である。点上げ資料はレベルから壁面に移行し確認した。石斧の分類から時期的な判断は両刃石斧より片刃タイプが僅かに多く、後期土器の出土状況も加味すると、ほとんど貝塚時代後期の遺物と思われる。グリッド別の石器の出土は、M7、M8を中心にK～Mのラインに集中し、各グリッドから少数ずつ出土した。

### <参考文献>

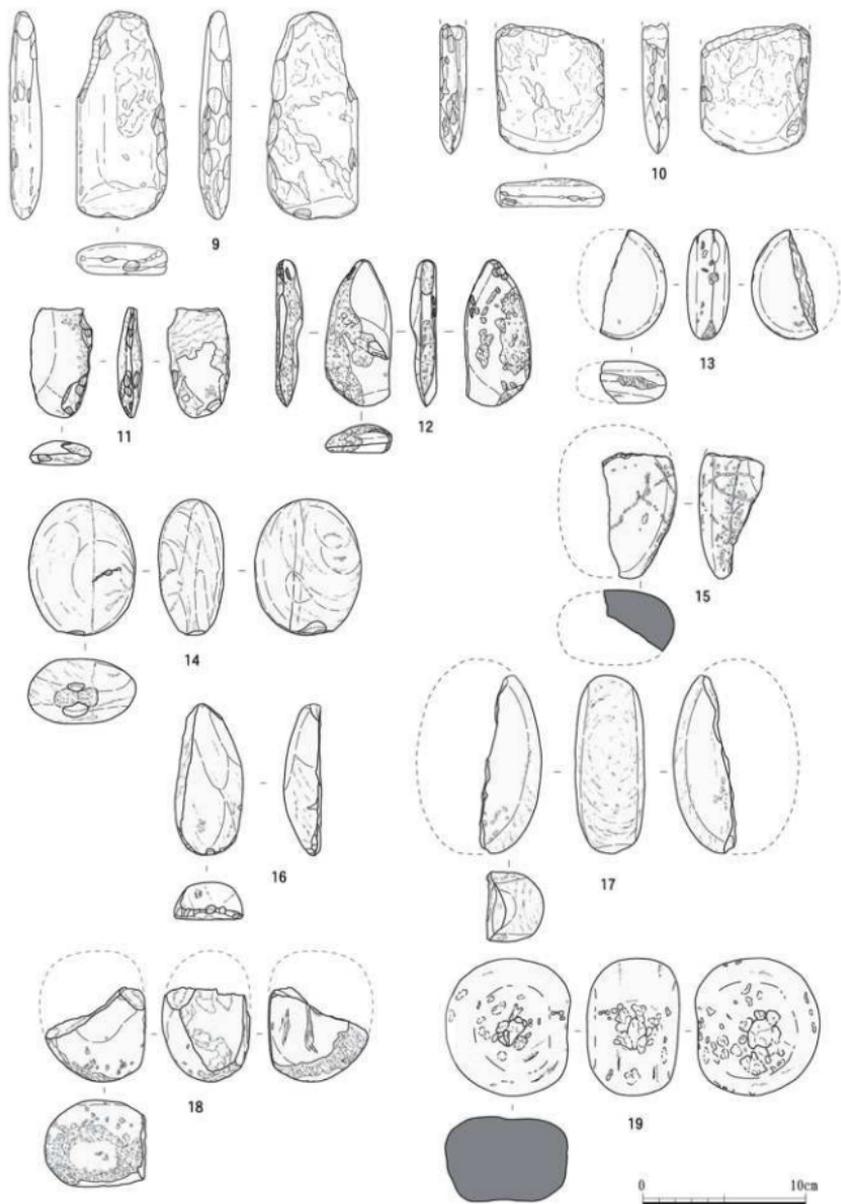
- 北谷町教育委員会 2007『伊礼原遺跡』北谷町文化財調査報告書 第26集
- 北谷町教育委員会 2008『伊礼原D遺跡』北谷町文化財調査報告書 第28集
- 北谷町教育委員会 2013『伊礼原D遺跡』北谷町文化財調査報告書 第35集
- 北谷町教育委員会 2005『キャンプ桑江北側返還に伴う試掘調査』北谷町文化財報告書 第23集



第166図 石器 1



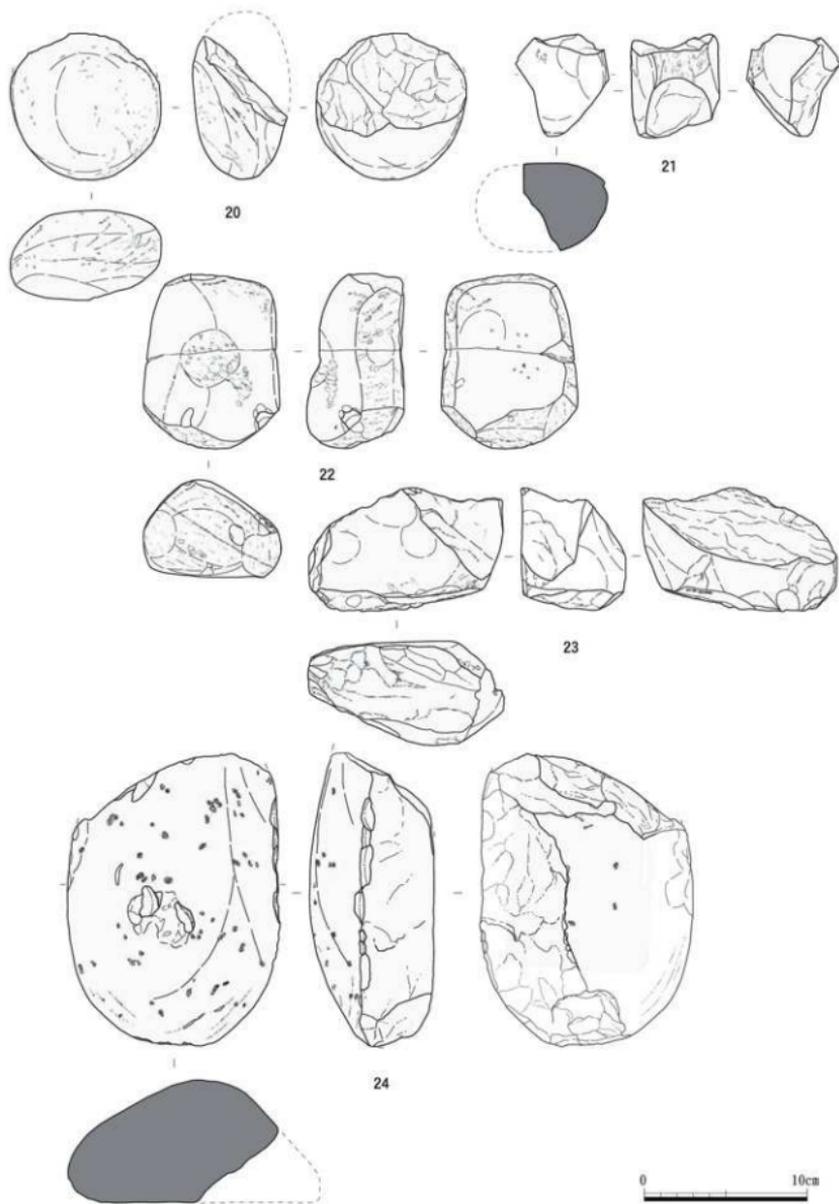
图版133 石器 1



第167図 石器2



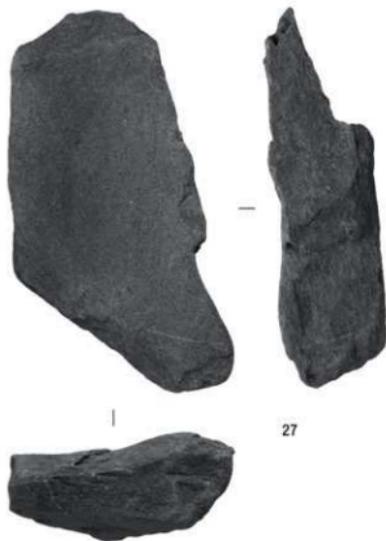
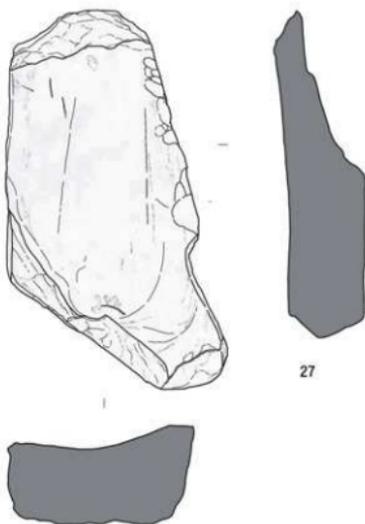
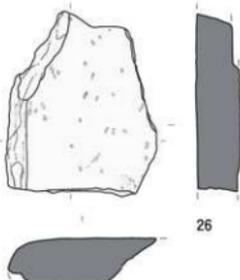
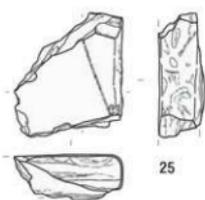
図版134 石器2



第168図 石器3



图版135 石器3



0 10cm

第98表 石器観察一覧

(法量単位: cm, g)

発掘調査区画	番号	器種	残存形態	完成	石質	石片	石片	残存	最大長	最大幅	重量	観察事項	石質	小(ナリ) 取上番号	発掘調査区画
第106号・ 区画133	1	石斧	尖製品	-	-	-	-	大型一	16.6	8.4	925	転石利用の石片製作過程の資料と考えられる。刃部と思われる部分に左側面にかけ打ちを呈行している。基部、刃部は形成段階で刃部の研ぎ出しはなし。	砂岩	18 IV層 取190 台1963	
	2	石斧	厚手	完形	-	片刃	中型一	小	12.5	6.5	431	完形に近い厚手石斧。基部側面に屈曲する。研磨は良好、裏面は基部・刃部に僅かに、刃の研ぎ出しが殆どと多少異なる。	緑色岩	18 IV層 取190 台1963	
	3	石斧	不定形	破損	基部	-	-	小型一	9.5	5.9	392	小型磨製石斧で基部が厚く基部まで形成。研磨は基部の突出部分も明瞭。刃部は表面で大きく打ち割れ、裏面は研磨が一層である。	角閃岩	18 IV層 取139 台1955	
	4	石斧	不定形	破損	基部	-	-	小型一	7.5	4.5	111	刃部欠損。基部の上下が不明瞭。研磨は、かなり良好で刃部形態のみ不明	緑色岩	18 IV層 取55 台1906	
	5	石斧	方形状	破損	刃部	片刃	小型一	中	6.5	2.3	163	石斧の刃部で基部は破損し全体の形状は不明。刃部形態は片側からの研磨が強く断面は殆ど半片刃の様に扁平と推測	角閃岩	18 IV層 取54 台1916	
	6	石斧	尖製品	-	-	-	-	小型一	8.9	6.1	162	扁平楕円形の小判形を呈し、裏面に薄く研磨がみられる。両側面に浅く換りのような小さい窪みが確認できる。刃部の研ぎ出しがなく、石斧尖製品と考えられる。	砂岩	18 IV層 取55 台1931	
	7	石斧	扁平形	破損	刃部	片刃	小型一	中	7.5	1.9	148	基部・基部破損。研磨は裏表面、両側面にみられ、裏面刃部破損した後、再度研磨	砂質片岩	18 IV層 取51 台1911	
	8	石斧	扁平楕円形 (転用品)	完形	-	-	-	小型一	7.1	1.6	136	当初、転石と思われるが両側面の研磨、下部の磨痕から石斧二次製品と推定。円盤状に再加工したものと考えられる。刃部の研ぎ出しのような磨痕が一部僅かにみられる。	砂岩	18 IV層 取91 台1907	
	9	石斧	扁平形	欠損	刃部	片刃	中型一	小	12.8	5.6	233	扁平・片刃石斧で研磨は刃部と基部の一部、基部上端欠損。刃先は磨かれている	斑レイ岩	17 IV層 取103 台1962	
	10	石斧	扁平形	半欠	刃部	両刃	中型一	小	8.0	7.7	167	扁平磨製石斧。両刃。研磨は刃部と基部の突出した一部分、両側面にも研磨あり。刃部は二こぼれあり、刃は磨かれている	緑色片岩	18 IV層 取142 台1981	
第107号・ 区画134	11	石斧	扁平長楕円形 (転用品)	破損	刃部	刃磨れ	小型一	小	6.3	3.9	44	磨石破片の裏面に研磨を加えて二次加工を施した資料である。側面に残痕がみられるが、刃の研ぎ出しなし。	砂岩	19 IV層 取19 台1925	
	12	石斧	扁平形	完形	-	片刃	小型一	小	9.0	4.1	85	刃部は整わず、いびつな菱形を呈し、裏面的片刃。研磨は刃部全体、基部まで長さが窪みのある部分には至らない。	緑色岩	18 IV層 取73 台1903	
	13	磨石	小楕円形	破損	-	-	-	小型一	6.6	4.0	100	扁平でサイズは磨石程度の大きさ。半欠しており研磨は明瞭で裏表面に磨着。周縁下部に凹み状研痕がみられる。	緑色岩	17 IV層 取12 台1959	
	14	磨石	楕円形	完形	-	-	-	小型一	8.3	6.5	364	全面にある程度の研磨痕あり。一部に打割れ部分の確認できる。	砂岩	19 IV層 取1932	
	15	磨石	楕円形	破損	-	-	-	小型一	7.7	4.8	118	磨石の破損品で四分の一の残存資料からは中型の磨石と考えられる。裏面に研磨痕が確認できる。	砂岩	18 IV層 取186	
	16	磨石	マウス形	破損	-	-	-	小型一	9.3	4.2	114	磨石の破損品。右基部の箇所から剥離している。研磨痕は表面のみ。一部明瞭な部分あり。	石英片岩	18 IV層 取137 台1957	
	17	磨石	長楕円形	破損	-	-	-	中型一	11.0	3.4	232	石輪状磨石の破損品で残存部は三分の一。右基部の磨理面から見て破損している。形態は磨石の形状を形成。研磨は裏面に薄く確認でき風化により滑りがない。	片状砂岩	17 IV層 取134 台1951	
	18	磨石	球形	破損	-	-	-	小型一	6.2	5.6	238	サイズは小型の大きさで。破損し全体の形状は不明。研磨は裏表面にみられ側面に最打痕が確認できる。	砂岩	18 IV層 取1940	
	19	磨石	厚手円形	完形	-	-	-	中型一	8.5	7.7	584	明確な最打痕は裏表面と両側面にあり、上下にも浅い切込みがみられる。磨りの痕跡は裏表面のみのみみられる。手に握れる程度の大きさだが、重感はある。	角閃岩	18 IV層 取102 台1946	
	第108号・ 区画135	20	磨石	厚手円形	破損	-	-	-	中型一	9.1	5.5	534	磨石の破損品で二分の一の残存資料で中型の磨石と考えられる。裏表面に研磨痕が確認できる。研磨状態は、かなり良好。	角閃岩 実山岩	18 IV層 取138 台1914
21		磨石	厚手不定形	破損	-	-	-	中型一	6.2	5.0	188	残存する部から右輪状磨石と思われる。研磨は裏表面にみられ、四分の一程度の残存資料と考えられる。	角閃岩	18 IV層 取138 台1953	
22		磨石	変形石輪状	完形	-	-	-	中型一	10.2	10.4	770	表面中央部が高く破損部が三角状を呈す。研磨痕は裏表面にみられ、磨痕でできた面が二箇所みられる。	砂岩	16 IV層 取1936	
23		磨石	不定形	破損	-	-	-	中型一	6.1	6.1	673	事大より若干大きい磨石だが平欠品。研磨痕は非常に明瞭。→次層でできた面がみられる。	緑色岩	18 IV層 取63 台1912	
24		磨石	楕円形	半欠	-	-	-	小型一	18.3	13.1	2,600	大型磨石。平面は楕円形を呈すが凹凸が深い。裏表面に研磨面がみられ研磨状態は磨着。表面中央には研磨の痕がみられる。四分の三は残存する。	角閃岩	18 IV層 取143 台1966	
25		砥石	板状不定形	破損	-	-	-	中型一	7.8	7.4	182	厚さ2cmの板状の砥石で、上下・側面三方向が破損している。片面のみ研磨と使用痕あり。研磨痕は顕著に磨える。	砂岩	17 IV層 取118 台1950	
26		砥石	板状	破損	-	-	-	中型一	11.6	9.4	429	形状は板状を呈し、厚みは2cm程度。使用面は表面の一面のみで平坦。研磨痕は磨着である。	砂岩	18 IV層 取109 台1948	
27		砥石	縦長不定形	破損	-	-	-	大型一	24.3	12.1	1,990	厚手の板状の砥石で表面のみ使用痕らしき磨痕あり。研磨は明瞭でない。	砂岩	18 IV層 取1976	

### (3) 貝製品

伊礼原A遺跡出土の貝製品は装飾品2点、実用品24点の計26点である。出土地別にはM7・M8に多く、層別にそのほとんどが第IV層の出土である。

主なものを第171図(図版137)に示し、以下、装飾品・実用品の順に略述し、それ以外はそれぞれ観察表に示した。

第99表 貝製品出土量

(法量単位: cm, g)

層	分類	装飾品		実用品							合計	
		イモガイ 円盤状	貝匙 柄	螺蓋製 貝斧	二枚貝有孔製品							
					オウガイ	シラサギ	R・オウガイ	R・オウガイ	ヒメノコ	R・オウガイ		シラサギ
IV層		2	1	6	1	1	2	1	4	1	6	25
V層				1								1
合計		2	1	7	1	1	2	1	4	1	6	26

#### A. 装飾品

装飾品はイモガイ円盤状製品のみである。

##### ・イモガイ円盤状製品

大型イモガイの肩部を切り取り、切断面を研磨して円盤状に加工したものである。2点出土したが、そのうちの1点を図化した。

図1はアンボンクロザメで体層部の切断面は、殻頂に対して水平で、研磨面も明瞭である。殻頂側は突出した部分を径0.8cm前後の研磨面が認められる。

もう一つ、製品336は径4.3×3.5cm、厚さ0.7cmを測るもので、風化が著しく、研磨面は明瞭でないが、殻頂部分がフラットに整形されているようである。N10第IV層の出土である。

第100表 イモガイ円盤状製品

(法量単位: cm, g)

第IV層 図版171 37図	図 番号	製品 番号	貝種	完破	殻径 縦	殻径 横	重さ	孔縦	孔横	加工	貝状態	小「リット」層 台帳番号
図版171 37図	1	339	アボンクオガイ	完	4.9	4.5	21	-	-	体層側研磨 殻頂研磨	アバキ ○ 風化 ○	K8 IV層 台2041
なし 図版	-	336	アボンクオガイ	破	(4.3)	(3.5)	12	0.8	0.9	殻頂はフラット製品の 可能性もあり。	風化 ◎	N10 IV層 台1538

凡例: ◎=多・強、○=普通、△=少・弱、∠=僅少、×=なし

#### B. 実用品

実用品としたのはヤコウガイ製貝匙1点、螺蓋製貝斧7点、二枚貝有孔製品16点の計24点である。

・ヤコウガイ製貝匙 図2は破損品で、ヤコウガイの殻口部分を用いた貝匙の柄の部分である。加工の状況を見ると周縁は丸味を帯び、加工が顕著で外面は表層を一部研磨する。残存の状況から大形のヤコウガイを用いた大ぶりの匙が想定される。

##### ・螺蓋製貝斧

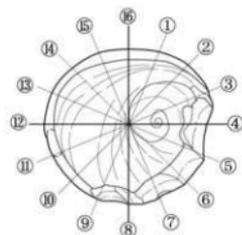
ヤコウガイの蓋の薄い部分を打割して、刃状にしたもので、7点出土した。模式図に附刃の範囲を示し、観察一覽にその範囲を示した。その結果、下記のように分類される。(伊礼原E遺跡の分類を踏襲して再分類した。)

A: 連続して打割するもの

B: 連続して打割するが、二方向に分かれるもの

C: 剥離が2カ所に分かれるもの

Aが1点、Bが2点、Cが4点出土した。



『シムズ宮遺跡』(1985)

第170図 ヤコウガイの蓋附刃分布

しかし、これらの製品は風化が著しく、製品としては疑問が残る部分も多い。ヤコウガイの出土状況をみるとL7とM8に多く、第V層の縁側に多く出土するようである。

第101表 螺蓋製貝弁観察一覧

(法量単位: cm, g)

国版 図版	図 番号	製品 番号	分類	残存	縦	横	重量	刃範囲	貝殻状態・他	小フナツ・層 台帳番号
国版171 137図	3	436	B	完	7.5	8.2	163	⑤-⑩	4回打割 黒いツギがある	M7 IV層 台1556
	4	445	C	完	5.6	6.0	81	③-⑤ ⑫-⑬	風化△	M8 IV層 台2041
図・ 図版なし	—	437	A	完	8.0	8.8	207	②-⑤	風化△	M6 IV層 台1534
	—	434	C	完	7.7	8.4	158	②-④ ⑨-⑩	風化○	L9 IV層 台1506
	—	435	B	完	7.4	8.6	150	②-⑫	風化◎	M8 IV層 台1551
	—	438	C	完	8.8	8.2	125	③-⑥ ⑫-⑭	風化◎	M8 IV層 台1551
	—	443	C	完	8.0	—	182	②-⑥ ⑫	風化○	L7 V層 台1488

凡例: ◎=多・強、○=普通、△=少・弱、∟=僅少、×=なし

・二枚貝有孔製品

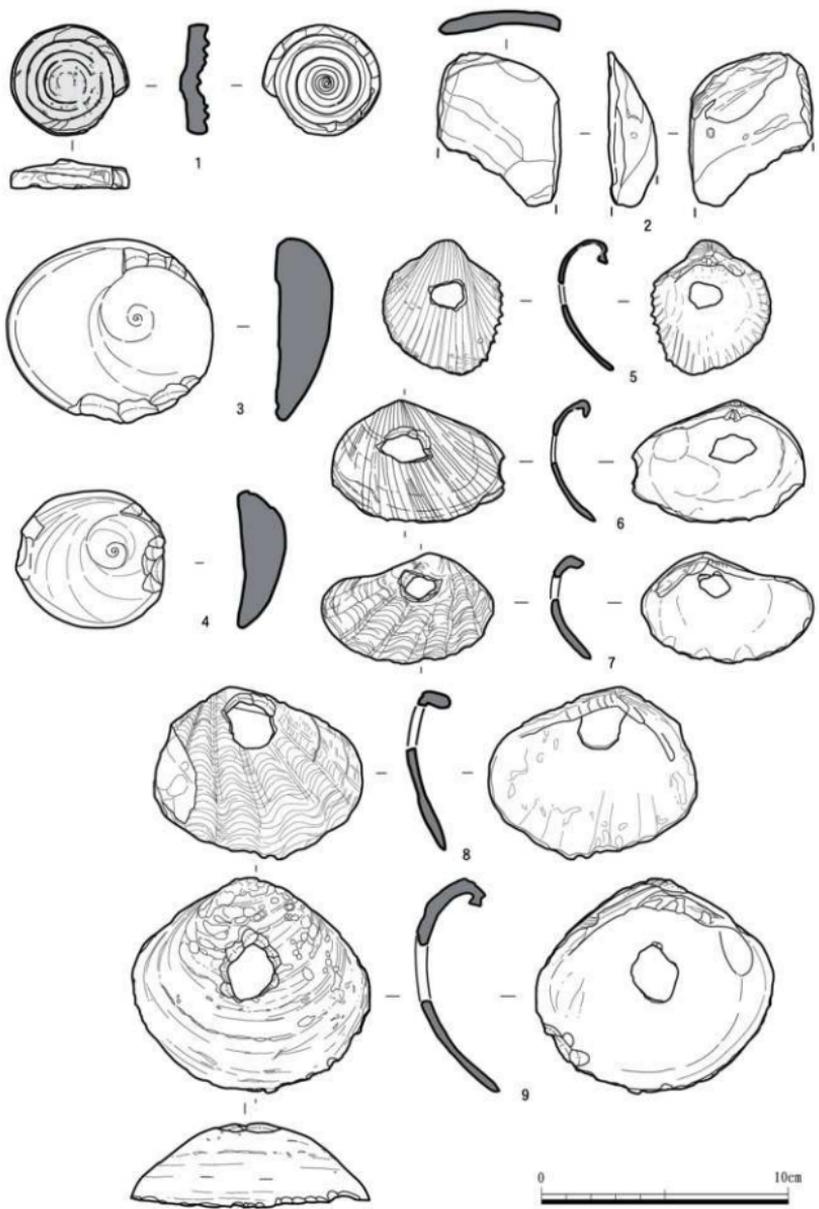
二枚貝の殻頂近くに1.0～2.0cmの粗孔を施すもので、本遺跡からは、シラナミ6点、ヒメジャコ4点、リュウキュウサルボオ2点とカワラガイ、シレナシジミ、リュウキュウザルガイ、リュウキュウマスオガイが各1点の計16点の出土である。出土地別にはM7に多く、層別にはすべて第IV層の出土である。

第102表 二枚貝有孔製品観察一覧

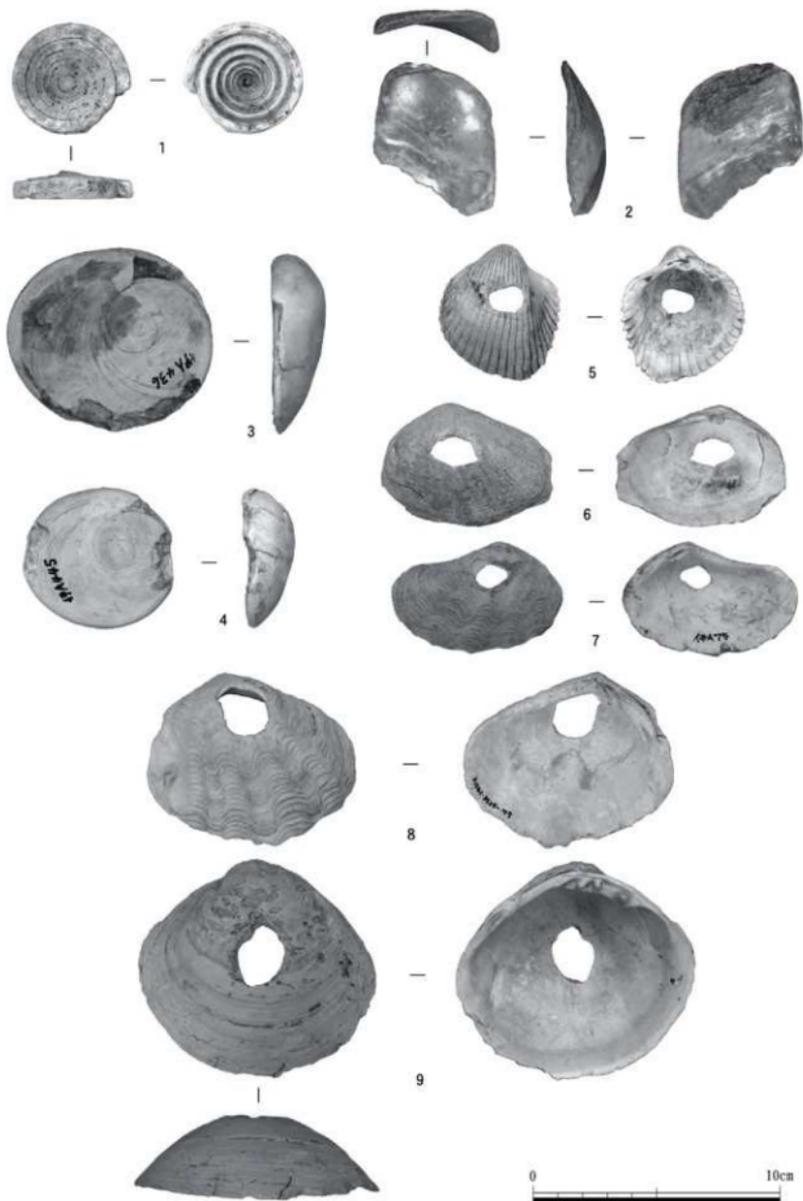
(法量単位: cm, g)

国版 図版	図 番号	製品 番号	貝種	R-L	残存	殻高	殻長	重さ	孔縦	孔横	孔位置	孔の状況	穿孔方向	孔形	数縁	貝殻状態・他	小フナツ・層 取上番号 台帳番号
第171図・ 図版137	5	614	ウツガイ	L	完	5.2	4.8	13	1.0	1.2	中中	複孔	内→外	方形	×	風化△	J7 IV層 台1859
	6	612	R・ウツガイ	R	完	5.1	6.9	12	1.2	1.9	中中	複孔	内→外	不定	前・後△	色脱△	M10 IV層 台1857
	7	75	ウツガイ	L	完	4.7	6.8	16	0.7	0.9	上中	複孔	—	円形	中後 摩耗	—	M7 IV層 台1558
	8	131	ウツガイ	R	完	7.0	8.4	35	2.1	1.7	上前	複孔	内→外	円形	前・中 摩耗	風化○	M7 IV層 台1561
	9	615	ウツガイ	L	完	8.8	9.6	70	2.3	1.7	中中	複孔	内→外	楕円	剥離	殻頂7ヶ所○	L7 IV層 台1854
	—	160	R・ウツガイ	L	完	—	6.6	26	—	—	上中	複孔	—	—	—	風化○	L8 IV層 台1499
	—	196	R・ウツガイ	R	完	5.0	7.1	30	0.7	0.8	上中	複孔	—	円形	×	7ヶ所△	M8 IV層 取64 台2040
	—	55	ウツガイ	L	完	8.1	11.0	74	2.2	3.3	中中	複孔 ハダレ	—	楕円	×	殻頂7ヶ所 風化○	M7 IV層 台1506
	—	607	ウツガイ	L	完	10.4	6.3	54	1.4	1.8	上前	複孔	—	楕円	前・中・後 摩耗△	風化○	M8 IV層 台1856
図版なし	—	608	ウツガイ	R	完	9.3	7.3	53	2.7	2.4	上中	複孔	内→外	方形	前・後△	アバタ○ 風化○	M8 IV層 台1856
	—	611	ウツガイ	R	完	7.0	5.0	14	1.1	1.6	上前	複孔	内→外	方形	×	風化×	M9 IV層 台1862
	—	53	ウツガイ	L	完	5.1	8.0	21	1.1	0.9	中中	単孔	—	円形	中・後 摩耗	風化○	L9 IV層 台1506
	—	132	ウツガイ	L	完	6.1	7.9	27	1.1	1.4	上前	複孔	内→外	不定形	—	—	M7 IV層 台1561
	—	601	ウツガイ	L	完	9.0	6.0	41	1.3	1.7	上中	複孔 丸・角・2カ所	内→外	丸(3回)	前	風化○	M7 IV層 台1860
	—	605	ウツガイ	L	完	7.9	5.1	20	1.1	1.3	上前	複孔	内→外	楕円	前・中・後 摩耗△	風化△	M9 IV層 台1861
	—	244	R・ウツガイ	R	完	3.5	3.2	3	1.2	1.0	上後	複孔	—	不定形	—	風化○	L8 IV層 台1501

凡例: ◎=多・強、○=普通、△=少・弱、∟=僅少、×=なし



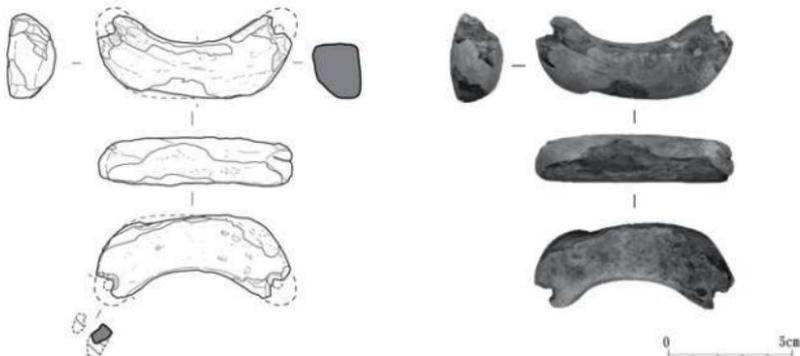
第171図 貝製品



图版137 貝製品

#### (4) 骨製品

ジュゴンの肋骨を「U」字状に加工した製品が1点出土した。「U」字状の両端に垂直に穿孔するものである。孔は回転による穿孔で両端とも欠損する。孔の外径は0.8cm、内径0.4cmで、両面から穿孔する。厚さ1.8cmを測り、断面は方形に近いが、片側は直角で、その対角は丸味を帯びる。丸味を帯びる部分は、肋骨の自然面と思われる。調査終盤の下層トレンチ確認の際に得られ、土器も面縄前庭式が出土する。類例は伊礼原遺跡(2007, 第92図5)、伊礼原E遺跡(2010, 第132図17)で出土している。貝塚時代前Ⅲ～Ⅳ期に属するものと思われる。



#### (5) 植物遺体

第V層から検出されたもので、そのほとんどは自然分析を行い、第5節に報告するが、ピックアップ法で他の遺物と出土したものを掲載した。近接する伊礼原遺跡(2007)を参考に種を検討した。

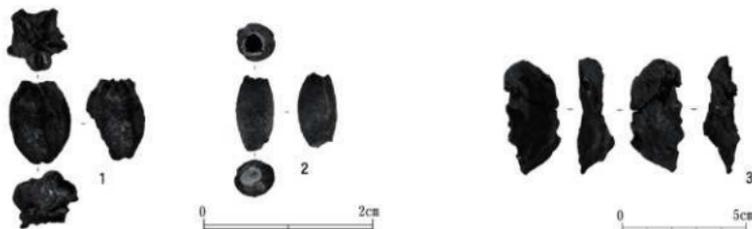
1は平面が楕円形、側面に5つの稜をなすもので、上下端には穴が確認される。大きさは長さ1.0×幅0.7cmで、形状からセンダンの核に酷似する。

2は平面が長楕円、上端は偏円形で裂ける。側面に縦位に浅い溝があり、長さ1.1cm×幅0.6cmを測る。シマウリの核に酷似する。向に1周する浅い溝あり。

3は破損し全形は窺えないが弧状に湾曲するもので、前2者より大きく、質感も堅いと思われることから木材の可能性もある詳細不明。残存の大きさは長さ4.5cm×幅2cm。

#### <参考文献>

辻誠一郎・他 2007「伊礼原遺跡の植物遺体群」中村恵編『伊礼原遺跡』北谷町文化財調査報告書 第26集 北谷長教育委員会



第172図・図版138 骨製品・植物遺体

## 第IV章 理化学的分析

### 第1節 伊礼原遺跡（国指定外）2007・2008・2012年度調査で採集された脊椎動物遺体

（付. 伊礼原A遺跡2008年度調査で採集された脊椎動物遺体）

樋泉岳二（早稲田大学）

沖縄県北谷町の海岸平野に立地する伊礼原遺跡では、2007～2008年度および2012年度に実施された伊礼原遺跡国指定外の発掘調査において、沖縄貝塚時代後期から近代にいたる各時代の層準から多数の脊椎動物遺体（骨類）が出土した。ここではその同定結果を記載し、その特徴について述べる。なお、2008年度に実施された伊礼原A遺跡（ロ地区）の発掘調査においても若干の骨類が得られているので、これらについてもあわせて報告する。

#### 1. 資料と分析方法

調査区はH19年度調査地区、H20年度調査地区（イ地区）、H24年度調査地区（ハ・ニ地区）に分かれる（以下、それぞれH19地区、イ地区、ハ地区、ニ地区と記述する）。骨類を出土した層準・年代は、下位からVI層、V層（貝塚時代後期前半：阿波連浦下層式・浜屋原式期）、IV層（貝塚時代後期前半：阿波連浦下層式～大当原式期）、III層（グスク時代～近世）、II層（近代）、I層（表土）である。IV層については出土土器の平面的分布傾向から、陸側では阿波連浦下層式～浜屋原式期、海側では大当原式期の資料が主体となると推定されているが、今回はこれらを区別せず一括して扱った。

分析資料はすべて発掘現場において手で拾い上げられたもの（ピックアップ資料）である。分析方法は、基本的に樋泉（2007）の方法を踏襲した。なお哺乳類の四肢骨については、骨幹の全周を残さない破片は原則として同定対象から除外した。遺体の予備的な同定は北谷町教育委員会の島袋春美氏によって行われ、筆者（樋泉）が同定結果の確認と集計・図表作成を行った。

#### 2. 分析結果

##### （1）脊椎動物遺体の出土数

同定結果を第104表～第113表に、また同定標本数（NISP）と最小個体数（MNI）による組成を第114表に示した。同定対象となった資料数（NISP）はIV層が1107点（このうちH19地区が477点）と最も多く、III層971点（このうちハ地区が447点）、V層223点（このうちH19地区が220点）がこれに次ぐ。他の層準の資料数は少なく、II層86点、I層15点、VI層5点であった。

##### （2）脊椎動物遺体の組成

出土資料数が多いIII層～V層について組成の特徴を述べる。

**概要：**まず脊椎動物遺体全体の組成をみると（第173図・第174図）、全般的に魚類とイノシシ類（イノシシまたはブタ）が主体で、MNI比では魚類が最も多い。層位的にみてもMNI比で魚類が45～60%前後、イノシシ類が30～40%前後で大きな変化はないが、IV層では不明瞭ながら魚類が微増し、イノシシ類がやや減少傾向を示す。ウミガメ類、イヌ、ジュゴンも普通で、III層以上ではウシ・ウマも増加する。その他にリクガメ類、ニワトリ、ネズミ、ネコ、ヤギ、イルカ・クジラ類が確認されているが、いずれも少数である。

**魚類**（第175図・第176図）：全般的にフエフキダイ科が最も多く、ブダイ科、ハリセンボン科、ク

ロダイ属がこれに次ぐ。Ⅲ層・Ⅳ層ではペラ科、ハタ科、大型アジ類も普通である。層位的にみても大きな変化はみられないが、上層ではフエフキダイ科が減少、ペラ科、クロダイ属などが増加し、組成がやや多様化する。フエフキダイ科の大半はフエフキダイ属で、前上顎骨ではハマフエフキ型が圧倒的に多い。ブダイ科の咽頭骨・前上顎骨・歯骨はアオブダイ属が主体だが、イロブダイ属も若干混じる。ペラ科の咽頭骨は大半がシロクラペラ型だが、その他のタイプも若干みられる。大型アジ類の2点の前上顎骨はいずれもイトヒキアジに近似する。「真骨類未同定A」とした前上顎骨・歯骨は比較的大型の魚類で、歯をもたない点の特徴である。

**爬虫類・鳥類:**爬虫類ではウミガメ類が多く、特にⅣ層ハ地区R10～R12グリッド（以下「グリッド」を略す）では頭骨・四肢骨を含む多数の資料がまとまっている。また老成個体の背甲の大型破片がⅣ層イ地区S12とⅤ層H19地区S13で各1点出土している（資料番号968、1228）。リクガメ類も少数ながら各層準で確認されている。鳥類はⅢ層でニワトリが3点同定されたのみである。

**陸生哺乳類:**イノシシ類がNISPで1238点と圧倒的に多く、イヌ152点、ウシ115点、ウマ46点がこれに次ぐ（第114表、第173・174図）。他に、ネズミ科、ネコ、ヤギが少数確認されている。

イノシシ類の年齢構成を顎歯でみると、Ⅴ層・Ⅳ層は乳歯が少なく、M3が多くみられることから成獣主体と考えられる。Ⅲ層では乳臼歯（dm3・dm4）が増加、P4・M2が減少しており、M1萌出段階前後の若獣の増加が示唆されるが、M3も普通で成獣も少なくない。性比（雄：雌）を下顎大歯数でみると、Ⅴ層4：3、Ⅳ層17：9、Ⅲ層9：2で、上層で雄の増加傾向がみられる。家畜化（ブタ化）に関する形質学的な検討は未了だが、下顎骨の中には家畜化の兆候を示すと思われる標本も若干確認されている。またⅢ層イ地区D18出土の肩甲骨（資料番号2311）は肥大しておりブタと考えられる。部位組成（顎骨：四肢骨）をMNI比でみると、Ⅴ層10：8、Ⅳ層16：46、Ⅲ層8：20で、Ⅴ層では顎骨がやや多いが、Ⅳ層・Ⅲ層では四肢骨が卓越する。

イヌについては、Ⅲ層ハ地区Q12から同一個体と思われる骨63点がまとまって採集されている（台帳番号495・519）。おおむね全身骨が揃っており埋葬の可能性もあるが、頭骨の大半や主要四肢骨の一部などを欠くことから、解体・廃棄された可能性もある。またⅢ層ハ地区R12（SX01）からも椎骨・前後肢骨の一部など12点がまとまって採集されており（台帳番号1065）、同一個体のものとすれば解体・廃棄された可能性が高い。またⅢ層ハ地区O13（SP17）の大腿骨と同P15の下顎骨にカットマークが確認されている。

**海生哺乳類:**ジュゴンが51点（Ⅳ層30点、Ⅲ層15点、Ⅱ層6点）と比較的多く出土した。Ⅳ層・Ⅲ層ともに頭骨、椎骨、肋骨がみられるが四肢骨を欠く。Ⅳ層では部位によって分布傾向が異なり、O12～P11・12には頭骨（前頭骨・切歯骨・下顎骨）、O8～P8・9には頸椎がまとまって分布している（これらが同一個体のものかは未確認である）。また、Q～T・10～12には肋骨が広く分散している。なおⅢ層でもP11・Q11で頭骨破片、N9・O8で椎骨、Q12・R11・S10で肋骨が採集されているが、これらは上記のⅣ層の部位別分布と重なることから、Ⅳ層の資料が巻き上げられたものである可能性が高い。ジュゴン以外ではイルカ・クジラ類が少数出土している。

### 3. 考察—周辺遺跡との比較

**貝塚時代後期前半:** 今回の調査地点の南東約500mに位置する小堀原遺跡（1999～2001年度試掘調査および2008～2009年度本調査）でも貝塚時代後期の骨類が多数出土している（樋泉2009・2012）。これらの骨には後期後半（くびれ平底土器期）の資料も混じっていると推定されるが、2008～2009年度調査では後期前半（大当原式期）のⅥ層b区の出土骨が大半を占めていたことから、本遺

跡IV層と同時代の資料がおおむね主体をなすと考えてよいと思われる。

本遺跡（V層・IV層）と小堀原遺跡の出土骨を比較すると、いずれも魚類とイノシシ類を主体としてウミガメ・イヌなどが混じる基本的パターンは共通しているが、小堀原ではMNI比でイノシシ類が5割、魚類3割程度とイノシシ類が優勢であるのに対して、本遺跡では魚類が優勢であり、とくにIV層では約6割とイノシシ類の倍近くを占める。またイノシシ類の部位組成（顎骨：四肢骨のMNI比）をみても、小堀原では1999～2001年度資料が26：10、2008～2009年度資料が10：3と、いずれも顎骨が圧倒的に多く、一部の地区では顎骨が集中する状況も確認されている。これに対して本遺跡V層では10：8と僅差であり、IV層では逆転して16：46と四肢骨が圧倒的に卓越する。このように、近接する同時代遺跡の間でもパターンは明確に異なっており、小堀原が特殊性の強い様相を呈しているのに対して、本遺跡は貝塚時代の一般的な様相（樋泉2014）に比較的近いあり方を示している。また、ジュゴンが多産した点も本遺跡の特色である。

**グスク時代～近世**：今回調査地区の北西に隣接する伊礼原D遺跡4トレンチ5～10グリッド（グスク時代～近世以降。樋泉2008）および南東側に位置する伊礼原E遺跡II層（近世～近代。樋泉2010）では、イノシシ類を主体とし、これとウシ・ウマが大半を占め、魚骨はごく少ない。とくに伊礼原E遺跡ではイノシシ類の比率が高く、雌が優勢で、出土部位が顎骨に偏在している。これに対して本遺跡（III層）では魚骨が多く、イノシシ類は雄が優勢で、四肢骨が卓越するなど、明らかに傾向が異なっている。

このように本遺跡周辺では、貝塚時代後期前半およびグスク時代～近世のいずれにおいても、遺体群のパターンに顕著な空間的差異が認められる。このことは、一連の生活空間内における活動内容の空間差を反映しているのではないかとと思われる。

#### 付記：伊礼原A遺跡2008年度調査で採集された脊椎動物遺体

伊礼原A遺跡2008年度調査出土資料については、同定結果を各表の末尾に示すにとどめ（「ロ地区」としたものが伊礼原A遺跡に相当する）、記載は省略する。

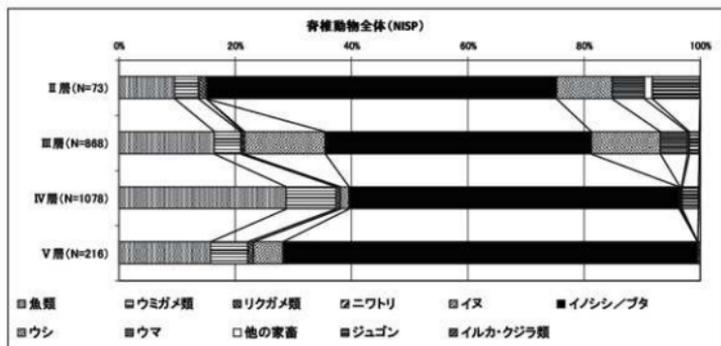
**謝辞**：分析作業に際しては、島袋春美氏・山城安生氏・東門研治氏・松原哲志氏ほか北谷町教育委員会の皆様より多大なるご教示・ご協力を賜った。記して厚く御礼申し上げます。

#### <参考文献>

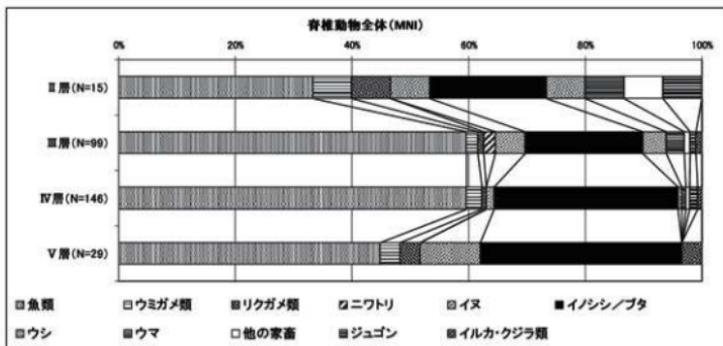
- 樋泉岳二（2007）『伊礼原遺跡から出土した脊椎動物遺体群』、『伊礼原遺跡－伊礼原B遺跡ほか発掘調査事業－』（北谷町教育委員会編、沖縄県北谷町教育委員会、pp.480-534。
- 樋泉岳二（2008）『伊礼原D遺跡第3・第4トレンチ出土の脊椎動物遺体群』、『伊礼原D遺跡－キャンプ桑江北側返還に伴う発掘調査事業（平成10～13年度）－』（北谷町教育委員会編、沖縄県北谷町教育委員会、pp. 184-196。
- 樋泉岳二（2009）『小堀原遺跡出土の脊椎動物遺体群』、『小堀原遺跡－キャンプ桑江北側返還に伴う発掘調査事業（平成11～13年度）－』（北谷町教育委員会編、沖縄県北谷町教育委員会、pp. 189-203。
- 樋泉岳二（2012）『「小堀原遺跡2008～2009年度調査で採集された脊椎動物遺体」』、『小堀原遺跡－桑江伊平土地区画整理事業に伴う発掘調査事業－』（山城安生・島袋春美編、沖縄県北谷町教育委員会、pp. 322-334。
- 樋泉岳二（2014）『脊椎動物遺体からみた琉球列島の環境変化と文化変化』、『琉球列島先史・原史時代の環境と文化の変遷』（高宮広土・新里貴之編、六一書房、pp. 71-86。

第103表 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から採集された脊椎動物遺体の種名一覧

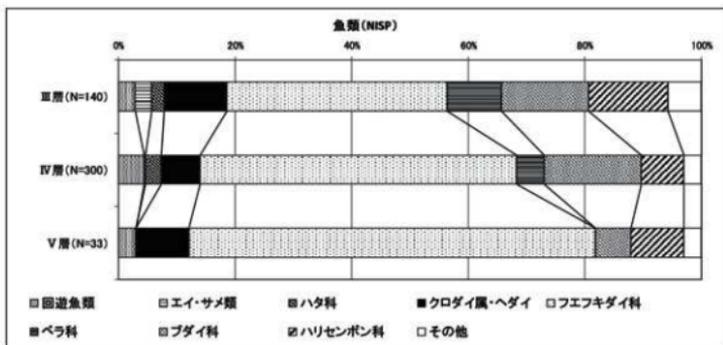
軟骨魚綱	CHONDRICHTHYES
メジロサメ科	Cercharhinidae
トビエイ科	Wolbatidae
硬骨魚綱	OSTEICHTHYES
ウツボ科	Burzenidae
アサギ科	Gongridae
ダツ科	Belontiidae
イトクダイ科	Belontiidae
ハタ科(マハタ型)	Serranidae cf. <i>Epinobelus</i>
ハタ科(スシアラ型)	Serranidae cf. <i>Plectropoma</i>
アジ科(イトヒキアジ型)	Carangidae cf. <i>Alectis ciliaris</i>
フエダイ科	Lutjanidae
クロダイ属	<i>Acanthopagrus</i> sp.
ヘダイ	<i>Sparus aurata</i>
ヨコシマタロダイ	<i>Motaxia grandis</i>
フエフキダイ属(ハマフエフキ型)	<i>Lethrinus</i> cf. <i>L. nebulosus</i>
フエフキダイ属(アマミフエフキ型)	<i>Lethrinus</i> cf. <i>L. ummatus</i>
ベラ科(シロカラベラ型)	<i>Labridae</i> cf. <i>Chorodon akomienis</i>
ベラ科(その他)	<i>Labridae</i> (others)
イロフダイ属	<i>Balivampops</i> sp.
アオフダイ属	<i>Scaev</i> sp.
オニオコゼ科?	Stenacridae ?
コサ科	Platycephalidae
モンガラカワハギ科	Balistidae
ワダ科	Tetraodontidae
ハリセンボン科	Blotidae
爬虫綱	REPTILIA
シクガメ類(リュウキュウヤマガメ)	<i>Geomyda spangleri japonica</i>
アオウミガメ	<i>Chelonia mydas</i>
鳥綱	AVES
ニワトリ	<i>Gallus gallus</i>
哺乳綱	MAMMALIA
ネズミ科	Muridae
ネコ	<i>Felis catus</i>
イヌ	<i>Canis familiaris</i>
ウマ	<i>Equus ferus</i>
イノシシ/ブタ	<i>Sus scrofa</i>
ヤギ	<i>Capra hircus</i>
ウシ	<i>Bos taurus</i>
ジュゴン	<i>Dugong dugon</i>
イルカ類	Cetacea (small)
クジラ類	Cetacea (large)



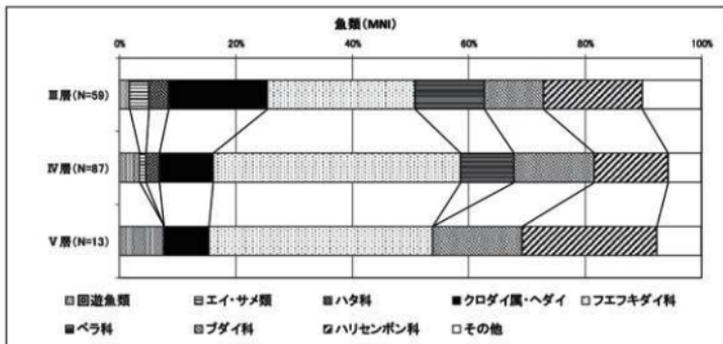
第173図 伊礼原遺跡(国指定外)から採集された脊椎動物遺体の組成(NISP比)



第174図 伊礼原遺跡(国指定外)から採集された脊椎動物遺体の組成 (MNI比)



第175図 伊礼原遺跡(国指定外)から採集された魚類遺体の組成 (NISP比)



第176図 伊礼原遺跡(国指定外)から採集された魚類遺体の組成 (MNI比)

第104表-1 伊礼原遺跡（国指定外）から出土した魚類遺体

資料数の少ないグリッドについては隣接するグリッドと合算した。

種類	部位	遺跡																
		I期				II期				III期								
		H19	H19	II地区	H19	III地区	III地区	III地区	III地区	III地区	III地区	III地区	III地区	III地区	III地区	III地区	III地区	III地区
メジロザメ科	椎骨																	
トビニギ科																		
エイ目	尾椎				1													
カツボ科	歯骨																	
アナゴ科	歯骨																	
ダツ科	頭上顎骨	/ 1																
ダツ科	歯骨																	
イットウダイ科	前鰓蓋骨																	
マハダ科	歯骨																	
スズアラシ	頭上顎骨																	
ハタ科	高骨																	
ハタ科	前鰓蓋骨				/ 1													
ハタ科	後鰓蓋骨																	
ハタ科	方骨																	
ハタ科	腹椎																	
アジ科 (大)	頭上顎骨																	
アジ科 (大)	主上顎骨							1 /										
アジ科 (大)	頭上顎骨																	
アジ科 (大)	歯骨																	
アジ科 (大)	尾椎																	
アジ科 (大)	椎鱗																	
フエダイ科	主上顎骨																	
フエダイ科	頭上顎骨				1 /					1 /								
クロダイ属	頭上顎骨																	
クロダイ属	主上顎骨																	
クロダイ属	頭上顎骨				/ 1													
クロダイ属	歯骨																	
クロダイ属	高骨																	
クロダイ属	口蓋骨																	
ヘダイ	頭上顎骨				1 /													
ヘダイ	歯骨																	
ヨコハマクロダイ	頭上顎骨				/ 1													
ヨコハマクロダイ	歯骨																	
ハマフエフキ型	頭上顎骨																	
アマモフエフキ型	頭上顎骨																	
フエフキダイ属	頭上顎骨																	
フエフキダイ属	口蓋骨				/ 1													
フエフキダイ科	主上顎骨				1 /													
フエフキダイ科	歯骨																	
フエフキダイ科	方骨	2 /			/ 1													
フエフキダイ科	第1椎骨																	
フエフキダイ科	腹椎																	
サイ類	椎骨				1													
シロタラハダ科	上鰓蓋骨				1 /													
シロタラハダ科	下鰓蓋骨																	
シロタラハダ科	椎骨																	
ベラ科 (その他)	下鰓蓋骨																	
ベラ科	主上顎骨																	
ベラ科	頭上顎骨																	
ベラ科	歯骨																	
ベラ科	高骨																	
イロブダイ属	上鰓蓋骨																	
イロブダイ属	下鰓蓋骨																	
イロブダイ属	歯骨																	
アオブダイ属	上鰓蓋骨																	
アオブダイ属	下鰓蓋骨																	
アオブダイ属	頭上顎骨				/ 1													
アオブダイ属	歯骨																	
ブダイ科	主上顎骨																	
ブダイ科	椎骨	1																
コサ科	歯骨																	
コサ科	歯骨																	
オニササセ科	腹椎																	
モンガラカワハギ科	頭上顎骨																	
モンガラカワハギ科	椎骨																	
モンガラカワハギ科	有鱗椎																	
フダ科	前上顎骨																	
ハリセンボン科	頭上顎骨																	
ハリセンボン科	歯骨	1																
ハリセンボン科	前上顎骨																	
真骨鰻科(同定)	頭上顎骨				2	1	1	2	1	1								
真骨鰻科(同定)	歯骨																	
真骨鰻科(同定)	第1椎骨																	
真骨鰻科(同定)	椎骨																	
真骨鰻科(同定)	頭上顎骨																	
真骨鰻科(同定)	高骨																	
真骨鰻科(同定)	椎骨																	
合計		5	5	2	8	8	7	5	4	5	3	5	9	4	10	11	5	2



第104表-3. 伊礼原遺跡（国指定外）から出土した魚類遺体.

資料数の少ないグリッドについては隣接するグリッドと合算した.

種類	部位	IV層																		
		I地区											II地区						III地区	
		A11-13 ・B12	S11	S12	T11	T12	T13	N13/14	012・ P11/12	Q11	Q12	R10	R11	R12	S12	T10	K12	L11/12		
メジロザメ科	椎骨																			
トビニギ科	骨																	1		
エイ目	尾棘																			
ウツボ科	歯骨																			
アナゴ科	歯骨																		1 / 1	
ダツ科	頭上顎骨																			
アサ科	歯骨																			
イットウダイ科	前部歯骨																			
ハナハダ	歯骨													1 / 1						
スジアラ類	頭上顎骨					1 /														
ハタ科	高骨														1 /					
ハタ科	前部歯骨														1					
ハタ科	後部歯骨																			
ハナハダ	方骨					1 /														
ハタ類	歯骨				1	1														
アジ科 (大)	頭上顎骨																			
アジ科 (大)	主上顎骨														1 /					
アジ科 (大)	頭上顎骨									1 /					1 /					
アジ科 (大)	歯骨					1 /														
アジ科 (大)	尾骨																			
アジ科 (大)	尾棘	1																		
フエダイ科ア	主上顎骨																			
フエダイ科	頭上顎骨																			
クロダイ属	主上顎骨																			
クロダイ属	頭上顎骨	1 /						1 /					1 / 1 /		1 /				1 /	
クロダイ属	歯骨												1 / 2						1 /	
クロダイ属	高骨													1 /						
クロダイ属	口蓋骨																		1 / 1	
ヘダイ	頭上顎骨																			
ヘダイ	歯骨																			
ヨコシマクロダイ	頭上顎骨																			
ヨコシマクロダイ	歯骨																		1 /	
ヨコシマクロダイ	頭上顎骨					1 / 1 /	1 /			1 /		1 / 2 /	6 / 8		1 / 1				1 /	
アマミフエフキ属	頭上顎骨																			
フエフキダイ属	頭上顎骨			1 /		3 /		1 /		1 /		1 /	4 / 4	1 / 1	1 / 2				1 / 1	
フエフキダイ属	口蓋骨					1 / 2				1			2	1						
フエフキダイ科	主上顎骨							1 /					1 / 1 / 2		2 / 3				1 / 1	
フエフキダイ科	歯骨	1 /		1 / 2	1 /	1 /	1 /	1 /	1 /				4 / 5	1 / 2	1 / 2				1 / 1	
フエフキダイ科	歯骨	1 /		1 / 2	1 /	1 /	1 /	1 /	1 /				2 /	1 /	1 /				1 /	
フエフキダイ科	方骨			1 /									1 /							
フエフキダイ科	第1椎骨																			
フエフキダイ科	腹椎				1															
タイ類	椎骨	1																		
シロタラハワ類	上顎歯骨							1 /												
シロタラハワ類	下顎歯骨	1								1										
シロタラハワ類	椎骨		1																	
ベラ科 (その他)	下顎歯骨																		1	
ベラ科	主上顎骨																		1 /	
ベラ科	頭上顎骨																			
ベラ科	歯骨									1 /										
ベラ科	高骨																			
イロブダイ属	上顎歯骨																			
イロブダイ属	下顎歯骨														1					
イロブダイ属	歯骨																			
アオブダイ属	上顎歯骨							1 /											1 / 1 /	
アオブダイ属	下顎歯骨							3							1				1	
アオブダイ属	頭上顎骨							1 /					1 /		2 / 2					
アオブダイ属	歯骨									1 /				1 / 2	1				2 / 1	
ブダイ科	主上顎骨							1 /												
ブダイ科	椎骨			1				1												
コサ科	歯骨														2					
オニササセキア	腹椎																			
モンガラカワハギ科	頭上顎骨																			
モンガラカワハギ科	歯骨									1										
モンガラカワハギ科	有棘棘																		1	
フタ科	頭上顎骨					1							1							
ハリセンボン科	頭上顎骨	1				1									2					
ハリセンボン科	歯骨																		1	
ハリセンボン科	頭上顎骨	1								1					1					
真骨鰻科同定済	頭上顎骨					1														
真骨鰻科同定済	歯骨																			
真骨鰻科同定済	椎骨							1												
真骨鰻科同定済	椎骨																			
真骨鰻科同定済	頭上顎骨																			
真骨鰻科同定済	高骨																		1	
真骨鰻科同定済	椎骨	1				1													5	
合計		8	1	7	5	23	5	4	4	11	3	4	55	14	24	3	17		5	

第104表-4. 伊礼原遺跡（国指定外）から出土した魚類遺体.

資料数の少ないグリッドについては隣接するグリッドと合算した.

種類	部位	IV層								V層				不明			
		II地区								II区				(地区) II地区			
		N9	N10	O8	O10	O9・P9	P8・Q8	地区不明	A10・R1・T20	A20	P16/17・Q15	R17・S18	A11/19	全	全	全	全
メジロザメ科	椎骨																
トビエイ科	歯																
エイ目	尾椎																
ウツボ科	歯																
アナゴ科	歯																
ダツ科	前上顎骨																
ダツ科	歯							1 /	1 /								
イットウダイ科	前鰓蓋骨			1 /													
マハダ科	歯																
スシアワ型	前上顎骨																
ハタ科	歯																
ハタ科	前鰓蓋骨												1 /				
ハタ科	腹鰓骨	1 /															
ハタ科ウ	方骨																1 /
ハタ科	眼胞																
アジ科 (大)	前上顎骨				2 /												
アジ科 (大)	上上顎骨		1 /				1 /										
アジ科 (大)	前上顎骨																
アジ科 (大)	歯									1 /							
アジ科 (大)	高骨																
アジ科 (大)	尾椎		1														
アジ科 (大)	種骨																
フエダイ科ウ	上上顎骨																
フエダイ科	前上顎骨																
クロダイ属	上上顎骨									1 /							
クロダイ属	前上顎骨	1 /															
クロダイ属	歯				1 /	1 /			1 /			1 /					
クロダイ属	高骨																1 /
クロダイ属	口蓋骨																
ヘダイ	前上顎骨					1 /											
ヘダイ	歯																
ヨシシマクロダイ	前上顎骨																
ヨシシマクロダイ	歯																
ハマアズキ型	前上顎骨	1 /	1 /		1 /	1 /		2 /		1 /	1 /		1 /				
フエダイ属	前上顎骨																
フエダイ属	口蓋骨	1 /	2 /			1 /				1 /	2 /		1 /	1 /			
フエダイ属	口蓋骨			1 /	1 /			1 /		3 /	2 /						1 /
フエダイ属	上上顎骨				2 /	2 /		1 /		2 /	1 /		1 /				1 /
フエダイ科	歯	3 /	1 /		2 /				1 /	3 /	1 /		1 /				1 /
フエダイ科	高骨	1			1 /	2 /			1 /	2 /	1 /		1 /				1 /
フエダイ科	方骨	1 /	1 /		1 /			1 /	1 /								
フエダイ科	第一椎骨																
フエダイ科	種骨					1									2		1
タイ型	種骨					1											
シロクラハツ型	上顎骨																
シロクラハツ型	下顎骨																
シロクラハツ型	種骨																
バラ科 (その他)	下顎骨																
バラ科	上上顎骨																
バラ科	歯																
バラ科	高骨													1 /			
イロアダイ属	上顎骨			1 /								1 /					
イロアダイ属	下顎骨																
イロアダイ属	歯			1 /													1 /
アオアダイ属	上顎骨																
アオアダイ属	下顎骨																
アオアダイ属	前上顎骨			1 /					1 /	1 /							1 /
アオアダイ属	歯																
アオアダイ属	上上顎骨	1 /			2 /	1 /											
アオアダイ属	高骨				2 /												1 /
アオアダイ属	種骨																
コナ科	種骨				2 /												1 /
オニオヤヒワ	眼胞																
モンガラカワハツ科	前上顎骨								1 /								1
モンガラカワハツ科	種骨																
モンガラカワハツ科	背鰭棘																
フク科	前上顎骨																
ハリセンボン科	前上顎骨	1									3						1
ハリセンボン科	歯																
ハリセンボン科	前上顎骨																
真骨鰻未同定A	前上顎骨																
真骨鰻未同定A	歯																
真骨鰻未同定	前上顎骨																
真骨鰻未同定	種骨																
真骨鰻未同定	高骨								1 /								
真骨鰻未同定	種骨																
合計		18	1	16	12	3	3	12	5	20	5	2	2	1	2	2	1

第105表-1. 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土したウミガメ類遺体。

\* 残存位置凡例は第109・110表を参照。詳細な位置が不明の甲板破片および部位不明破片の出土数は+で示した。

層	地区	F+T	遺構	部位	残存位置*	左右	数*	備考	右側番号	資料番号	取上番号	目録
II層	II層	Q14	SK1	四肢骨?	m	?	1		2296	1002	-	080218
		S12	-	甲板	fr	?	+		1910	717	-	080111
		S13	S002	甲板	fr	?	+		2213	1246	-	080214
		R11	-	甲板	fr	?	+		1465	1250	64	080908
II層	I地区	-	-	肋骨	fr	?	1		1475	1233	3	080906
		D12	-	腹甲板	fr	?	+		1499	761	4	080906
		-	-	甲板	fr	?	+		1467	1249	2	080906
		L11	-	不明	fr	?	+		742	984	-	120607
II層	II地区	S10	不明	不明	w	?	1		435	994	-	120601
		S10	不明	不明	fr	?	+		2798	912	-	080219
II層	II層	Q15	-	P42	甲板	fr	?	+	4232	372	-	080222
		-	-	四肢骨	m	?	1		2545	2191	-	080121
		-	-	背甲板	fr	?	+		2545	559	-	080121
		S13	P29	背甲板	fr	?	+		4242	842	-	080208
		S15	-	背甲板	fr	?	+		2710	822	-	080117
		T13	-	中手骨?	fr	?	1		2590	612	-	080111
		D12	P13	甲板	fr	?	+		2123	387	-	080827
		D13	SK47	腹甲板	fr	?	+		2090	633	-	080919
		K11	SP2-3	肋骨	w	?	1		710	993	-	120618
		L11	SP16	縁骨	?	?			709	860	-	120623
		M9	-	甲板	fr	?	+		842	1250	-	120607
		II層	II層	SK03	不明	fr	?	+		772	986	-
SP6	縁骨			fr	?	1		700	586	-	120623	
SP17	甲板			fr	?	+		657	688	-	120625	
SP17	甲板			fr	?	+		773	1369	-	120629	
SP22	肋骨			(骨?)	?	1		767	581	-	120628	
SP22	肋骨			m	?	1		767	1219	-	120628	
-	-			肋骨	?	?	1		846	973	-	120608
-	-			縁骨	?	?	1		783	1216	-	120608
-	-			甲板	fr	?	+		801	727	-	120607
-	-			甲板	fr	?	+		801	744	-	120607
-	-			甲板	fr	?	+		845	676	-	120608
-	-			甲板	fr	?	+		783	677	-	120608
II層	II地区	-	-	甲板	fr	?	+		846	1242	-	120608
		SK03	上腕骨	m	L	1		777	625	-	120628	
		SP13	縁骨	-	?			721	1213	-	120619	
		SP54	肋骨	p	?	1		746	1020	-	120625	
		-	-	縁骨	?	?		749	870	-	120625	
		-	-	縁骨	?	1		753	861	-	120629	
		SP55	縁骨	?	1		764	863	-	120629		
		-	-	甲板	fr	?	+	791	684	-	120607	
		SK01	楯骨	m	L	1		696	617	-	120704	
		-	-	楯骨	-	?		695	602	-	120703	
		SP17	甲板	fr	?	+	722	681	-	120625		
		SP25	不明	fr	?	+	694	982	-	120627		
SP26	肋骨	p	?	1	706	714	-	120623				
SK01	縁骨	?	?		656	866	-	120703				
II層	II層	-	-	甲板	fr	?	+		636	1244	-	120703
		-	-	腹甲板	fr	?	+		800	1241	-	120611
		-	-	甲板	fr	?	+		797	747	-	120606
		-	-	甲板	fr	?	+		798	748	-	120608
		M14	-	甲板	fr	?	+		401	699	-	120614
		SP3	不明	fr	?	+	905	987	-	120621		
		SP7	楯骨	m	L	1	908	651	-	120620		
		-	-	甲板	fr	?	+	998	739	-	120620	
		SK4	SP7	楯骨	?	1	998	368	-	120620		
		013	SP44	楯骨	?	1	107	868	-	120628		
		SP17	甲板	fr	?	+	887	678	-	120627		
		SP20	甲板	fr	?	+	888	726	-	120627		
-	-	甲板	fr	?	+	473	725	-	120608			
P11	-	不明	fr	?	+	480	983	-	120615			
-	-	尺骨	m	R	1	579	640	-	120612			
-	-	縁骨	?	?	577	964	-	120611				
-	-	甲板	fr	?	+	378	723	-	120611			
-	-	不明	fr	?	+	579	719	-	120612			
-	-	楯骨	?	?	479	935	-	120614				
II層	II地区	SP1	縁骨	?	?		942	1218	-	120626		
		SP2	縁骨	?	?		893	710	-	120626		
		SP2	甲板	fr	?	+	893	670	-	120626		
		SP2	不明	fr	?	+	897	978	-	120703		
		SP3	甲板	fr	?	+	945	1261	-	120626		
		SP5	縁骨	?	1		349	398	-	120703		
		SP29	肋骨	(骨?)	?	1	1075	715	-	120626		
		SP29-30	甲板	fr	?	+	967	721	-	120702		
		SP29-30	甲板	fr	?	+	967	680	-	120702		
		SP41	楯骨	?	?	1	1069	369	-	120626		
		SP53	甲板	fr	?	+	938	1254	-	120627		
		SK72	甲板	fr	?	+	1016	679	-	120626		
SP26	甲板	fr	?	+	983	674	-	120626				
-	-	四肢骨	m	?	1	539	844	-	120611			
-	-	縁骨	m	?	1	525	873	-	120611			
-	-	腹甲板	fr	?	+	500	580	-	120615			

第105表-2. 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土したウミガメ類遺体。

\* 残存位置凡例は第109・110表を参照。詳細な位置が不明の甲板破片および部位不明破片の出土数は+で示した。

層	地区	F/T/F	遺構	部位	残存位置	左右	数	備考	左側番号	右側番号	取上番号	目録	
I層	ハ地区	Q12	-	腹甲板	fr	?	+	528	715	-	120611		
			-	甲板	fr	?	+	496	742	-	120613		
			-	甲板	fr	?	+	521	730	-	120611		
			-	不明	fr	?	+	496	985	-	120615		
		-	S&T2	甲板	fr	?	+	1037	737	-	120703		
		Q13	SP24 ~ 26	副匠甲板	ss	B	1	1017	643	-	120702		
			SP26	甲板	fr	?	+	1018	673	-	120704		
		R10	R11	SP14	上胸骨	ss	B	1	928	627	-	120706	
				SP7	肋骨	ss	?	1	1078	992	-	120703	
		R12	SP22	肋骨板	ss	?	1	1052	858	-	120706		
			SP27	肋骨板	?	1	1926	1217	-	120704			
			S&T2	肋骨板	?	1	1048	1215	-	120704			
			SP10+11	甲板	fr	?	+	1043	672	-	120704		
			SP12	腹甲板	fr	?	+	1045	718	-	120703		
			SP20	甲板	fr	?	+	1076	722	-	120629		
			SP20	甲板	fr	?	+	1076	1251	-	120629		
			SP21	肋骨	ss	B	1	1042	652	-	120703		
			SP21	腹甲板	fr	?	+	1077	1240	-	120704		
			-	太陽骨	fr	?	1	540	991	-	120615		
			-	腹甲板	fr	?	+	537	720	-	120608		
	-		甲板	fr	?	+	538	1265	-	120608			
	S10	SP27	甲板	fr	?	+	437	732	-	120711			
	A14	-	四肢骨	ss	?	1	2751	987	-	080110			
		-	四肢骨?	ss	?	1	2808	536	-	080111			
		-	甲板	fr	?	+	2910	1239	667	080123			
		R1	-	不明	fr	?	+	4226	797	-	080117		
		R16	-	甲板	fr	?	+	2735	926	-	080205		
		R20	-	上胸骨	ss	L	1	2719	642	-	080116		
		C1	-	肋骨板	fr	?	1	4302	656	-	080117		
		D20	-	肋骨板	-	1	2476	956	-	080305			
		F15	-	甲板	fr	?	+	2519	852	-	080123		
			-	甲板	fr	?	+	2521	836	-	080122		
	F16	-	甲板	fr	?	+	2064	540	195	080123			
		-	腹甲板	fr	?	+	2515	1236	-	080209			
	Q15	-	腹甲板	fr	?	+	1684	792	-	080121			
		-	甲板	fr	?	+	2513	971	-	080130			
	R13	-	甲板	fr	?	+	1740	897	-	080277			
		-	腹甲板	fr	?	+	2627	983	264	080207			
		-	腹甲板	fr	?	+	2651	1234	281	080220			
		-	甲板	fr	?	+	2638	994	383	080220			
R15	-	甲板	fr	?	+	1746	2313	-	080121				
	-	甲板	fr	?	+	1767	262	-	080117				
R16	-	上胸骨	ss	L	1	2608	627	-	080121				
H19	-	背甲板	fr	?	+	2605	1245	-	080122				
	-	腹甲板	fr	?	+	2308	911	-	080121				
	-	土器集中	甲板	fr	?	+	2466	866	-	080213			
	-	四肢骨	ss	?	1	2469	923	-	不明				
	-	肋骨板	fr	?	1	2821	746	247	080207				
	-	肋骨板	fr	?	2	2617	957	237	080207				
	-	背甲板	fr	?	+	2616	1247	240	080207				
	-	腹甲板	fr	?	+	2634	671	257	080207				
	-	甲板	fr	?	+	2470	1248	-	080319				
	-	甲板	fr	?	+	2468	686	-	080208				
	-	甲板	fr	?	+	2618	546	233	080207				
	-	甲板	fr	?	+	1914	777	-	080122				
-	甲板	fr	?	+	2632	885	239	080207					
-	不明	fr	?	1	2635	639	227	080207					
-	不明	fr	?	1	鳥口-腹甲板?								
S13	-	肋骨板	-	4	2620	1237	255	080207					
	-	背甲板	fr	?	+	2679	806	-	080117				
	-	甲板	fr	?	+	2643	867	-	080111				
	-	甲板	fr	?	+	2705	881	-	080121				
	-	甲板	fr	?	+	2884	716	-	080116				
	S14	-	上胸骨	ss	L	1	2703	378	-	080109			
	S17	-	上胸骨	ss	L	1	2457	758	-	080270			
	S18	-	四肢骨	ss	?	1	2500	597	-	080204			
	-	甲板	fr	?	+	1770	2314	-	080225				
	T13	-	尺骨	d	L	1	2836	942	27	080111			
-	上胸骨	p=ss	L	1	2805	1231	172	080123					
T14	-	大腿骨?	ss	?	1	2859	747	36	080111				
	-	四肢骨?	ss	?	1	2711	603	-	080123				
T18	-	甲板	fr	?	+	2685	531	325	080122				
	-	甲板	fr	?	+	2650	634	-	080117				
-	-	甲板	fr	?	+	2224	837	-					
イ地区	C15	-	肋骨板	fr	?	1	1486	539	9	080606			
		-	肋骨板	fr	?	1	1466	1235	8	080606			
	-	甲板	fr	?	+	1480	791	10	080606				
	-	甲板	fr	?	+	914	602	-	080605				
D13	-	肋骨板	fr	?	1	1418	897	547	080929				
	-	肋骨板	fr	?	1	1424	617	327	080923				
S12	-	肋骨板	fr	L	1	1425	1229	528	080923				
	-	肋骨板	fr	?	1	1407	968	558	081007				

第105表-3. 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土したウミガメ類遺体。

\* 残存位置凡例は第109・110表を参照。詳細な位置が不明の甲板破片および部位不明破片の出土数は+で示した。

種別	地区	Fragment	遺体	部位	残存位置	左右	数	備考	右側番号	資料番号	取上番号	目録	
IV層	二地区	S12	-	甲板	fr	?	-		1420	702	519	080925	
		T11	-	骨	L	1	-	アオウミガメ	1455	972	295	080921	
			-	残骸(背骨)		L	1	-		945	620	-	080923
			-	鱗骨板				-		1494	1241	904	080924
			-	肋骨板	fr	?	1	-		1422	672	526	080925
			-	肋骨板	fr	?	1	-		1062	2036	474	080911
			-	肋骨板	fr	?	1	-		1062	2037	474	080911
			-	肋骨板	fr	?	1	-		1062	2038	474	080911
			-	肋骨板	fr	?	1	-		1062	2039	474	080911
			-	肋骨板	fr	?	1	-		1062	2041	474	080911
			-	肋骨板	fr	?	1	-		1062	2042	474	080911
			-	鱗骨板				-		977	650	-	080911
			-	鱗骨板				-		1494	1242	904	080924
			-	背甲板	fr	?	+	-		1060	574	473	080911
			-	甲板	fr	?	+	-		888	732	-	080925
			-	不明	fr	?	+	-		992	782	-	080922
			-	肋骨板	fr	?	1	-		1423	1239	535	080925
			-	甲板	fr	?	+	-		1415	511	531	080925
			-	横骨	m	L	1	-		740	650	-	120614
			-	甲板	fr	?	+	-		815	729	-	120611
			-	甲板	fr	?	+	-		821	682	-	120608
			-	SP14	甲板	fr	?	+		690	763	-	120619
			-	鱗骨板				-		915	871	-	120622
			-	横骨	m	R	1	-		897	926	-	120723
			-	上胸骨	m	L	1	-		895	923	-	120705
			-	鱗骨板				-		844	1221	-	120705
			-	肋骨板	p	?	1	-		844	938	-	120705
			-	肋骨板				-		844	875	-	120705
			-	鱗骨板				-		805	874	-	120705
			-	鱗骨板				-		844	869	-	120705
			-	鱗骨板				-		807	862	-	120723
			-	甲板	fr	?	+	-		844	749	-	120705
			-	甲板	fr	?	+	-		802	1255	-	120811
			-	甲板	fr	?	+	-		844	1258	-	120705
			-	甲板	fr	?	+	-		850	745	-	120706
			-	前烏口骨	m	L	1	-		847	585	-	120711
			-	肋骨板(最後尾)				-		847	716	-	120711
			-	肋骨板	p	?	1	-		847	711	-	120711
			-	甲板	fr	?	+	-		588	675	-	120705
			-	甲板	fr	?	+	-		488	1257	-	120615
			-	肋骨板	m	R	1	-		419	741	-	120705
			-	上胸骨	m	R	1	-		533	629	-	120705
			-	甲板	fr	?	+	-		407	728	-	120723
			-	不明	fr	?	+	-		640	980	-	120711
			-	肋骨板				-		594	971	-	120706
			-	四肢骨	m	?	1	-		639	647	-	120621
			-	肋骨板	(p)	?	1	-		522	709	-	120622
			-	肋骨板				-		594	597	-	120706
			-	甲板	fr	?	+	-		582	735	-	120705
			-	甲板	fr	?	+	-		410	746	-	120705
			-	甲板	fr	?	+	-		522	1245	-	120622
			-	甲板	fr	?	+	-		166	1248	-	120706
			-	不明	fr	?	+	-		174	976	-	120706
			-	上胸骨	m	R	1	-		494	641	-	120705
			-	肋骨板				-		494	969	-	120705
			-	四肢骨	m	?	1	-		594	648	-	120623
			-	肋骨板	(p)	?	1	-		172	947	-	120706
			-	甲板	fr	?	+	-		1572	1256	-	120615
			-	甲板	fr	?	+	-		172	1253	-	120706
			-	甲板	fr	?	+	-		510	733	-	120623
			-	前烏口骨	m	R	1	-		618	584	-	120718
			-	烏口-頸甲骨				-		618	584	-	120718
			-	四肢骨?	m	?	1	-		698	899	-	120724
			-	四肢骨	m	?	1	-		617	645	-	120723
			-	甲板	fr	?	+	-		699	1263	-	120725
			-	SP20	肋骨板(最後尾)			-		1059	972	-	120704
			-	鼻骨			L-R	1	-	420	975	-	120705
			-	前頭骨?			L?	1	-	543	600	-	120723
			-	上胸骨	m	R	1	-		620	626	-	120705
			-	横骨	m	L	1	-		543	649	-	120725
			-	横骨	m	R	1	-		543	649	-	120725
			-	横骨	m	R	1	-		547	974	-	120723
			-	肋骨板				-		630	970	-	120705
			-	四肢骨	m	?	1	-		543	1034	-	120725
			-	四肢骨	m	?	1	-		612	1033	-	120616
			-	四肢骨	m	?	1	-		626	646	-	120628
			-	肋骨板	(p)	?	1	-		602	717	-	120718
			-	肋骨板	(p)	?	1	-		625	591	-	120706
			-	鱗骨板				-		625	932	-	120706
			-	鱗骨板				-		564	595	-	120723
			-	鱗骨板				-		604	867	-	120706
			-	鱗骨板				-		624	865	-	120621

第105表-4. 伊礼原遺跡（国指定外）・伊礼原A遺跡から出土したウミガメ類遺体.

\* 残存位置凡例は第109・110表を参照. 詳細な位置が不明の甲板破片および部位不明破片の出土数は+で示した.

層	地区	F'No	遺構	部位	残存位置	左右	数	備考	台帳番号	資料番号	取上番号	目付	
IV層	H11	-	-	鎌骨板	-	?	1		601	859	-	120706	
		-	-	鎌骨板	-	?	1		596	857	-	120711	
		-	-	甲板	fr	?	+		637	712	-	120705	
		-	-	甲板	fr	?	+		328	734	-	120725	
		-	-	甲板	fr	?	+		596	1249	-	120711	
		-	-	甲板	fr	?	+		620	1262	-	120705	
		-	-	不明	fr	?	+		624	981	-	120621	
		-	-	南鳥口骨	m	L	1		544	974	-	120705	
		-	-	南鳥口骨	m	L	1		544	974	-	120705	
		-	-	尾骨	m	L	1		545	639	-	120621	
		-	-	四肢骨	m	?	1		545	933	-	120621	
		-	-	鎌骨板	-	?	1		545	1214	-	120621	
		-	-	鎌骨板	-	?	1		544	599	-	120705	
		-	-	前伏腹板*	m	?	1		539	642	-	120625	
		-	-	甲板	fr	?	+		542	738	-	120706	
	-	-	不明	fr	?	+		539	977	-	120625		
	-	-	不明	fr	?	+		544	975	-	120705		
	-	-	甲板	fr	?	+		565	740	-	120718		
	S10	-	-	甲板	fr	?	+		570	687	-	120723	
	-	-	-	鎌骨板	-	?	1		564	872	-	120725	
	S11	-	-	甲板	fr	?	+		572	724	-	120718	
	-	-	-	甲板	fr	?	+		571	731	-	120711	
	T10	-	-	甲板	fr	?	+		516	743	-	120614	
	-	-	-	甲板	fr	?	+		552	686	-	120712	
	T11	-	-	甲板	fr	?	+		554	1247	-	120723	
	V層	H1	-	-	鳥口-頸甲骨	fr	?	1		4205	2030	-	080205
			-	-	肋骨	-	?	1		4205	2015	-	080305
			-	-	鎌骨板	-	-	1		3003	549	312	080225
			-	-	肋骨板	fr	?	1		3010	541	331	080225
			-	-	肋骨板	fr	?	1		2914	544	321	080225
-			-	肋骨板	fr	?	1		3011	1238	317	080225	
-			-	肋骨板	fr	?	1		3009	851	314	080225	
-			-	肋骨板	fr	?	1		3002	1241	318	080225	
-			-	肋骨板	fr	?	1		2915	821	310	080225	
-			-	肋骨板	fr	?	1		2916	641	322	080225	
-			-	肋骨板	fr	?	1		2918	626	309	080225	
-			-	肋骨板	fr	?	1		3012	1243	313	080225	
-		-	背甲板	fr	?	+		3009	611	319	080225		
-		-	甲板	fr	?	+		3006	882	320	080225		
-		-	甲板	fr	?	+		3007	534	316	080225		
-		-	甲板	fr	?	+		3004	687	315	080225		
-		-	背甲板	fr	?	+		2596	711	325	080312		
S12		-	-	背甲板	fr	?	+		2787	543	525	080312	
-		-	肋骨板-鎌骨板	-	L	1		3416	1228	359	不明		
S13		-	-	甲板	fr	?	+		2643	1001	-	080313	
S18		-	-	甲板	fr	?	+		2403	519	-	080327	
T16		-	-	背甲板	fr	?	+		2912	1240	307	080225	
T20		-	-	甲板	fr	?	+		2772	896	1439	080325	
-		-	-	甲板	fr	?	+		1849	1246	-	120720	
不明	二地区	P1	-	甲板	fr	?	+	不明	564	不明	不明		
-	H19	-	-	上腕骨	(p)-<4>	R	1	S142m	不明	1232	-	-	
-	二地区	-	-	前伏腹板	p	L	1	不明	1220	-	不明		
二地区・後期	R6	-	-	甲板	fr	?	+	1356	609	78	080926		
-	-	-	-	甲板	fr	?	+	1357	941	79	080926		
-	-	-	-	甲板	fr	?	+	1356	776	80	080926		
二地区・前期	R6	-	-	肋骨板	fr	?	1	1370	542	127	081061		
-	-	-	-	甲板	fr	?	+	1372	701	-	080930		

第106表 伊礼原遺跡（国指定外）から出土したリクガメ類遺体.

層	地区	F'No	遺構	部位	残存位置	左右	数	備考	台帳番号	資料番号	取上番号	目付
I層	H19	-	-	上腹板	B	?	1		2972	576	-	-
II層	二地区	L11	-	不明	-	?	1		739	1158	-	120607
	一地区	C11	-	鎌骨板	-	?	1		993	2010	-	080119
III層	一地区	M14	-	中腹板	L	1			405	294	-	120608
		Q11	SP41	肋骨板	fr	?	1		1069	1155	-	120626
		T18	-	下腹板	L	1			2650	606	-	080117
一地区	T19	-	腹甲板	fr	?	1		1944	621	-	080117	
	T13	-	肋骨板	fr	?	1		1415	618	531	080925	
	N9	SP57	腹甲板	fr	?	1		748	1154	-	120625	
IV層	二地区	-	-	鎌骨板	-	?	1		3865	1157	-	120613
		08	-	椎骨板（椎角尾）	-	-	1		1480	456	-	120620
		F9	-	腹甲板	fr	?	1		925	1159	-	120706
		R11	-	中腹板/下腹板	fr	?	1		827	1152	-	120705
		-	-	前伏腹板	-	L	1		627	1156	-	120705
一地区	-	-	前伏腹板	-	R	1		596	611	-	120711	
	-	-	腹甲板	fr	?	1		627	1153	-	120705	
	-	-	上腹板	B	?	1		3032	986	1312	080324	
V層	H19	A20	-	下腹板	B	1		2562	585	-	080321	
不明	H19	不明	-	鎌骨板	-	?	1	不明	555	不明	不明	

第107表-1. 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土したイヌ遺体。

\* 残存位置凡例は第109・110表を参照。

層階	地区	ドット	遺構	種類	部位	残存位置*	左右	数	計測 (mm)	備考	台帳 番号	資料 番号	取上 番号	日付			
I層	H19	Q17	-	イヌ	脛骨	n	R	1	SD11		2506	1221	一括	080121			
															S17	イヌ	下顎骨
		R13	-	イヌ	上顎骨	w	L	1	1			139	1305	-	080222		
																P1	イヌ
		S14	-	イヌ	脛骨	w-d	R	1	1			4342	600	-	80212		
																P12	イヌ
		II層	イ地区	A11	-	イヌ	第4中足骨	w	L	1			4218	2060	-	080221	
																	A12
				B11	-	イヌ	上顎骨	p-d	R	1	1	SD10		2320	1303	-	080922
C9	-			イヌ	尺骨	p-m	R	1	1			1101	2088	309	080820		
																P23	イヌ
C11	-			イヌ	大顎骨?	n	L	1	1	1	1	2289	1134	-	080922		
																P22	イヌ
C12	-			イヌ	第5中手骨	p	R	1	1			2339	1039	-	080828		
																P24	イヌ
C13	-	イヌ	第4中足骨	w	L	1	1			2099	2083	-	080922				
														P12	イヌ	第4中足骨	w
T12	-	イヌ	脛骨	n	L	1	1			2131	2029	-	080912				
														P27	イヌ	第5中手骨	p-m
二地区	Q6	-	イヌ	上顎骨	[P1x M]	L	1			2095	2023	-	080908				
														SP2	イヌ	上顎骨	[P1x M]
三地区	O13	-	イヌ	第4中足骨	w	L	1			952	2074	-	080921				
														SP17	イヌ	第4中足骨	w
四地区	Q11	-	イヌ	第4中足骨	w	L	1			1001	2067	206	080826				
														SP17	イヌ	第4中足骨	w
五地区	Q12	-	イヌ	大顎骨	p-d	R	1	1	M11.7.9		829	1171	-	120718			
															SP15	イヌ	下顎骨
六地区	Q12	-	イヌ	大顎骨	p-d	R	1	1	SD10	カットマーク	959	1173	-	120629			
															P15	イヌ	下顎骨
七地区	Q12	-	イヌ	第4中足骨	w	L	1			411	1172	-	120614				
														SP42	イヌ	脛骨	w-d
八地区	Q12	-	イヌ	脛骨	w-d	R	1	1	SD7		495	1179	-	120702			
															イヌ	脛骨	w-d
九地区	Q12	-	イヌ	軸骨	n	L	1			495	1174	-	120702				
														イヌ	軸骨	n	L
十地区	Q12	-	イヌ	腕骨	r	?	1			495	1176	-	120702				
														イヌ	腕骨	r	?
十一地区	Q12	-	イヌ	腕骨	r	?	1			495	1177	-	120702				
														イヌ	腕骨	r	?
十二地区	Q12	-	イヌ	腕骨	r	?	1			495	1175	-	120702				
														イヌ	腕骨	r	?
十三地区	Q12	-	イヌ	腕骨	r	?	1			495	1176	-	120702				
														イヌ	腕骨	r	?
十四地区	Q12	-	イヌ	第1中手骨	d	L	1			495	1191	-	120702				
														イヌ	第1中手骨	d	L
十五地区	Q12	-	イヌ	尺骨	p	R	1			495	1190	-	120702				
														イヌ	尺骨	p	R
十六地区	Q12	-	イヌ	尺骨	n	R	1			495	1189	-	120702				
														イヌ	尺骨	n	R
十七地区	Q12	-	イヌ	上腕骨	d	R	1			495	1187	-	120702				
														イヌ	上腕骨	d	R
十八地区	Q12	-	イヌ	上腕骨	d	R	1	1	SD12		495	1200	-	120702			
															イヌ	上腕骨	d
十九地区	Q12	-	イヌ	脛骨	p	L	1			499	365	-	120615				
														イヌ	脛骨	p	L
二十地区	Q12	-	イヌ	第2中手骨	w	L	1			495	1203	-	120702				
														イヌ	第2中手骨	w	L
二十一地区	Q12	-	イヌ	第2中手骨	w	R	1			519	1210	-	120611				
														イヌ	第2中手骨	w	R
二十二地区	Q12	-	イヌ	第3中手骨	w	L	1			495	1202	-	120702				
														イヌ	第3中手骨	w	L
二十三地区	Q12	-	イヌ	第4中手骨	w	L	1			495	1207	-	120702				
														イヌ	第4中手骨	w	L
二十四地区	Q12	-	イヌ	第4中手骨	w	R	1			495	515	-	120702				
														イヌ	第4中手骨	w	R
二十五地区	Q12	-	イヌ	第5中手骨	w	L	1			495	514	-	120702				
														イヌ	第5中手骨	w	L
二十六地区	Q12	-	イヌ	第5中手骨	w	R	1			495	516	-	120702				
														イヌ	第5中手骨	w	R
二十七地区	Q12	-	イヌ	寛骨	E1	L	1			495	1186	-	120702				
														イヌ	寛骨	E1	L
二十八地区	Q12	-	イヌ	寛骨	E1	R	1			495	1201	-	120702				
														イヌ	寛骨	E1	R
二十九地区	Q12	-	イヌ	大顎骨	n	L	1	1	SD11		495	1194	-	120702			
															イヌ	大顎骨	n
三十地区	Q12	-	イヌ	大顎骨	p-d	R	1	1	SD9		526	1024	-	120611			
															イヌ	大顎骨	p-d
三十一地区	Q12	-	イヌ	脛骨	p	R	1			495	1197	-	120702				
														イヌ	脛骨	p	R
三十二地区	Q12	-	イヌ	脛骨	p	L	1			519	615	-	120611				
														イヌ	脛骨	p	L
三十三地区	Q12	-	イヌ	脛骨	p	?	1			495	1198	-	120702				
														イヌ	脛骨	p	?
三十四地区	Q12	-	イヌ	肋骨	r	L	1			495	1396	-	120702				
														イヌ	肋骨	r	L
三十五地区	Q12	-	イヌ	肋骨	r	L	1			499	367	-	120615				
														イヌ	肋骨	r	L
三十六地区	Q12	-	イヌ	踵骨	h	L	1			495	1189	-	120702				
														イヌ	踵骨	h	L
三十七地区	Q12	-	イヌ	踵骨	h	R	1			495	1205	-	120702				
														イヌ	踵骨	h	R
三十八地区	Q12	-	イヌ	第2中足骨	w	R	1			519	1209	-	120611				
														イヌ	第2中足骨	w	R
三十九地区	Q12	-	イヌ	第3中足骨	w	L	1			495	515	-	120702				
														イヌ	第3中足骨	w	L
四十地区	Q12	-	イヌ	第3中足骨	p-d	R	1			519	1212	-	120611				
														イヌ	第3中足骨	p-d	R
四十一地区	Q12	-	イヌ	第4中足骨	w	L	1										

第107表-2. 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土したイヌ遺体.

\* 残存位置凡例は第109・110表を参照.

種別	地区	フナリ	遺構	種類	部位	残存位置*	左右	数	尺目 (mm)	備考	右側 番号	資料 番号	目付 番号			
IV層	I地区	R11	PS	Q12	-	イヌウ	基節骨?	?	1			499	1035	-	120615	
				SP13	イヌウ	大腸骨	n	?	1	SD12		1090	594	-	120703	
		R12	S301	PS	-	イヌウ	上腕骨	n	?	1	SD9		611	590	-	120614
					-	イヌ	脛骨	d	?	1	SD8		1046	1168	-	120704
				-	イヌ	胸椎	胸椎類	-	1			1065	998	-	120626	
				-	イヌ	胸椎	胸椎	-	1			1065	997	-	120626	
				-	イヌ	胸椎	胸椎	-	1			1065	1000	-	120626	
				-	イヌ	腰椎	腰椎	-	3			1065	999	-	120626	
				-	イヌ	上腕骨	(p>+m)	L	1	SD11		1065	1181	-	120626	
				-	イヌ	上腕骨	n	R	1	SD10		1065	1180	-	120626	
	-			イヌ	尺骨	p+m	R	1			1065	1182	-	120626		
	-			イヌ	大腸骨	d	L	1			1065	1183	-	120626		
	S8	SD10	-	イヌ	肋骨	n	?	1		1065	1184	-	120626			
			-	イヌ	下顎骨	[P4 M1 M2x M3x]	L	1	M11.18.3		563	1165	-	120718		
	S9	-	-	イヌ	下顎骨	[P1x P2x P3 P4 M1 M2 M3]	L	1	M11.18.5		685	1163	-	120615		
			-	イヌ	脛骨	(d-)	L	1			566	1026	-	120615		
	II地区	H19	C10	-	イヌウ	大腸骨	n	?	1	SD10		566	593	-	120615	
					イヌ	上腕骨	[I1 I2 I3 C]	L+R	1			994	2097	-	981010	
			不明	-	イヌウ	肋骨	p.	?	1			994	2097	-	981010	
			R16	-	イヌ	胸椎	胸椎	-	1			2599	1306	-	980304	
R18			-	イヌ	尺骨	p	L	1			2674	223	-	980304		
S16			-	イヌ	上顎骨	n	L	1			2692	1307	-	980118		
S18			-	イヌウ	大腸骨	n	R?	1			2489	1138	-	980221		
T14			-	イヌ	下顎骨	[I1-P2x]	L	1			2585	1034	-	980130		
II地区			B11	-	-	イヌ	下顎骨	n	L	1		986	2086	-	980821	
					-	イヌ	脛骨	(d-)	R	1			909	2009	-	980813
III地区	Q11	-	-	イヌ	脛骨	(p>+d-)	R	1	SD8		984	2087	-	980808		
			-	イヌ	脛骨	n	?	1	SD12		410	364	-	120705		
III地区	S10	-	-	イヌ	下顎骨	[ds1x ds2x ds3]	L	1			568	1161	-	120723		
			-	イヌ	上腕骨	(p>+m)	R	1	SD10		924	992	-	120615		
III地区	Q6	-	-	イヌ	下顎骨	[P3 P4 M1 M2x M3x 下顎骨]	R	1	M11.18.7		310	1164	-	120724		
			-	イヌ	肋骨	n	?	1			1027	995	-	120723		
V層	H19	A19	-	イヌ	上腕骨	[P3 P4]	L	1			2836	1301	1269	-	980321	
				イヌ	上腕骨	(d-)	L	1			2748	1132	-	980318		
		-	イヌ	大腸骨	p	L	1			2841	591	1268	-	980310		
		-	イヌ	下顎骨	[Cx P1x P2 P3x P 4M1x M2x M3x]	L	1			3933	1028	1332	-	980324		
		-	イヌ	下顎骨	[I1-I3x C P1-M1x 胸肋骨類]	R	1			2781	1033	1474	-	980326		
		-	イヌ	脛骨	n	R	1	SD9		2562	678	-	980321			
		R19	-	イヌ	下顎骨	[C-M3x]	L	1			2837	1030	1267	-	980310	
		R20	-	イヌ	大腸骨	(p>)	R	1	SD9		2725	1036	-	980325		
		-	イヌ	脛骨	n	R	1			2782	1135	1475	-	980326		
		R17	-	イヌウ	大腸骨	[C P1x P2 P3 P4 M1]	L	1			2610	1136	-	980324		
表層	II地区	-	イヌ	肩甲骨	p	R	1			1362	172	-	981036			
不明	不明	-	イヌ	胸椎	-	-	-	-		不明	996	-	不明			
不明	不明	-	イヌ	大腸骨	(p>)	L	1			不明	1021	-	不明			
II地区・表層	K7	-	イヌ	脛骨	p+m	L	1	SD8		1393	1157	31	-	980903		
II地区	L7	-	イヌ	下顎骨	[I1-P2x P3 P4 M1x]	L	1			1391	1029	9	-	980903		
II地区	M6	-	イヌ	尺骨	p+m	L	1			1375	1035	-	980904			

第108表 伊礼原遺跡(国指定外)から出土した鳥類・ネズミ・ネコ・ヤギ遺体.

\* 残存位置凡例は第109・110表を参照.

種別	種別	地区	フナリ	遺構	取上 番号	部位	残存位置*	左右	備考	右側 番号	資料 番号	目付 番号
ニワトリ	I地区	H19	C11	P24	-	肋骨	p	R		2309	1143	980924
					-	大腸骨	d	R		2332	1141	980924
					-	大腸骨	n-d	R	SD70m	709	569	120623
鳥類(同定不可)	I地区	H19	C11	P24	-	四肢骨	n	?		2336	596	980828
					不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
ネズミ科	I地区	H19	B11	307	-	大腸骨	p-(d-)	R		1986	545	980829
					不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
ネコ	I地区	H19	C11	P24	-	上腕骨	(d-)	R		852	457	120796
					-	肋骨	n	R		2313	582	980912
					-	尺骨	p+m	L		2332	1142	980924
ヤギ	I地区	H19	C9	-	-	臼歯	fr	?		415	1170	120611
					-	下顎骨	[ds2x ds3 ds4]	L	同1個体	907	2236	980807
鳥・哺乳類(復原)	I地区	H19	Q16	-	270	下顎骨	[ds2x ds3 ds4]	L	同1個体	2633	1239	980220
					-	下顎骨	[ds2x ds3 ds4]	R		2633	847	980220
鳥・哺乳類(復原)	I地区	H19	Q16	-	-	四肢骨	(p>)-(d-)	?	骨髄まで海綿質で充填される. 椎骨?	2679	516	980121

第109表-1. 伊礼原遺跡 (国指定外)・伊礼原A遺跡から出土したイノシシ (またはブタ) 遺体 (顎骨・遊離歯以外)

\*1 残存位置凡例: w=完存, d=欠損, m=骨折, d=他傷, fr=縫片, (p)-(d)=未磨削の骨端のみ, (p)-(d)=骨端未磨削状態, sp+・d=骨端のみ欠損

\*2 CMカットマーカ、SF=スバルトラフチャー

層階	地区	F <sup>1)</sup>	遺構	種別	部位	残存位置 #1	左右	数	50 (mm)	備考 #2	骨端番号	資料番号	取上番号	目付	
1層	H19	-	-	イノシシ/ブタ	肩甲骨	関節部	R	1			2973	233	一括	-	
		-	-	イノシシ/ブタ	上胸骨	m<d>つ	R	1	14			2972	277	一括	-
		-	-	イノシシ/ブタ	大腸骨	n	R	1				2973	171	一括	-
		-	-	イノシシ/ブタ	踵骨	L	1					2974	496	-	-
-	-	イノシシ/ブタ	踵骨		L	1				2972	499	一括	-		
A18	-	イノシシ/ブタ	踵骨		L	1				2753	445	一括	080111		
B17	-	イノシシ/ブタ	第4中手骨	p	R	1				2267	2138	一括	080110		
H19	C16	-	-	イノシシ/ブタ	距骨	R	1				3129	208	-	080109	
		-	-	イノシシ/ブタ	尺骨	p	R	1				2509	429	一括	080121
		-	-	イノシシ/ブタ	脛骨	(p>つ>d>)	R	1	15			2509	196	一括	080121
		-	-	イノシシ/ブタ	距骨		R	1				2506	203	一括	080121
		-	-	イノシシ/ブタ	前頭骨	眼窩部	-	1				2532	2129	一括	080117
		-	-	イノシシ/ブタ	上胸骨	d>	R	1				2532	2135	一括	080117
		-	-	イノシシ/ブタ	第3中手骨	p	R	1				2532	2168	一括	080117
		-	-	イノシシ/ブタ	脛骨	(p>つ>m)	R	1	14			2473	165	-	080212
		-	-	イノシシ/ブタ	尺骨	p	L	1				3000	413	-	080207
		-	-	イノシシ/ブタ	寛骨		R	1				3001	706	-	080207
		S15	SD02	イノシシ/ブタ	上胸骨	m<d>つ	L	1	8			2649	1144	-	080214
		-	-	イノシシ/ブタ	尺骨	p	R	1				2649	426	-	080214
S16	SD03	イノシシ/ブタ	踵骨	p	R	1				2922	1017	-	-		
-	-	イノシシ/ブタ	距骨		R	1				2922	663	-	-		
S17	-	イノシシ/ブタ	後頭骨	後頭部	-	1				2924	681	-	080221		
-	-	イノシシ/ブタ	脛骨	d	R	1				2924	670	-	080221		
T13	-	イノシシ/ブタ	中手/中足骨	d	?	1				2829	527	-	080207		
-	-	イノシシ/ブタ	脛骨	脛体	-	1				2224	263	-	-		
A11	-	イノシシ/ブタ	肋骨	n	?	1				4929	2308	一括	080613		
B10	SK32	イノシシ/ブタ	第3中手骨	p<d>	R	1				1433	2070	-	080912		
B11	-	イノシシ/ブタ	踵骨	L	1					1473	500	69	080908		
-	-	イノシシ/ブタ	肋骨	n	?	1				1175	3157	103	080811		
R12	-	イノシシ/ブタ	肩甲骨	関節部欠	R	1				1120	2143	116	080811		
C10	-	イノシシ/ブタ	寛骨 (腸骨)	臼	L	1				1469	1308	47	080908		
-	-	イノシシ/ブタ	脛骨	(p>つ>d>)	L	1	12			1138	2171	190	080913		
D13	-	イノシシ/ブタ	上胸骨	m<d>つ	L	1	14			1483	823	14	080906		
-	-	イノシシ/ブタ	足指骨	p	?	1				742	1092	-	120607		
L11	-	イノシシ/ブタ	肋骨	p	?	1				742	462	-	120607		
-	-	イノシシ/ブタ	肋骨	p	?	1				742	463	-	120607		
N10	SK01	イノシシ/ブタ	肩甲骨	関節部	L	1				696	1016	-	120704		
-	-	イノシシ/ブタ	脛骨	脛体	-	1				934	431	-	120606		
-	-	イノシシ/ブタ	上胸骨	m<d>	L	1	13	SF		946	767	-	120604		
-	-	イノシシ/ブタ	尺骨	n	L	1				961	1089	-	120506		
A14	-	イノシシ/ブタ	足指骨		?	1				2752	965	一括	080109		
B10	P12	イノシシ/ブタ	肋骨	n	?	1				4244	3112	-	080204		
C10	P11	イノシシ/ブタ	輪軸		-	1				2141	2098	-	-		
C17	P14	イノシシ/ブタ	尺骨	n	?	1				4203	2134	-	080130		
P15	SK17	イノシシ/ブタ	踵骨	n	?	1				2742	115	-	080350		
P17	P2	イノシシ/ブタ	大腸骨	d>	L	1				4329	237	-	080214		
SK39	イノシシ/ブタ	中手/中足骨	p	?	1					2788	1283	-	080219		
-	-	イノシシ/ブタ	大腸骨	d>	R	1				4208	95	-	080219		
Q15	-	イノシシ/ブタ	肩甲骨	関節部欠	R	1				2547	2144	一括	080122		
-	-	イノシシ/ブタ	上胸骨	d>	L	1				2547	2148	一括	080122		
-	-	イノシシ/ブタ	脛骨	n	L	1	8	功敷		2547	2053	一括	080122		
P2	イノシシ/ブタ	後頭骨		-	1					4344	1218	-	080212		
P14	イノシシ/ブタ	上胸骨	m<d>	L	1	9				4340	808	-	080208		
P27	イノシシ/ブタ	脛骨	(p>つ>m)	R	1	14				4339	164	-	080212		
P30	イノシシ/ブタ	尺骨	p	L	1					4343	418	-	080213		
-	-	イノシシ/ブタ	肩甲骨	関節部	L	1				2529	2149	一括	080117		
-	-	イノシシ/ブタ	脛骨	d>	L	1				2529	3192	一括	080117		
-	-	イノシシ/ブタ	踵骨		R	1				2529	2081	一括	080116		
-	-	イノシシ/ブタ	肋骨	p	?	1				2529	2117	一括	080117		
P19	イノシシ/ブタ	後頭骨	後頭部	-	1					4293	1213	-	080212		
P39	イノシシ/ブタ	上胸骨	m<d>	R	1	15				4293	280	-	080212		
P18	イノシシ/ブタ	脛骨	m<d>	L	1	7	功敷			4283	2055	-	080225		
R15	-	イノシシ/ブタ	上胸骨	d>	R	1				4346	507	一括	080121		
-	-	イノシシ/ブタ	踵骨	L	1					4346	490	一括	080121		
R16	P6	イノシシ/ブタ	寛骨 (腸骨)	臼	R	1				4345	742	-	080220		
P24	イノシシ/ブタ	距骨		R	1					4243	2165	-	080377		
P25	イノシシ/ブタ	踵骨	p	L	1					4209	2307	-	080213		
P42	イノシシ/ブタ	寛骨	臼	R	1					4244	2214	-	080219		
P45	イノシシ/ブタ	第3中手骨	p	R	1					4241	2167	-	080222		
SK21	イノシシ/ブタ	歯根	fr	-	1					2743	1145	-	080213		
P11	イノシシ/ブタ	脛骨	d>	L	1	11				4219	2034	-	080219		
P29	イノシシ/ブタ	肋骨	n	?	1					4318	391	-	080221		
-	-	イノシシ/ブタ	脛骨	脛体	-	1				3421	256	一括	080116		
-	-	イノシシ/ブタ	脛骨	脛体	-	1				3421	269	一括	080116		
-	-	イノシシ/ブタ	上胸骨	m<d>	R	1	11			3421	276	一括	080116		
-	-	イノシシ/ブタ	脛骨	脛体	-	1				2710	258	一括	080117		
S15	-	イノシシ/ブタ	踵骨	n	?	1				2710	1289	一括	080117		
-	-	イノシシ/ブタ	第3中手骨	p<d>	L	1				2942	1288	一括	080111		

第109表-2. 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土したイノシシ(またはブタ) 遺体(顎骨・遊離歯以外)

\*1 残存位置凡例: w=完存, d=欠損, m=骨髄, d=歯髄, fr=破片, (p)-(d)=未磨削の骨端のみ, (p-)-(d-)=骨端未磨削状態, (p-)-(d-)は骨端のみ欠損。  
\*2 CMカッターマシ、SFスライダラフマシ

層序	地区	F <sup>1)</sup> 2)	遺構	種別	部位	残存位置	左右	数	50 (mm)	備考	骨 番号	資料 番号	取上 番号	日付		
I	H19			S15	- イノシシ/ブタ	踵骨		R	1		2942	164	一括	080111		
				S/T16/17	S006	- イノシシ/ブタ	楕骨	(d)	R	1		430	1018	-	080222	
				T14	- イノシシ/ブタ	足指骨			2583	122	-	一括	080116			
				T06	P7	- イノシシ/ブタ	脛骨	脛体	-	1		4266	2044	-	080221	
				-	P3	- イノシシ/ブタ	踵骨		R	1		4300	149	-	080212	
				-	P22	- イノシシ/ブタ	大腓骨	(d-)	R	1		4336	625	-	-	
				-	P8	- イノシシ/ブタ	脛骨	w-(d-)	R	1		2104	2175	-	080925	
				-	-	- イノシシ/ブタ	腓骨		-	1		1013	2275	-	一括	080822
				-	-	- イノシシ/ブタ	腓骨		L	1		1013	2275	-	一括	080822
				-	-	- イノシシ/ブタ	脛骨	(p-)-(d-)	R	1	10	999	2152	-	一括	080822
				-	-	- イノシシ/ブタ	脛骨	p-m	R	1	12	962	2212	-	一括	080821
				-	-	- イノシシ/ブタ	寛骨(肋骨)	fr	R	1		1436	84	380		
				-	-	- イノシシ/ブタ	頭椎		-	1		1431	2025	-		080924
				-	-	- イノシシ/ブタ	脛骨	脛体	-	1		2321	266	-		080912
				-	-	- イノシシ/ブタ	脛骨		L	1		2327	1227	-		080912
				-	-	- イノシシ/ブタ	脛骨	(p)	L	1		2320	833	-		080922
				-	-	- イノシシ/ブタ	上腕骨	w-(d-)	L	1	15	2323	883	-		081003
				-	-	- イノシシ/ブタ	頭頂骨+左側頭骨+後頭骨		-	1		1441	189	346		080821
				-	-	- イノシシ/ブタ	頭椎		-	1		936	2028	-		080911
				-	-	- イノシシ/ブタ	仙椎		-	1		936	1009	-	一括	080911
				-	-	- イノシシ/ブタ	上腕骨	(p)	R	1		2321	788	-		080912
				-	-	- イノシシ/ブタ	脛骨	p-m	L	1	15	1071	2180	211		080914
				-	-	- イノシシ/ブタ	尺骨	n	?	1		936	2113	-	一括	080911
				-	-	- イノシシ/ブタ	寛骨	□	R	1		936	2176	-	一括	080911
				-	-	- イノシシ/ブタ	踵骨		L	1		942	2192	-	一括	080919
				-	-	- イノシシ/ブタ	肩甲骨	関節部	R	1		2313	227	-		080912
				-	-	- イノシシ/ブタ	肩甲骨	関節部欠	R	1		2308	244	-		080828
				-	-	- イノシシ/ブタ	尺骨	p	L	1		929	2118	-	一括	080821
				-	-	- イノシシ/ブタ	頭椎	fr	-	1		2303	249	-		080828
				-	-	- イノシシ/ブタ	頭椎	fr	-	1		2303	251	-		080828
				-	-	- イノシシ/ブタ	五肋骨		?	1		2301	505	-		080924
				-	-	- イノシシ/ブタ	脛骨	脛体	-	1		906	2024	-	一括	080808
				-	-	- イノシシ/ブタ	脛骨	脛突起	-	1		906	2021	-	一括	080808
				-	-	- イノシシ/ブタ	肋骨	n	?	1		906	2076	-	一括	080808
				-	-	- イノシシ/ブタ	上腕骨	w-(d-)	R	1	9	2297	285	-		080827
				-	-	- イノシシ/ブタ	大腓骨	(p-)-(d-)	L	1	13	2297	99	-		080827
				-	-	- イノシシ/ブタ	上腕骨	(p-)	L	1		2295	201	-		080922
				-	-	- イノシシ/ブタ	尺骨	p-m	L	1		2296	409	-		080924
				-	-	- イノシシ/ブタ	脛骨	(p-)-m	R	1		2333	835	-		080828
				-	-	- イノシシ/ブタ	脛骨		R	1		2334	160	-		080924
				-	-	- イノシシ/ブタ	脛骨		L	1		2335	211	-		080924
				-	-	- イノシシ/ブタ	脛骨		L	1		2332	216	-		080924
				-	-	- イノシシ/ブタ	脛骨		L	1		2332	215	-		080924
				-	-	- イノシシ/ブタ	五肋骨		?	1		2336	589	-		080828
				-	-	- イノシシ/ブタ	腕頭骨	関節結節	L	1		2327	1214	-		080922
				-	-	- イノシシ/ブタ	頭椎		-	1		2338	88	-		080924
				-	-	- イノシシ/ブタ	頭椎		-	1		993	964	-	一括	080919
				-	-	- イノシシ/ブタ	脛骨	脛体	-	1		1149	2045	139		080812
				-	-	- イノシシ/ブタ	肩甲骨	関節部欠	R	1		993	2142	-	一括	080919
				-	-	- イノシシ/ブタ	脛骨	p-(d-)	R	1	11	1438	790	329		080821
				-	-	- イノシシ/ブタ	脛骨	n	L	1	13	1147	2183	138		080812
				-	-	- イノシシ/ブタ	尺骨	p-(d-)	R	1		1438	218	329		080821
				-	-	- イノシシ/ブタ	髌骨		?	1		1113	2033	146		080812
				-	-	- イノシシ/ブタ	脛骨	n	L	1		1449	112	322		080821
				-	-	- イノシシ/ブタ	脛骨		R	1		992	2035	-	一括	080811
				-	-	- イノシシ/ブタ	五肋骨	(p-)-d	?	1		992	2051	-	一括	080811
				-	-	- イノシシ/ブタ	五肋骨	w	?	1		993	2162	-	一括	080811
				-	-	- イノシシ/ブタ	腕頭骨		-	1		2099	2284	-		080922
				-	-	- イノシシ/ブタ	第3中手骨	p-(d-)	R	1		2190	2051	-		080912
				-	-	- イノシシ/ブタ	脛骨	脛突起	-	1		2136	2020	-		080922
				-	-	- イノシシ/ブタ	肋骨	p	?	1		2131	2026	-		080912
				-	-	- イノシシ/ブタ	肋骨		n	?	1	2131	2047	-		080912
				-	-	- イノシシ/ブタ	脛骨		L	1		2134	2080	-		080919
				-	-	- イノシシ/ブタ	脛骨		L	1		2134	2093	-		080919
				-	-	- イノシシ/ブタ	脛骨	w-(d-)	R	1	8	1192	2027	-		080924
				-	-	- イノシシ/ブタ	腕頭骨	関節結節	L	1		1445	1197	-		080821
				-	-	- イノシシ/ブタ	頭椎		-	1		1000	994	-	一括	080811
				-	-	- イノシシ/ブタ	脛骨	脛体	-	1		952	2040	-	一括	080821
				-	-	- イノシシ/ブタ	脛骨	脛体	-	1		952	2052	-	一括	080821
				-	-	- イノシシ/ブタ	脛骨	脛突起	-	1		1000	2018	-	一括	080811
				-	-	- イノシシ/ブタ	脛骨	脛突起	-	1		952	2022	-	一括	080821
				-	-	- イノシシ/ブタ	第3中手骨	p-m	L	1		1000	2141	-	一括	080811
				-	-	- イノシシ/ブタ	第3中手骨	p-(d-)	R	1		1000	2139	-	一括	080811
				-	-	- イノシシ/ブタ	五肋骨	w	?	1		1000	2163	-	一括	080811
				-	-	- イノシシ/ブタ	肋骨	n	?	1		952	2073	-	一括	080821
				-	-	- イノシシ/ブタ	肋骨	n	?	1		952	2061	-	一括	080821
				-	-	- イノシシ/ブタ	頭椎	脛突起	-	1		2119	2096	-		080919
				-	-	- イノシシ/ブタ	大腓骨	(p-)-(d-)	R	1	12	2119	2046	-		080910

第109表-3 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土したイノシシ(またはブタ) 遺体(顎骨・遊離歯以外)

\*1 残存位置凡例: w完存, d近位端, m骨脊, d遠位端, fr 縫片, (s)・(d)は未癒合の骨端のみ, (p)・(d)は骨端未癒合脱落, sp...・dは骨端のみ欠損

\*2 CMカッターマーク, SF スパイラルフラクチャー

層序	地区	F <sup>1)</sup> 2)	遺構	種別	部位	残存位置	左右	数	50 (mm)	備考	骨種 番号	資料 番号	取上 番号	目付		
I地区	I1	C13	P14	イノシシ/ブタ	踵骨		L	1		焼	2117	2160	-	080904		
				イノシシ/ブタ	尺骨	p	R	1				2128	2131	-	080910	
		D12	P10	イノシシ/ブタ	頭頂骨+後頭骨			-	1			2109	2306	-	080909	
				イノシシ/ブタ	踵骨	n	L	1	12			2115	2182	-	080911	
		D14	P2	イノシシ/ブタ	脛骨	m-d	R	1	13			2121	2150	-	080909	
				イノシシ/ブタ	肩甲骨							2122	2311	-	-	
		D18	P9	ブタ?	肩甲骨							大型, CM	710	1028	-	-
				イノシシ/ブタ	脛骨	脛体	-	1				1070	2043	292	080820	
		T12	-	イノシシ/ブタ	第5中手骨	p	L	1	1			710	1028	-	120618	
				イノシシ/ブタ	踵骨	p	R	1				711	953	-	120618	
	K11	-	SP2-3	イノシシ/ブタ	脛骨	脛骨	L	1	1			713	337	-	120618	
			イノシシ/ブタ	腕頭骨	腕頭骨	-	1				1287	1106	-	120607		
			イノシシ/ブタ	上腕骨	m-d	L	1	12			878	784	-	120626		
			イノシシ/ブタ	上腕骨	(d)→	L	1	1			879	898	-	120626		
			イノシシ/ブタ	脛骨	(p)→w	R	1				782	366	-	120607		
			イノシシ/ブタ	脛骨	d	R	1				738	1226	-	120608		
			イノシシ/ブタ	中手/中足骨	d	?	1				782	1041	-	120607		
			イノシシ/ブタ	系肋骨		?	1				878	373	-	120626		
			イノシシ/ブタ	系肋骨		?	1				738	374	-	120608		
			イノシシ/ブタ	上腕骨	(d)→	L	1				908	808	-	120626		
	L11	-	イノシシ/ブタ	腓骨		R	1				855	1134	-	120608		
			イノシシ/ブタ	距骨		R	1				908	629	-	120626		
			イノシシ/ブタ?	肋骨	p	?	1				855	460	-	120608		
			イノシシ/ブタ	踵骨	L	1	1				714	908	-	120618		
	L12	-	イノシシ/ブタ	脛骨	脛体	-	1				809	1055	-	120612		
イノシシ/ブタ			大腸骨	(p)	?	1				909	786	-	120612			
M9	-	イノシシ/ブタ	脛骨	n	R	1	13			842	1220	-	120607			
		イノシシ/ブタ	肩甲骨	関節部	L	1	1			716	1018	-	120628			
		イノシシ/ブタ	前頭骨		L	1	1			772	1085	-	120626			
		イノシシ/ブタ	胸椎	棘突起	-	1				772	441	-	120626			
		イノシシ/ブタ	大腸骨	(p)→(d)→	R	1	13			772	784	-	120626			
		イノシシ/ブタ	脛骨	(p)→(d)→	R	1	9			772	1228	-	120626			
		イノシシ/ブタ	踵骨	d	L	1	1			719	797	-	120618			
		イノシシ/ブタ?	肋骨	p	?	1				717	459	-	120623			
		イノシシ/ブタ	肩甲骨	関節部	R	1				757	1268	-	120618			
		イノシシ/ブタ	上腕骨	m-(d)→	R	1	12			667	755	-	120625			
W10	-	SP17	イノシシ/ブタ	上腕骨	(d)→	R	1				SF	667	763	-	120625	
		イノシシ/ブタ	大腸骨	d	R	1					焼	773	790	-	120619	
		イノシシ/ブタ	尺骨	p	R	1						751	951	-	120625	
		SP25	イノシシ/ブタ	大腸骨	(p)	?	1					768	785	-	120625	
		イノシシ/ブタ	脛骨	脛体	-	1					845	428	-	120608		
		イノシシ/ブタ	肩甲骨	関節部	L	1					783	1017	-	120608		
		イノシシ/ブタ	肩甲骨(腸骨)	fr	??	1					783	1003	-	120608		
		イノシシ/ブタ	尺骨	p	L	1					焼	845	781	-	120608	
		イノシシ/ブタ	尺骨	p	L	1						845	826	-	120608	
		イノシシ/ブタ	尺骨	n	R	1						846	783	-	120608	
二地区	-	イノシシ/ブタ	寛骨(腸骨)	fr	L	1					846	543	-	120608		
		イノシシ/ブタ	脛骨	p	R	1					焼	846	577	-	120608	
		イノシシ/ブタ	脛骨	d	L	1					焼	846	1228	-	120608	
		イノシシ/ブタ	踵骨		R	1						774	912	-	120607	
		イノシシ/ブタ	第2中手骨	w	L	1						846	1032	-	120608	
		イノシシ/ブタ	中手/中足骨	d	??	1						焼	845	1040	-	120608
		イノシシ/ブタ	四肢骨	n	??	1						846	300	-	120608	
		イノシシ/ブタ	上腕骨	m-(d)→	L	1	14				SF	780	769	-	120608	
		イノシシ/ブタ	脛骨		R	1						777	336	-	120628	
		イノシシ/ブタ	脛骨	fr	-	1						777	1108	-	120628	
M11	-	SP21-22	イノシシ/ブタ	肩甲骨	関節部	R	1				777	1269	-	120628		
		イノシシ/ブタ	寛骨(腸骨)	臼	L	1	1					774	339	-	120628	
		イノシシ/ブタ	胸椎		-	1						747	383	-	120627	
		SP32	イノシシ/ブタ	上腕骨	(p)	??	1					焼	745	793	-	120623
		イノシシ/ブタ	第4中手骨	p-(d)→	L	1	1					745	1030	-	120623	
		SP55	イノシシ/ブタ	脛骨	(d)	R	1					764	1229	-	120629	
		SP63	イノシシ/ブタ	尺骨	p	L	1	1				765	834	-	120702	
		イノシシ/ブタ	腕頭骨	関節部	L	1	1					873	1079	-	120619	
		イノシシ/ブタ	肩甲骨	関節部	L	1						791	1006	-	120607	
		イノシシ/ブタ	尺骨	n	L	1					焼	879	782	-	120618	
M12	-	SP27-28	イノシシ/ブタ	大腸骨	n	L	1	13			SF	794	517	-	120608	
		イノシシ/ブタ	脛骨	p	R	1	15				SF	794	575	-	120608	
		イノシシ/ブタ	中手/中足骨	(d)→	??	1					焼	793	1045	-	120608	
		イノシシ/ブタ	第3中手骨		R	1						707	421	-	120627	
		SP12	イノシシ/ブタ	前頭骨		L	1					887	1086	-	120628	
		SP13	イノシシ/ブタ	胸椎	棘突起	-	1					689	1054	-	120618	
		SP20	イノシシ/ブタ	尺骨	p	L	1	1				877	823	-	120623	
		SP21	イノシシ/ブタ	第4中手骨	p-(d)→	R	1					681	420	-	120623	
		SP23	イノシシ/ブタ	第4中手骨	p	R	1					683	619	-	120703	
		イノシシ/ブタ	尺骨	p	L	1	1					837	837	-	120608	
O8	-	SP93	イノシシ/ブタ	胸椎		-	1				556	436	-	120703		
		SP93	イノシシ/ブタ	胸椎		-	1				556	436	-	120703		
O9	SK01	イノシシ/ブタ	前頭骨	関節部	L	1	1			633	1080	-	120627			

第109表-4. 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土したイノシシ(またはブタ) 遺体(顎骨・遊離歯以外)

\*1 残存位置凡例: w=完存, n=近位端, m=骨脊, d=遠位端, fr=縫片, (a)-(d)=は未磨削の骨端のみ, (p)-(d)=は骨端未磨削状態, sp...d=は骨端のみ欠損  
\*2 CMカットマーク、SF=スバルトラフマーク

層序	地区	F11 <sup>1)</sup>	遺構	種別	部位	残存位置	左右	数	50 (mm)	備考	骨端 番号	資料 番号	取上 番号	目付
III地区	Q7	P9	SX01	イノシシ/ブタ	肋骨	(p>w)	R	1	11		606	501	-	120703
				肋骨	p	?	1		665	461	-	120719		
		SP4	イノシシ/ブタ	第5中肋骨	p-(d-)	R	1		760	572	-	120719		
			SP6	イノシシ/ブタ	腰椎	-	1		705	571	-	120703		
		SK01	イノシシ/ブタ	大腿骨	n	R	1	14	731	390	-	120718		
			イノシシ/ブタ	上腕骨	(d>)	R	1		SF	1061	757	-	120606	
		-	イノシシ/ブタ	尺骨	p-w	R	1		1061	943	-	120606		
			イノシシ/ブタ	上腕骨	m-(d>)	L	1	13	CM	431	505	-	120717	
		M14	イノシシ/ブタ	上腕骨	m-(d>)	L	1	15	SF	403	777	-	120608	
			イノシシ/ブタ	上腕骨	d	L	1		403	403	-	120608		
	-	イノシシ/ブタ	大腿骨	n	L	1	13	SF	405	1132	-	120608		
		イノシシ/ブタ	踵骨	-	L	1		403	906	-	120608			
	SK01	イノシシ/ブタ	上腕骨	m-(d>)	R	1		911	752	-	120702			
		SP3	イノシシ/ブタ	中手/中足骨	(d-)	?	1		地	906	1046	-	120627	
	N13	イノシシ/ブタ	肩甲骨	fr	?	1		地	646	1002	-	120611		
		イノシシ/ブタ	上腕骨	(d>)	R	1		SF	465	760	-	120611		
	-	イノシシ/ブタ	上腕骨	(d>)	R	1		SF	501	756	-	120607		
		SP10	イノシシ/ブタ	上腕骨	m-(d>)	L	1	12	SF	995	771	-	120620	
	SP20	イノシシ/ブタ	尺骨	p	R	1		地	900	630	-	120620		
		SP25	イノシシ/ブタ	脛骨	n	R	1	11	地	904	1231	-	120606	
N14	イノシシ/ブタ	後頭骨	後頭顆	-	1		地	860	1107	-	120611			
	イノシシ/ブタ	肩甲骨	関節部	L	1		地	860	1019	-	120611			
-	イノシシ/ブタ	上腕骨	n	L	1	12	地	463	1023	-	120611			
	イノシシ/ブタ	吻骨	p	L	1		地	808	614	-	120607			
-	イノシシ/ブタ	脛骨	p-w	R	1	13	地	463	964	-	120611			
	イノシシ/ブタ	脛骨	n	L	1	12	地	462	1224	-	120611			
-	イノシシ/ブタ	踵骨	-	R	1		地	462	913	-	120611			
	イノシシ/ブタ	踵骨	-	R	1		地	464	911	-	120608			
-	イノシシ/ブタ	四肢骨	n	?	1		地	463	394	-	120611			
	イノシシ/ブタ	顎頭骨	顎頭結節	L	1		地	993	411	-	120608			
SK01	イノシシ/ブタ	顎頭骨	岩部	?	1		地	993	412	-	120608			
	イノシシ/ブタ	上腕骨	(d>)	L	1		SF	1049	805	-	120626			
-	イノシシ/ブタ	尺骨	p	L	1		地	900	942	-	120608			
	イノシシ/ブタ	中手/中足骨	d	?	1		地	993	1039	-	120608			
N15	イノシシ/ブタ	系肋骨	-	?	1		地	993	371	-	120608			
	イノシシ/ブタ	系肋骨	-	?	1		地	993	375	-	120608			
-	イノシシ/ブタ	大腿骨	-	?	1		地	993	378	-	120608			
	イノシシ/ブタ	寛骨	臼	R	1		地	586	537	-	120607			
-	イノシシ/ブタ	四肢骨	n	?	1		地	587	397	-	120607			
	SP6+7	イノシシ/ブタ	脛骨	n	?	1	11	地	800	497	-	120629		
SP9-10	イノシシ/ブタ	大腿骨	(d>)	R	1		SF	962	787	-	120623			
	SP20	イノシシ/ブタ	腰椎	fr	-	1		1011	1109	-	120702			
O13	イノシシ/ブタ	脛骨	體体	-	1		地	417	435	-	120614			
	イノシシ/ブタ	脛骨	體体	-	1		地	416	439	-	120614			
-	イノシシ/ブタ	上腕骨	m-(d>)	L	1	15	SF	416	778	-	120614			
	イノシシ/ブタ	上腕骨	(d>)	R	1		地	486	508	-	120607			
-	イノシシ/ブタ	尺骨	p	R	1		地	416	946	-	120614			
	SP4	イノシシ/ブタ	脛骨	(p>w)	L	1	12	地	884	504	-	120620		
O14	イノシシ/ブタ	肩甲骨	fr	?	1		地	492	1004	-	120608			
	イノシシ/ブタ	四肢骨	n	?	1		地	473	402	-	120608			
O15	SK06	イノシシ/ブタ	中肋骨	w	?	1		933	990	-	120628			
	イノシシ/ブタ	尺骨	p	L	1		地	476	838	-	120607			
SP6	イノシシ/ブタ	腰椎	棘突起	-	1		地	944	442	-	120703			
	イノシシ/ブタ	脛骨	n	L	1	11	地	947	956	-	120703			
P11	SP8	イノシシ/ブタ	大腿骨	n	L	1	13	948	389	-	120629			
	SP17	イノシシ/ブタ	四肢骨	n	?	1		943	398	-	120702			
SP25	イノシシ/ブタ	踵骨	n	R	1	13	900	1013	-	120702				
	イノシシ/ブタ	上腕骨	m-(d>)	L	1	13	地	481	996	-	120615			
-	イノシシ/ブタ	尺骨	p	L	1		地	480	830	-	120615			
	イノシシ/ブタ	肩甲骨	関節部	R	1		地	579	1267	-	120612			
P12	イノシシ/ブタ	上腕骨	(d>)	R	1		SF	579	758	-	120612			
	イノシシ/ブタ	脛骨	n	?	1	11	地	579	1128	-	120612			
-	イノシシ/ブタ	踵骨	-	R	1		地	577	916	-	120611			
	イノシシ/ブタ	踵骨	-	R	1		地	579	919	-	120612			
P13	SK07	イノシシ/ブタ	脛骨	p-w	L	1	15	地	486	957	-	120702		
P14	SP2	イノシシ/ブタ	腰椎	-	1		地	950	385	-	120625			
	イノシシ/ブタ	脛骨	pfr	L	1		地	479	500	-	120614			
P15	イノシシ/ブタ	脛骨	-	L	1		地	479	636	-	120614			
	イノシシ/ブタ	肋骨	p	?	1		地	479	464	-	120614			
Q6	SK01	イノシシ/ブタ	第5中肋骨	p-(d-)	R	1		912	1031	-	120719			
SK01	イノシシ/ブタ	寛骨	臼	L	1		地	912	536	-	120719			
	SP3	イノシシ/ブタ	脛骨	(p>?)-(d-)	L	1	11	地	703	922	-	120719		
Q10	SP2-3	イノシシ/ブタ	脛骨	n	R	1	13	地	853	1130	-	120703		
	イノシシ/ブタ	脛骨	-	R	1		地	978	955	-	120703			
SK03	イノシシ/ブタ	脛骨	n	?	1	12	地	977	1127	-	120627			
	イノシシ/ブタ	脛骨	體体	-	1		地	803	729	-	120626			
Q11	SP2	イノシシ/ブタ	脛骨	體体	-	1		803	729	-	120626			
	イノシシ/ブタ	大腿骨	(p>?)	L	1	14	SF	803	526	-	120626			

第109表-5. 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土したイノシシ(またはブタ)遺体(顎骨・遊離歯以外)

\*1 残存位置凡例: w=完存, d=近位端, m=骨脊, d=遠位端, fr=縫片, (a)-(d)=未定態の骨種のみ, (p)-(d)=骨種未定骨種, sp...d=骨種のみ未定

\*2 CMカッターマーカー, SP=スライダルマーカー

層序	地区	F(No.)	遺構	種別	部位	残存位置	左右	数	SD (mm)	備考	骨種 番号	資料 番号	取上 番号	目付				
第Ⅳ章	H地区	Q11		SP6	イノシシ/ブタ	鹿椎	fr	-	1		焼	871	1056	-	120626			
				SP15	イノシシ/ブタ	尺骨	p	R	1				931	947	-	120626		
				SP44	イノシシ/ブタ	寛骨(恥骨)	白	R	1				969	601	-	120704		
				-	イノシシ/ブタ	鹿椎	fr	-	1				811	1211	-	120614		
				-	イノシシ/ブタ	頰甲骨	関節部次	R	1				811	1011	-	120614		
				-	イノシシ/ブタ	尺骨	p	L	1				806	831	-	120614		
				-	イノシシ/ブタ	大腿骨	(d-)	R	1				806	387	-	120614		
				-	イノシシ/ブタ	脛骨	n	L	1	12			806	1223	-	120614		
				SK03	イノシシ/ブタ	上腕骨	m-(d-)	R	1	12			1095	751	-	120626		
				SK72	イノシシ/ブタ	脛骨	n	L	1				1016	905	-	120626		
				SP28	イノシシ/ブタ	脛骨	m-(d-)	R	1	12			972	523	-	120625		
				-	イノシシ/ブタ	鹿椎	-	-	1				498	380	-	120615		
				-	イノシシ/ブタ	鹿椎	-	-	1				603	1185	-	120615		
				-	イノシシ/ブタ	上腕骨	m-(d-)	L	1	10			525	776	-	120611		
				-	イノシシ/ブタ	上腕骨	m-(d-)	L	1	12			521	897	-	120611		
				-	イノシシ/ブタ	上腕骨	(d-)	L	1				503	812	-	120616		
				-	イノシシ/ブタ	上腕骨	(d-)	L	1				498	899	-	120615		
				-	イノシシ/ブタ	上腕骨	d	L	1				525	774	-	120611		
				-	イノシシ/ブタ	脛骨	p	L	1				606	961	-	120615		
				-	イノシシ/ブタ	脛骨	n	R	1	13			605	1126	-	120615		
				-	イノシシ/ブタ	脛骨	n	R	1	16			526	1129	-	120611		
				-	イノシシ/ブタ	第3中手骨	p-(d-)	L	1				525	424	-	120611		
				-	イノシシ/ブタ	第4中手骨	p	L	1				526	423	-	120611		
				-	イノシシ/ブタ	脛骨	p	R	1				526	574	-	120611		
				-	イノシシ/ブタ	脛骨	n	R	1	12			498	530	-	120615		
				-	イノシシ/ブタ	四肢骨	n	R	1				503	295	-	120616		
				SK72	イノシシ/ブタ	脛骨	p=m	L	1	14			1036	958	-	120625		
				-	イノシシ/ブタ	尺骨	p	L	1				1036	822	-	120625		
				SP2	イノシシ/ブタ	脛骨	脛体	-	1				1008	434	-	120625		
				SP2-3	イノシシ/ブタ	尺骨	p	L	1				1009	820	-	120629		
				SP21	イノシシ/ブタ	脛骨	脛体	-	1				1011	432	-	120625		
				SP30	イノシシ/ブタ	上腕骨	(d-)	R	1				SP	1019	762	-	120704	
				-	イノシシ/ブタ	頰甲骨	関節結節	-	1				607	930	-	120615		
				-	イノシシ/ブタ	軸骨	-	-	1				623	381	-	120615		
				-	イノシシ/ブタ	腕骨	棘突起	-	1				607	439	-	120615		
				-	イノシシ/ブタ	上腕骨	m-(d-)	R	1	11			607	754	-	120615		
				-	イノシシ/ブタ	尺骨	p	L	1				607	1022	-	120615		
				-	イノシシ/ブタ	大腿骨	m-(d-)	L	1	14			SP	607	524	-	120615	
				R10	SP29	イノシシ/ブタ	尺骨	p	L	1				925	841	-	120712	
				-	イノシシ/ブタ	脛骨	n	L	1				926	909	-	120702		
				R11	SK01	イノシシ/ブタ	脛骨	p=d	L	1	12			1054	959	-	120704	
				SP12	イノシシ/ブタ	脛骨	d	L	1	15				1079	1236	-	120704	
				-	イノシシ/ブタ	玉趾骨	p=m	R	1					825	377	-	120706	
				SK01	イノシシ/ブタ	上腕骨	n	L	1	12				1068	388	-	120704	
				SK01 (A)	イノシシ/ブタ	腕骨	-	-	1					1064	437	-	120702	
				SP5	イノシシ/ブタ	鹿椎	-	-	1					1046	1169	-	120704	
				SP6	イノシシ/ブタ	上腕骨	(d-)	R	1					1041	759	-	120702	
				SP9	イノシシ/ブタ	寛骨(恥骨)	白	L	1					1041	1017	-	120702	
				SP9	イノシシ/ブタ	大腿骨	(d-)	R	1					1041	789	-	120704	
				SP17-18	イノシシ/ブタ	脛骨	n	R	1	15				1049	1131	-	120702	
				SP21	イノシシ/ブタ	上腕骨	(d-)	L	1					1044	902	-	120705	
				SP49	イノシシ/ブタ	上腕骨	(d-)	R	1					1066	509	-	120704	
				-	イノシシ/ブタ	頰甲骨+頰頭骨	L+R	-	1					673	1143	-	120615	
				S8	-	イノシシ/ブタ	大腿骨	(p-)m	L	1	11			673	525	-	120615	
				S9	-	イノシシ/ブタ	脛骨	n	R	1				966	1135	-	120615	
				SK72	イノシシ/ブタ	上腕骨	(d-)	R	1					SP	436	761	-	12
				SP31	イノシシ/ブタ	頰甲骨	関節部	R	1	12				452	1104	-	120717	
				-	イノシシ/ブタ	上腕骨	(p-)m-(d-)	R	1	12				630	759	-	120724	
				-	イノシシ/ブタ	尺骨	p	R	1					630	945	-	120724	
				-	イノシシ/ブタ	脛骨	n	R	1	12				513	1234	-	120601	
				-	イノシシ/ブタ	寛骨(恥骨)	白	L	1					2866	540	-	不明	
				A1	-	イノシシ	鹿椎	-	-	1				4331	241	-	一括	080117
				-	イノシシ	脛骨	d	R	1					4090	2174	-	一括	080125
				A13	-	イノシシ	上腕骨	d	L	1				2842	1093	26	080111	
				A14	-	イノシシ	上腕骨	(d-)	R	1				2846	552	24	080111	
				-	イノシシ	尺骨	p	R	1					2903	425	169	080123	
				A15	-	イノシシ	上腕骨	(p-)m-(d-)	R	1	12			2845	566	0001	080110	
				-	イノシシ	脛骨	脛体	-	-	1				2754	264	-	一括	080123
				A19	-	イノシシ	上腕骨	(d-)	L	1				2893	651	121	080122	
				-	イノシシ	大腿骨	n	L	1					2755	166	-	一括	080117
				-	イノシシ	脛骨	n	R	1	10				2755	138	-	一括	080117
				-	イノシシ	脛骨	n	L	1					2754	491	-	一括	080123
				-	イノシシ	玉趾骨	n	R	1					2759	610	-	一括	080204
				-	イノシシ	頰甲骨	n	R	1					2861	1291	98	080122	
				-	イノシシ	頰頭骨	頰頭顆	-	-	1				2861	1291	98	080122	
				-	イノシシ	脛骨	脛体	-	-	1				1712	261	-	一括	080116
				-	イノシシ	脛骨	脛体	-	-	1				1712	261	-	一括	080116
				-	イノシシ	上腕骨	m-(d-)	L	1	11				2566	793	-	一括	080116

第109表-6. 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土したイノシシ(またはブタ) 遺体(頭骨・遊離歯以外)

\*1 残存位置凡例: w=完存, d=欠損, m=骨質, d=歯肉, fr=縫片, (a)-(d)=未磨合の骨端のみ, (p-)-(d)=骨端未磨合状態, sp-+d=骨端のみ欠損

\*2 CMカセットマーカー, SP=バイタルフラクチャー

層序	地区	F(ト)	遺構	種別	部位	残存位置	左右	数	50 (mm)	備考	骨 番号	資料 番号	取上 番号	日付
A20				-	イノシシ	上腕骨	m-d	L	1		2963	895	95	080122
				-	イノシシ	上腕骨	d<sup>u</sup>	L	1		2968	718	-	080116
				-	イノシシ	上腕骨	d	L	1		2943	267	88	080122
				-	イノシシ	脛骨	p	L	1		2905	721	101	080122
				-	イノシシ	脛骨	p	R	1		2947	1020	90	080122
				-	イノシシ	脛骨	p	R	1		2871	1021	-	080116
				-	イノシシ	脛骨	p-m	R	1		2573	965	-	080118
				-	イノシシ	脛骨	(sp-)	L	1		2966	643	-	080116
				-	イノシシ	脛骨	(sp-)	R	1	12	2966	514	-	080116
				-	イノシシ	尺骨	p	R	1		2966	421	91	080122
				-	イノシシ	脛骨	d	L	1		2573	965	-	080118
				-	イノシシ	脛骨	m	R	1		2574	155	-	080115
B1				-	イノシシ	上腕骨	m<sup>u</sup>-d<sup>u</sup>	R	1	11	4233	2124	-	080226
				-	イノシシ	上腕骨	d<sup>u</sup>	R	1	11	4235	2137	-	080117
				-	イノシシ	脛骨	n	?	1		4227	2304	-	080124
				-	イノシシ	尺骨	p	L	1		4227	2319	-	080124
				-	イノシシ	尺骨	n	?	1		4227	2314	-	080124
				-	イノシシ	寛骨	白	R	1		4226	2153	-	080117
				-	イノシシ	脛骨	n	R	1	13	4230	2177	-	080108
				-	イノシシ	脛骨	n	R	1		4235	2178	-	080117
				-	イノシシ	脛骨	d	L	1		4235	2179	-	080117
				-	イノシシ	脛骨	R	1		4233	2166	-	080226	
				-	イノシシ	脛骨	R	1		4235	2050	-	080117	
				-	イノシシ	脛骨	R	1		4235	2099	-	080117	
B15				-	イノシシ	上腕骨	d	L	1		2739	925	-	080111
B16				-	イノシシ	腕頭骨	腕頭骨	-	1		2735	1295	-	080205
	-	イノシシ	上腕骨	d<sup>u</sup>	R	1		2843	137	39	080111			
B17				-	イノシシ	脛骨	(p-)	R	1		2735	181	-	080205
	-	イノシシ	上腕骨	d<sup>u</sup>	R	1		2718	309	-	080118			
B18				-	イノシシ	尺骨	p	L	1		2713	454	-	080116
B19				-	イノシシ	上腕骨	d	R	1		2715	523	-	080117
	-	イノシシ	脛骨	p<sup>u</sup>-d<sup>u</sup>	R	1		2722	538	-	080117			
B20				-	イノシシ	脛骨	n	L	1	13	2724	524	-	080119
	-	イノシシ	上腕骨	m<sup>u</sup>-d<sup>u</sup>	L	1	17	2731	913	-	080304			
C1				-	イノシシ	系肋骨	n	?	1		2730	535	-	080304
	-	イノシシ	上腕骨	d	L	1		4332	940	-	080117			
C16				-	イノシシ	肩甲骨	関節部欠	R	1		2765	246	-	080199
	-	イノシシ	寛骨	白	L	1		2761	928	-	080313			
D19				-	イノシシ	脛骨	(sp-)	R	1		2761	685	-	080313
	-	イノシシ	脛骨	p	R	1		2478	646	-	080118			
F15				-	イノシシ	肩甲骨	関節部欠	L	1		2519	442	-	080123
	-	イノシシ	上腕骨	d	L	1		2527	910	-	080208			
	-	イノシシ	脛骨	p<sup>u</sup>-d<sup>u</sup>	R	1		1685	553	-	080122			
	-	イノシシ	尺骨	p	R	1		2520	424	-	080122			
	-	イノシシ	脛骨	(sp-)-d<sup>u</sup>	R	1	13	2522	730	-	080208			
	-	イノシシ	脛骨	R	1		2520	162	-	080122				
F16				-	イノシシ	足指骨	n	?	1		1685	1223	-	080122
	-	イノシシ	上腕骨	d<sup>u</sup>	L	1		2514	269	-	080121			
Q15				-	イノシシ	肩甲骨	関節部欠	L	1		2556	2170	-	080122
	-	イノシシ	上腕骨	m<sup>u</sup>-d<sup>u</sup>	R	1	16	2902	279	160	080123			
	-	イノシシ	上腕骨	d	L	1		2511	2123	-	080201			
	-	イノシシ	脛骨	p	R	1		2541	2185	-	080305			
	-	イノシシ	脛骨	(sp-)-d<sup>u</sup>	L	1		2555	2184	-	080212			
	-	イノシシ	脛骨	n	R	1	15	2553	2215	-	080304			
	-	イノシシ	脛骨	R	1		2549	2164	-	080117				
	-	イノシシ	肋骨	n	?	1		2552	2111	-	080122			
Q16				-	イノシシ	肋骨	d	L	1		2552	2150	-	080122
	-	イノシシ	上腕骨	d<sup>u</sup>	L	1		2908	268	-	080121			
	-	イノシシ	尺骨	p	R	1		2691	475	-	080303			
	-	イノシシ	寛骨(足骨)	白	R	1		2694	462	-	080303			
	-	イノシシ	脛骨	(sp-)-d<sup>u</sup>	L	1		2685	185	-	080121			
	-	イノシシ	脛骨	(sp-)-d<sup>u</sup>	R	1	13	2680	107	-	080121			
	-	イノシシ	脛骨	n	L	1	12	2682	117	-	080303			
	-	イノシシ	第4中足骨	p	L	1		2683	1285	-	080121			
R12				-	イノシシ	系肋骨	n	?	1		2683	193	-	080121
	-	イノシシ	第2中足骨	p	L	1		2889	1287	143	080122			
	-	イノシシ	肩甲骨	関節部	R	1		2836	204	282	080220			
	-	イノシシ	上腕骨	m-d	R	1	15	2889	284	142	080122			
R13				-	イノシシ	上腕骨	d<sup>u</sup>	L	1	10	2530	2155	-	080204
	-	イノシシ	脛骨	R	1		2549	2094	-	080121				
R14				-	イノシシ	上腕骨	m<sup>u</sup>-d<sup>u</sup>	R	1	12	2862	511	10	080118
	-	イノシシ	上腕骨	d<sup>u</sup>	L	1	7	2536	2136	-	080116			
	-	イノシシ	脛骨	p	L	1		2531	2161	-	080123			
	-	イノシシ	脛骨	(sp-)	R	1		2900	769	123	080122			
	-	イノシシ	脛骨	R	1		2531	2095	-	080123				
	-	イノシシ	中肋骨	n	?	1		1754	187	-	080116			
R14				-	イノシシ	肋骨	n	?	1		2531	2160	-	080123
R15				-	イノシシ	尺骨	p	R	1		2527	2132	-	080117

IV層 H19

第109表-7. 伊礼原遺跡 (国指定外)・伊礼原A遺跡から出土したイノシシ (またはブタ) 遺体 (顎骨・遊離歯以外)

\*1 残存位置凡例: w=完存, d=欠損, m=磨損, d=咬痕, fr=破片, (p)-(d)は未磨食の骨端のみ, (p-)-(d-)は骨端未磨食脱落, sp...d-は骨端のみ欠損

\*2 CMカットマーチ、SF スパイラルマーカー

層序	地区	F111	遺構	種別	部位	残存位置	左右	数	50 (mm)	備考	骨頭 番号	資料 番号	取上 番号	日付	
R15				-	イノシシ?	肋骨	p	?	1		2527	2117	-	080117	
				-	イノシシ	上腕骨	-d<+	R	1		2948	510	4	080110	
				-	イノシシ	脛骨	p	L	1		2603	850	-	080121	
				-	イノシシ	大腿骨	n	L	1	12	2601	93	-	080303	
				-	イノシシ	大腿骨	n	L	1		2660	167	-	080116	
				-	イノシシ	大腿骨	w<d<+	L	1	14	2644	236	6	080110	
				-	イノシシ	脛骨	-p<+	d	L	1	2668	180	-	080121	
				-	イノシシ	脛骨	w<d<+	R	1	9	2668	102	-	080121	
				-	イノシシ	中肋骨	?	?	1		2600	186	-	080122	
				-	イノシシ	脛骨	n	?	1		4302	68	-	080214	
R16				-	イノシシ	脛骨	n	R	1	12	2602	530	-	080139	
				-	イノシシ	尺骨	p	L	1		2598	431	-	080121	
				-	イノシシ	尺骨	pr	R	1		2597	221	-	080109	
				-	イノシシ	尺骨	p	R	1		2597	422	-	080109	
				-	イノシシ	脛骨	-p<+	-d<+	L	1	10	2508	301	-	080121
				-	イノシシ	脛骨	d	L	1		2508	363	-	080121	
				-	イノシシ	距骨		L	1		2508	214	-	080121	
				-	イノシシ	椎骨		椎体	-	1	2667	259	-	080221	
				-	イノシシ	椎骨		椎体	-	1	2662	257	-	080121	
				-	イノシシ	肩甲骨	関節部欠	R	1		2786	243	-	080122	
R17				-	イノシシ	上腕骨	-d<+	L	1		2674	608	-	080304	
				-	イノシシ	上腕骨	-d<+	L	1		2672	270	-	080121	
				-	イノシシ	脛骨	p	R	1		2668	1022	-	080304	
				-	イノシシ	脛骨	p	R	1		2663	1026	-	080221	
				-	イノシシ	脛骨	pr	L	1	13	2667	1019	-	080221	
				-	イノシシ	脛骨	pr	R	1		2668	1060	-	080204	
				-	イノシシ	尺骨	p	L	1		2669	429	-	080304	
				-	イノシシ	尺骨	pr	R	1		2668	220	-	080304	
				-	イノシシ	尺骨	p	R	1		2663	476	-	080221	
				-	イノシシ	尺骨	p	R	1		2669	479	-	080122	
R18				-	イノシシ	尺骨	pr	L	1		2641	419	-	080131	
				-	イノシシ	第2中手骨	p	L	1		2674	1286	-	080304	
				-	イノシシ	大腿骨	-p<+	?	2		2291	239	-	080304	
				-	イノシシ	脛骨	pr<+	-d<+	L	1		2664	183	-	080225
				-	イノシシ	脛骨	n	L	1		2668	636	-	080304	
				-	イノシシ	脛骨	n	L	1		2667	177	-	080221	
				-	イノシシ	脛骨	d	L	1		2668	182	-	080304	
				-	イノシシ	脛骨	n	?	1		2673	116	-	080220	
				-	イノシシ	脛骨	-d<+	?	1		2676	111	-	080222	
				-	イノシシ	踵骨	L	1		2667	485	-	080221		
R19				-	イノシシ	踵骨	L	1		2609	446	-	080122		
				-	イノシシ	踵骨	L	1		2670	488	-	080221		
				-	イノシシ	踵骨	R	1		2665	156	-	080221		
				-	イノシシ	踵骨	R	1		2675	159	-	080220		
				-	イノシシ	踵骨	R	1		2673	153	-	080220		
				-	イノシシ	踵骨	R	1		2669	154	-	080122		
				-	イノシシ	上腕骨	w<d<+	R	1	13	2624	275	273	080220	
				-	イノシシ	脛骨	-p<+	R	1		2471	829	-	080121	
				-	イノシシ	尺骨	?	?	1		2470	550	-	080319	
				-	イノシシ?	肋骨	p	?	1		2470	124	-	080319	
R20				-	イノシシ	肩甲骨	関節部	L	1		2694	145	131	080122	
				-	イノシシ	肩甲骨	関節部	R	1		2880	205	-	080116	
				-	イノシシ	上腕骨	w<d<+	L	1	19	2890	778	129	080122	
				-	イノシシ	上腕骨	d	L	1		2690	988	129	080122	
				-	イノシシ	尺骨	pr	L	1		2884	399	-	080116	
				-	イノシシ	尺骨	pr	R	1		2879	219	-	080117	
				-	イノシシ	尺骨	p	R	1	13	2879	427	-	080117	
				-	イノシシ	大腿骨	n	L	1	13	2853	97	33	080117	
				-	イノシシ	大腿骨	n	R	1		2884	179	-	080116	
				-	イノシシ	大腿骨	w<d<+	L	1	13	2883	235	-	080121	
R21				-	イノシシ	大腿骨	d	R	1		2880	200	-	080118	
				-	イノシシ	踵骨	L	1		2883	497	-	080121		
				-	イノシシ	尺骨	?	?	1		2679	520	-	080117	
				-	イノシシ	上腕骨	w<d<+	R	1	11	2688	273	-	080201	
				-	イノシシ	尺骨	p	L	1		1816	416	-	080207	
				-	イノシシ	尺骨	p	L	1		2676	419	-	080307	
				-	イノシシ	大腿骨	w<d<+	R	1	15	2694	655	-	080118	
				-	イノシシ	脛骨	w<d	L	1	13	2688	1012	-	080201	
				-	イノシシ	大腿骨	d	R	1		2640	97	222	080123	
				-	イノシシ	肩甲骨	関節部	R	1		2693	230	-	080122	
R22				-	イノシシ	肩甲骨	関節部	R	1		2699	206	155	080122	
				-	イノシシ	踵骨	R	1		2711	712	-	080123		
				-	イノシシ	踵骨	R	1		2699	448	-	080221		
				-	イノシシ	踵骨	L	1		2707	493	-	080118		
				-	イノシシ	中手/中足骨	d	?	1		2693	1284	-	080122	
				-	イノシシ	上腕骨	-d<+	L	1		2454	683	-	080304	
				-	イノシシ	脛骨	-pr<+	L	1		2463	661	-	080304	
				-	イノシシ	踵骨	L	1		2436	483	-	080220		

第109表-8. 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土したイノシシ(またはブタ) 遺体(顎骨・遊離歯以外)

\*1 残存位置凡例: w=完存, d=欠損, m=骨質, d=歯肉, fr=縫片, (s)-(d)=未癒合の骨端のみ, (p)-(d)=骨端未癒合脱落, sp...d=骨端のみ欠損

\*2 CMカットマータ, SP=バイタルフラチャー

種別	地区	F <sup>1</sup> 1 <sup>1</sup>	遺構	種別	部位	残存位置	左右	数	50 (mm)	備考	骨 番号	資料 番号	取上 番号	日付			
IV層	H10			イノシシ	上胸骨	w-(d-)	R	1	12		2497	512	一括	090401			
					イノシシ	上胸骨	(d-)	L	1					1773	763	-	090327
					イノシシ	脛骨	p	L	1					2496	865	-	090201
					イノシシ	脛骨	p	R	1					2500	1024	-	090204
					イノシシ	尺骨	p	L	1					2494	453	-	090220
					イノシシ	尺骨	p	L	1					2481	455	-	090225
					イノシシ	尺骨	p-m	L	1					2494	497	-	090220
					イノシシ	寛骨	EI	R	1					2566	466	-	090326
					イノシシ	大腿骨	n	L	1					2496	168	-	090201
					イノシシ	大腿骨	n	L	1					2483	169	-	090225
					イノシシ	踵骨	L	L	1					2583	450	-	090225
					イノシシ	踵骨	L	L	1					2594	495	-	090220
					イノシシ	趾骨	L	L	1					2494	120	-	090220
					イノシシ	趾骨	p	L	1					2490	195	-	090225
					イノシシ	趾骨	p	L	1					2494	126	-	090220
					イノシシ	趾骨	p	L	1					2490	125	-	090225
					イノシシ	上胸骨	w-(d-)	L	1	11				2584	272	-	090306
					イノシシ	上胸骨	w-(d-)	L	1					2592	838	-	090118
					イノシシ	肱骨	fr	-	1					2565	250	-	090130
					イノシシ	脛骨	脛骨	-	1					2565	255	-	090130
					イノシシ	脛骨	脛骨	-	1					2581	146	-	090111
					イノシシ	脛骨	脛骨	-	1					2633	242	270	090220
					イノシシ	上胸骨	(p-)(d-)	R	1	13				2585	581	-	090130
					イノシシ	脛骨	n	R	1	13				2581	529	-	090111
					イノシシ	尺骨	p-m	R	1					2594	461	-	090111
					イノシシ	尺骨	p-m	R	1					2581	458	-	090111
					イノシシ	脛骨	(p-)(d-)	R	1					2594	745	-	090111
					イノシシ	脛骨	m-d	R	1					2592	127	-	090111
					イノシシ	脛骨	d	R	1					2593	569	-	090109
					イノシシ	踵骨	L	L	1					2585	498	-	090130
					イノシシ	脛骨	d	L	1					2655	110	-	090201
					イノシシ	中手/中足骨	p	L	1					2655	1281	-	090201
					イノシシ	尺骨	p	L	1					2654	414	-	090109
					イノシシ	脛骨	脛骨	-	1					2656	148	-	090214
					イノシシ	脛骨	脛骨	-	1					2652	688	-	090121
					イノシシ	脛骨	(d-)	R	1					2652	536	-	090121
					イノシシ	脛骨	(p)	R	1					2651	100	-	090121
					イノシシ	脛骨	(p-)(m)	R	1	8				2652	1226	-	090121
					イノシシ	脛骨	L	L	1					2652	444	-	090121
					イノシシ	脛骨	脛骨	L	1					2650	1310	-	090117
					イノシシ	上胸骨	(d-)	R	1					2650	551	-	090117
					イノシシ	尺骨	p-m	L	1					2650	408	-	090117
					イノシシ	脛骨	m	R	1	11				2650	715	-	090117
					イノシシ	脛骨	脛骨	-	1					2797	1296	-	090117
					イノシシ	脛骨	脛骨	-	1					2797	438	-	090117
					イノシシ	上胸骨	(d-)	R	1					2797	567	-	090117
					イノシシ	脛骨	n	L	1	11				2794	515	-	090117
					イノシシ	尺骨	p	L	1					2654	415	83	090122
					イノシシ	寛骨(脛骨)	EI	L	1					2794	648	-	090117
					イノシシ	踵骨	L	L	1					1944	489	-	090117
					イノシシ	脛骨	R	L	1					2794	163	-	090117
					イノシシ	中手/中足骨	d	L	1					2794	526	-	090117
					イノシシ	趾骨	p	L	1					2797	192	-	090117
					イノシシ	趾骨	趾骨	R	1					2799	1198	-	090116
					イノシシ	脛骨	脛骨	L	1					2795	147	-	090117
					イノシシ	脛骨	脛骨	R	1					2795	231	-	090117
					イノシシ	脛骨	脛骨	L	1					2795	449	-	090117
					イノシシ	脛骨	脛骨	L	1					2795	215	-	090117
					イノシシ	上胸骨	w-(d-)	L	1	14				2799	853	-	090116
					イノシシ	上胸骨	(d-)	L	1					2795	748	-	090117
					イノシシ	上胸骨	(d-)	L	1					2795	703	-	090117
					イノシシ	上胸骨	d	L	1					1941	973	-	090116
					イノシシ	脛骨	p	L	1					2795	1294	-	090117
					イノシシ	脛骨	p-m	R	1					2795	970	-	090117
					イノシシ	脛骨	n	L	1	14				2795	1290	-	090117
					イノシシ	脛骨	n	L	1	9				2795	398	-	090117
					イノシシ	尺骨	p	R	1					2795	474	-	090117
					イノシシ	尺骨	p	R	1					2795	473	-	090117
					イノシシ	尺骨	n	L	1					2795	225	-	090117
					イノシシ	寛骨(脛骨)	fr	L	1					2795	86	-	090117
					イノシシ	脛骨	脛骨	L	1					2795	82	-	090117
					イノシシ	脛骨	脛骨	L	1					2796	492	-	090117
					イノシシ	脛骨	脛骨	L	1					2795	487	-	090117
					イノシシ	脛骨	脛骨	L	1					2795	494	-	090117
					イノシシ	脛骨	脛骨	R	1					2795	152	-	090117
					イノシシ	脛骨	脛骨	R	1					2799	228	-	090321
					イノシシ	脛骨	脛骨	R	1					894	2169	-	090922
					イノシシ	上胸骨	w-(d-)	R	1	11				1416	274	534	090925

第109表-9 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土したイノシシ(またはブタ)遺体(顎骨・遊離歯以外)

\*1 残存位置凡例：w完存、p近位端、m骨脊、d遠位端、fr 腱片、(a)・(d)は未癒合の骨端のみ、(p)・(d)は骨端未癒合脱落、sp・\*・dは骨端のみ欠損

\*2 CMカットマーク、SF スパイトラフチャー

層序	地区	F <sup>1</sup> 1 <sup>1</sup>	遺構	種別	部位	残存位置	左右	数	50 (mm)	備考	骨 番号	資料 番号	取上 番号	目付
I層	H19			イノシシ	大腸骨	m-(d)→	L	1	14		455	234	455	080911
					尺骨	p	L	1		979	2120	-	拓	080821
					踵骨	踵骨	-	1		2328	265	-		080912
					第3中足骨	p	R	1		997	2140	-	拓	080821
					肋骨	n	?	1		1011	2158	-	拓	080818
					鹿椎	-	1			963	979	-	拓	080818
					肩甲骨	関節部欠	L	1		1414	443	549		080929
					橈骨	p	L	1		915	2146	-	拓	080822
					尺骨	p	L	1		915	2146	-	拓	080822
					基節骨	d	?	1		1064	2154	-	拓	080818
II層				イノシシ	肋骨	n	?	1		915	2048	-	拓	080822
					上腕骨	d	L	1		1093	2122	433		080826
					脛骨	(p)→(d)	R	1	14	1095	2172	434		080826
					尺骨	n	?	1		966	2115	-	拓	080820
					寛骨(腸骨)	fr	L	1		985	2284	-	拓	080821
					肋骨	n	?	1		907	2151	-	拓	080814
					橈骨	n	?	1	16	1417	1292	546		080929
					尺骨	p-m	L	1		1417	437	546		080929
					大腸骨	n	R	1	20	913	2309	-	拓	080929
					踵骨	L	1		1002	2101	-	拓	080928	
III層				イノシシ	上腕骨	(d)→	L	1		1018	2156	-	拓	080805
					脛骨	d	R	1	14	1057	2173	499		080924
					上腕骨	d	R	1	13	1460	198	203		080821
					上腕骨	m-(d)→	L	1	13	996	2161	-	拓	080808
					脛骨	(p)→	R	1		992	2133	-	拓	080822
					脛骨	n	R	1	13	1058	2145	495		080924
					上腕骨	m-(d)→	R	1	12	1412	282	514		080924
					基節骨	n	?	1		1413	595	515		080924
					肋骨	L	1		914	638	-		拓	120625
					中肋骨	?	1		936	379	-		拓	120614
IV層				イノシシ	頰頭骨	L	1			741	1084	-		120608
					鹿椎	-	1			872	382	-		120608
					胸椎	棘突起	-	1		741	440	-		120608
					肩甲骨	関節部	L	1		872	1015	-		120608
					肩甲骨	関節部	L	1		741	1014	-		120608
					上腕骨	(d)→	L	1		741	806	-		120608
					橈骨	p	L	1		872	962	-		120608
					橈骨	p	R	1		740	951	-		120614
					尺骨	p	L	1		872	821	-		120608
					尺骨	p	L	1		872	827	-		120608
V層				イノシシ	尺骨	p	R	1		872	948	-		120608
					第3中足骨	p-(d)→	L	1		874	1027	-		120625
					脛骨	(p)→d	L	1	15	4	794	-		120625
					肋骨	L	1		6	635	-		拓	120625
					肋骨	L	1		872	637	-		拓	120608
					肋骨	R	1		877	632	-		拓	120615
					踵骨	L	1		872	908	-		拓	120608
					踵骨	L	1		880	907	-		拓	120625
					踵骨	L	1		4	904	-		拓	120625
					第5中足骨	p	R	1		872	465	-		拓
VI層				イノシシ	中手/中足骨	d	?	1		743	921	-		120611
					尺骨	p	R	1		806	930	-		120623
					腓骨	n	?	1		836	370	-		120623
					脛骨	(p)→	R	1		812	576	-		120614
					踵骨	R	1		940	915	-		拓	120625
					上腕骨	(p)→d	R	1	12	796	804	-		120621
					踵骨	R	1		914	914	-		拓	120610
					踵骨	R	1		671	910	-		拓	120625
					肋骨	R	1		725	631	-		拓	120629
					頰頭骨	頰頭骨	-	1		655	1067	-		CM
VII層				イノシシ	踵骨	踵骨	-	1		655	433	-		120628
					頰頭骨	棘突起	?	1		823	415	-		120614
					腰椎	-	4			73	587	-		120706
					肩甲骨	関節部	L	1		735	1013	-		120705
					肩甲骨	関節部	L	1		735	1096	-		120705
					肩甲骨	関節部欠	L	1		824	1005	-		120615
					上腕骨	(p)→d	L	1	13	735	772	-		120705
					橈骨	p-m	R	1	15	824	965	-		120615
					尺骨	p	L	1		875	840	-		120622
					尺骨	p-m	R	1		824	940	-		120615
VIII層				イノシシ	寛骨(腸骨)	臼	L	1		823	289	-		120614
					寛骨(腸骨)	臼	L	1		824	342	-		120613
					上腕骨	n	?	1	11	725	404	-		120705
					大腸骨	n	L	1		824	518	-		120615
					基節骨	n	?	1		875	1038	-		120622
					基節骨	?	1			823	376	-		120614
					脛骨	(a)	L	1		690	578	-		120619
					胸椎	棘突起	-	1		831	438	-		120619

第109表-10. 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土したイノシシ(またはブタ)遺体(頭骨・遊離歯以外)

\*1 残存位置凡例: w=完存, d=近位端, m=骨脊, d=遠位端, fr=碎片, (a)-(d)=未定態の骨端のみ, (p)-(d)=骨端未定態, sp--d=骨端のみ欠損  
\*2 CMカットマーク, SF=スニッパルフラクチャー

層序	地区	Fトイ	遺構	種別	部位	残存位置	左右	数	SD (mm)	備考	骨端 番号	資料 番号	取上 番号	目付
III地区	N10		-	イノシシ	肩甲骨	関節部	R	1	830	1271	-	120621		
		-	イノシシ	脛骨	(d-)	R	1	804	796	-	120615			
		-	イノシシ	大躰骨	(d-)	L	1	SF	915	523	-	120622		
		-	イノシシ	距骨	R	1	915	633	-	120622				
		-	イノシシ	肩甲骨	fr	?	1	806	1091	-	120723			
		-	イノシシ	尺骨	p	L	1	805	842	-	120705			
		-	イノシシ	第3中手骨	p	L	1	844	619	-	120705			
		-	イノシシ	寛骨(脛骨+距骨)	il	R	1	267	538	-	120723			
		-	イノシシ	脛骨	m-d	L	1	14	SF	233	1235	-	120723	
		-	イノシシ	肩甲骨	関節部欠	L	1	819	1007	-	120704			
III地区	O0	-	イノシシ	肩甲骨	関節部欠	R	1	813	1009	-	120619			
		-	イノシシ	脛骨	m-d	L	1	13	814	1209	-	120622		
		-	イノシシ	脛骨	d	R	1	819	1227	-	120704			
		-	イノシシ	大躰骨	(d-)	L	1	SF	853	521	-	120611		
		-	イノシシ	肩甲骨	関節部	L	1	864	1012	-	120623			
		-	イノシシ	上腕骨	m-(d-)	L	1	14	SF	858	768	-	120615	
		-	イノシシ	上腕骨	m-(d-)	R	1	10	868	753	-	120723		
		-	イノシシ	上腕骨	m-d	R	1	13	866	800	-	120629		
		-	イノシシ	尺骨	p	L	1	860	836	-	120706			
		-	イノシシ	四肢骨	n	?	1	858	396	-	120615			
III地区	P8	-	イノシシ	尺骨	p	L	1	870	944	-	120706			
		-	イノシシ	四肢骨	n	?	1	870	534	-	120706			
		-	イノシシ	尺骨	p-m	R	1	870	944	-	120706			
		-	イノシシ	寛骨(脛骨)	fr	R	1	870	534	-	120706			
		-	イノシシ	大躰骨	(d-)	L	1	13	SF	870	522	-	120706	
		-	イノシシ	脛骨	n	?	1	13	925	499	-	120706		
		-	イノシシ	歯頭骨	L	1	1	941	1063	-	120711			
		-	イノシシ	寛骨(脛骨)	fr	R	1	269	525	-	120723			
		-	イノシシ	寛骨(脛骨)	il	L	1	940	543	-	120618			
		-	イノシシ	脛骨	(p-)-d	L	1	14	844	795	-	120705		
III地区	N13	SF16	イノシシ	肩甲骨	関節部欠	R	1	910	1008	-	120629			
		-	イノシシ	脛骨	n	R	1	12	472	1232	-	120620		
		-	イノシシ	肩甲骨	関節部	R	1	903	1270	-	120607			
		-	イノシシ	肩甲骨	関節部	R	1	902	1094	-	120618			
		-	イノシシ	尺骨	p	L	1	903	825	-	120607			
		-	イノシシ	大躰骨	(d-)	L	1	13	SF	902	519	-	120618	
		-	イノシシ	中手/中足骨	d	?	1	909	520	-	120627			
		-	イノシシ	四肢骨	n	?	1	903	401	-	120607			
		-	イノシシ	脛骨	(p-)-(d-)	R	1	10	822	503	-	120623		
		-	イノシシ	大躰骨	(d-)	L	1	13	475	386	-	120626		
IV層	O15	-	イノシシ	上腕骨	d	L	1	13	SF	478	765	-	120705	
		-	イノシシ	大躰骨	n	?	1	12	532	405	-	120625		
		-	イノシシ	肩甲骨	関節部欠	R	1	527	1010	-	120623			
		-	イノシシ	上腕骨	(d-)	L	1	530	801	-	120623			
		-	イノシシ	上腕骨	(d-)	R	1	514	307	-	120705			
		-	イノシシ	大躰骨	m-(d-)	R	1	16	SF	407	791	-	120723	
		-	イノシシ	脛骨	體体	-	1	594	1058	-	120706			
		-	イノシシ	上腕骨	m-(d-)	L	1	12	SF	594	775	-	120706	
		-	イノシシ	上腕骨	(d-)	L	1	15	SF	639	901	-	120621	
		-	イノシシ	上腕骨	(d-)	L	1	13	SF	594	807	-	120706	
III地区	P11	-	イノシシ	上腕骨	d	L	1	13	SF	592	766	-	120705	
		-	イノシシ	上腕骨	d	L	1	13	594	410	-	120706		
		-	イノシシ	上腕骨	d	R	1	13	SF	636	803	-	120628	
		-	イノシシ	尺骨	p	L	1	13	594	458	-	120706		
		-	イノシシ	尺骨	p	L	1	13	410	839	-	120705		
		-	イノシシ	第3中手骨	p	R	1	13	594	425	-	120706		
		-	イノシシ	第3中手骨	p	R	1	13	583	1029	-	120705		
		-	イノシシ	寛骨(脛骨)	fr	L	1	639	544	-	120621			
		-	イノシシ	大躰骨	n	?	1	13	408	408	-	120706		
		-	イノシシ	大躰骨	(d)	L	1	13	594	792	-	120706		
III地区	P13	-	イノシシ	脛骨	d	L	1	13	594	1237	-	120706		
		-	イノシシ	脛骨	(d)	R	1	13	594	1052	-	120706		
		-	イノシシ	距骨	L	1	13	594	634	-	120706			
		-	イノシシ	踵骨	R	1	13	594	941	-	120706			
		-	イノシシ	踵骨	R	1	13	410	779	-	120705			
		-	イノシシ	踵骨	R	1	13	410	918	-	120705			
		-	イノシシ	第3中足骨	p	L	1	13	594	1043	-	120706		
		-	イノシシ	手根/足根骨	?	?	1	594	367	-	120706			
		-	イノシシ	系節骨	?	?	1	594	372	-	120706			
		-	イノシシ	軸状	-	-	1	502	384	-	120622			
III地区	Q11	-	イノシシ	上腕骨	(p-)-(d-)	L	1	12	504	506	-	120622		
		-	イノシシ	上腕骨	(d-)	L	1	12	SF	896	811	-	120705	
		-	イノシシ	上腕骨	d	L	1	897	773	-	120706			
		-	イノシシ	脛骨	p-m	L	1	12	897	969	-	120706		
		-	イノシシ	脛骨	p-m	R	1	12	897	963	-	120622		
		-	イノシシ	尺骨	p	L	1	12	897	939	-	120706		
		-	イノシシ	大躰骨	n	R	1	13	894	391	-	120705		
		-	イノシシ	脛骨	n	L	1	10	505	1222	-	120625		
		-	イノシシ	踵骨	n	?	1	14	508	1090	-	120615		
		-	イノシシ	脛骨	n	R	1	14	508	1223	-	120615		
III地区	Q12	-	イノシシ	脛骨	p-m	L	1	12	897	969	-	120706		
		-	イノシシ	脛骨	p-m	R	1	12	897	963	-	120622		
		-	イノシシ	尺骨	p	L	1	12	897	939	-	120706		
		-	イノシシ	大躰骨	n	R	1	13	894	391	-	120705		
		-	イノシシ	脛骨	n	L	1	10	505	1222	-	120625		
		-	イノシシ	踵骨	n	?	1	14	508	1090	-	120615		
		-	イノシシ	脛骨	n	R	1	14	508	1223	-	120615		
		-	イノシシ	脛骨	n	R	1	14	508	1223	-	120615		
		-	イノシシ	脛骨	n	R	1	14	508	1223	-	120615		
		-	イノシシ	脛骨	n	R	1	14	508	1223	-	120615		

第109表-11. 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土したイノシシ(またはブタ) 遺体(顎骨・遊離歯以外)

\*1 残存位置凡例：w=完存、d=欠損、m=磨砕、o=咬痕、fr=破片、(o)-(d)=未磨砕の骨端のみ、(p)-(d)=骨端未磨砕脱落、p-、d-は骨端のみ欠損

\*2 CMカットマーク、SF=バイタルフラチャー

層序	地区	F'No'	遺構	種別	部位	残存位置	左右	数	50 (ml)	備考	骨頭 番号	資料 番号	取上 番号	目付				
IV層	ハ地区	R10		-	イノシシ	上腕骨	m-(d-)	L	1	10	SF	614	770	-	120712			
				-	イノシシ	上腕骨	(d-)	L	1	1			617	802	-	120723		
				-	イノシシ	脛骨	p	R	1	1			617	937	-	120723		
		R10		-	イノシシ	尺骨	p	L	1	1			618	824	-	120718		
				-	イノシシ	大腿骨	(d-)	L	1	1			617	520	-	120723		
				-	イノシシ	大腿骨	(d-)	R	1	1			608	788	-	120724		
		R11		-	イノシシ	鹿椎	fr	-	1	1			625	1097	-	120706		
				-	イノシシ	胸椎	棘突起	-	1	1			620	1053	-	120705		
				-	イノシシ	脛骨	m	?	1	14			626	1125	-	120628		
				-	イノシシ	尺骨	p	L	1	1			604	828	-	120706		
				-	イノシシ	寛骨(脛骨)	臼	R	1	1			620	533	-	120705		
				-	イノシシ	脛骨	(p)	L	1	1			612	1136	-	120616		
				-	イノシシ	脛骨	m	?	1	1			604	426	-	120706		
				-	イノシシ	脛骨	m	R	1	1			600	903	-	120706		
				-	イノシシ	踵骨	m	R	1	1			601	920	-	120706		
				-	イノシシ	中手/中足骨	d	?	1	1			600	1042	-	120706		
				-	イノシシ	四肢骨	n	?	1	1			612	400	-	120616		
				R12		-	イノシシ	腕頭骨	関節結節	R	1	1			545	1081	-	120621
						-	イノシシ	肩甲骨	関節部	L	1	1			544	780	-	120705
						-	イノシシ	尺骨	p	L	1	1			544	832	-	120705
				S9		-	イノシシ	脛骨	n	L	1	9			567	1225	-	120713
		-	イノシシ			尺骨	p	L	1	1			565	853	-	120718		
		S10		-	イノシシ	尺骨	p	R	1	1			568	952	-	120723		
				-	イノシシ	上腕骨	m-(d-)	R	1	12			628	510	-	120614		
		S11		-	イノシシ	尺骨	p	L	1	1			562	835	-	120723		
				-	イノシシ	第3中手骨	p	R	1	1			628	1095	-	120614		
		T10		-	イノシシ	脛骨	m	L	1	13			558	730	-	120614		
				-	イノシシ	上腕骨	(d-)	L	1	1			554	809	-	120723		
		T11		-	イノシシ	尺骨	p	L	1	1			554	829	-	120723		
				-	イノシシ	尺骨	p	R	1	1			554	949	-	120723		
		V層	H19	A19		-	イノシシ	鹿椎	-	1	4			502	248	1338	060324	
						-	イノシシ	腰椎	-	1	4			502	472	1312	060324	
						-	イノシシ	上腕骨	m-d	L	1	1			5020	880	1327	060324
						-	イノシシ	上腕骨	(d-)	L	1	1			2012	733	1255	060310
						-	イノシシ	上腕骨	d	R	1	1			2041	197	1268	060310
						-	イノシシ	脛骨	p	L	1	1			3015	628	1310	060324
						-	イノシシ	脛骨	(d-)	R	1	1			2749	1013	-45	060320
						-	イノシシ	脛骨	(d-)	R	1	1			3034	1016	1311	060224
						-	イノシシ	尺骨	p-m	L	1	1			2011	436	1257	060321
						-	イノシシ	寛骨(脛骨)	臼	L	1	1			3034	1309	1311	060324
						-	イノシシ	大腿骨	m-(d-)	R	1	14			2014	91	1237	060324
						-	イノシシ	大腿骨	d	L	1	1			2023	91	1336	060324
-	イノシシ					脛骨	(d-)	L	1	1			2054	103	1311	060324		
-	イノシシ					鹿椎	-	1	1				2570	1297	-	060318		
-	イノシシ					踵骨	骨体	-	1	?			?	262	-	-	060324	
-	イノシシ					肩甲骨	関節部	R	1	1			3016	232	1308	060324		
-	イノシシ					肩甲骨	関節部欠	L	1	1			2562	441	-	060321		
-	イノシシ					肩甲骨	関節部欠	L	1	1			2021	439	1242	060321		
-	イノシシ					上腕骨	m-(d-)	L	1	1			2016	898	1244	060321		
-	イノシシ					上腕骨	(d-)	R	1	1			2775	504	1445	060324		
-	イノシシ					上腕骨	(d-)	R	1	1			2561	522	-	060324		
-	イノシシ					上腕骨	d	R	1	1			2562	196	-45	060321		
-	イノシシ					脛骨	p	R	1	1			2839	1023	1265	060321		
-	イノシシ					脛骨	p	R	1	1			2561	1025	-	060324		
-	イノシシ					尺骨	p	L	1	1			2167	417	1237	060321		
-	イノシシ					尺骨	p	R	1	1			2839	480	1265	060321		
-	イノシシ					尺骨	p	R	1	1			2168	428	1240	060321		
-	イノシシ					尺骨	p	R	1	1			1141	240	1141	060320		
-	イノシシ					尺骨	p-m	R	1	1			3030	457	1330	060324		
-	イノシシ					寛骨	臼	R	1	1			3029	420	1329	060324		
-	イノシシ					寛骨	臼	R	1	1			3025	471	1305	060320		
-	イノシシ					寛骨(脛骨)	臼	L	1	1			2561	87	-	060324		
-	イノシシ					寛骨(脛骨)	fr	L	1	1			2561	691	-	060324		
-	イノシシ					大腿骨	(p)-(d-)	R	1	15			3018	165	1335	060324		
-	イノシシ					脛骨	(p)-(d)	L	1	1			3019	179	1306	060321		
-	イノシシ					脛骨	(d-)	R	1	1			2773	775	1441	060324		
-	イノシシ					脛骨	(d-)	R	1	1			2565	568	-	060325		
-	イノシシ					脛骨	d	L	1	1			2480	108	1439	060324		
-	イノシシ					脛骨	d	R	1	1			2774	200	1442	060324		
-	イノシシ					脛骨	m	R	1	1			2561	151	-	060324		
-	イノシシ					脛骨	m	R	1	1			2564	163	-	060324		
-	イノシシ					趾骨	p	?	1	1			2561	121	-	060324		
-	イノシシ	中手/中足骨	p	?	1	1			2577	1282	-	060305						
-	イノシシ	趾骨	p	?	1	1			2030	191	1248	060321						
-	イノシシ	趾骨	p	L	1	10			2572	194	-	060305						
R14				脛骨	p	L	1	1			2726	1293	-	060307				
R20				尺骨	p	L	1	1			2725	452	-	060325				
F16				脛骨	p-m	R	1	8		結核	2510	1222	-	060305				



第110表-1. 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土したイノシシ(またはブタ)の顎骨・遊離歯。

\* 残存位置凡例: 顎骨の[]は残存範囲, xは脱落歯, ?未確認, ( )焼出中, 咬粒段階は番号(1996)に従った。

層序	地区	F'No'	遺構	種類	部位	左右	残存位置/書種*	咬粒段階	備考	台帳 番号	取上 番号	日付
I層	H19	-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	L	C		?	2874	305	-
		-	-	イノシシ/ブタ	上顎骨	R	[M2 M3]	a/e		2873	308	-
		Q17	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	R	M3	a		2596	296	一括
H19	S12	-	-	イノシシ/ブタ	上顎骨	R	M3	e		2596	27	一括
		-	-	イノシシ/ブタ	上顎骨	R	[M1]	f		2473	16	-
		S16	SK03	イノシシ/ブタ	上顎遊離歯	R	C		?	2922	468	-
H19	S17	-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	R	C		♀	2924	49	-
		-	-	イノシシ/ブタ	上顎遊離歯	L	C		♀	2089	2110	-
		-	-	イノシシ/ブタ	上顎遊離歯	R	C			2089	2064	-
II層	P14	-	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	L	[M1 M2]	d/f		934	1111	120606
		-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	L	M1	b		413	704	120607
		-	SD06	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	L	I1			430	338	-
H19	S15	-	-	イノシシ/ブタ	上顎骨	L	[P4]			2796	292	一括
		-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	L	I2			2710	57	-
		-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	L	M2	e		2583	322	一括
		-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	L	M3	b		2583	34	一括
		-	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	?	Fr			2583	365	一括
		-	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	?	Fr			2583	367	一括
		-	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	?	Fr			2583	367	一括
		-	-	イノシシ/ブタ	上・下顎遊離歯	?	臼歯Fr			2583	45	一括
		-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	R	M3		?	497	2092	一括
		-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	R	M3		d	2317	96	-
II層	P4	-	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	R	下顎角			2007	377	-
		-	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	L	關節突起			1000	2305	一括
		-	-	イノシシ/ブタ	上顎遊離歯	L	C		?	762	624	120607
H19	K12	-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	R	C		♀	762	623	120607
		-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	R	I1			409	1059	120612
		-	-	イノシシ/ブタ	上顎遊離歯	L	C		?	845	621	120608
II層	L12	-	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	R	[d45 d44 M1 (M2x)]	c		845	622	120608
		-	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	?	Fr			696	343	120618
		-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	R	I2			764	1062	120629
II層	M0	-	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	L	[M1 M2 M3]	a/d/b		873	1113	120619
		-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	R	C		?	793	1078	120608
		-	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	R	[P2 P3a]			668	341	120719
II層	Q6	-	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	L+R	適合部:L [(I1)]-R[(I1)]			836	327	120717
		-	-	イノシシ/ブタ	切歯	R	[I1x I2x I3x]			704	1098	120718
		-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	L	I2			1061	1065	120606
H19	M14	-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	L	C		♀	403	358	120608
		-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	R	I1			405	929	120608
		-	-	イノシシ/ブタ	上顎遊離歯	L	M3	a		464	1122	120608
		-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	L	I1			644	360	120614
		-	-	イノシシ/ブタ	上顎遊離歯	R	M3	f		464	706	120608
		-	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	R	[d45x M1]	c		460	700	120611
		-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	R	I2			464	1061	120608
		-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	R	C		?	644	1077	120614
		-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	L	M1	e		990	705	120608
		-	-	イノシシ/ブタ	上顎遊離歯	L	I1			990	363	120608
II層	N15	-	-	イノシシ/ブタ	上顎骨	L	[M1x M2 M3]	a/d		565	1117	120611
		-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	L	I2			387	1064	120607
		-	-	イノシシ/ブタ	上顎骨	R	[d44 M1]			854	1048	120628
II層	O13	-	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	R	[P2x P3x P4x M1 M2]	d/v		890	1110	120629
		-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	R	C		?	423	1076	120607
		-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	R	C		?	474	1074	120608
II層	P12	-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	L	C		?	579	1072	120612
		-	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	R	[P3x P4 M1x]			518	351	120614
		-	-	イノシシ/ブタ	上顎遊離歯	L	M3	e		479	1121	120614
II層	P15	-	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	R	[Cx P2x]		?	479	1082	120614
		-	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	R	[M1]	e		1092	699	120703
		-	-	イノシシ/ブタ	上顎遊離歯	L	I1			1093	65	120703
II層	Q11	-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	R	P4			970	707	120627
		-	-	イノシシ/ブタ	上顎骨	L	[M2x M3]	e		965	1118	120703
		-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	R	C		?	406	1075	120614
II層	SP12	-	-	イノシシ/ブタ	上顎骨	L	[M3]	e		979	1120	120703
		-	-	イノシシ/ブタ	上顎骨	L	[P3 P4 M1]	e		1035	1116	120627
		-	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	R	[P4x M1x]			1006	355	120626
II層	SK03	-	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	L	[d42x d43 d44 M1]	c		606	1112	120615
		-	-	イノシシ/ブタ	上顎遊離歯	R	I1			526	357	120611
		-	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	R	[I1x I2x I3x (C) d42x d43x]			606	354	120615
II層	SP42	-	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	R	[d42x d43 d44 M1 (M2x)]	c		500	331	120615
		-	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	R	(M3)	b		603	350	120615
		-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	R	(M2)			603	702	120615
II層	Q13	-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	L	C		?	1036	1069	120625
		-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	L	I1			1055	359	120706
		-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	L	I2			1055	1066	120706
R1	SP42	-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	L	I2			1055	1066	120706

第110表-2. 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土したイノシシ(またはブタ)の顎骨・遊離歯。

\* 残存位置凡例: 顎骨の[]は残存範囲, xは脱落歯, ・未開出, [](欄)中, 史料段階は番号(1996)に就いた。

層序	地区	トイ	遺構	種類	部位	左右	残存位置/歯種*	咬痕段階	備考	台帳 番号	資料 番号	取上 番号	日付
I	R12	SP6	イノシシ/ブタ	下顎骨	L		[P4s, M1x]			1041	344		120702
				イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	L		C			1041	1071	
II	S301(B)	SP6	イノシシ/ブタ	下顎骨	R		[dbt, M1 (M2)]	c	♂	1062	520		120702
				イノシシ/ブタ	下顎骨	L		[M3 下顎枝]	c		561	1124	
III	S9	SP6	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	L		M3			685	361		120615
				イノシシ	下顎遊離歯	L		db4		w	4331	329	一
IV	R11	A1	イノシシ	下顎骨	R		[dbts, M1x]			4331	72	一	090117
				イノシシ	下顎遊離歯	L		I1			2942	326	26
V	R13	A13	イノシシ	下顎遊離歯	L		I2			2942	54	26	090111
				イノシシ	下顎遊離歯	R		C		♀	2942	50	26
VI	R14	A14	イノシシ	下顎遊離歯	L		M2			2746	323	一	090111
				イノシシ	下顎骨	R		[M2, M3]		f+d	2650	404	15
VII	R15	A15	イノシシ	上顎遊離歯	L		I1			2754	335	一	090123
				イノシシ	上顎骨	R		[P4 M1x]			2754	293	一
VIII	R19	A19	イノシシ	上顎骨	R		[M2, M3]		f+e	2754	5	一	090123
				イノシシ	下顎遊離歯	R		C			2754	389	一
IX	R20	A20	イノシシ	下顎骨	?		fr		V層A20資料S80と結合	2756	74	一	090115
				イノシシ	上顎遊離歯	L		M2		d	2869	39	03
X	R21	A20	イノシシ	下顎骨	L		[M2]		f	2572	520	一	090116
				イノシシ	下顎骨	L		[M2, M3]		e	2870	353	04
XI	R22	A20	イノシシ	下顎遊離歯	L		I1			2563	391	一	090116
				イノシシ	下顎遊離歯	L		C		♂	2568	397	一
XII	R23	A20	イノシシ	上顎遊離歯	R		P4			2563	590	一	090116
				イノシシ	下顎骨	R		[db3s, db4x]			2563	79	一
XIII	R24	A20	イノシシ	下顎骨	R		[P2x, P3, P4x, M1]		l	1712	60	一	090116
				イノシシ	下顎骨	R		[P4x, M1x, M2x, M3]			2867	363	02
XIV	R25	A20	イノシシ	下顎骨	R		歯肉突起			2569	81	一	090117
				イノシシ	下顎遊離歯	R		C		♀	2566	52	一
XV	R26	A20	イノシシ	下顎遊離歯	R		C		♂	2567	386	一	090116
				イノシシ	下顎骨	?		fr			2572	368	一
XVI	R27	A20	イノシシ	下顎遊離歯	?		C, fr		♂	2575	430	一	090108
				イノシシ	上/下顎遊離歯	?		臼歯fr			2563	379	一
XVII	R28	A20	イノシシ	下顎骨	L		[C, P1x, P2x, P3x, P4x, M1x, M2x, M3]		b	4228	2126	一	090304
				イノシシ	下顎骨	L		[P4, M1, M2]		d+v	4235	2104	一
XVIII	R29	A20	イノシシ	下顎遊離歯	L		M2		d	4232	2103	一	090304
				イノシシ	下顎遊離歯	R		C		♂	4235	2078	一
XIX	R30	A20	イノシシ	下顎骨	L		C		♂	2713	392	一	090116
				イノシシ	上/下顎遊離歯	?		臼歯fr			2283	2127	一
XX	R31	A20	イノシシ	下顎骨	L		[M1]		n	1685	309	一	090122
				イノシシ	上顎遊離歯	R		M2		d	1685	24	一
XXI	R32	A20	イノシシ	下顎遊離歯	L		db4		n	2517	326	一	090110
				イノシシ	下顎遊離歯	L		M3		b	2544	2065	一
XXII	R33	A20	イノシシ	下顎遊離歯	R		C		♂	2557	2077	一	090307
				イノシシ	上顎骨	R		[P4, M1x]			2901	298	145
XXIII	R34	A20	イノシシ	上顎遊離歯	R		M2		b	2901	25	145	090122
				イノシシ	上顎遊離歯	R		M3		a	2901	294	145
XXIV	R35	A20	イノシシ	下顎骨	R		[C, P2x, P3, P4, M1, M2x]		d	2639	66	299	090220
				イノシシ	上顎遊離歯	?		I1			1906	58	一
XXV	R36	A20	イノシシ	上顎遊離歯	L		C		♂	2597	435	一	090109
				イノシシ	下顎骨	L		[P2x, P3x, P4x, M1x]			2630	359	269
XXVI	R37	A20	イノシシ	下顎遊離歯	L		I1			2613	340	一	090123
				イノシシ	下顎遊離歯	L		I1			2630	341	269
XXVII	R38	A20	イノシシ	下顎遊離歯	L		I2			2613	53	一	090123
				イノシシ	下顎遊離歯	L		C		♀	2630	325	269
XXVIII	R39	A20	イノシシ	下顎遊離歯	L		M3		b	2630	33	269	090220
				イノシシ	上顎骨	R		[M2]		c	2588	307	一
XXIX	R40	A20	イノシシ	上顎遊離歯	R		M1		d	2588	312	一	090109
				イノシシ	下顎骨	R		[P2x, P3x, P4x, M1x]			2613	356	一
XXX	R41	A20	イノシシ	下顎骨	R		[P2, P3, P4, M1, M2, M3]		d+v	2630	402	269	090220
				イノシシ	下顎遊離歯	R		I1			2613	348	一
XXXI	R42	A20	イノシシ	下顎遊離歯	R		I1			2630	350	269	090220
				イノシシ	下顎遊離歯	R		I2			2613	344	一
XXXII	R43	A20	イノシシ	下顎遊離歯	R		C		♂	2613	387	一	090123
				イノシシ	下顎骨	L		[P4x, M1x]			2765	73	一
XXXIII	R44	A20	イノシシ	下顎遊離歯	L		C			3041	80	一	090313
				イノシシ	下顎遊離歯	L		P4			2678	8	一
XXXIV	R45	A20	イノシシ	切歯骨	R		[I1x, I2x]			2668	373	一	090304
				イノシシ	上顎骨	R		[P4]			2668	306	一
XXXV	R46	A20	イノシシ	下顎骨	R		[M1]		n	2662	17	一	090225
				イノシシ	上顎遊離歯	R		C		♂	2559	469	一
XXXVI	R47	A20	イノシシ	下顎骨	R		[P2]			2668	302	一	090304
				イノシシ	下顎骨	R		[M2]		c	2668	319	一
XXXVII	R48	A20	イノシシ	下顎遊離歯	R		C		♂	2669	388	一	090122
				イノシシ	下顎骨	?		fr			2672	369	一

第110表-3. 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土したイノシシ(またはブタ)の頭骨・遊離歯。

\* 残存位置凡例: 骨骨の[]は残存範囲, xは脱落部, ・未測定, ( )検出中, 斜線区画は金子(1996)に従った。

層序	地区	トイ	遺構	種類	部位	左右	残存位置/書種*	咬痕 痕跡	備考	台帳 番号	資料 番号	取上 番号	日付	
H19	S18	-	イノシシ	下顎遊離歯	?		C fr	o <sup>+</sup>		2067	421		080221	
					?		C fr	o <sup>+</sup>		2069	433	一括	080122	
		-	イノシシ	下顎骨	?						1915	371		080214
					L		M1	d		2083	308	一括	080121	
		-	イノシシ	下顎遊離歯	L						2008	67	165	080123
					R		[P3 P4 M1]	e		2009	65	165	080123	
		-	イノシシ	下顎遊離歯	R						2008	355	165	080123
					R		[M12]	h+v		2076	376	一括	080307	
		-	イノシシ	下顎骨	R						2711	403	一括	080123
					R		[d6x d6h d6k M1 <M2>]	b		2099	343	一括	080221	
		-	イノシシ	下顎遊離歯	L						2465	317		080220
					L		[M2]	e		2465	329		080220	
	-	イノシシ	下顎遊離歯	L						2465	40		080220	
				L		M1	f		2465	32		080220		
	-	イノシシ	下顎遊離歯	L						2465	26		080220	
				L		[M2]	e		2465	26		080220		
	-	イノシシ	下顎遊離歯	R						2465	345		080220	
				R		C		o <sup>+</sup>	2465	289		080220		
	-	イノシシ	下顎遊離歯	R						2465	11		080220	
				L		[P4 M1]	b		1789	299	一括	080328		
	-	イノシシ	上顎遊離歯	L						2494	44		080220	
				L		M3	a		2500	300	一括	080304		
	-	イノシシ	下顎骨	L						2490	405		080225	
				L		[Cx P2x P3x P4x]			2500	362	一括	080304		
	-	イノシシ	下顎骨	L						2492	337		080221	
				L		[P2x P3 P4x]			2481	393		080225		
	-	イノシシ	下顎遊離歯	L						1789	311	一括	080328	
				R		M2	d		2494	23		080220		
	-	イノシシ	下顎遊離歯	R						2490	346		080225	
				L		[P3 P4 M1 M2]	e+b		2885	360	125	080122		
	-	イノシシ	上顎骨	R						2505	3	一括	不明	
				R		[P4 M1]	f		2585	318	一括	080130		
	-	イノシシ	下顎遊離歯	L						2650	55		080117	
				L		[2]			2650	56		080117		
	-	イノシシ	下顎遊離歯	R						2650	304	一括	080117	
				R		[P2x P3]			2850	9	一括	080117		
-	イノシシ	上顎遊離歯	L						2794	333	一括	080117		
			L		[d64 M1]	m+c		2797	334	一括	080117			
-	イノシシ	下顎遊離歯	L						1939	321	一括	080306		
			R		M2	d		1944	75	一括	080117			
-	イノシシ	切歯管	R						[11x 12x 13x]			080117		
			R		[Cx P2 P3 P4 M1]	i		2797	63	一括	080117			
-	イノシシ	上顎遊離歯	L						2795	332	一括	080117		
			L		[d62x d63x d64x M1x]			2795	412	一括	080117			
-	イノシシ	下顎骨	L						2795	303	一括	080117		
			L		[d63 d64]	f		2802	314	一括	080118			
-	イノシシ	下顎遊離歯	L						1941	398	一括	080116		
			L		C		o <sup>+</sup>	2795	330	一括	080117			
-	イノシシ	下顎遊離歯	L						2795	327	一括	080117		
			L		d64	m		2795	326	一括	080117			
-	イノシシ	下顎遊離歯	L						2795	39	一括	080117		
			L		d64	m		2795	361	一括	080117			
-	イノシシ	下顎遊離歯	R						2795	383	一括	080117		
			R		C		o <sup>+</sup>	2795	12	一括	080117			
-	イノシシ	下顎遊離歯	R						2795	29	一括	080117		
			R		M1	b		2795	31	一括	080117			
-	イノシシ	下顎遊離歯	R						2795	31	一括	080117		
			R		M1	b		916	2128		080826			
I地区	A12	-	イノシシ	下顎骨	L		[P2x P3x P4x M1x]			1410	354	501	080924	
					L		[P3 P4 M1 M2]	d+h		1447	349	316	080820	
		-	イノシシ	下顎遊離歯	R					1447	342	316	080820	
B11	-	イノシシ	下顎遊離歯	L					1103	2089	310	080820		
				L					973	2116	一括	080825		
				L		C		o <sup>+</sup>	973	2109	一括	080825		
B13	-	イノシシ	下顎遊離歯	L					973	2130	一括	080825		
				L					2883	14	一括	080121		
				L		P3			872	338		120608		
K12	-	イノシシ	上顎骨	L					[d62 d63 d64]			1049	120608	
				L					5	696		120625		
				L		[P2×P3 P4 M1]	e		2	856		120625		
-	イノシシ	下顎骨	L						[M2x M3x 下顎骨]		o <sup>+</sup>	資料568と同一個体		
			L					872	342		120608			
			L		(12)			872	708		120608			
-	イノシシ	下顎遊離歯	L						M2	d		120608		
			R					872	1115		120608			
			R		[P4 M1 M2]	e/f		872	339		120608			
-	イノシシ	上顎遊離歯	R						C	o <sup>+</sup>	資料568と同一個体			
			R					2	856		120625			
			R		[C P1x P2x P3 P4 M1 M2 M3]	d/e/b		877	1093		120615			
-	イノシシ	下顎骨	R						歯肉突起			741	1050	120608
			R											

第110表-4. 伊礼原遺跡 (国指定外)・伊礼原A遺跡から出土したイノシシ (またはブタ) の顎骨・遊離歯。

\* 残存位置凡例: 顎骨の[]は残存範囲, xは脱落歯, ・未測定, ( )は出土中, 斜線区画は歯子 (1996) に従った。

層序	地区	トイ	遺構	種類	部位	左右	残存位置/書種*	咬痕 記録	備考	台帳 番号	資料 番号	取上 番号	日付	
二地区		L11	-	イノシシ	下顎遊離歯	L	M3	-		811	1119		120614	
		M9	-	イノシシ	上顎骨	L	[db4 M1 (M2)]			735	1114		120705	
			-	イノシシ	下顎骨	L+R	適合部: L [I1 I2x]・R [I1 I2x]			875	532		120622	
		O8	-	イノシシ	下顎遊離歯	?	P3			867	703		120723	
		O9	-	イノシシ	下顎骨	R	[M2 M3]	d/c		822	698		120705	
			-	イノシシ	下顎骨	L	[Cx P2x P3x P4x]		o <sup>+</sup>	865	528		120718	
		P8	-	イノシシ	下顎骨	R	[I2 I3x C P1x P2x P3x P4]		o <sup>+</sup>	867	529		120718	
		P9	-	イノシシ	下顎遊離歯	L	C		o <sup>+</sup>	926	1067		120706	
		Q7	-	イノシシ	下顎骨	L	[db4x M1 (M2x)]			936	1133		120615	
四層		N13	SP10	イノシシ	上顎骨	R	[db2 db3x db4 (P4x)]			919	362		120628	
			-	イノシシ	下顎骨	R	[P2 P3 P4]			472	340		120620	
			-	イノシシ	下顎骨	R	[db4 M1 (M2)]	e		498	349		120615	
		O12	-	イノシシ	下顎遊離歯	R	C		♀	498	346		120615	
		O14	-	イノシシ	下顎遊離歯	L	C		o <sup>+</sup>	3029	1070		120715	
		P11	-	イノシシ	上顎骨	L	[Cx P2x]		♀	531	612		120705	
		P12	-	イノシシ	下顎遊離歯	L	I2			530	1063		120622	
		Q10	-	イノシシ	下顎遊離歯	L	C		o <sup>+</sup>	412	1068		120725	
			-	イノシシ	切歯骨	R	[I3x]			594	931		120706	
			-	イノシシ	上顎骨	R	fr		地	594	1047		120706	
		六地区	Q11	-	イノシシ	下顎骨	R	[M]	e		594	701		120706
				-	イノシシ	下顎骨	R	[M2 M3]	e/d		164	697		120706
				-	イノシシ	上顎骨	?	fr		地	594	1051		120706
				-	イノシシ	上顎遊離歯	L	M2	e		591	356		120621
				-	イノシシ	下顎骨	L	[P2 P3 P4x P5x M1x]			501	348		120621
				-	イノシシ	下顎遊離歯	R	I1			506	1060		120628
		R11	-	イノシシ	下顎遊離歯	R	M1	e		501	353		120621	
			-	イノシシ	下顎遊離歯	R	(M3)			501	352		120621	
-	イノシシ		上顎骨	L	[P3 P4x M1]	f	同一個体	550	347		120616			
-	イノシシ		上顎骨	R	[P3 P4 M1]	f		550	347		120616			
-	イノシシ		上顎骨	L	[M1M2]	b+a		4394	2125		090307			
-	イノシシ		下顎骨	L	[P3x P4 M1]	e		4394	2049		090307			
V層	H19	A13	-	イノシシ	上顎遊離歯	R	M3			2745	297	-	090306	
		A15	-	イノシシ	上顎遊離歯	L	M3			3096	2	1325	090324	
			-	イノシシ	上顎遊離歯	L	[P4 M1 M2 M3]	e+d-b		2823	434	1256	090321	
			-	イノシシ	上顎骨	L	C	o <sup>+</sup>		5015	357	1310	090324	
			-	イノシシ	上顎遊離歯	L	C			2812	305	1255	090310	
		A19	-	イノシシ	下顎骨	L	[P2x P3x P4x M1x M2 M3]	d-b		3030	4	1326	090324	
			-	イノシシ	下顎骨	L	[P3]			3036	6	1325	090323	
			-	イノシシ	上顎骨	R	[P4 M1 M2]	a+f		3036	6	1325	090323	
			-	イノシシ	上顎骨	R	[P4 M1 M2]			3027	71	1324	090324	
			-	イノシシ	下顎骨	R	[Cx P2x P3x P4x]		o <sup>+</sup>	2812	1309	1255	090310	
			-	イノシシ	下顎骨	?	歯肉突起			2818	46	1253	090321	
			-	イノシシ	上/下顎遊離歯	?	臼歯fr			3017	289	1309	090324	
			-	イノシシ	上顎骨	L	[M1M2]	b+f		2561	358	-	090324	
			-	イノシシ	下顎骨	L	[Cx db2x db3x db4 M1 (M2)]	d		3035	352	1331	090324	
			-	イノシシ	下顎骨	L	[M1x - 下顎角]			2561	631	-	090324	
			-	イノシシ	下顎骨	L	歯肉突起			2564	13	-	090324	
			-	イノシシ	下顎遊離歯	L	P4			3017	291	1309	090324	
		-	イノシシ	上顎骨	R	[P4 M1]	e		3031	1	1334	090324		
		-	イノシシ	上顎骨	R	[P4 M1 M2 M3]	e+f+a		2577	310	-	090305		
		-	イノシシ	上顎骨	R	[M]	a	♀	2833	42	1264	090321		
		-	イノシシ	上顎遊離歯	R	C			3017	7	1309	090324		
		-	イノシシ	上顎遊離歯	R	P3			3017	15	1309	090324		
		-	イノシシ	上顎遊離歯	R	P3			2827	62	1246	090321		
		-	イノシシ	下顎骨	R	[Cx P2x P3x P4 M1x]		o <sup>+</sup>	2826	61	1249	090321		
-	イノシシ	下顎骨	R	[P2x P3 P4]			3017	351	1309	090324				
-	イノシシ	下顎骨	R	[M1 M2]	f+e		2830	64	1251	090321				
-	イノシシ	下顎骨	R	[M1x M2x M3]			2562	601	-	090321				
-	イノシシ	下顎骨	R	歯肉突起			2565	385	-	090325				
-	イノシシ	下顎遊離歯	R	C		o <sup>+</sup>	2830	380	1250	090310				
-	イノシシ	下顎遊離歯	R	C			2578	28	-	090318				
-	イノシシ	下顎骨	?	fr			2822	366	1241	090321				
-	イノシシ	下顎骨	L	[C P2 P3 P4 M1 M2 M3]	a+a+k		2832	77	1266	090321				
B20	-	イノシシ	下顎骨	R	[M]	e		2725	22	-	090325			
	-	イノシシ	下顎遊離歯	R	M2	a		2725	315	-	090325			
	-	イノシシ	下顎遊離歯	R	M1	f		2525	313	-	090305			
P16	-	イノシシ	上顎遊離歯	R	M3	e		2525	295	-	090305			
	-	イノシシ	下顎遊離歯	R	C		o <sup>+</sup>	2525	382	-	090305			
Q15	-	イノシシ	下顎骨	R	[P2 P3 P4]			2548	2105	153	090310			
	-	イノシシ	下顎遊離歯	R	C		o <sup>+</sup>	2548	2090	-	090310			
Q17	-	イノシシ	上顎骨	L	[M1M2]	f+a		2505	290	-	090304			
	-	イノシシ	上顎遊離歯	L	M2	d		2507	20	-	090305			
	-	イノシシ	上顎遊離歯	R	C		o <sup>+</sup>	2507	467	-	090305			
R17	-	イノシシ	下顎骨	?	fr			2610	364	-	090324			
	-	イノシシ	下顎遊離歯	?	C fr		o <sup>+</sup>	2607	432	-	090321			

第110表-5. 伊礼原遺跡 (国指定外)・伊礼原A遺跡から出土したイノシシ(またはブタ)の頭骨・遊離歯。

\* 残存位置凡例: 骨骨の[]は残存範囲, xは脱落後, ・未出土, ()未出土, 斜線区画は金子(1996)に従った。

層序	地区	トイ	遺構	種類	部位	左右	残存位置・表種*	咬痕 記録	備考	台帳 番号	資料 番号	取上 番号	日付		
V層	H19	R18	-	イノシシ	上顎骨	L	[P4 前]	↑			2956	296	-	090321	
			-	イノシシ	下顎遊離歯	L	C			IV層H18資料M0と接合	2666	80	-	090321	
			-	イノシシ	下顎骨	R	関節突起				2907	571	798	090320	
			-	イノシシ	下顎遊離歯	R	C				2907	384	798	090320	
			-	イノシシ	下顎骨	R	関節突起				2961	586	一括	090324	
		S17	-	イノシシ	下顎骨	L		[I1 I2 I3x C P2]			♀, 同-個体	2720	347	801	090320
			-	イノシシ	下顎骨	R		[I1x I2x I3x C P2x P3 P4 M]	d			2720	347	801	090320
			-	イノシシ	上顎骨	R		[M3]	c			2487	287	-	090321
			-	イノシシ	下顎遊離歯	R		M3	b			2484	38	一括	090319
			-	イノシシ	上/下顎遊離歯	?		臼歯Fr				2487	47	-	090321
	S19	-	イノシシ	下顎骨	?		Fr				2909	370	757	090319	
		-	イノシシ	下顎骨	L		[I1x I2x]				3309	41	1341	090324	
		-	イノシシ	下顎骨	R		[I1 I2 I3x C]			♀, 同-個体	3309	41	1341	090324	
		-	イノシシ	下顎骨	L		[I1x I2x I3x C P2x P3 P4 M3 M2 M1 角]	m+m+a			3037	76	1323	090324	
		-	イノシシ	下顎骨	R		[I1x I2x I3x Cx P2x P3 P4 M1 M2 M3]	m+m+a		♀, 同-個体	3037	76	1323	090324	
		-	イノシシ	上顎遊離歯	R		C			♀	2800	43	一括	090324	
		-	イノシシ	下顎遊離歯	R		C			♀	2800	51	一括	090324	
		-	イノシシ	下顎骨	L		[I1 I2 I3x C P1x]			♀, 同-個体	3039	375	1328	090324	
		-	イノシシ	下顎骨	R		[I1 I2 I3x C P1 P2x P3 P4 M1x]			♀, 同-個体	3039	375	1328	090324	
		-	イノシシ	下顎骨	R		[M1x M2]	d			2779	21	1470	090327	
H19 ハ地区	Q15	-	イノシシ	下顎骨	R		[Cx P1x P2 P3 P4x M1 M2 M3]	g/e/d		2499	629	-	090401		
	-	イノシシ	下顎遊離歯	L		[C]			♀	3737	1073	-	120707		
表層 ハ地区	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	R		[M3]		a		2871	324	一括	071223		
	-	イノシシ/ブタ	上顎骨	L		[ab2/P2?]				1362	400	-	091016		
不明 H19	不明	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	L		ab3			不明	301	-	不明		
		-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	L		ab4		w	不明	331	-	不明		
		-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	L		M2		d	不明	70	-	不明		
		-	イノシシ/ブタ	下顎骨	R		[ab3x ab4x (P4?)]			不明	374	-	不明		
		-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	R		P4			不明	10	-	不明		
		-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	R		M1		a	不明	20	-	不明		
		-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	?		ab2			不明	18	-	不明		
		-	イノシシ/ブタ	上/下顎遊離歯	?		臼歯Fr			不明	378	-	不明		
		-	イノシシ/ブタ	上/下顎遊離歯	?		臼歯Fr			不明	48	-	不明		
		-	イノシシ	下顎骨	R		[I1x I2x I3x C P2x P3x P4x M1 M2 M3]	e+v		♀, 種?	1386	401	43	090911	
ハ地区・表層	K6	-	イノシシ	下顎骨	R		[M3]			1366	27	117	090926		
		-	イノシシ	下顎遊離歯	R		M3		c	1368	45	115	090925		
		-	イノシシ	下顎骨	R		[P2x P3x P4x M1x]			1390	406	32	090903		
	J7	-	イノシシ	下顎骨	?		Fr			種	1813	-	52	090911	
		-	イノシシ	下顎骨	?		Fr			種	1812	-	51	090911	
ハ地区・表層	M9	-	イノシシ	下顎遊離歯	R		C			1365	381	168	091001		
	M6	-	イノシシ	下顎遊離歯	R		M2		a	1373	316	一括	090929		

第111表 伊礼原遺跡 (国指定外)・伊礼原A遺跡から出土した陸獣類遺体 (同定不可資料)。

種類	部位	残存 位置	骨種								V層		不明		ハ地区		
			H19	ハ地区	ハ地区	ハ地区	ハ地区	ハ地区	ハ地区	ハ地区	H19	ハ地区	表層	表層			
小型陸獣類 (同定不可)	腰椎																
	肋骨	w			1					1							
	上腕骨	d->									1						
陸獣類 (同定不可)	上腕骨	G)														1	
	四肢骨	w	2	1		1	3	1	5	4	1			2	1		
	肋骨					1				2	1			2			
	肋骨	p							2		1			1			
	肋骨	w			1	1	2	6	10	2			11	4	2	1	1
合計			2	1	1	3	6	7	17	9	2	12	6	6	1	1	

第112表-1. 伊礼原遺跡（国指定外）から出土したウシ・ウマ遺体

\* 残存位置凡例は第109・110表を参照

種類	遺体	地区	層位	部位	残存位置/畜種*	左右	数	計測 (mm)・備考	台帳番号	資料番号	取上番号	目録	
ウシ	H19	イ地区	R14	SK20	中肋骨		?	1	2744	592	-	080218	
			T13	-	手肋骨			1	2588	532	-	080117	
	H19	イ地区	R10	SK52	肋骨		R	1	1433	2274	-	080922	
			B11	-	中肋骨	d	?	1	1123	2269	104	080811	
			D17	SD10?	中肋骨	d	?	1	2304	818	477	080942	
			A13	-	肩甲骨	w	R	1	2625	712	271	080229	
			Q15	F6	中肋骨	w	?	1	4208	2292	-	080219	
			R15	F47	基肋骨	w	?	1	4236	2257	-	080219	
			S13	-	基肋骨	w	?	1	4346	817	-	080121	
			S14	-	肩胛 (肋骨)	fr	R	1	2886	1208	130	080122	
ウシ	イ地区	S15	-	上顎歯槽	P2	L	1	2701	1204	-	080116		
		-	上顎歯槽	R1/A2	L	2	2710	862	-	080117			
		-	上顎歯槽	断突起	?	1	2706	1225	-	080201			
		-	上顎歯槽	M1	L	1	2710	1207	-	080117			
		-	手肋骨		L	1	2710	562	-	080117			
		-	肋骨		R	1	2942	772	-	080111			
		T13	F1	中肋骨	d	?	1	4226	2233	-	080212		
		-	末肋骨		?	1	2500	607	-	080111			
		T14	P28	手肋骨		L	1	4227	2267	-	080208		
		-	中肋骨		?	1	2580	637	-	080130			
ウシ	イ地区	A11	SK62	手肋骨		L	1	2093	1215	-	080922		
		-	肋骨		L	1	999	2199	-	080822			
		-	上顎歯槽	db	R	1	999	2231	-	080822			
		-	中手/中足骨	d	?	1	999	2245	-	080822			
		-	末肋骨		?	1	1013	2235	-	080822			
		-	肋骨		R	1	1082	2216	238	080818			
		-	手肋骨		L	1	1012	2252	-	080813			
		-	踵骨		L	1	1084	2239	220	080814			
		-	中肋骨	w	?	1	946	2291	-	080814			
		-	末肋骨		?	1	1090	2363	279	080819			
ウシ	イ地区	A13	-	基肋骨	w	?	1	1085	2259	231	080818		
		B11	F10	中肋骨	d	L	1	2322	803	-	080912		
		P26	肋骨		R	1	2320	757	-	080922			
		P26	基肋骨		?	1	2320	517	-	080922			
		P26	中肋骨		?	1	2320	622	-	080922			
		-	大踵骨	d	R	1	1386	927	307	080820			
		-	踵骨		L	1	1105	2254	308	080820			
		-	中肋骨	p	R	1	1092	2238	299	080820			
		-	肋骨		R	1	998	2281	-	080821			
		-	手肋骨		L	1	1442	547	330	080821			
ウシ	イ地区	B12	-	踵骨		L	1	911	2249	-	080819		
		-	踵骨		R	1	1459	787	353	080821			
		C9	F6	基肋骨	w	?	1	998	2242	-	080821		
		-	基肋骨		?	1	2298	802	300	080814			
		P21	P22	上顎歯槽	P3	R	1	2296	1205	-	080924		
		P22	手肋骨		L	1	2234	1216	-	080824			
		P22	末肋骨		?	1	2234	997	-	080924			
		C11	F36	肋骨		?	1	2237	1212	-	080922		
		F40	基肋骨		?	1	7	682	-	080922			
		-	中肋骨	w	?	1	1067	2288	254	080818			
ウシ	イ地区	-	中肋骨	w	?	1	1130	2289	142	080812			
		F6	肋骨		R	1	2099	2256	-	080922			
		P12	基肋骨	[p]-d	?	1	2132	2255	-	080922			
		-	肋骨		L	1	1134	2268	134	080812			
		-	上顎歯槽	R1/A2	L	1	1131	2211	137	080812			
		-	基肋骨	p	?	1	1000	2242	-	080811			
		-	末肋骨		R	1	918	2280	-	080805			
		C15	F13	上顎歯槽	I	R	1	2139	2107	-	080929		
		D11	-	上顎歯槽	R1/A2	L	1	1019	2210	-	080801		
		ウシ	イ地区	D13	F40	上顎歯槽	M1	L	1	2167	2220	-	080910
-	基肋骨			d	?	1	2196	2277	P33	080825			
SK09	基肋骨			w	?	1	1099	2214	224	080818			
-	上顎歯槽			P3	R	1	1006	2228	-	080818			
-	中肋骨			w	?	1	953	2267	-	080820			
-	中肋骨			w	?	1	953	2290	-	080820			
-	基肋骨			w	?	1	1096	2258	821	080822			
K12	-			基肋骨		?	1	762	657	-	120607		
ウシ	イ地区			M10	SF6	中手骨	[d]-?	?	1	699	665	-	120618
				-	基肋骨		?	1	699	636	-	120618	
		-	中心第4位肋骨		R	1	783	888	-	120606			
		-	上顎歯槽	R1/A2	L	1	793	884	-	120608			
ウシ	イ地区	N9	-	肋骨		R	1	794	663	-	120608		
		O8	-	肩胛	w	R	1	803	1149	-	120614		
		Q6	SF9	上顎歯槽	I	R	1	827	891	-	120714		
		ウシ	イ地区	A9	SK04	上顎歯槽	I	R	1	829	890	-	120713
SF9-7	上顎歯槽			I	R	1	824	892	-	120713			

第112表-2. 伊礼原遺跡(国指定外)から出土したウシ・ウマ遺体.

\* 残存位置凡例は第109-110表を参照

種類	遺体	地区	『F1』	遺構	部位	残存位置/遺構*	左右	数	計測 (cm)・備考*	台帳番号	資料番号	取上番号	目付									
ウシ	I	I	N13	-	-	肋骨		L	1		461	639	120014									
					-	踵骨		L	1	同一個体?・CM	461	560	120014									
					-	踵骨		R	1	同一個体?	465	561	120011									
					-	中心第4足指骨		R	1		465	443	120011									
					-	中足骨	p	L	1	SF	465	667	120011									
					-	基節骨		?	1		465	662	120011									
					O13	SF19	-	-	-	上顎近端歯	M2	R	1	同一個体	1026	886	120629					
									-	上顎近端歯	M3	R	1	同一個体	1026	883	120629					
					O14	-	-	-	-	中節骨		?	1		416	694	120614					
					P15	-	-	-	-	手根/足指骨		?	1		420	430	120607					
					Q11	-	-	-	-	寛骨(恥骨)		L	1	計測<CM	479	890	120614					
					Q12	-	-	-	-	脛骨	d	L	1		496	449	120614					
									-	S803 下顎近端歯	M1/M2	L	1		1066	885	120628					
					R9	-	-	-	-	SF28 基節骨		?	1		981	693	120702					
									-	基節骨		?	1		526	653	120611					
					R9	-	-	-	-	脛骨	p	R	1	SF<CM	607	552	120615					
									-	中手骨	w	L	1		607	549	120615					
									-	中心第4足指骨		R	1		607	448	120615					
									-	中足骨	d	?	1	SF	607	417	120615					
									-	中手/中足骨	(d)	?	1		607	692	120615					
									-	基節骨		?	1		607	618	120615					
									-	基節骨		?	1		607	655	120615					
									-	末節骨		?	1		607	453	120615					
									-	手根/足指骨		?	1		673	444	120615					
									-	基節骨		?	1		673	661	120615					
					S8	-	-	-	-	尺骨	p	R	1	CM	366	536	120615					
									-	脛骨		L	1	CM	366	664	120615					
					S9	-	-	-	-	中足骨	p	R	1	SF	366	418	120615					
									-	基節骨		?	1		366	654	120723					
					S10	-	-	-	-	S808 高骨		?	1	CM	443	881	120713					
									-	S801 脛骨	p	L	1	S806, SF	444	551	120718					
					IV層	H119	-	-	-	C16 上/下顎近端歯	臼歯行	?	1		2851	1306	40	080111				
									-	R13 脛骨		L	1		2507	832	149	080122				
					不明	H119	-	-	-	上顎近端歯	M1/M2	L	1		不明	1203	不明	不明				
									-	脛骨		R	1		不明	不明	不明	不明				
					ウマ	I	I	I	I	B9	S89? 下顎近端歯	I	?	1	2144	2396	-	080925				
												B11	S836 上顎近端歯	P/M	R	1	P3 ~ M2の1/ずれみ	2088	2319	-	080925	
														-	上顎近端歯	P/M	L	1	P3 ~ M2の1/ずれみ	1133	2307	108
												I	-	下顎骨	腹方部行	L	1		839	666	-	120606
															-	脛骨		L	1		1094	2234
A12	-	-	-	-								脛骨	I	?	1	1111	2237	-	080811			
				-								下顎近端歯	I	?	1		1452	1202	369	080821		
R10	-	-	-	-								S834 基節骨		?	1	1451	697	-	080828			
				-								下顎骨		L	1	[11a 12 13 C]	1459	1211	322	080821		
R12	-	-	-	-								中節骨		?	1	1456	507	352	080821			
				-								上顎近端歯	P/M	R	1	P3 ~ M2の1/ずれみ	989	2318	-	080811		
C9	-	-	-	-								上顎近端歯	P/M	R	1	P3 ~ M2の1/ずれみ	966	2217	-	080808		
				-								中手骨	p+s	R	1		2297	848	-	080827		
P6	-	-	-	-								上顎骨	腕節突起	L	1	2306	1299	-	080919			
				-								手根/足指骨		?	1		2306	982	-	080919		
P21	-	-	-	-								基節骨		?	1	2296	507	-	080924			
				-								上顎近端歯	P/M	R	1	P3 ~ M2の1/ずれみ	2192	2220	-	080912		
P10	-	-	-	-								中手/中足骨		?	1	2101	2121	-	080922			
				-								下顎近端歯	I	?	1		1112	2251	-	080812		
C11	-	-	-	-								下顎近端歯	ds1	R	1		951	2229	-	080816		
				-								上顎近端歯	P/M	L	1	P3 ~ M2の1/ずれみ	1141	2208	135	080812		
C12	-	-	-	-								中足骨	d	?	1	1118	2232	-	080812			
				-								中手/中足骨		?	1		1458	773	386	080821		
B13	-	-	-	-								基節骨		?	1	1448	897	382	080821			
				-								基節骨	(p)	?	1		2099	2032	-	080919		
T12	-	-	-	-								S8 下顎骨	[物産 P2 P3 P4 M1 M2 M3]	L	1	切歯2本あり	1967	1150	312	080820		
				-								脛骨	d	L	1		1080	2250	290	080820		
M10	-	-	-	-								手根/足指骨		?	1		783	660	-	120608		
				-								上顎骨	腕節突起	R	1	CM	798	1144	-	120608		
Q7	-	-	-	-								基節骨		?	1		936	445	-	120615		
				-								脛骨		R	1		911	432	-	120702		
N14	-	-	-	-								S801 脛骨		R	1		468	882	-	120607		
				-								上顎近端歯	P/M	L	1	P3 ~ M2の1/ずれみ	990	894	-	120608		
N15	-	-	-	-								S801 下顎近端歯	P/M	L	1	P3 ~ M2の1/ずれみ	468	882	-	120607		
				-								中手骨	p	R	1	CM	496	563	-	120614		
Q11	-	-	-	-								中節骨		?	1		641	451	-	120614		
				-								中手骨	p	R	1	SF	979	562	-	120703		
Q12	-	-	-	-								上顎近端歯	P2	L	1		607	893	-	120615		
				-								大腭骨	<d>	L	1		607	1151	-	120615		
R9	-	-	-	-								中足骨	d	R	1	SF	607	668	-	120615		
				-	基節骨		?	1		607	448	-	120615									
S8	-	-	-	-	上/下顎近端歯	切歯	?	1		673	895	-	120615									
				-	上顎近端歯	P/M	L	1	P3 ~ M2の1/ずれみ	685	887	-	120615									

第112表-3. 伊礼原遺跡(国指定外)から出土したウシ・ウマ遺体.

\* 残存位置凡例は第109・110表を参照

種類	遺種	地区	「F1」	遺構	部位	残存位置/遺構*	左右	数	計測 (cm)・備考*	台帳番号	資料番号	取上番号	目録	
ウマ	Ⅲ層	ハ地区	T9	SP1	頸2/4中手/中足骨			1		441	422	-	120717	
			T9	-	脛骨			1		573	691	-	120615	
	Ⅳ層	H19	R12	-	下顎遠端歯	W	1		2888	1210	143	080122		
			R15	-	手組/足脛骨			1		1756	952	-	080307	
ウシ	Ⅲ層	イ地区	B11	-	大脛骨	d	1		1148	2300	106	080811		
			-	-	大脛骨	d	1		1148	2300	106	080811		
			-	-	肋骨	a	1		1476	668	70	080908		
		C19	-	肋骨	a	1		1482	623	74	080811			
		C13	-	肋骨	a	1		1464	608	83	080811			
		C18	-	大脛骨	d	1		2791	878	-	081212			
	Ⅱ地区	K12	-	手組/足脛骨				1		857	446	-	120607	
		L11	-	四肢骨	a	1		1	CM. ウシ幼獣骨骨?	742	1148	-	120607	
		A14	-	肋骨	a	1		1		2752	593	-	080109	
	Ⅳ層	H19	B17	P52	肋骨	a	1	1		4223	2189	-	080204	
			R13	P3	肋骨	a	1	1		4333	893	-	080208	
			S14	P28	肋骨	a	1	1		4217	2234	-	080225	
S15			-	肋骨	a	1	1		2710	563	-	080117		
T14			F13	肋骨	棘突起	-	1		4228	2378	-	080207		
-			-	手組/足脛骨				1		1013	2223	-	080822	
A11			-	肋骨	a	1	1		999	2221	-	080822		
-			-	肋骨	a	1	1		1013	2190	-	080822		
A12			-	椎骨	椎体	-	1		958	2276	-	080814		
-			-	椎骨	棘突起	-	1		1081	2279	242	080818		
P9			肋骨	a	1	1		2321	548	-	080912			
P26			肋骨	a	1	1		2320	533	-	080922			
H11	-	椎骨	棘突起	-	1		935	2297	-	080820				
-	-	四肢骨	a	1	1		1104	2310	304	080820				
-	-	肋骨	a	1	1		906	2309	-	080911				
B12	-	脛骨		-	1		1065	2253	-	080821				
-	-	肋骨	a	1	1		1456	518	349	080821				
P21	肋骨	a	1	1		2300	713	-	080822					
Ⅲ地区	C9	P23	脛骨	棘突起	-	1		2314	908	196	080814			
		-	-	大脛骨	d	1		978	2301	-	080811			
		F1	脛骨	棘突起	-	1		2295	667	-	080922			
	F3	肋骨	a	1	1		2297	578	-	080827				
	C11	P21	肋骨	p	1	1		2296	1219	-	080924			
		F22	肋骨	a	1	1		2333	938	-	080828			
		P24	脛骨		-	1		2332	967	-	080924			
		F40	脛骨	棘突起	-	1		2101	2198	F40	080922			
		-	-	脛骨		-	1		1454	1200	319	080820		
		-	-	肋骨	p	1	1		947	2292	-	080813		
	C12	P22	肋骨	a	1	1		2137	2225	-	080922			
		P27	肋骨	a	1	1		2134	2227	-	080919			
P34		肋骨	a	1	1		2094	2188	-	080828				
-		-	大脛骨	d	1	1		1118	2295	130	080812			
-		-	肋骨	a	1	1		1000	2303	-	080811			
-		-	肋骨	a	1	1		1149	2222	131	080812			
Ⅱ地区	D13	SK43	尺骨	滑車切痕	R	1		幼獣	2090	2068	-	080919		
	SK47	肋骨	a	1	1		2090	2187	-	080919				
	T11	-	脛骨	d	R	1		970	2270	-	080821			
	-	-	頸脛骨	岩塚部		1		1100	2293	245	080818			
	T12	-	肋骨	a	1	1		1074	2186	294	080820			
	Ⅰ地区	K11	SP2・3・4	頸脛骨	岩塚部		1		733	414	-	120623		
SP54			肋骨	a	1	1		749	1275	-	120625			
-			-	肋骨	a	1	1		873	1280	-	120619		
N9		-	-	肋骨	a	1	1		791	1276	-	120607		
		-	-	肋骨	a	1	1		791	1140	-	120607		
		P7	SP26	肋骨	a	1	1		666	1273	-	120718		
P8		-	脛骨		-	1		864	1145	-	120623			
Q6		SP08	肋骨	a	1	1		295	1278	-	120811			
A9		SK04	脛骨		-	1		439	695	-	120717			
Ⅴ地区		N13	-	-	肋骨	a	1	1		CM	429	455	-	120713
			-	-	肋骨	a	1	1		648	1141	-	120611	
			O13	-	手組/足脛骨				1		467	419	-	120607
	Q11	SP29	肋骨	p	1	1		CM	1075	1147	-	120626		
		SP29・30	肋骨	a	1	1		967	1142	-	120702			
		-	-	肋骨	p	1	1		496	889	-	120614		
		-	-	肋骨	a	1	1		CM	496	494	-	120614	
		-	-	肋骨	a	1	1		1007	1279	-	120626		
		Q12	-	肋骨	p	1	1		CM	526	1146	-	120611	
	Ⅵ地区	R11	SP42	肋骨	a	1	1		1055	1277	-	120706		
		R12	SP21	四肢骨	a	1	1		1044	1160	-	120705		
		S8	-	肋骨	a	1	1		CM	673	1137	-	120615	
-		-	肋骨	a	1	1		673	1138	-	120615			
S10		SP1	四肢骨	a	1	1		ウシ幼獣骨骨	428	1170	-	120702		
S11		SP10	肋骨	a	1	1		442	1274	-	120718			
T8		SK01	脛骨	椎体	-	1		幼獣	444	879	-	120718		
T10		SK01	肋骨	a	1	1		449	1139	-	120713			

第113表 伊礼原遺跡（国指定外）から出土した海獣類遺体。

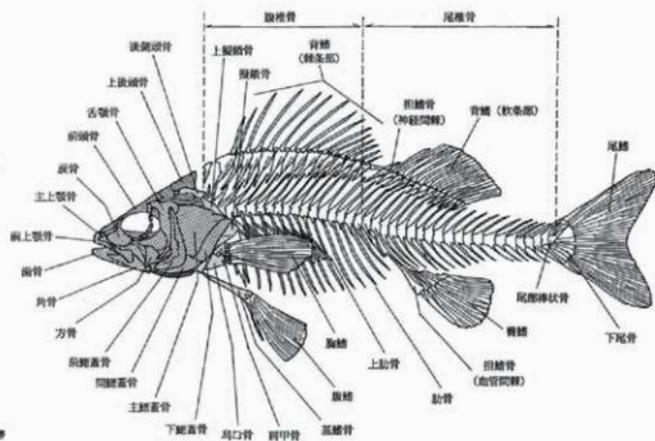
\* 残存位置凡例は第109 - 110表を参照。

種別	層序	地区	骨種	遺跡	部位	残存位置	左右	N	備考	右側 番号	資料 番号	取上 番号	目付				
ジュゴン	I層	I層	B12	-	脛骨	m	R	1		1144	2298	121	087777				
			Q17	-	不明	fr	?	1		2509	1194	一括	080121				
			S13	S302	肋骨	m	?	1		2648	1159	-	080214				
		II層	C13	-	上脛骨	fr	M	1		1479	1158	16	080807				
			P8	-	上脛骨	m+d	L	1		859	555	-	120607				
			-	-	肋骨	sp>>rd>	?	1		859	878	-	120607				
		II層	II層	R18	-	肋骨	m	?	1		946	844	-	120604			
				T13	-	椎骨	椎体	-	1		2792	953	-	080205			
				-	-	肋骨	m	?	1		2590	1193	一括	080111			
			III層	III層	N9	-	椎骨	椎体	-	1		4373	2299	P12	-		
	O8				S301	頸椎	-	1		795	814	-	120611				
	M14				-	肋骨	m	?	1		632	605	-	120629			
	IV層			IV層	N14	SP7	頸椎	-	2		403	846	-	120608			
					-	-	肋骨	d	?	1		988	607	-	120630		
					N15	-	肋骨	m	?	1		460	816	-	120611		
				V層	V層	SP17	-	不明	fr	?	1		587	854	-	120607	
		P11	SP22			頭骨	fr	?	1		943	609	-	120702			
		Q11	SP44			頭骨	fr	?	1		1023	566	-	120702			
		VI層	VI層		Q12	-	肋骨	m	?	1		969	565	-	120704		
	-				-	肋骨	m	?	1		521	847	-	120611			
	VII層		VII層		S301B	-	肋骨	m	?	1		1083	850	-	120704		
					R11	S372	肋骨	sp>>	?	1		1085	553	-	120629		
	イルカ	I層	I層	-	-	肋骨	sp>>	?	(1)	S372資料503と結合	610	553	-	120611			
				S10	SP17	肋骨	m	?	1		454	843	-	120712			
				R15	-	椎骨	棘突起	-	1		2723	1191	一括	080130			
				Q17	-	肋骨	m	?	1		3191	1160	一括	080121			
				R12	-	肋骨	m	?	1		2626	1153	278	080220			
				R17	-	不明	fr	?	1		2613	1193	一括	080123			
				S12	-	肋骨	m	?	1		2619	1154	219	080207			
				S13	-	椎骨	椎体	-	1		2628	1152	253	-			
				-	-	肋骨	m	?	1		2614	1155	245	080207			
				II層	II層	T13	-	後頭骨	右後頭額	-	1		2026	1199	28	080111	
		T14	-			不明	fr	?	1		2593	1196	一括	080116			
		T17	-			不明	fr	?	1		2652	1192	一括	080121			
		III層	III層		C15	-	上脛骨	ほぼ完全	M	1		1481	1151	19	080808		
					-	-	肋骨	m	?	1		939	2047	一括	080806		
					-	-	肋骨	m	?	1		816	843	-	120611		
			IV層		IV層	O8	SP13	頸椎	-	(1)		3層V14P07資料607と結合	555	607	-	120629	
						-	-	頸椎	-	1		807	606	-	120723		
					V層	V層	P8	-	肋骨	sp>>rd>	?	1		819	872	-	120704
							-	-	頸椎	-	(1)		3層O8資料606と結合	863	606	-	120711
		III層	III層	P9	-	頸椎	-	(1)		3層V14P07資料607と結合	864	604	-	120623			
				-	-	頸椎	-	(1)		3層V8資料604と結合	936	607	-	120706			
			IV層	IV層	O12	-	上脛骨	M	1		926	604	-	120706			
					-	-	切歯骨	L	1		488	550	-	120615			
				V層	V層	P11	-	切歯骨	M	1		535	557	-	120705		
						-	-	切歯骨	M	1		534	556	-	120621		
				VI層	VI層	P12	-	肋骨	p<rd>	?	1		178	878	-	120706	
						-	-	前頭骨・切歯骨	?	1		528	564	-	120706		
					VII層	VII層	Q11	-	肋骨	m	?	1		171	546	-	120706
							Q12	-	肋骨	m	?	1		410	849	-	120705
		R10	-				肋骨	m	?	1		170	545	-	120706		
		R11	-				肋骨	m	?	1		173	547	-	120706		
		R12	-				肋骨	m	?	1		608	852	-	120724		
		S10	-				肋骨	m	?	1		627	853	-	120705		
		IV層	IV層	R12	-	頸椎	fr	-	1		545	817	-	120621			
				S10	-	肋骨	m	?	1		576	848	-	120615			
			V層	V層	S11	-	肋骨	sp>	?	*		3層R11S372資料503と結合	571	553	-	120711	
					-	-	肋骨	p	?	1		552	815	-	120712		
					-	-	肋骨	m	?	1		552	855	-	120712		
					-	-	肋骨	m	?	1		552	851	-	120712		
					-	-	頭頂骨	L+R	-	1		515	559	-	120706		
					VI層	VI層	R14	-	椎骨	椎体	-	2		2536	2285	一括	080116
							S11	-	椎骨	椎体	-	1		364	813	-	120725
					VII層	VII層	A1	E13P	椎骨	椎体	-	1		4280	1491	520	080113
		-	-	不明			fr	?	1		2871	654	一括	071223			
		VIII層	VIII層	M11	-	不明	fr	?	1		788	934	-	120607			
				N9	-	椎骨	fr	-	1		796	658	-	120611			
		IX層	IX層	C11	P21	肋骨	fr	?	1		2296	727	-	080824			
				Q12	SP42	椎骨	-	1		986	427	-	120626				
		X層	X層	O8	SP21	不明	-	1		654	548	-	120629				

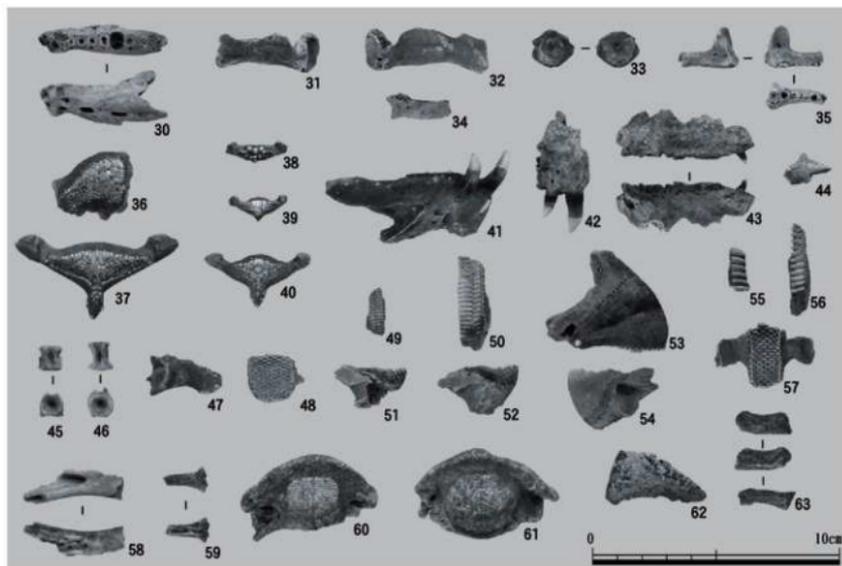
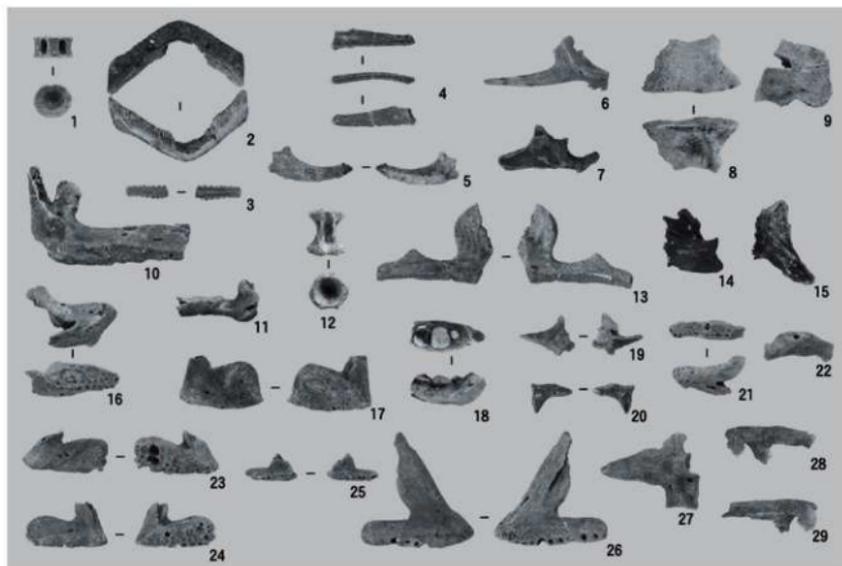


サメ類(メジロザメ型) -1椎骨 トビエイ科-2歯 エイ目-3尾棘 アナゴ科-4歯骨(L) ウツボ科-5歯骨(R) イットウダイ科-6前鰓蓋骨(R) アジ科(大型種) -7角骨(R) 8後鱗 9歯骨(R) 10前上顎骨(L) 11主上顎骨(L) 12尾椎 13アジ科(イトヒキアジ型) -13前上顎骨(R) ハタ科-14角骨(L) ハタ科(マハタ型) -15前鰓蓋骨(R) ヘダイ-16歯骨(R) 17前上顎骨(L) ヨコシマクロダイ-18歯骨(R) クロダイ属-19角骨(R) 20口蓋骨(R) 21歯骨(L) 22主上顎骨(R) 23前上顎骨(L) 24前上顎骨(R) フェフキダイ属(アマミフエフキ型) -25前上顎骨(R) フェフキダイ属(ハマフエフキ型) -26前上顎骨(R) フェフキダイ科-27角骨(L) 30歯骨(L) 31主上顎骨(L) 32主上顎骨(R) 33第1椎骨 フェフキダイ属-28口蓋骨(L) 29口蓋骨(R) 34方骨(R) フェダイ科-35前上顎骨(L) ベラ科(シロクラベラ型) -36上咽頭骨(R) 37下咽頭骨 ベラ科A-38下咽頭骨 ベラ科B-39・40下咽頭骨 ベラ科-41歯骨(R) 42前上顎骨(R) 43前上顎骨(L) 44角骨(R) ブダイ科-45腹椎 46尾椎 47主上顎骨(R) イロブダイ属-48下咽頭骨 49上咽頭骨(L) 50上咽頭骨(R) 51・52歯骨(R) オブダイ属-53前上顎骨(R) 54歯骨(L) 55上咽頭骨(L) 56上咽頭骨(R) 57下咽頭骨 モンガラカワハギ科-58腰帯 59背鰭棘 ハリセンボン科-60歯骨 61前上顎骨 フグ科-62前上顎骨または歯骨 コチ科-63歯骨(L)

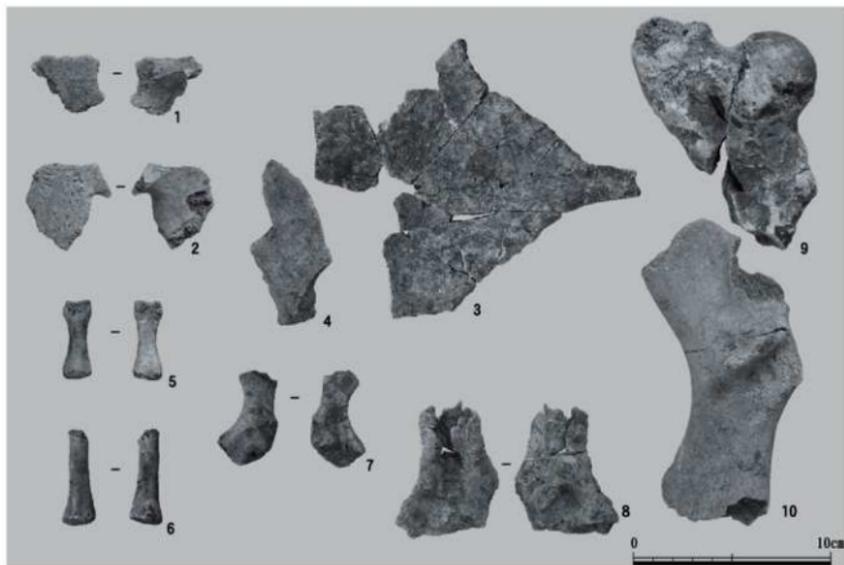
第四章



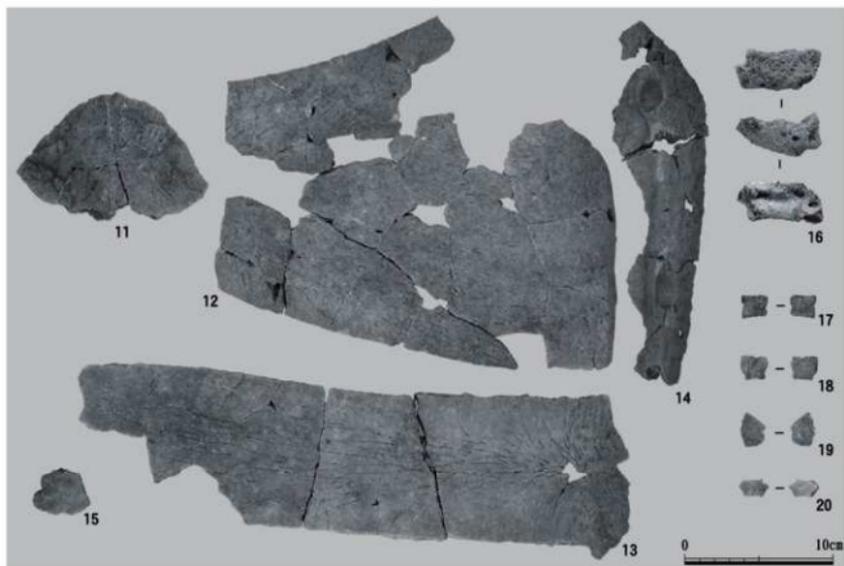
硬骨魚類(真骨上目)の骨格 (*Perca flavescens*, スズキ科), Rojo (1991) fig. 13 を改定  
引用文献: 西本豊弘・松井章編『考古学と自然科学-② 考古学と動物学』同成社 1999



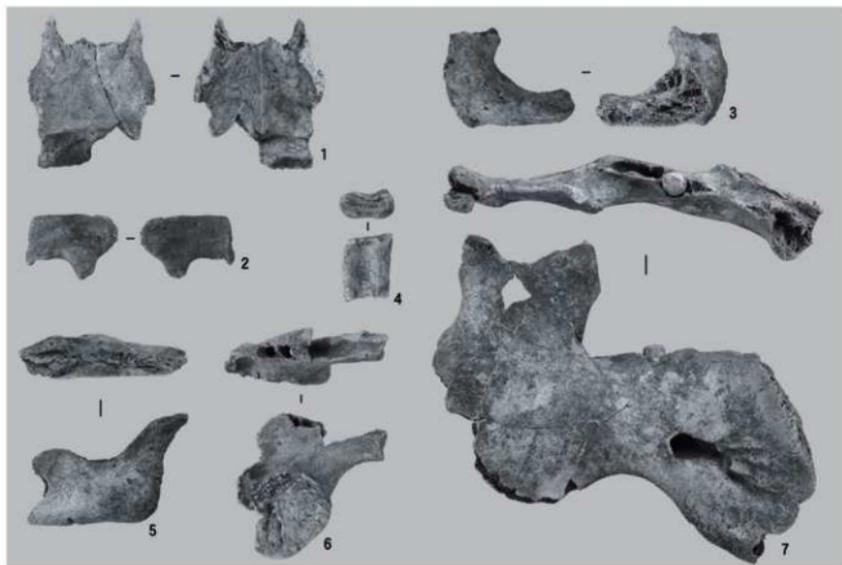
図版139 脊椎動物遺体 1 (魚類)



ウミガメー1 前頭部 2 後眼窩骨 3 腹甲板 4 剣状腹板 (L) 5・6 指骨 7・9・10 上腕骨 (L) 8 上腕骨 (R)



ウミガメー11 椎骨板 12 肋骨-緑甲板 13 肋骨板 14 緑甲板 15 髯骨板  
アオウミガメー16 歯骨 リクガメー17 腹腔板 18 剣状腹板 (L) 19 剣状腹板 (R) 20 椎骨板-最後部  
図版140 脊椎動物遺体2 (上:ウミガメ・下:ウミガメ、アオウミガメ、リクガメ)



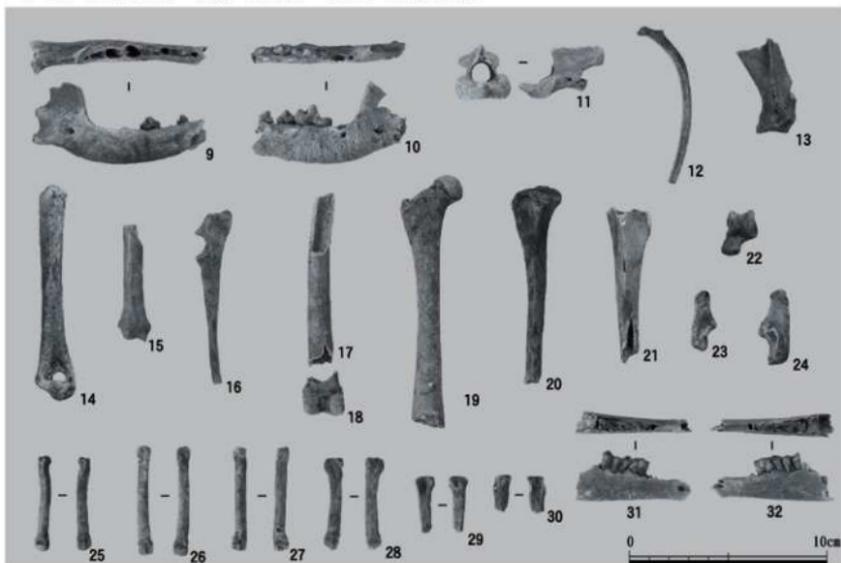
1 頭頂骨 (R-L) 2 後頭骨 3 頬骨 (R) 4 白歯 5 切歯骨 (R-L) 6 下顎骨 (R) 7 下顎骨



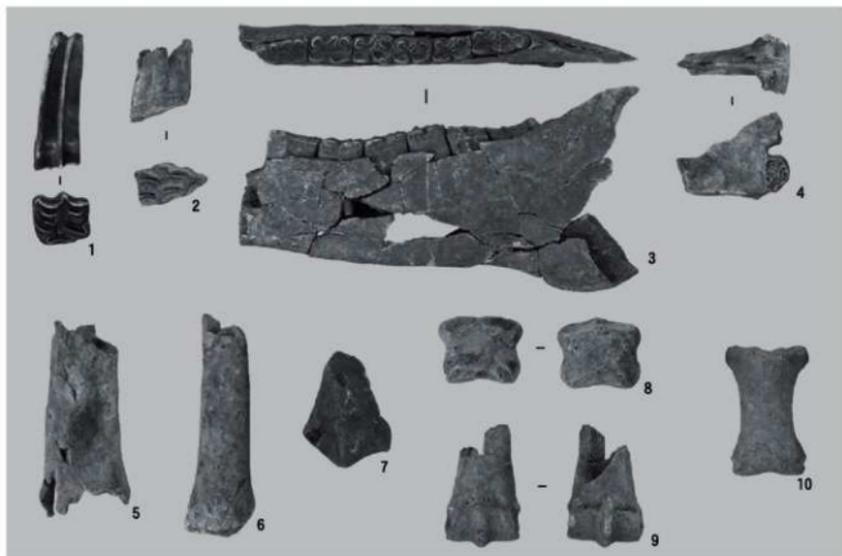
8・9 頸椎骨 10 環椎骨 11 椎骨 12 上腕骨 (L) 13 肋骨 14 ジュゴン? 部位不明  
 図版141 脊椎動物遺体3 (ジュゴン)



イルカ類-1 椎骨 クジラ-2・3 椎骨 海獣?-4 肋骨 ヘビ類-5 椎骨  
ニワトリ-6 大腿骨 (R) 鳥類-7 四肢骨 ネズミ-8 大腿骨 (R)



イヌ-9 下顎骨 (L) 10 下顎骨 (R) 11 軸椎 12 肋骨 13 肩甲骨 (L) 14 上腕骨 (L) 15 腕骨 (R) 16 尺骨 (R)  
17-18 大腿骨 (L) 19 大腿骨 (R) 20 脛骨 (L) 21 脛骨 (R) 22 距骨 (L) 23 踵骨 (L) 24 踵骨 (R) 25 第2中手骨  
26 第3中手骨 27 第4中手骨 (L) 28 第5中手骨 (L) 29 第3中足骨 (L) 30 第4中足骨 (L) ヤギ-31 歯骨 (R) 32 歯骨 (L)  
図版142 脊椎動物遺体 4 (上: イルカ、クジラ、海獣?, ヘビ、ニワトリ、鳥類、ネズミ・下: イヌ、ヤギ)



1 上顎骨 (L/Portion of Mandible) 2 上顎骨 (L/Portion of Skull) 3 下顎骨 (L) 4 下顎骨 - 関節突起 (R) 5 大腿骨 (L)  
6 中手骨 (R) 7 膝蓋骨 8 中節骨 9 中足骨 (R) 10 基節骨



11 上顎骨 (R) 12 下顎骨 (L) 13 橈骨 (R) 14 尺骨 15 踵骨 (L) 16 踵骨 (R) 17 距骨 (L)  
18 距骨 (R) 19 中節骨 20 中心第4足根骨 (R) 21 中手骨 22 中足骨 (L) 23 基節骨 24 末節骨  
図版143 脊椎動物遺体5 (上:ウマ・下:ウシ)



1 頭骨 (前頭骨+頭頂骨 L・R) 2 下顎骨 (R・L・オ) 3 下顎骨 (R) 4 下顎骨 (R・オ) 5 頸椎骨 6 頸椎骨 7 軸椎骨 8 肩甲骨 (L)  
9 上腕骨 (R) 10 橈骨 (L) 11 尺骨 (R) 12 寛骨 (L) 13 大腿骨 (L) 14 脛骨 (L) 15 腓骨 (R) 16 踵骨 17 距骨 (R)



18 中節骨 19 第2中手骨 (L) 20 第3中手骨 (L) 21 第3中足骨 (L) 22 第4中足骨 (L) 23 基節骨 24 末節骨  
イノシシ or ブタ類-25 下顎骨 (犬歯) 26 上顎骨切歯 27 下顎骨切歯 28 肩甲骨 (R) 29 上腕骨 (R) 30 橈骨 (R) 31 尺骨  
32 寛骨 (L) 33 大腿骨 (L) 34 脛骨 (R) 35 脛骨 (L) 36 踵骨 (L) 37 距骨 (R) 38 末節骨 ブタ類-39 頸椎骨  
図版144 脊椎動物遺体 6 (上: イノシシ・下: イノシシ、イノシシ or ブタ、ブタ)

## 第2節 伊礼原遺跡（国指定外）・伊礼原A遺跡の調査で得られた貝類遺体

黒住耐二（千葉県立中央博物館）

伊礼原遺跡は沖縄島中部西岸・北谷町に位置する沖縄貝塚時代の国指定史跡である。周辺は、米軍基地返還に伴って大面積の多くの発掘調査が行われており、伊礼原遺跡のハイガイを含む前Ⅱ期から、周辺の遺跡において戦前までの様々な時代の貝類遺体が報告されている（例えば黒住、2007、2008等）。

今回、伊礼原遺跡の国指定外地域および伊礼原A遺跡の広範囲な面積から貝類遺体のサンプリングが行われた。ここでは、その結果を報告する。報告に先立ち、遺跡および遺物の検討の機会を与えて頂いた北谷町教育委員会の島袋春美・山城安生・東門研治の各氏、大量の貝類遺体の同定・集計・入力を行って頂いた資料室の方々に御礼申し上げる。

### 対象サンプルと調査地点について

今回の報告対象サンプルは、伊礼原遺跡の国指定外地域では平成19年度調査、平成20年度のイ地区、平成24年度のハ・ニ両地区のものを、伊礼原A遺跡では平成20年度のロ地区から、発掘中に目視で確認されたもの（ピックアップ資料）のみである。このサンプルでは、通常殻よりもフタの方が多いチョウセンサザエで殻が極めて多く採集されており、フタサイズの2 cm程度よりも小さな貝類は取上げられていないことも想定される。ただ、複数年度にわたる調査でも、傾向は同様であり、今回の報告分に関しては、各地区間の比較に大きな影響は与えないと考えた。

得られた貝類は種の同定・出土部位・生死等を記録して、各グリッドの包含層および遺構ごとに集計された。報告者は、大部分の種の同定を行い、一部の誤同定と考えられる種に関しては沖縄の類似種に修正した。この膨大なデータを、今回は時間的な都合で、従来の最少個体数（MNI）ではなく、同定標本数（NISP）として処理した。同定標本数の場合、チョウセンサザエ等は殻とフタ・破片が、二枚貝では左右殻と破片が、それぞれ1として集計され、破片の多くなる大形種や二枚貝で、最少個体数よりも過大評価となってしまっている。ただ、今回のデータ間での比較には大きな影響を与えないと考えられる。

今回の報告に際し、平成19年度調査区では、これまで貝類遺体組成の報告の少なかった後1期初頭の阿波連浦下層土器がまとまって出土し、後続の浜屋原式土器もおよそ同一地点に集中しており（第37図）、これらをイ地区浜屋原主体区と表記・区別した。同様に19年度調査区の陸よりのグリッドでは大当原式土器が多く、これらはハ地区と連続するものと捉え、ハ地区のデータに組み込んだ。平成20年度のイ地区の大部分は、イ地区海側と表記し、まとめたが、一部は他の地区に組み込んだ。第115表に、調査時と本報告の対応を示した。なお、ニ地区は過去に報告された伊礼原D遺跡に連続するものようである。

今回報告の層序は、第Ⅱ層は土壌や攪乱を含む近世～近代の、第Ⅲ層は柱穴からの出土数が多いグスク時代（15世紀を主体とする14世紀後半～16世紀）の、第Ⅳ層は貝塚時代後1期前半の、第Ⅴ層は貝塚時代後1期初頭の阿波連浦下層式期の堆積層とされる。

### 結果および考察

今回の調査で、少なくとも第117表に示した海産腹足類34科157種、海産二枚貝類19科63種、淡水

第115表 調査時地区名と本報告地区名および対象グリッドの対応

遺跡名		伊礼原遺跡 (指定外)				
		イ地区		ハ地区	ニ地区	ロ地区
本報告の表記		海側	浜屋原主体区			
平成19年度		A9-16, B2-9-16, C1-16, D9-17	A1-18-20, B1-17-20, R17-18, S17-19, T17-20	O15-16, P15-17, Q13-17, R13-16, S12-16, T11-16		
平成20年度	イ地区	S11-12, T11-13 を除いたグリッド		S11-12, T11-13		
平成20年度	ロ地区					同じ
平成24年度	ハ地区	A9		A9を除き同じ		
平成24年度	ニ地区				同じ	

空欄は対象グリッドなし

産腹足類3科11種、陸産腹足類5科9種、その他2種の合計242分類群が確認された。

第119表には地区・層序・遺構ごとにまとめた個体数(同定標本数)を示した。以下の解析は、この第119表をもとに行った。

## 1. 興味深い貝類

今回の調査で得られた種の中には、これまで沖縄の遺跡から余り知られていなかったサンゴ礁の礁斜面の種が存在していたので、簡単に触れておきたい。同様なことは、奄美大島のマツノト遺跡の報告(黒住, 2006)でも議論しており、沖縄での検討ということになる。まず、沖縄からは現生記録のないボウシュウボラ(図版146-90)がある。遺跡からの出土記録もほとんどない種であり、ヤマトからの持ち込みの可能性も残る。オオゾウガイ(図版146-88)は沖縄に現生しているが、遺跡からの出土はほとんどない。オオナルトボラ(図版146-98)は、伊江島南岸の貝塚時代後期遺跡からは僅かながらいくつかの遺跡から知られており、本遺跡からも得られている類似種のシロナルトボラを用いた製品も知られている(黒住, 2014)。これらは、貝塚時代後1期から出土であり、この時期のゴホウラ等と共に意識されたものと考えられる。ダイミョウイモ(図版147-166)も大形個体でもあり、極めて稀なものである。図版147-189のウミウサギには上下端部に小孔が認められ、人為的な穿孔による製品の可能性も想定される。

## 2. 優占種組成

地区ごとの層位で1%以上の割合を有する種を優占種として、第118表にまとめた。ただし、タカラガイ科・イモガイ科・ウグイスガイ科・シャコガイ科は各種を一括し、イノー内の類型とした。同様に、陸産貝類のシュリマイマイ類もまとめたものとして計算した。その結果、29分類群が優占種と認められた。

マガキガイは第Ⅱ層で多く、第Ⅲ・Ⅳ層でも高い割合であるものの、第Ⅴ層では割合が低い。シャコガイ科もマガキガイに近いが、第Ⅴ層でも高い割合を保っていた。イトマキボラはむしろ第Ⅴ層で多い傾向にあった。チョウセンサザエも下層に多いようであった。サラサバテイラは全層準でおよそ5%程度であった。内湾の二枚貝類ではリュウキュウシラトリとカワラガイが多く、下部の先史時代層でも優占していた。スダレハマグリは第Ⅴ層のイ地区浜屋原主体区でのみ極めて多かった。アラスジケマンも、スダレハマグリと同じ層準とロ地区第Ⅳ層で特に目立っていた。陸産貝類はイ地区の下部で多かった。

タカラガイ科は、隣接する伊礼原D遺跡で“交易用に採集・集積されたためにグスク時代で多く出土した”可能性を想定した(黒住, 2008)。しかし、今回は他の時期より僅かに多いだけであり、

集積等の可能性は低いと考えられた。後述するように、グリッドごとに貝類遺体の集中性が異なっていることから、今後他の地点でタカラガイの集積が確認される可能性は否定できないように思われる。

一方、他の遺跡よりも本遺跡で極めて多かったものにアコヤガイ類（真珠貝）がある。特に、ハ地区の下部で高い割合となっている（第118表）。およそ半数が種レベルで同定され、クロチョウガイであった（第119表）。クロチョウガイは、沖縄の貝塚後期（特に後1期）に穿孔・研磨品として比較的良好に利用される種であり（島袋，2004）、製品素材の可能性が高い。ただ、報告者は後期には真珠採集の目的を持ってアコヤガイ類が採集された可能性を想定しており（黒住，2011）、クロチョウガイの大量採集は本遺跡が初めてであるが、真珠採集を全く否定するものではないと考えている。この検証は今後も続けられるべきであると思われる。

全体を通してみると、貝塚時代後1期・グスク時代・近世～近代にかけての優占種組成の変化は不明瞭と判断された。第118表に示した優占種で、全体の85%以上を占めていることから、優占種の生息場所類型組成を求めた（第177図）。ニ地区の第II層でサンゴ礁域のイノー内ものが極めて多い他は、貝塚時代から近世期にかけての変化傾向はやはり認めがたかった。ただ、全てのものでサンゴ礁域全体の割合は半数を超えており、サンゴ礁型の貝類組成とは言えよう。

貝塚時代後1期初頭の阿波連浦下層式期の貝類遺体組成の報告は比較的少なく、渡嘉敷島阿波連浦貝塚（玉城，1999）や浦添市の嘉門貝塚A区（高良，1991）等が知られている。前者ではオオベッコウガサ・チョウセンサザエ・シャコガイ類が、後者ではマガキガイ・ヒメジャコ・イソハマグリが優占している。今回のデータ（第V層/イ地区/浜屋原主体区）では、シャコガイ科が最も多く、アラスジケマン・スダレハマグリが10%を超え、チョウセンサザエ・オキナワヤマタニシと続いている。食用貝類として、河口干潟や内湾のアラスジケマン・スダレハマグリという二枚貝類が多いことが他の遺跡と異なっており、必ずしもこの時期にサンゴ礁の貝類遺体が大半を占める例だけではないことがわかった。後続する土器形式の浜屋原式期でも、土器の集中した出土地区は同様でありながら、前述の二枚貝類が減少し、イソハマグリの増加が顕著であった。

### 3. サイズ組成

今回、いくつかの優占種のサイズ組成をほぼ完全な個体のみを対象として計測して頂いた（第178図）。これによって、同一地域における貝塚時代後1期以内での変化（捕獲圧やサイズ選択）を検証することができる。

その結果、イソハマグリ（a）では2.6cm程度に中心を持ち、時代変化はないと考えられ、2cm以下の小形個体はほとんど採集されていないと判断される。マガキガイ（b）は1層準だけのデータであるが、ほぼ単峰形となり、小形の幼貝はほとんど採集されていないことがわかる。シラナミ類（c）とヒメジャコ（d）のシャコガイ科では、前種では時代の変化はほぼ認められなかったが、後種では大当原式期に小形になっていると示されているものの、測定個体数が少ないことによる結果の可能性も十分に考えられる。チョウセンサザエ（e）とアラスジケマン（g）もイソハマグリと同様に、変化はなく、小形個体も採集されていない。一方、サラサバテイラ（f）ではやはり個体数は少ないものの、大当原式期で小形個体が多くなっている。逆に、シレナジミ（f）では浜屋原式期で小形個体が目立っている。

貝塚時代後期において、後1期から後2期にかけて、シャコガイ類のサイズが小形化することが知られているが（例えば黒住，2002）、本遺跡における後1期以内ではサイズの小型化はほとんど認め

られなかった。ただ、ヒメジャコに関しては、上述のように個体数が少ないながら、下層から上層にかけて小さくなっている可能性もある。一方、ヒメジャコにおいて、同じ大当原式期でも口地区では小形個体が多い訳ではない。もし、第178図-dのヒメジャコの結果が採集されたものを反映しているとする、サイズの小型化は本遺跡前面の小面積の地域で生じた現象なのかもしれない。そうであるとする、後述するように、廃棄場所に対する小集団ごとの“利用空間＝漁場的なもの”の在り方を示している可能性も否定できない。計測個体数を増やすことによって、この問題は検証可能であろう。

第178図に示した8種のサイズは、およそ貝塚時代後1期の他の遺跡と同程度のサイズであり、ほぼ成貝からなっている。特にアラスジケマンは隣接した同時期の小堀原遺跡のサイズ（黒住，2009）とほぼ同様であった。上述したように、ヒメジャコで高い捕獲圧による局所的なサイズ減少の可能性は否定できないものの、これらの優占種では繁殖サイズを下回るようなことは全くなかったと判断される。

#### 4. 貝殻廃棄の集中域

本遺跡では、貝塚時代後期の土器集中地点やゴホウラ等の貝集積が認められている（第III章第12図）。そこで、貝類遺体の集中性を、平成19・20年度調査のグリッドごとで、各層に全出土数の5%以上を示すグリッドを抽出することで示した。その結果、

第V層（貝塚時代後1期初頭）：P16、Q17、A19・20、R17、S18、T11・12（このグリッドは大当原式土器期であることがわかった）

第IV層（貝塚時代後1期前半/5%以上のグリッドが存在しなかったので、2.5%以上のもの）：

〔浜屋原式土器期〕：A20、S17・18

〔大当原式土器期〕：A12、P16、R16、Q15、T12

第III層（グスク時代）：A11、B11、C11、D11

第II層（近世～近代）：A17、B11、Q14・15、R14、S14

であった。

貝塚時代後期に関しては、土器集中部や貝集積とある程度一致していた。そして、浜屋原式土器期と阿波連浦下層式期はほぼ重複しており、土器の結果（第37・38図）と同様であった。ただ、第V層では土器の少ないグリッドからも貝類が多く得られており、一部には貝類廃棄場所が存在していた可能性もある。大当原式土器期には、浜屋原式土器期とは一致せず、より広い範囲にいくつかの集中部が存在していた。

グスク時代には、4つのグリッドからなる1箇所集中部があり、いずれも柱穴から出土したものである。比較的広い面積に少ない集中部が存在することは、当時の貝類廃棄様式を示しているのかもしれない。近世～近代では、およそ3ヶ所の集中部が存在し、これらはいずれも土坑であった。そして、グスク時代と近世～近代の集中域は、貝塚時代後期のものと重複しなかった。このことは下部の貝類遺体が上部の時代の遺体群組成に影響を与えていないことを示唆すると思われる。

今回は時間の都合で、集中域ごとの種組成や陸側の他の地区での同様な解析を行えなかった。また、下部の貝塚が上部の耕作地に影響を及ぼしているかどうか等も、今後の検討課題であろう。

#### 5. 本地域の貝塚時代後期以降の貝類遺体群の意味づけ

今回、貝塚時代後1期の3つの土器形式期とグスク時代・近世～近代の貝類遺体の変遷を同一の

遺跡で検討できた。優占種は時代と地区等で多少異なるものの(第118表)、生息場所類型組成(第177図)では全時期を通じて大きな変化は認められず、この結果は極めて興味深いものであった。基本的に貝塚後期以降、戦前まで、サンゴ礁を含む海域環境はおよそ同様であったと考えられる。つまり、穀類農耕に入ったグスク時代以降も、内湾域を含め海域環境に多大な変化は認められなかった訳である。人間の側の貝類利用に関しても、各時期を通じて類似していたことも想定され、その意味に関して、伊礼原地域の貝塚時代後期から近代までの各遺跡から出土した貝類遺体の概況(第116表)から、この問題を少し考えてみたい。ただ今回は、北谷城等の白比川流域に位置する遺跡は別な流域に位置しているために対象外とした。

これまでの沖縄島の遺跡出土貝類の研究から、貝塚時代後1期には交易用のゴホウラ等の採集に伴いサンゴ礁域のシャコガイ類等の大形貝類が目立つようになり、後2期前半まで同様な状況が続き、グスク時代には農耕の開始に伴いサンゴ礁域での貝類採集活動が不活発となり、組成的には内湾域や河口干潟域のものに変化するという傾向が示されてきた(例えば黒住, 2002, 2011)。そして、貝塚時代後2期後半のフェンサ下層式土器期には貝類採集活動が低調で、穀類農耕に従事することによりグスク時代初頭には貝類採集はほぼ見られなくなり、またグスク主体期にはグスク本体を中心に貝類遺体が多く発掘されるという状況を想定してきた(黒住, 2014)。

今回の両遺跡では、1)貝塚時代後1期でも内湾域種が多い、2)グスク時代になってもサンゴ礁域の貝類が優占するという前述の傾向とは異なった状況を示していた訳である。また脊椎動物遺体群でも、貝塚時代後期にイノシシが優占するという他の遺跡とは異なった状況が報告され、祭祀・儀礼がおこなわれた可能性も指摘されている(樋泉, 2010, 2012)。伊礼原地域では小堀原遺跡の後1期後半でサンゴ礁域ではなく、河口干潟のアラスジケマンが極めて優占するという他の遺跡と異なった状況が報告されている(黒住, 2009, 2012)。このような全体的な傾向とは異なる原因は、貝類採集が遺跡前面の限られた地域で行われており、その結果を反映したためと考えられている。

一方、今回の伊礼原遺跡国指定外では、浜屋原式期の層準から交易に用いられたとされるゴホウラやイモガイの集積が確認されている(第三章; 第119表も参照)。これらの集積遺構は、およそ同時代の隣接した伊礼原D遺跡(2013)や小堀原遺跡(島袋, 2012)でも知られている。

サンゴ礁域に生息するゴホウラや大型イモガイ類の集積が河口干潟に生息するアラスジケマンの優占する遺跡で認められることに関して、ゴホウラ等は遺跡前面で採集されたものではなく、周辺の他地域から持ち込まれたものの可能性が高く、本地域が貝塚時代後期に連続と沖縄の周辺地域からゴホウラ等が集められていた地域であり、その要因として“島外との人間側の交流の程度”が大きかったことによるのではないかと考えた(黒住, 2012)。

伊礼原地域では大面積の発掘調査が行われてきたにもかかわらず、貝塚時代後2期後半からグスク時代初頭の多くの貝類遺体を含む層は確認できていない。つまり少なくとも貝類採集活動が極めて低調だったことがわかる。10世紀頃のヤコウガイ交易も奄美地域で想定されているが(例えば高梨, 2005)、本地域がヤコウガイの高密度生息地ではないにしても、交易の影響は検出できていない。報告者も、貝塚時代後期からグスク時代まで、本地域は、特異的に島外と交流を持った場所の一つであると想定しており、この考えが正しければ10世紀頃のヤコウガイ交易(およそ貝塚時代後2期後半が想定されている)は際立ったものではなかったという想定(黒住, 2014)は本遺跡でも同様であったと考えられる。

その後、グスク時代初頭には、掘立柱建物址やいわゆる3点セットが確認された後兼久原遺跡(山城・島袋, 2003; 片桐, 2004)と小堀原遺跡(山城・島袋, 2012)が知られ、この時期も貝類遺体

の出土は極めて稀で、後兼久原遺跡では少量のマガキガイを中心としたものが報告されているが（黒住，2003；片桐，2004）、上部のグスク主体期からの混入の可能性も否定できない。一方、近年の小堀原遺跡の発掘では、貝類遺体はほぼなく（山城・島袋，2012と黒住，2012も参照）、脊椎動物遺体は僅か出土しているだけである（桶泉，2012）。後兼久原遺跡でもこの時期の脊椎動物遺体の出土は稀である（金子，2003）。つまり、脊椎動物遺体の出土様式を勘案しても、貝類遺体は小堀原遺跡のほぼ皆無という状況にあったものと推測される。

このグスク時代初頭の掘立柱建物址の存在する遺跡に関しては、多くの研究者が同時期の奄美諸島を含めた島外集団あるいはそれに関連していると考えており（例えば安座間，2011；宮城，2011等）、沖縄では最古級である10-11世紀の炭化穀類の炭素年代が得られている点（高宮・千田，2012）でも、本地域は特異的である。そして、これまでも考えられてきたように、この時期の遺跡立地は、貝塚時代後期のゴホウラ等の集積の認められる貝交易の行われた遺跡と近接した地域に存在する。一方で、貝集積が発掘された遺跡の中には、拠点集落と想定されるものがあり、さらに威信財的な舶来品の集中する遺跡も存在する（例えば新里，2001）。伊礼原地域では複数の貝集積が認められながら、舶来品は確認されていない。本地域の例は、グスク時代初頭の掘立柱建物址の存在する遺跡は、後期の拠点集落と近接しながらも、ほぼ同一の遺跡ではないようである。これは砂丘地と土壤発達地という相違だけではなく、拠点集落を避けるという微妙に立地空間を選択した結果とも考えられるのかもしれない。

このような貝塚時代後期からグスク時代初頭の特殊な状況の元、グスク時代の主体期になると、貝類の出土量は多くなり、他地域では内湾域や河口干潟域の種が優占するが、本地域でも、これらの環境に生息するウミナナ類やリュウキュウシラトリが優占することもあるものの、今回の指定外ハ・ニ両地区で顕著なように（第118表）、マガキガイやシャコガイ類が優占している。

指定外地域は、グスク本体や武士層の居住域ではなく、百姓層の集落であったと想定される。このような百姓層の集落では貝類遺体は認められなかったという例（今帰仁村天底後原遺跡）もある（宮城，2006）。報告者は、この百姓層の居住域においてもサンゴ礁の貝類が採集されて続けた状況は、グスク時代初頭に掘立柱建物址が存在していた本地域の特殊な状況（伝統）を示すものではないかと想定している。同時期の非グスクで、近接した白比川流域の玉代勢原遺跡では内湾／河口域のアラスジケマンヤクワノミカニモリが優占しており（黒住，1993）、また中城湾に面した西原町の百姓層の遺跡と考えられる我謝遺跡でも内湾域のカンギクとクワノミカニモリが貝塚時代後2期からグスク時代の古島の時代まで卓越して得られている状況（比嘉，1983）は、伊礼原地域の特殊性を示唆するものと捉えられよう。

近世・近代・戦前でも、貝類遺体の組成に大きな変化はないが、出土量は少なくなっているように思われる。ただ、これらの時代になると、発掘部分の遺構とその性質によって、遺体群組成に、それまでの時代よりも大きな偏りが生じる可能性も大きく、伊礼原地域でも平安山原でノロ地等が発掘されており、今後、詳細な年代決定と共に、近世～戦前の変遷をより具体的に明確に示せるのではないかと考えられる。

上述した伊礼原地区の貝塚時代後期からグスク時代への貝類遺体群の変遷とその特殊性に関しては、今後、第116表に示した状況を具体的なデータとして提示していく必要があり、その折には、「発掘面積あたりの出土量」を求める必要も出てこよう。ただ本地域が、その変化を示せる貴重な地域であることも確実である。

## ＜引用文献＞

- 安座間充. 2011. 貝塚時代琉球列島の交流・交易史—列島南縁の島嶼世界にみる交流の風景—. In 高宮広士・伊藤慎二(編), 先史・原始時代の琉球列島—ヒトと景観—, pp. 189-216. 六一書房.
- 比嘉春美. 1983. 貝類遺存体. In 大城 慧(編), 我謝遺跡, 西原町文化財調査報告書, (5) : 185-189.
- 金子浩昌. 2004. 脊椎動物遺体. In 片桐千亜紀(編), 後兼久原遺跡, 沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書, (22) : 139-144, 189-193.
- 片桐千亜紀(編). 2004. 後兼久原遺跡, 沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書, (22) : 1-198, 6 pIs.
- 黒住耐二. 1993. 貝類遺存体. In 中村 恵(編), 玉代勢原遺跡, 北谷町文化財調査報告書, (13) : 287-293.
- 黒住耐二. 2002. 貝類遺体からみた奄美・沖縄の自然環境と生活. In 木下尚子(編), 先史琉球の生業と交易—奄美・沖縄の発掘調査から—, pp. 67-86. 熊本大学.
- 黒住耐二. 2003a. 貝類遺体. In 山城安生・島袋春美(編), 後兼久原遺跡, 北谷町文化財調査報告書, (21) : 264-268.
- 黒住耐二. 2003b. 貝類遺体. In 山城安生・島袋春美(編), 大作原古墓群, 北谷町文化財調査報告書, (22) : 163-171.
- 黒住耐二. 2006. 貝類遺体からみた遺跡の立地環境と生活. In 木下尚子(編), 先史琉球の生業と交易II—奄美・沖縄の発掘調査から—, pp. 115-134, 285. 熊本大学.
- 黒住耐二. 2007. 貝類遺体からみた伊礼原遺跡. In 中村 恵(編), 伊礼原遺跡, 北谷町文化財調査報告書, (26) : 535-555.
- 黒住耐二. 2008. 伊礼原D遺跡から出土した貝類遺体. In 東門研治・島袋春美(編), 伊礼原D遺跡, 北谷町文化財調査報告書, (28) : 168-183, 197-200.
- 黒住耐二. 2009. 小堀原遺跡から出土した貝類遺体. In 東門研治・島袋春美(編), 小堀原遺跡, 北谷町文化財調査報告書, (30) : 201-212.
- 黒住耐二. 2010. 伊礼原E遺跡から得られた貝類遺体. In 山城安生・島袋春美(編), 伊礼原D遺跡, 北谷町文化財調査報告書, (31) : 41-56.
- 黒住耐二. 2011. 琉球先史時代人とサンゴ礁資源: 貝類を中心として. In 高宮広士・伊藤慎二(編), 先史・原始時代の琉球列島—ヒトと景観—, pp. 87-107. 六一書房.
- 黒住耐二. 2012. 小堀原遺跡の貝塚時代後層から出土した貝類遺体. In 山城安生・島袋春美(編), 小堀原遺跡, 北谷町文化財調査報告書, (34) : 335-348.
- 黒住耐二. 2013. ナガラ原東貝塚の貝類遺体. In 木下尚子(編) ナガラ原東貝塚の研究, pp. 340-362. 熊本大学.
- 黒住耐二. 2014. 貝類遺体からみた沖縄諸島の環境変化と文化変化. In 高宮広士・新里貴之(編), 琉球列島先史・原史時代における環境と文化の変遷に関する実証的研究—研究論文集[第2集] 琉球列島先史・原史時代の環境と文化の変遷, pp. 55-70. 六一書房.
- 宮城弘樹. 2006. グスクと集落の関係について(覚書)—今帰仁城跡を中心として—. 南島考古, (25) : 27-40.
- 宮城弘樹. 2011. グスク時代に訪れた大規模な島の景観変化. In 高宮広士・伊藤慎二(編), 先史・原始時代の琉球列島—ヒトと景観—, pp. 217-241. 六一書房.
- 島袋春美. 2004. 貝種別にみる奄美・沖縄諸島の貝製品. In 高宮広衛・知念 勇(編), 考古資料大観, 第12巻, 貝塚後期文化, pp. 223-230. 小学館.
- 島袋春美. 2008. 貝類遺体. In 東門研治・島袋春美(編), 平安山原B遺跡, 北谷町文化財調査報告書, (29) : 104-114.
- 新里貴之. 2001. 物流ネットワークの側面—南西諸島の弥生系遺物を素材として—. 南島考古, (20) : 49-66.

高梨 修. 2005. ヤコウガイの考古学. 280 pp. 同成社.

高宮広士・千田寛之. 2012. 小堀原遺跡出土の植物遺体. In 山城安生・島袋春美(編), 小堀原遺跡, 北谷町文化財調査報告書, (34) : 349-358.

高良京子. 1991. 貝類遺存体. In 松川 章(編), 嘉門貝塚A, 浦添市文化財調査報告書, (18) : 85-93.

玉城京子. 1999. 自然遺物. 沖国大考古, (12) : 177-189, 5表.

樋泉岳二. 2010. 伊礼原E遺跡出土の脊椎動物遺体. In 山城安生・島袋春美(編), 伊礼原E遺跡, 北谷町文化財調査報告書, (31) : 57-79.

樋泉岳二. 2012. 小堀原遺跡2008～2009年度調査で採集された脊椎動物遺体. In 山城安生・島袋春美(編), 小堀原遺跡, 北谷町文化財調査報告書, (34) : 322-334.

山城安生・島袋春美(編). 2003. 後兼久原遺跡, 北谷町文化財調査報告書, (21) : 1-413, 6 pls.

第116表 伊礼原地域における各遺跡出土貝類遺体の時期別変遷 (暫定)

時代	土器形式等	地点数	貝類出土量	主な遺跡等と優占貝類
近代～戦前		普通	少	?平安山原B/②層 (少:イマツ?イ, ヴ?特?イ)
				伊礼原D/4-戦前遺構 (少:マ?特?イ, 伊礼?イ)
				?伊礼原 (指定外) / III層 (普:マ?特?イ, シマ?イ)
近世		普通	少	伊礼原D/前半?4-7-8 (普:マ?特?イ, マ特?イ); 後半?4-9-10 (少:マ?特?イ, 伊礼?イ)
				伊礼原E/集石 (稀:マ?特?イ)
				後兼久原a/第三期 (少:マ?特?イ)
グスク時代の主体期	13-16世紀	多	多	伊礼原D/4-5-6 (多:マ?特?イ, 内湾域)
				伊礼原 (指定外) / III層 (多:マ?特?イ, シマ?イ)
				伊礼原 / (?少:マ?特?イ, マ?イ, マ?イ)
				後兼久原b/第二期 (多:マ?特?イ, マ?イ)
				後兼久原b/第1・第2検出面 (普:マ?特?イ)
グスク時代初期	掘立柱建物址 / 3点セット	少	稀?	後兼久原a/第一期 (稀?:マ?特?イ)
				後兼久原b / I 地区第3検出面 (稀?:マ?特?イ)
貝塚時代後2期後半	くびれ平底土器期 (マ?下層土器期)	稀?	少?	?大作原古基 (少:マ?特?イ)
貝塚時代後2期前半	くびれ平底土器期 (マ?マ?式土器期)	普通	普通	伊礼原D/4-1-2 (極多:マ?特?イ) 小堀原 (普:マ?特?イ, ヴ?特?イ)
貝塚時代後1期後半	大当原式土器期	多	極多	?平安原B/III層・弥生 (普:イマツ?)
				伊礼原 (指定外) / IV層 (極多:シマ?イ, ヴ?特?イ)
				伊礼原 A / IV層 (極多:シマ?イ, マ?イ, マ?)
				?伊礼原E/弥生 (少:シマ?イ, 伊礼, マ?イ, マ?) 小堀原 (極多:マ?イ, マ?, イマツ?)
貝塚時代後1期前半	浜屋原式土器期	多	多	平安原B/③b～⑤層 (多:マ?特?イ, イマツ?)
				伊礼原 (指定外) / IV層 (極多:シマ?イ, ヴ?特?イ)
				伊礼原/弥生 (?普:イマツ?)
				小堀原 (多:マ?イ, マ?, イマツ?)
貝塚時代後1期初頭	阿波速浦下層土器期	少	普通	伊礼原 (指定外) / V層 (多:マ?特?イ, マ?イ, マ?)

?は不確定なもの: 文献: 平安山原B (島袋, 2008), 大作原古基 (黒住, 2003b), 伊礼原D (黒住, 2008), 伊礼原 (黒住, 2007), 伊礼原 (指定外) (本報告), 伊礼原A (本報告), 伊礼原E (黒住, 2010), 小堀原 (黒住, 2012), 後兼久原a (黒住, 2003a), 後兼久原b (片桐, 2004).

第117表-1 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡出土の貝類遺体の分類学的位置と生息場所類型

和名	学名	生息場所 類型	図説 番号	和名	学名	生息場所 類型	図説 番号
軟体動物門 Mollusca				コンモダガ	Cypraea (Erosaria) erosus	I-2-b	T-3
腹足綱 Gastropoda				ハナマルキ	Cypraea (Bastrea) amatastragertis	I-3-a	T-6
ツタノハ科 Patellidae				ヤクシマダカ	Cypraea (Arabia) arabica	I-2-a	T-7
ツタノハ	Scutellastra flexuosa	I-3-a		ホリヤクシマダカ	Cypraea (Arabia) eglantina	II-2-a	T-8
ヨメガサ科 Nacellidae				タチノダカ	Cypraea (Tajuria) talpa	I-2-a	
ヨメガサガサ	Cellana testudinaria	I-1-a	4	Cypraea (s.s.) tigris		I-2-c	T-9
ユキナカサ科 Littorididae				ヒメシシダカ	Cypraea (Littorid) lina	I-2-b	
リュウキウクワノアン	Pellucida naccarina	I-1-a	3	ホシキタカ	Cypraea (Hysteroz) tellus	I-2-a	T-13
ミミガイ科 Haliotidae				<b>ウミウサギ科</b>			
イボアナガ	Haliotis (Sabalito) varia	I-2-a	20	ウミウサギ	Onca onca	I-2-a	189
リュウキウ科 Turbinidae				<b>タマガイ科 Naticidae</b>			
リュウキウサネ	Turbo (Urosalpinx) stromorum	I-2-a		トマガイ	Polinices tanzani	I-2-c	67
チュウセンサネ	Turbo (Uros.) angrorum	I-3-a	5-6	ホソキトマガイ	Polinices Ameghinus	I-2-c	73
リュウテン	Turbo (Turbo) petholatus	I-4-b		ロウロトマガイ	Polinices melanos	I-2-c	74
ヤウコウガイ	Turbo (Amasia) mucronata	I-4-a	9-10	リスガイ	Numilla melanostoma	I-2-c	68
カンキョク	Lotella molliformis	II-1-b	11	トラダマ	Natica vitellus	II-2-c	
オホウラウズ	Astralin rhodostoma	I-2-a	12	ホシクシノタマ	Notochelis gasteriorum	II-2-c	71
<b>ニシキウズ科 Trochidae</b>				タマシメダマ	Tanoe undulata	I-2-c	
ニシキウズ	Trochus (Trochus) maculatus	I-2-a	16	<b>キツシロガイ科 Tonnoidea</b>			
ムラウキウズ	Trochus (Trochus) stellatus	I-3-a		タマシメダマ	Tonna cepa	I-2-c	83
ギンタカハマ	Trochus (Tectus) pyramis	I-4-a	17	ウツカトキワ	Wales (Quincus) pomis	II-2-c	79
ササキハシラ	Trochus (Trochus) nitidus	I-4-a	18	<b>フジガイ科 Nacellidae</b>			
ササキダマ	Chryseosoma perditum	II-2-c	15	ヒメコダマ	Cyrtium (Nacella) niobariensis	I-2-a	
オホウキウダマ	Hondatia labio	II-1-b	19	ササキダマ	Cyrtium (Nacella) montali	I-2-a	80
<b>アマオサネ科 Neritidae</b>				シノカマ	Cyrtium (Nacella) pilosus	I-4-a	87
インダマシアマオサネ	Nerita (Ritena) helicinae	I-0-a		トウマキ	Cyrtium (Gelaum) micranta	I-4-a	86
コンダアマオサネ	Nerita (Ritena) striata	I-1-b		オオゾウガイ	Cyrtium (Guttarium) muricatum	I-2-a	86
フトスジアマガイ	Nerita (Ritena) costata	I-0-a		シノカマ	Cyrtium (Rusalaria) pyram	I-4-a	88
アマオサネ	Nerita (Thelyptyla) albicincta	I-1-b	23	オホシロ	Charonia samalis	I-4-a	90
マルアマオサネ	Nerita (Thelyptyla) spinulata	II-1-b		チロニア	Charonia tritonis	I-4-a	94
オオマルアマオサネ	Nerita (Thelyptyla) chameleon	I-1-b	30	<b>オキニシ科 Buridae</b>			
ヒラマキオサネ	Nerita plausipia	III-0-d		ウツカウネボウ	Bursa (Goldshell) granulata	I-2-a	
ニシキアマオサネ	Nerita (Ampnerita) polita	I-1-c	28	オキニシ	Bursa (s.s.) bafuisi dunkeri	I-3-a	95
カノコガイ	Clitina sowerbianus	III-0-c		オオナルトボウ	Turris lufa	I-4-a	98
インシキ	Clitina retropicta	IV-5		シノナルトボウ	Turris lufa	I-4-a	
イダシノコ	Clitina covana	IV-5		<b>トウカムリ科 Cassidae</b>			
ムラキカノコ	Neritina variegata	IV-5		ヒナツル	Cassaria erinacea	I-4-c	78
ドンダリカノコ	Neritina plumbea	IV-5		<b>アツキガイ科 Muricidae</b>			
シマカノコ	Neritina (Ottina) territa	III-0-c	32	チロニア	Chicoreus microphilus	I-4-a	100
<b>タニシ科 Viviparidae</b>				ゲンゼキカ	Chicoreus burmanni	I-2-a	
マルダシ	Chitonopsalidina chinensis	IV-6	E-1	ツアレイン	Thais (Stramnia) aurigera	I-2-a	
<b>ヤマトタニシ科 Cyclophoridae</b>				シノカマ	Thais (Stramnia) aurigera	I-3-a	104
オキナヤマタニシ	Cyclophorus turgidus	V-8	E-2	ツタノハガイ	Ranellula bipunctatum	I-1-a	106
<b>オノノガイ科 Cerithiidae</b>				ツノレイン	Ranellula tuberosa	I-3-a	107
オノノガイ	Cerithium (Cerithium) nodulosum	I-2-c	36	シノレインダマシ	Croca margariticola	I-1-b	102
オノノガイ	Cerithium (Cerithium) columan	I-2-a		ムラキカインダマシ	Brusa (s.s.) muris	I-3-a	110
ゴツカカニ	Cerithium (Semivertagus) punctatum	I-2-c		シノレイン	Brusa vicinus albobater	I-3-a	
トウダカカニ	Rhinocyclis sinensis	I-2-c	38	アツキガイ	Brusa (Ricinella) rubusitana	I-3-a	111
ヒメウダカカニ	Rhinocyclis edonellii	I-2-b		<b>オニコブシ科 Vasidae</b>			
カヤミカニ	Clypeomorus bifasciata	I-1-b		オニコブシ	Vasum ceramicum	I-3-a	
タノミカニ	Clypeomorus chemnitziana	I-1-b	41	オニコブシ	Vasum turbellium	I-2-a	113
<b>ヘナタリ科 Cerithiidae</b>				<b>エゾバイ科 Buccinidae</b>			
フトヘナタリ(小群)	Cerithidea (Cerithidea) moerchi	III-0-d		ウツカガイ	Tonna perda	I-2-c	
センコウガイ	Telamonia telamonia	III-0-b		スダクシロダマシ	Catharus (Bellia) undosa	I-3-a	
マダキチウミナ	Terebellia nitida	III-1-c	43	シマツルコウバイ	Japurethia cingulata	III-1-b	
キハチミナ	Terebellia parviter	III-1-c		<b>オリレロフバイ科 Nassariidae</b>			
<b>ウミナガ科 Batillariidae</b>				オリレロフバイ	Nassarina areolaris	II-2-c	121
リュウキウウミナ	Batillaria flectostrophata	II-1-c	47	ヒメオリレロフバイ	Nassarina sp. cf. nodifer	II-2-c	114
イボウミナ	Batillaria zonalis	III-1-c		イボコブシ	Nassarina coronata	II-1-c	
<b>トウダカカニ科 Thaisidae</b>				<b>セコバシ科 Colubrariidae</b>			
トウダカカニ	Thais asahii	IV-5-6	E-3	ヒメカケコバシ	Colubraria conigii	I-2-b	
スノメカニ	Melanoidea tuberculata	IV-6	E-7	<b>イトマキボウ科 Fasciolaridae</b>			
スダカニ	Stromomonila uniformis	IV-6		フレロカ	Phaenoploca trapezium	I-2-b	123
シノカニ	Stromomonila plicata	IV-6	E-4	ナガイトマキボウ	Phaenoploca filamentosa	I-2-a	124
サシダカニ	Sermyla rigueti	III-0-c		ツタノハダマシ	Littorina belcheri	I-3-a	127
<b>カワニ科 Pleuroceridae</b>				リュウキウクワノマダ	Littorina polygama	I-3-a	126
カワニ	Semilimnoria hamata	IV-5-6	E-8	ニシキニシ	Littorina craticulata	I-3-a	
<b>スイシガイ科 Strombidae</b>				マルニシ	Leuconia smaragdula	I-3-a	130
ムカシタケ	Strombus (Ganarus) natalis	I-2-c	55	ナシセボウ	Fucium niobariensis	I-2-c	131
オハロガイ	Strombus (Ganarus) ureus	II-2-c		<b>マクラガイ科 Olividae</b>			
フトスジムカシタケ	Strombus (Ganarus) labiatus	II-2-c		マクラガイ	Olivia sp.	I-2-c	
ネジノガイ	Strombus (Gibberulus) g. gibbosus	II-1-c	50	<b>シヨウコウ科 Harpidae</b>			
マダガイ	Strombus (Ganarus) labiatus	I-2-c	51	シヨウコウ	Harpis major	I-2-c	
イボノガイ	Strombus (Littig) lentiginosus	I-2-c	52	ベニオビシヨウコウ	Harpis harpis	I-2-c	
マイノノガイ	Strombus (Baprotoma) auridiana	I-4-c		<b>フダガイ科 Mitridae</b>			
ベノノガイ	Strombus (Baprotoma) bulla	I-4-c		チュウセンフダ	Mitra nitra	I-2-c	
アツダノガイ	Strombus (Tricornis) thersites	I-4-c		マクラフダ	Ibericaria oliviformis	I-2-c	
ゴホク	Strombus (Tricornis) latissimus	I-4-c	60	イボフダ	Ferrugia dactylus	I-1-b	137
ウミガイ	Lambis lambis	II-1-c	61-62	<b>ヒノムシガイ科 Costellariidae</b>			
ウダガイ	Lambis truncata subae	I-4-c	64	ヒノムシガイ	Vexillum latissimum	II-2-c	
スイガイ	Harpagis chinensis	I-2-c	63	<b>イモガイ科 Conidae</b>			
<b>ムカダガイ科 Vermetidae</b>				ムカダ	Conus (Virroconus) ebraeus	I-1-a	140
リュウキウムカダガイ	Serpulorhis triseriatus	I-2-a	65	ムカダ	Conus (Virroconus) chelidoni	I-1-a	
ヘビ目	"Serpulorhis" sp.	I-2-a		ムカダ	Conus (Virroconus) filigrinus	I-1-a	142
<b>クラガイ科 Cypraeidae</b>				ジュズガサヤサガイ	Conus (Virroconus) coronatus	I-1-a	
キイノダカ	Cypraea (Monetaria) moneta	I-1-a		キヌダガイ	Conus (Virroconus) flavus	I-2-a	160
ハナヒラダカ	Cypraea (Monetaria) annulus	I-1-a	T-2	イボシマガイ	Conus (Virroconus) lividus	I-2-a	146
ナツメドク	Cypraea (Erosia) erosus	I-2-b	T-5	イボカハイ	Conus (Virroconus) distans	I-2-c	

第117表-2 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡出土の貝類遺体の分類学的位置と生息場所類型

和名	学名	生息場所 類型	図版 番号	和名	学名	生息場所 類型	図版 番号
オトメイモ	<i>Conus (Virgiconus) virgo</i>	I-2-c	149	<b>ザルガイ科 Cardidae</b>	<i>Vasticecardium flavum</i>	II-2-c	35
ヤナギシゴロイモ	<i>Conus (Obiticoonus) alites</i>	I-3-a	147	リュウキュウザルガイ	<i>Vasticecardium pseudomaculatum</i>	I-4-c	37
ササナシナン	<i>Conus (Obiticoonus) capitatus</i>	I-4-c	150	カラウガイ	<i>Fragum medea</i>	II-2-c	38
カバシナン	<i>Conus (Obiticoonus) vestitus</i>	I-4-c	155	リュウキュウアカガイ	<i>Cocculum cardium</i>	I-2-b	36
ツクシモ	<i>Conus (Strophoconus) hawkeus</i>	II-2-c		<b>シヤコガイ科 Tridacnidae</b>			
ヤキモ	<i>Conus (Pisiconus) nebulosus</i>	I-2-c	156	オオシシヤコ	<i>Tridacna nativa</i>	I-2-a	40-46
サササホドキ	<i>Conus (Banciconus) vitalinus</i>	I-2-c		シシヤコ類	<i>Tridacna maxilla &amp; nose</i>	I-2-a	
ヒツマキ	<i>Conus (Banciconus) planorbis</i>	I-2-c		ヒレジャコ	<i>Tridacna squamosa</i>	I-2-c	41
アジロイモ	<i>Conus (Banciconus) penacens</i>	II-2-c	158	ヒメジャコ	<i>Tridacna erucum</i>	I-2-c	42
タガヤサシナン	<i>Conus (Banciconus) textile</i>	I-2-c	161	シヤコ	<i>Hippopus hippopus</i>	I-2-c	44
ニシキシナン	<i>Conus (Stylocosinus) atrifatus</i>	I-2-c	171	<b>バカガイ科 Macridae</b>			
アソビナシ	<i>Conus (Gastrioides) aequiphagus</i>	I-2-c	172	リュウキュウバカガイ	<i>Waceta maculata</i>	II-2-c	48
シロアソビイサ	<i>Conus (Gastrioides) talipe</i>	I-2-c		タマキ	<i>Waceta cuneata</i>	II-1-c	49
ニシウカタシナン	<i>Conus (s.s.) nersosorus</i>	II-2-c	164	ユキガイ	<i>Weropesta nicobarica</i>	II-2-c	50
ニシウカタシ	<i>Conus (Obsoletus) imperialis</i>	I-2-c		<b>チドリマスオガイ科 Mesodossinidae</b>			
アカシヤミナン	<i>Conus (Leptocoelus) generalis</i>	I-2-c	168	イソハマダリ	<i>Actuodossia atrata</i>	I-1-c	51
ナガサキナシ	<i>Conus (Leptocoelus) litigiphobus</i>	I-2-c		ナシコソオ	<i>Berilia planis</i>	I-1-c	52
ゴマツモ	<i>Conus (Punctulites) pellicularis</i>	I-2-c	170	<b>フジノハナガイ科 Donacidae</b>			
コシキモ	<i>Conus (Punctulites) arenatus</i>	I-2-c		リュウキュウナシノコ	<i>Latomia faha</i>	I-1-c	53
スズイモガイ	<i>Conus (Cleobala) fuliginis</i>	II-2-c		<b>ニコウガイ科 Tellinidae</b>			
ダイミウイモ	<i>Conus (Cleobala) betulinus</i>	II-2-c	166	テリシ	<i>Tellina virgata</i>	II-2-c	54
クロササキモ	<i>Conus (Lithocoelus) obscurus</i>	I-2-c	176	ヒメニコウガイ	<i>Hydrobia ulvae</i>	II-2-c	55
アンボコソオ	<i>Conus (Lithocoelus) literatus</i>	I-2-c	177	リュウキュウクラトリ	<i>Quidiparis palatus</i>	III-1-c	57
クラトリ	<i>Conus (Lithocoelus) leopardi</i>	I-2-c	178	ヌメメイチュウクラトリ	<i>Melampus</i>	III-1-c	52
<b>タマキガイ科 Turridae</b>				メメツラ	<i>Soutaropsis scobinata</i>	I-2-c	59
トラフタタマキ	<i>Lophotoma acuta</i>	I-2-c		シロツバクラ	<i>Cyclotellina rosina</i>	I-2-c	58
<b>タケノコガイ科 Terebridae</b>				<b>アサシガイ科 Semeidae</b>			
タケノコガイ	<i>Terebra subulata</i>	I-2-c	185	サササホドキ	<i>Semele carnicolor</i>	II-1-c	61
ホウシヤ	<i>Oryzaria crenulata</i>	I-2-c	184	<b>イソシシガイ科 Psammobidae</b>			
<b>ナツメガイ科 Bullidae</b>				リュウキュウマヌオ	<i>Aspidis violacea</i>	II-1-c	62
ナツメガイ	<i>Bulla ventricosa</i>	I-2-c	186	マヌオガイ	<i>Panomonas elongata</i>	II-1-c	63
<b>アメフラシ科 Aplysiidae</b>				<b>シジミ科 Cyrenoidae</b>			
タツナシガイ	<i>Bolobella auricularia</i>	I-2-b	188	シシヤコ	<i>Geloina erosa</i>	III-0-c	64
<b>オカミミガイ科 Etiolidae</b>				<b>マルスズレガイ科 Veneridae</b>			
ツヤハシノイモ	<i>Belampus flexus</i>	V-1-0		ヌメメガイ	<i>Perilypta pauperes</i>	I-2-b	65
<b>キセキガイ科 Cassidulidae</b>				アラヌメガイ	<i>Perilypta reticulata</i>	I-2-b	66
ツヤヤセル	<i>Luchaphadusa p. proclara</i>	Y-8	E-10	ホソシシヤコ	<i>Gofurinus pectinatus</i>	II-1-c	67
<b>アフリカマイマイ科 Achatinidae</b>				アラヌシヤコ	<i>Gofurinus tumidus</i>	III-1-c	68
アフリカマイマイ	<i>Achatina fulica</i>	V-9		ユウカゲハマダリ	<i>Pitar striatus</i>	II-2-c	70
<b>ナンバマイマイ科 Camaenidae</b>				ケッコウシナンシ	<i>Pitarigranulata obliquum</i>	II-2-c	
シユリマイマイ	<i>Satsuma (s.s.) s. nersatorica var.</i>	V-8	E-12	オウササギ	<i>Boerhaavia histrio</i>	II-2-c	71
ナンバマイマイ?	<i>Satsuma (s.s.) s. atrata</i>	V-7	E-13	リュウキュウアカサリ	<i>Tapes literatus</i>	II-2-c	
カワシマイマイ	<i>Satsuma (s.s.) s. katsumensis</i>	V-7	E-13	ヒメリュウキュウアカサリ	<i>Tapes helcheri</i>	II-2-c	73
ヒメリュウキュウアカマイマイ (イボ)	<i>Satsuma (s.s.) s. gergillieri</i>	V-8	E-14	ヒメアサリ	<i>Bullitapes variegata</i>	II-1-c	75
<b>オナジマイマイ科 Bradybaenidae</b>				スズレハマダリ	<i>Kateyria japonica</i>	II-1-c	76
パンダマイマイ	<i>Bradybaena cinctus</i>	V-8	E-17	トコシヤコハマダリ	<i>Waceta sp. cf. lauraria</i>	II-2-c	77
オキナワスズメマイマイ	<i>Acicula d. dispersa</i>	V-8	E-18	ハマダリ	<i>Waceta sp. cf. lauraria</i>	II-2-c	
				ダツオキシジミ	<i>Ocellina orientalis</i>	II-1-c	80
二枚貝類 <i>Bivalvia</i>				頭足類 <i>Cephalopoda</i>			
<b>フネガイ科 Arcidae</b>				<b>コウイカ科 Sepiidae</b>			
オオクダノハ	<i>Arca ventricosa</i>	I-2-a	3	イソシシ	<i>Sepia latimusa?</i>	I-2	
ユガイ	<i>Barbatia (Barbatia) trapezium</i>	I-1-a	1	純足動物門 <i>Echinozoata</i>			
オオミユガイ	<i>Barbatia laevata</i>	I-4-a	4	<b>ナガウニ科 Echinometridae</b>			
リュウキュウサカサボ	<i>Anodonta (Anodonta) antiquata</i>	II-2-b	6	ハイバウニ (純)	<i>Heterocentrotus mamillatus (spine)</i>	I-3-a	
ハイガイ (イボガイ) 類	<i>Anodonta (Tegillarca) granosa f. obscura</i>	III-1-c	7				
<b>イガイ科 Mytilidae</b>							
リュウキュウウニ	<i>Modiolus auriculatus</i>	I-1-a	4				
<b>ウグイスガイ科 Pteridae</b>							
クロコウガイ	<i>Pinctada margaritifera</i>	I-4-a	10				
アコヤガイ	<i>Pinctada fucata</i>	II-2-b	11				
<b>ハボウキ科 Pinnidae</b>							
クロシラウキ	<i>Atrina vestitus</i>	II-4-c	13				
<b>ウミホシガイ科 Spondyliidae</b>							
ウミホシガイ	<i>Spondylus spp.</i>	I-2-a	15				
<b>ベッコウガキ科 Pinctonodidae</b>							
シヤコガキ	<i>Hyalina hyalina</i>	I-2-c	16				
<b>イタボキガイ科 Ostreidae</b>							
シマ(イボ)ガキ	<i>Crassostrea bilimata?</i>	III-1-a	4				
オハダロガキ	<i>Saccostrea medea</i>	I-1-a	4				
ニセマダロ	<i>Saccostrea ochinata</i>	II-1-b	20				
オハダロガキホドキ	<i>Saccostrea cerasmata</i>	II-1-b	21				
ノコギリガキ	<i>Bendrosites sandwicheensis</i>	II-2-a	4				
<b>ツキガイ科 Lucinidae</b>							
ツキガイ	<i>Cobbia tigrina</i>	I-2-c	29				
タケノコツキガイ	<i>Cobbia punctata</i>	I-2-c	28				
ウツキツキガイ	<i>Cobbia pectinosa</i>	II-2-c	25				
ヒメツキガイ	<i>Spidocobia bella</i>	I-2-c	26				
カブツツキガイ	<i>Andantia edentata</i>	II-2-c	24				
<b>キクザル科 Chamidae</b>							
シロザル	<i>Chama brassica</i>	I-4-a	31				
ヒレシロ	<i>Chama lacum</i>	II-2-b	33				
ホウシヤ	<i>Chama spp.</i>		32				

生息場所類型 (Habitat)

I : 外洋-サンゴ礁域

II : 内湾-軟石域

III : 河口干潟-マングローブ域

IV : 淡水域

V : 陸地

VI : その他

0 : 潮間帯上部(ではノッチ, IIIではワケナ)

1 : 潮間帯中・下部

2 : 亜潮間帯上縁部(ではノッチ)

3 : 干潟(にのみ適用)

4 : 礁浜面及びその干潟

5 : 淡水

6 : 淡水

7 : 林内

8 : 林内・林縁部

9 : 林縁部

10 : 海面

11 : 打ち上げ物

12 : 化石

a : 岩礁・岩壁

b : 粘土

c : 磯ノ砂・底質

d : 礫物上

e : 淡水の流入する磯

第118表 優占種の出土割合

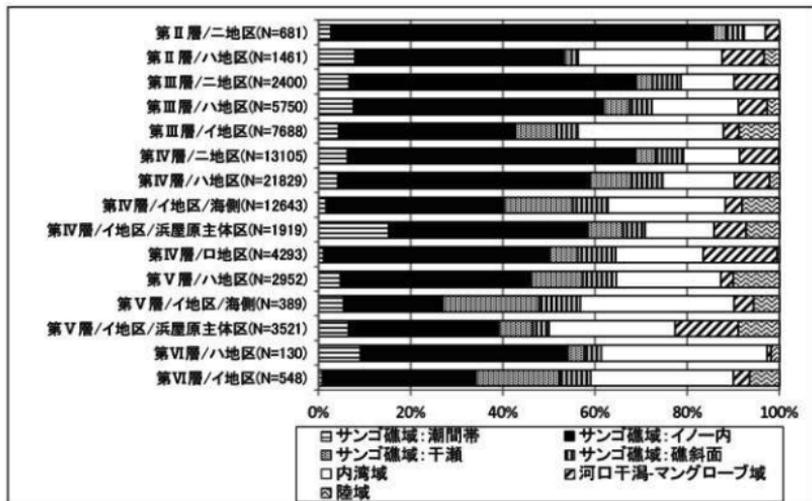
	第II層		第III層		第IV層					第V層			第VI層		
	近世一期前		グスク時代		其層時代後1期					其層時代後1期前期					
	ハ地区	ニ地区	ハ地区	イ地区	ニ地区	ハ地区	イ地区/海側	イ地区/浜屋原主体区	ロ地区	ハ地区 <sup>1)</sup>	イ地区/海側	イ地区/浜屋原主体区	ハ地区	イ地区	
サンゴ礫域・潮間帯															
イノマダリ	2.5	7.3	6.2	6.8	3.7	5.9	3.8	1.4	14.3	1.0	4.2	4.6	6.3	7.7	0.7
サンゴ礫域・イノ内															
マダキガイ	35.1	12.0	27.2	17.6	10.1	25.6	15.1	7.8	8.5	6.2	3.4	1.0	1.9	3.1	3.1
シロコガイ	24.7	22.1	12.5	16.2	8.6	15.6	19.0	10.2	16.0	29.2	11.4	4.6	14.6	16.9	9.5
クモガイ	5.7	1.0	5.4	3.1	2.6	5.5	3.9	3.0	2.9	4.2	3.7	1.5	2.5	3.1	4.2
イヌガイ	6.2	2.6	6.7	4.3	2.9	5.6	3.8	2.9	4.9	2.8	2.1	0.8	2.6	3.1	1.5
イヌホウ	1.2	0.5	1.4	2.1	2.2	1.5	2.9	3.9	3.3	0.9	4.1	8.5	4.4	1.5	6.0
オニツツガイ	4.3	0.7	2.3	2.2	2.0	2.3	2.2	3.7	3.0	0.4	1.9	0.8	0.9	0.0	3.1
オカラガイ	0.9	1.3	1.3	1.4	1.6	1.1	0.9	0.8	0.9	0.9	0.6	0.0	1.1	0.0	0.9
メンガイ	0.9	1.1	1.1	0.8	1.4	1.0	0.9	1.0	0.6	1.3	0.6	0.5	0.5	1.5	1.1
ガンゼキホウ類	0.1	0.0	0.3	0.3	0.8	0.3	0.5	1.5	0.5	0.0	0.9	0.3	0.5	0.8	0.9
アコヤガイ	0.1	1.3	0.5	1.2	0.9	0.7	2.0	0.6	1.4	0.8	8.3	0.5	3.5	8.5	0.2
サンゴ礫域・干瀬															
チユウセンザエ	2.6	1.4	2.8	4.3	5.1	3.4	7.1	9.4	5.9	5.8	8.1	12.6	6.3	3.1	12.4
ツメレシ	0.0	0.1	0.3	0.3	1.8	0.4	1.0	3.2	1.1	0.1	1.6	4.4	0.8	0.0	2.9
オキニシ	0.0	0.1	0.3	0.4	0.8	0.3	0.3	0.8	0.3	0.1	0.3	1.0	0.2	0.0	1.3
サンゴ礫域・磯斜面															
サラサハテイラ	3.8	1.2	5.8	4.4	4.0	5.7	6.4	6.8	4.5	7.9	6.5	7.7	3.4	3.1	6.2
内湾域															
リュウキュウシロトリ	0.0	6.8	1.2	3.5	5.4	1.3	1.9	4.5	1.1	1.0	6.3	10.0	3.6	12.3	5.8
オカラガイ	1.0	9.0	2.5	5.2	7.4	2.7	5.1	7.3	2.7	6.1	5.8	9.0	5.0	6.2	11.9
アサボガイ	0.3	2.3	1.0	1.6	6.0	1.2	1.7	2.6	1.8	0.2	3.2	3.6	3.0	3.1	2.4
スズレハマダリ	0.0	1.1	0.4	0.6	0.5	0.3	0.6	1.1	4.4	3.7	1.1	0.8	10.3	0.0	0.0
リュウキュウサルボオ	1.6	2.7	1.3	1.3	1.0	1.9	1.5	1.2	0.8	1.3	0.7	0.3	0.5	2.3	0.7
リュウキュウサルガイ	0.1	2.4	0.4	0.8	1.0	0.4	0.8	2.1	0.5	1.7	0.7	3.1	1.1	2.3	2.6
リュウキュウマスオ	0.7	1.5	1.3	1.1	1.5	1.3	1.2	1.1	0.7	0.2	0.9	0.8	1.1	0.8	1.8
ヌメガイ	0.4	1.7	2.1	1.8	2.4	1.7	1.4	1.1	0.8	0.9	0.4	0.0	0.6	0.8	1.5
ホソシジナギ	0.1	1.7	0.7	1.0	2.2	0.7	0.6	1.7	1.2	3.0	1.2	1.3	2.1	3.1	2.0
河口干潟-マングローブ域															
アラスシケマン	2.6	5.5	8.2	4.0	2.4	7.2	4.6	2.3	4.4	10.3	2.0	2.3	11.8	0.8	2.0
シナラシメ	0.3	3.0	0.9	1.5	0.5	0.9	2.4	1.0	2.1	5.0	0.4	1.3	2.1	0.0	1.1
陸域															
オキナヤマタニシ	0.0	1.3	0.1	1.1	3.1	0.1	1.1	2.6	4.0	0.3	3.9	2.6	5.0	0.8	0.9
シロリウキイモ	0.0	1.0	0.0	0.4	0.8	0.1	0.5	2.2	1.0	0.0	2.4	2.3	1.8	0.0	2.9
ハンダマヤマイ	0.0	0.9	0.0	1.0	3.7	0.0	0.5	2.4	1.9	0.2	2.7	0.0	2.0	0.8	2.2
全体集積率(%)	96.1	146.1	240.0	570.0	760.0	1310.0	2129.0	1264.0	1919.0	430.0	292.0	399.0	352.1	130.0	548.0
優占種の割合(%)	95.4	93.4	94.0	90.6	86.4	94.7	93.6	89.4	94.6	93.5	89.4	86.1	99.6	85.4	91.8

■ 1962上

■ 1962上-1968中

■ 1962上-1976中

※1：一部は1層目大発掘区と並列のものを含んでいる



第177図 伊礼原遺跡(国指定外)と伊礼原A遺跡の優占種の変化



















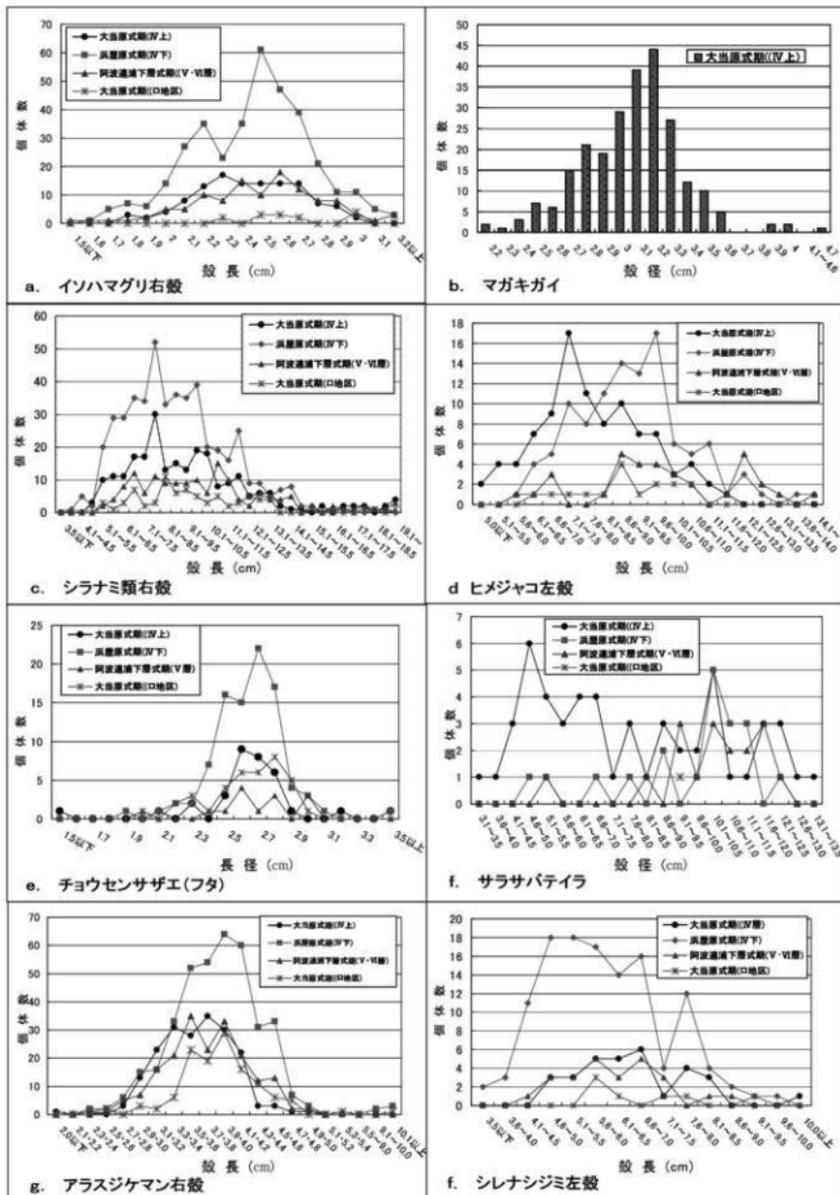












第178図 優占種のサイズ組成変化

## 〈巻貝〉

- ユキノカサ科 3リュウキュウウノアシ  
 ヨメガカサ科 4オオベッコウガサ  
 リュウテン科 5チョウセンサザエ 6チョウセンサザエ (蓋) 9ヤコウガイ 10ヤコウガイ (蓋)  
 11カンギク 12オオウラウス  
 ニシキウズ科 15サラサダマ 16ニシキウズ 17ギンタカハマ 18サラサバテイラ 19オキナワインシダミ  
 ミミガイ科 20イボアナゴ  
 アマオブネ科 23アマオブネ 28ニシキアマオブネ 30オオマルアマオブネ 32シマカノコ  
 オニツノガイ科 36オニツノガイ 38トウガタカニモリ 41クロノミカニモリ  
 ヘナタリ科 43マドモチウミニナ  
 ウミニナ科 47リュウキュウウミニナ  
 スイショウガイ科 50ネジマガキガイ 51マガキガイ 52イボソデ 55ムカシタモト 60ゴホウラ  
 61クモガイ 62クモガイ (亜成貝) 63スイジガイ 64ラクダガイ  
 ムカデガイ科 65リュウキュウヘビガイ  
 タカラガイ科 T-2ハナビラダカラ T-3コモンダカラ T-5ナツメモドキ T-6ハナマルユキ  
 T-7ヤクシマダカラ T-8ホソヤクシマダカラ T-9ホシダカラ T-13ホシキヌタ  
 タマガイ科 67トミガイ 68リスガイ 71ホウシュノタマ 73ヘソアキトミガイ 74ロウイロトミガイ  
 トウカムリ科 78ヒナヅル  
 ヤツシロガイ科 79イワカワトキワ 83スクミウズラ  
 フジツガイ科 86シオボラ 87シノマキ 88オオソウガイ 89サツマボラ 90ボウシュウボラ 94ホラガイ  
 オキニシ科 95オキニシ 98オオナルトボラ  
 アッキガイ科 100オオガンセキ 102ウネレイシダマシ 104シラクモガイ 106ツノテツレイシ 107ツノレイシ  
 110ムラサキイガレイシ 111アカイガレイシ  
 オニコブシ科 113コオニコブシ  
 オリイレヨフバイ科 114ヒメオリイレムシロ 121オリイレヨフバイ  
 イトマキボラ科 123イトマキボラ 124ナガイトマキボラ 126リュウキュウツノマタ 127ツノマタモドキ  
 130マルニシ 131チトセボラ  
 フデガイ科 137イモフデ  
 イモガイ科 140マダライモ 142サヤガタイモ 146イボシマイモ 147ヤナギシボリイモ  
 148・152サラサミナシ 149オトメイモ 155カバミナシ 156ヤキイモ 158アジロイモ  
 160キヌカツギイモ 161タガヤサンミナシ 164ナンヨウクロミナシ 166ダイミヨウイモ  
 168アカシマミナシ 170ゴマフイモ 171ニシキミナシ 172アンボイナ 176クロゾメモドキ  
 177アンボンクロザメ 178クロフモドキ  
 タケノコガイ科 184キバタケ 185タケノコガイ  
 ナツメガイ科 186ナツメガイ  
 アメフラシ科 188タツナミガイ  
 ウミウサギ科 189ウミウサギ

## 〈陸・淡水産貝〉

- R-1マルタニシ R-2オキナワヤマタニシ R-3トウガタカワニナ R-4ヨシカワニナ  
 R-7スノメカワニナ R-8カワニナ R-10ツキギセル R-12シュリマイマイ R-13カツレンマイマイ  
 R-14ヒメユリヤマタカマイマイ R-17パンダナマイマイ R-18オキナワウスカワマイマイ

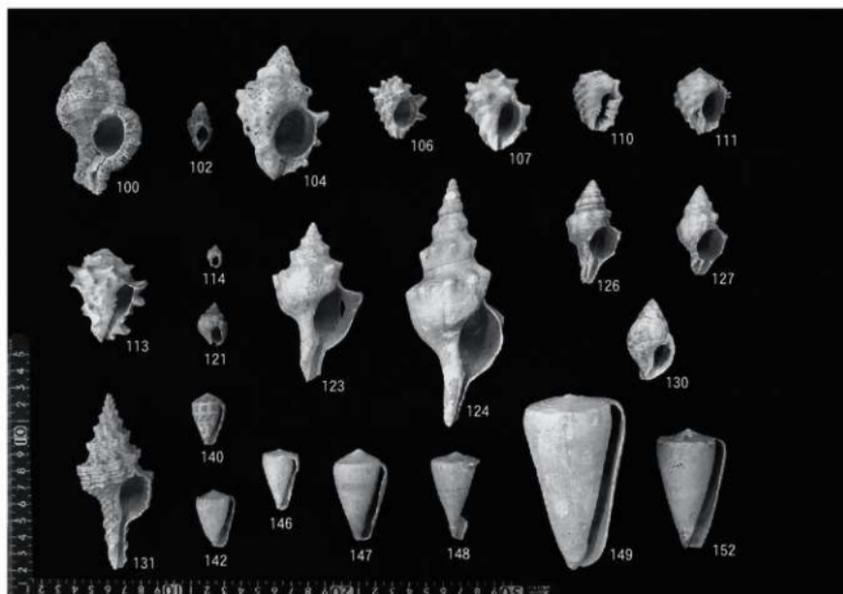
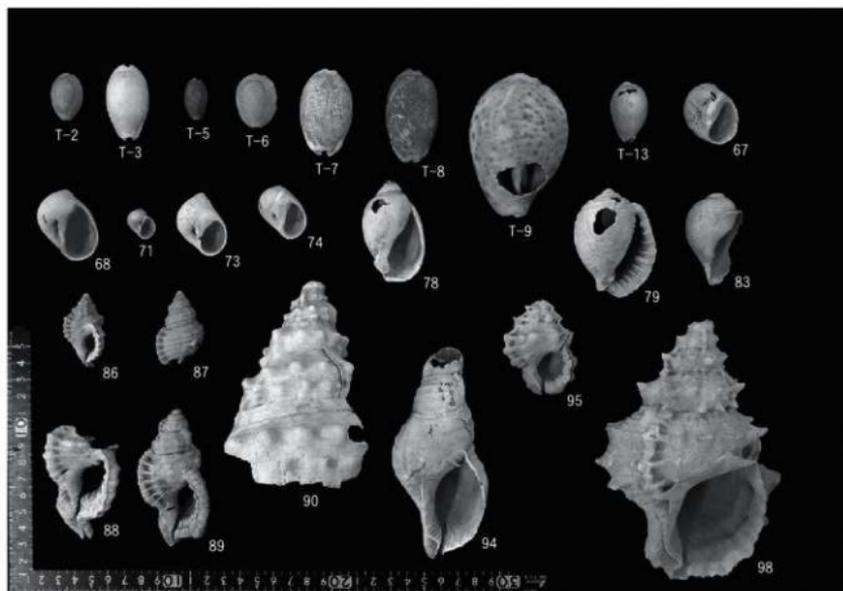
巻貝・陸産貝名称 (図版145~147)

(番号は第117表と一致)



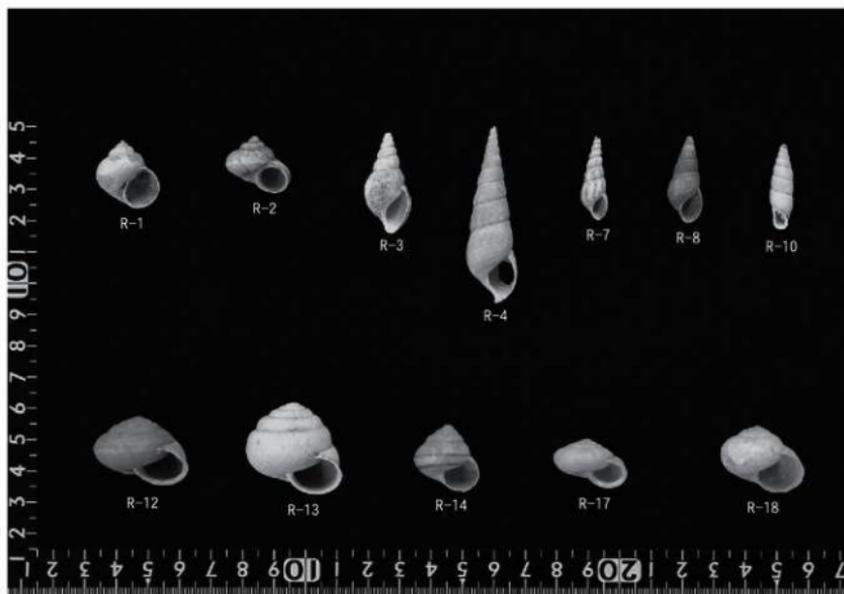
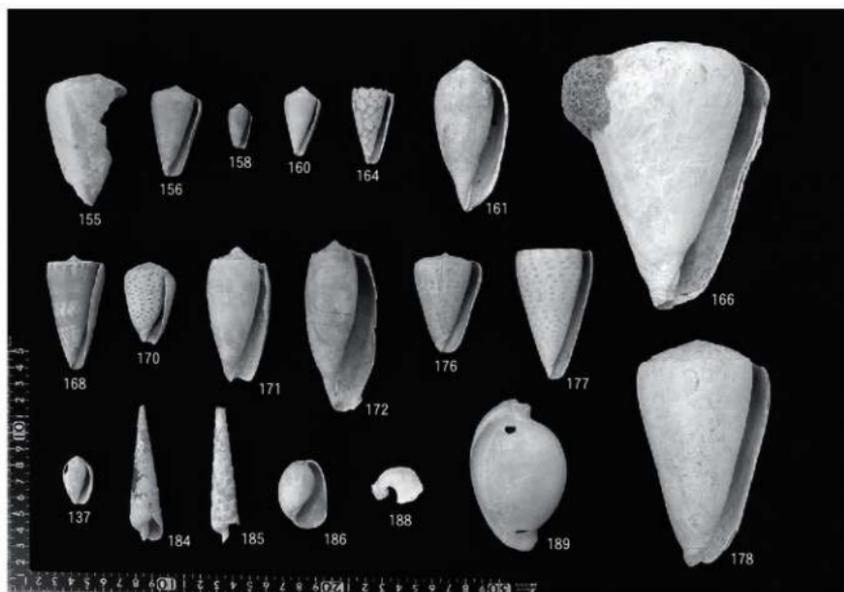
図版145 貝類遺体1 (巻貝)

(番号は第117表と一致)



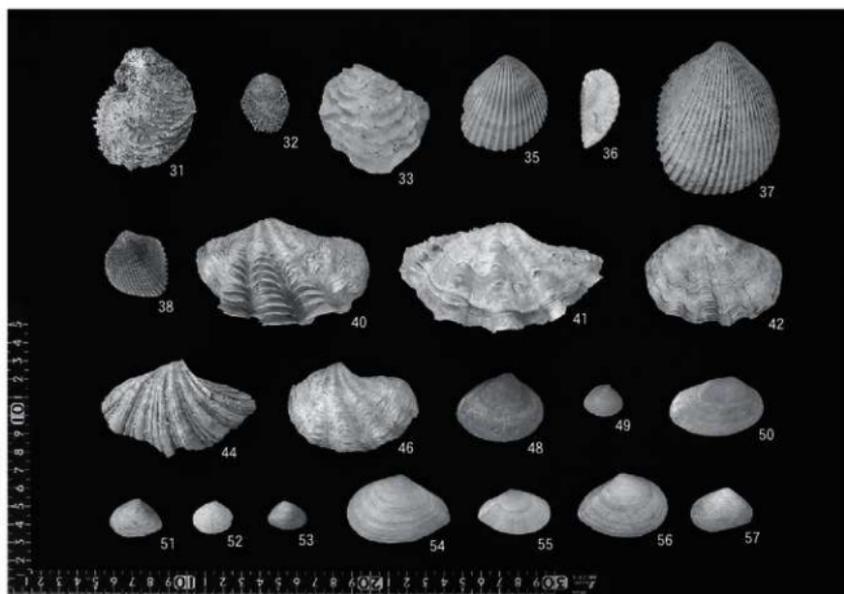
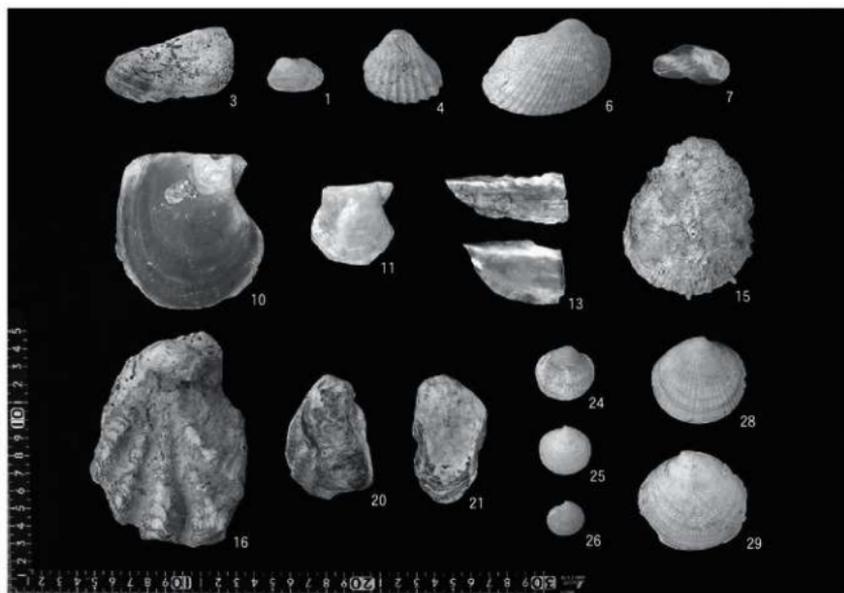
図版146 貝類遺体2 (巻貝)

(番号は第117表と一致、Tはタカラガイの意)



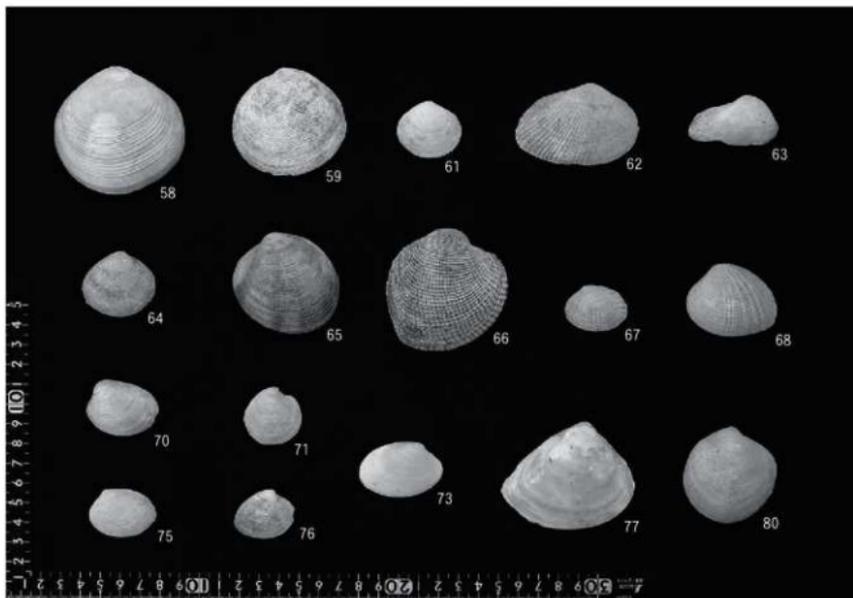
図版147 貝類遺体3 (上面：巻貝・下面：陸・淡水産貝)

(番号は第117表と一致、Rは隠産貝の意)



図版148 貝類遺体4 (二枚貝)

(番号は第117表と一致)



〈二枚貝〉

- フネガイ科 1エガイ 3オオタカノハ 4ハイガイ(セイタカハイガイ型) 6リュウキュウサルボオ  
 イガイ科 7リュウキュウヒバリ  
 ウグイスガイ科 10クロチョウガイ 11アコヤガイ  
 ハボウキガイ科 13クロタイラギ  
 ウミギク科 15メンガイ類  
 ベッコウガイ科 16シャコガキ  
 イタボガキ科 20ニセマガキ 21オハグログキモドキ  
 ツキガイ科 24カブラツキガイ 25ウラキツキガイ 26ヒメツキガイ 28クチベニツキガイ 29ツキガイ  
 キクザル科 31シロザル 32キクザル類 33ヒレインコ  
 ザルガイ科 35リュウキュウザルガイ 36リュウキュウアオイ 37フジイロザル 38カワラガイ  
 シャコガイ科 40・46オオシラナミ 41ヒレジャコ 42ヒメジャコ 44シャゴウ  
 バカガイ科 48リュウキュウバカガイ 49タママキ 50ユキガイ  
 チドリマスオガイ科 51イソハマグリ 52ナミノコマスオ  
 フジノハナガイ科 53リュウキュウナミノコ  
 ニッコウガイ科 54ニッコウガイ 55ヒメニッコウガイ 56リュウキュウシラトリ  
 57ヌノメイチョウシラトリ 58モチヅキザラ 59サメザラ  
 アサジガイ科 61サメザラモドキ  
 イソシジミ科 62リュウキュウマスオ 63マスオガイ  
 シジミ科 64シレナシジミ  
 マルスダレガイ科 65ヌノメガイ 66アラヌノメガイ 67ホソスジイナミガイ 68アラスジケマンガイ  
 70エウカゲハマグリ 71オイノカガミ 73ヒメリュウキュウアサリ  
 75ヒメアサリ 76スダレハマグリ 77トッドゥマリハマグリ 80ダテオキシジミ

図版149 貝類遺体5 (二枚貝)

(番号は第117表と一致)

## 第3節 伊礼原遺跡・伊礼原A遺跡の自然科学分析

パリオ・サーヴェイ株式会社

### はじめに

伊礼原遺跡・伊礼原A遺跡は、沖縄県中頭郡北谷町に所在し、遺跡東側の丘陵を水源とする湧水により形成された標高2mの低湿地と、その南に広がる標高4mの砂丘地域からなる。これまでの発掘調査の結果、貝塚時代前I期から前V期にかけての集落遺跡であることがわかっており、低湿地では爪形文土器やオキナワラジログシを貯蔵した遺構などが確認されており、砂丘地域では炉、柱穴、石敷き住居跡、集石遺構、竪穴住居跡などが確認されている。

本報告では、伊礼原遺跡（イ地区S12・13土器集中部）より出土した土器や、調査区壁面に認められた腐植質砂層・泥炭層などを対象に、遺物や堆積層の年代観、周辺の古植生、植物資源利用等に関する情報を得ることを目的として、放射性炭素年代測定、花粉分析、微細物分析を実施する。

### 1. 試料

土壌試料は、伊礼原A遺跡のK8北壁に認められた腐植質砂層より1点（No.1）、およびL7北壁に認められた泥炭層より1点（No.4）の、計2点が採取されている。採取された試料を視察した結果、K8北壁のNo.1は褐色礫混じり中粒～極粗粒砂からなり、最大径8cm程度の垂円礫を含む。L7北壁のNo.4は暗灰色砂まじり粘土～シルトからなり、木材片などの植物遺体を含む。これらの土壌2点について、花粉分析、微細物分析を実施する。

また、伊礼原遺跡（イ地区S12・13土器集中部）より出土した土器に付着した炭化物、およびK8北壁の腐植質砂層より抽出した木片の計2点について、放射性炭素年代測定を実施する。

### 2. 分析方法

#### (1) 放射性炭素年代測定

土壌や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後HClにより炭酸塩等酸可溶成分を除去、NaOHにより腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分の除去を行う（酸・アルカリ・酸処理）。

この試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅（II）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃（30分）850℃（2時間）で加熱してCO<sub>2</sub>を発生させる。

液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO<sub>2</sub>を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO<sub>2</sub>と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした<sup>14</sup>C-AMS専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX-II）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>Cの測定も行うため、この値を用いてδ<sup>13</sup>Cを算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。なお、暦年較正

は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0 (Copyright 1986-2010 M Stuiver and P.J Reimer) を用い、誤差として標準偏差 (One Sigma) を用いる。

## (2) 花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛、比重2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス（無水酢酸9：濃硫酸1の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作製し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。同定は、当社保有の現生標本や島倉(1973)、中村(1980)、藤木・小澤(2007)等を参考にする。

結果は同定・計数結果の一覧表、及び花粉化石群集の層位分布図として表示する。図表中で複数の種類をハイフォンで結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。なお、木本花粉総数が100個体未満のものは、統計的に扱うと結果が歪曲する恐れがあるので、出現した種類を+で表示することとめておく。

## (3) 微細物分析

土壌試料から植物遺体を分離抽出するために、K8北壁は試料400cc (892g)、L7北壁は125cc (201g) を水に浸し、粒径0.5mmの篩を通して水洗する。篩内の試料を粒径別にシャーレに集めて双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて、種実遺体、木材・炭化材（主に径4mm以上）などの植物遺体や、貝類、骨片などの動物遺体を抽出する。炭化材、動物遺体、分析残渣は、40℃ 48時間乾燥後の重量を求めて結果を一覧表で示す。

種実遺体の同定は、現生標本と石川(1994)、中山ほか(2000)等を参考に実施し、個数を数えて結果を一覧表で示す。分析後は、種実遺体を分類群別に容器に入れ、約70%のエタノール溶液で液浸し、保管する。

## 3. 結果

### (1) 放射性炭素年代測定

同位体効果による補正を行った測定結果を第120表に、暦年校正結果を第121表に示す。試料の測定年代（補正年代）は、土器付着炭化物が $1,770 \pm 20\text{BP}$ 、K8北壁腐植質砂層より抽出した木片が $2,540 \pm 30\text{BP}$ の値を示す。暦年校正とは、大気中の $^{14}\text{C}$ 濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の $^{14}\text{C}$ 濃度の変動、及び半減期の違い（ $^{14}\text{C}$ の半減期5,730 $\pm$ 40年）を校正することである。暦年校正は、CALIB 6.0のマニュアルにしたがひ、1年単位まで表された同位体効果の補正を行った年代値を用いて行う。暦年校正は北半球の大気中炭素に由来する校正曲線を用い、測定誤差 $\sigma$ 、 $2\sigma$ 双方の値を計算する。 $\sigma$ は統計的に真の値が68%の

第120表. 放射性炭素年代測定結果

遺跡名	試料名	種類	補正年代 BP	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	測定年代 BP	Code No.
伊礼原遺跡 イ地区S12-13土器集中部	土器付着炭化物	炭化物	$1,770 \pm 20$	$-23.07 \pm 0.39$	$1,740 \pm 20$	IAAA-130357
伊礼原A遺跡	K8北壁 腐植質砂層	木片	$2,540 \pm 30$	$-23.51 \pm 0.61$	$2,510 \pm 20$	IAAA-130358

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5,568年を使用。
- 2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
- 3) 付記した誤差は、測定誤差 $\sigma$ （測定値の68%が入る範囲）を年代値に換算した値。

第121表. 暦年校正結果

遺跡名	試料名	矯正年代 (BP)	暦年校正年代(cal)						相対比	Code No.
			$\sigma$	cal AD 236	- cal AD 260	cal BP 1,714	- cal BP 1,690	0.586		
伊礼原遺跡 I地区S12-13 土器集中部 (第49段80)	土器附着 炭化物	1,767±24	$\sigma$	cal AD 282	- cal AD 324	cal BP 1,668	- cal BP 1,626	0.586	IAAA-130357	
				cal AD 141	- cal AD 152	cal BP 1,809	- cal BP 1,798	0.010		
			2 $\sigma$	cal AD 168	- cal AD 193	cal BP 1,782	- cal BP 1,757	0.028		
				cal AD 210	- cal AD 346	cal BP 1,740	- cal BP 1,604	0.962		
伊礼原A遺跡	K8北壁 腐植質砂層	2,539±26	$\sigma$	cal BC 792	- cal BC 752	cal BP 2,741	- cal BP 2,701	0.551	IAAA-130358	
				cal BC 686	- cal BC 667	cal BP 2,635	- cal BP 2,616	0.244		
			2 $\sigma$	cal BC 634	- cal BC 624	cal BP 2,583	- cal BP 2,573	0.430		
				cal BC 613	- cal BC 595	cal BP 2,562	- cal BP 2,544	0.143		
			2 $\sigma$	cal BC 796	- cal BC 742	cal BP 2,745	- cal BP 2,691	0.430		
				cal BC 689	- cal BC 663	cal BP 2,638	- cal BP 2,612	0.197		
	cal BC 647	- cal BC 549	cal BP 2,506	- cal BP 2,498	0.373					

1) 計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0(Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer)を使用。  
 2) 計算には表に示した丸める前の値を使用している。  
 3) 1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年校正曲線や暦年校正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。  
 4) 統計的に真の値が入る確率は $\sigma$ は68%、2 $\sigma$ は95%である。  
 5) 相対比は、 $\sigma$ 、2 $\sigma$ のそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

確率で存在する範囲、2 $\sigma$ は真の値が95%の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、 $\sigma$ 、2 $\sigma$ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。校正された暦年代は、将来的に暦年校正曲線等の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表された値を記す。

測定誤差を $\sigma$ として計算させた結果、土器附着炭化物はcalAD 236-324、K8北壁腐植質砂層はcalBC 792-595である。

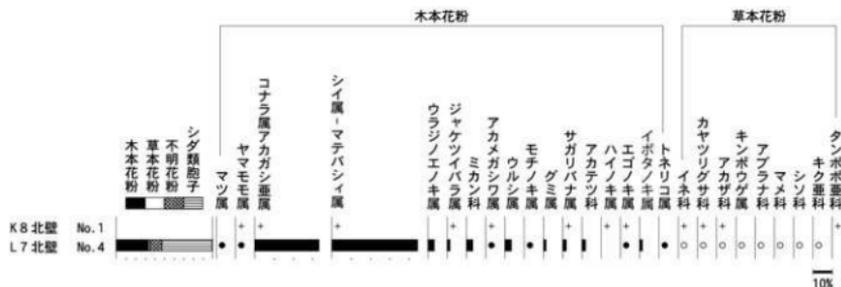
## (2) 花粉分析

結果を第122表、第179図に示す。花粉の検出状況は、試料により異なる。K8北壁のNo.1では、花粉化石の産出が少なく、定量解析を行えるだけの個体数を得ることができなかった。木本花粉ではコナラ属アカガシ亜属、シイ属-マテバシイ属、ジャケツイバラ属、サガリバナ属などが、草本花粉ではイネ科、アカザ科などが、わずかに認められる。

L7北壁のNo.4では、花粉化石が豊富に産出するものの不明花粉も多く、シダ類胞子も多産する。保存状態は、K8北壁のNo.4と比較するとやや悪い。花粉化石群集では木本花粉が優先し、アカガシ亜属、シイ属-マテバシイ属が多産する。なお、シイ属-マテバシイ属は、ほとんどがマテバシイ属と推測されるが、マテバシイ属以外にもシイ属も含まれている可能性があり、両者が明確に区別できなかったことから、これらを一括した。その他ではウラジロエノキ属、ジャケツイバラ属、ミカン科、ウルシ属、グミ属、サガリバナ属、アカテツ科、イボタノキ属などを伴う。草本花粉では、少ないながらもイネ科、アブラナ科、マメ科、シソ科などが検出される。

第122表. 花粉分析結果

種 類	伊礼原A遺跡 K8北壁 L7北壁 No.1 No.4	
	No.1	No.4
木本花粉		
マツ属	-	2
ヤマモモ属	1	2
コナラ属アカガシ亜属	8	71
シイ属-マテバシイ属	9	95
ウラジロエノキ属	-	7
ジャケツイバラ属	2	3
ミカン科	-	7
アカメガシワ属	1	1
ウルシ属	-	7
モチノキ属	-	1
グミ属	-	3
サガリバナ属	1	4
アカテツ科	-	4
ハイノキ属	1	-
エゴノキ属	1	2
イボタノキ属	-	3
トネリコ属	-	1
草本花粉		
イネ科	4	2
カヤツリグサ科	1	1
アカザ科	2	1
キンポウゲ属	-	1
アブラナ科	-	2
マメ科	-	2
シソ科	-	2
キク亜科	-	1
タンシロコ属	1	-
不明花粉		
不明花粉	10	83
シダ類胞子		
シダ類胞子	68	339
合 計		
木本花粉	24	213
草本花粉	8	12
不明花粉	10	83
シダ類胞子	68	339
合計(不明を除く)	100	564



木本花粉は木本花粉総数、草本花粉・シダ類孢子は総数から不明花粉を除いた数を基数として百分率で表した。  
 ○●は1%未満、+は木本花粉100個未満の試料において検出された種類を示す。

第179図 花粉化石群集

第123表 微細物分析結果

分類群	口地区		備考
	K8北壁 No. 1	L7北壁 No. 4	
種実遺体			
オキナワジイ	果実	破片	3 -
ムクノキ	核	破片	- 2
イチジク属?	果実?	完形	- 1
ハドノキ	果実	完形	1 21
イラクサ科	果実	破片	- 1
ヤンバルアカメガシワ	種子	破片	1 1
アカメガシワ属	種子	破片	4 1
エゴノキ	種子	破片	1 -
不明			
不明	果実	破片	- 1
不明		完形	- 1
不明		破片	2 1
その他の植物遺体			
木本類	木材		- 8 容積(cc)
	炭化材		- 0.001 乾重(g)
双子葉類	葉		- <0.01 容積(cc)
不明	刺		- <0.01 容積(cc)
蕨類	茎・葉		- <0.01 容積(cc)
動物遺体			
昆虫類			4 - 個数
貝類(二枚貝類・巻貝類など)	殻	骨片・	38.09 0.03 乾重(g)
不明	骨片・	骨片・	0.01 - 乾重(g)
ウニ類	棘	棘	0.07 - 乾重(g)
サンゴ片	棘	棘	24.05 0.20 乾重(g)
分析量			400 125 容積(cc)
			892 201 重量(g)

(3) 微細物分析

a) 種実遺体の出土状況

結果を第123表に示す。2試料を通じて、被子植物を通じて、被子植物8分類群(オキナワジイ、ムクノキ、イチジク属?、ハドノキ、イラクサ科、ヤンバルアカメガシワ、アカメガシワ属、エゴノキ)39個の種実遺体が抽出・同定された。以下に試料別出土状況を述べる。

・K8北壁 No.1

試料400cc(892g)から、被子植物6分類群(オキナワジイ、ハドノキ、イラクサ科、ヤンバルアカメガシワ、アカメガシワ属、エゴノキ)11個の種実遺体が抽出・同定された。2個は破片で同定ができなかった。種実以外では、昆虫類が4個、貝類(二枚貝類・巻貝類など)の殻が38.1g、骨片・歯が0.01g、ウニ類の棘が0.07g、サンゴ片が24.1g確認された。

・L7北壁 No.4

試料125cc(201g)から、被子植物6分類群(ムクノキ、イチジク属?、ハドノキ、イラクサ科、ヤンバルアカメガシワ、アカメガシワ属)28個の種実遺体が抽出・同定された。3個は同定ができなかったが、そのうち1個は果実と考えられる。種実以外では、木材が8cc、炭化材が0.001g、双子葉類の葉が0.01cc未満、植物の刺が0.01cc未満、蕨類の茎・葉が0.01cc未満、貝類(二枚貝類・巻貝類など)の殻が0.03g、サンゴ片が0.2g確認された。

b) 種実遺体の記載

種実遺体の保存状態は比較的良好である。各分類群の写真を図版151に示し、形態的特徴を以下に述べる。

・オキナワジイ (*Castanopsis sieboldii* (Makino) Hatusima ex Yamazaki et Mashiba subsp. *lutchuensis* (Koidz.) H Ohba) ブナ科シイ属

果実は暗灰褐色、完形ならば、長さ1.5～2cm、径1～1.3cm程度の卵体。頂部は尖り、基部を占める着点は灰褐色、円状不定形で維管束の穴が不規則な輪状に並ぶ。出土果実は破片で、最大片(8mm程度)に基部の着点が確認される(図版151-1)。果皮は厚さ約0.6mm程度で、横断面、縦断面ともに外果皮から厚さ0.3mm程度まで柵状組織が確認される(図版151-2a, b)。外果皮表面は平滑で、コナラ属やマテバシイよりも粗く深い溝が縦列する。内面には灰褐色で粗面の薄層複数枚(内果皮または種皮)が残存する。

・ムクノキ (*Aphananthe aspera* (Thunb.) Planchon) ニレ科ムクノキ属

核(内果皮)は灰黄褐色、完形ならば径0.5～0.8cm、厚さ0.4～0.5cmの広卵形で、一側面は狭倒卵形で他方は稜をなし、頂部に淡褐色、長さ1.5mm、幅1.0mmの楕円状突起がある。出土核は破片で最大3.7mm程度。内果皮は厚く柔らかく脆く、表面には粒状～六角形状の網目模様があり、断面は柵状。

・イチジク属 (*Ficus*) ? クワ科

果実が検出された。黄灰褐色、長さ1.2mm、幅0.7mm、厚さ0.6mmのやや扁平な非対称楕円体。腹面が湾曲し、側面視は曲玉状横広卵形、背面視は倒卵形。背面正中線は稜状、基部の臍は嘴状。果皮表面はやや平滑～粗面。オオイタビ節の果実とは区別される。

現在の沖縄島に分布するオオイタビ節以外のイチジク属は、アコウ亜属アコウ、ガジュマル、ムクイヌビワ節ハマイヌビワ、ホソバムクイヌビワ、イチジク節イヌビワ、アカメイヌビワ節アカメイヌビワ、オオバイヌビワの7種があるが、種までの同定には至らなかった。

・ハドノキ (*Oreocnide pedunculata* (shirai) Masamune) イラクサ科ハドノキ属

果実は黄～灰褐色、長さ1.2～1.3mm、幅0.7～0.8mm、厚さ0.6mmの凸レンズ状非対称広倒卵体。頂部はやや尖る。基部には径0.3mm程度の孔が突出し、孔の縁は肥厚する。果皮表面は粗面で微細な粒状突起が散在する。宜野座村前原遺跡の不明P(大松・辻, 1999)、不明種実1(高宮, 19999)、北谷町伊礼原C遺跡の不明P(大松・辻, 2001)、名護市思原遺跡の不明種実(バリノ・サーヴェイ株式会社, 2010)も、ハドノキの果実と考えられる。

・イラクサ科 (Urticaceae)

果実は淡黄褐色、径0.9mm、厚さ0.6mmの凸レンズ状非対称広倒卵体。頂部や基部に短い突起がある。果皮は薄く表面には微細な網目模様がある。宜野座村前原遺跡のイラクサ科?(高宮, 1999)、伊礼原C遺跡のカラムシの果実(大松・辻, 2001)、宜野湾市新城下原第二遺跡のイラクサ科?(高宮, 2006)、不明種実B(バリノ・サーヴェイ株式会社, 2006)に類似する。遺跡出土例も多いことから、沖縄島にふつうに生育する分類群と考えられる。

今回、落葉低木のヤナギイチゴ (*Debregeasia edulis* (Sieb. et Zucc.) Weddell) の現生標本との比較を試みたが、果実の形状が異なっていた。常緑低木のヌノマオ (*Pipturus arborescens* (Link) C. B. Rob.) の果実現生標本との比較が今後の課題である。

・ヤンバルアカメガシワ (*Melanolepis multiglandulosa* (Blume) Rech. f. & Zoll.) トウダイグサ科ヤンバルアカメガシワ属

種子は灰黒褐色、完形ならば径4～5mmの歪な球体で基部にY字形の稜がある。出土種子は破片で、最大2mm程度。種皮は厚く硬く、断面は柵状で内側では湾曲する。表面には径不同で円形の深い窪みが散在する。

#### ・アカメガシワ属 (*Mallotus*) トウダイグサ科

種子は灰黒褐色、完形ならば径4~5mmの歪な球体で基部にY字形の稜がある。出土種子は破片で、最大3.7mm程度。種皮表面にはアカメガシワよりも凹凸が粗い瘤状突起が密布する。種皮断面は櫛状組織が内側に湾曲する。

#### ・エゴノキ (*Styrax japonica* Sieb. et Zucc.) エゴノキ科エゴノキ属

種子は灰褐色、完形ならば長さ0.9~1cm、径0.6~0.8cm程度の卵形で頂部は尖り、頂部から基部にかけて3本程度の縦溝と縦隆条がある。基部は斜切形で、淡灰褐色、径5mm程度の粗面の着点がある。出土種子は破片で径5.5mm。種皮は硬く断面は櫛状。表面にはやや粗い粒状網目模様がある。

## 4. 考察

### (1) 年代観

放射性炭素年代測定結果をみると、土器付着炭化物で $1,770 \pm 20BP$ 、K8北壁の腐植質砂層で $2,540 \pm 30BP$ の補正年代値が得られた。

これらのことから、K8北壁の腐植質砂層は縄文時代晩期(貝塚時代中期)頃を示す堆積物である。一方、炭化物が付着していた土器は、口唇部に刺突文を施すことから当初の所見で貝塚時代後期(後Ⅲ期)のくびれ平底期に由来するものと思われたが、今回の結果はそれより若干古く、主体となる大当原期(Ⅳ類)に近い値を示している。

### (2) 古植生・植物資源利用

K8北壁の腐植質砂層(No. 1)からは、花粉化石がほとんど検出されなかった。花粉化石が少ない場合、もともと取り込まれにくかったことや、取り込まれた後に消失したことなどが想定される。わずかに認められた花粉化石の保存状態は、後述するL7北壁よりも良かったこと、堆積物が糞混じりの中粒~極粗粒砂であることなどを考慮すると、堆積時に花粉やシダ類胞子が取り込まれにくかった可能性が高い。わずかにコナラ属アカガシ亜属、シイ属-マテバシイ属、ジャケツイバラ属、サガリバナ属などの木本類、イネ科、アカザ科などの草本類が産出する。

L7北壁の泥炭層(No. 4)からは、花粉化石やシダ類胞子が多産するが、全体的に保存状態が悪く、花粉外膜が破損・溶解している個体が多く認められた。検出された花粉化石についてみると、木本類が優先し、アカガシ亜属、シイ属-マテバシイ属(おそらくマテバシイ属主体)など、常緑広葉樹林(照葉樹林)の構成要素が多産する。その他にも、ヤマモモ属、ウラジロエノキ属、ミカン科、アカメガシワ属、モチノキ属、ハインノキ属、エゴノキ属、イボタノキ属、トネリコ属など、低地~山地にかけて生育する低木~高木が認められる。

一方、種実遺体でも、K8北壁の腐植質砂層とL7北壁の泥炭層から、広葉樹で常緑高木のオキナワジイ、落葉高木のムクノキ、常緑または落葉小高木のアカメガシワ属、落葉小高木のヤンバルアカメガシワ、エゴノキ、常緑または落葉の高木、低木のイチジク属?、常緑低木のハドノキ、草本、まれに常緑または落葉低木のイラクサ科が確認された。

以上のことから、これらの花粉化石・種実遺体に認められた分類群は、当時の本地域の常緑広葉樹林やその林縁部などに生育していたと考えられ、豊富な樹種構成からなる森林が分布していたと推測される。特にオキナワジイは、現在の沖縄島北部の非石灰岩地域に分布する常緑広葉樹林の主要な構成種である。中南部の石灰岩地域に位置する本遺跡より出土した果実は、当時の遺跡周辺域にオキナワジイが生育する照葉樹林の分布を示唆する考古資料と言え、沖縄島の植生変遷史を検討する上で重要である。また、オキナワジイは、果実内部の子葉が生食可能な有用植物である。出土

果実には、人間による直接的な食利用の痕跡は確認されないが、周辺の森林より持ち込まれ利用された可能性も十分に考えられる。

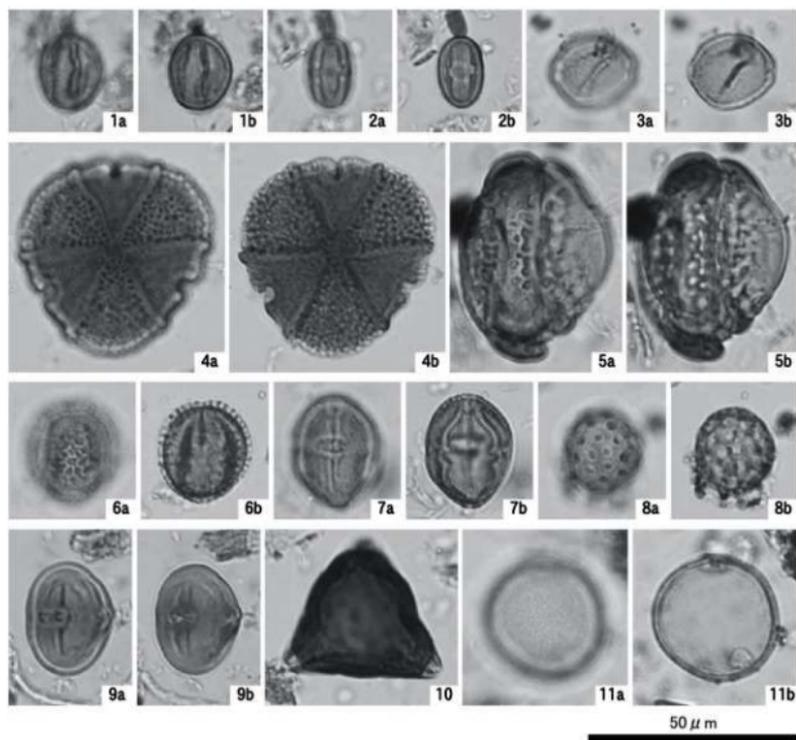
それ以外にも、海岸沿いなどに生育するアカテツ科や、マングローブ上流の湿地帯に生育するサガリバナ属、マングローブ後方のやや陸化したところに生えるジャケツイバラ属なども認められることから、海岸から低地にかけて、これらの種類も生育していたと推測される。

伊礼原遺跡（低湿地区）における調査事例をみると、貝塚時代前II期とされる層準から、同様にシイ属-マテバシイ属の花粉が多産し、種実遺体ではシイ属の多産とともにアカガシ亜属やマテバシイ属の果実が確認されている（辻ほか, 2007）。また、マングローブの要素では、貝塚時代前II・III期、および後期の層準から検出された自然木から、サキシマスオウノキやオヒルギ、サガリバナなどの材が確認されており、特にサキシマスオウノキとサガリバナは根材も検出されたことから、遺跡周辺での生育が指摘されている（能代, 2007）。今回の結果も、過去の調査結果と調和的である。

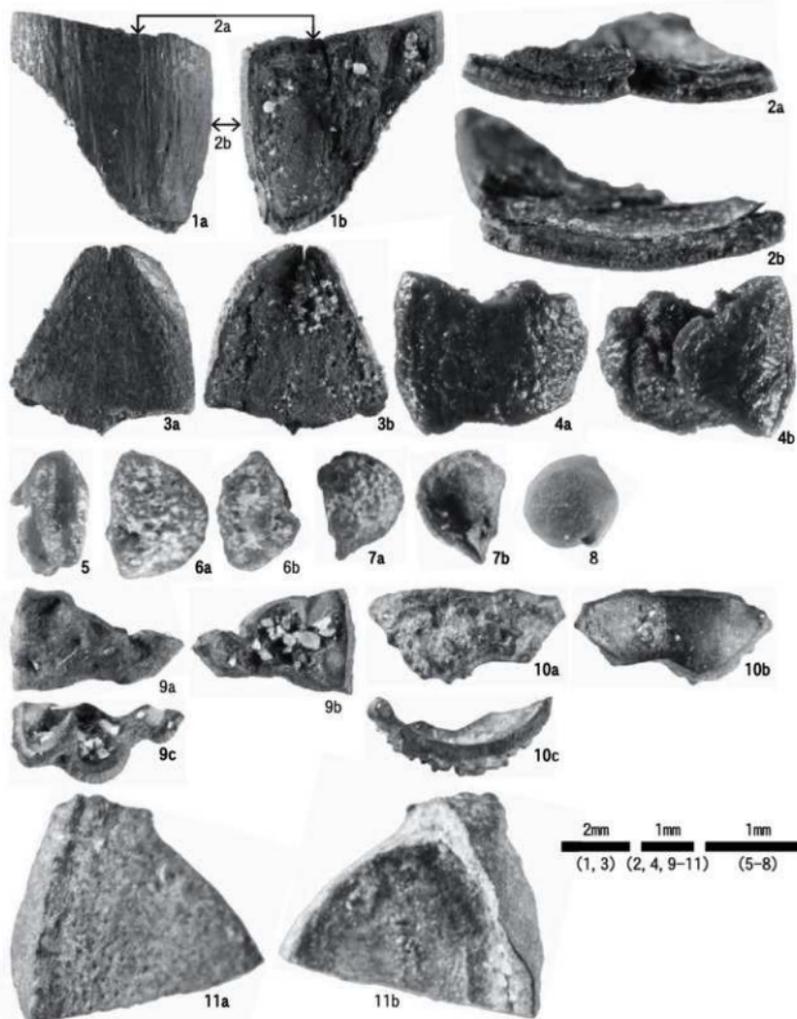
草本類では、僅かではあるが、イネ科、アブラナ科、マメ科、シソ科など、開けた明るい場所に生育する種群が検出される。よって、調査区内や周囲の林縁林床などに、これらの草本類が生育していたと考えられる。

## <引用文献>

- 藤木利之・小澤智生, 2007, 琉球列島産植物花粉図鑑, アクアコーラル企画, 155p.
- 石川茂雄, 1994, 原色日本植物種子写真図鑑, 石川茂雄図鑑刊行委員会, 328p.
- 中村 純, 1980, 日本産花粉の標徴 I II (図版), 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 第12, 13集, 91p.
- 中山至大・井之口希秀・南谷忠志, 2000, 日本植物種子図鑑, 東北大学出版会, 642p.
- 能代修一, 2007, 伊礼原遺跡から出土した木材の樹種, 北谷町文化財調査報告書 第26集 伊礼原遺跡-伊礼原B遺跡ほか発掘調査, 北谷町教育委員会, 445-466p.
- 大松しのぶ・辻 誠一郎, 1999, 前原遺跡から産出した大型植物遺体群, 前原遺跡-県道漢那松田線道路整備工事に伴う発掘調査報告書-1, 宜野座村乃文化財14集, 宜野座村教育委員会, 223-241p.
- 大松志伸・辻 誠一郎, 2001, 沖縄県北谷町伊礼原C遺跡の縄文時代前期相当期の大型植物遺体群, 植生史研究, 第10巻, 第1号, 17-32p.
- バリノ・サーヴェイ株式会社, 2006, 新城下原第二遺跡(II地区下層)の自然科学分析, 新城下原第二遺跡-キャンプ瑞慶覧内整備工場建設に係る緊急発掘調査報告-1, 沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第35集, 沖縄県立埋蔵文化財センター, 311-328p.
- バリノ・サーヴェイ株式会社, 2010, 思原遺跡の自然科学分析, 思原遺跡2地区-シェワブ(H20)倉庫等地区新設造成工事に伴う緊急発掘調査-1, 名護市文化財調査報告書20, 名護市教育委員会, 22-37p.
- 島倉巳三郎, 1973, 日本植物の花粉形態, 大阪市立自然科学博物館収蔵目録 第5集, 60p.
- 高宮広土, 1999, 栽培植物の探索, 前原遺跡-県道漢那松田線道路整備工事に伴う発掘調査報告書-1, 宜野座村乃文化財14集, 宜野座村教育委員会, 259-275p.
- 高宮広土, 2006, 植物遺体, 新城下原第二遺跡-キャンプ瑞慶覧内整備工場建設に係る緊急発掘調査報告-1, 沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第35集, 沖縄県立埋蔵文化財センター, 287-294p.
- 辻 誠一郎・大松しのぶ・辻 圭子, 2007, 伊礼原遺跡の植物遺体群, 北谷町文化財調査報告書 第26集 伊礼原遺跡-伊礼原B遺跡ほか発掘調査, 北谷町教育委員会, 433-444p.



- |                             |                             |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1. コナラ属アカガシ亜属 (L7北壁; No. 4) | 2. シイ属-マテバシイ属 (L7北壁; No. 4) |
| 3. ウラジロエノキ属 (L7北壁; No. 4)   | 4. ジャクツイバラ属 (L7北壁; No. 4)   |
| 5. サガリバナ属 (L7北壁; No. 4)     | 6. ミカン科 (L7北壁; No. 4)       |
| 7. ウルシ属 (L7北壁; No. 4)       | 8. アカザ科 (K8北壁; No. 1)       |
| 9. アカテツ科 (L7北壁; No. 4)      | 10. グミ属 (L7北壁; No. 4)       |
| 11. イネ科 (K8北壁; No. 1)       |                             |



1. オキナワジイ 果実 (K8北壁; No. 1)  
 3. オキナワジイ 果実 (K8北壁; No. 1)  
 5. イチジク属 果実? (L7北壁; No. 4)  
 7. ハドノキ 果実 (L7北壁; No. 4)  
 9. ヤンバルアカメガシワ 種子 (K8北壁; No. 1)  
 11. エゴノキ 種子 (K8北壁; No. 1)

2. オキナワジイ 果実 (a: 横断面, b: 縦断面) (K8北壁; No. 1)  
 4. ムクノキ 核 (L7北壁; No. 4)  
 6. ハドノキ 果実 (L7北壁; No. 4)  
 8. イラクサ科 果実 (K8北壁; No. 1)  
 10. アカメガシワ属 種子 (K8北壁; No. 1)

図版151 種実遺体

## 第4節 土器内土壌の自然科学分析

パリオ・サーヴェイ株式会社

### はじめに

北谷町に所在する伊礼原遺跡では、貝塚時代後I期の可能性があるとされている土器が出土している。土器内には、貝殻の細片を多量に含む灰色の砂が隙間なく充填されている状況が確認された。充填物は、周囲の堆積物とは異質の碎屑物であることから、人為的な充填物である可能性が指摘されている。

本報告では、これらの土器内土壌を対象として、含有される微化石（花粉および植物珪酸体）や微細な動物遺体の産状を確認し、また、土壌の理化学的性質や残存する脂質の検出を行う。そして、これらの分析結果を検討することにより、対象とした容器の使用に関わる情報を得ることとする。

### 1. 試料

試料は、貝塚時代後I期の可能性があると考えられている尖底の壺（第55図126）とされた土器中に充填されていた灰色の砂の固まり1点である。出土土器中の砂の固まりは、全体的に灰色を呈し、貝殻の細片を多量に含む、シルト分や粘土分が極めて微量含まれていることで土器の外形を保っている砂塊である。

### 2. 分析方法

#### (1) 花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、節別、重液（臭化亜鉛、比重2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス（無水酢酸9：濃硫酸1の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。

#### (2) 植物珪酸体分析

湿重5g前後の試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム、比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。検鏡しやすい濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、ブリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。

400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）、およびこれらを含む珪化組織片を近藤（2004）の分類に基づいて同定し、計数する。

結果は、検出された分類群とその個数の一覧表で示す。

#### (3) 微細物分析

炭化植物（種実、炭化材など）の回収を目的とした分析を実施する。試料を容器に広げ、常温乾燥させる。乾燥後の試料を肉眼やルーペで観察し、目に付いた炭化物を拾い出す。乾燥抽出後の試料を水を満たした容器に投入し、浮いた炭化物をすくい取って回収する。容器を傾斜させて浮いた炭化物を粒径0.5mmの篩に回収する。容器内の残土に水を入れて軽く攪拌した後、容器を傾斜させて

回収する作業を炭化物が浮かなくなるまで繰り返す(20-30回程度)。残土を粒径0.5mmの篩を通して水洗する。

篩内の試料を粒径別にシャーレに集めて双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて種実や炭化材などの炭化物の他、動物骨、貝類やウニ類の棘などを抽出する。抽出された種実遺体は、双眼実体顕微鏡下で観察し、現生標本および石川(1994)、中山ほか(2000)等との対照から種類と部位を同定する。

分析後は、検出物と残渣を40℃ 48時間乾燥後、容器に入れて返却する。

#### (4) 土壤理化学分析

リン酸含量は硝酸・過塩素酸分解-バナドモリブデン酸比色法、カルシウム含量は硝酸・過塩素酸分解-原子吸光法、腐植含量はチューリン法(土壤標準分析・測定法委員会,1986)でそれぞれ行った。以下に各項目の操作工程を示す。

##### 1) 分析試料の調製

試料を風乾後、土塊を軽く崩して2mmの篩でふるい分けをする。この篩通過試料を風乾細土試料とし、分析に供する。また、風乾細土試料の一部を乳鉢で粉碎し、0.5mm篩を全通させ、粉碎土試料を作成する。風乾細土試料については、105℃で4時間乾燥し、分析試料水分を求める。

##### 2) リン酸、カルシウム含量

粉碎土試料1.00gをケルダール分解フラスコに秤量し、はじめに硝酸( $\text{HNO}_3$ )約5mlを加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸( $\text{HClO}_4$ )約10mlを加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で100mlに定容して、ろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸( $\text{P}_2\text{O}_5$ )濃度を測定する。別にろ液の一定量を試験管に採取し、干渉抑制剤を加えた後に原子吸光度計によりカルシウム( $\text{CaO}$ )濃度を測定する。これら測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含量( $\text{P}_2\text{O}_5$ mg/g)とカルシウム含量( $\text{CaO}$ mg/g)を求める。

##### 3) 腐植含量

粉碎土試料0.100～0.500gを100ml三角フラスコに正確に秤りとり、0.4Nクロム酸・硫酸混液10mlを正確に加え、約200℃の砂浴上で正確に5分間煮沸する。冷却後、0.2%フェニルアントラニル酸液を指示薬に0.2N硫酸第一鉄アンモニウム液で滴定する。滴定値および加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの有機炭素量(0rg-C 乾土%)を求める。これに1.724を乗じて腐植含量(%)を算出する。

#### (5) 脂質分析

分析は、坂井ほか(1996)に基づき、脂肪酸およびステロール成分の含量測定を行う。試料が浸るに十分なクロロホルム:メタノール(2:1)を入れ、超音波をかけながら脂質を抽出する。ロータリーエバポレーターにより、溶媒を除去し、抽出物を塩酸-メタノールでメチル化を行う。ヘキサンにより脂質を再抽出し、セップバックシリカを使用して脂肪酸メチルエステル、ステロールを分離する。脂肪酸のメチルエステルの分離は、キャピラリーカラム(ULBON,HR-SS-10,内径0.25mm,長さ30m)を装着したガスクロマトグラフィー(GC-14A,SHIMADZU)を使用した。注入口温度は250℃、検出器は水素炎イオン検出器を使用する。ステロールの分析は、キャピラリーカラム(J&W SCIENTIFIC,DB-1,内径0.36mm,長さ30m)を装着する。注入口温度は320℃、カラム温度は270℃恒温で分析を行う。キャリアガスは窒素を、検出器は水素炎イオン化検出器を使用する。

### 3. 結果

#### (1) 花粉分析

結果を第124表に示す。いずれの試料からも、花粉化石は1個体も検出されなかった。

#### (2) 植物珪酸体分析

結果を第125表に示す。各試料からは、植物珪酸体が極めてわずかに検出されるに過ぎない。保存状態は、良好である。出土した土器(尖底)内の土壌試料では、短細胞珪酸体に由来するダンク型が検出されるものの、種類の同定には至らない。

#### (3) 微細物洗い出し分析

結果を第126表に示し、以下に検出状況を述べる。壺(尖底)内土壌150cc(593.65g)からは、炭化材0.01g未満(最大径3.5mm)、動物遺体(動物骨、巻貝類(大型で平ら)、巻貝類(小型で細身)、二枚貝類、貝類(その他)、ウニ類の棘、サンゴ片など)891個(4.97g)が検出された。

第124表. 花粉分析結果

種 類	壺
	尖底土器
シダ類孢子	-
シダ類孢子	-
合 計	
木本花粉	0
草本花粉	0
シダ類孢子	0
総計	0

第125表. 植物珪酸体分析結果

種 類	壺
	尖底土器
イネ科薬部短細胞珪酸体	
不明ダンク型	1
イネ科薬身機動細胞珪酸体	
不明	-
合 計	
イネ科薬部短細胞珪酸体	1
イネ科薬身機動細胞珪酸体	0
総 計	1

第126表. 微細物洗い出し分析結果

種 類	部 位	状 態	壺(尖底土器)	備 考
植物遺体				
イネ	類	破片(基部)	炭化	
炭化材		破片	炭化	<0.01g
			3.5mm	最大径
動物遺体			4.97g	
硬骨魚綱				
魚類	椎骨	破片	1個	<0.01g
	鰭棘等	破片	63個	0.09g
	不明	破片	2個	<0.01g
哺乳綱?				
獣類?	骨	破片	1個	0.02g
腹足綱				
微小貝類	殻	完形	312個	0.38g
		破片	195個	0.25g
		破片(径2mm以下)	95個	0.21g
パンダナマイマイ	殻	完形	2個	0.39g
ベッコウマイマイ科	殻	完形	1個	0.08g
マイマイ類(大型)	殻	破片	5個	0.35g
マイマイ類(小型)	殻	破片	2個	0.02g
二枚貝綱				
ザルガイ科	左殻	破片	5個	<0.01g
	右殻	破片	3個	<0.01g
リュウキュウシラトリ	右殻	完形	1個	0.45g
貝類(その他)	殻	破片	127個	1.57g
ウニ類	棘	破片	72個	0.15g
サンゴ類		破片(径1cm以上)	6個	0.94g
残渣			147.14g	
分析量			150cc	
			593.65g	

動物遺体は、硬骨魚綱の椎骨片・鱗棘等、哺乳綱とみられる破片、腹足綱、二枚貝綱、ウニ類の棘、サンゴ類の破片が検出される。腹足綱は、大型のパンダナマイマイやベッコウマイマイ科など他、微小な貝類が検出される。微小貝類の中には、ユキノカサガイ科、ニシキウズガイ科？、オノツノガイ科、フトヘナタリ、ホソスジチョウジ、リュウキュウシラギク、クリイロキリオレ、アツキガイ科、ミヨリオトメフデ、クチビルクチキレ、トウガタガイ科、ツムガタコメツブガイ、コハクオカミミガイ？、コメツブダワラガイ？などがみられる。二枚貝綱では、ザルガイ科の左右殻片およびリュウキュウシラトリ右殻がみられる。

これらの種類の内、パンダナマイマイ、ベッコウマイマイ科、コメツブダワラガイ？などは陸産貝類である。その他の貝類は、岩礁地、リーフ内の浅い海、潮間帯の珊瑚礁、河口域のマングローブ、潮間帯付近の砂地などに棲息する種類である。

第127表. 土壤理化学分析結果

試料名	土性	土色	腐植含量 (%)	P205 (mg/g)	CaO (mg/g)	備考
壺 (尖底土器)	S	2.5Y4/2 暗灰黄	0.36	1.85	253.65	貝殻片富む

注. (1) 土色：マンセル表色系に準じた新版標準土色帖（農林省農林水産技術会議監修，1967）による。

(2) 土性：土壤調査ハンドブック（ペドロジスト懇談会編，1984）の野外土性による。

S・・・砂土（粘土0～5%、シルト0～15%、砂85～100%）

SL・・・砂壤土（粘土0～15%、シルト0～35%、砂65～85%）

#### (4) 土壤理化学分析

結果を第127表に示す。壺内土壌は、腐植含量は0.36%、リン酸含量は1.85mg/gであった。これらの値は、渡嘉敷（1993）に示されている島尻マージ下層土の値に比べるといずれも低い値である。カルシウム含量は253.65mg/gと極めて高い値を示すが、これは多量に含まれる貝片に由来する。

#### (5) 脂質分析

結果を第128表に示す。壺内土壌の脂肪酸は、ドコサヘキサエン酸が検出されたのみである。ステロールは、未検出である。

### 4. 考察

#### (1) 壺内土壌について

花粉および植物珪酸体の微化石分析では、内容物の手がかりとなるような結果は得られなかったと言える。一方、微細物分析では、壺内土壌から外見の通り多量の貝類が確認され、これらは陸産のものや珊瑚礁、マングローブ、潮間帯など様々な種類のものが混在していた。さらに、魚およびほ乳類に由来する動物骨も破片ながら確認されている。このように様々な貝片、骨片が混在する状況からは、自然堆積物に由来するというよりも何らかの人為が加わった堆積物に由来する可能性のあることが示唆される。ただし、土壤理化学分析では、特に高い腐植含量やリン酸含量が示

第128表. 脂質分析結果

種 類	壺
試料名	尖底土器
脂肪酸組成	
ミリスチン酸 (C14)	-
パルミチン酸 (C16)	-
パルミトレン酸 (C16:1)	-
ステアリン酸 (C18)	-
エライジン酸 (C18:trans)	-
オレイン酸 (C18:1 cis)	-
リノール酸 (C18:2)	-
αリノレン酸 (C18:3)	-
アラキジン酸 (C20)	-
イコセン酸 (C20:1)	-
アラキドン酸 (C20:4)	-
ベヘン酸 (C22)	-
ドコセン酸 (C22:trans)	-
エルカ酸 (C22:1cis)	-
イコサペンタエン酸 (C20:5)	-
リグノセリン酸 (C24)	-
テトラコセン酸 (C24:1)	-
ドコサヘキサエン酸 (C22:6)	100.0
ステロール組成	
コプロスタノール	-
コレステロール	-
エルゴステロール	-
カンバステロール	-
スティグマステロール	-
シトステロール	-
分析試料の重量(g)	106.7

されていないことから、穀物貯蔵や動物（人間も含めて）遺体埋納などの可能性は低いと考えられる。なお、壺内土壌でみられたドコサヘキサエン酸は、二重結合を6個持つ不安定な物質で、酸化等によって分解されやすい物質であるため、土壌中に多量に含まれているとは考えにくい。おそらく、今回の試料は脂質の量が非常に少なく、分析機器の感度を下回っていたと考えられるため、脂質分析から内容物を推定するものではないと考えられる。

なお、小堀原遺跡から出土したグスク時代のカムイヤキ内土壌および内面に付着していた有機物と考えられている付着物を対象とした分析結果を参考程度に記載する。

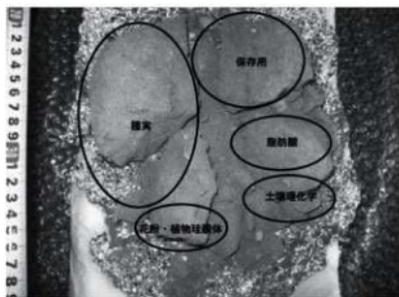
小堀原遺跡の壺内土壌からは、微細物分析によって穀物のイネが検出された。土壌理化学分析および脂質分析からは、いずれも内容物を示唆するような結果は得られなかったが、わずかながらでも炭化したイネが検出されているが、現時点では、穀物を貯蔵したとまでは言うことはできない結果であった。また、付着物は、無機炭酸塩であり、有機物の存在は認められていない。

#### <引用文献>

- 土壌標準分析・測定法委員会編、1986、土壌標準分析・測定法、博友社、354p。  
石川茂雄、1994、原色日本植物種子写真図鑑、石川茂雄図鑑刊行委員会、328p。  
近藤謙三、2004、植物ケイ酸体研究、ペドロジスト、48、46-64p。  
中山至大・井之口希秀・南谷忠志、2000、日本植物種子図鑑、東北大学出版会、642p。  
農林省農林水産技術会議事務局監修、1967、新版標準土色帖。  
ペドロジスト懇談会、1984、野外土性の判定、ペドロジスト懇談会編 土壌調査ハンドブック、博友社、39-40p。  
坂井良輔・小林正史・藤田邦雄、1996、灯明皿の脂質分析、富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告 第7集、梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告（遺物編）第二分冊、財団法人 富山県文化振興財団、24-37p。  
渡嘉敷義浩、1993、沖縄に分布する島尻マージおよびジャーガルの土壌特性、ペドロジスト、37、99-112p。



1. 壺(尖底土器)内土壌外観



2. 壺(尖底土器)内土壌を分割した状態

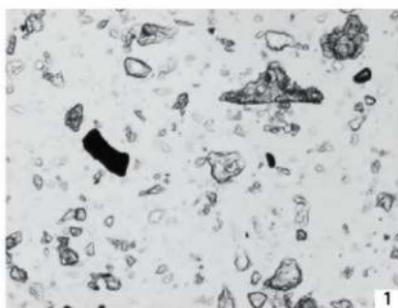


3. 壺(尖底土器)内土壌採取状況(1)

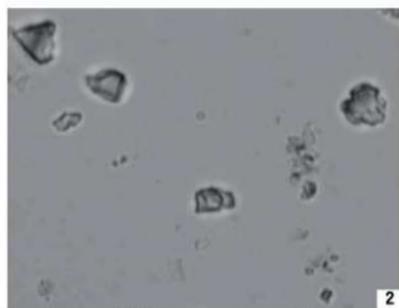


4. 壺(尖底土器)内土壌採取状況(2)

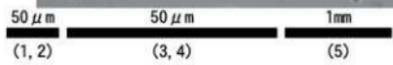
図版152 試料外観および試料採取作業状況



1



2



1. 花粉分析プレバート内の状況(壺・尖底土器)
2. 植物珪酸体分析プレバート内の状況(鉱物粒子が散在)(壺・尖底土器)

図版153 花粉分析プレバート内の状況写真・植物珪酸体分析プレバート内の状況写真

## 第5節 出土人骨

土肥直美（琉球大学医学部）

### 1. はじめに

沖縄県北谷町伊礼原遺跡から出土した人骨について報告する。人骨は平成20年度、24年度の発掘調査において出土したものである。平成20年度調査A11から幼児骨1体（1号人骨）、平成24年度調査N14から乳児骨（2号人骨）1体、A9から成人骨（3号人骨）が検出された。以下に概要を報告する。

### 2. 出土人骨と調査の方法

出土人骨は乳児1体、幼児1体、成人1体、計3体である。性別、年齢はBrothwell(1981)<sup>31</sup>、Ubelaker(1989)<sup>32</sup>を参考に、歯の萌出・形成の程度、また四肢長骨の特徴等から推定した。また、成人骨の計測はKnussman(1988)<sup>33</sup>に従った。

### 3. 人骨の所見

#### (1) 1号人骨（幼児）

1号人骨はイ地区A11土坑から検出された埋葬人骨である（図版154）。年代は考古学的所見から貝塚時代後期と考えられている。頭蓋骨、歯、肋骨、左大腿骨が確認されたが、グスク期のビットによって体部骨のほとんどが破壊されており、消失している。

性別は不明、年齢は大腿骨の大きさ等から幼児（1歳～6歳）と推定される。

#### (2) 2号人骨（乳児）

2号人骨はN14から検出された埋葬人骨である。年代は考古学的所見からグスク時代と考えられている。両手足を曲げ、体を丸めた姿勢で埋葬されており、ほとんど一塊の状態で検出された。ほぼ全身骨が残存するが、取り上げ後、年齢推定に必要と思われる部位を優先的に取り外しながら鑑定を行った（図版155）。

性別は不明、年齢は四肢骨の大きさ、残存する歯の形成段階から乳児（生後1歳まで）と推定される。

#### (3) 3号人骨（成人女性）

3号人骨はA9から検出された（図版156）。大腿骨片のみであるため詳細は不明であるが、考古学的所見から年代はグスク時代と考えられている。

人骨は右大腿骨骨体部と小骨片が各1点である。大腿骨は華奢で筋付着部の発達も弱く、性別は女性と推定される（第129表）。小骨片も大腿骨片であるが、詳細は不明である。同一個体のものと考えて大きな矛盾はないように思われる。

年齢の詳細は不明であるが、骨質等から成人（20歳以上）と推定した。

#### (4) 遺跡出土の未成人骨

遺跡から出土する未成人骨は当時の家族観、死生観などの貴重な情報を提供してくれる。今回は貝塚時代後期とグスク時代の乳幼児骨が検出されている。情報量が少ないため、これだけで当時の社会を推測することは難しいが、どちらも丁寧に埋葬された様子がうかがえる。

貝塚時代の未成人骨出土例としては、具志川島岩立遺跡（全体の39%）<sup>41</sup>、具志川グスク崖下地区（全体の28.4%）<sup>31</sup>などが報告されている。また、グスク時代については、北谷町小堀原遺跡<sup>42</sup>、うるま市具志川グスク<sup>73</sup>、石垣市登野城遺跡<sup>43</sup>などで、いずれも城内あるいは集落内の住居近くから、埋葬された未成人骨が発見されている。

当時の未成人の死亡率は相当に高かったと考えられているが、沖縄の事例はいずれも低い傾向を示している。伊礼原の場合、断片的な情報しか得られていないので、全体的な議論をするのは難しい。

未成人の葬法はそれぞれの時代の死生観を反映するものである。それぞれ時代の墓制・葬制、死生観の解明のためには、さらなる事例の追加を待ちたい。

<参考文献>

- 1) Brothwell DR (1981) Digging up Bones. Cornell University Press.
- 2) Ubelaker (1989) Human skeletal remains:Excavation, Anelysis, Interpretation. Washington, DC: Taraxacum.
- 3) Knussman R. (1988) Martin / Knussman Anthropologie. Band 1, Stuttgart, Gustav Fischer Verlag.
- 4) 片桐千亜紀, 小橋川剛, 島袋利恵子, 土肥直美 (2008) 具志川島岩立遺跡出土人骨の再整理. 紀要 沖縄埋文研究5, 沖縄県立埋蔵文化財センター.
- 5) 土肥直美他 (2008) 「具志川グスク崖下地区の発掘調査」 文部科学省科学研究費補助金基盤研究C
- 6) 土肥直美 (2009) 小堀原遺跡出土の人骨. 「小堀原遺跡」北谷町文化財調査報告書第30集. 北谷町教育委員会, pp. 187-188.
- 7) うるま市教育委員会 (2006) 「具志川グスク I-発掘調査概報-」うるま市文化財調査報告書第4集.
- 8) 土肥直美 (2009) 登野城遺跡出土の人骨. 石垣市教育委員会 (印刷中)
- 9) 藤田祐樹 (2011) 登野城遺跡 (86番地) 出土の人骨について. 石垣市文化財調査報告書第32号「登野城遺跡」石垣市教育委員会.



図版154 1号人骨出土状態



図版156 3号人骨出土部位

第129表 3号大腿骨計測値表

Martin No.	項目	右
6	体中央矢状径	21
7	体中央横径	23
9	体上横径	25
10	体上矢状径	20
6/7	体中央断面示数	91.3
10/9	体上断面示数	80.0

(mm)



図版155 2号人骨 (体部骨)

## 第V章 総括

伊礼原遺跡(国指定外)は、桑江伊平区画整理事業に伴い平成19・20・24年度に緊急発掘調査が行われた周知の埋蔵文化財である。平成19年度(H19地区)は伊礼原遺跡確認調査(2007)のトレンチを挟んで行い、貝塚時代後期、グスク時代、近世～近・現代の遺構や遺物を検出した。平成19年度は遺跡の一部(東側)のみ調査を行い、南側は平成20年度(イ・ロ地区)、北西側は平成24年度(ハ・ニ地区)に調査を行った。

伊礼原遺跡は国指定地と指定地外に分かれ、本報告書は指定地外の調査結果をまとめたものである。本遺跡の調査成果については前章までに詳細を述べてきたが、本章では遺跡の立地及び各期の遺構、遺物について整理したい。

### 1. 遺跡の立地について

本遺跡は本町西海岸側の標高約4～7mの沖積低地に位置し、北東側にある標高約10～30mの石灰岩台地の麓まで広がっている。沖積低地と石灰岩台地の境には、桑江断層が北西から南東の方向にほぼ直線的に延び、石灰岩と島尻層群(基盤)の不整合面からは「ウーチヌカー」と呼ばれる湧水が湧出している。ウーチヌカーの流れは「ナガサ」と合流し、本遺跡を横断しながら東シナ海に流れ出る。また、南東側には「ナルカー」も西流しており、当該地周辺に遺跡が多く確認されていることから、概して地の利が良い環境といえる。

本遺跡の東側にあたる指定地内の調査(2007)では、貝塚時代前期の生活址が丘陵側に位置し、砂丘の形成・発達とともに貝塚時代後期、グスク時代、近世～近・現代の生活址が海側へ広がっていく過程が確認できた。今回の調査区は貝塚時代後期以降の包含層が残る区域にあたり、指定地内と一体となって遺跡の立地及び歴史的変遷、連続性が再確認できたことは大きな成果である。

### 2. 遺構について

遺構は調査区の全体又は部分的に所在する。複合遺跡であるため、後代の遺構構築の際に攪乱され、全容が窺えない遺構もあるが、各時期の遺構や遺物の分布状況から変遷が窺える。貝塚時代後期、グスク時代、近世～近・現代の順に整理していきたい。

貝塚時代後期の遺構は、柱穴の検出状況から2つの方形プラン、土坑、貝集積3ヶ所、土器集中7ヶ所、骨集中3ヶ所、貝集中2ヶ所、人骨出土遺構、二枚貝有孔製品集中、軽石だまりが各々1ヶ所検出された。本時期は上層のグスク時代のビット群に壊されているが、立位の完形土器(第23図)、土器集中②～⑦を含め、原位置を保ったまま遺物が出土していることから生活面があったことは明らかである。この生活面は大きく2つの時期があり、1つはI類(阿波連浦下層式)・II類(浜屋原式)土器が主体的に出土する時期、もう1つはIV類(大当原式)土器を主体とする時期である。前者は陸側の標高3.8mライン(第36図)に広がり、方形プランと貝集積3ヶ所が検出され、後者は海側の標高3.0mライン(同図)を中心に広がり、方形プランと二枚貝有孔製品集中部、1号人骨が検出された。

グスク時代の遺構は海岸側への緩斜面に形成され、溝状遺構、ビット、土坑、青磁皿出土土坑、人骨出土土坑(土坑墓含む)、サンゴ礫集中部が確認された。溝状遺構は8ヶ所で検出され、柱穴の少ない場所に配している様相が窺える。中でも2-SD06は、掘立柱建物址想定プラン19の北東角に空間を保ち、直角に配していることから、後兼久原遺跡(2003)の1号平地住居址周囲で確認された雨垂れラインと同様の性格を持つ遺構の可能性も考えられた。しかし、後兼久原遺跡に比して溝幅が広いことから、掘立柱建物からの排水、または、水の流入防止機能の可能性も想定される。今後の資料増加を待ち検討課題としたい。

ビットの検出状況から、グスク集落の南端はイ地区、東端はH19地区で、その主体は隣接する伊礼原D遺跡に広がると思われる。ビット群には、重複やビット間が狭小である等の状況が見られ、幾度

も建て替えたことが窺える。想定されたプランは掘立柱建物址と高床式建物址の2種類で、その長軸方向は北西―南東が主体で、その状況は小堀原遺跡（2009・2012）や後兼久原遺跡に類似している。小堀原遺跡及び後兼久原遺跡で見られた掘立柱建物址と高床式建物址のセット関係については、今回の調査ではピットが集中しており、明確なセット関係は見出せなかったが、建物想定プランの中では掘立柱建物址と高床式建物址が隣接している様子が窺える。

土坑は56ヶ所でピット群と混在して検出された。平面形は楕円形が主体で、大きさは100cmを超す大型のものと100cm以内の小型が見られ、より小型のものは柱穴の重複などが考えられる。土坑内には貝や炭が混在するものが多く、中には人工遺物も見られるが土坑の性格については判然としない。青磁皿出土土坑はH19地区Q14で検出され、埋土上部からは完品の外反皿と稜花皿が出土した。埋土上部の出土のため意図的な埋納か不明瞭である。

人骨出土土坑（土坑墓含む）はハ地区N14で確認され、頭位は北西、体の向きは東の横臥屈葬で乳児骨が検出された。同時期の乳児埋葬例は近接する小堀原遺跡（2012）にあるが、頭位は各々異なる。ハ地区A9では成人女性の大腿骨のみが確認されたが、詳細は不明である。

サンゴ礫集中部は、1.3×1.6mの範囲でイ地区D15～16で検出された。礫の形状は丸みや角をもつもので、規則性がなく、人工的可能性は低い。

近世～近・現代期の遺構はほぼ平坦地に形成され、焼成跡、溝状遺構、ピット、土坑、貝集中部などが検出された。

焼成跡は、H19地区西側S12とイ地区B11で検出され、前者は底面に板状の焼土が堆積し、炭が混在、後者は遺構内に礫、検出面に焼けた粘土塊が見られたが、いずれも性格は明瞭でない。

溝状遺構はH19地区及びイ地区において6か所確認された。中でもSD02はH19地区の北西から南、イ地区まで及び、1-SD04は1-SD02の南側で並列する事から両者の関連性は高いと考えられる。

ピットはハ地区で280ヶ所、ニ地区で9ヶ所確認され、5棟のプランが想定された。3間×2間が1棟、約2間×2間が3棟で、前者が掘立柱建物址、後者が高床式建物址の可能性が考えられる。

土坑は26ヶ所確認され、平面形は円形や楕円形である。土坑内には沖縄産陶器や本土産磁器、獣骨、自然貝などが含まれていたが用途は明瞭でない。

貝集中部は、二枚貝と巻貝がイ地区①C11・②T11の2カ所、ハ地区③N・O15で1カ所検出され、その検出状況から廃棄された食料残滓である可能性が高い。

### 3. 遺物について（第182図）

貝塚時代後期は土器が最も多く主体を成し、他に石器、貝製品、骨製品、土製品が出土した。

土器は貝塚時代前期土器（I群）が少量得られ、北東側の国指定伊礼原遺跡に関連を求めることができよう。在地の貝塚時代後期（II群）土器が主体を成すが、搬入土器も出土する。搬入土器は中実脚台を含む弥生系土器、セン当式土器などが出土している。在地土器は器形などの特徴からI～VII類に分類される。土器の出土分布からH19地区東南側、A20周辺からは搬入及びI・II類土器が多く得られ、II類は更に同周辺から放射状に拡大して分布する。これらの土器は国指定伊礼原遺跡（2007）でも確認されており、陸側への広がりの様相を呈している。III類は東側（H19地区）、IV類は東側（H19地区）及び北西側（ハ・ニ地区）、V・VI類は西側（ハ・ニ地区）と当遺跡より北西側へと移行していく状況が窺える。

底部は、実底は調査区全体に分布し、くびれ平底は西側（海側）にやや分布が見られる。伊礼原D遺跡（2013）のくびれ平底はフェンサ下層式土器段階としたが、今回得られたくびれ平底はアカジャンガー式土器段階と思われる。

大当原式土器の特徴として明瞭な粗隆帯（IV類ab）が挙げられるが、本遺跡では薄手で粗隆帯が目立たないもの（IV類c）が主体となる。また、図83のV類は、伊礼原D遺跡（2013）でも出土しており、

同一個体の可能性がある。前回は器形や胎土、施文方法などから縄文時代晩期系と想定したが、今回再検討の結果、Ⅱ群のV類土器と共存している事から同時期と考えられ、V類の時期の有文土器の存在が示唆される資料である。

石器の種類は、石斧、敵石、葦石兼磨石、磨石、台石、石皿、砥石、有孔石製品、石球型未製品、チャート剥片で、第74図62の石皿は完形で遺跡出土資料としては圧巻である。石器の平面分布をみると総じて北から北西側に集中する。このような出土状況を土器と重ねてみるとⅣ類土器期の分布状況と類似する。石材は堆積岩の砂岩系が主体であるが、町内で産出されない火成岩（流紋岩、安山岩、花崗岩、輝緑岩等）は奄美・徳之島からの持ち込みの可能性が考えられる。

貝製品は装飾品と実用品に大別される。装飾品では貝塚時代前V期に出土例のあるウミウサギの有孔製品、貝塚時代後期に得られる南島型の貝符（木下1996）である。また、ゴホウラの腹面を用いた諸岡型の貝輪が1点出土したが、近接する国指定伊礼原遺跡（2007）で3点、キャンプ桑江北側地区試掘no.7（註）でも3点、計7点得られ、さらに伊礼原B遺跡（2008）では金隈型の貝輪が出土している。これまで南海産貝輪交易（木下1996）は素材を移出すると考えられていたが、完成度の高い諸岡型貝輪の複数出土はこれに一石を投じるものである。いずれも阿波連浦下層式（Ⅰ類）・浜屋原式（Ⅱ類）期の出土で時期も明瞭である。

実用品はヤコウガイの背面タイプの貝匙があり、有柄と無柄タイプがある。ホラガイ有孔製品は民具事例から薬缶が想定されるが、容量でみると大中小の3種あり、小型のものは別の用途を考慮する必要がある。二枚貝有孔製品はSS05で一括して得られ、漁網錘の可能性を窺わせるものである（島袋2004）。

骨製品はイノシシの四肢骨を用いたヘラ状製品と、ジュゴン、クジラ、ウミガメを用いた加工途中のものが出土している。

土製品は土器の破片を再利用して、径8cm前後の円形状に加工したもので、伊礼原D遺跡（2013）でも出土している。

**グスク時代**は滑石製石鍋、須恵器（カムイヤキ）、白磁、青磁、染付、褐釉陶器、瑠璃釉、黒釉陶器、三彩、翡翠釉、産地不明陶器、タイ産鉄絵、銭貨、砥石、貝製品、骨製品、鉄製品、ガラス玉、羽口、焼土と多種出土している。

11～12世紀に位置づけられる滑石製石鍋が出土している。須恵器（徳之島のカムイヤキや産地不明）の他に玉縁白磁碗が数点得られたが、当該期の遺構は見られない。

中国産陶磁器は15世紀中～18世紀が主体で、雷文帯碗、線刻細蓮弁文碗などの青磁、玉取獅子文や十字花文などの染付皿、褐釉陶器は中国産とタイ産があり、前者が多い。器種は壺、壺又は甕、瓶、播鉢などがある。そのほかに出土量の少ない瑠璃釉、黒釉陶器、三彩、翡翠釉、産地不明陶器、タイ産鉄絵などがあり、いずれも伊礼原D遺跡と出土が重なるもので、この時期は連続していたことが窺える。

銭貨は出土量が少ないことから銭貨としての機能は低いと思われるが、中国の北宋銭「元豊通寶」「聖宋元寶」、明銭「洪武通寶」があり、日本銭は「寛永通寶」が確認されている。

石器は砥石が14点得られ、形状は方形と楕円形、サイズは大型と小型があり、小型は穿孔されていることから携帯用の可能性が考えられる。

貝製品は、腹面タイプのヤコウガイ製貝匙、タカラガイ製漁網錘、骨製品はウシ又はウマの肋骨を板状に加工したもので、この時期に多い。

**近世～近・現代**は瓦質土器、本土産陶磁器、沖縄産施釉・無釉陶器、陶質土器、先島系土器、円盤状製品、煙管、基石、瓦、石製品などが出土している。

本土産陶磁器は近世と近代に分けられる。近世では備前播鉢、瀬戸天目碗、唐津皿、薩摩焼壺、内

野山碗などの陶器と、佐佐見等の肥前系磁器碗、皿、瓶が確認でき、近代磁器は瀬戸・美濃、砥部などの碗、杯、皿、猪口、湯呑み等で、施文技法は型紙刷り、銅版転写、ゴム判等が確認できた。

沖縄産施釉・無釉陶器は近世～近・現代遺物の主体を成すもので、無釉陶器が多い。器種は施釉陶器では碗や急須、無釉陶器では壺、甕、播鉢が多く見られた。陶質土器は鍋や火炉が確認できたが、沖縄産施釉・無釉陶器の1/10に満たない量であった。火炉の形状に酷似した鉄製の焔炉も1点出土している。

嗜好・娯楽品は少なく、石製と陶器製の煙管、貝製の碁石が得られている。

現代遺物としては瓶などのガラス製品や歯ブラシやケースなどのプラスチック製品、金属製の棒が確認できた。ケースに「USN〇〇」と見られるように、戦中・戦後あるいは米軍基地当時の遺物と考えられ、当地が1945年4月の米軍上陸後、基地に接収されたことが遺物で明らかになった。

自然遺物では貝類遺体と脊椎動物遺体が出土した。

貝類遺体は出土量が最も多く、確認された貝類は海産腹足類34科157種、海産二枚貝類19科63種、淡水産腹足類3科11種、陸産腹足類5科9種、その他2種の合計242分類群である。

今回の調査で得られた種の中には、沖縄の遺跡から余り知られていなかったサンゴ礁の礁斜面に生息する種で、現生記録のないボウシュウボラや遺跡からはほとんど出土のないオオゾウガイ、オオナルトボラ、ダイミョウイモなど極めて稀なものが出土している。

サンゴ礁域に生息する貝が出土数全体の半数を超えており、サンゴ礁型の貝類組成である。

脊椎動物遺体は全般的に魚類とイノシシ類（イノシシまたはブタ）が主体で、個体比では魚が40～60%前後、イノシシ類が30～40%前後で大きな変化はないが、貝塚時代後期では不明瞭ながら魚類が微増し、イノシシ類がやや減少傾向を示す。ほかにウミガメ類、イヌ、ジュゴンも出土した。また、グスク時代以降ではウシ・ウマも増加する。その他にリクガメ類、ニワトリ、ネズミ、ネコ、ヤギ、イルカ・クジラ類が確認されているが、いずれも少数である。

放射性炭素年代測定結果をみると、II群IV類に分類される（図80）土器の付着炭化物で1,770±20BP、伊礼原A遺跡の腐植質砂層で2,540±30BPの補正年代値が得られた。前者は大当原式土器（IV類）の編年年代に符合し、後者の腐植質砂層（K8北壁）は貝塚時代前V期頃を示す堆積物で、小堀原遺跡（2012）の泥炭層と近い値を示している。

#### 4. 小結

今回の調査成果を踏まえ、国指定時に想定された貝塚時代後期とグスク時代及び近世～現代、米軍基地接収時の様子が明らかになった。先史時代は砂丘の発達に伴って生活址が海岸側へ展開し、グスク時代及び近世以降は貝塚時代後期の遺跡の上位に集落が形成されている。第181図に国指定部分から今回の調査成果をもとに作成した立地横断模式を示す。第180図に示した奄美大島の遺跡立地横断模式と比較すると奄美大島では砂丘の形成が明瞭で縄文時代前・中期は内陸側の標高10.0～14.0m、縄文時代後期は標高8.2mの旧砂丘、弥生・古墳時代は標高9.0mの新砂丘Ⅰ、古墳・奈良・平安期は標高13.2mの新砂丘Ⅱに立地し、砂丘の形成とともに、海岸へ遺跡の立地が移動していく。

伊礼原遺跡は第181図に示したように貝塚時代前Ⅰ・Ⅱ期は海岸段丘付近で標高約2.8cm前後に包含層が見られることから縄文海進に関連すると思われる。貝塚時代前Ⅲ期から貝塚時代後期Ⅰ期（浜屋原式～大当原式）までは砂丘の発達に伴い順次、海岸側へ展開する（標高3～4m）。グスク時代～近世・近・現代は貝塚時代前・後期の上位に生活を展開する。陸側には石灰岩段丘とその下部の島尻層の間に帯水層を水源とするウーチヌカーや、酸性・アルカリ性の土壌からなる多様な植生があり、海側では良好な漁場であるイノー（礁池）や防波堤の役割を果たす干瀬が発達していることから、長期的に生活していくための条件が備わっていたことが窺える。

奄美大島と沖縄諸島はサンゴ礁が圍繞する裾礁であるが、奄美大島は干瀬（目崎干瀬型）が近く、

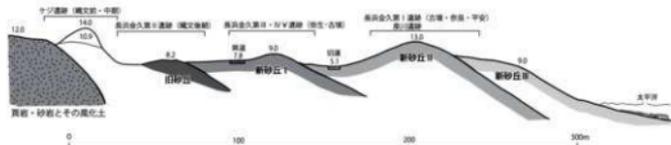
伊礼原遺跡付近は干瀬の遠い海岸で（目崎—干瀬・イノー型）吹き上がる砂の量が異なる。そのため、伊礼原遺跡の立地するキャンプ桑江北側地区において、グスク時代以降は貝塚時代後期以降、薄く堆積した砂丘上に生活していた。このような立地のあり方は前者がサンゴ礁地域（裾礁）の干瀬型（第180図）、後者の伊礼原遺跡（第181図）は干瀬・イノー型と捉えることができる。また、本遺跡のような干瀬・イノー型の崩れやすい砂地や堆積の薄い砂丘地では層序の把握は困難を極め、小堀原遺跡（2012）・伊礼原D遺跡（2013）や本報告書で示したように平面的な遺物分布を加えることで、時期的変遷を浮き彫りにすることができた。

今後の課題としては

- ・南海産貝輪交易の1期（木下2010）のあり方（諸岡型貝輪の出土と素材の供給との関連）
- ・貝塚時代後期における奄美と沖縄の遺跡の立地の差が貝交易を含め、どのように展開していくか（たとえば木下2005）
- ・15～17世紀代のグスク時代に砂丘地に集落遺跡が何故立地するのか
- ・グスク時代と近世層あるいは空間の区別が可能かなどが挙げられる。

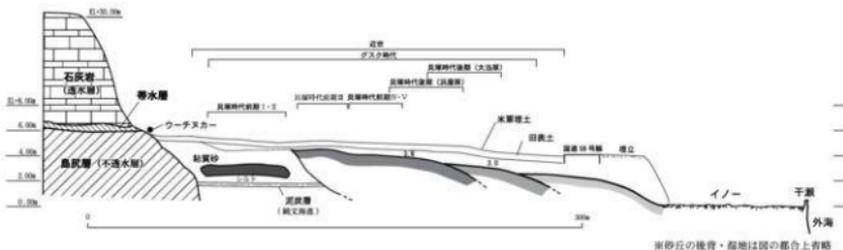
## <註・参考文献>

- 註：北谷町教育委員会 2008『伊礼原D遺跡』付篇 北谷町文化財調査報告書 第28集  
 目崎茂和 1980「琉球列島における島の地形的分類とその帯状分布」『琉球列島の地質学研究』第5巻  
 木下尚子 1996「南島貝文化の研究-貝の道の考古学-」  
 木下尚子 2005「貝交易からみた異文化接触-温帯と亜熱帯の接触-」『考古学研究』第52巻 第2号（通巻206号）p25-41 考古学研究会  
 木下尚子 2010「サンゴ礁と遠距離交易」『沖縄県史』第三巻古琉球、66-85p  
 北谷町教育委員会 2008『伊礼原B遺跡 伊礼原E遺跡』北谷町文化財調査報告書 第27集  
 島袋春美 2004「奄美・沖縄諸島の漁網錘の形態的研究（その3）-考古資料-」『南島考古』第23号p1-13 沖縄考古学会



第180図 奄美大島砂丘形成と長浜金久遺跡群・ケジ遺跡・泉川遺跡の立地横断模式

（『長浜金久遺跡』1987 転載）



第181図 伊礼原遺跡周辺の砂丘形成と立地横断模式（本報告書の調査成果及び松田2007『伊礼原遺跡』参考に作成）



## ＜補遺＞小堀原遺跡（2012年）報告の追加資料

北谷町文化財調査報告書第34集『小堀原遺跡』の資料について追加報告する。

①遺構の土の水洗い段階で出土した遺物

②調査の最終段階の遺物

遺物は①が柱穴内の遺物、②が貝8 コンテナ、骨1 コンテナ、土器1 コンテナである。

貝類遺体は2009（平成21）年・2012（平成24）年の報告と同じようにアラスジケマンが主体を占め、下層よりヒレジャコが検出されている。そのため、詳細の報告は省く。

脊椎動物遺体は2012（平成24）年の報告で骨の集中するI10、H10、H9と重なり、出土個数（NISP）の割合に変動の可能性があるため、既報告に準じ、表のみを示した。

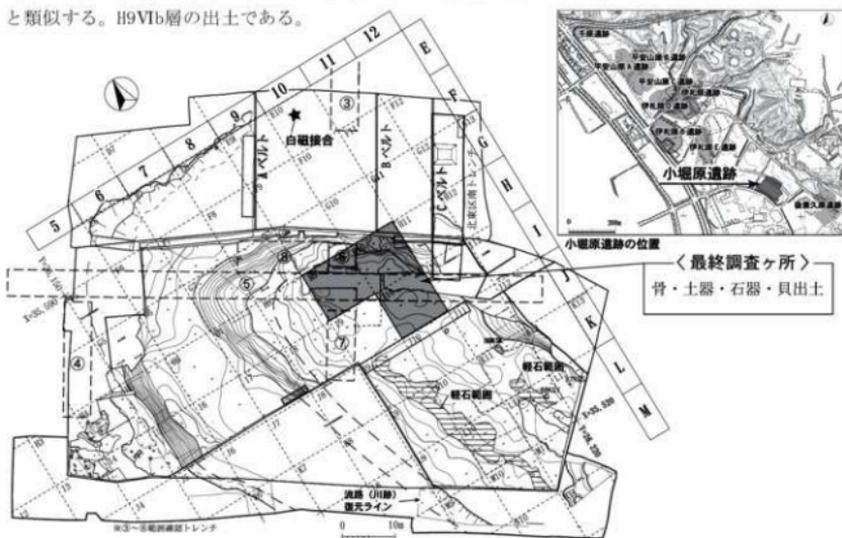
貝塚時代後期の遺物は主に調査最終段階で得られ、グスク時代の滑石製品や白磁・カムイヤキなどの遺物は柱穴などの遺構から得られたものである。詳細は第130～136表に示し、主なものは図示し、下記に略述した。

### ＜土器＞

土器は1 コンテナであるが第130表に示したようにH7～10、I8、K11、L11～12（b区-2012）の最下の出土である。その内、図1の把手、図2の弥生系土器を図示した。前者、長さ4.6cm、幅3.1cm、厚さ1.3cmの半楕円の把手である。上面にマウンドを呈するように湾曲し、裏面は指痕が明瞭に残るもので、雑な作りである。ほぼ中央に最大径0.9cm、最小径0.5cmの孔を施す。胎土は粘質で赤褐色や褐色の粒を含み、焼成は良好で大当原式土器の範疇に含まれる。このようなタイプの土器第48図155(2012)と類似する。H9VIb層の出土である。

第130表 土器重さ一覧

Floor	層	重さ (g)	備考
H9	VIb	166	弥生系(図2)
H7	VIb F	34	
H8	VIb F	4	
H9	VIb	20.1	把手(図1)
H10	VIb	12	外反口縁
I8	VIb F	27	
I11	VIb	10	
K11	VIb F	146	
L11	VIb F	177	
L12	VIb F	34	
合計		630.1	



第183図 小堀原遺跡の位置と調査区（2012年報告を一部改変）

図2は最大胴径42.3cmを示す大型の土器で、胴上部に3本の沈線文を施すものである。器厚0.8cmとやや厚く、胎土に角閃石を多量に含み、器色は黄褐色、弥生系土器と思われる。前回報告(2012)第29図19と接合できた。H9Vt6層の出土で当時でも低い位置からの出土である。

#### <骨製品>

クジラなど海獣骨を用いたもので、残存部は長さ8.65cm、重さ6.85gの槍状に加工したもので、先端部が欠損する。身部と基部に別れ、身部の最小幅1.7cm、最大幅2.7cmと先端部がすばまり、基部は幅1.55cm、厚さ0.6cmの有茎を呈する。身部に外径1.0cm前後、内径0.5cm前後の孔を縦位に2個施す。孔は両面から穿孔するが、製品の状態が悪く、表面は研磨が4割程度、裏面は破損面が多く研磨面の残りは悪い。H9Vt6層の出土である。

クジラなどの海獣骨を素材とする骨製品は平敷屋トウバル遺跡(1996)、真志喜安座間原第一遺跡(1994)でナイフ状、ナガラ原西貝塚(1979)で剣状が報告されている。いずれも貝塚時代後期である。

#### <石器>

図版158-4は砂岩製の磨石で、前述の土器や骨製品と伴出した。大きさは縦6.8cm、横6.5cm、厚さ4.4cmと小ぶりである。礫を用いるが、一部破損し、磨面と稜の部分には戴き痕が確認され、両方の用途を有する。

#### <滑石製品>

滑石は3点出土した。図5は滑石製石鍋で削り面及び煤の付着することから底部と考えられる。素地は桃色を呈する。

図6は石鍋の胴部で胴(内)径15cmが想定される。厚さ1.25cmで石鍋としては小ぶりである。一端を削ることから二次加工と考えられる。色は明灰色を呈する。H8SP644より出土。

図7は前者と同様、石鍋の胴部を、台形状に加工するもので、両側にくびれを加える。上幅2.1cm、下幅2.8cm、挟り幅2.05cm。器厚1.1~1.2cm、重さ15.2gを測る。器厚に差が見られることから、石鍋を縦に用いたものと思われる。SP43より出土。

#### <白磁>

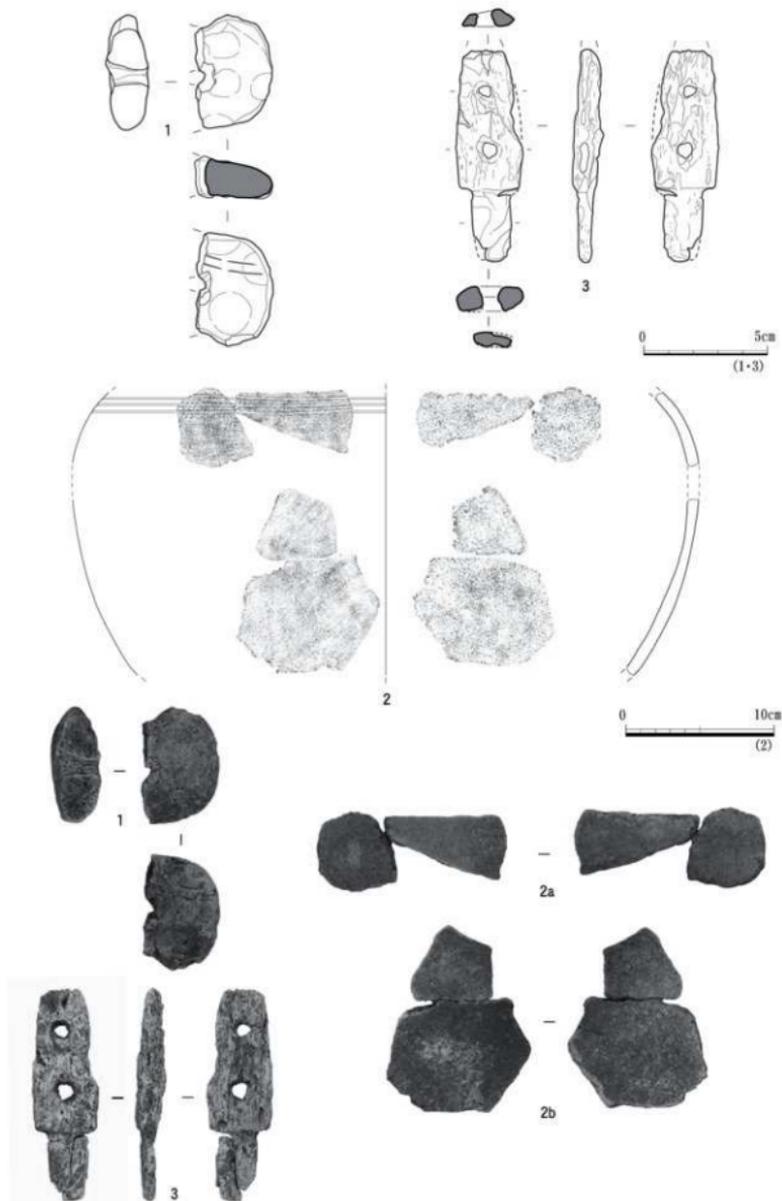
図8は玉縁の口縁部で、第132図7(E10グスク層)と接合された。玉縁幅1.2cm、縁直下に幅4mmの圏線を施す。軸は透明でやや青みを帯びるが、接合部分はやや黄味を帯びる。

図9は底部で554SKから出土した。底部の立ち上がりは直状で、底径7.2cm、厚さ0.35cm、畳付け幅0.8cmを測る。外面の腰部から底部にかけては軸が施されない。軸は透明軸、やや青みを帯びる。

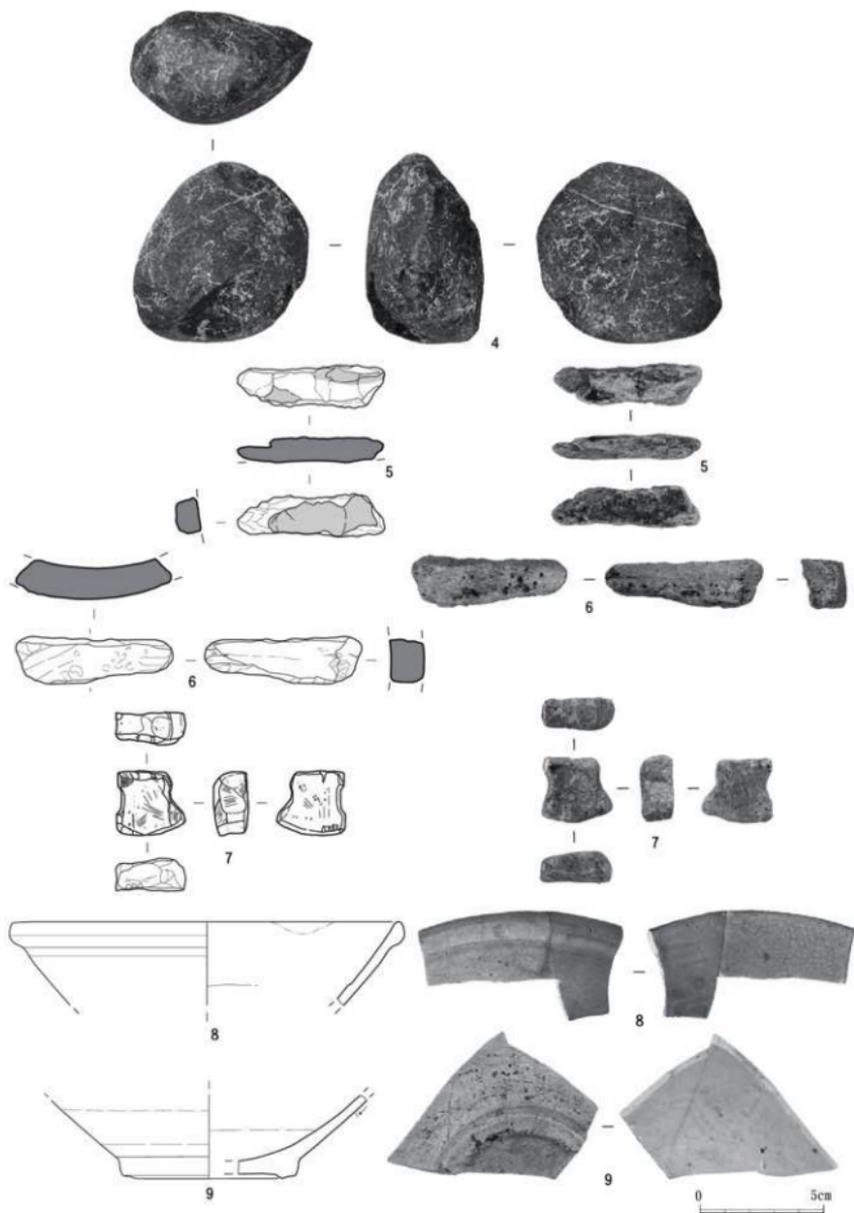
他に白磁の口縁部3点、胴部3点とカマイヤキ胴部3点、羽口?1点が得られている。詳細は第131表に示した。

第131表 小堀原遺跡遺物追加資料一覧

図版 図号	図 番 号	種類	部位	重さ (g)	観察	出土地
第 158 図 版	1	土器	把手	20.1	有孔	H9, Vt6
	2	土器	胴部	166	沈線文、弥生系	H9-10, Vt6
	3	骨製品	有茎	6.88	クジラ、鯨状、有茎。部分的に研磨残る。	H9, Vt6
第 132 図 版 ・ 図 版 158	4	石器	完形	292.5	磨石、砂岩製6.8cm、横6.5cm、厚さ4.4cm	H9, Vt6
	5	滑石	底部	13.11	煤付着、削り明瞭	SP1137
	6	滑石	胴部	26.26	二次加工	HR, SP644
	7	滑石	胴部	15.2	二次加工、台形、くびれ有り	SP43
	8	白磁	口縁部	61.32	玉縁、口径16.0cm、縁幅1.2cm、第132図7(E10)と接合	SP178
	9	白磁	底部	39.64	玉縁の底部	554SK
	-	白磁	口縁部	5.3	玉縁、縁幅1.1cm、器厚0.4cm、緑灰軸	SP640-2
	-	白磁	口縁部	3.3	玉縁、縁幅1.15cm、器厚0.35cm、肥厚折り、白灰軸、内面軸たれ	HR, SP644
図 ・ 図 版 なし	-	白磁	胴部	2	玉縁、器厚0.6cm	SP1166
	-	白磁	胴部	2.7	玉縁、器厚0.3cm	SP245
	-	白磁	胴部	0.3	玉縁、器厚0.25cm	SP646-1
	-	白磁	口縁部	1.9	直口、器厚0.38cm	SP640-1
	-	白磁	胴部	8.1	蓋、内面軸轆、器厚0.4~0.5cm、白色釉、粒差入	HR, SP644
	-	白磁	胴部	0.7	器厚0.3cm	SP641-1
	-	白磁	胴部	0.3	器厚0.3cm	SP394-1
	-	白磁	細片	1.5	器厚0.9cm	SP761-1



第184図・図版157 土器・骨製品



第185図・図版158 石器・滑石製品・白磁

第132表 小堀原遺跡2008～2009年調査で採集された魚類遺体の同定結果

層準	地区 (VI層)	年代	ナット	遺構	標本番号	種類	部位	左右	数	計測 (mm)
VI	b	大当原	19	一括	4	ハリセンボン科	前上顎骨or歯骨		1	
			H9	一括	40	フエキダイ科	第1歯骨		1	
			110	一括	109	ベラ科	下顎骨		1	幅38
			G9	一括	114	ハリセンボン科	前上顎骨		1	幅21

第133表 小堀原遺跡2008～2009年調査で採集されたイノシシの上顎骨・遊離歯の同定結果

※脱臼状態の記載方法は金子 (1996) に従った。顎骨の [ ]は残存範囲、< >は未萌出歯、xは脱落歯

層準	地区 (VI層)	年代	ナット	遺構	標本番号	部位	残存位置/歯種	左右	数	脱臼状態	備考		
VI	b	大当原	H9	一括	2	上顎骨	[P4M1M2M3]	L	1	++, +/+/, +/+, -, -	e/d/c		
			H9	一括	2	上顎骨	[CP4M1M2M3]	R	1	++, +/+/, +/+, -, -	e/d/c	残	
			19	一括	9	上顎骨	[P2P3P4M1M2M3]	L	1	+++, +/+/, +/+, +/+, +	g/e/d		
			19	一括	9	上顎骨	[P2P3P4M1M2M4]	R	1	+++, +/+/, +/+, +/+, +	g/e/d		
			H0	一括	34	上顎骨	[P1P2P3P4M1M2M3]	R	1	+++, +/+/, +/+, +/+, +	g/f/e		
			H0	一括	35	上顎	C	R	1				残
			110	一括	42	上顎	M3	R	1	+, -, -		b	
			110	一括	60	上顎骨	[P4M1<M2>]	L	1	+, +/未萌出		b	
			19	一括	69	上顎骨	[P4M1]	R	1	+, -		b	
			H0	一括	70	上顎	M3	R	1	+, -, -		c	
			G9	一括	71	上顎	M2	R	1	+, +		c	
			110	一括	76	上顎	C	L	1				残
			110	一括	84	上顎	M3	R	1	-, -, -		a	焼
			110	一括	95	上顎	C	L	1				残
			110	一括	20	上顎	<M2>	R	1	未萌出			
			110	一括	21	上顎骨	[P3P4×M1]	L	1	++, ++		e	
			110	一括	22	上顎骨	[P4M1M2]	L	1	++, +/+, +		e/d	
			110	一括	23	上顎	I1	L	1				
			110	一括	24	上顎	M3	R	1	+, -, -		b	

第134表 小堀原遺跡2008～2009年から採集されたイノシシの下顎骨・遊離歯の同定結果

※脱臼状態の記載方法は金子 (1996) に従った。顎骨の [ ]は残存範囲、< >は未萌出歯、xは脱落歯

層準	地区 (VI層)	年代	ナット	遺構	標本番号	部位	残存位置/歯種	左右	数	脱臼状態	備考		
VI	b	大当原	H9	一括	1	下顎	M1	R	1	+, +	e		
			19	一括	10	下顎	M3	L	1	+, -, -	e		
			H0	一括	38	下顎	C	R	1			残	
			H0	一括	39	下顎	C	R	1			残	
			H9	一括	41	下顎骨	[ds<dot>]	L	1				
			110	一括	47	下顎	I1	L	1				
			H0	一括	62	下顎	<M2>	L	1	未萌出			
			H0	一括	63	上顎or下顎	P	不	1				
			H0	一括	64	下顎	C	L	1				残
			H0	一括	66	下顎	M3	R	1	+, -, -		b	
			19	一括	68	下顎	I1	R	1				
			110	一括	96	下顎骨	[M3×下顎角]	R	1				
			110	一括	25	下顎	I1	R	1				
			110	一括	25	下顎	I1	L	1				
			110	一括	27	下顎	C	L	1				残
			110	一括	28	下顎	<I11>	L	1	未萌出			
			110	一括	29	下顎	I112	R	1				
			110	一括	29	下顎	I112	L	1				
			110	一括	30	下顎	C	R	1				残
			110	一括	30	下顎	C	L	1				残

第135表 小堀原遺跡2008～2009年で採集されたその他の脊椎動物遺体の同定結果

種名	層準	地区 (VI層)	年代	ナット	遺構	標本番号	部位	残存位置	R・L	数	備考
ラクダメ	VI	b	大当原	H9	一括	102	趾骨板		不	1	
イヌ?	VI	b	大当原	110	一括	54	椎骨?		p	1	
哺乳類 (同定不可)	VI	b	大当原	H0	一括	97	四肢骨		不	1	
				G8	一括	116	四肢骨		不	1	
				110	一括	11	四肢骨		不	1	

第136表 小堀原遺跡2008～2009年調査で採集されたイノシシの遺体(顎骨・歯を除く)の同定結果

※残存位置凡例: m-完存, p-破片, s-骨群, d-破片, fr-破片, (p)・(d)は未癒合の骨端のみ, (p)・(d)は骨端未癒合部, (p)・(d)は骨端のみ欠損

前期	地区(VI前)	年代	ナシ	遺構	標本番号	部位	残存位置	左右	数	計測(mm)	備考
			110	-一括	91	脛骨	d	R	1		イノシシ?骨
			110	-一括	109	下頰骨	関節突起	L	1		
			H9	-一括	87	寛骨(座骨)	f r	R	1		
			110	-一括	49	寛骨(座骨)	臼	R	1		
			G9	-一括	112	寛骨(腸骨)	臼	R	1		
			110	-一括	46	腰椎		L	1		
			19	-一括	3	基節骨					焼
			110	-一括	57	基節骨		不	2		焼
			G9	-一括	72	基節骨		L	1		
			111	-一括	78	基節骨		L	1		焼
			112	-一括	79	基節骨		L	1		焼
			H9	-一括	85	基節骨		3			焼
			H10	-一括	99	基節骨					焼
			110	-一括	58	距骨		L	1		焼
			19	-一括	67	距骨		L	1		
			19	-一括	8	脛骨	(d)	R	1		
			110	-一括	48	脛骨	m	R	1	SD12	
			110	-一括	59	脛骨	d	L	1		焼
			110	-一括	90	脛骨	m	R	1	SD13	
			H9	-一括	104	脛骨	d	R	1		
			H11	-一括	115	脛骨	(p)	L	1		イノシシ?骨
			H9	-一括	105	肩甲骨	(d)	L	1		
			G9	-一括	111	肩甲骨	d	L	1		
			110	-一括	50	尺骨	p-m	R	1		
			110	-一括	52	尺骨	p-m	L	1		
			110	-一括	53	尺骨	m	L	1		
			H9	-一括	88	尺骨	p	R	1		
			H9	-一括	94	尺骨	p	L	1		
			G8	-一括	117	尺骨	p	L	1		
			19	-一括	6	上頰骨		L	1		焼
			H10	-一括	37	踵骨		R	1		
			110	-一括	107	踵骨		L	1		焼
			110	-一括	43	上腕骨	m-(d)			SD11	
			110	-一括	44	上腕骨	(d)	R	1		
			H10	-一括	80	上腕骨	(d)	L	1	SD1	
			H9	-一括	101	上腕骨	m-(d)	R	1	SD14	
			G8	-一括	118	上腕骨	(d)	L	1	SD11	イノシシ?骨
			110	-一括	110	側頭骨	関節結節	L	1		
			H9	-一括	106	側頭骨	岩様部	不	1		
			H10	-一括	98	第4中足骨	p	R	1		焼
			110	-一括	56	第5中足骨	p	R	1		焼
			G9	-一括	73	大趾骨	(d)	L	1		
			G9	-一括	93	大趾骨	(d)	L	1		イノシシ?骨
			G9	-一括	113	大趾骨	m	L	1	SD15	
			19	-一括	5	中手/中足骨	d	不	1		
			19	-一括	7	中手/中足骨	(d)	不	1		焼
			H10	-一括	32	中手/中足骨	d	不	1		焼
			110	-一括	55	中手/中足骨	(d)	不	1		焼
			110	-一括	74	中手/中足骨	(d)	不	1		焼
			H9	-一括	89	中節骨			1		焼
			H10	-一括	36	椎骨	椎体		1		
			G8	-一括	119	椎骨	椎体				
			110	-一括	45	機骨	m	R	1	SD14	
			110	-一括	51	機骨	m	不	1	SD12	
			H10	-一括	65	機骨	m	R	1	SD12	
			H9	-一括	103	機骨	m	L	1	SD12	
			110	-一括	133	機骨	p-m	L	1	SD14	
			H10	-一括	33	腓骨	m	不	1		
			110	-一括	61	跗骨	m	不	1		
			G8	-一括	120	跗骨	m	不	1		
			111	-一括	130	跗骨		L	1		焼
			111	-一括	127	跗骨	(p)	L	1	SD1	
			111	-一括	132	跗骨	(p)-m	L	1	SB7	幼獣-焼
			111	-一括	125	肩甲骨	(d)	R	1		
			111	-一括	128	尺骨	p	L	1		焼
			111	-一括	129	尺骨	p-m	L	1		焼
			110	-一括	81	手根/足根骨	p	不	1		焼
			110	-一括	83	第3中足骨	p	R	1		焼
			111	-一括	131	中手/中足骨	d	不	1		焼
			110	-一括	82	中節骨	d	不	2		焼
			111	-一括	124	機骨	(p)-(d)			SD11	
			110	-一括	126	機骨	p	R	1		焼
			110	-一括	123	上腕骨	m-(d)	L	1	SD12	
			110	-一括	13	下頰骨	関節突起	L	1		
			110	-一括	14	寛骨(腸骨)	f r	L	1		
			110	-一括	18	寛骨	臼	R	1		
			110	-一括	16	脛骨	(d)	L	1		
			110	-一括	15	脛骨	d	R	2		
			110	-一括	71	肩甲骨	(d)	L	1		
			H8	-一括	92	肩甲骨	d	L	1		
			110	-一括	121	尺骨	p	L	1		
			110	-一括	17	上腕骨	(d)	R	1	SD10	イノシシ?骨
			110	-一括	12	側頭骨	関節結節	R/L	1		
			110	-一括	122	機骨	m	L	1	SD15	
			110	-一括	26	腰椎	棘突起		1		

# 報告書抄録

ふりがな	いれいばるいせき							
書名	伊礼原遺跡							
副書名	キャンプ桑江北側返還に伴う発掘調査事業（平成19年・平成20年・平成24年）							
巻次	-							
シリーズ名	北谷町教育委員会文化財調査報告書							
シリーズ番号	第36集							
編著者名	山城安生・東門研治・松原哲志・島袋春美・上地千賀子・呉屋広江・北條真子 黒住耐二・樋泉岳二・土肥直美・(株)パリオ・サーヴェイ							
編集機関	沖縄県北谷町教育委員会							
所在地	〒904-0192 沖縄県北谷町桑江226番地 TEL 098-936-3159							
発行年月日	2014年（平成26年）7月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	°'〃	°'〃		m <sup>2</sup>	
伊礼原遺跡 (伊礼原A遺跡)	沖縄県 北谷町 伊礼原	473260		26° 19' 26"	127° 45' 30"	20071210 ～ 20080229	1,350	区画整理事業に伴う 発掘調査
						20080707 ～ 20081125	1,050	
						20120523 ～ 20120731	930	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
伊礼原遺跡		貝塚時代 後期	ビット群・埋葬遺構・ 貝集積（3基）・二枚貝 有孔集中部・土器集中		土器・石器・貝製品・骨製品・ 土製品		土器附着炭化物 1,770±20B.P.	
		グスク 時代	溝状遺構・ビット群・ 掘立柱建物址・土坑・ 土坑墓・サンゴ礁集中 部		青磁・白磁・染付・褐釉陶器・ 瑠璃釉・三彩・翡翠釉タイ 産鉄絵・銭貨・砥石・貝製品・ 骨製品・鉄製品・ガラス玉・ 羽口		青磁皿完品2個	
		近世～ 近・現代	焼成跡・溝状遺構・ビッ ト群・土坑・貝集中部		瓦質土器・沖縄産施釉・無釉 陶器・陶質土器・本土産陶 磁器・先島系土器・円盤状 製品・煙管・基石・瓦			
伊礼原A遺跡		貝塚時代 後期	-		土器・石器・貝製品・骨製品・ 木の実		K8北壁腐植砂層(木片) 2,540±30B.P.	
要約	<p>伊礼原遺跡(国指定外)及び伊礼原A遺跡は平成19・20・24年の3次に亘って調査が行われ、国指定された伊礼原遺跡の延長部分である。指定範囲での確認調査において明瞭でなかった貝塚時代後期とグスク時代及び近世から現代までの様子が明らかになり、本地域での生活が貝塚時代早期から近現代において砂丘の発達と共に海岸方向（西側）に展開していく様子が具体的に明らかになった。</p> <p>貝塚時代後期では弥生系土器や阿波連浦下層土器や浜屋原式土器を主体とする陸（東）側と大当原式土器を主体とする海（西）側とに平面的な時期のずれが明瞭で、また、南海産貝輪交易に関連する貝集積が陸側から検出された。</p> <p>グスク時代では調査区のほぼ全域で多数のビットを検出し、約26カ所の建物址を想定すると共に15・16世紀代の中国産陶磁器が多数出土した事から集落の存在が想定できた。</p> <p>近世～近現代の遺物・遺構も多数出土し、特にグスク時代のビット群に重複して近世以降のビット群が検出された事から、本地域が約7000年前から現代まで継続的に居住地域であったことが立証されたことは意義深く、国指定史跡伊礼原遺跡の重要性が増した。</p>							

---

北谷町文化財調査報告書 第36集

い れい ぼる い せき  
**伊 礼 原 遺 跡** (国指定外)

**伊 礼 原 A 遺 跡**

— 桑江伊平土地区画整理事業に伴う発掘調査事業（平成19・20・24年度） —

**編 集：** 北 谷 町 教 育 委 員 会

**発 行 年：** 2014年（平成26年）7月

〒904-0192 沖縄県北谷町字桑江226番地

TEL 098-936-3159

**印 刷：** 株 式 会 社 東 洋 企 画 印 刷

〒901-0306 沖縄県糸満市西崎町4-21-5

TEL 098-995-4444

---



北 谷 町